風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書18

史跡出雲国府跡

－5－

2008年3月

島根県教育委員会

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書18

史跡出雲国府跡

－5－

2008年3月

島 根 県 教 育 委 員 会

題字：勝部　昭

序

出雲国府跡は、昭和43～45（1968～1970）年の松江市教育委員会・奈良国立文化財研究所・島根県教育委員会による発掘調査で所在地が確定されました。昭和46（1971）年には約42万㎡におよぶ広大な範囲が国史跡に指定され、その一部が史跡公園として整備されています。今日まで市民の憩いの場として親しまれるだけでなく、県内外から多くの観光客が訪れるところとなっています。また、出雲国府跡のある意宇平野には条里制を残した美しい水田地帯が広がっています。古代・中世から現代まで、ひとびとの営みのなかで残されてきた全国的にも貴重な景観といえます。

島根県教育委員会では、この史跡出雲国府跡を保存活用するため、平成11（1999）年度から継続的に調査を実施しています。

本書は、平成18（2006）年度に実施した堂田地区の発掘調査成果を取りまとめたものです。この地区は、国司の館が見つかった大舎原（おおじゃら）地区と工房域と推定される日岸田（ひがんで）地区のあいだに位置しています。調査では、平安時代後半の道路跡などが確認されました。道路跡は、古代山陰道と枉北道（隠岐への道）の交差点である「十字街」から国府への進入路の想定線上で見つかっています。山陰道をはじめ国府周辺の道路跡については不明な点が多いなかで貴重な成果となりました。

また、本書には昭和43～45（1968～1970）年度調査結果についても収録しています。当教育委員会では、今後の調査研究、史跡の整備活用に欠かせない基礎資料であることから、継続して整理作業を進めてまいりました。そして、史跡指定35周年となる今年度、待望久しかったこの報告を収録する運びとなりました。

本書が、今後の出雲国府研究はもとより、豊かな地域の歴史像を構築するうえで一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたって多大な御支援と御協力を賜りました地元住民、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、松江市教育委員会、関係各位に心より感謝申し上げます。

平成20年３月

島根県教育委員会教育長

藤　原　義　光

例　　言

1．本書は島根県教育委員会が2006（平成18）年度から2007（平成19）年度に国庫補助事業として実施した風土記の丘地内遺跡発掘調査事業の報告書である。

2．本書に掲載した遺跡の所在地は、下記のとおりである。
史跡出雲国府跡　松江市大草町512－1番地外

3．本書に収録した内容は、つぎのとおりである。
○2006（平成18）年度　堂田地区発掘調査
○1968～1970（昭和43～45）年度　宮の後・六所脇・水垣・一貫尻・樋ノ口地区
2006（平成18）年度トレンチ調査と2007（平成19）年度調査結果については、次年度以降、報告書作成を進める予定である。

4．第３章挿図中の方位は旧測地系の第Ⅲ座標系Ｘ軸方向を指しており、磁北より７°12′、真北より０°32′東の方向を指している。また、調査に使用した座標は、過去の調査との関連から旧測地系を使用した。第４章掲載図面の方位は図面作成時に設けた基線の北を指している。

5．本書に掲載した遺跡分布図は国土地理院発行のものを使用した。また、遺跡周辺の地形図は島根県教育委員会で作製した風土記の丘地内の１：1,000地形図をもとに作成した。

6．微化石分析および木製品樹種同定は文化財調査コンサルタント（財）に委託した。このうち、微化石分析結果については、次年度以降の報告書に掲載する予定である。

7．本書に掲載した図面は、第４章は調査時に作成したものを、それ以外は埋蔵文化財調査センター調査員が作成したものを使用した。文字資料の一部及び第171図は『山陰古代出土文字資料集成』を転載した。

8．本書に掲載した写真は、図版115の空中写真は松江市教育委員会から提供を受けた。また、図版25～54、108は第１～３次調査時に撮影されたものを使用した。その他は調査員が撮影した。墨書土器の写真は赤外線スキャナーで取り込んだデジタルデータを加工し使用した。

9．本書に掲載した出土遺物は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

10．本書の編集は、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て、間野大丞、守岡正司、中野萌が行った。

調 査 組 織

出雲国府跡発掘調査調査指導委員会

蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）、金田章裕（京都大学大学院教授）、井上寛司（島根大学名誉教授）、佐藤　信（東京大学大学院教授）、大橋泰夫（島根大学教授）、花谷　浩（出雲市文化観光部次長）、清水重敦（奈良文化財研究所研究員）、町田　章（島根県文化財保護審議会委員　平成11～16年度）、渡邊貞幸（島根大学法文学部教授　平成11～17年度）

指導助言　文化庁　清野孝之（文化財調査官　平成18年度）、禰宜田佳男（同　平成19年度）

事務局　山根正巳（教育庁文化財課長　平成18年度）、卜部吉博（同　平成19年度）、黒崎寿政（同文化財グループリーダー）、丹羽野裕（同主幹　平成18年度）、林　健亮（同主幹　平成19年度）、勝部智明（同文化財保護主任）、東森　晋（同）、是田　敦（同　平成19年度）

卜部吉博（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（同調整監）、坂本憲一（同総務グループ課長）、西尾克己（同企画調整スタッフ企画幹　平成19年度）、宮澤明久（同調査第１グループ課長　平成19年度）

調査員　林　健亮（埋蔵文化財調査センター第１グループ主幹　平成15～18年度）、間野大丞（同文化財保護主任）、守岡正司（同　平成19年度）、人見麻生（同臨時職員　平成18年度）、中野　萌（同　平成19年度）

調査指導、協力機関・協力者

文化庁、奈良文化財研究所、奈良大学、島根県立八雲立つ風土記の丘、島根県古代文化センター、島根県立古代出雲歴史博物館、松江市教育委員会、松江市大庭公民館、松江市竹矢公民館、大賀克彦、岡田裕之、片岡詩子、近藤加代子、榊原博英、高橋照彦、田辺征夫、中村唯史、西山要一、橋本久和、平尾政幸、藤澤良祐、松井　章、山本信夫、山田康弘、米田克彦

本文目次

第１章　史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境
第１節　出雲国府跡の位置 …… 1
第２節　出雲国府跡周辺の歴史的環境 …… 1
第３節　意宇平野周辺の古代の遺跡 …… 3

第２章　調査に至る経緯と調査の経過
第１節　調査に至る経緯 …… 5
第２節　調査の経過 …… 5

第３章　堂田地区の発掘調査
第１節　調査の概要 …… 9
第２節　調査の結果 …… 13
第３節　総　括 …… 39

第４章　1968（昭和43）～1970（昭和45）年度の発掘調査
第１節　調査に至る経緯と調査経過 …… 43
第２節　樋ノ口地区の調査 …… 47
第３節　一貫尻地区の調査 …… 58
第４節　六所脇地区の調査 …… 67
第５節　宮の後地区の調査 …… 82
第６節　出雲国府跡から出土した遺物に付着した顔料 …… 191
第７節　総　括 …… 194

挿図目次

第１図　史跡出雲国府跡の位置 …… 1
第２図　史跡出雲国府跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３図　史跡出雲国府跡発掘調査区配置図 …… 7
第４図　堂田地区西調査区遺構配置図 …… 10
第５図　堂田地区東調査区遺構配置図 …… 11
第６図　堂田地区遺物出土地点 …… 11
第７図　堂田地区土層断面図 …… 12
第８図　堂田地区35号土坑実測図 …… 13
第９図　堂田地区35号土坑出土遺物実測図 …… 13
第10図　堂田地区36号土坑実測図 …… 14
第11図　堂田地区36号土坑出土遺物実測図 …… 14
第12図　堂田地区62号溝実測図 …… 15
第13図　堂田地区62号溝・67号溝実測図 …… 16
第14図　堂田地区62号溝・67号溝出土遺物実測図 … 17
第15図　堂田地区37号土坑・38号土坑実測図 …… 18
第16図　堂田地区37号土坑・38号土坑出土遺物実測図 …… 18
第17図　堂田地区68号溝実測図 …… 18
第18図　堂田地区柱穴出土遺物実測図 …… 19
第19図　堂田地区道路遺構・２号溝・69号溝実測図 …… 21
第20図　堂田地区道路遺構・２号溝・69号溝出土遺物実測図 …… 22
第21図　堂田地区10号井戸・11号井戸・39号土坑実測図 …… 23
第22図　堂田地区10号井戸・11号井戸・39号土坑出土遺物実測図 …… 23
第23図　堂田地区12号井戸実測図 …… 25
第24図　堂田地区12号井戸出土遺物実測図（１）…… 26
第25図　堂田地区12号井戸出土遺物実測図（２）…… 27
第26図　堂田地区出土遺物実測図（１）…… 29
第27図　堂田地区出土遺物実測図（２）…… 30
第28図　堂田地区出土遺物実測図（３）…… 31
第29図　堂田地区出土遺物実測図（４）…… 32
第30図　堂田地区出土遺物実測図（５）…… 33
第31図　堂田地区出土遺物実測図（６）…… 34
第32図　堂田地区出土生産関係遺物実測図（１）…… 36
第33図　堂田地区出土生産関係遺物実測図（２）…… 37
第34図　日岸田・鍛冶屋・唐路地区出土・採集遺物実測図 …… 38
第35図　堂田地区～大舎原地区遺構配置図 …… 40
第36図　樋ノ口地区調査区配置図 …… 48
第37図　樋ノ口地区遺構実測図 …… 49
第38図　樋ノ口地区東側遺構実測図 …… 50
第39図　樋ノ口地区SB011・012付近遺構実測図 …… 51
第40図　樋ノ口地区SB011・012の位置関係 …… 52
第41図　樋ノ口地区SB011実測図 …… 53
第42図　樋ノ口地区SB012実測図 …… 53
第43図　樋ノ口地区建物模式図 …… 54
第44図　樋ノ口地区SB013付近遺構実測図 …… 54
第45図　樋ノ口地区SB014・015の位置関係 …… 55
第46図　樋ノ口地区SB014実測図 …… 55
第47図　樋ノ口地区SB015実測図 …… 56
第48図　樋ノ口地区出土遺物実測図 …… 57
第49図　一貫尻地区調査区配置図 …… 59
第50図　一貫尻地区の調査箇所 …… 61
第51図　一貫尻地区遺構実測図 …… 62
第52図　一貫尻地区土層断面図 …… 63
第53図　一貫尻地区東側遺構実測図 …… 64
第54図　一貫尻地区西側遺構実測図 …… 65
第55図　一貫尻地区出土遺物実測図 …… 66
第56図　六所脇・宮の後地区調査前地形図 …… 67
第57図　六所脇地区遺構実測図 …… 68
第58図　六所脇地区調査区配置図 …… 69
第59図　六所脇地区土層断面図 …… 70
第60図　六所脇地区SB018・019の位置関係 …… 71
第61図　六所脇地区SB018実測図 …… 72
第62図　六所脇地区SB019実測図 …… 72
第63図　六所脇地区SB020・021の位置関係 …… 73
第64図　六所脇地区SB020（古）実測図 …… 74
第65図　六所脇地区SB020（新）実測図 …… 75
第66図　六所脇地区SB021実測図 …… 76
第67図　六所脇地区建物模式図 …… 77
第68図　六所脇地区SD054･055実測図 …… 78
第69図　六所脇地区遺構出土遺物実測図 …… 79
第70図　六所脇地区包含層出土遺物実測図（１）…… 80
第71図　六所脇地区包含層出土遺物実測図（２）…… 81
第72図　出雲国府跡調査区配置図 …… 82
第73図　出雲国府跡年度別調査区配置図 …… 82
第74図　宮の後地区グリッド配置図 …… 83
第75図　宮の後地区主要部遺構実測図（１）…… 84
第76図　宮の後地区主要部遺構実測図（２）…… 85
第77図　宮の後地区A・J区・六所脇地区遺構実測図 …… 86
第78図　宮の後地区A区土層断面図 …… 87
第79図　宮の後地区A区SB004・SA003・004・020実測図 …… 88
第80図　宮の後地区A区SB005実測図 …… 89
第81図　宮の後地区A・C区SB006・016・SA016実測図 …… 91～92

第82図　宮の後地区A・C区SB006・016・SA016柱穴断面実測図 …… 93
第83図　宮の後地区A区SB007実測図 …… 94
第84図　宮の後地区A区SB009実測図 …… 95
第85図　宮の後地区A区SB010･SA010実測図 …… 95
第86図　宮の後地区A・C区SB017実測図 …… 96
第87図　宮の後地区A区SB024実測図 …… 97
第88図　宮の後地区A・C区SB025実測図 …… 98
第89図　宮の後地区A・C区SA012・016実測図 …… 99
第90図　宮の後地区A区SD017実測図 …… 100
第91図　宮の後地区A区SD023・025実測図 …… 100
第92図　宮の後地区A区SD046・053実測図 …… 101
第93図　宮の後地区A区SE003・008実測図 …… 102
第94図　宮の後地区B区南西遺構配置図 …… 103～104
第95図　宮の後地区B区南側遺構実測図 …… 107
第96図　宮の後地区B区北側遺構実測図 …… 108
第97図　宮の後地区B区東側遺構実測図 …… 109
第98図　宮の後地区B区SB001･SD004･045実測図 … 110
第99図　宮の後地区B区SB002･022･SA003実測図 … 111
第100図 宮の後地区B・D区遺構実測図 …… 112
第101図 宮の後地区B・D区遺構実測図 …… 113
第102図 宮の後地区C区土層図（1） …… 115
第103図 宮の後地区C区土層図（2） …… 116
第104図 宮の後地区C区SB003付近実測図 …… 117
第105図 宮の後地区C区北側SD034北折れ付近実測図 …… 118
第106図 宮の後地区C・D区遺構実測図 …… 119
第107図 宮の後地区C・D区遺構実測図 …… 120
第108図 宮の後地区D区SE001・009実測図 …… 123
第109図 宮の後地区D区SA101・102実測図 …… 124
第110図 宮の後地区建物跡出土遺物実測図 …… 126
第111図 宮の後地区井戸跡出土遺物実測図 …… 127
第112図 宮の後地区井戸跡他出土遺物実測図 …… 128
第113図 宮の後地区A区土坑他出土遺物実測図 …… 129
第114図 宮の後地区A・B区土坑他出土遺物実測図 … 130
第115図 宮の後地区C・D区土坑他出土遺物実測図 … 131
第116図 宮の後地区SD004出土遺物実測図（1） …… 132
第117図 宮の後地区SD004出土遺物実測図（2） …… 133
第118図 宮の後地区SD004出土遺物実測図（3） …… 134
第119図 宮の後地区SD004出土遺物実測図（4） …… 135
第120図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（1） …… 136
第121図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（2） …… 137
第122図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（3） …… 138
第123図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（4） …… 139
第124図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（5） …… 140
第125図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（6） …… 141
第126図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（7） …… 142
第127図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（8） …… 143
第128図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（9） …… 144
第129図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（10） …… 145
第130図 宮の後地区SD005出土遺物実測図（11） …… 146
第131図 宮の後地区SD010出土遺物実測図 …… 147
第132図 宮の後地区SD010他出土遺物実測図 …… 148
第133図 宮の後地区SD034出土遺物実測図 …… 149
第134図 宮の後地区SD047出土遺物実測図 …… 150
第135図 宮の後地区溝出土遺物実測図（1） …… 151
第136図 宮の後地区溝出土遺物実測図（2） …… 152
第137図 宮の後地区溝出土遺物実測図（3） …… 153
第138図 宮の後地区溝出土遺物実測図（4） …… 154
第139図 宮の後地区SD005・010出土墨書・刻書土器実測図 …… 155
第140図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（1） …… 157
第141図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（2） …… 158
第142図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（3） …… 159
第143図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（4） …… 160
第144図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（5） …… 161
第145図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（6） …… 162
第146図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（7） …… 163
第147図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（8） …… 164
第148図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（9） …… 166
第149図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（10） …… 167
第150図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（11） …… 168
第151図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（12） …… 169
第152図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（13） …… 171
第153図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（14） …… 172
第154図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（15） …… 173
第155図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（16） …… 174
第156図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（17） …… 176
第157図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（18） …… 177
第158図 宮の後地区包含層出土遺物実測図（19） …… 178
第159図 宮の後地区出土墨書・刻書土器実測図 …… 179
第160図 宮の後地区出土木簡実測図 …… 181
第161図 出雲国府跡出土柱根実測図 …… 182
第162図 蛍光X線分析スペクトル …… 193
第163図 宮の後・六所脇地区遺構変遷図（1） …… 195
第164図 宮の後・六所脇地区遺構変遷図（2） …… 196
第165図 宮の後・六所脇地区遺構変遷図（3） …… 197
第166図 須恵器・土錘分類図 …… 199
第167図 硯実測図（1） …… 204
第168図 硯・転用硯実測図（2） …… 205
第169図 漆付着土器実測図 …… 207
第170図 金属生産関連遺物実測図 …… 208
第171図 墨書土器出土地点（島根県2003年第13図転載） …… 209

表　目　次

第１表　史跡出雲国府跡の発掘調査 …… 6
第２表　調査地一覧 …… 8
第３表　出雲国府跡遺物観察表 …… 216
第４表　出雲国府跡堂田地区木製品観察表 …… 223
第５表　出雲国府跡堂田地区土錘観察表 …… 224
第６表　出雲国府跡堂田地区石製品観察表 …… 225
第７表　出雲国府跡堂田地区金属器・金属器生産関係遺物観察表 …… 225
第８表　出雲国府跡堂田地区銭貨計測表 …… 225
第９表　『史跡出雲国府跡３』第23表　石製品観察表 …… 225
第10表　『史跡出雲国府跡４』第８表　石製品観察表 …… 225
第11表　出雲国府跡堂田地区玉作関係遺物観察表 … 226
第12表　出雲国府跡堂田地区出土陶磁器分類表 …… 227
第13表　出雲国府跡堂田地区瓦分類・集計表 …… 228
第14表　出雲国府跡堂田地区金属器生産関係遺物集計表 …… 228
第15表　出雲国府跡堂田地区黒曜石集計表 …… 228
第16表　出雲国府跡堂田地区玉作関係遺物製作段階別集計表 …… 229
第17表　石塔一覧表 …… 190
第18表　須恵器分類別集計表 …… 201
第19表　鉄滓集計表 …… 208
第20表　墨書土器・刻書土器一覧 …… 210
第21表　緑釉陶器集計表 …… 211
第22表　陶磁器集計表 …… 212
第23表　遺構一覧表 …… 230
第24表　玉作関係遺物遺構別集計表 …… 233
第25表　玉作関係遺物石材別集計表 …… 234
第26表　筋砥石・台石一覧表 …… 235
第27表　石器一覧表 …… 235
第28表　黒曜石集計表 …… 235
第29表　土器・陶磁器・土製品観察表 …… 236
第30表　木製品観察表 …… 280
第31表　石製品観察表 …… 280
第32表　金属製品・ガラス製品観察表 …… 282

写真図版目次

図版１　堂田地区東調査区近景（西から）
堂田地区第48トレンチ全景（北西から）
堂田地区東調査区全景（南西から）
図版２　堂田地区35号土坑（北西から）
堂田地区37号土坑（南西から）
堂田地区38号土坑（北東から）
図版３　堂田地区62号溝土層断面（南東から）
堂田地区62号溝ｇ－ｈライン土層断面（南東から）
堂田地区62号溝ｅ－ｆライン土層断面（南東から）
図版４　堂田地区第48トレンチ柱穴検出状況（南西から）
堂田地区67号溝（南西から）
堂田地区68号溝土層断面（南西から）
図版５　堂田地区西調査区道路遺構（南から）
堂田地区西調査区道路遺構（北から）
堂田地区２号溝（南東から）
図版６　堂田地区道路遺構周辺遺物出土状況（東から）
堂田地区69号溝（南西から）
堂田地区10号井戸（南西から）
図版７　堂田地区11号井戸（東から）
堂田地区道路遺構・２号溝・12号井戸（南東から）
堂田地区12号井戸土器出土状況（北東から）
図版８　堂田地区12号井戸土器・木製品出土状況（南東から）
堂田地区12号井戸獣骨出土状況（南東から）
堂田地区12号井戸土層断面（東から）
図版９　堂田地区35号・36号土坑出土土器
図版10　堂田地区62号・67号溝、柱穴出土遺物
図版11　堂田地区道路遺構・２号・69号溝出土遺物
図版12　堂田地区道路遺構・２号・69号溝出土遺物
図版13　堂田地区10号・11号井戸、39号土坑出土遺物
図版14　堂田地区12号井戸出土遺物
図版15　堂田地区12号井戸出土遺物
図版16　堂田地区12号井戸出土遺物
図版17　堂田地区出土遺物
図版18　堂田地区出土遺物
図版19　堂田地区出土遺物
図版20　堂田地区出土遺物
図版21　堂田地区出土遺物

図版22　堂田地区出土遺物
堂田地区生産関係遺物
図版23　堂田地区生産関係遺物
図版24　日岸田・鍛冶屋・唐路地区出土・採集遺物
図版25　出雲国府跡全景（北西から）
宮の後地区A・C区（西から）1970
図版26　宮の後地区A区（西から）1969
宮の後地区A区（東から）1969
図版27　宮の後地区A区（北から）1969
宮の後地区A区SA003・SD010・017（西から）1969
図版28　宮の後地区A区SD010・017（南から）1969
宮の後地区A区SD014（東から）1968
図版29　宮の後地区B区SB002・SD011（西から）1968
宮の後地区C区SD005・034（西から）1970
図版30　宮の後地区C区SA027・SD005・048（東から）1970
宮の後地区C区SD005・034（北から）1969
図版31　宮の後地区D区（南から）1968
宮の後地区B区SB001（北から）1968
図版32　宮の後地区A区SB005（西から）1969
宮の後地区A・C区SB016（東から）1970
図版33　宮の後地区C区SB003・SD005（北から）1968
宮の後地区C区SA012（西から）1969
図版34　宮の後地区C区SD005・034（東から）1970
宮の後地区C区SD005とSD004の交点（東から）1968
図版35　宮の後地区J区SD010（東から）1969
宮の後地区A区SD010・017（西から）1969
図版36　宮の後地区A区SD025・046・047・053・SE008（南から）1970
宮の後地区A区SD053（東から）1970
図版37　宮の後地区A区SD018・023・SE005（東から）1969
宮の後地区A区SD024・028・SG001（南から）1969
図版38　宮の後地区A区SB016（東から）1970
宮の後地区A・C区SB017・025（南から）1970
宮の後地区B区SB022（東から）1970
図版39　宮の後地区D区SE009（南から）1970
宮の後地区D区SB023・SE009（西から）1968
宮の後地区A区SA004・SE004（北から）1968
図版40　宮の後地区C区SD005（西から）1968
宮の後地区C区SA013・SD005・034（西から）1969
宮の後地区C区SD005・048（西から）1970
図版41　宮の後地区A区SD017・018（東から）1969
宮の後地区A区SD017・019（西から）1969
宮の後地区B区SD004（西から）1968
図版42　宮の後地区B区SD004（東から）1968
宮の後地区A区SD024（東から）1969
宮の後地区D区SE001（北から）1968
図版43　宮の後地区A区SE003（南から）1968
宮の後地区D区SE009（西から）1970
宮の後地区B区SD004土層断面（南から）1968
図版44　宮の後地区B区SD004　1968
宮の後地区C区SD005（西から）1968
宮の後地区B区SD045（東から）1968
図版45　宮の後地区B区SD011（西から）1968
宮の後地区B区SE101（東から）1968
宮の後地区B区SE101土層断面（北から）1968
図版46　宮の後地区C区SD034CM19付近（西から）1970
宮の後地区C区（北から）1970
出雲国府跡から北を望む（南から）
図版47　宮の後地区柱穴
宮の後地区A・C区（東から）1970
図版48　六所脇地区Ⅰ区（東から）1970
六所脇地区J区（西から）1970
図版49　六所脇地区Ⅰ区（東から）1970
六所脇地区Ⅰ区（南から）1970
六所脇地区Ⅰ区炉跡　1970
図版50　六所脇地区Ⅰ区SD054土層断面　1970
一貫尻地区SK101（南から）1969
一貫尻地区西端（南から）1969
図版51　一貫尻地区SD103付近（南から）1969
一貫尻地区（東から）1969
図版52　樋ノ口地区（南西から）1969
樋ノ口地区（南から）1969
図版53　樋ノ口地区（西から）1969
樋ノ口地区（西から）1969
図版54　樋ノ口地区SB011（南から）1969
樋ノ口地区SB012（南から）1969
樋ノ口地区SB014・015（南から）1969
図版55　樋ノ口地区出土遺物
図版56　樋ノ口・一貫尻地区出土遺物
図版57　一貫尻・六所脇地区出土遺物
図版58　一貫尻・六所脇地区出土遺物
図版59　六所脇地区出土遺物
図版60　六所脇地区出土遺物
図版61　六所脇地区出土遺物
図版62　六所脇・宮の後地区出土遺物
図版63　宮の後地区出土遺物
図版64　宮の後地区出土遺物
図版65　宮の後地区出土遺物
図版66　宮の後地区出土遺物
図版67　宮の後地区出土遺物
図版68　宮の後地区出土遺物
図版69　宮の後地区出土遺物

図版70　宮の後地区出土遺物
図版71　宮の後地区SD004出土遺物
図版72　宮の後地区SD004出土遺物
図版73　宮の後地区SD005出土遺物
図版74　宮の後地区SD005出土遺物
図版75　宮の後地区SD005出土遺物
図版76　宮の後地区SD005出土遺物
図版77　宮の後地区出土遺物
図版78　宮の後地区溝跡出土遺物
図版79　宮の後地区溝跡出土遺物
図版80　宮の後地区溝跡出土遺物
図版81　宮の後地区溝跡出土遺物
図版82　宮の後地区溝跡出土遺物
図版83　宮の後地区溝跡出土遺物
図版84　宮の後地区溝跡出土遺物
図版85　宮の後地区出土遺物
図版86　宮の後地区出土遺物
図版87　宮の後地区出土遺物
図版88　宮の後地区出土遺物
図版89　宮の後地区出土遺物
図版90　宮の後地区出土遺物
図版91　宮の後地区出土遺物
図版92　宮の後地区出土遺物
図版93　宮の後地区出土遺物
図版94　宮の後地区出土遺物
図版95　宮の後地区出土遺物
図版96　宮の後地区出土遺物
図版97　宮の後地区出土遺物
図版98　宮の後地区出土遺物
図版99　宮の後地区出土遺物
図版100 宮の後地区出土遺物
図版101 宮の後地区出土遺物
図版102 宮の後地区出土遺物
図版103 宮の後地区出土遺物
図版104 宮の後地区出土遺物
図版105 宮の後地区出土遺物
図版106 宮の後地区出土遺物
図版107 宮の後地区出土遺物
図版108 宮の後地区出土木製品
図版109 墨書土器
図版110 墨書土器
図版111 墨書土器
図版112 墨書土器
図版113 墨書土器
図版114 墨書土器
図版115 意宇平野空中写真（南東から）松江市教育委員会提供

本文写真目次

写真1　第6トレンチ全景（西から）　……　41

第１章　史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境

第１節　出雲国府跡の位置

史跡出雲国府跡は、松江市東南部の意宇平野南側を中心に展開する遺跡である。現在では史跡出雲国府跡史跡公園として約10,000㎡が整備されている。公園南側には出雲国総社である六所神社が鎮座し、さらにその南を意宇川が東流している。六所神社周辺から意宇川沿いには集落が展開し、公園北側には広々とした水田地帯が広がっている。

意宇平野は松江市八雲町から狭い谷を抜けて流れ込む意宇川が形成した沖積平野で、現在も地形図上に旧河道の痕跡を目にすることができる。

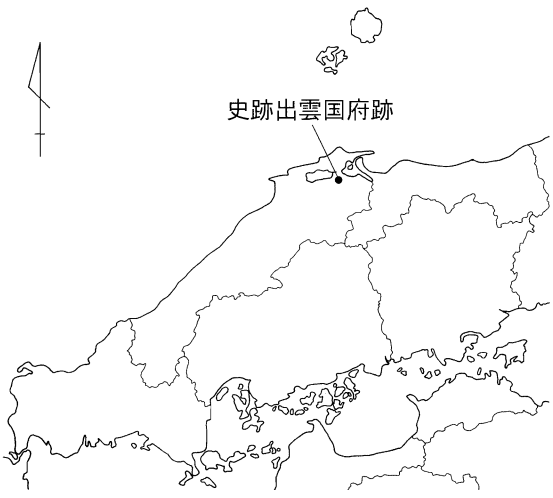
史跡公園から北西をみると、『出雲国風土記』に「神名樋野」と記された茶臼山がそびえ、北から北東には中海を隔てた島根半島の山塊を目にすることができる。東側に目を向けると、真冬の晴れた日には鳥取県の大山がその雄大な姿を見せる。平野南側の丘陵には、百塚山古墳群(1)・安部谷横穴墓群(2)や、最古の石棺式石室である古天神古墳(3)などが分布する。また、北東約800mには史跡出雲国分寺跡(4)が史跡公園として整備されているほか、そのさらに東150mには、出雲国分寺瓦窯跡(5)が保存されている。平野北西には、山代段丘が南北に延びており、山代二子塚(6)、大庭鶏塚(7)などの後期の大型古墳や山代郷(北)新造院跡（来美廃寺）(8)、山代郷(南)新造院跡（四王寺跡）(9)に比定される寺院跡なども知られている。このうち、山代郷(南)新造院跡（四王寺跡）の西側100mには、同遺跡に瓦を供給したとされる小無田Ⅱ遺跡(10)の瓦窯跡が松江市教育委員会によって調査され一部が保存されている。

第２節　出雲国府跡周辺の歴史的環境

意宇平野とその周辺では、風土記の丘地内遺跡発掘調査のほかにも送電線鉄塔建設や、国道９号松江道路・安来道路建設などの大型公共事業、周辺道路の拡幅などにともなって、多くの発掘調査が行われている。以下、発掘調査成果に基づき、出雲国府跡周辺の遺跡の状況を述べる。

現在までに、意宇平野内で旧石器・縄文時代の良好な遺跡は知られていないが、平野北側の山代段丘上では石器製作跡と考えられるユニットを検出した下黒田遺跡(11)があるほか、古代寺院として知られる山代郷(北)新造院跡（来美廃寺）の造成土中からは玉髄製のナイフ形石器が出土している。平野の内側で遺跡が急増するのは弥生時代以降のことで、建築材と考えられる木製品が多数出土した上小紋遺跡(12)や弥生時代の水田跡として知られる布田遺跡(13)などがある。

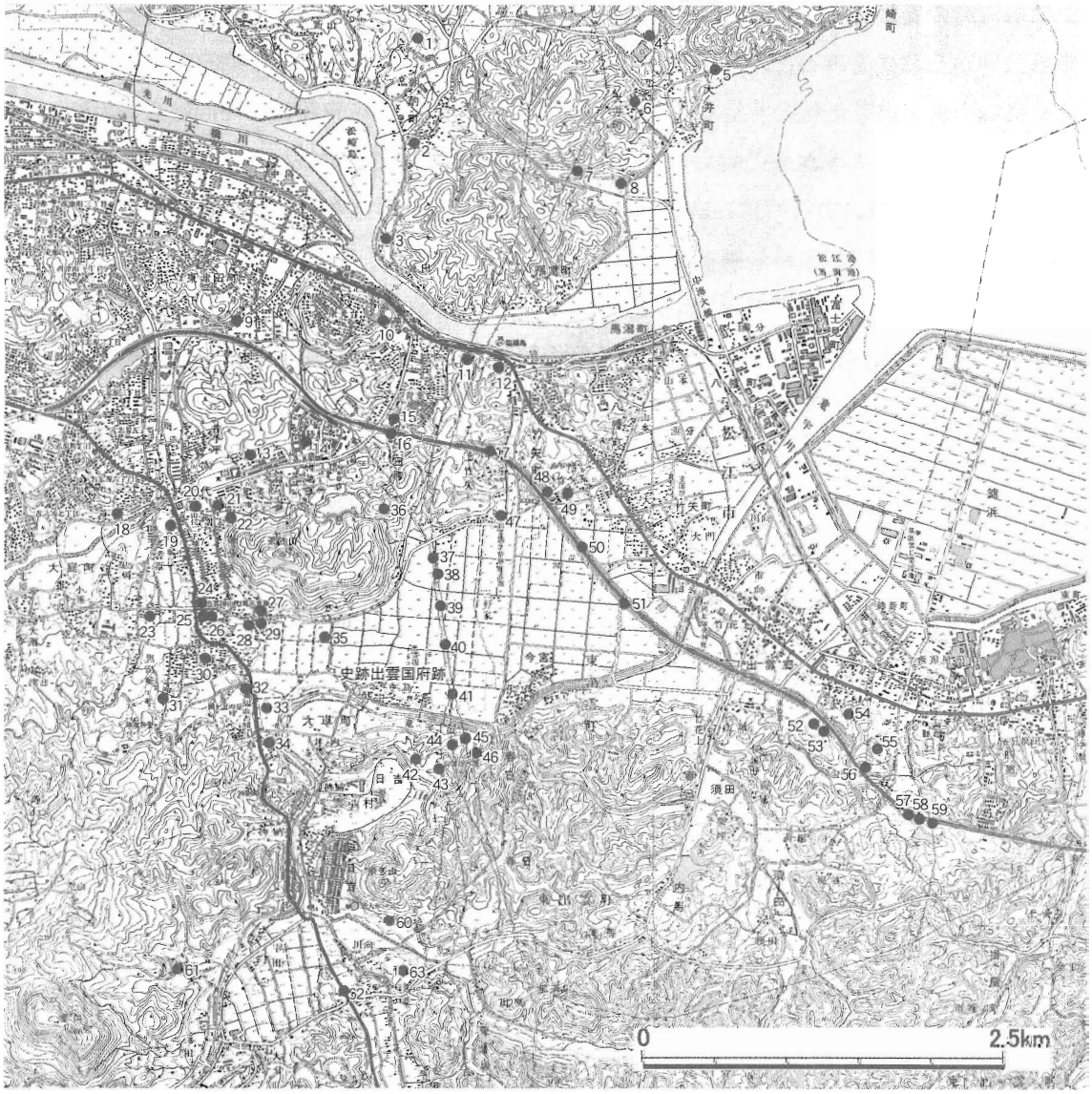
古墳時代の集落としては夫敷遺跡が知られている。夫敷遺跡(14)からは多孔の甑が出土しており渡来人との関係も指摘されている。周辺の丘陵部には多くの古墳が知られており、県内最古級の前方後円墳である廻田１号墳(15)から大庭山代古墳



第１図　史跡出雲国府跡の位置

群など大橋川沿いから大庭町にかけての地域に非常に多くが分布している。このうち岩屋後古墳[16]は石棺式石室をもつ古墳であるが、丘陵部ではなく平野部に造られている。

古代については次節で詳しく述べるが、出雲国府跡近接地では古代の集落等は知られていない。意宇平野を横断する送電線鉄塔建設にともなう発掘調査では陶磁器を伴う遺跡が多く調査されている。このうち、意宇川対岸の天満谷遺跡[17]では谷間を造成して建てられた掘立柱建物跡が検出され、古代末から中世の土器・陶磁器が出土した。また出雲国分尼寺跡に隣接する中竹矢遺跡[18]でも白磁類を多く伴う集落の調査がおこなわれている。意宇川河口に近い鵜貫遺跡[19]では少量の陶磁器が出土し、付近に中世の有力施設が存在したことが推定されている。松江市八雲町（旧八束郡



第２図　史跡出雲国府跡の位置と周辺の遺跡（S＝1：50,000）

1．廻原１号墳　2．朝酌岩屋古墳　3．魚見塚古墳　4．池ノ奥窯跡群　5．山津窯跡群　6．寺尾窯跡　7．岩汐窯跡群　8．ババタケ窯跡
9．石台遺跡　10．石屋古墳　11．手間古墳　12．竹矢岩舟古墳　13．山代郷(北)新造院跡　14．来美墳墓　15．間内越墳墓　16．平所遺跡
17．才ノ峠遺跡　18．向山１号墳　19．大庭鶏塚古墳　20．山代二子塚古墳　21．山代方墳　22．永久宅後古墳
23．東淵寺古墳　24．山代郷正倉跡　25．下黒田遺跡　26．黒田館跡　27．山代郷(南)新造院跡　28．小無田Ⅱ遺跡　29．寺の前遺跡
30．黒田畦遺跡　31．出雲国造館跡　32．岡田山古墳群　33．岩屋後古墳　34．御崎山古墳　35．大坪遺跡　36．廻田古墳群
37．上小紋遺跡　38．向小紋遺跡　39．四配田遺跡　40．神田遺跡　41．才台垣大屋敷遺跡　42．西百塚山古墳群　43．東百塚山古墳群
44．古天神古墳　45．天満谷遺跡　46．安部谷横穴墓群　47．出雲国分寺跡　48．中竹矢遺跡　49．出雲国分尼寺跡　50．布田遺跡
51．夫敷遺跡　52．岸尾遺跡　53．島田池遺跡　54．大木権現山墳墓　55．寺床古墳群　56．島田遺跡　57．渋山池古墳群
58．渋山池遺跡　59．原の前遺跡　60．雨乞山古墳　61．青木遺跡　62．前田遺跡　63．増福寺古墳群

八雲村）では、古墳時代の琴や木製刀装具などが出土した前田遺跡[20]や古代の集落である青木遺跡などが知られている。両遺跡は国府から直線距離で約２kmしか離れていない。

第３節　意宇平野周辺の古代の遺跡

市道の拡幅にともなって行われた大坪遺跡[21]の発掘調査は、現真名井神社参道に沿って長い調査区を設定し、仮に古代山陰道の遺構があれば確実に捉えられると考えていたが、古代の道路跡を検出することができなかった。大坪遺跡では「急急禁解・・・」「延暦八年」などの木簡が出土しており、付近に古代の遺構が存在したことが推定されるが、周辺に遺構面が残存していないようである。平野を離れて西側の山代段丘上には規格的に配置された総柱建物群を検出した山代郷正倉跡[22]があり、その南には下黒田遺跡[23]・黒田館跡[24]が知られている。国道432号を挟んだ南側には云石（飯石郡を表すか？）の墨書土器を出土した黒田畦遺跡[25]があり、官衙関連遺跡が集中する地域となっている。その東側の茶臼山裾部には『出雲国風土記』記載の「山代郷(南)新造院」に比定される山代郷(南)新造院跡（四王寺跡）[26]とその瓦を供給したと考えられている４基の瓦窯を検出した小無田Ⅱ遺跡がある[27]。

一方、意宇平野北端には出雲国分寺跡[28]・出雲国分寺瓦窯跡・出雲国分尼寺跡[29]の存在が知られている。出雲国分寺瓦窯跡西側の丘陵部には瓦窯や古代末の集落を検出した中竹矢遺跡[30]、加工段上に多くの掘立柱建物跡を検出し、土馬や手捏ね土器などが出土した才ノ峠遺跡[31]などが知られており、国分寺や国府との関係が推定されている。

平野東側の東出雲町の丘陵部は国道９号安来道路建設に伴って発掘調査がおこなわれており、複数の古代の集落が調査されている。東出雲町の島田池遺跡[32]・岸尾遺跡[33]では鉄鉢形須恵器などが出土した。また、渋山池古墳群[34]・渋山池遺跡[35]からは９世紀後半代と考えられる須恵器窯跡２基が確認されているほか、渋山池遺跡では古代の集落が発見されている。意宇川を遡る松江市八雲町の青木遺跡[36]では掘立柱建物跡が検出されており、ヘラ書き土器「社邊」や墨書土器「林」が出土している。

奈良・平安時代の墳墓としては、中竹矢遺跡の丘陵頂部に位置する社日古墳群[37]で八稜鏡を収めた火葬骨壺が出土したほか、同じく八稜鏡を収めた木棺墓が東出雲町の勝負遺跡[38]から発見されている。墳墓以外でも島田池遺跡では特殊な平面形をもつ掘立柱建物跡から八稜鏡が出土しており、信仰関係の建物と考えられている。この島田池遺跡[39]の南斜面にあたる８区からは、複数の掘立柱建物跡にともなって鉄鉢形須恵器や、灯明痕跡をもつ小型の須恵器坏が多量に出土しており、奈良時代後半から始まる仏教関係の施設があった可能性がある。

意宇平野内では、古代山陰道の痕跡を捉えることができないが、松江市乃白町の松本古墳群[40]では、幅10mの道路痕跡を調査している。側溝は確認されていないが、古代山陰道の可能性を直接的に考えられる資料の一つとなっている。山陰道関係では、鳥取県米子市の橋本徳道西遺跡[41]で、幅９mの両側側溝をもつ道路跡が発見されており、山陰道駅路の可能性が検討されている。（林）

注

（1）『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会1975年
（2）注（1）に同じ
（3）『石棺式石室の研究』出雲考古学研究会1987年
（4）注（1）に同じ
（5）岡崎雄二郎「出雲国分寺瓦窯について」『八雲立つ風土記の丘№35』島根県立八雲立つ風土記の丘1979年
（6）注（3）に同じ
（7）注（3）に同じ
（8）『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書13　来美廃寺「山代郷新造院」推定地発掘調査報告書』島根県教育委員会2002年
『山代郷北新造院跡』島根県教育委員会2007年
（9）『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅳ－島根県松江市山代町所在・四王寺跡－』島根県教育委員会1985年
『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅴ－島根県松江市山代町所在・四王寺跡－』島根県教育委員会1988年
『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅹ山代郷南新造院跡』島根県教育委員会1994年
(10)『小無田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会1997年
(11)『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』島根県教育委員会1989年
(12)『北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』島根県教育委員会1987年
(13) 注(12)に同じ
(14)『一般国道９号線松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ（夫敷遺跡）』島根県教育委員会1989年
(15)『松江北東部における古墳の調査』島根県古代文化センター2004年
(16)『岩屋後古墳』島根県教育委員会1978年
(17) 注(12)に同じ
(18)『一般国道９号線松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ（中竹矢遺跡）』島根県教育委員会1992年
(19)『島田池遺跡・鷺貫遺跡』島根県教育委員会1997年
(20)『前田遺跡（第Ⅱ調査区）』八雲村教育委員会2001年
(21)『市道真名井神社線整備事業に伴う大坪遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会2002年
(22)『史跡出雲国山代郷正倉跡』島根県教育委員会1981年
(23)『下黒田遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会1988年
(24)『黒田館跡』松江市教育委員会1984年
(25)『黒田畦遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会1995年
(26) 注（9）に同じ
(27) 注(10)に同じ
(28) 注（1）に同じ
(29)『出雲国分尼寺第３次発掘調査概報』島根県教育委員会1976年
(30) 注(18)に同じ
(31)『一般国道９号線松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ（才ノ峠遺跡）』島根県教育委員会1993年
(32) 注(19)に同じ
(33)『岸尾遺跡・島田遺跡』島根県教育委員会1997年
(34)『渋山池古墳群』島根県教育委員会1997年
(35)『渋山池遺跡・原の前遺跡』島根県教育委員会1997年
(36) 注(20)に同じ
(37)『社日古墳』島根県教育委員会1998年
(38)『一般国道９号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書西地区10』島根県教育委員会1998年
(39) 注(33)に同じ
(40)『松本古墳群・大角山遺跡・すべりざこ古墳群』島根県教育委員会1997年
(41)『吉谷亀尾ノ上遺跡・橋本徳道西遺跡』（財）米子市教育委員会2003年

第２章　発掘調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

出雲国府跡は、島根県松江市大草町・山代町地内に所在する遺跡である。その所在地については江戸時代から諸説があったが、松江市教育委員会が昭和43（1968）～45（1970）年度の３年間にわたり行った発掘調査で計画的に配置された奈良時代の建物跡群が検出されたことにより、初めて明らかになった。昭和46（1971）年12月13日には史跡出雲国府跡として約420,000㎡が国指定史跡となり、島根県教育委員会がその中心区域である六所脇・宮の後地区で昭和47（1972）年度から３か年で環境整備事業を行って、島根県立八雲立つ風土記の丘の中核となる史跡公園として活用が図られた。

その後、平成３（1991）年には「八雲立つ風土記の丘構想」、平成９（1997）年には「古代文化の郷“出雲”整備構想」が策定された。いずれも島根県立八雲立つ風土記の丘を中核とした遺跡整備の必要性が唱えられ、これに基づいて史跡の公有地化や整備が進められてきた。

こうした状況を受けて、島根県教育委員会では昭和43～45年度の調査以来、現状変更に伴う小規模な調査を除いて本格的な調査が中断していた史跡出雲国府跡を継続的に発掘調査することとした。調査は、昭和48（1973）年度から継続している風土記の丘地内遺跡の一環として平成11（1999）年度より行っており、今年度は９年目である（第３図・第１・２表）。平成17（2005）年度からは、発掘調査に関連して、松江市教育委員会が行った昭和43（1968）～45（1970）年度調査分の資料整理も開始している。（守岡・間野）

第２節　調査の経過

（１）平成18年度

この年からあらたに堂田地区の本調査に着手した。この地区は、「国司館」の大舎原地区と工房の存在が推定される日岸田地区の間にあたる。大舎原地区との間には、南北に市道が走る。この道路が、推定十字街から国府へ入る進入路と考えられている。調査は、①道路遺構（側溝）の検出、②工房域の広がりを確認すること、を主たる目的とした。

調査は5月31日から11月17日までおこなった。調査区は、水田畦畔をはさんで、東西に分けて設定した。東調査区では、当初、日岸田地区から延びる62号溝が検出できなかった。そこで、調査区の東にあらたに第48トレンチを設定した。このトレンチでようやく62号溝と古代の柱穴群を確認し、東調査区でも62号溝を検出することができた。西調査区は、第６トレンチ（平成11年度調査）の一部を再発掘した。この溝は推定国府進入路上を南北方向に走るもので、時期は平安時代後半とされるものの道路側溝の可能性が考えられていた。この２号溝の南への延長を確認しながら調査を進めた。調査では、溝の西側に盛土と硬化面が確認され、道路側溝の可能性が高まった。

本調査とは別に、宮の後地区（第46トレンチ）、六所脇地区（第47トレンチ）でトレンチ調査もおこなった。堂田地区（２号溝、12号井戸）と各トレンチについて、微化石分析を委託しておこなっている。

８月24日には委員会を開催したほか、10月３日には金田委員、同５日には町田前委員長による指導も受けた。９月26日には、石製品の石材について中村唯史三瓶自然館学芸員の指導を受けている。10月15日には現地説明会を地元住民対象、一般対象の２回おこない計150名の参加があった。

（２）平成19年度

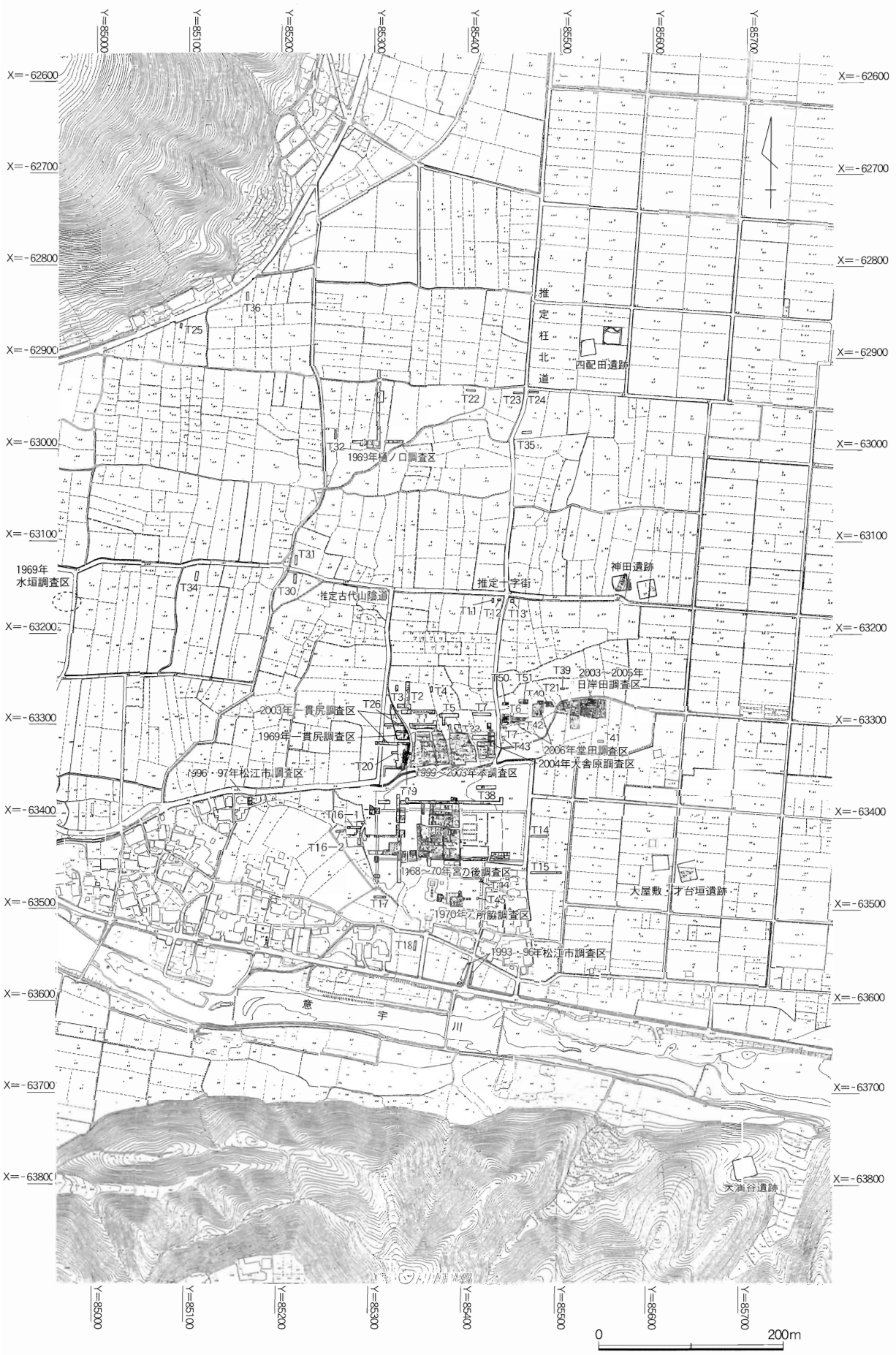
現地調査は、７月25日から12月12日までおこなった。本年度は、史跡公園として整備されている宮の後地区を対象に調査した。調査では、あらたに礎石建ち建物跡１棟、溝跡１条を検出している。また建物跡・溝跡の整地土下層から複数の溝が交差する「井桁状遺構」を検出した。トレンチ調査は、堂田地区２箇所（第50・51トレンチ）、六所脇地区１箇所（第49トレンチ）でおこなった。堂田地区では２号溝、62号溝の延長を確認している。10月16日に調査指導委員会を開催したほか、同12日に清水委員、同18日に大橋委員の指導をうけた。また町田前委員長には、９月12日、10月19日の２回にわたり指導をうけている。11月16日に地元住民対象、17日に一般対象の現地説明会を開催し、あわせて40名の参加をえた。

７月21日に、風土記の丘資料館が風土記の丘展示学習館としてリニューアルオープンした。同日、当センターでも「古代都市　出雲国府を復元する」をテーマに講演会を開催している。

整理作業は、順次すすめているが、本報告書には平成18年度堂田地区調査についてのみ掲載している。平成18年度トレンチ調査と平成19年度調査の成果については、あらためて報告する。（間野）

第１表　史跡出雲国府跡の発掘調査

年　　度	調　査　主　体	調　査　原　因	主な調査地点	報　　告
昭和43(1968)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡５』2008年
昭和44(1969)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・一貫尻・水垣・樋ノ口地区	
昭和45(1970)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・六所脇地区	
昭和49(1974)年度	島根県教育委員会	史跡整備	宮の後地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡環境整備報告書』1975年
昭和50(1975)年度	島根県文化財愛護協会	水道管埋設	推定十字街ほか第１～４地点	島根県文化財愛護協会1975年「出雲国府跡内枉北道調査概要」
昭和60(1985)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		島根県教育委員会『土地改良総合整備事業に伴う史跡出雲国府跡発掘調査報告書』1988年
昭和61(1986)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
昭和62(1987)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
平成元(1989)年度	島根県教育委員会	道路舗装	水垣・横枕地区Ａ・Ｂ地点	島根県教育委員会「出雲国府跡発掘調査概報」1991年
平成5(1993)年度	松江市教育委員会	道路拡幅		(財)松江市教育文化振興事業団『財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課年報Ⅰ』1997年
平成8(1996)年度	松江市教育委員会	個人住宅改築		松江市教育委員会「史跡出雲国府跡発掘調査概要」1996年
平成8(1996)年度	松江市教育委員会	道路拡幅		松江市教育委員会「史跡出雲国府跡発掘調査概要」1996年
平成9(1997)年度	松江市教育委員会	個人住宅建設		松江市教育委員会「史跡出雲国府跡発掘調査概要」1997年
平成11(1999)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡１』2003年
平成12(2000)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原地区	
平成13(2001)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原地区	
平成14(2002)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡２』2004年
平成15(2003)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原・一貫尻・日岸田地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡３』2005年
平成16(2004)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田・大舎原地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡４』2006年
平成17(2005)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田地区	
平成17(2005)年度	島根県教育委員会	下水道工事	六所脇地区	
平成18(2006)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田地区	島根県教育委員会『史跡出雲国府跡５』2008年
			宮の後地区	
			六所脇地区	
平成19(2007)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田･宮の後･六所脇地区	



第３図　史跡出雲国府跡発掘調査区配置図（S＝1：6,000）

第２表　調査地一覧

調査年度	地　区　名	所　在　地	面積（㎡）	報　　告　　書
昭和43～45	六所脇	大草町	252.55	島根県教委2008『出雲国府跡５』 （松江市教委1971『概報』）
	宮の後	大草町	3100.00	
	水垣	大草町	129.00	
	一貫尻	大草町	207.00	
	樋の口	山代町	440.00	
昭和49	宮の後	大草町	425.00	島根県教委1975『環境整備』
昭和49	推定十字街ほか	大草町	15.00	愛護協会1975「枉北道概報」
昭和60～63		大草町	430.50	島根県教委1988『土地総』
平成元	水垣・横枕	大草町	24.00	島根県教委1991「調査概報」
平成５		大草町492-1ほか	75.00	松江市事業団1997『年報Ⅰ』
平成８		大草町625	16.00	松江市教委1996「概要」
平成９		大草町492-4ほか	32.00	松江市教委1996「概要」
平成９		大草町625	14.00	松江市教委1997「概要」
平成11	Ｔ１	大草町522-1	140.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ２	大草町522-1	156.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ３	大草町522-1	12.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ４	大草町522-1	12.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ５	大草町510-2	80.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ６		104.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ７	大草町510-2	104.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ８	大草町510-2	50.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ９	大草町510-2	24.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ10	大草町522-1	24.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ11		12.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ12		8.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ13		12.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ14		40.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成11	Ｔ15		60.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成12	大舎原１区	大草町522-1	140.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成12	大舎原２区	大草町522-1	153.50	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成12	Ｔ16		44.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成12	Ｔ17		24.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成12	Ｔ18		20.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	大舎原１区	大草町522-1	155.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	大舎原２区	大草町522-1	191.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	大舎原３区	大草町510-2	195.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	大舎原４区	大草町510-2	220.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ19	大草町573-1	12.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ20	大草町573-1	40.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ21		10.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ22		20.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ23		20.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ24		20.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成13	Ｔ25		10.00	島根県教委2003『出雲国府跡１』
平成14	Ｔ26	大草町573-1	32.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ27	大草町510-1	40.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ28	大草町510-1	25.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ29	大草町510-1	10.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ30	山代町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ31	山代町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成14	Ｔ32	山代町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成15	一貫尻１区	大草町573-1	800.00	島根県教委2005『出雲国府跡３』
平成15	一貫尻２区	大草町573-1	600.00	島根県教委2005『出雲国府跡３』
平成15	大舎原４区	大草町510-2	75.00	島根県教委2005『出雲国府跡３』
平成15	日岸田１区		140.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成15	日岸田２区		160.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成15	Ｔ33	大草町510-2	60.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成15	Ｔ34	大草町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成15	Ｔ35	山代町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成15	Ｔ36	山代町地内	20.00	島根県教委2004『出雲国府跡２』
平成16	大舎原４区・Ｔ37	大草町510-2	245.00	島根県教委2005『出雲国府跡３』
平成16	Ｔ38	大草町	20.00	島根県教委2005『出雲国府跡３』
平成16	日岸田	大草町477	800.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	日岸田	大草町477	1000.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ39	大草町512-1	10.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ40	大草町512-1	18.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ41	大草町477	18.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ42	大草町511-1	10.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ43	大草町511-2	10.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ44	大草町501-4	6.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成17	Ｔ45	大草町501-4	6.00	島根県教委2006『出雲国府跡４』
平成18	Ｔ46	大草町523-2	13.30	
平成18	Ｔ47	大草町501	9.80	
平成18	堂田・Ｔ48	大草町	400.00	島根県教委2008『出雲国府跡５』

第３章　堂田地区の発掘調査

第１節　調査の概要

（１）堂田地区の位置とこれまでの調査（第３図、第１・２表）

堂田地区[1]は、史跡公園北東側の水田中に位置する。調査対象地は、平成14年度に島根県が国庫補助事業で土地を買い上げた旧水田である。調査前の標高は7.8mである。市道を隔てて西側が大舎原地区、水路をはさんで東側と南側が日岸田地区となる。これまでの調査で、大舎原地区では「国司館」が検出され、日岸田地区は工房域と確認されている。

過去の分布調査では、地区内の東側で遺物が採集されている（島根県1998、同2003ａ）。発掘調査は、これまでに４箇所で範囲確認調査を行っている。平成11年度に調査した第６トレンチでは、平安時代後半の２号溝を検出するとともに、大量の貿易陶磁器が出土した。平成17年度には、この２号溝の延長を確認するために、第42・43トレンチを設定したが、溝の延長は確認できなかった。第40トレンチは日岸田地区の西約13mの位置に設定した。日岸田地区を東西に走る62号溝の延長を確認することを目的としたが、これも果たせなかった。

今回の調査は、これまでの範囲確認調査で確認できなかった、２号溝、62号溝の延長部分を確認するとともに、大舎原地区と日岸田地区との間の施設配置をあきらかにすることを目的とした。

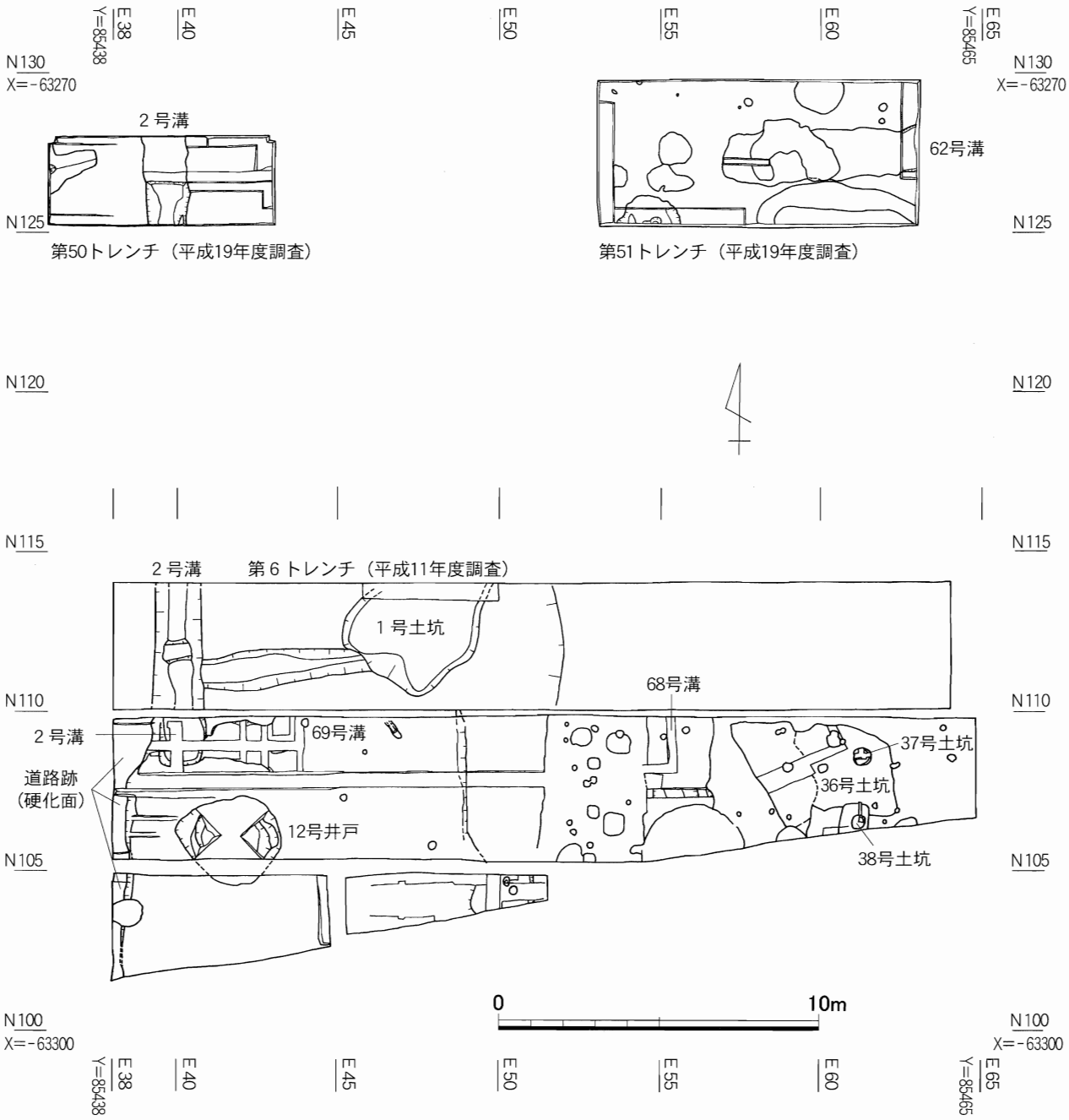
（２）調査区の設定（第４・５図）

調査区は畦をはさんで東西２枚の水田に鍵の手に設定した。東側の水田は、第40トレンチ（平成17年度調査）の西、西側は第６トレンチ（平成11年度調査）の南に設定した。それぞれ東調査区、西調査区と呼ぶ。東調査区は第40トレンチと重複させている。西調査区は第６トレンチの一部を再発掘している。東調査区のさらに東に第48トレンチを追加で設定している。

調査区内は、国土地理院第Ⅲ座標系（日本測地系）の南北軸座標Ｘ＝－63400mと、東西軸座標Ｙ＝85400mの交点を原点とする区割りに準拠している。原点から西にW、東にＥ、北にN、南にＳをふり、北西交点をグリッド名とし、Ｎ○Ｅ○と呼称する。

（３）調査区の層序（第７図）

東から西にみていく。第48トレンチから東調査区は厚さ15㎝ほどの水田耕作土、厚さ５㎝ほどの水田床土の下、標高7.6m前後で黄褐色土の遺構面に達する。この遺構面は西調査区の東半Ｅ52ラインあたりまでつづく。遺構面は、ここから西側は整地土上面（第６層）へつづき、ふたたびＥ49ラインあたりで一段低くなる。西調査区西端では盛り土（第９～11層）をした道路遺構がある。その東側を側溝と考えられる２号溝が南北に走る。Ｅ52ラインから道路遺構東までの窪地に黒色土（第７層）がみられる。黒色土には平安時代後半の貿易陶磁器や土師器が大量に混ざっている。２号溝、12号井戸の上層も同じである。黒色土は窪地部分を埋め立てたものと思われる。黒色土下は薄く粘質土が堆積し、その下層が細砂層か礫層になる。いずれの層にも遺物は含まれていない。黄褐色土の遺構面は、西調査区中央あたりで洪水による礫層に覆われる。第48トレンチや東調査区では礫層はみられない。東・西調査区とも古代の遺構は検出が困難であったため、遺構面を数㎝下げて検出している。



第４図　堂田地区西調査区遺構配置図（S＝1：200）

（４）概要

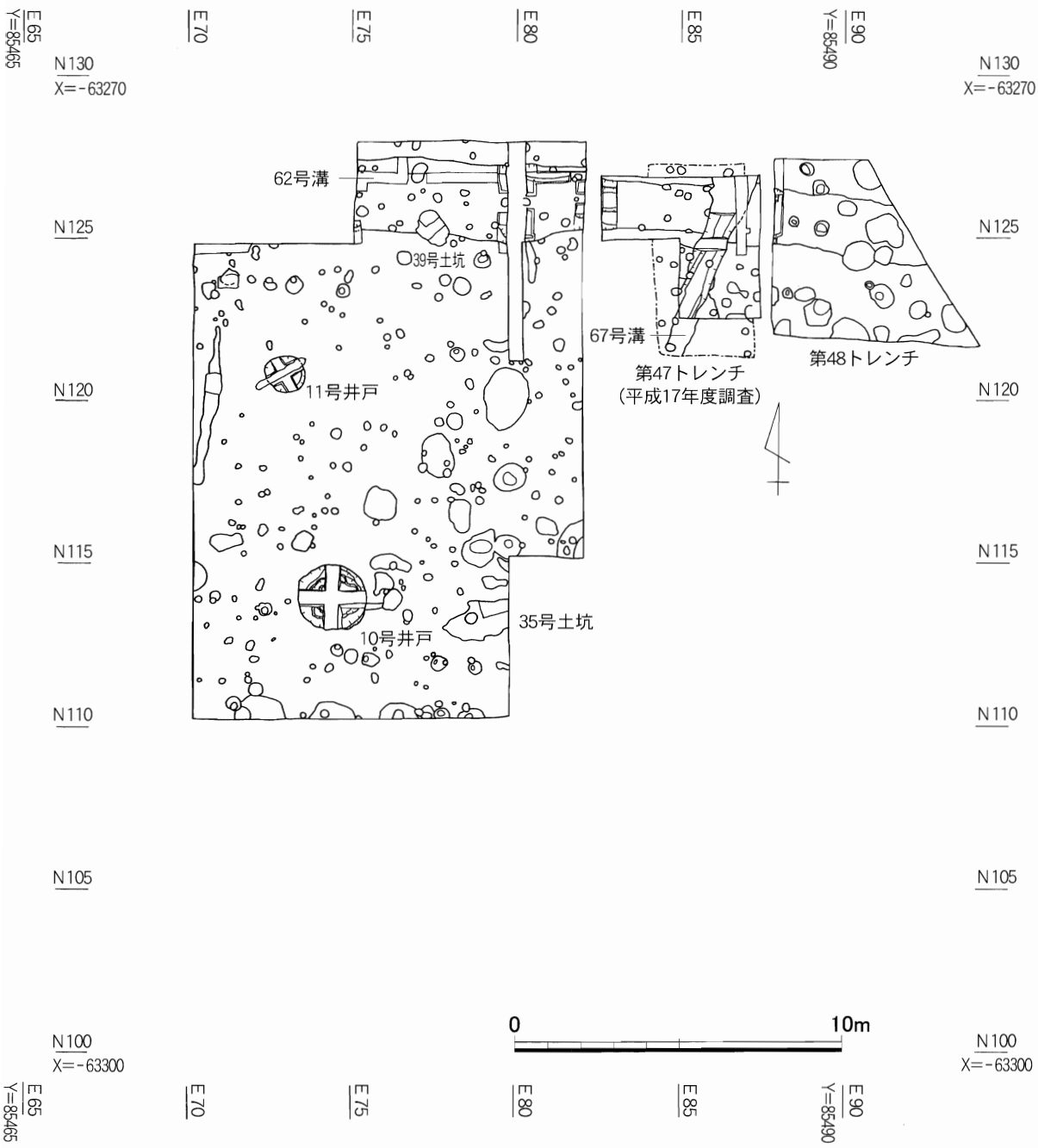
検出された遺構の時期は、以下のように大きく分かれる。

古墳時代中期　　35号土坑、36号土坑

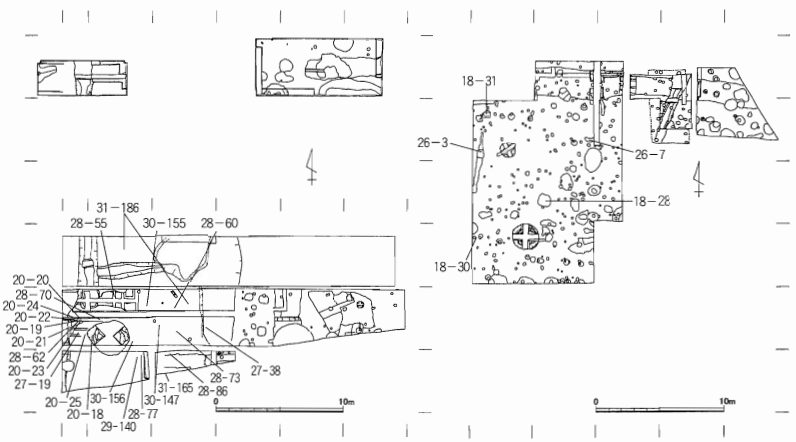
奈良時代～平安時代前半　　62号溝、67号溝、37号土坑、38号土坑

平安時代後半　　道路遺構、２号溝、69号溝、10号井戸、11号井戸、12号井戸、39号土坑

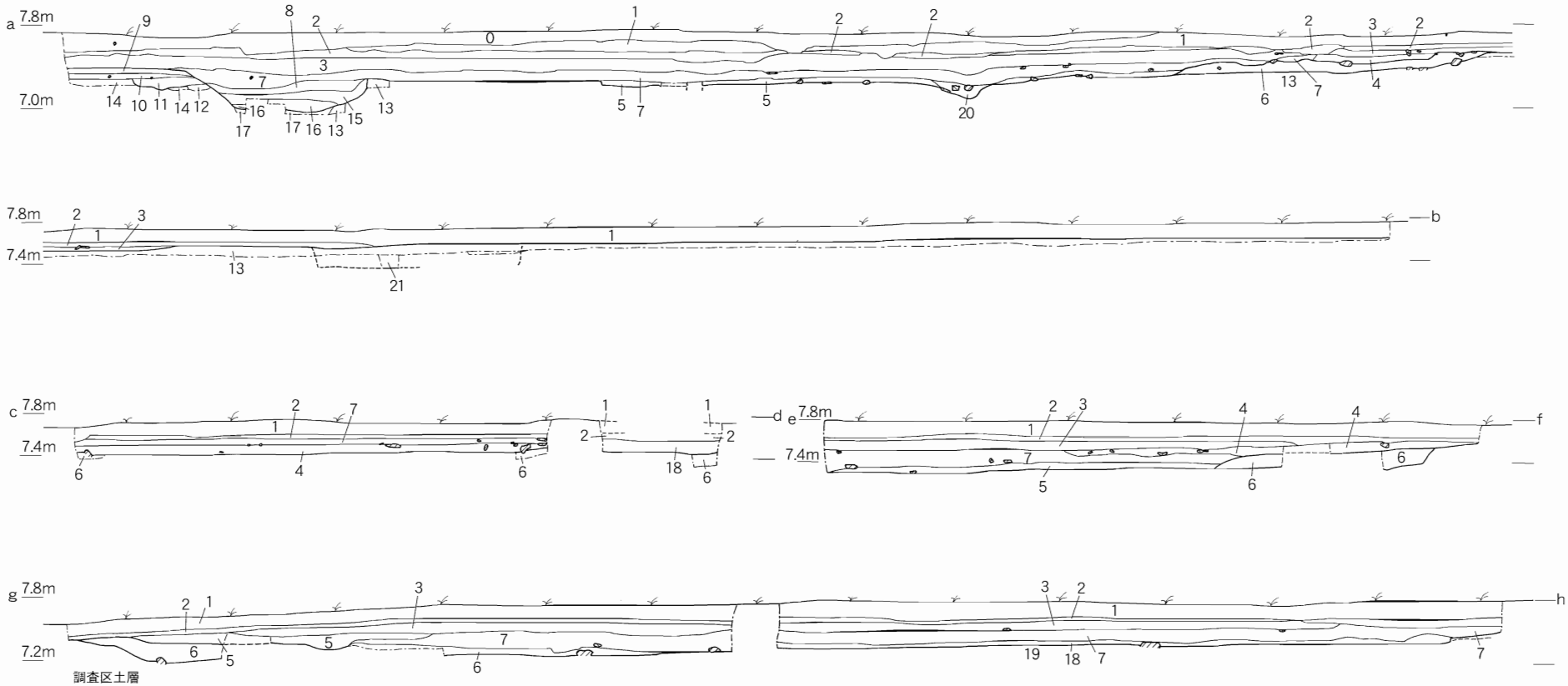
また建物は復元できないが、柱穴が多数検出されている。奈良時代～平安時代前半の柱穴は、第48トレンチで確認された。また中世と考えられる径20～30㎝ほどの小柱穴が100あまり検出されている。



第５図　堂田地区東調査区遺構配置図（S＝1：200）



第６図　堂田地区遺物出土地点（S＝1：600）



調査区土層

0　埋め戻しの真砂土
1　耕作土
2　黄色土
3　暗灰茶色土
4　礫層（握り拳大～人頭大の礫）
5　暗灰色粘質土
6　灰褐色土
7　黒色土（礫混ざる）
8　暗灰色粘質土
9　灰褐色土（黄色土が混ざる。硬くしまる）
10　9より淡く黄色土を多く含む
11　灰褐色～茶褐色土
12　茶褐色土（指頭大～握り拳大の礫と粉炭が混ざる）
13　明褐色細砂
14　灰色細砂
15　黄褐色細砂に灰色粘質土が混ざる
16　明褐色細砂～青灰色細砂
17　青灰色粘質土
18　暗灰色粘質土が礫の間に混ざる
19　礫～粗砂
20　黒色土

第７図　堂田地区土層断面図（S＝1：60）

第２節　調査の結果

（１）古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、35号土坑、36号土坑を検出した。

35号土坑（第８図、第９図）

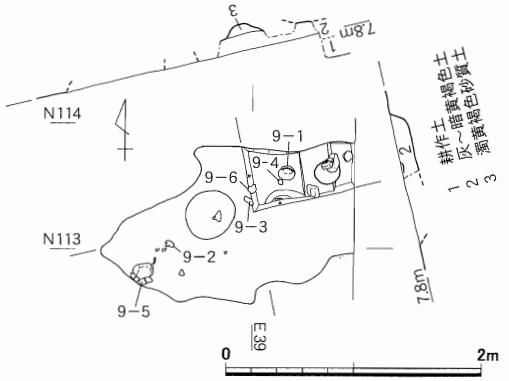
東調査区南東隅に位置し、調査区外東側にもひろがる。平面は東西に細長い、いびつな形状をしている。規模は、東西2.08m、南北0.91m、深さ20cmである。上面の精査で古墳時代中期の土器（９－１・２・５）が出土したため、内部調査は約１/４にとどめた。

９－１は坏である。土坑上面から天地正位置で出土した。丸みのある体部で内面にユビオサエがみられる。２は小型丸底壺で、口縁部を西に向け横倒しになって出土した。３と４は甕である。３は口縁部が内湾し、４はくの字に屈曲する。５と６は高坏である。５の坏部は天地正位で押しつぶされた状態で出土した。口縁部は外反し坏部外面に稜をもつ。

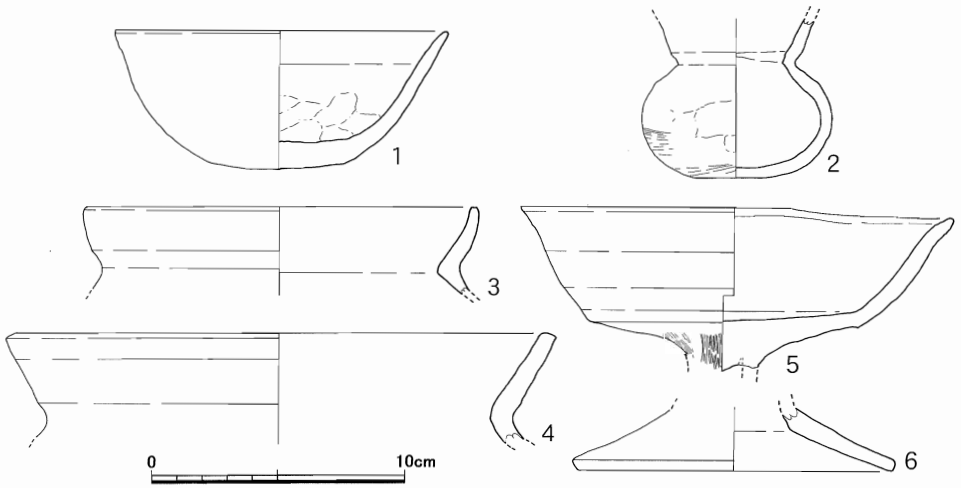
36号土坑（第10図、第11図）

西調査区なかほどに位置する。37号・38号土坑と重複している。埋土、基盤層とも同質のため区別しづらく、検出に難渋し、遺構検出面を５～10cmほど下げている。掘り形は西辺を除き不鮮明である。東西約４m、南北3.9mのいびつな台形をしている。西辺沿いで埋土が異なっており(図の点線部から西)、二つの遺構が重複している可能性もある。断ち割りにより、古墳時代中期と考えられる土師器高坏が出土している。

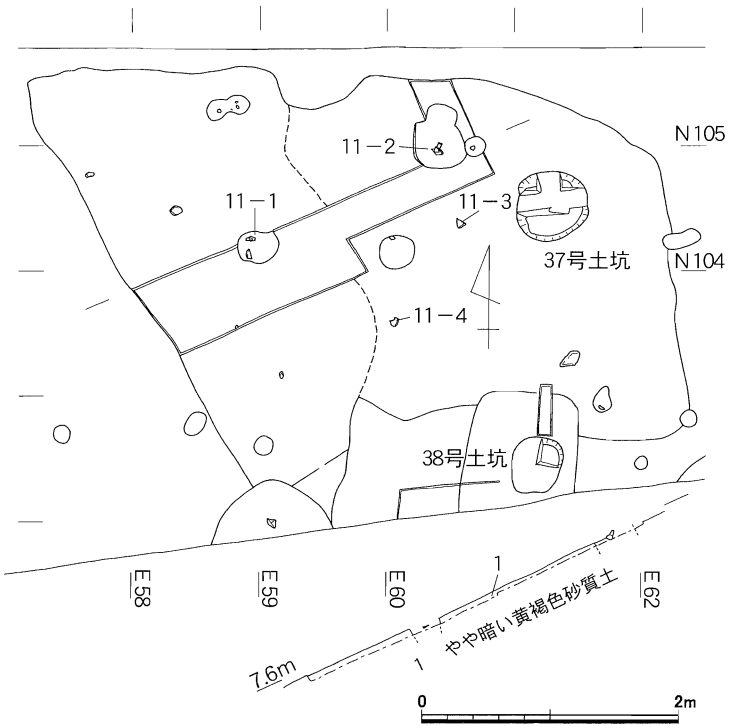
11－１～４とも高坏である。１は脚部で坏部の粘土充填が剥離している。２も土師器の高坏と思われるが、手づくねで歪なつくりである。坏部は皿状をしている。



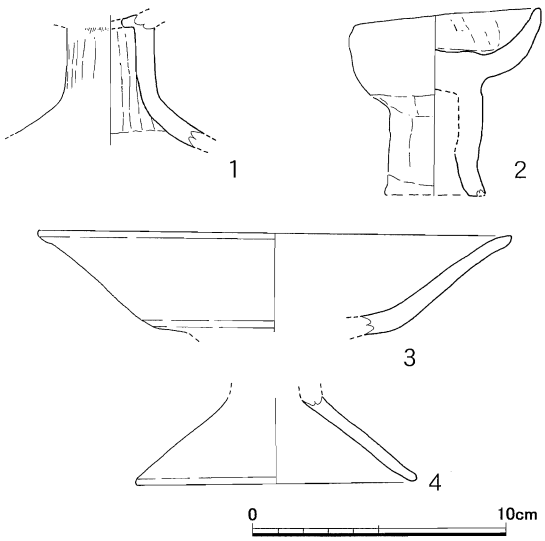
第８図　堂田地区35号土坑実測図（S＝1：60）



第９図　堂田地区35号土坑出土遺物実測図



第10図　堂田地区36号土坑実測図（S＝1：60）



第11図　堂田地区36号土坑出土遺物実測図

（2）奈良時代～平安時代前半の遺構

62号溝、67号溝の2条を検出した。第48トレンチでは、建物は復元できなかったものの、大型の柱穴も確認されている。第37・38号土坑も出土遺物から当該期の遺構と考えた。また68号溝は時期を決定できる遺物がないが、この時期の可能性がある。

62号溝（第12図～第14図）

（検出過程）東調査区内で、精査を重ねたが、検出できなかった。このため、62号溝が東調査区と第47トレンチの東で、北か南に屈曲する可能性が考えられた。そこであらたに第48トレンチを設定した。その結果、このトレンチで62号溝の延長と、溝に重複する古代の柱穴群を確認できた。あらためて、第47トレンチの再発掘部分を精査したところ、67号溝によって切られた62号溝を確

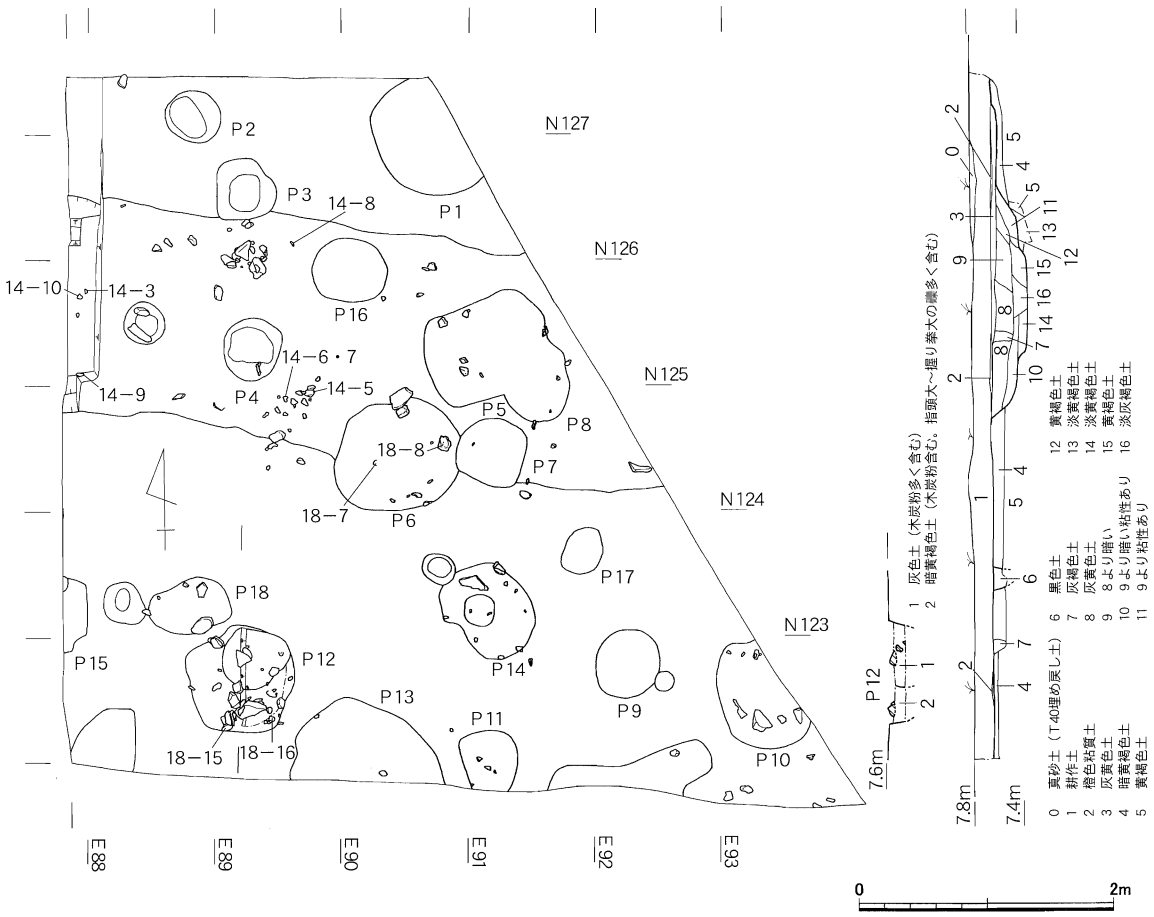
認することができた。東調査区もＮ125ラインから北へ３m拡張し、東西に走る62号溝を17.4mの長さで確認した。

（規模と構造）調査区北端を東西に走る。検出長は17.4m、幅1.52～2.46m、深さ25～32㎝である。断面は皿状だが、第48トレンチ西壁とｅ－ｆラインでは、二段掘りとなる。底面の標高は、内部調査したもっとも東側（第48トレンチ西壁）で7.34m、西側（ａ－ｂライン）で7.4mである。日岸田地区にくらべて20～70㎝高い。

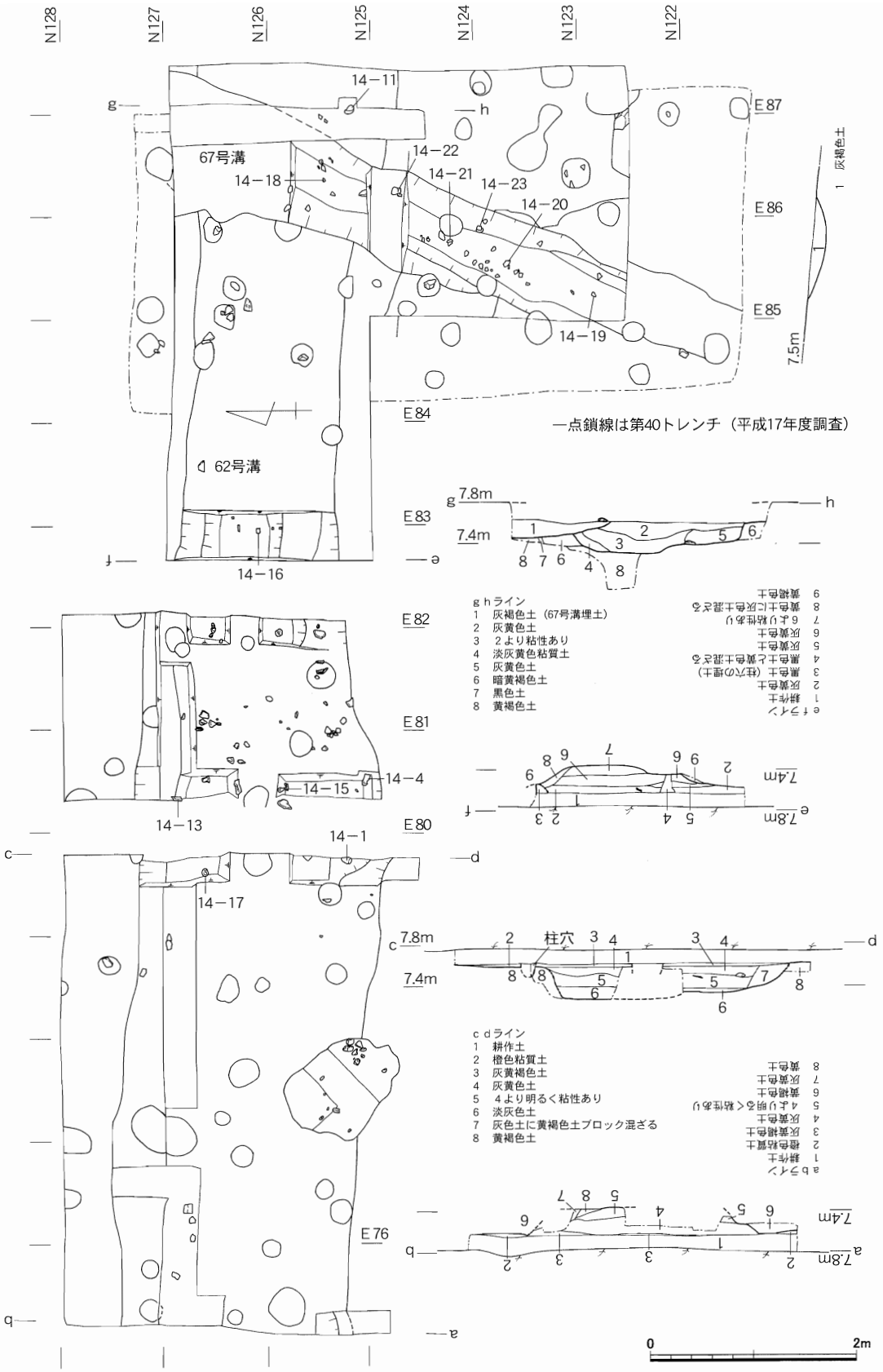
（土層堆積状況）埋土は灰黄色土が主体で、下位はやや粘性がある。日岸田地区でみられたような、人為的な埋め立てや、水深が浅く涸れた状態は確認できなかった

（遺物出土状況）溝の上面では、日岸田地区でみられたような遺物がまとまって出土する地点はない。内部調査は、柱穴と重複する部分を残し調査区壁際にサブトレンチを設けて調査したため、遺物は微量しかない。須恵器坏や赤色塗彩の土師器などの供膳具のほか、羽口がみられる。

14－１は弥生土器の底部で全体に風化摩滅している。２は土師器甕で口縁は「く」の字に外反する。３と４は土師器皿で、３は内外面、４は外面に赤色顔料が残る。５～８は須恵器坏蓋、９～11は坏身である。12は高坏の脚部と思われる。脚端部は面をもつ。13は甕の頸部から体部。外面は平行叩きで内面に同心円の当て具痕がのこる。14は壺の胴部。15は圏脚円面硯で接合できない破片２点からなる。脚部の径は23.8㎝で幅５～７㎜の細いスカシがはいる。16と17は羽口先端部の破片で同一個体の可能性がある。孔の内径は3.4～3.6㎝で先端はガラス質に溶融している。



第12図　堂田地区62号溝実測図（S＝1：60）

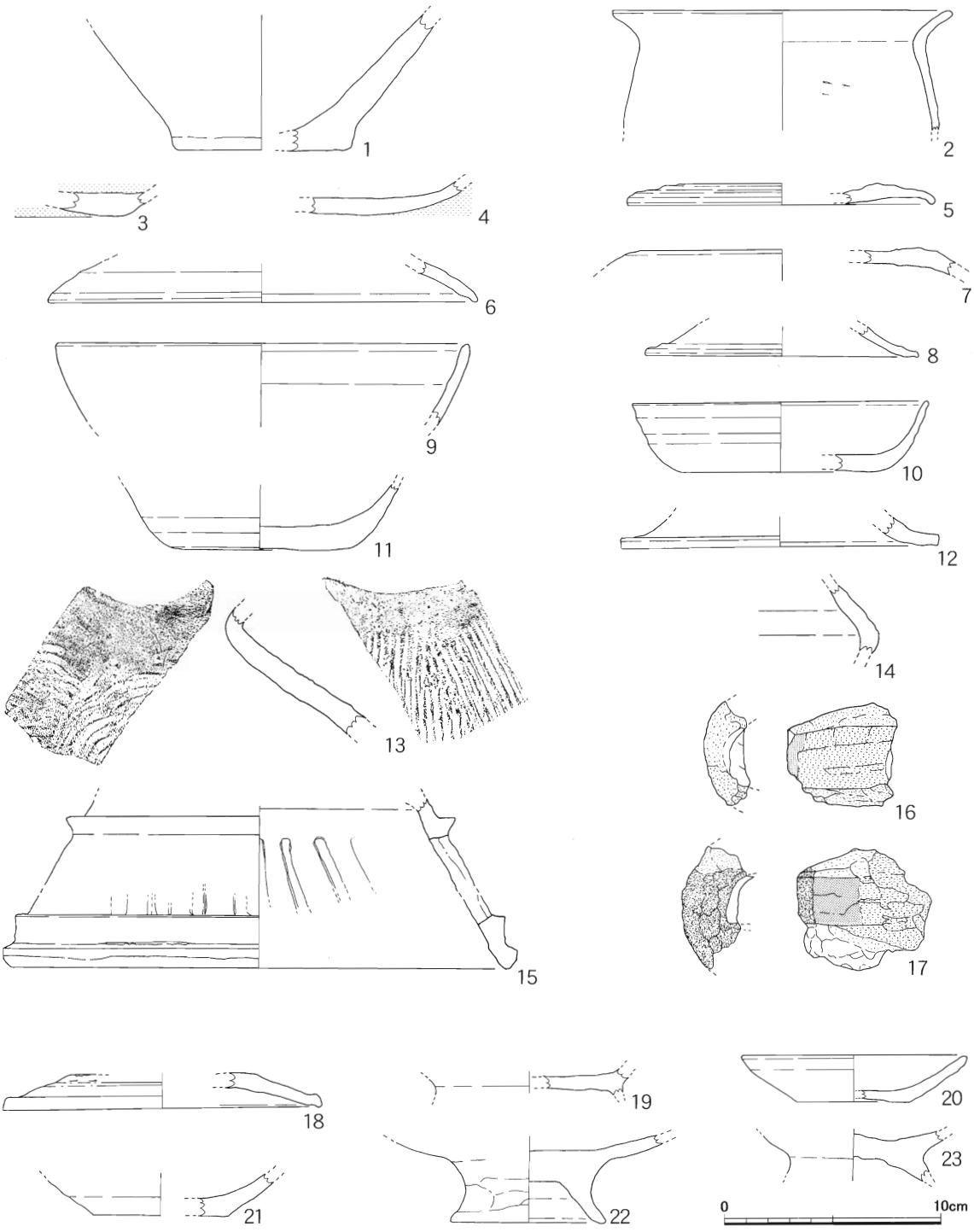


第13図　堂田地区62号溝・67号溝実測図（S＝1：60）

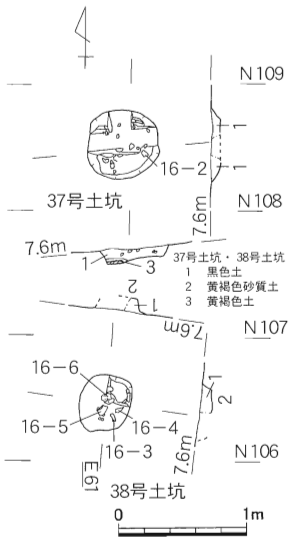
67号溝（第13図、第14図）

62号溝と切り合い関係にあり62号溝よりも新しい。調査区を北東から南西に斜めに走る。幅は0.8～1.4mで南側にいくにしたがい狭くなる。深さは10cm前後で断面は浅い皿状をしている。埋土は灰褐色土である。底面には小礫がひろがり、調査区南端ちかくでは、鉄分が付着した、硬くしまった部分がみられる。遺物は須恵器、土師器、瓦などである。土師器は高台付きの坏と、無高台のものがある。

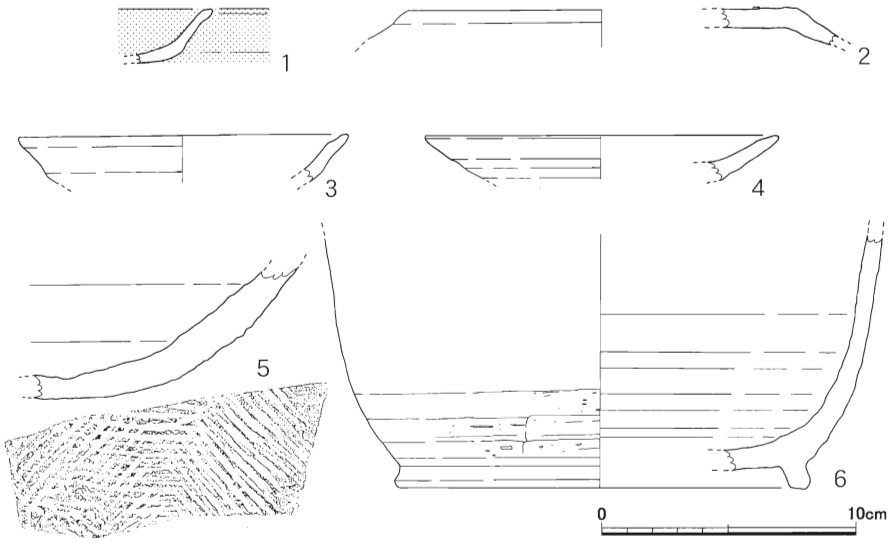
14－18は須恵器坏蓋で擬宝珠状つまみが付くものである。19は須恵器坏で高台をもつ。20は土師器皿で直線的に開く。21～23は土師器坏で、22と23はハ字に開く高台をもつ。



第14図　堂田地区62号溝・67号溝出土遺物実測図



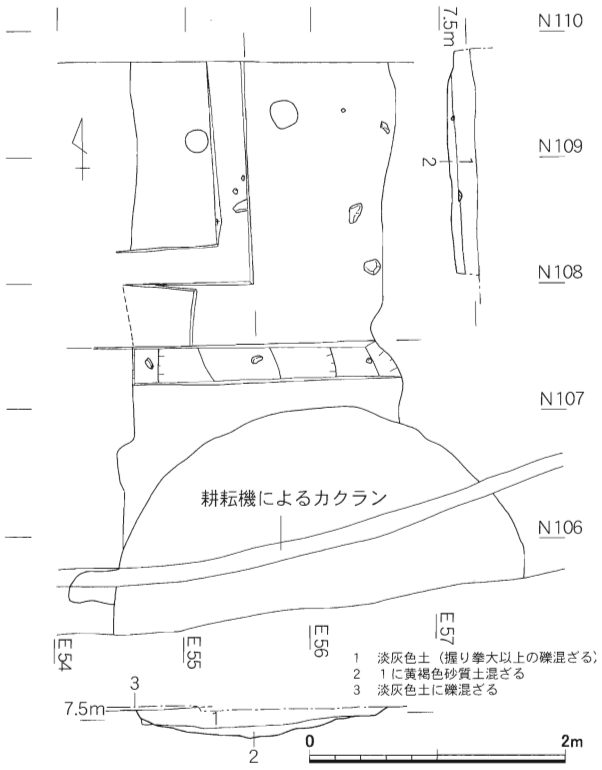
第15図　堂田地区37号土坑・38号土坑実測図（S＝1：60）



第16図　堂田地区37号土坑・38号土坑出土遺物実測図

37号土坑・第38号土坑（第15図、第16図）

いずれも小型の浅い土坑である。両者は2.13m離れている。37号土坑は南北42cm、東西39cm、深さ10cmあまりである。38号土坑は、南北53cm、東西54cm、深さ10cm前後である。どちらの埋土も黒色土で、焼土塊、木炭粉が多く混ざっている。内部は熱を受けた痕跡はない。16－1と2は37号土坑から出土した。1は土師器皿で内外面とも赤色顔料が塗布されている。2は須恵器で坏蓋と思われる。3～6は38号土坑から出土した。3と4は須恵器皿である。5は壺か甕と思われる。6は高台が付く壺で、外面下位には回転ヘラケズリがみられる。



第17図　堂田地区68号溝実測図（S＝1：60）

68号溝（第17図）

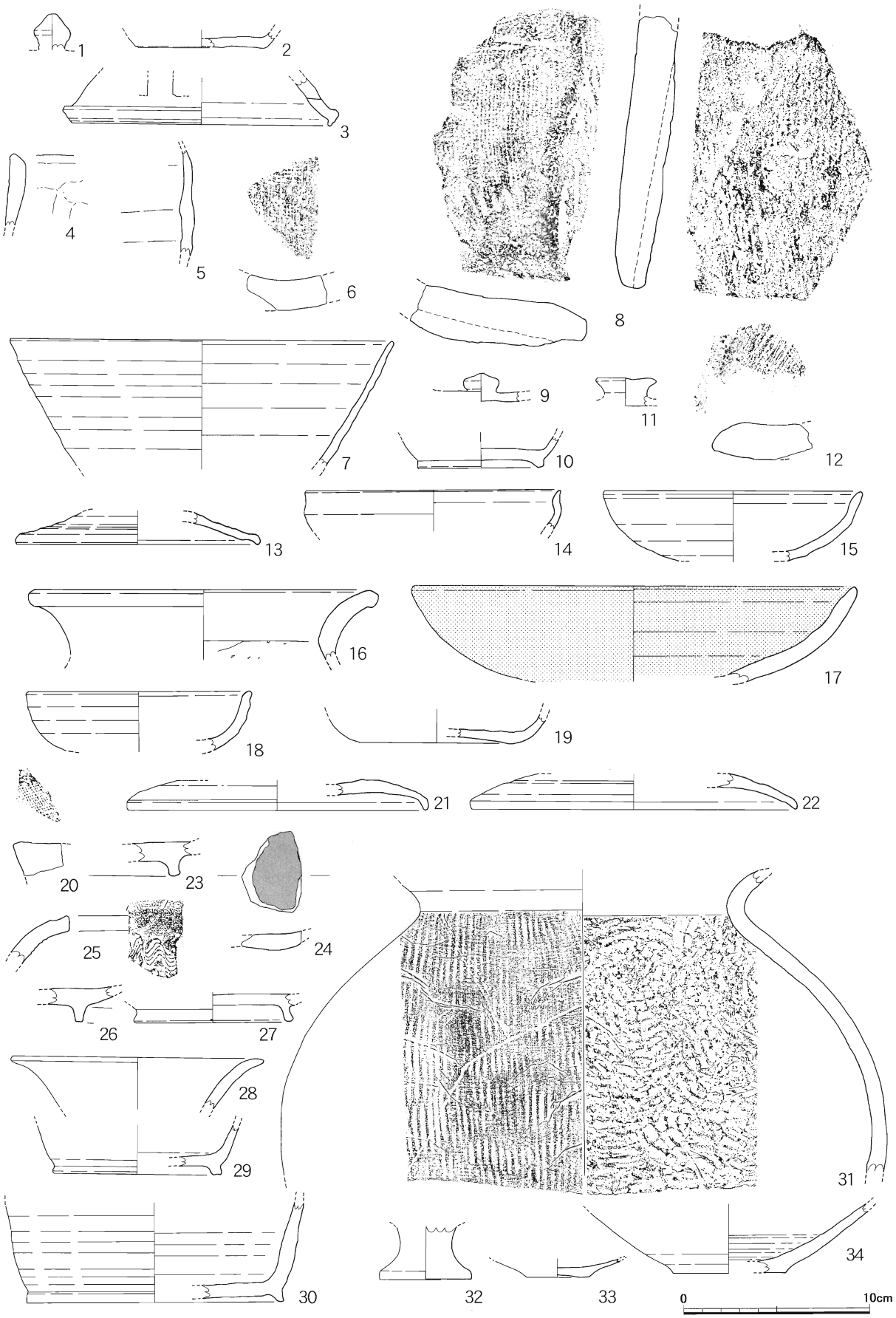
南北方向に走り南で大型土坑と重複する。平安時代後半の礫層下で検出した。幅1.95m、深さ20cm。底面の標高は7.32m。わずかに北側にむけて高くなる。時期のわかる遺物は出土していない。

柱穴（第12図、第6図、第18図）

建物を復元できていないため、ほとんどの柱穴は内部調査をおこなっていない。第18図は精査の際に出土した遺物である。P○は調査時の柱穴番号である。

18－1～20は第48トレンチ、21～34は東調査区から出土した。

1～8はP6から出土した。1は須恵器坏蓋の擬宝珠状つまみ、2は無高台の須恵器坏身である。



第18図　堂田地区柱穴出土遺物実測図

3は器種不明の須恵器である。脚部にスカシがはいり、端部は上下に拡張する。4と5は製塩土器である。6は丸瓦で焼成は軟質である。凸面はナデで仕上げている。7は口径20.4cmの大型の須恵器坏身である。体部は直線的に開く。

8はP8から出土した平瓦である。土師質で凸面に縄目叩き、離れ砂がみられる。9はP4から出土した。須恵器坏蓋で擬宝珠状つまみをもつ。10はP16から出土した須恵器坏身で高台がつく。11はP10から出土した。11は須恵器坏蓋で、ボタン状のつまみが付く。12はP1から出土した。丸瓦で軟質である。13と14はP13から出土した。13は須恵器坏蓋で擬宝珠状つまみが付く。14は須恵器坏身で口縁部がわずかに屈曲する。15と16はP12から出土した。15は須恵器坏身で丸みのある体部をもつ。16は土師器甕で口縁部は玉縁状に肥厚する。17～20はP18から出土した。17は土師器坏で内外面に赤色顔料を塗布している。18と19は無高台の須恵器坏身である。18の口縁端部は「く」の字に短く屈曲する。20は平瓦で焼成は軟質である。

21は東調査区南端のP73から、22～24はP72から出土した。21と22は須恵器坏蓋。23は須恵器坏身で高台をもつ。24は土師器坏で外面に赤色顔料が塗布される。漆のパレットとして使用されたようで、内面に漆が付着している。25はP43から出土した須恵器の甕で、波状文を施す。26はP3から出土した高台付きの須恵器坏身である。27はP49から出土した須恵器坏身で高台をもつ。28はP67から出土した。長頸壺の口縁部と思われる。29はP5から出土した須恵器坏身で高台をもつ。30はP89から出土した。須恵器坏身で高台が底部の縁につく。31はP87から出土した須恵器甕の頸部から胴部である。外面に平行叩き、内面に当て具痕をのこす。32はP47から出土した土師器で柱状高台をもつ。33はP28から出土した土師器皿である。34はP12から出土した土師器坏で外に大きく開く体部をもつ。

（3）平安時代後半の遺構

道路遺構、100余りの柱穴、井戸3基（10～12号井戸）、土坑1基（39号土坑）を検出した。第6トレンチの再調査の結果、道路遺構は第6トレンチまで続いていることが分かった。

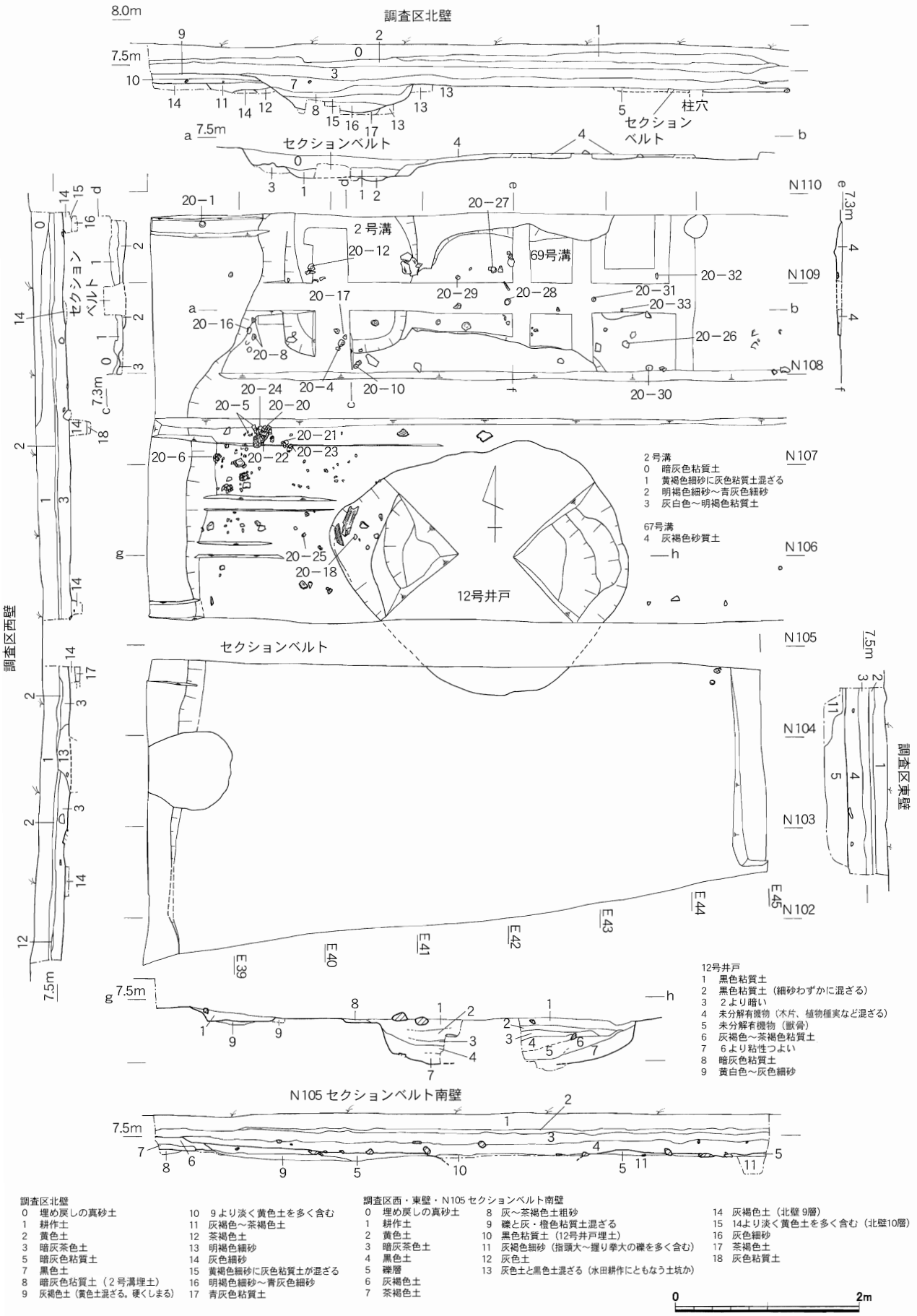
道路遺構（第19図、第20図）

道路遺構は現在の市道に平行して南北方向に走る。この市道は、推定十字街から国府への進入路に想定されている。側溝と考えられる2号溝とその西に平行して路面が検出された。

（路面）2号溝の西を南北方向に平行して路面が確認できる。検出した長さは8mである。路面は2号溝の南端までは、溝の西肩から調査区西壁までのこり、もっとも広いところでは幅1.2mになる。N108ラインの北80cm（a－bライン）から南は、東端がえぐれるように弧を描いて西にふれる。そしてN107ラインからはふたたび南に延びていき、幅は0.5m前後となる。N104～103ラインあたりで、水田耕作にともなうと考えられる土坑（86×90cm以上）により壊されている。

路面は盛り土により造られている。盛り土は、灰褐色土を主体に、1～2層が水平にみられ、いずれも硬くしまっている。全体の厚さは10～20cmである。路面の標高は7.4mで、2号溝底面から40cm高い。盛り土中からは土師器坏、皿、瓦などが出土している。道路遺構の東、12号井戸との間には投棄された状態で土師器坏がまとまって出土している。

第6トレンチでは盛り土および路面を検出していない。しかし2号溝の西側に厚さ10cm前後で水平堆積する第4層、第5層は「かなり硬質」と認識されていた（島根県2003b）。今回、再調査



2号溝
0 暗灰色粘質土
1 黄褐色細砂に灰色粘質土混ざる
2 明褐色細砂～青灰色細砂
3 灰白色～明褐色粘質土

67号溝
4 灰褐色砂質土

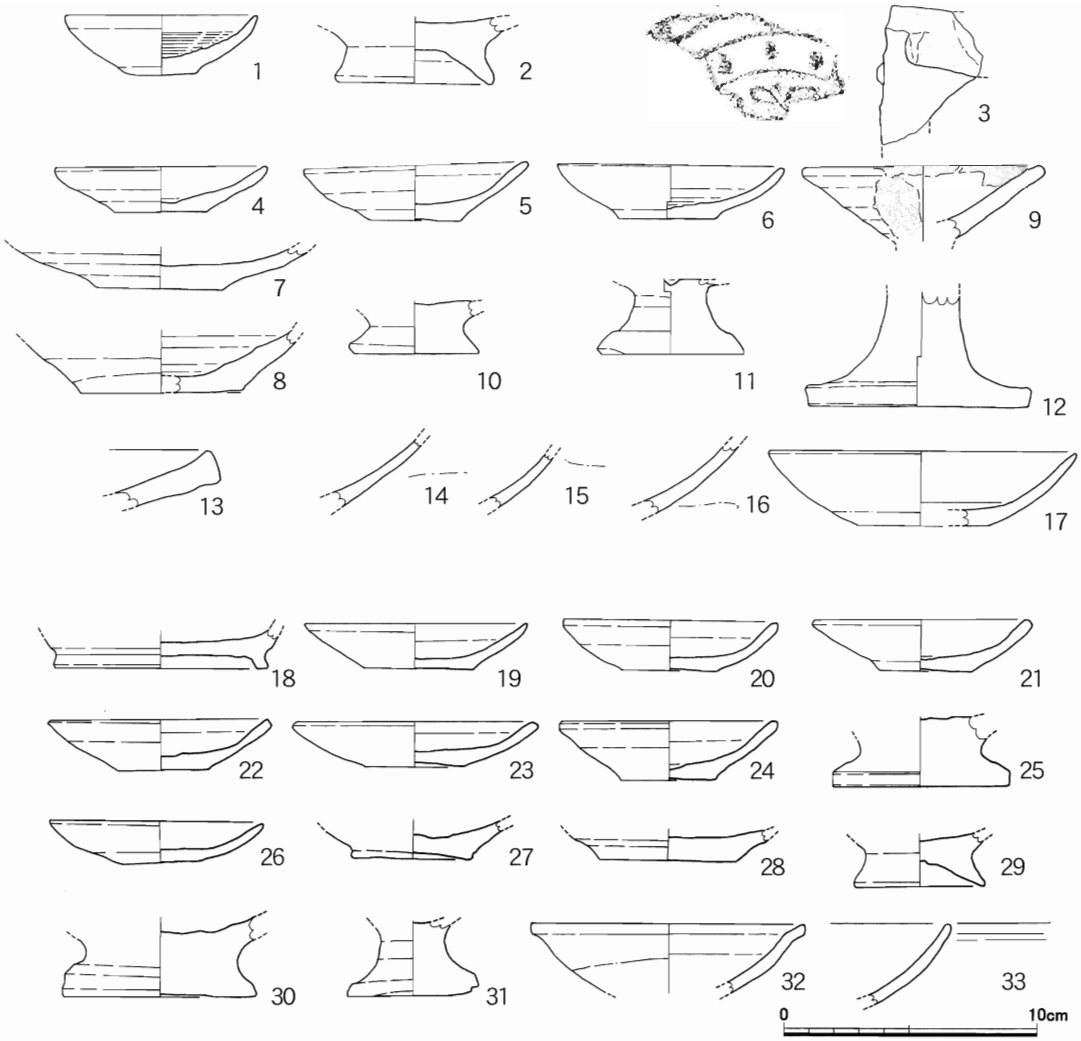
12号井戸
1 黒色粘質土
2 黒色粘質土（細砂わずかに混ざる）
3 2より暗い
4 未分解有機物（木片、植物種実など混ざる）
5 未分解有機物（獣骨）
6 灰褐色～茶褐色粘質土
7 6より粘性つよい
8 暗灰色粘質土
9 黄白色～灰色細砂

調査区北壁
0 埋め戻しの真砂土
1 耕作土
2 黄色土
3 暗灰茶色土
5 暗灰色粘質土
7 黒色土
8 暗灰色粘質土（2号溝埋土）
9 灰褐色土（黄色土混ざる，硬くしまる）
10 9より淡く黄色土を多く含む
11 灰褐色～茶褐色土
12 茶褐色土
13 明褐色細砂
14 灰色細砂
15 黄褐色細砂に灰色粘質土が混ざる
16 明褐色細砂～青灰色細砂
17 青灰色粘質土

調査区西・東壁・N105 セクションベルト南壁
0 埋め戻しの真砂土
1 耕作土
2 黄色土
3 暗灰茶色土
4 黒色土
5 礫層
6 灰褐色土
7 茶褐色土
8 灰～茶褐色土粗砂
9 礫と灰・橙色粘質土混ざる
10 黒色粘質土（12号井戸埋土）
11 灰褐色細砂（指頭大～握り拳大の礫を多く含む）
12 灰色土
13 灰色土と黒色土混ざる（水田耕作にともなう土坑か）
14 灰褐色土（北壁9層）
15 14より淡く黄色土を多く含む（北壁10層）
16 灰色細砂
17 茶褐色土
18 灰色粘質土

0 2m

第19図　堂田地区道路遺構・２号溝・69号溝実測図（S＝1：60）



第20図　堂田地区道路遺構・２号溝・69号溝出土遺物実測図

した結果、堂田西調査区で確認された盛り土と一連のものであると判断した。

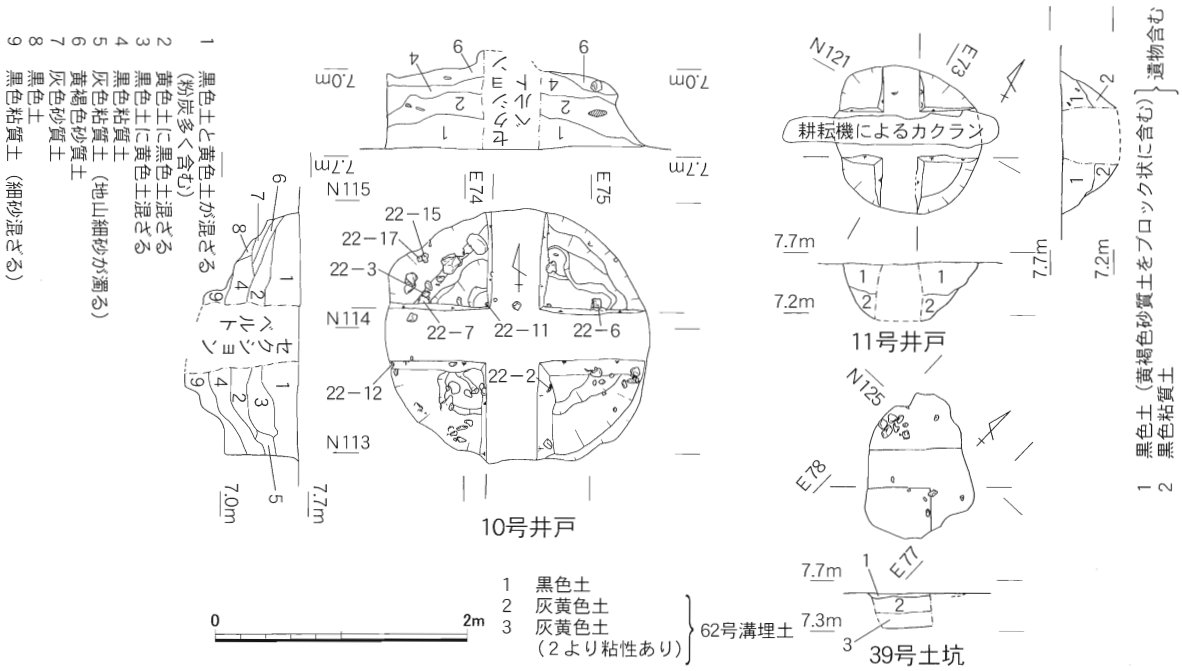
（側溝）盛り土の東側を平行して南北方向に走る。溝は12号井戸の手前1.5m、Ｎ108ライン北20㎝のあたりでとまっている。検出長1.8m、幅1.7mである。検出面からの深さは40㎝で、底面の標高は7.0mとなる。断面は皿状をしている。埋土は３層で、上層が粘質土（北壁８層）、中層が細砂混じりの粘質土（同15層）、下層が細砂（同16層）となる。

20－１と２は道路遺構の盛り土内から出土した土師器皿、坏である。１は完形品で体部は丸みをもつ。２はハの字に開く高台をもつ。３～25は２号溝とその周辺から出土した。３は軒丸瓦である。４～６、19～24は土師器皿。口径8.4～9.1㎝、器高1.8～2.4㎝である。18は須恵器坏で外に踏ん張る高台をもつ。７と８は坏。９～12、25は高台をもつ土師器皿か坏である。７は坏部で内外面に煤（油煙）が付着している。12は長い柱状部をもつ。13は東播系須恵器の鉢。(2) 14～16は白磁碗、17は白磁皿Ⅵ類である。

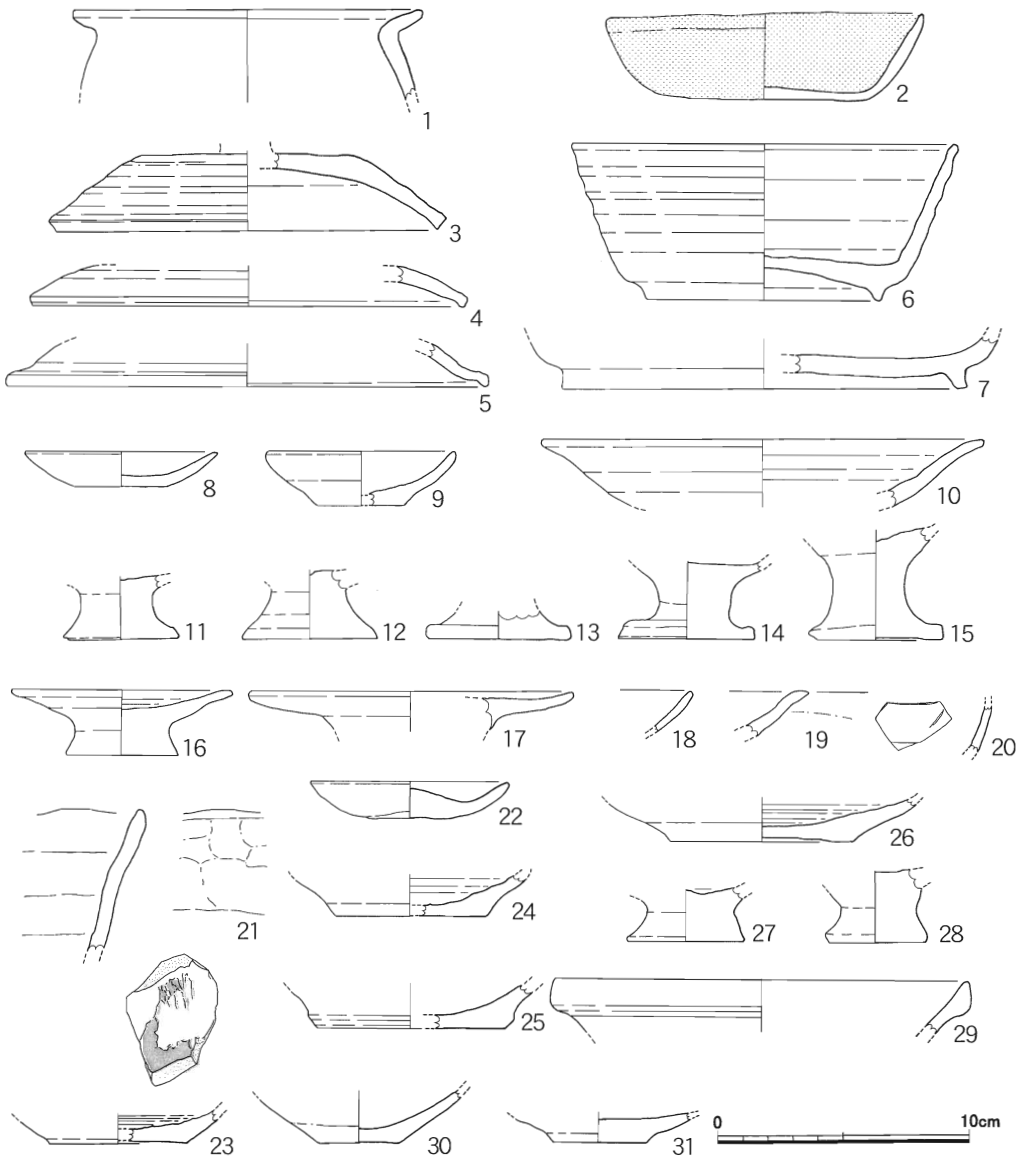
69号溝（第19図、第20図）

２号溝の南端に東から接続する。幅1.0～1.2m、長さ2.1mである。東端はラッパ状にひろがっている。深さ５㎝前後と浅い。埋土は灰褐色砂質土である。

20－26～29は土師器皿か坏。29はハの開く高台をもつ。30と31は柱状高台をもつ。32と33は



第21図　堂田地区10号井戸・11号井戸・39号土坑実測図（S＝1：60）



第22図　堂田地区10号井戸・11号井戸・39号土坑出土遺物実測図

白磁で、32が皿Ⅱ類、33は碗Ⅱ類である。

10号井戸（第21図、第22図）

35号土坑西2.5mに位置する。底面の中央が一段深くなっている。規模は2.0×2.1mである。検出面からの深さは60cmで標高6.7mである。埋土は、黒色土に黄色土がブロック状に混ざっており、人為的に埋め戻されたと思われる。遺物はおもに土師器の柱状高台付きの坏や皿である。

22－１は弥生土器甕の口縁部である。内面に黒斑がみられる。２は土師器坏である。器面は風化摩滅しているがわずかに赤色顔料がみられる。３～５は須恵器坏蓋である。いずれも擬宝珠状つまみが付くものと思われる。６は高台が付く須恵器坏身である。焼成時のゆがみがある。７は須恵器皿で高台が付く。８と９は土師器皿、10は坏である。11～17は柱状高台付きの皿ないし坏である。13～15は脚端部に面をもつ。16と17は皿である。18～20は白磁である。18は皿で福建省系、19は皿Ⅳ類である。20は内面に白堆線がはいる。21は製塩土器である。

11号井戸（第21図、第22図）

10号井戸の北5.2mに位置する。上面には耕耘機が通った跡がのこっている。規模は1.1m×1.15mである。検出面からの深さは45cmで、底面の標高は7.14mである。埋土は２層とも黒色土で、下層は粘性がある。土師器、白磁などが出土している。小型の井戸の可能性がある。

22－22・23は土師器皿、24～26は坏である。27、28は柱状高台付きの皿ないし坏である。23は内面に油煙が付着しており、灯明皿と考えられる。29と30は白磁で、29は碗Ⅱ類、30は碗Ⅳ類である。

39号土坑（第21図、第22図）

62号溝の南肩に重複する。規模は90cm×66cmの楕円形をしている。深さは検出面から４cmと浅い。埋土は黒色土で、土師器坏の底部（22－31）が出土している。

12号井戸（第23～25図）

２号溝南端から南東1.5mに位置する。平面はいびつな円形をしている。2.7m×2.8mの大型の井戸である。検出面からの深さは60cmで、底面の標高は6.8mとなる。埋土は、大きく上層（１～３層）、中層（４・５層）、下層（６・７層）に分かれる。上層は黒色土で、２号溝や周辺の窪地に堆積したものと同質である。中層は木製品、植物種実などからなる未分解有機物層である。モモ、ヤマモモ、ウメ、オニグルミなどの種実が検出されている。また、イノシシ（下顎骨１点、上顎後臼歯左２点、同右１点）、シカ（臼歯１点、中足骨左１点）も出土している。イノシシは雌で全臼歯列長は110mmである(3)。頭蓋骨と考えられる部位はほとんど失われていたが、下顎骨の出土状況から、頭蓋骨と下顎骨は、前位を北に向け、横倒しになっていたと考えられる。これら食物残滓は井戸として使わなくなったのちに廃棄されたものと考えられる。また、花粉分析の結果、この井戸の近くにヤナギが植わっていたこともわかった。

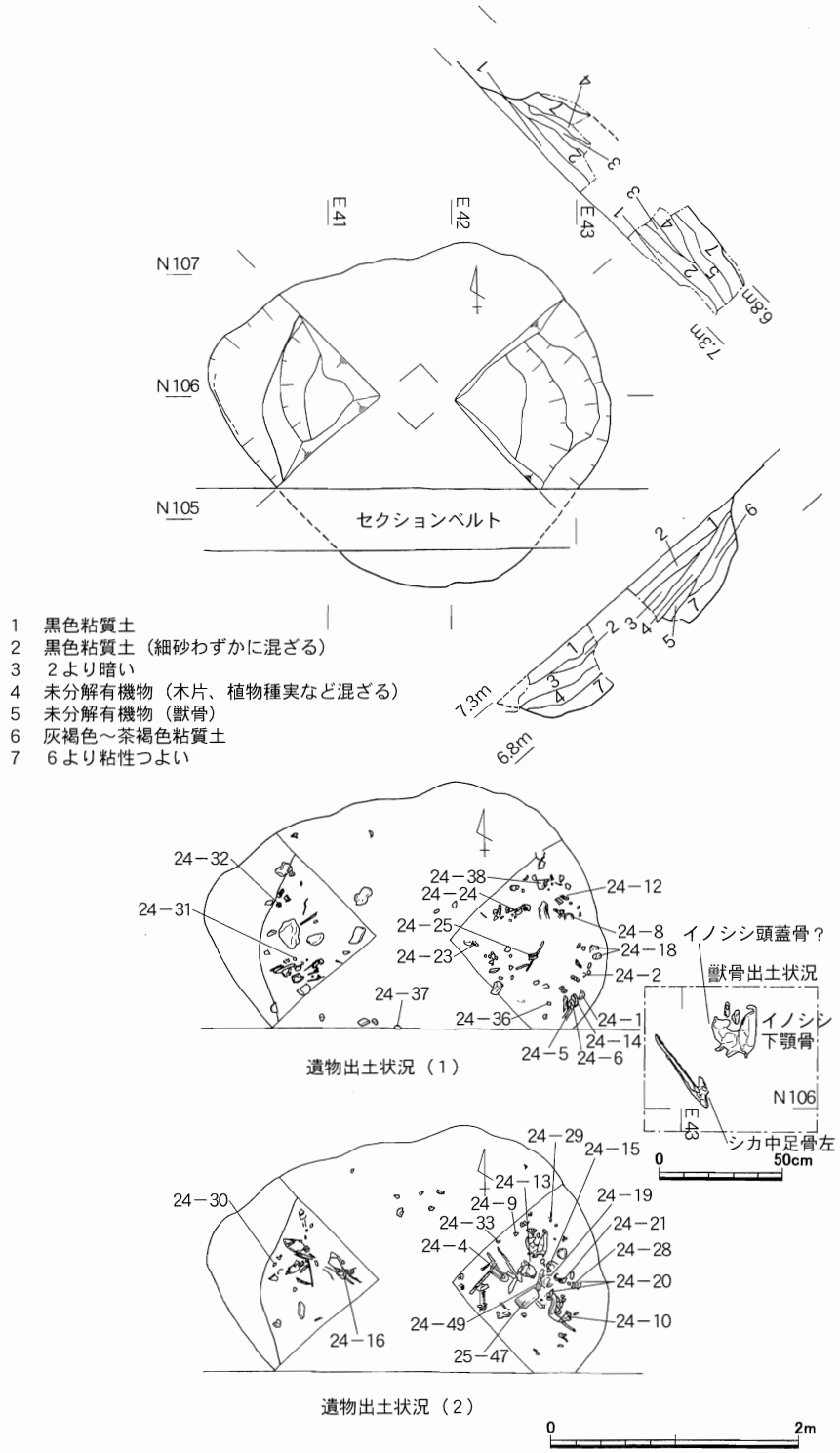
土器は黒色土、未分解有機物層を中心に出土している。24－７の皿、17と22の皿は底面直上から出土している。

24－１～12は土師器皿である。口径8.8～9.3cm、器高1.9～2.5cmの大きさである。13～21は土師器坏である。口径13.0～15.1cm、器高3.4～4.8cmで体部は直線的に開く。17は厚手の底部である。22～33は高台をもつ皿ないし坏である。22と23はハの字に開く高台をもつ。25は厚手のつくりである。25～33は柱状の高台をもち脚端部は面をもつ。34は土師器鍋で玉縁状の口縁部をもつ。外

面は熱を受けている。35は中国陶器B群、黄釉盤の底部である。36～38は白磁碗である。36が碗Ⅴ～Ⅶ類、37は碗Ⅴ－２類、38は碗Ⅴ類である。

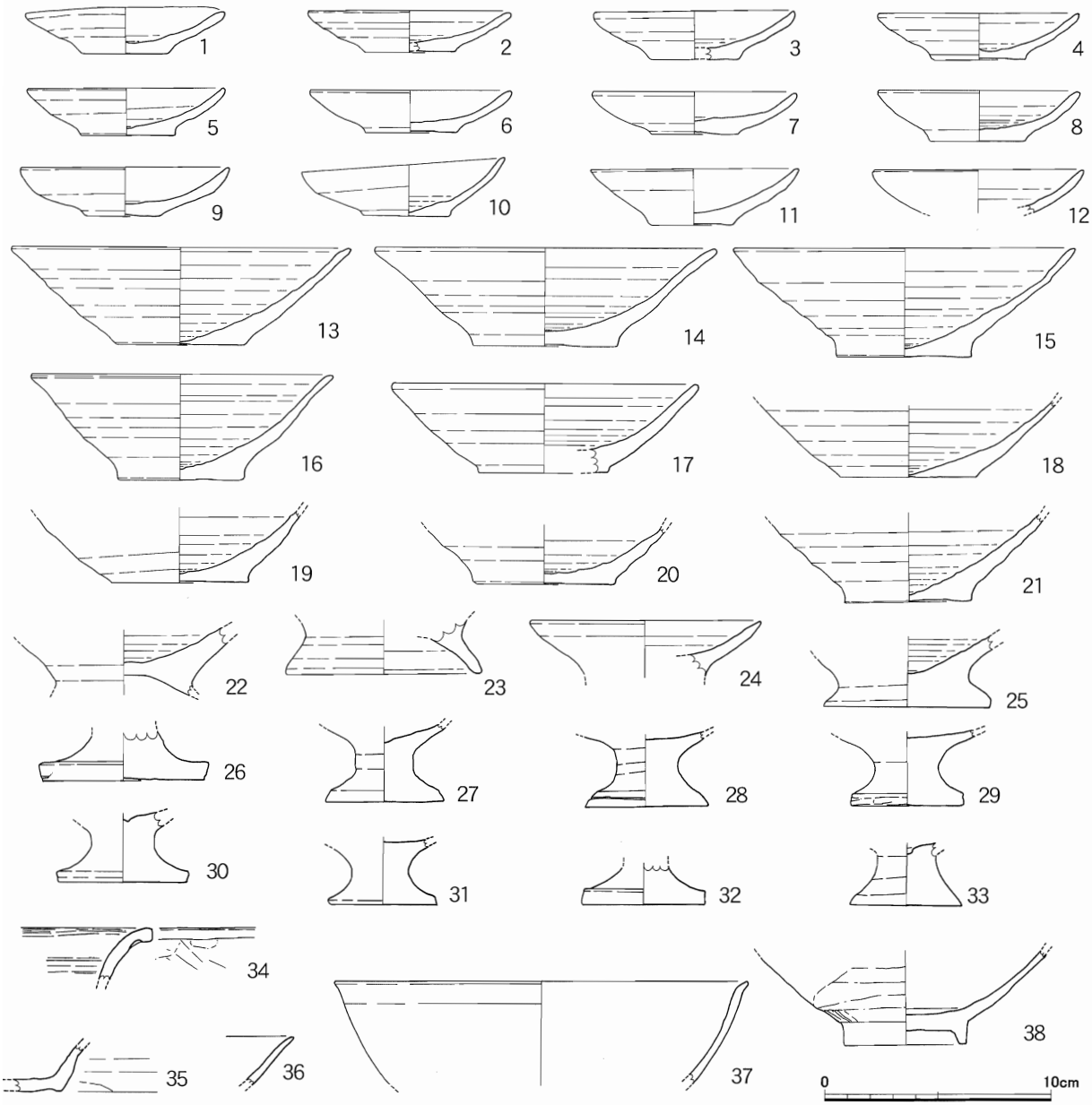
25－39～67は木製品である。木製品はすべて未分解有機物層から出土している。樹種は第４表に掲げた。43・52・53が広葉樹、そのほかはすべて針葉樹が使われている。針葉樹のうちほとんどがスギである。

39～41は箸状木製品である。箸状木製品はこれ以外にも出土しているが、ほとんどが５cmほどの長さで折れている。掲載した３点は完全な形でのこっているものである。39は長さ26.6cm、40

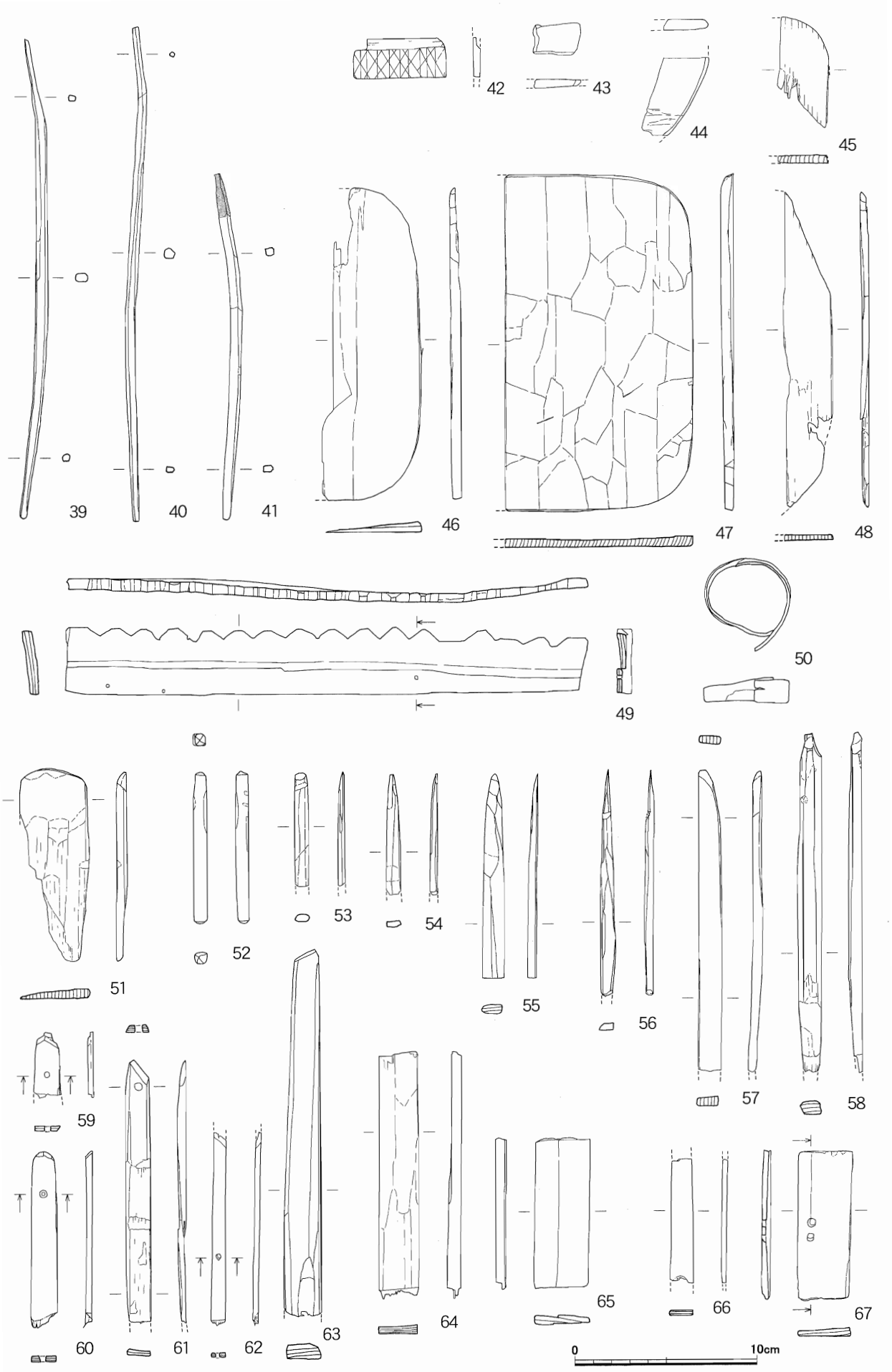


第23図　堂田地区12号井戸実測図（S＝1：60）

は27.4cmである。41は長さ18.2cmと39・40よりも短い。図の上端から２cmほどが焦げている。42は曲物の側板で内面にケビキがある。43は内外面に漆が塗布されている。44～47は曲物容器の底板と思われる。44は内外面に黒色漆が塗布されている。48も容器の部材と思われる。49は薄い板材で、上端を鋸歯状にし、左右端を裁ち落としている。３箇所に径0.2cmの孔があけられている。曲物の側板が二次的に加工されたものと思われる。50は樹皮である。51～67は用途不明品である。51は先端を丸くした幅3.8cmの板材である。先端は丸く表面が荒れている。52は長さ8.4cm、0.65～0.7cm角の棒状をしている。両端部を丸く加工する。53～58は先端を加工した製品である。53はヘラ状を呈し、54～56は鋭利に尖らせている。55のみ完形品である。長さ10.3cm、幅1.1cmで、基部は裁ち落としている。57は細い板状で上端が丸みをもつ。58は先端を削りだしている。紐や縄で結合するためか。59～62は円形の孔をあけた幅の細い板状である。59は先端を山形にし、割り取っている。60は上端を丸くし、61は上端を斜めに切り落としている。62も幅の細い板状である。63は長さ20.4cm以上で、断面が長方形の棒状をしている。64～67は幅2.2～3.0cmの薄い板状をし



第24図　堂田地区12号井戸出土遺物実測図（１）



第25図　堂田地区12号井戸出土遺物実測図（２）

ている。64は下端を折り取っている。67は径0.3～0.4cmの孔が一対であけられている。

（4）出土遺物

弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器（第26図～29図）

遺構にともなわない遺物を掲げた。第６図に出土地点を示している。第26図の弥生土器、土師器は黄褐色土上面（遺構面）で出土している。また第28～29図のほとんどの遺物は西調査区の黒色土からの出土である。

26－１は弥生土器である。口縁部内面に貼付突帯をもち、口縁部は大きく外反する。弥生前期末の綾羅木系土器と思われる。２は土師器高坏の脚部である。外面は縦方向のヘラミガキを施す。３は土師器坏蓋である。ボタン状のつまみが付く。全面に赤色顔料が塗布されている。４～６は土師器皿である。４と５は無高台、６は高台が付く。３点とも器面全体が風化摩滅しているが、部分的に赤色顔料がのこっている。７は土師器甕で口径は27.6cmある。内面頸部以下をヘラケズリする。８は竈の庇と思われる。図の上面は接合面で剥離している。内面は被熱している。９～11は製塩土器である。

27－12～18は須恵器坏蓋である。18は高さのある環状つまみが付く。19～21は須恵器坏身である。19と20は無高台で21は高台が付く。20と21の内面には漆が付着しており、パレットとして使用されたと思われる。22～24は無高台の須恵器皿で、23と24は小型品である。口縁部は23が直線的に開き、24は短く屈曲する。25と26は高台が付く皿である。27～29は高坏である。29は外面下半に回転ヘラケズリがはいる。30は壺で外面に一条の突帯が付く。31～34は甕の頸部である。35～37は甕ないし壺の底部である。38・39は鉢で、39には高台が付く。40は鉢の把手と思われる。41は長頸瓶の頸部である。42は器種不明品である。スカシがはいり端部は上下に拡張する。43は口縁部で内外面とも粗いナデで仕上げている。中世須恵器の可能性もある。

28－44～55は土師器の坏である。45は厚手のつくりである。56～65は皿である。66～74はハ字に開く高台をもつ坏ないし皿である。66は坏でハ字に開く高台が付く。口縁部は外に屈曲する。67は皿である。75～88は柱状高台が付く皿ないし坏である。78は柱状部が高い。79～83は円盤状の高台をもつ。84～88は脚端部に面をもつ。89は搬入品のへそ皿である。90は土師器鍋で全面にあつく煤が付いている。口縁部は短く屈曲している。91は中世須恵器で外面は細い格子叩きである。92と93は瓦質土器で内面に粗いハケがはいる。

29－94と95は灰釉陶器碗と思われる。内面に施釉がみられる。96は瓷器系陶器である。96は鉢で外面は横方向のヘラケズリがはいる。97は中国陶器Ⅻ－０類、長胴壺の口縁部である。口縁端部は肥厚する。98～119と121～127は白磁である。98～105は碗で、98と99はⅡ類、100はⅢ類、101～103はⅣ類、104と105はⅤ類である。106は皿Ⅷ類である。107～110は碗で107と108はⅤ類、109と110はⅧ類である。111～119・121は皿で、111はⅡ類、112はⅡかⅢ類、113はⅧ類、114はⅥ－２類、115～118はⅥ類、119はⅦ類、121はⅣ類である。122は福建省系の小碗である。123は壺か水注の口縁部である。124は合子の蓋である。125は小壺の蓋、126は小壺である。127は壺の胴部である。120と128、129は青白磁である。128は外面に文様がはいる。129は碗である。130～133は青磁である。130は越州窯系青磁の碗である。131は同安窯系の碗Ⅲ類である。132と133は龍泉窯系青磁で132は碗Ⅰ類、133は小盤である。134は白磁の碗Ⅱ類で二次的

に火を受けている。135は白磁の皿Ⅱ類である。136～138、140～145は中国陶器である。136は褐釉（天目）である。137はC群耳壺、138はＢ群壺、139は白磁の壺である。140と141はＢ群Ⅰ類鉢である。142～145は黄釉盤である。142はＢ群Ⅰ－１、143はＢ群である。口縁部は逆Ｌ字に屈曲する。144と145は鉄絵がみられる。

瓦（第30図、第31図、第13表）

堂田地区出土瓦の内訳は第13表のとおりである。遺構からは、日岸田地区にもっとも近い第48トレンチの柱穴（18－６・８・12）や10号井戸、２号溝（20－３）から出土している。多くは遺構にともなわないもので、西調査区の黒色土や礫層に混ざっている。出土した瓦はいずれも破片であり全形のわかるものは無い。

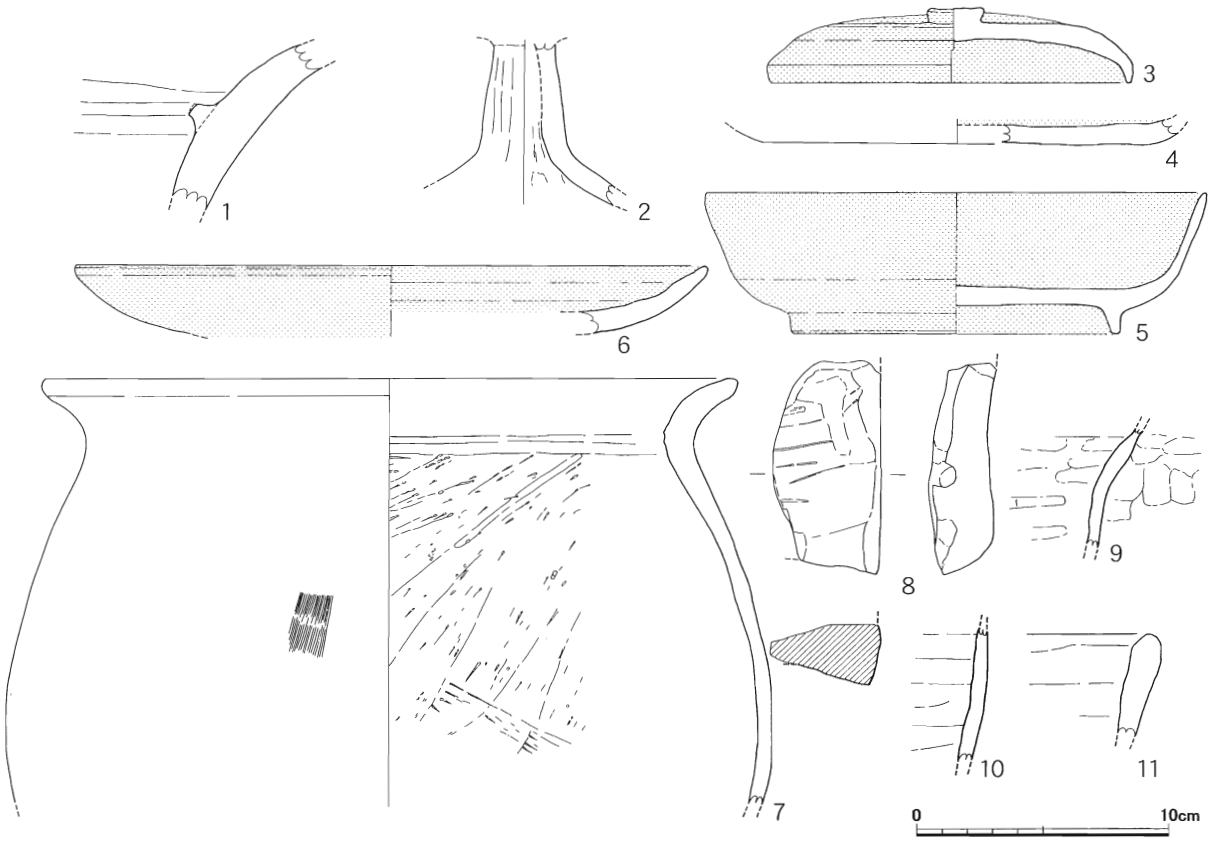
30－146は軒平瓦である。147～160は平瓦である。凸面には縄目タタキ（147～152）、格子タタキ（153～157）、斜格子タタキ（158）、平行タタキ（159・160）がのこる。焼成は149・150・154が須恵質のほかは、土師質か軟質のものである。161～169は丸瓦である。167～169は玉縁式、それ以外は不明である。

土錘（第31図、第５表）

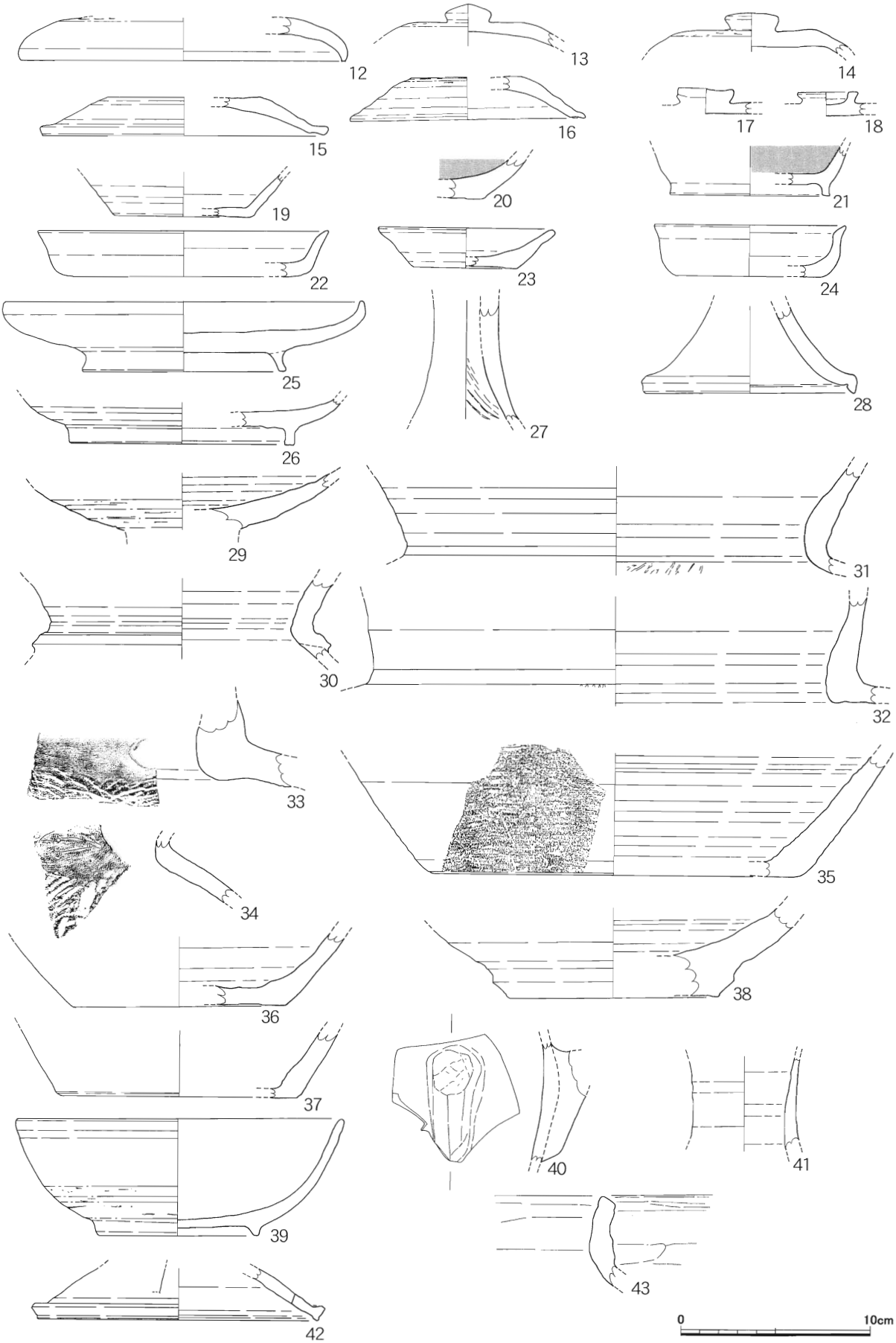
いずれも西調査区から出土した。31－179と180の２点以外は完形品である。紡錘形か円筒形をしており、重量は52.03～2.16グラムまでみられる。

石製品（第31図、第６表）

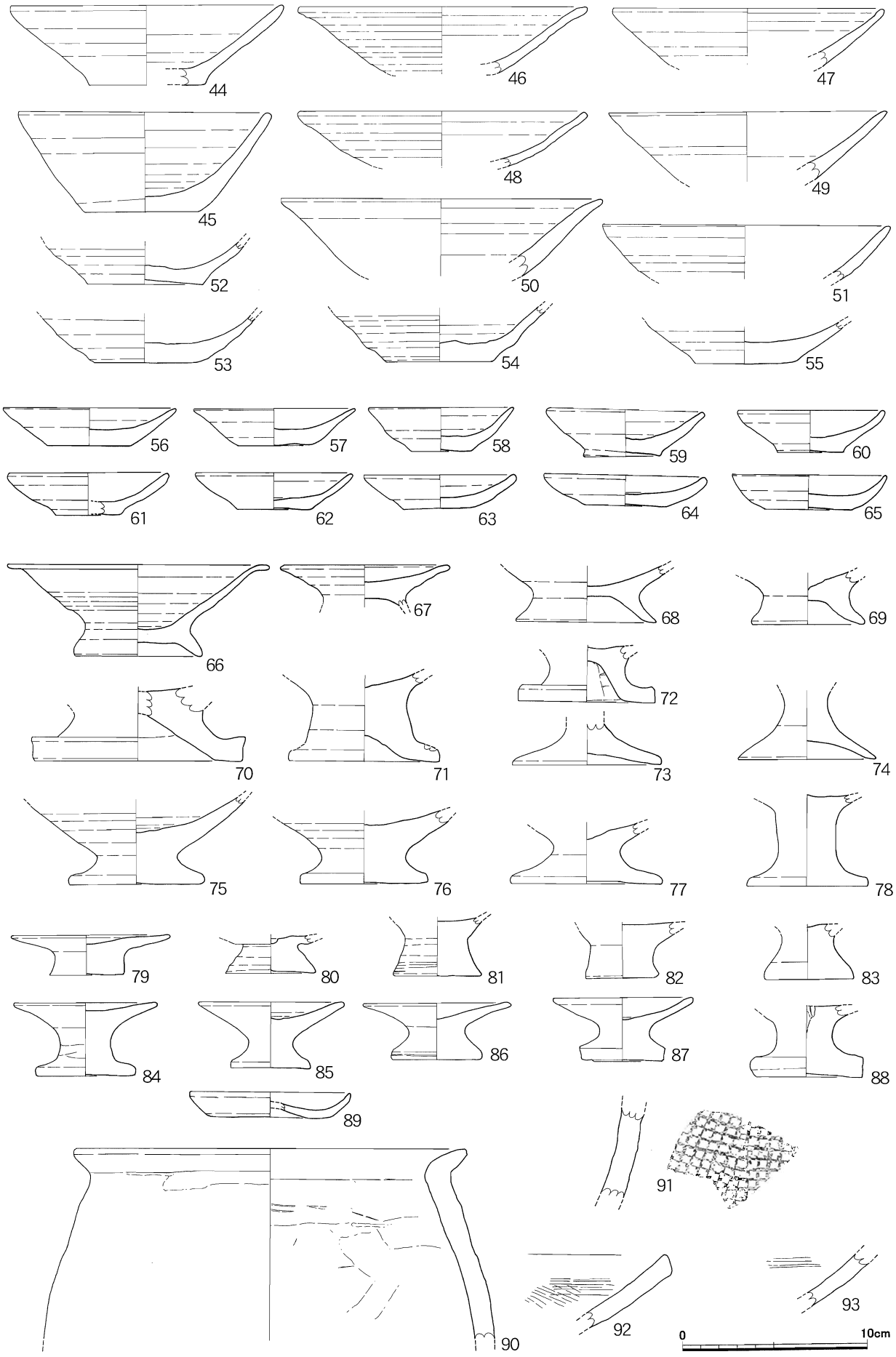
31－181～186は西調査区の黒色土ないし礫層から出土している。31－181は石皿と考えられる。凝灰岩製[4]で一面がくぼんでいる。182は砥石である。流紋岩製で二面が使用されている。二次的に火を受けて赤くなっている。183は頁岩製で左の図の面が丁寧に研磨されている。節理に沿って



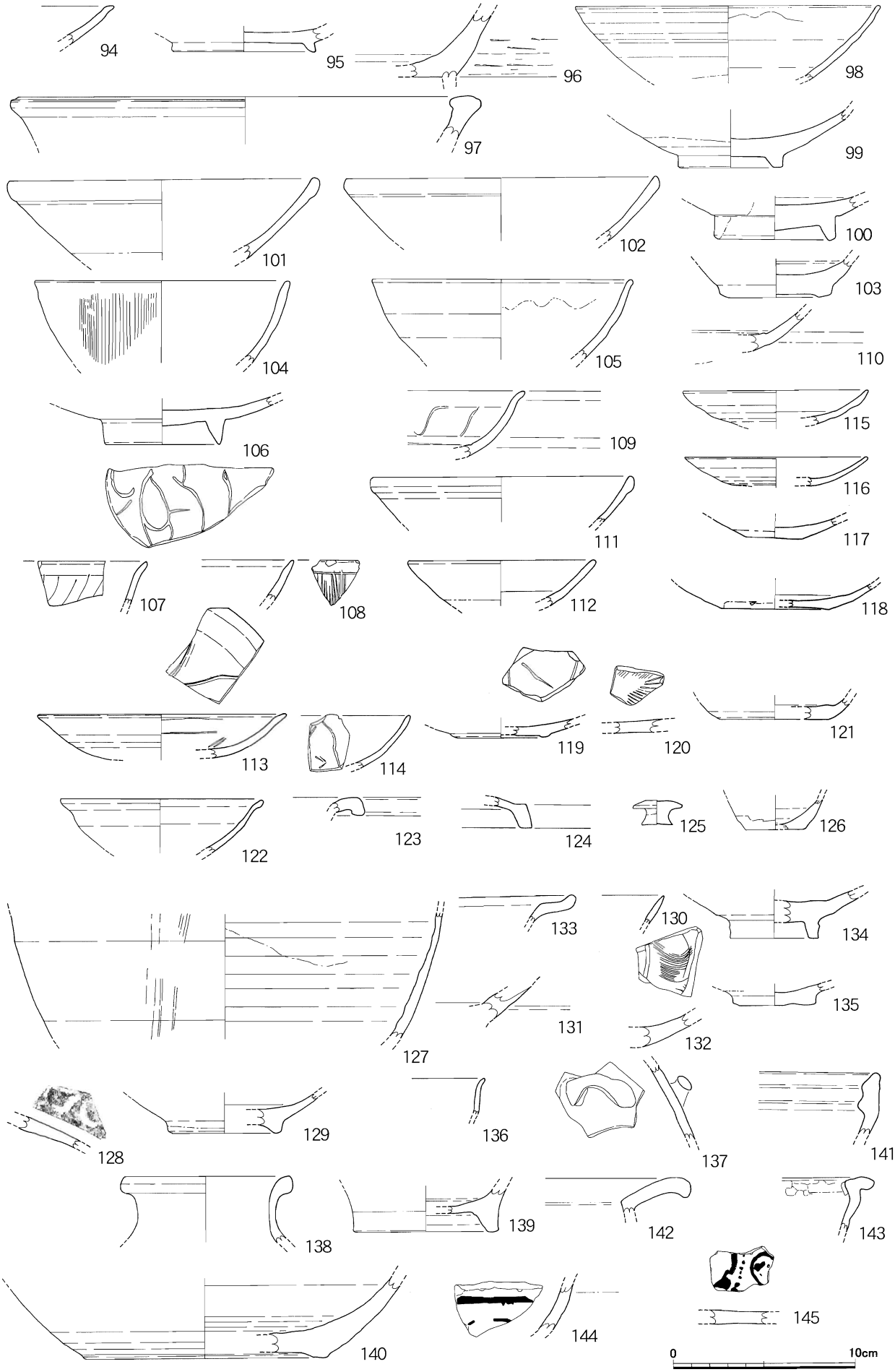
第26図　堂田地区出土遺物実測図（１）



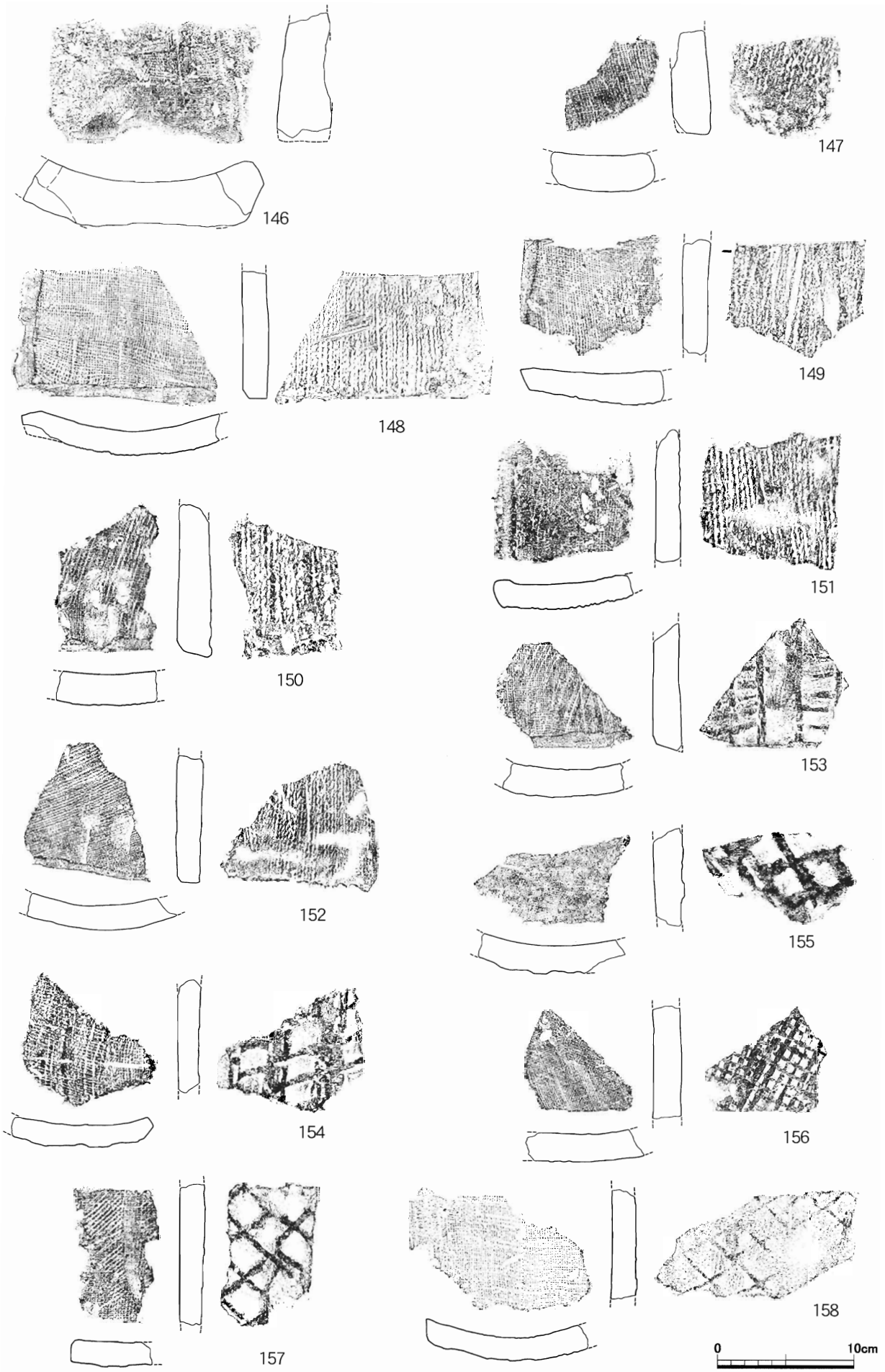
第27図　堂田地区出土遺物実測図（２）



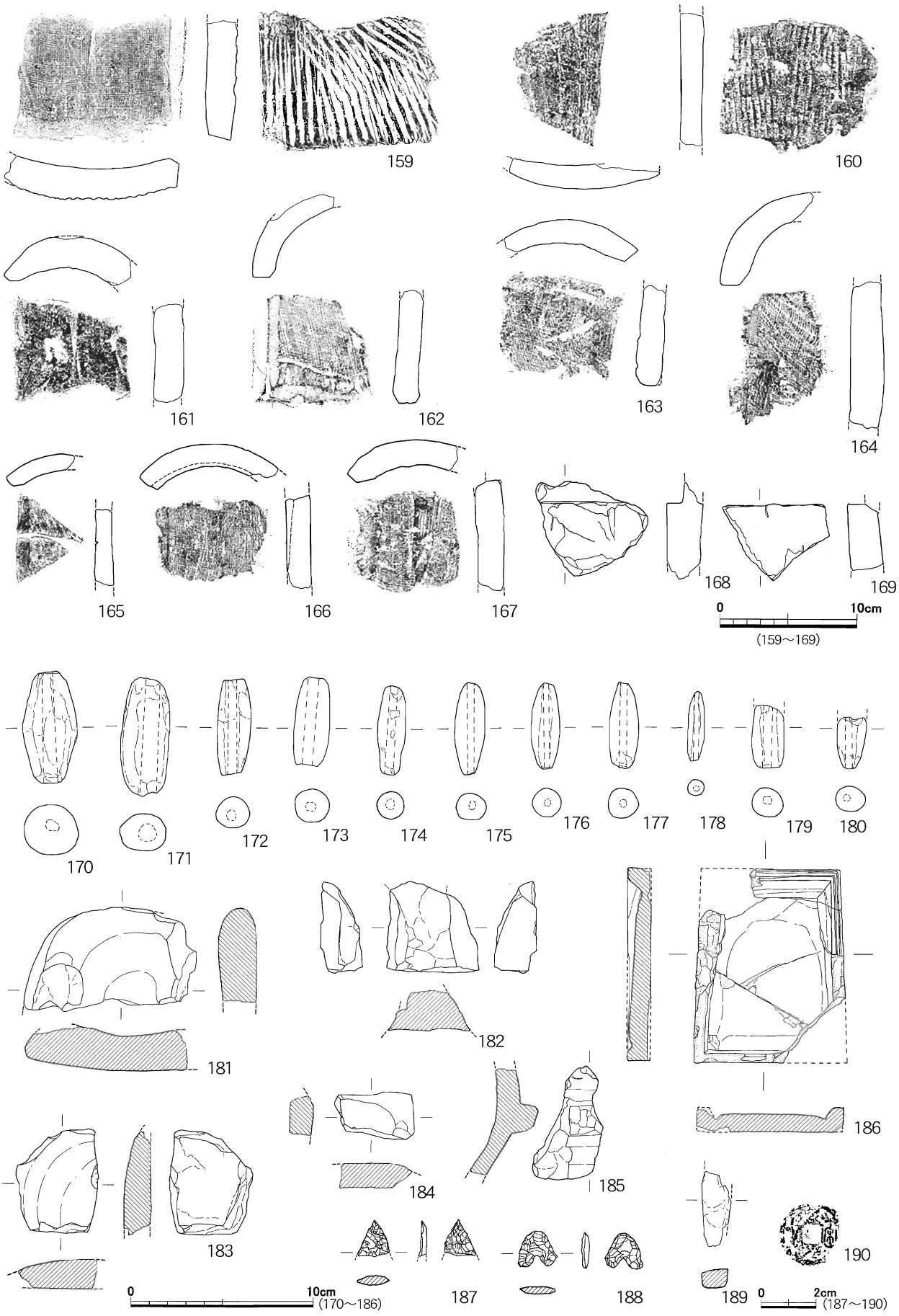
第28図　堂田地区出土遺物実測図（３）



第29図　堂田地区出土遺物実測図（４）



第30図　堂田地区出土遺物実測図（５）



第31図　堂田地区出土遺物実測図（６）

剥離している。184は頁岩製で一面が研磨、整形されている。185は石鍋である。絹雲母製で幅1.7cm、高さ0.9cmの突帯が削りだされている。186は灰色を呈した頁岩製の石硯である。[5] 硯頭と硯尻の一部を欠き底部も薄く剥離する。台形硯で縦幅10.7cm、横幅は硯頭7.6cm、硯尻8.4cmである。幅0.5cmの縁帯には、１mmに満たない細い線が２条刻まれている。側面は垂直で底面は平坦である。187と188は黒曜石製の石鏃である。いずれも耕作土から出土している。187は基部を欠き、188は凹基式の完形品である。

金属製品（第31図、第７表）

31－189は鉄釘かと思われる。断面は長方形で0.7×1.0cmである。190は聖宋元寶（北宋1101年初鋳）である。

（５）生産関係遺物

漆付着土器を除く手工業生産に関わる遺物を第32・33図に掲げた。

玉作関係遺物[6]（第32・33図、第11・16表）

ほとんどが耕作土から出土している。玉素材には、水晶、碧玉のほかメノウ、カド石がみられる。総重量は4,385.53グラムで、日岸田地区の１/10以下である。重量比で約54%、点数で約67％を水晶が占める。１～42が水晶である。15～31は平玉、33～41が丸玉、42が大玉の製作工程にかかるものである。31と32は丸玉の完成品で、31は径15mm、厚さ７mmである。43～54は碧玉で、47～50が平玉の素材、51～54が調整剥離段階で敲打はない。筋砥石は１点しか出土していない。33－55は細粒花崗岩製である。３面を使用している。のこり１面は火熱をうけ剥落している。幅１～３cm前後の溝が２～４条ある。

金属器生産関係遺物（第33図、第７・14表）

鍛冶滓、羽口、羽口先の溶解物がみられる。出土量、点数とも少ない。遺構からは62号溝（第14－16・17)、67号溝、12号井戸で出土している。33－56は12号井戸から出土した羽口である。孔径は推定で3.0cmとなる。57は西調査区の黒色土から出土した。ゆいいつ形状がわかる椀形鍛冶滓である。長さ11.0cm、幅8.75cm、厚さ2.1cmである。上面には木炭粉がかみこみ、下面には炉床粘土が付着している。

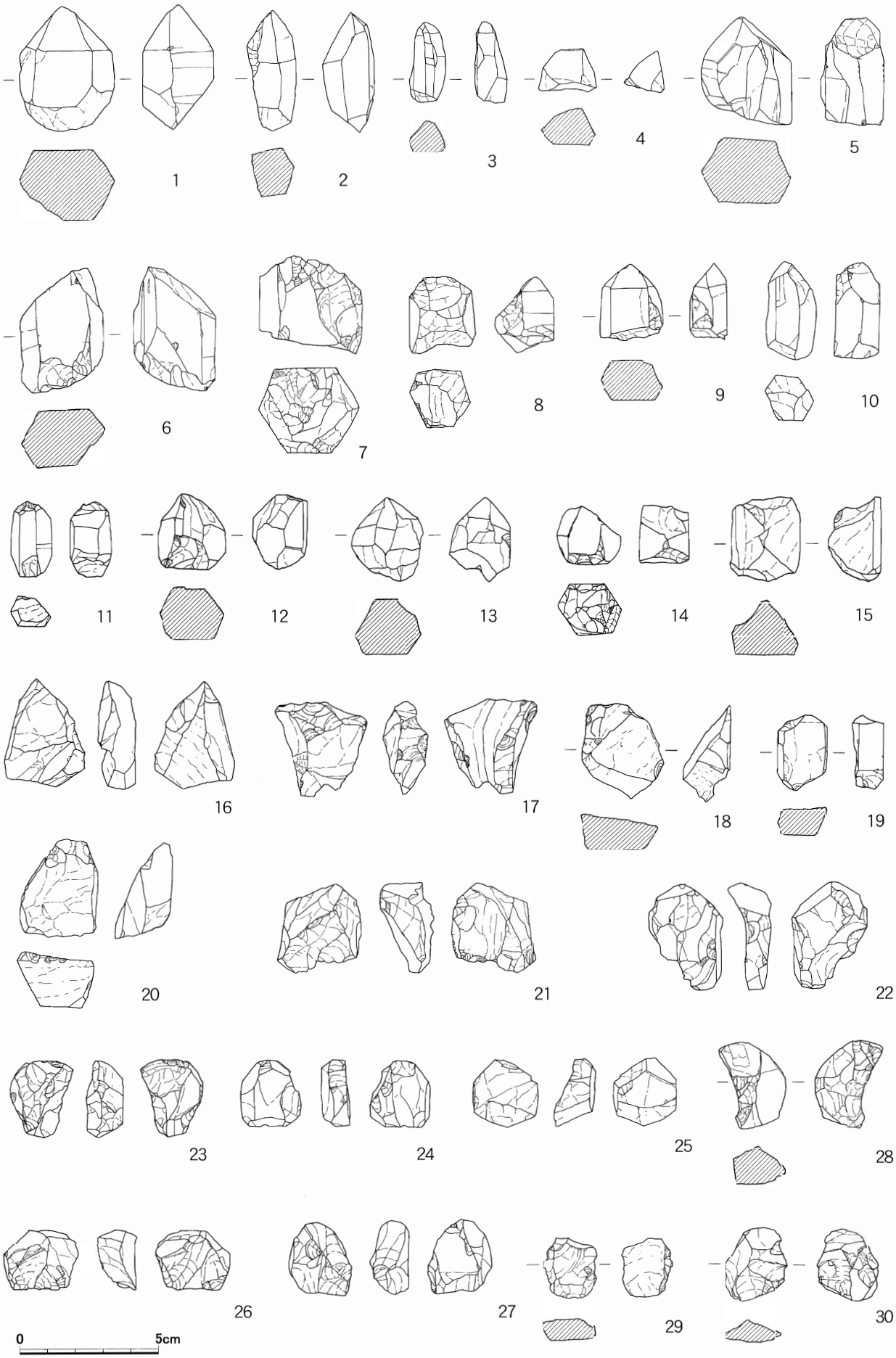
（６）平成17年度堂田地区調査、日岸田・鍛冶屋・唐路地区出土・採集遺物（第34図）

平成17年度堂田地区確認調査、平成16・17年度日岸田地区調査の出土遺物で、『報告書４』に掲載されていないものである。あわせて、大草町在住の三島利幸氏からの寄贈資料を紹介する。

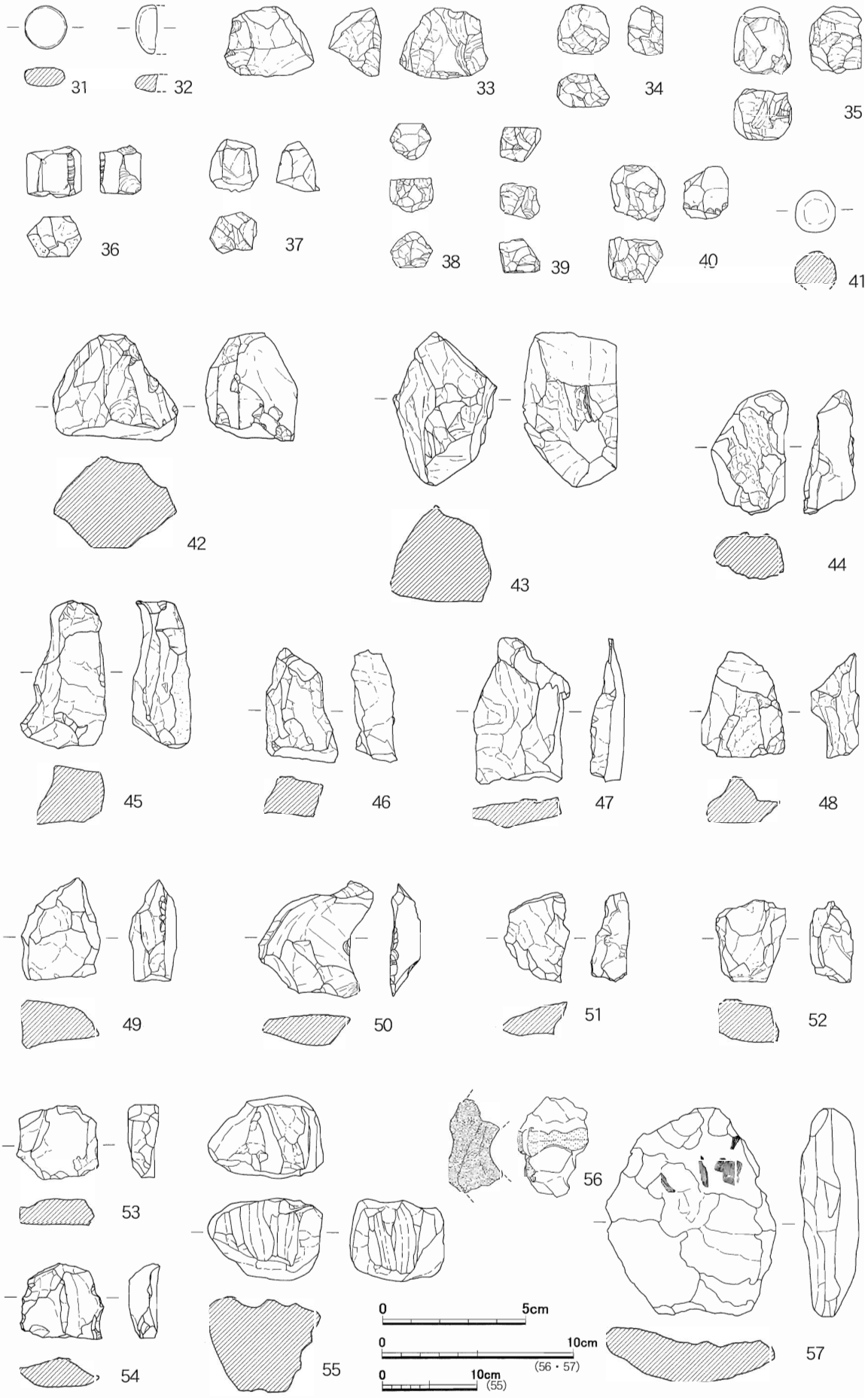
34－１～６は平成16・17年度日岸田地区調査で出土した。１と２は磨製石斧である。石材は１が塩基性片岩、２が玄武岩である。３は流紋岩製の打製石斧である。古墳時代中期の５号竪穴住居から出土した（島根県2006ａ)。４は地区北を東西に走る畦のうえで採集した。流紋岩製の砥石で４面を使用している。５と６は土錘である。日岸田地区13号建物跡（古代末、日岸田Ｃ期）東側庇の北から２本目の柱穴から出土した（島根県2006ｂ)。

34－７は鍛冶屋地区（宮の後地区の東南東約400m）の採集品である。土錘で紡錘形をしている。

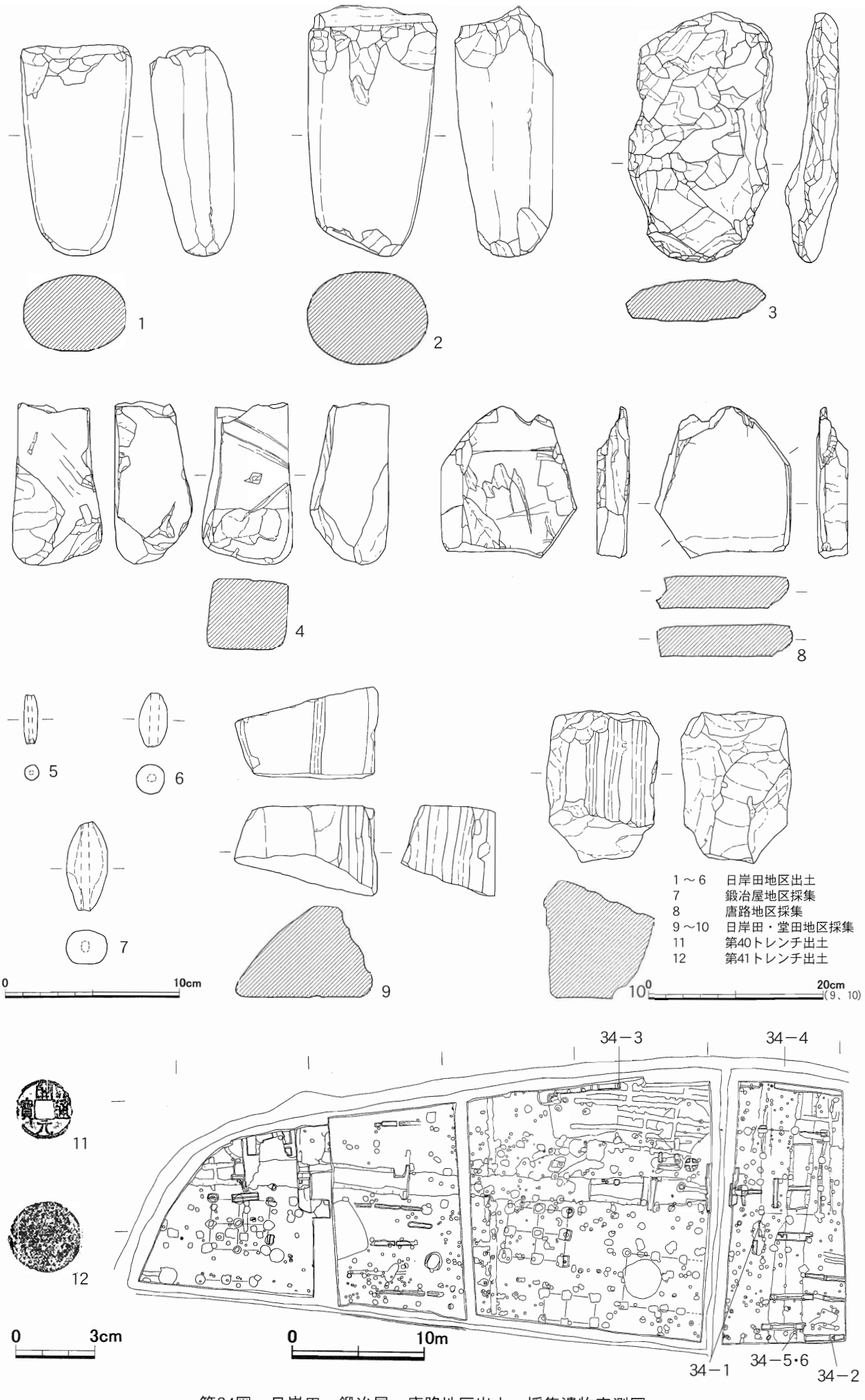
34－８は唐路地区（水垣地区の東）の採集品である。弥生時代中～後期の管玉製作にかかる板状素材と考えられる。[7] 緑色凝灰岩で一辺3.5～5.5cm、厚さ1.8cmの不整な六角形の板状をしてい



第32図　堂田地区出土生産関係遺物実測図（1）



第33図　堂田地区出土生産関係遺物実測図（２）



第34図　日岸田・鍛冶屋・唐路地区出土・採集遺物実測図

る。各面とも研磨され、一辺に深さ0.6cmの施溝痕がある。

34－９と10は日岸田地区か堂田地区で採集された筋砥石である。石材は２点とも細粒花崗岩製である。９は２面を使用し、うち１面に幅1.3～1.7cmの溝が３条ある。10は３面を使用し、うち２面に溝がある。溝の幅は図の上面が1.8～2.6cm、左側面が幅1.1～1.2cmである。

34－11と12は平成17年度範囲確認調査の出土遺物である。11は日岸田地区第41トレンチから出土した開元通宝である。12は堂田地区第42トレンチから出土した。判読できないが一銭の可能性がある。

第３節　総　括

（１）縄文～弥生・古墳時代の遺構と遺物

縄文時代、弥生時代の遺構は検出されていない。遺物は、東調査区から弥生時代前期末の土器（26－１）が出土している。日岸田地区でもこの時期の土坑が１基検出されており、周辺に集落が存在する可能性がある。また黒曜石剥片が出土しているが、弥生時代以降の石器製作にかかわる可能性がある。(8)

古墳時代中期の土坑を検出している。東・西調査区や平成19年度に調査した第51トレンチでも当該期の遺物が出土している。これまでの調査で、当該期の竪穴住居や溝、土坑が大舎原地区、日岸田地区で検出されている。今回の調査で集落が広範囲に展開していることをあらためて確認することができた。

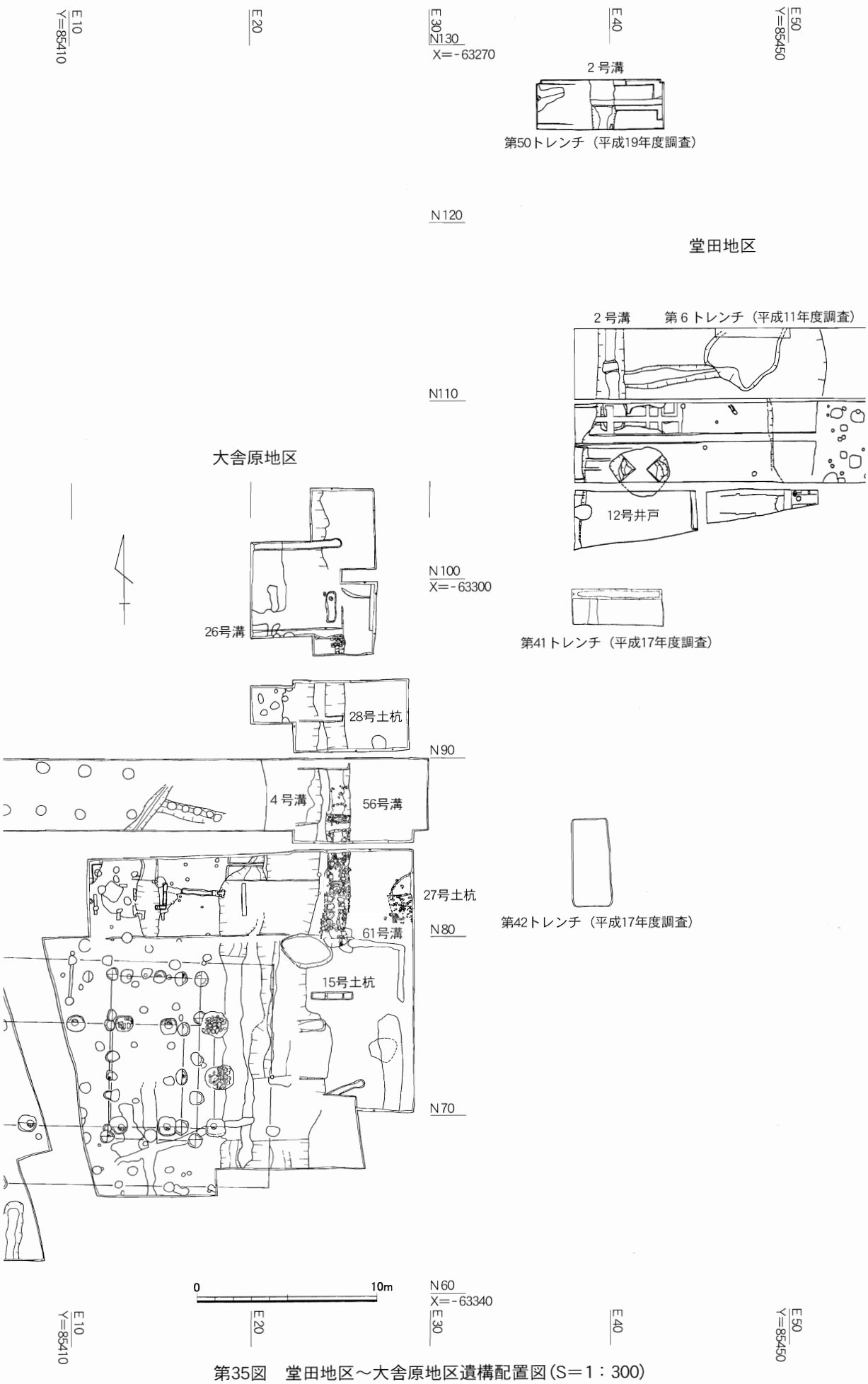
（２）奈良・平安時代前半の遺構と遺物

62号溝の延長部分が確認できたが、溝にともなう施設は不明である。日岸田地区でも、62号溝と同時期（日岸田Ⅰ期　国庁編年第３形式）の遺構は、柵列と土坑１基となっている（島根県2006ｃ）。

堂田地区第48トレンチでは62号溝と重複して大型の柱穴がみられる。日岸田地区では、62号溝の埋没後、南北方向に走る66号溝があらたな区画溝となったと想定している（同Ⅱ～Ⅲ期　同４～５形式）。66号溝にともなう施設群は、溝の西側に小型倉庫や側柱建物などが建つ。堂田地区第48トレンチの大型柱穴もこれら施設群の一部と考えられる。

こうした施設群の広がりを考えるうえで、62号溝の延長部分と68号溝が課題になる。平成19年度に調査した第51トレンチで62号溝の延長は確認された。(9) 溝は、第51トレンチのE55ラインあたりで南に屈曲するようである。その延長線上に西調査区68号溝がある。68号溝は第６トレンチでは確認されておらず、時期も不明ではあるが、位置関係から両者は一連の溝である可能性が考えられる。あるいは68号溝が66号溝と対になる南北の区画溝の可能性もある。ふたつの溝の心芯距離は約90mとなる。今後、第６トレンチや周辺の調査をすすめるうえでの課題といえる。

つぎに出土遺物をみると、文字資料は硯１点のみであり、手工業生産にかかる遺物も少ない。漆運搬容器の須恵器長頸壺は１点もなく、パレットとして使われた須恵器坏身２点、土師器１点がある程度である。また玉作にかかる遺物も少なく筋砥石も１点しか出土していない。日岸田地区でも工房そのものは検出されておらず、施設配置は詳らかでない。堂田地区の遺構・遺物のありようからは、工房域の縁辺にあたる可能性が考えられる。68号溝が西端の区画溝とすれば、その西側に



第35図　堂田地区～大舎原地区遺構配置図(S＝1：300)

は空閑地があり、南北に走る道路を隔てて西側に国司の館（大舎原地区）、という配置が想定される。

（3）平安時代後半の遺構と遺物

南北に通る道路遺構の東に遺構が広がる。建物は復元できないが多数の柱穴と大小の井戸がみられる。こうした遺構のありかたは北側の第６トレンチ、第51トレンチでも同じである。第６トレンチでは、図化はされていないが、当該期と思われる柱穴が多数確認されている（写真１）。また、平成19年度に北側の旧水田に設定した第51トレンチでは、溝跡や土坑（井戸跡）のほか、柱穴を確認している。また日岸田地区でも掘立柱建物跡４棟（11～14号建物跡）、井戸５基（５～９号井戸）、土坑１基（34号土坑）が確認されている（島根県2006ｄ）。こうした施設群の性格は不明であるが、当該期の施設が日岸田地区だけでなく、堂田地区にも広がっていたことが推測できる。

写真１　第６トレンチ全景（西から）

また、出土遺物をみると、第６トレンチと同様、多量の貿易陶磁器（太宰府C～D期）が出土している。山本信夫氏は、第６トレンチ出土陶磁器の検討から、「稀少品や特定器種の偏在、集中度が高いという事実から、陶磁ストックの場、蔵の存在の可能性」を指摘している（山本2006）。

道路遺構は、古代山陰道と枉北道との交差点である十字街から国府への進入路の推定線上に位置する。これまで、十字街や国府周辺では道路遺構は検出できていない。唯一、大舎原地区56号溝が道路側溝の可能性が考えられている。この56号溝と２号溝はその位置関係から道路遺構の側溝と推定され、溝の心芯距離14m、路面幅12mと想定されていた（島根県2005）。今回の調査で、ふたつの溝は同時期に機能していないことが確認された。56号溝に対応する東側の側溝は２号溝よりも西側を通ることが考えられる。また２号溝に対応する西側の側溝は、56号溝の東で27号土坑（12世紀後半）よりも東を通ることが想定される。しかし27号土坑の東にあたる、第42トレンチでは道路遺構は確認できていない。また第41トレンチで溝状遺構を検出しているが、内部調査がごく一部であり、時期や性格をふくめて更なる調査が必要と考えられる。（島根県2006ｅ）

（4）成果と今後の課題

今回の調査で、十字街から国府への進入路の推定線上に、古代国府、中世府中の時代も道路遺構が存在していた可能性が高まった。これまでの調査で、平野部では中世以降の旧河道の浸食や人為的な改変により、古代の遺構面は残存状況が極めてよくないことがわかっている。しかしながら、今回のように旧河道の影響の少ない場所では、側溝や路面などが残されている可能性がある。推定道路跡が現道と重複しており、調査範囲は限られているが、引き続き調査地点を増やし、線としてつなげ国府全体の景観復元を進めていく必要があるだろう。[(10)]（間野）

注

（1）調査区の名称は、これまでどおり字名から付けた。ただし、東調査区の一部は、字名が毛和井免である。

（2）陶磁器の分類は守岡がおこなった。一部について、山本信夫氏、榊原博英氏（浜田市教育委員会）の指導をうけた。

（3）松井章奈良文化財研究所埋蔵文化財センター環境考古学研究室長の指導を受けた。

（4）石製品については中村唯史三瓶自然館学芸員の指導を受けた。『報告書３』・『報告書４』掲載品についても指導を受けており、第９・10表に収録している。

（5）石硯は、これまでに第13トレンチ（第44図119）、第５トレンチ（第56図47）で出土している。なお、後者は島根県2004で第33トレンチ出土としたが誤りであり訂正する。

（6）玉作関係遺物の分類は、島根県埋蔵文化財調査センター米田克彦がおこなった。

（7）島根県埋蔵文化財調査センター丹羽野裕の教示による。

（8）島根県埋蔵文化財調査センター稲田陽介の教示による。集計結果は第15表にまとめている。

（9）62号溝は第51トレンチE57ラインまでは溝状に確認できる。ここから西側は、削平をうけているようで、溝の底面が連続土坑状に残り、第51トレンチ南壁までつながる。
この調査結果については来年度以降の報告書に収録する予定である。

(10) 推定枉北道、十字街、国府への進入路と推定されている市道部分については、昭和50（1975）年度に発掘調査がおこなわれている。今後の調査研究、史跡整備に必要な資料であり、正式な報告をおこないたいと考えている。

引用参考文献

島根県教育委員会1988「第２章（２）出雲国府跡に所在する遺跡と採集遺物」『土地改良整備事業に伴う史跡出雲国府跡発掘調査報告書』５～９頁

島根県教育委員会2003ａ「第３章第１節分布調査」『史跡出雲国府跡１』９頁

島根県教育委員会2003ｂ「第３章第２節第６トレンチ」『史跡出雲国府跡１』14頁第９図

島根県教育委員会2004『史跡出雲国府跡２』61～62頁，77・79頁

島根県教育委員会2005『史跡出雲国府跡３』

島根県教育委員会2006ａ「第３章第３節平成17年度の調査　古墳時代以前の遺構」『史跡出雲国府跡４』44～45頁

島根県教育委員会2006ｂ「第３章第２節平成15・16年度の調査　古代末の遺構」『史跡出雲国府跡４』35～37頁

島根県教育委員会2006ｃ「第６章まとめ　古代の遺構の変遷」『史跡出雲国府跡４』120・123頁

島根県教育委員会2006ｄ「第６章まとめ　古代末の遺構について」『史跡出雲国府跡４』120・124頁

島根県教育委員会2006ｅ「第４章範囲確認調査」『史跡出雲国府跡４』103～109頁

山本信夫2006「第２章　山陰地域の貿易陶磁優勢遺跡の検討」『波原遺跡　森広遺跡　片山遺跡』土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

第４章　1968(昭和43)～1970(昭和45)年度の発掘調査

第１節　調査に至る経緯と調査経過

（１）調査に至る経緯

出雲国府跡は昭和40年代初めまで、所在地は不明であったが、1968（昭和43）～1970（昭和45）年度の発掘調査により、その所在地が判明した。発掘調査に至った経緯を松江市教育委員会が発行した概報によりまとめた。

出雲国府跡は島根県松江市大草町・山代町・竹矢町に所在する遺跡である。『倭名類聚抄』には「出雲国　国府在意宇郡　行程上十五日　下九日」と記されており、出雲国府が意宇郡にあったことが知られていた。国庁は、天平５（733）年の年記を帯びる『出雲国風土記』に記載が見られることから、その所在については、江戸時代から関心が持たれており、東出雲町上夫敷説、松江市竹矢町三軒家説、大草町竹ノ後説など諸説があった。この内、朝山皓が『出雲国風土記』の里程から唱えた大草町西端説と、恩田清が元禄４（1691）年の『大草村検地帳』に見られる「こくてう」の文字を根拠とした大草町竹ノ後説が有力視されていた。

高度経済成長に伴う土地開発、住宅建設の波は、意宇平野にも押し寄せてきており、平野の様相を変えようとしていた。これを憂慮した松江市教育委員会・島根県教育委員会では、国庁推定地付近一帯の遺跡及び、条里遺構の実体を明らかにし、適切な保存処置を計る目的で発掘調査を実施することとなった。

調査は、昭和43年度から３年間の継続事業とし、国・島根県費の補助を受け松江市教育委員会が実施した。この時の調査は、発掘調査を担当する考古班、条里遺構の調査を行う歴史地理班、文献史料の整理に当たる文献班の３部門から構成されている。

（２）調査体制

３年間にわたる調査に従事した関係者は以下のとおりである（敬称略）。

団　　長　山本　清（島根大学）

考　古　班　坪井清足、町田　章（奈良国立文化財研究所）、井上狷介（島根県文化財専門委員）、池田満雄（島根県立松江南高校）、東森市良（松江市立女子高校）、近藤　正（島根県教育委員会）、松沢　修、近藤　滋、前島己基（國學院大學）、猪熊兼勝、鬼頭清明、高島忠平、石松好雄、宮本長二郎、安達厚三、阿部義平、田中哲雄、稲田孝司、甲斐忠彦（奈良国立文化財研究所）、東雲均（関西学院大学）

歴史地理班　米倉二郎、吉田栄夫、成瀬敏郎（広島大学）、中沢四郎（島根県立大社高校）、貞方昇、金丸国利、多賀俊介（広島大学）

文　献　班　加藤義成（島根県文化財専門委員）

事　務　局　河原　董、吉岡貞徳、松尾　司、安達竹志、松尾栄彦、引野　努、園山　正（松江市教育委員会）

この他、恩田　清、石原敏造、島根大学考古学研究会の援助を受け、石川　仂をはじめとする地元関係者の協力を得た。　（概報（松江市1971）より転載）

（３）調査の経過

発掘調査は1968（昭和43）年度から３年間、毎年秋から冬にかけて行われた。

第１次調査（1968年）

第１次調査は、1968（昭和43）年８月23日に調査団が結成された。調査方針を協議した後、考古班が11月９日から12月９日まで六所神社の北西部（宮の後地区）を調査した。六所神社の西に接して南北に長いトレンチを設定し、北方では南北トレンチに交差する東西方向のトレンチを設けた。六所神社の西縁では地山の直上に大型の河原石が散在するのみで、顕著な遺構を確認することはできなかった。神社西方のトレンチでは西大溝（SD004）と北大溝（SD005）を確認し、その内側から掘立柱建物を検出した。

規格性のある建物跡や北大溝や西大溝を検出したが、遺構は希薄で、中心部はこの調査区の東側（六所神社北側）と判断し、第２次調査に続く。この間、歴史地理班が発掘地区の土層確認を行い、それらと平行して、文献班による『出雲国風土記』を中心とする文献史料の整理が行われた。

第２次調査（1969年）

1969（昭和44）年10月２、３日に前年度調査結果と今後の調査方針の再検討が行われた。当時は、国府は方格地割りを持つと考えられていたため、その区画線検出を目標とされた。調査地は、恩田清が条里地割りから推定した「方六町説」に従って決定された。これを受けて、11月２日から12月24日まで宮の後地区と一貫尻地区、樋ノ口地区、水垣地区の発掘調査が行われた。当初目的であった区画施設を検出することはできなかった。

宮の後地区では六所神社の北に接してトレンチを入れ、東西に延びる南大溝（SD010）と、その北側に数棟の建物が重なる状況を確認した。しかし、建物配置が政庁になり得ないと判断し、六所脇地区の調査へ続く。水垣地区は六所神社から北西400mに位置し、国府域西端の把握が目的であった。東西40mのトレンチを設定したが、遺構は検出できなかった。樋ノ口地区は国府域北限の把握が目的で調査した。奈良時代の掘立柱建物が検出されたが、国府域の北限は検出されなかった。一貫尻地区では石敷き遺構を検出し、宮の後地区SD034の延長の溝の可能性が指摘された。

歴史地理班は、条里制試行以前の古地形復元を目指して、平野全域の地層と旧河道の調査を行った。文献班は検地帳を始めとする近世文書の整理を行った。

第３次調査（1970年）

1970（昭和45）年10月26日から12月19日に、宮の後地区、六所脇地区で発掘調査が行われた。第２次調査までに検出した宮の後地区の建物群は、文字資料が出土し、規格性に富み、古代の官衙施設であることは明らかであるが、建物配置から政庁にはなり得ないと言う疑問が生じた。

そのため建物配置を精査するため六所神社北側のトレンチをさらに北方に拡張し、規格性に富む建物群の一部を明らかにした。しかし、官衙の中心である政庁の建物跡とは考えられず、政庁を求めて、六所脇地区の調査が行われた。六所神社境内とその東側にトレンチを設定し、その結果、５

間４面の大形建物（SB020）が検出され、政庁の一部と判断された。

この調査の概要は、松江市教育委員会によって1971（昭和46）年３月１日付けで『出雲国庁跡発掘調査概報』として報告されている。（林）

（４）調査区の設定

発掘調査では、基準点測量が行われておらず、基線は磁針から設定している。磁北から東６°30′に真北を求め、基線とした。六所神社境内の北側に杭を２点埋設した。BM2はBM1の東9.14ｍにある。BM2は1970年12月18日にコンクリート杭にしている。現在、BM1のみ六所神社本殿北側で確認できる。なお、2001（平成13）年度にBM1の座標（日本測地系）を測量した。BM1はＸ＝－63455.075、Ｙ＝85362.578（北緯35° 25′ 27″ .5393、東経133° 06′ 41″ .9093）である。

調査区名称は奈良国立文化財研究所で使用されているものを参考にし、宮の後地区を6XIM－Ａ～D、6XIQ－Ｊ、樋ノ口地区を6XIN－Ｅ、6XIN－Ｆ、一貫尻地区を6XIM－Ｇ、水垣地区6XIN－Ｎ、六所脇地区を6XIM－Ｉ、6XIM－Ｊとされた。なお、６（奈良時代）Ｘ（西日本国郡衙）IM（固有遺跡名）である。

遺構の実測は遣り方測量を行っている。基点から１ｍごとに区割りし、基点から北にはＮ、南にはＳ、東にはＥ、西にはＷをふって頭文字とし、基点からの距離である数字を組み合わせている。

一方、遺物は３ｍグリッドを設定し取り上げている。東西軸に数字を（東から西に向かって数字が大きくなる）、南北にはローマ字をあてている。グリッドの呼称は地区名と南東側の交点の名称（例Ｂ区A40→BA40）で決まる。遺構内出土遺物はグリッド名の次に遺構名がくる（例BA40南北溝→SD004）。

調査面積は1968年度は宮の後地区約400㎡、1969年度は樋ノ口地区440㎡、一貫尻地区207㎡、水垣地区129㎡、宮の後地区Ａ区940㎡、Ｃ区264㎡、Ｊ区190㎡の計2,170㎡である。

1970年度は六所脇地区Ｉ区約203㎡、Ｊ区約51㎡、宮の後地区Ａ区約349㎡、Ｂ区約124㎡、Ｃ区約788㎡、Ｄ区約45㎡の計約1,560㎡である。

（５）報告書作成

第１～３次調査は約40年前に実施され、概要報告が1971年に刊行されていた。一方、島根県教育委員会は1999（平成11）年度から出雲国府跡の発掘調査を再開した。調査当初から大舎原地区の遺構と宮の後地区や六所脇地区の遺構との関係、宮の後地区の未発掘調査箇所の様相解明が課題とし上がっていた。特に、宮の後地区や六所脇地区の遺構や遺物の様相を解明し、現在の調査と一体のものとして、調査研究さらには整備を行っていく必要があった。そこで、1968～1970年度に発掘調査が実施された出雲国庁跡の報告書作成を行うこととなった。

今回の報告書作成において、必要な資料の探索を平成11年度から開始し、奈良国立文化財研究所から遺構実測図、調査日誌等の提供を受けた。また、松江市教育委員会からは写真（35㎜スライド１冊、35㎜白黒アルバム１冊、４×５版白黒アルバム３冊）、参考資料等の提供を受けた。島根県教育委員会が山本清氏から寄贈を受けた資料内にも出雲国府跡発掘調査の調査日誌等があり、参照することとした。

発掘調査では大量の遺物が出土し、コンテナ707箱以上にのぼる。整理前は遺物の大部分は松江市教育委員会から島根県立八雲立つ風土記の丘に貸し出され、風土記の丘で保管、一部は展示されていた。報告書作成にあたり、島根県埋蔵文化財調査センターが松江市教育委員会から借用を受け、遺物を埋蔵文化財調査センターへ移動した。その前後に、多くの遺物が未洗浄、未注記であったため、風土記の丘及び埋蔵文化財調査センターで注記等を行った。なお、借用した以外にも松江市教育委員会や島根大学に遺物があるが、これらは整理を行っていない。

遺物整理は遺構出土品を中心に行い、一部の包含層出土品は未整理である。注記には報告書掲載の遺構名が無いことからグリッド名と遺構名を参考に対照遺構を絞り込んだ。

また、報告書に記載がない遺構にもかかわらず遺物がまとまって出土している場合は新たに遺構名を付けた。今回の報告書に記載上必要な遺構についても新たに遺構名を付けた。遺構名は遺構略記号の次の数字を百番台とした。

2006（平成18）年度までに柵以外の遺構図作成と、遺物実測を行った。今年度は遺構から出土した遺物を中心に実測の補足を行い、編集印刷を行った。（守岡）

第２節　樋ノ口地区の調査

（１）調査の概要

樋ノ口地区は松江市山代町字樋ノ口、字杓子免に位置し、出雲国府跡の北、意宇平野中央の微高地にある。字樋ノ口の標高は北に位置する字杓子免から１m高い。また、字樋ノ口の南東側は旧河道により削平され、約0.4～0.5mの段差がある。この地点は周辺より一段高く、調査前は水田や桑畑として使用されていた。第２次調査で、国府域の北限を求めるため調査区を設けた。出雲国府跡の中心施設が存在した六所脇地区や宮の後地区から北に約500m離れている。

基本的に南北85m、東西54mの幅３mのトレンチを設定し、一部拡張されている。

東トレンチからは南北主軸の溝跡４条、柱穴が検出された。南北トレンチからは竪穴建物跡３棟、溝跡１条、柱穴、西トレンチからは掘立柱建物跡２棟、溝跡１条、柱穴が検出された。

（２）層序

基本層序は上から順に耕作土、床土、黄褐色粘土に分かれる。遺物は耕土（水田耕作土）、黄褐色土、黄褐色粘土から出土している。

（３）古代の遺構・遺物(1)

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は東西軸の２棟が復元された。２棟は一部重なり合っている。

SB011（第41図）　EI42付近から検出した。５間（10.2m）×２間（5.2m）以上で北廂付きである。SB011P11とSB012P10の切り合い関係からSB012が古い。柱穴の堀方は基本的には隅丸方形であるが、円形もある。P12には柱根が残る。

SB012（第42図）　EI40付近から検出された３間（7.2m）×２間（4.8m）の掘立柱建物跡である。床面積は34.56㎡。柱穴の掘方は隅丸方形と円形がある。

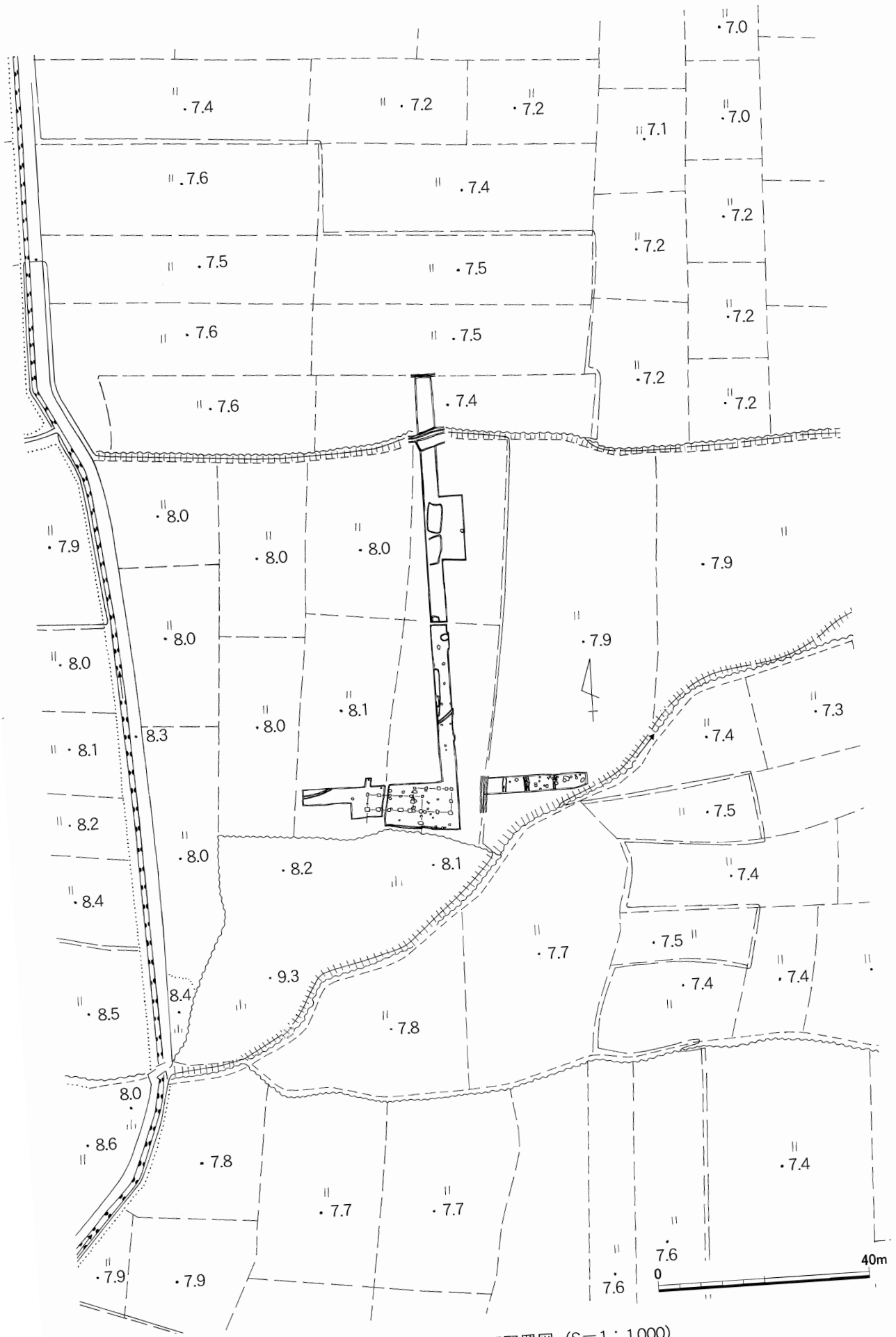
竪穴建物跡

樋ノ口地区では３棟の竪穴建物跡を検出した。6XIN－F、G～Hにかけて２棟が確認された。

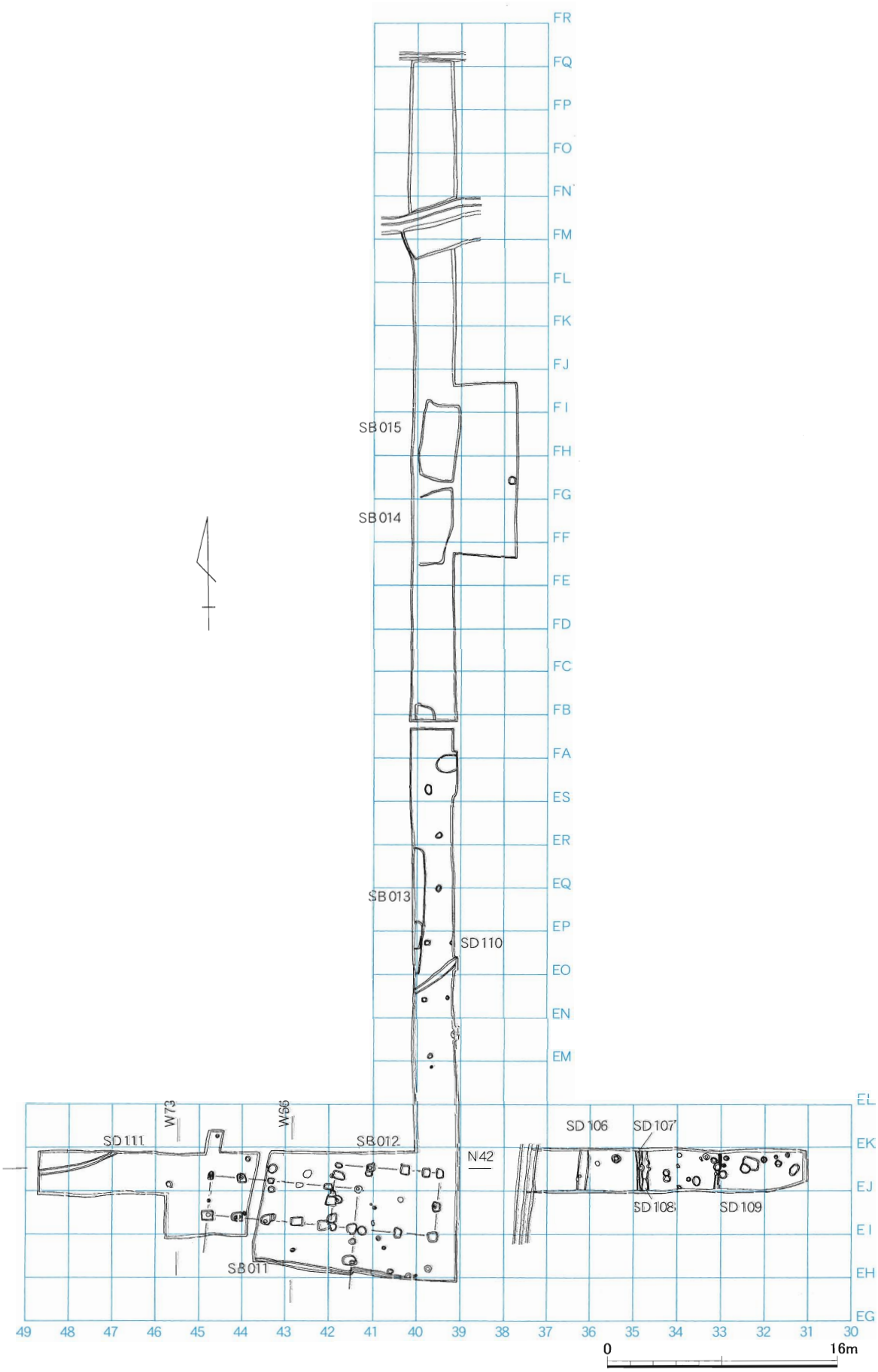
SB013（第44図）　EQ39付近で確認された竪穴建物跡である。南北９m、東西は0.7m以上、深さ0.07～0.12mを測る。調査区外へ続く。

SB014（第46図、第48図１～15）　黄褐色土の粘質土に掘り込んだSB014、015は共に黄灰色の粘質土に覆われ遺構検出面から15cm内外で灰色の強い粘土面に達し、一応これを床面と考えた。床面には柱穴は認められない。建物内には角礫（20cm前後）が数個ずつ配される。平面形は南北軸の長方形である。SB014は南北5.3m、東西は2.4m以上、深さ0.07～0.14mを測る。調査時は２号住居と呼称する。竪穴建物跡には黄灰色土や灰褐色土が堆積していた。中央部１㎡の範囲には木炭崩壊土が散布していた。

遺物は「FE39　２号竪穴覆土691205」、「FG39　２号竪穴覆土691205」と注記されていたものをあてた。須恵器蓋、坏身、土師器甕、土製支脚、ふいごの羽口残片が出土。48－１～13は須恵器、14は土師器、15は土製品である。１～５は坏蓋である。口縁端部はかえりがなく、下垂する。天井部には輪状つまみを持つ。１は内面に墨痕が残る。６～８は坏で、６は口縁下部が括れ、

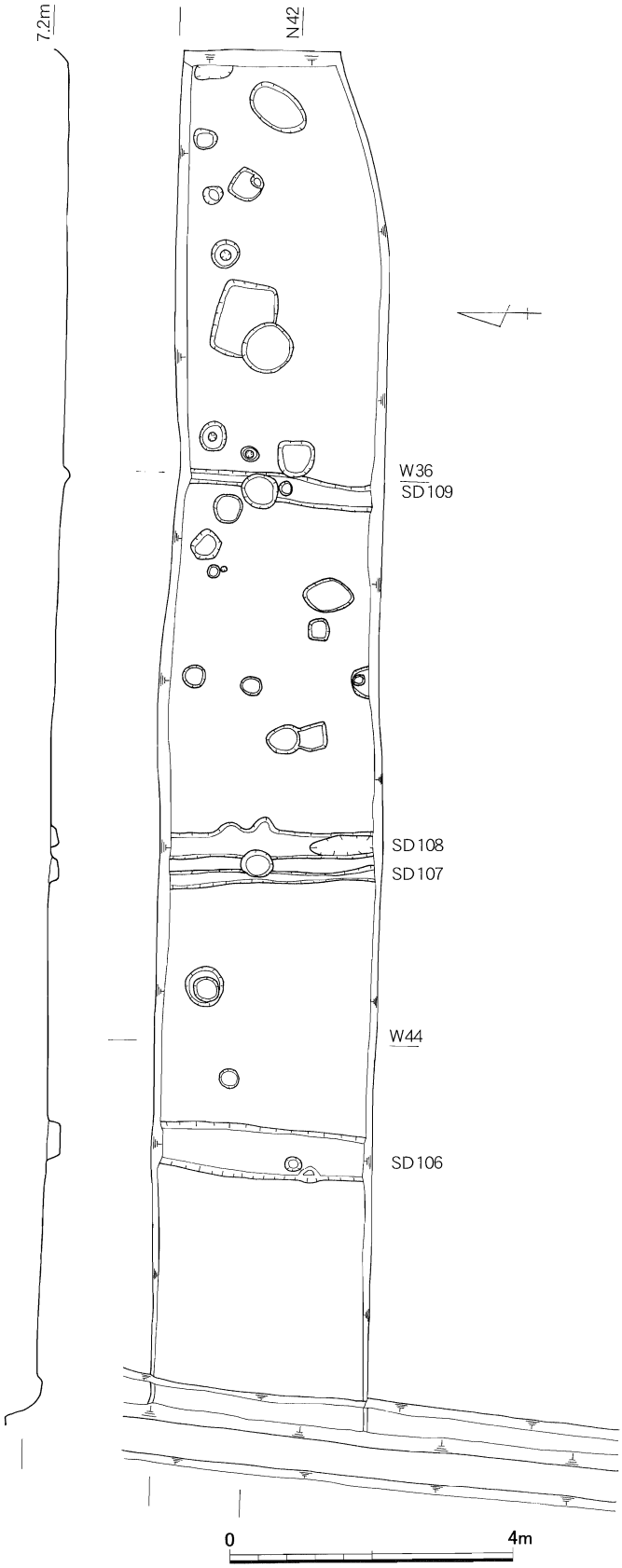


第36図　樋ノ口地区調査区配置図（S＝1：1,000）



第37図　樋ノ口地区遺構実測図（S＝1：400）

端部は外反する。８は高台を持つ。９～11は器壁が薄く壺と考えられる。12は大型の鉢で、口縁部に回転ナデによる凹みを持つ。内外面タタキ調整を残す。13は横瓶と考えられる。14は器壁が薄く、上方に伸びる。15は小型の土製支脚で、底部はくぼむ。



第38図　樋ノ口地区東側遺構実測図（S＝1：100）

SB015（第47図、第48図16～20）　SB014の北0.5mに位置する。調査時は１号住居と呼称する。南北5.6m、東西は2.7m、深さ0.11～0.19mを測る。東西セクションベルトでは３、４層（灰色土）が竪穴縁辺から内部へ傾斜して堆積している。

遺物は「FH39竪穴内691205」、「FI39竪穴内691205」と注記されたものをあてた。須恵器（蓋、坏身、壺）、土師器甕があり、覆土中から断片的に出土するのみである。礫は竪穴内部から出土し、北西端の出っ張りからややまとまって出土した。48－16～19は須恵器、20は土師器である。16、17は坏蓋で、輪状つまみを持ち、口縁端部は下垂する。17の内面には墨痕が残る。18、19は壺で、18は高台を持つ。19の底部は回転ヘラケズリ調整である。頸部の器壁は薄い。20は外反する口縁部を持つ甕である。

溝跡　東トレンチから南北に平行する４条の溝跡を検出した。西からSD106と名付けた。

SD106（第38図、第48図21、22）　EJ36付近で検出した。SB012の東0.9mに位置する。幅0.75m、深さ0.18～0.26mを測り、断面コ字形を呈する。

遺物は「EK36南北溝」と注記された遺物をあてた。48－21は須恵器坏蓋で、下垂する口縁部を持つ。やや器高が高い。22は移動式竈で、鰭部と考えられる。

SD107（第38図）　SD106の東3.3mに位置する。幅0.13～0.24m、深さ0.07～0.11mを測り、断面コ字形を呈する。幅は狭い。

SD108（第38図）　SD107の東0.2mに位置し、近接している。幅0.3～0.6m、深さ0.11～0.18mを測り、断面コ字形を呈する。

SD109（第38図）　SD108の東4.5mに位置

する。SD106との間隔は９ｍである。幅0.4m、深さ0.08～0.11ｍを測り、断面U字形を呈する。

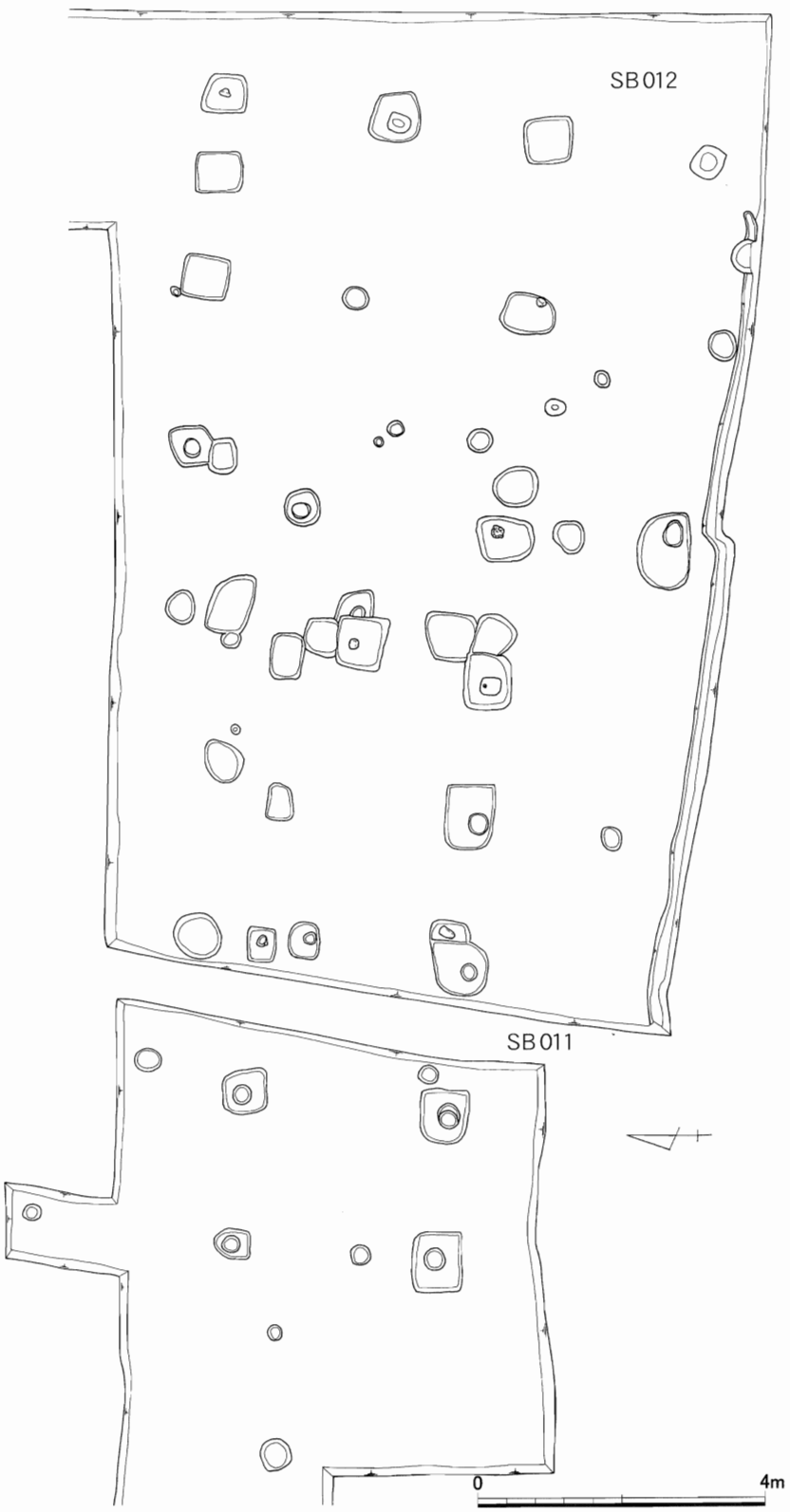
（４）その他の遺構・遺物

SD110（第44図）　EO39付近で検出した溝跡である。調査区を斜行している。幅0.5m、深さ0.15ｍ、検出長は3.7ｍである。断面はコ字形を呈する。

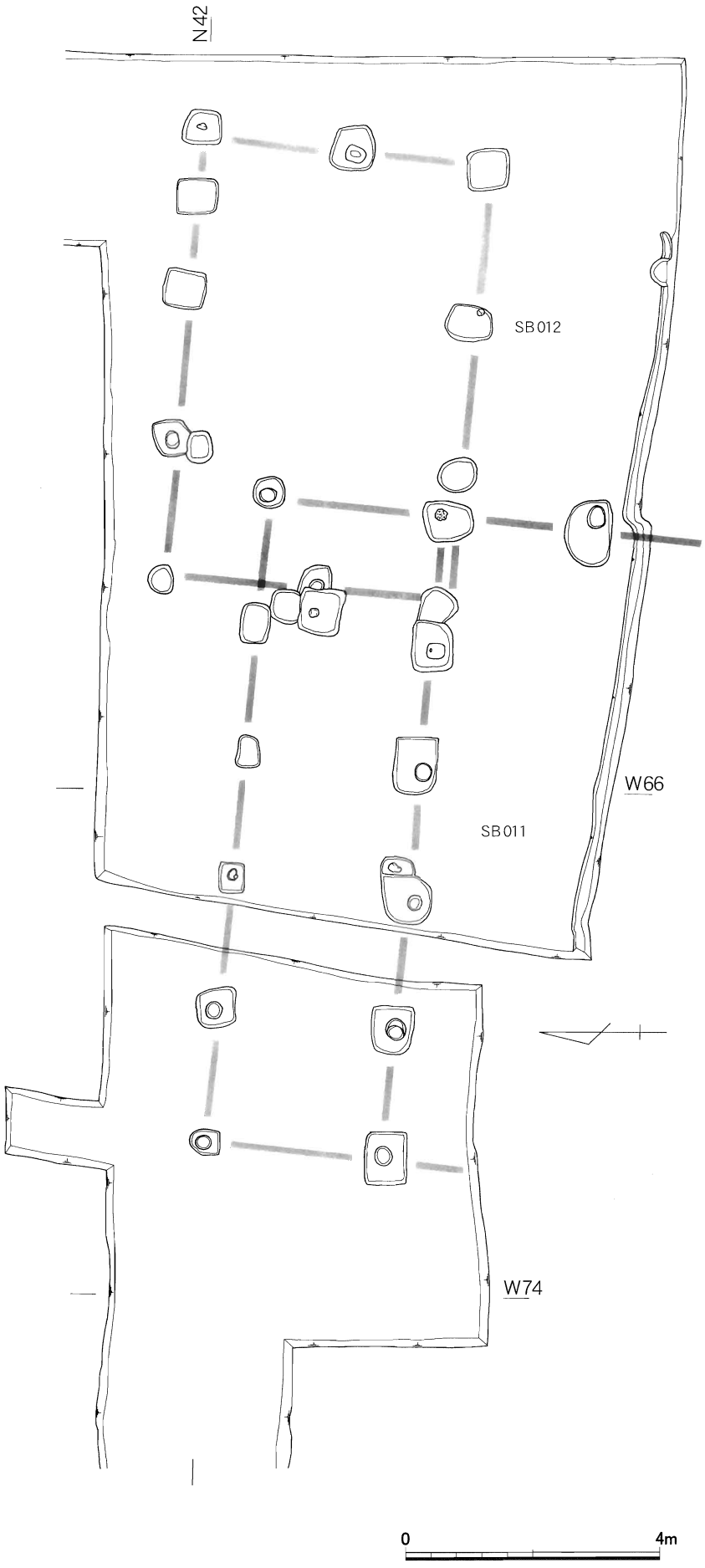
SD111（第37図）　EJ47付近で検出した溝跡である。調査区を斜行している。幅0.33ｍ、深さ0.13m、検出長は5.5ｍである。断面はコ字形を呈する。SD110と同形態であり、連続する一連の溝の可能性がある。

（５）出土遺物（第48図23～36）

48－23～32は須恵器、33、34は土師器である。25の高台付壺は内面全面と外面の一部に漆が付着する。26の長頸壺の頸部には１条の沈線が施される。27の皿は小片のため復元口径がやや大きいと考えられる。口縁部は外反し、浅い。28は口縁部の立ち上がりがほとんどない。高台を持つ碗あるいは皿である。29は大型の鉢と考えられる。30～32は甕である。



第39図　樋ノ口地区SB011・012付近遺構実測図（S＝1：100）



第40図　樋ノ口地区SB011・012の位置関係（S＝1：100）

33、34は甕で口縁部が大きく外側に外反するもの（34）とそうでないもの（33）がある。35は平瓦で、粗い縄目が残る。36は灰釉陶器壺と考えられる。

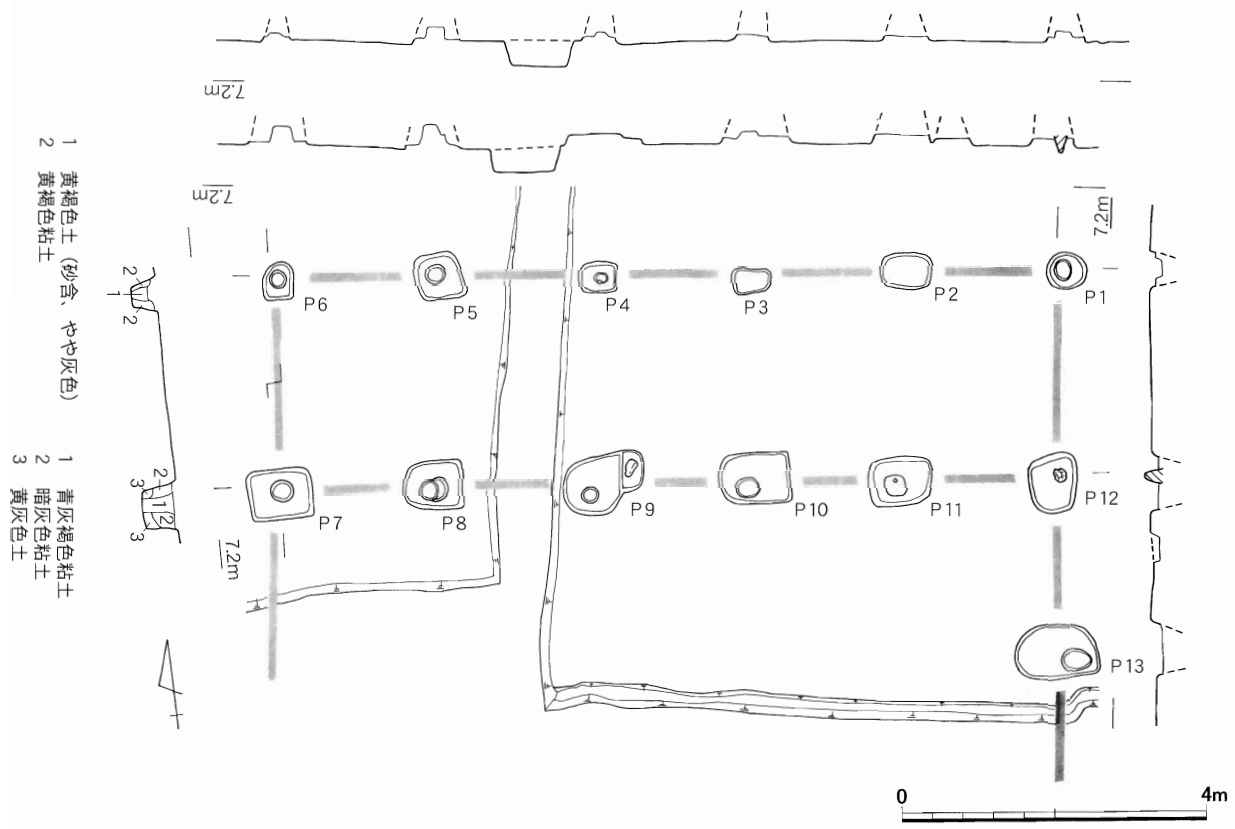
（6）小結

遺構は古墳時代と考えられる溝跡２条、古代の掘立柱建物跡２棟、竪穴建物跡３棟、溝跡４条を検出した。当初の調査目的である府域を示す溝や築地などは確認できなかった。

SB014とSB015は出土遺物から奈良時代の遺構である。また、SD106は、出土遺物は少ないが、同時期の遺物が出土している。他の南北軸の溝も平行して存在していることから近い時期の遺構と考えられる。

竪穴建物跡の性格はSB014内外から羽口が出土していることから工房の可能性が指摘されている（町田1975）。

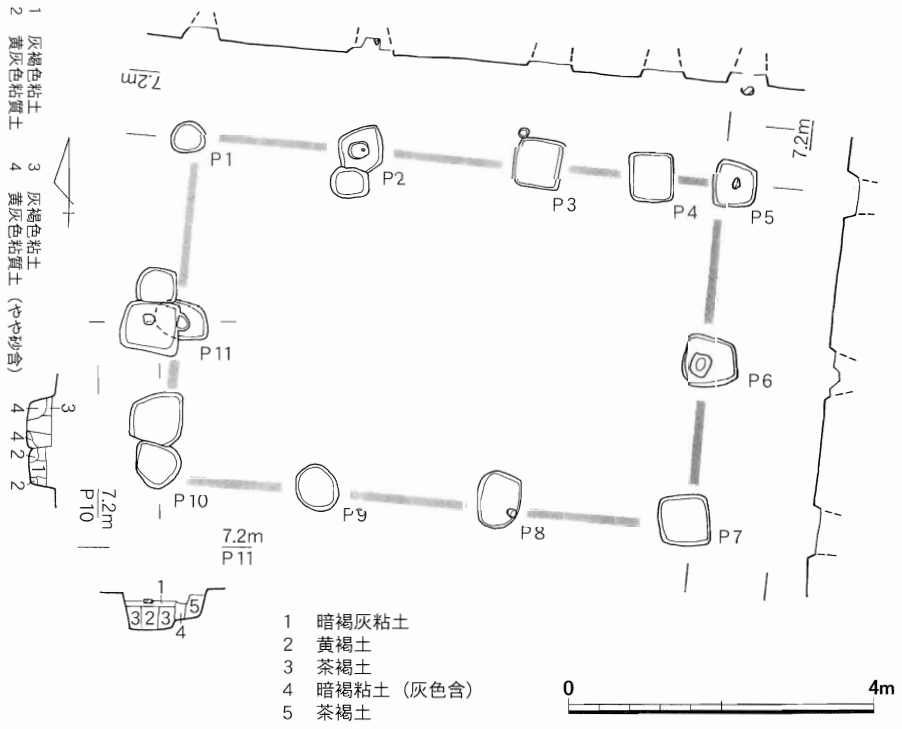
SB011とSB012の掘立柱建物跡は重複関係があり、SB012が古い。出土遺物はなく、



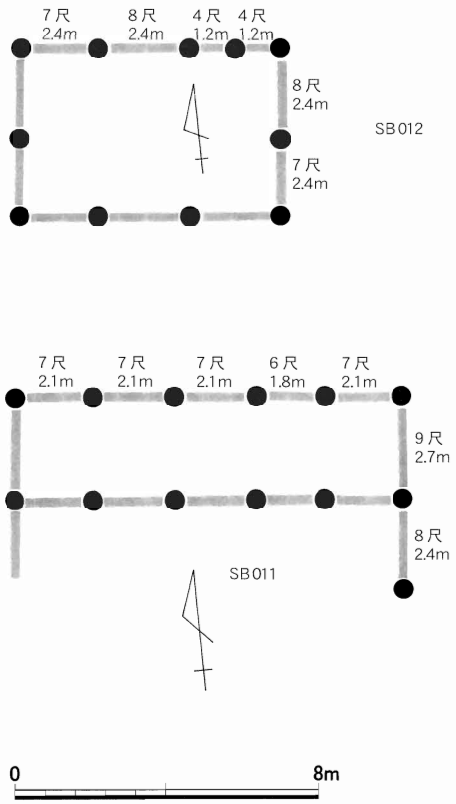
第41図　樋ノ口地区SB011実測図（S＝1：100）

時期の決定は難しい。規模が小さいことから倉庫のようなものの可能性が指摘されている（町田1975）。

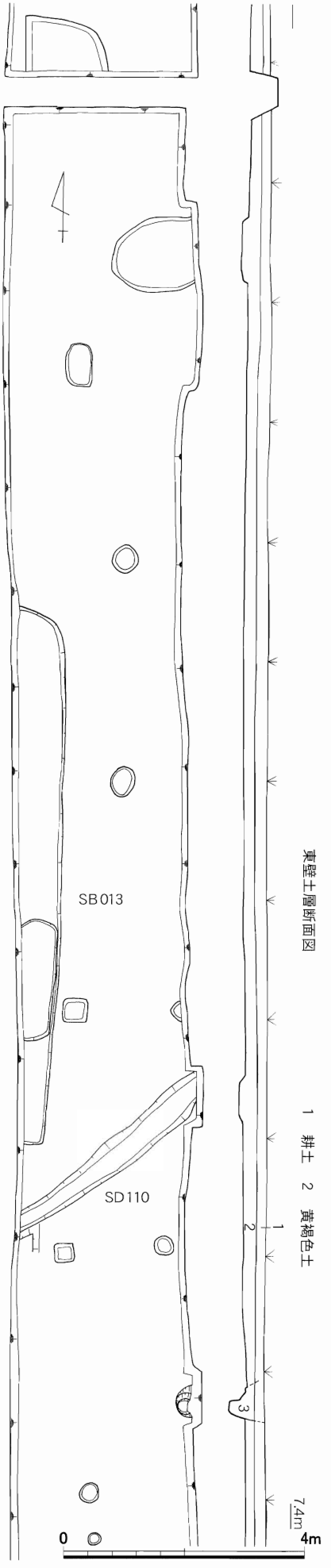
包含層を含め、出土遺物の時期はかなりまとまっていることから、存続時期は短く、北側に竪穴建物跡、南側に掘立柱建物跡が並んで存在していたと考えられる。



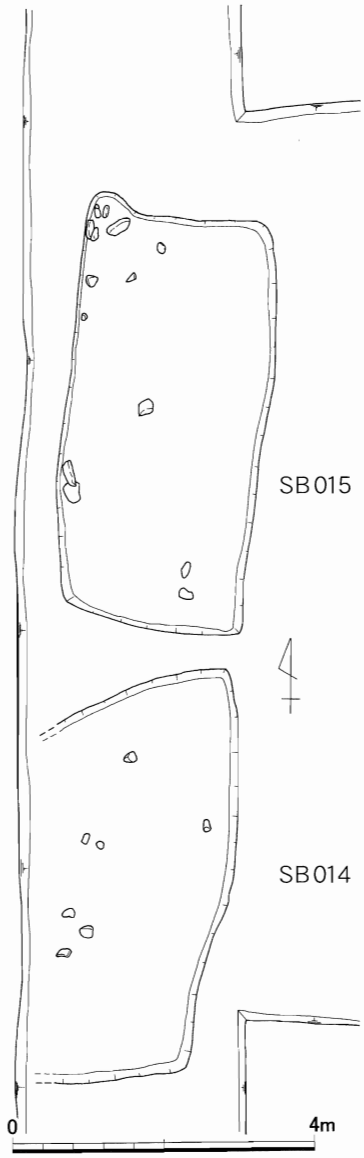
第42図　樋ノ口地区SB012実測図（S＝1：100）



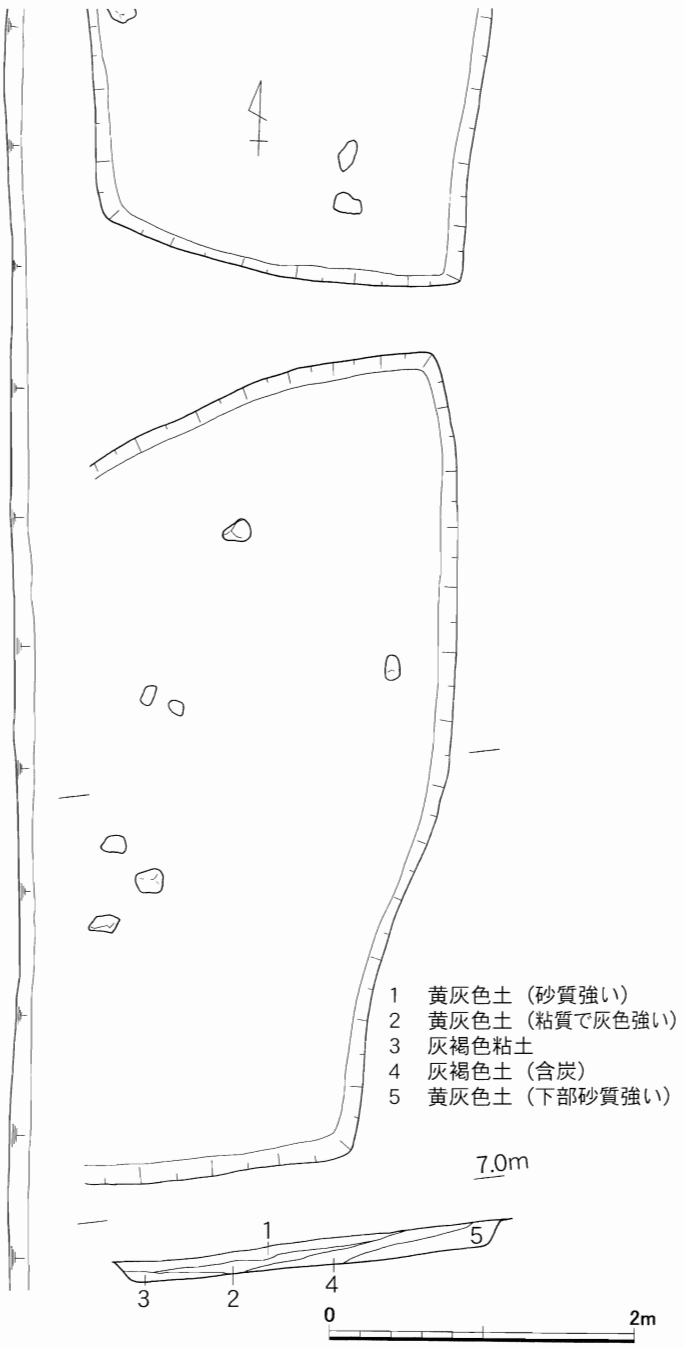
第43図　樋ノ口地区建物模式図（S＝1：200）



第44図　樋ノ口地区SB013付近遺構実測図
（S＝1：100）



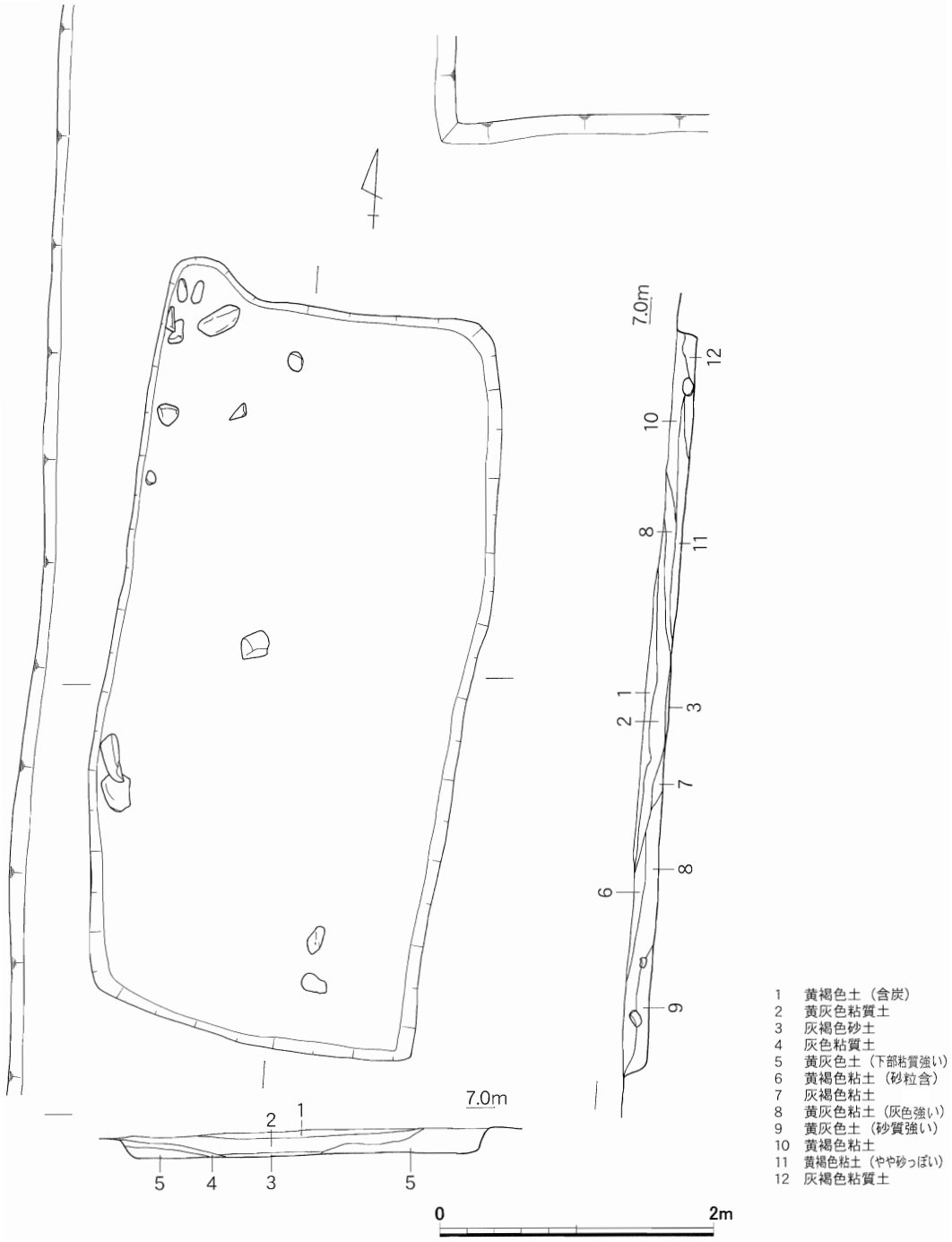
第45図　樋ノ口地区SB014・015の
位置関係（S＝1：100）



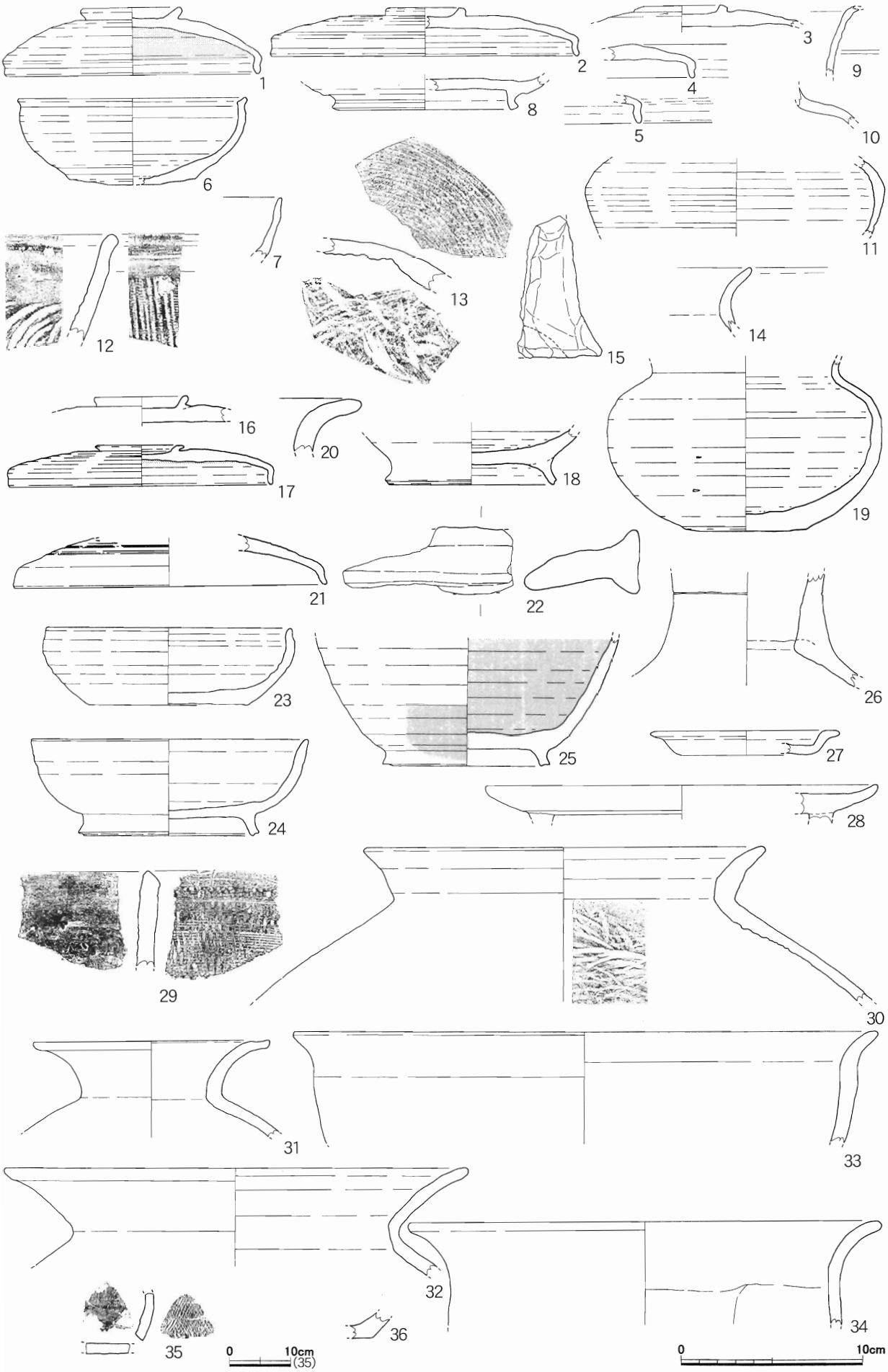
第46図　樋ノ口地区SB014実測図（S＝1：50）

注

（1）松江市1971、町田1975に掲載された遺構の説明は基本的に文献を参考にした。変更点は明記した。以下、各地区とも同様である。



第47図　樋ノ口地区SB015実測図（S＝1：50）



第48図　樋ノ口地区出土遺物実測図

第３節　一貫尻地区の調査

（１）調査の概要

一貫尻地区は松江市大草町字一貫尻に位置し、調査前は水田として使用されていた。第２次調査で、調査区を設けた。出雲国府跡の中心施設が存在した六所脇地区や宮の後地区の北側に位置し、平成11年度から発掘調査した大舎原地区の西側である。平成15年度から面的な調査を実施し、昭和の調査区の一部を再発掘している。その調査によれば護岸状遺構と石敷き遺構の２時期の遺構が存在していることが判明している（島根県2005）。

昭和に行われた発掘調査は幅３m、東西長38mのトレンチと北側調査区（30ラインと畦畔の間）を調査した。調査により一部拡張されている。

トレンチからは土坑２基、溝跡２条、柱穴が検出された。北側調査区からは河原石の集積、溝跡１条、落ち込み（SX101）１基が検出された。

（２）層序（第52図）

基本層序は30ライン西壁で見ると、１層耕作土、２層暗褐色粘質土、３、４層灰褐色砂質土である。４層はSX101の埋土となる。Ｇ区南壁土層との対比では、南壁１層は西壁１層、南壁２－１層、２－２層が西壁２層、３層と考えられる。東側は耕作土直下から石敷面が現れるが、西側に向かって低湿地状の窪地状となる。石敷面も３層黒灰色粘土と４層暗黄褐色土に分かれている。

土坑は砂層中からの検出になっているが、砂層面が生活面であったとは考えにくく、後世に礫層を構成した流水等により上面が削平され、深度が深い遺構のみ検出されたと考えられる（島根県2005）。

（３）古墳時代の遺構・遺物

SK101（第53図、第55図１～６）　GO31付近で確認した土坑である。直径1.7～1.8m、深さ0.22～0.24mを測り、平面形は円形である。SK102と切り合い関係があり、SK101が新しい。土層はＧ区南壁土層断面図によれば７層黒灰色土である。

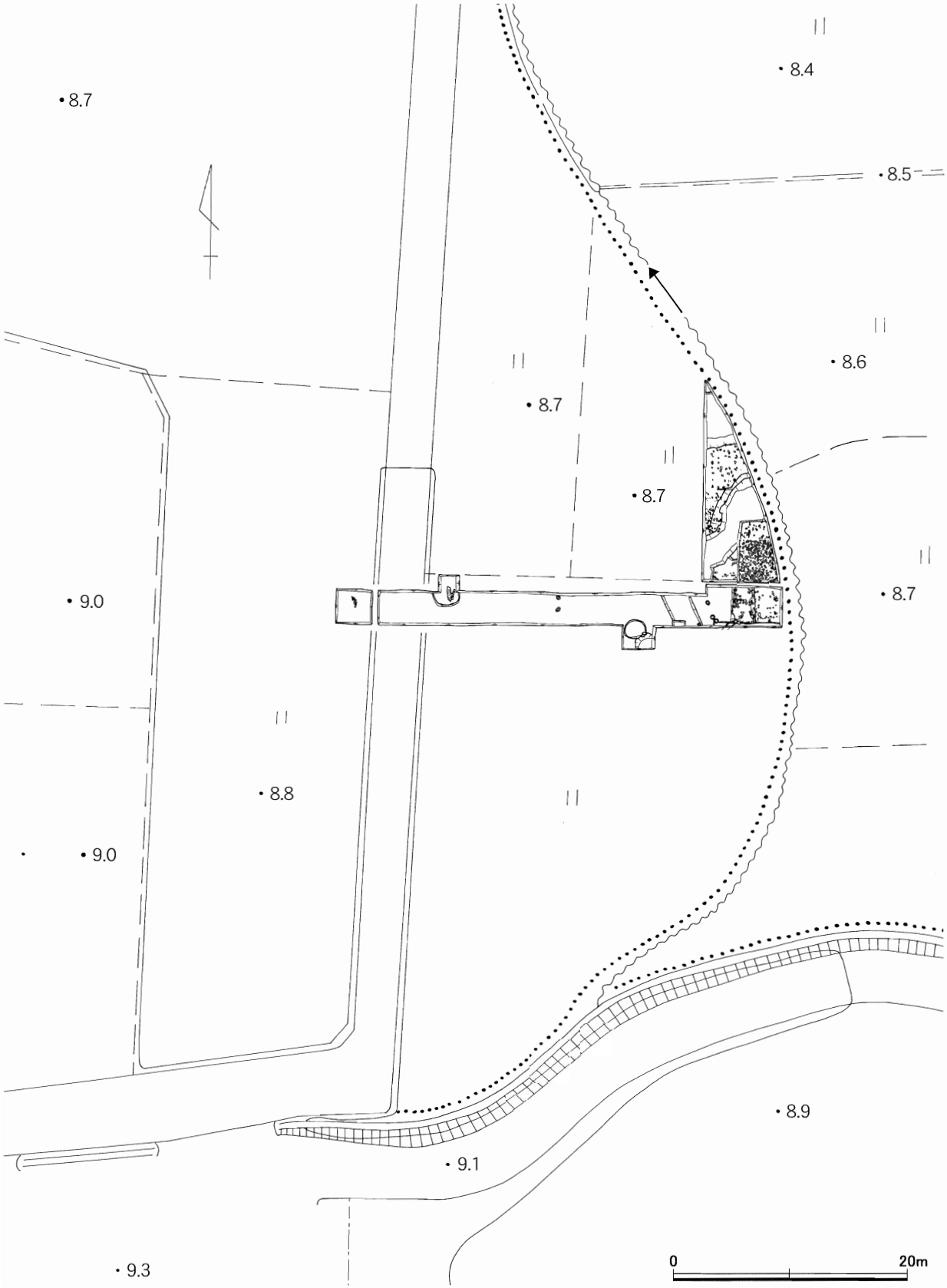
遺物は「GN31GO31ピット内」、「GO32凹み」と注記されたものをあてた。須恵器（坏蓋、坏身、甕）、土師器（甕、坏）が出土している。55－１の甕は口縁端部が外側に肥厚する。口縁部外面には二重口縁の名残としてのアクセントがある。２、３は高坏である。２は円盤を充填している。３の高台内面にはハケ目や指頭圧痕が残る。４は黒色を呈する甑の把手と考えられる破片である。把手上面には幅0.4cmの溝が施されている。５、６は土師器大型壺と考えられる。接点はないが、胎土や色調、器壁が厚いことなどから同一個体の可能性がある。５は口縁端部が平坦で、外側に拡張されている。６の肩部には逆Ｃ字形のヘラ状工具による沈線文が３箇所確認できる。

SK102（第53図）　GN31付近で検出した土坑である。遺構は大部分は調査区外へ続いている。復元径1.6m、深さ0.12～0.15mを測る。

SD101（第53図、第55図７～８）　GO30付近で検出した溝跡である。幅2.3m、深さ0.06～0.11mを測り、断面コ字形である。土層はＧ区南壁土層断面図によれば６層青灰色土である。

遺物は「GO30溝中」と注記されたものをあてた。須恵器（坏蓋、坏身、甕）、土師器（高坏、

壺、甕）がある。55－７は須恵器坏蓋で輪状つまみを持ち、口縁端部は下垂する。内面に墨痕が残る。混入品と考えられる。８は土師器壺と考えられる破片である。器壁が厚く、外面に突帯が付く。内面には湾曲があり、受け部を持つと口縁部と考えられる。55－５、６と同一個体の可能性もある。



第49図　一貫尻地区調査区配置図（S＝1：500）

（4）古代の遺構・遺物

石敷面（第50図、第55図12）　平成15年度から実施された一貫尻地区の面的な調査により、周辺に広がる石敷面は護岸状施設と石敷き遺構に分類できることが判明した（島根県2005）。平成15年度の調査においても第２次調査の調査区周辺から石敷き遺構が確認されている。第２次調査では狭いトレンチのため、詳細が不明であった。遺構が重なっているが、ここでは、一括して報告する。東側では耕作土直下から検出された河原石は径５～25cm、厚さ２～５cmを使用している。石敷面は調査区東端から４m西側で終わり、低湿地の窪地となる。土層は４層に分かれ（第52図）、堆積層からは土器や木製品が出土した。東西トレンチの29ライン付近には幅1.6mの平坦面がある。東側は石敷面から0.14m下がり、西側には0.08mの段差がある。

石敷面の西側に広がる窪地からはGO37付近とGO40付近の２箇所から木製品が出土した。前者からは板状の木製品と須恵器（55－12）が、後者からは長方形の板状の木製品が６本出土した。

SD103（第53図）　GR29付近で検出した、石敷面を南北に分けるように北東から南東に主軸を持つ溝跡である。幅3.0m、深さ0.2～0.3m、検出長は6.7mである。断面はコ字形を呈する。直線的ではなく蛇行している。

確実な遺物は不明である。「GA29GS29溝691112」と注記された遺物があり、対応するかは不明で、SD103の可能性がある。遺物は古代の須恵器（坏、高坏、甕）、古代末の土師器である。

（5）その他の遺構・遺物

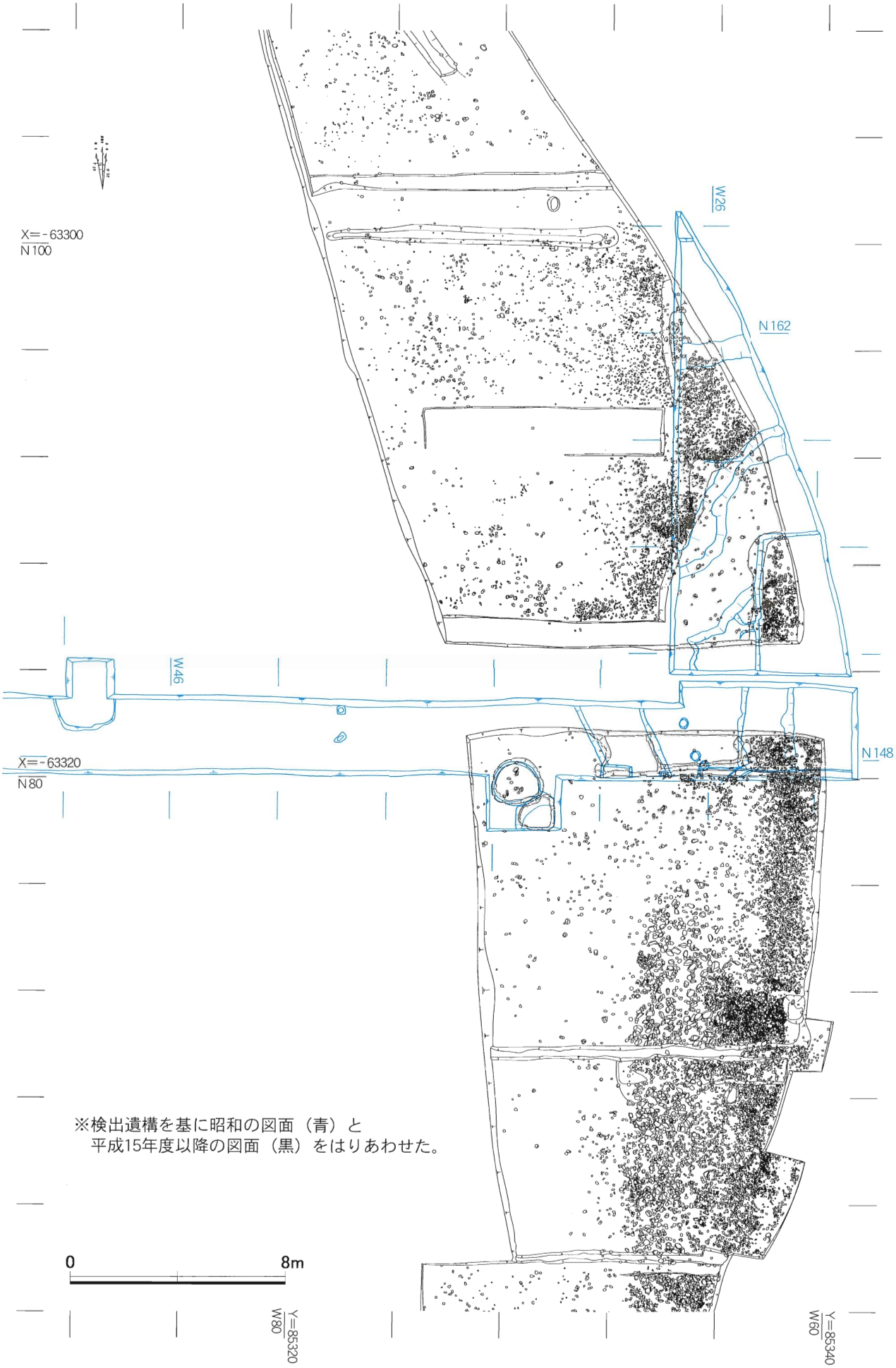
SD102（第53図）　GO29付近で検出した小さい溝跡である。幅0.34m、深さ0.25m、検出長は0.9mである。北東から南西に主軸を持ち、やや湾曲している。断面はコ字形を呈する。第52図のG区南壁土層断面図によれば石敷面より古い遺構となる。

SX101（第50図、第53図）　GB29付近で確認した落ち込みである。南北長4.9m、深さ0.25～0.27mを測る。平成15年度の調査では周辺部が広く調査され、深さ0.4mと深いことが判明した。また、青灰色砂層を切り込んで掘られ、西側には続いていない。また、大舎原地区２区北調査区からも続きを確認できなかったことから10mを越えるような遺構ではない。時期や性格、全体の形状も不明である。

（6）出土遺物

55－９～21は須恵器である。９、10は口縁端部が括れる坏である。11は底径の小さい坏で、丸みをもって立ち上がる。12、13、14は高台を持つ坏で、14の底部には爪状圧痕がある。15は糸切りされた底部片である。外面には焼成前の線刻があり、「林」の可能性がある。16は内面に突帯が廻ることから托と考えられる。底部は静止糸切りである。17の壺は内面や断面に漆が付着する。18は壺の高台である。19は古墳時代の器台である。外面にはコンパス文が描かれる。20の甕は頸部に櫛状工具によるカキ目が残る。21は須恵質の土錘である。両端部は鋭く切られている。Ｂ類（第166図）。

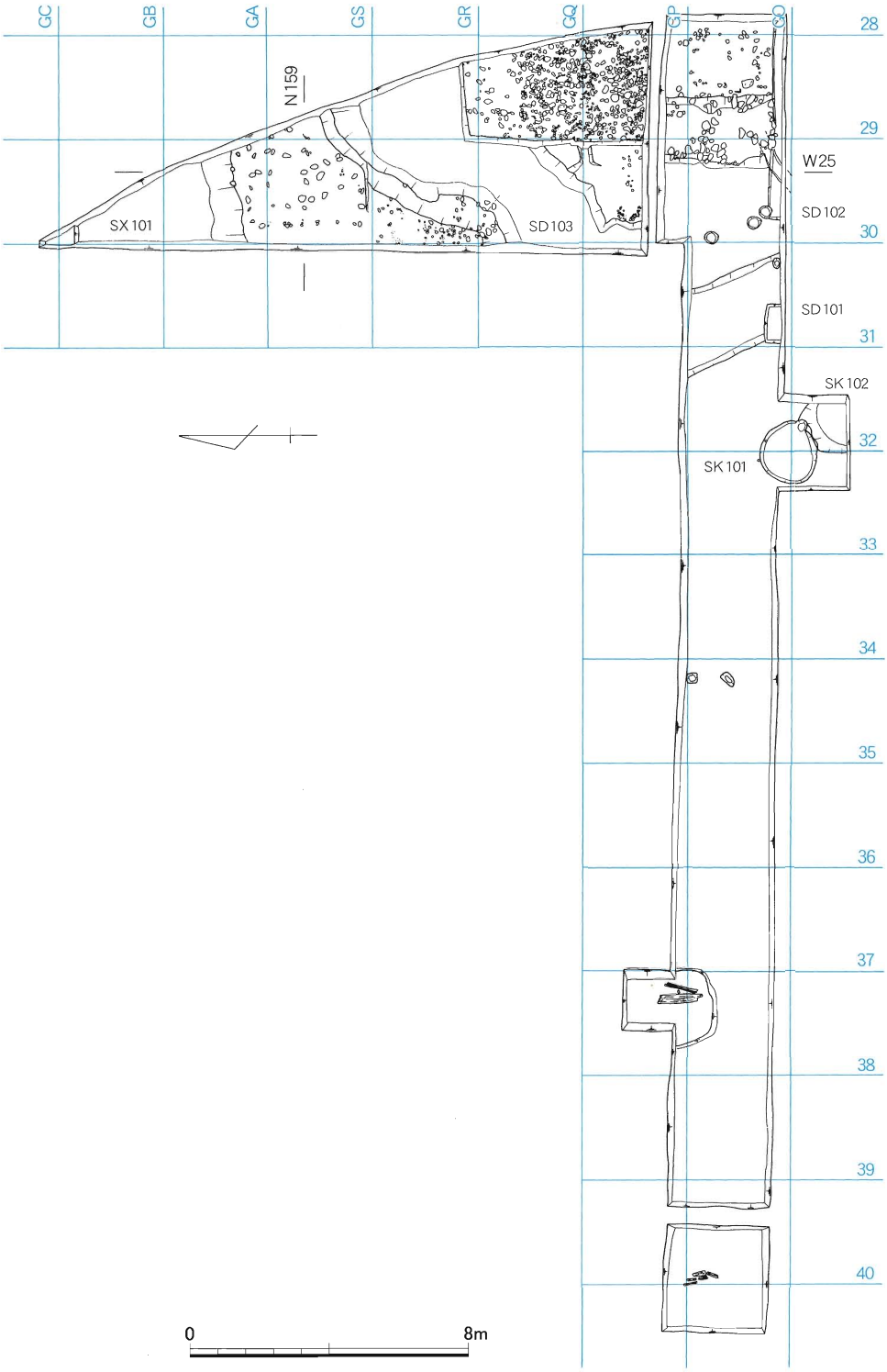
22～25は土師器である。22は古墳時代の甕と考えられる。23は手捏ねのミニチュア土器である。



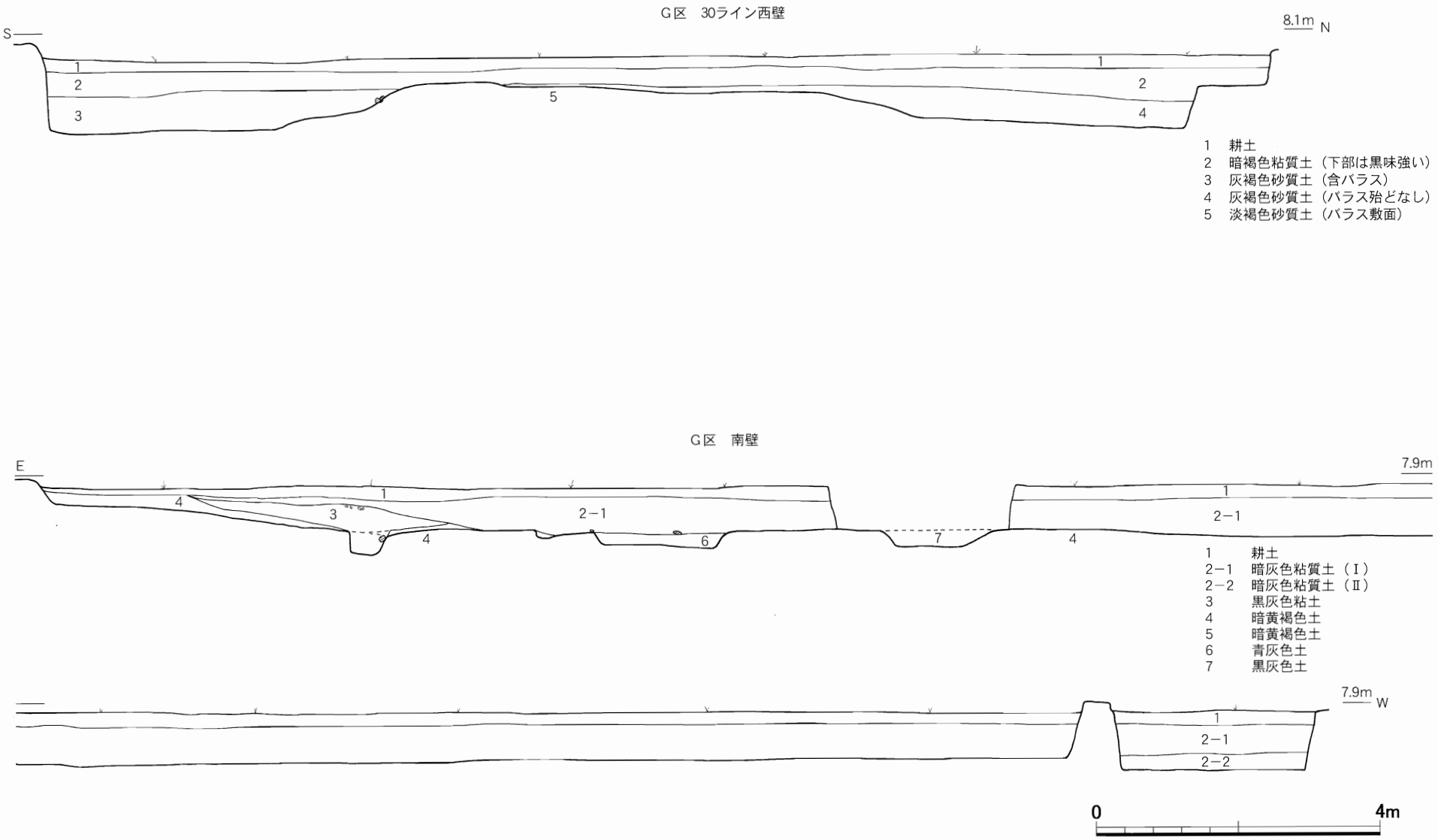
第50図　一貫尻地区の調査箇所（S＝1：200）

24の坏は口縁端部が内面に肥厚する。25は平安時代後期の坏である。26は備前焼の鉢と考えられ、『出雲国府跡３』34－１と接合した。擂目はない。27は中国製白磁Ⅷ類で、内面見込みに円形釉剥ぎがある。28は坩堝で、内面に金属滓が付着している。さらに周辺は比熱により灰色に変色している。29は土製支脚である。後方の突起は方形を呈する。内側は被熱している。30は移動式竈の鰭部で、端部は折れている。31は平瓦で、表面はナデ調整で、須恵質である。

32～34は石製品である。32は水晶の結晶体で、原石である。33は表面が風化し、剥離が著しいが凝灰岩製紡錘車である。平面形は方形に近いが、当初の形態は不明である。34は砥石である。３面以上使用され、１面には鋭い筋状の刃物痕跡が残る。35は木製品である。端部の片方は欠損しているが、一方は凸状に加工する。



第51図　一貫尻地区遺構実測図（S＝1：200）

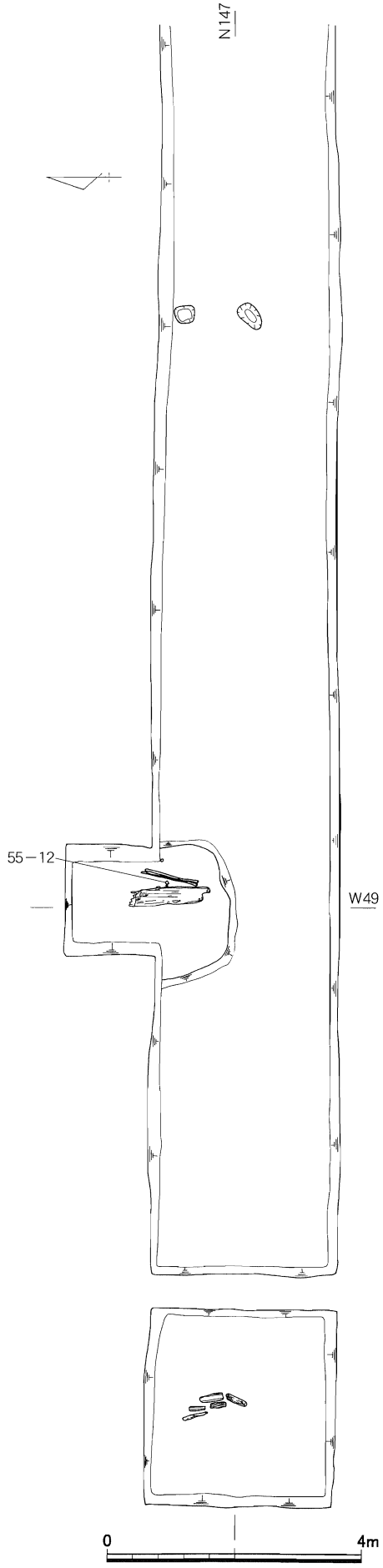


第52図　一貫尻地区土層断面図（S＝1：80）

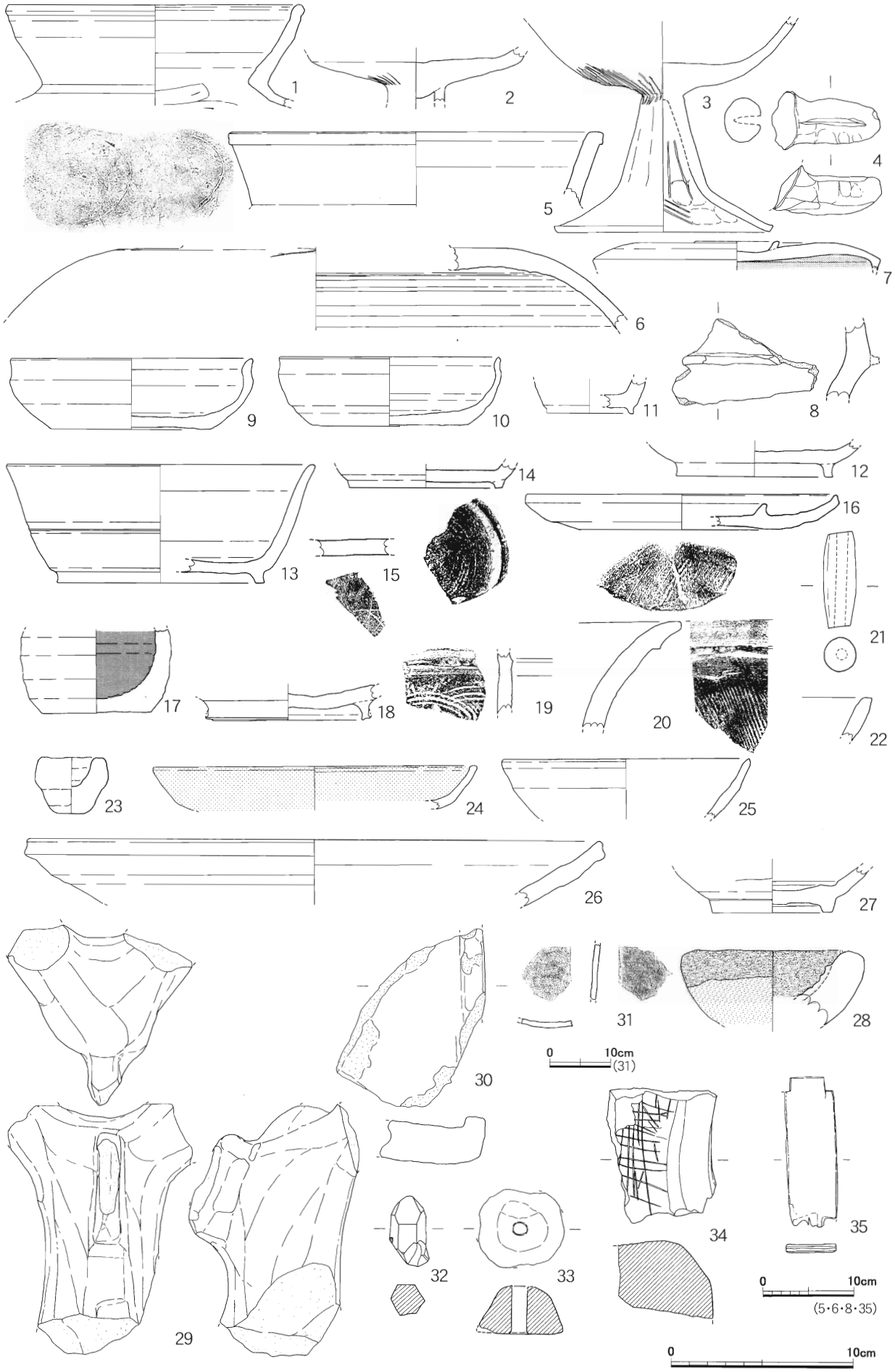
第53図　一貫尻地区東側遺構実測図（S＝1：100）

（7）小結

検出された遺構は古墳時代の土坑、溝跡、古代の溝跡、石敷面がある。遺物は古墳時代中期から平安時代後期までのものが出土している。宮の後地区で検出したSD034は東西に流れているが、途中から北に折れて流れる。石敷面はそのSD034の北の延長線上に位置する。石敷面の加工段は宮の後地区で検出したSD034の延長線上に位置し、これに関連する可能性がある。石敷面の東側は1999（平成11）年度からの調査により「国司館」に設定されている。この石敷面がその「国司館」の西端を区画している可能性がある。



第54図　一貫尻地区西側遺構実測図(S＝1：100)



第55図　一貫尻地区出土遺物実測図

第４節　六所脇地区の調査

（１）調査の概要

六所脇地区は松江市大草町字六所脇に位置し、六所神社の東側及び境内である。南側には意宇川が流れ、意宇平野の微高地にある。標高は北側の水田より１ｍ高く、南側及び東側は宅地となる。調査前は畑地である。

第２次調査の後、宮の後地区の建物配置が政庁になり得ないという疑問が出たことから、第３次調査の宮の後地区の様相が明らかになった段階で、Ｉ区を設定した。その後、六所神社拝殿東側にＪ区を追加した。

Ｉ区からは南面する５間４面廂付建物跡を検出し、政庁遺構の一郭に遭遇した可能性が強くなった。

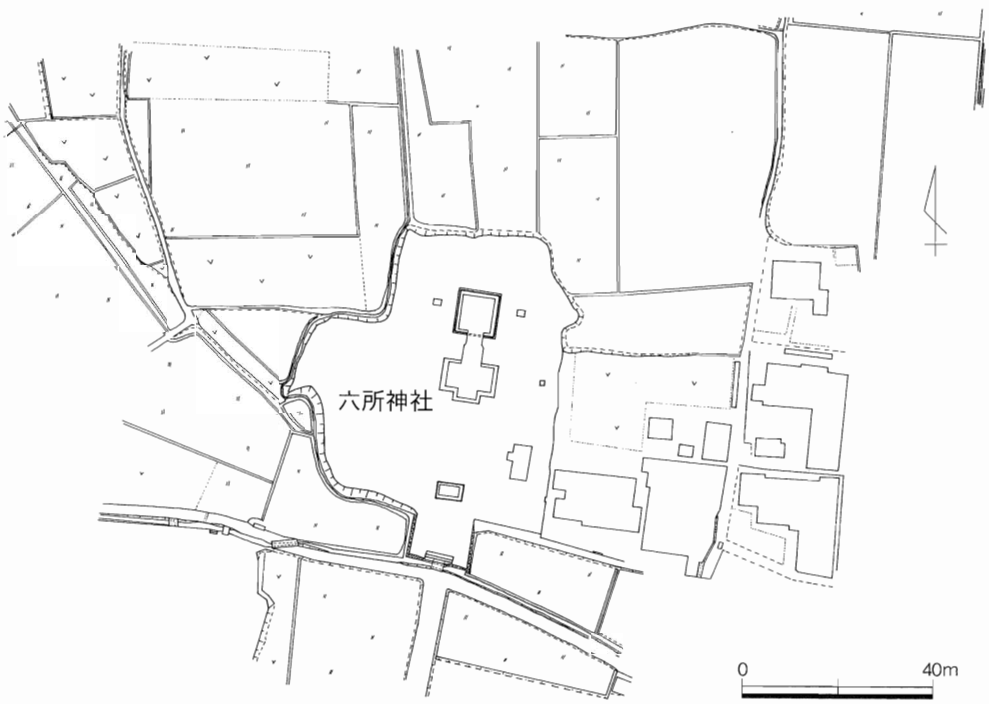
六所脇地区には大きく２枚の遺構面がある。下層からは、掘立柱建物跡４棟、古墳時代の溝跡２条、上層からは炉跡１基、土坑、小柱穴が検出された。

（２）層序（第59図）

基本層序をＩ区で見ると、約30㎝の１層耕作土の下に５層黄褐色砂質土がある。５層上面に鍛冶炉跡や小柱穴、土坑など平安時代後期の遺構がある。黄褐色砂質土（５層）は30～40㎝の厚さがあり、その下層には20～30㎝の厚さで暗褐色粘土（11層）が堆積する。11層には古墳時代の土器が比較的多く混入している。11層上面から古代の遺構が掘り込まれている。結果的には古代の遺構面の標高は、宮の後地区の遺構面の標高と大きな差はない。

Ｉ区とＪ区との土層対応は、Ｉ区５層がＪ区３層、Ｉ区11層がＪ区４層あるいは５層と考えられる。

上下層の整地層はきわめて曖昧に移行し、遺構検出は困難であった。上層の整地層内からは須恵器、土師器緑釉陶器などが発見されており、古代の遺構面は平安時代前期以降にかなり削平されている可能性がある。



第56図　六所脇・宮の後地区調査前地形図（S＝1：1600）

（３）古墳時代の遺構・遺物

SD054（第68図、第69図１～10）　IRライン上で検出した。東北東から西南西に主軸を持つ。SD055の北４mに位置する。幅1.9～2.0m、深さ0.6mを測り、断面U字形を呈する。大きく上下２層に分層できる。上層は２～５層、下層が６～11層と考えられる。

遺物は「IQ11東西溝」「IQ12東西溝」「IQ13東西溝」「IQ東西溝下層」と注記されたものをあてた。69－１～９は土師器である。１～４は小型丸底壺である。１は頸部が広く、全体に寸胴である。２の口縁端部は内側に肥厚する。６の高坏は坏部外面に明瞭な段がある。１～４、６は古墳時代前期末から中期初めと考えられる。５、10は混入の可能性もある。５は甑などの把手と考えられる。10は現状では棒状を呈する土製品である。端部は平坦で、周囲は指頭により整えられている。裏側は剥離面があり、移動式竈などの鰭の可能性がある。７は脚と考えられる。端部の平坦面は断面が丸い棒状工具により押さえられ、縦方向の沈線となる。内面はケズリ調整である。８、９は土師器甕で、「下層」と注記されている。弥生時代末から古墳時代初頭である。８の口縁端部は平坦である。９の口縁端部は先細りである。

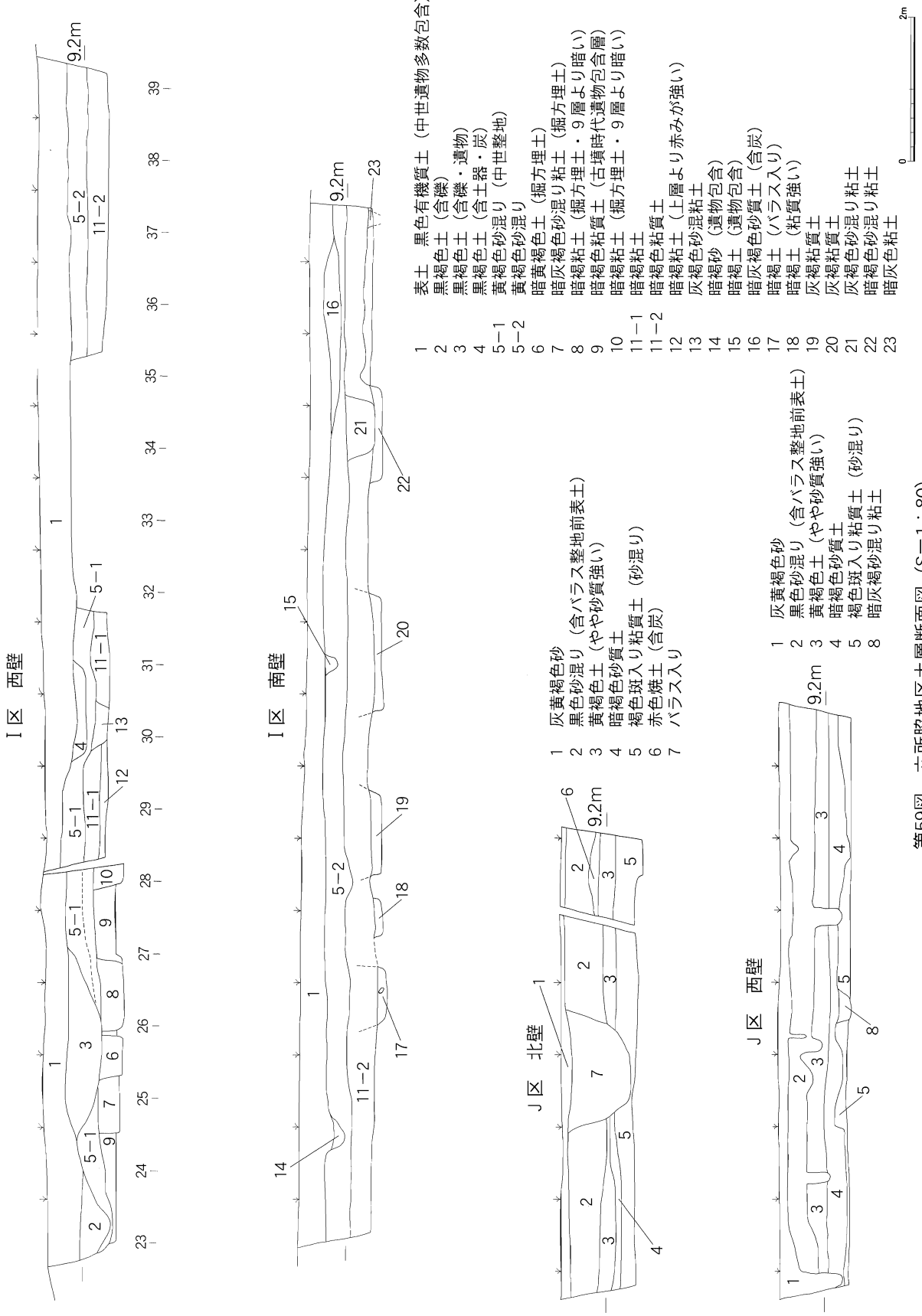
SD055（第68図、第69図11～14、第71図１）　IPライン上で検出した。東北東から西南西に主軸を持ち、SD054とほぼ並行する。幅2.8m以上、深さ0.6～0.7mを測り、断面U字形を呈する。遺物は平面での土層の識別が困難なため、第68図の土層図の上のアミを暗灰色含炭層で、下のアミを灰褐色砂層として取り上げている。

遺物は「IP10東西」と注記されたものをあてた。69－11～14、71－１は土師器である。11、

第57図　六所脇地区遺構実測図（S＝1：200）

第58図　六所脇地区調査区配置図（S＝1：500）

12は坏で、11は内外面に赤彩が残る。12の底部は手持ちヘラケズリである。13の高坏は体部外面にわずかに屈曲の跡がある。14の甕は二重口縁であるが、下方がかなり膨れている。口縁部も大きく外反している。71－1は甕で、口縁端部は内側に肥厚する。



第59図　六所脇地区土層断面図（S＝1：80）

その他の遺物（第69図15～19）

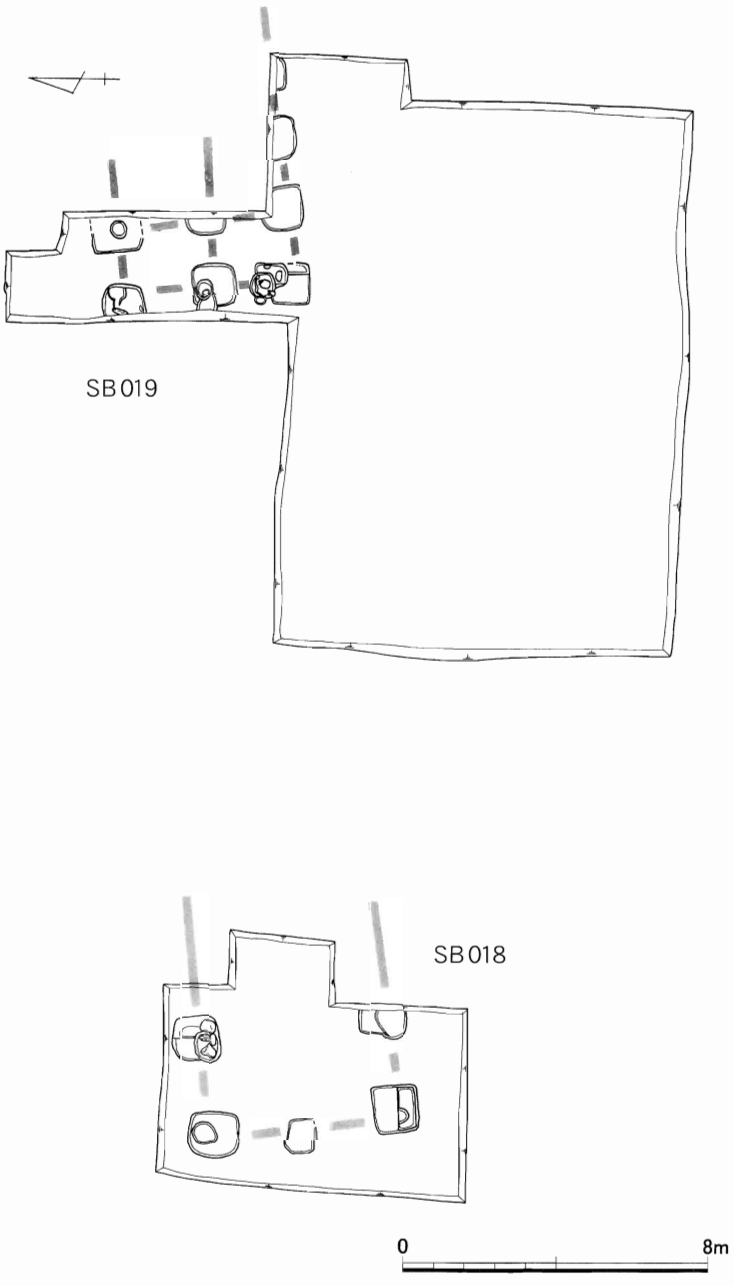
69－15～19は「IQ13柱穴」と注記されている遺物である。注記から対応する柱穴を検索するとSB020P1の可能性がある。しかし同じグリッドには他にも柱穴があることから決定打に欠く。また、出土している遺物が古墳時代であり、下層のSD054の遺物の可能性もある。遺物はすべて土師器である。15・16は同一個体の可能性がある甕である。15はかなり風化している。二重口縁で、口縁端部は平坦である。17は外反する口縁部を持つ高坏である。体部は丸みを持つ。18は筒部が退化した鼓形器台である。口縁部は外反し、脚部と筒部の境には段がない。19は高坏と考えられる。

（4）古代の遺構・遺物

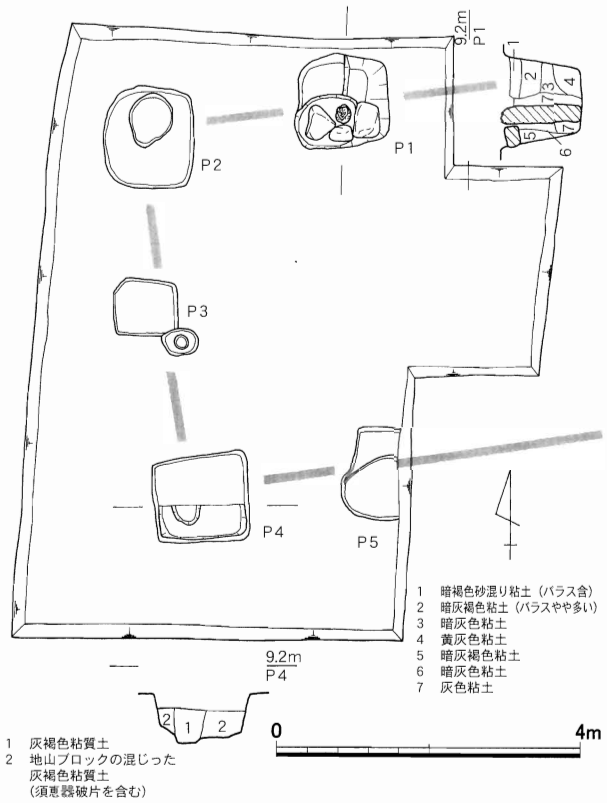
掘立柱建物跡は新旧２時期に区分できる。古い時期は２棟（SB018、019）である。新しい時期の建物は３棟（SB020（古・新）、021）である。

SB018（第61図）　JS17付近で検出した。建物の方向や規模は不明であるが、５ｍの間隔をおいて、２列の柱穴がある。西側の柱列の間にP3を復元したが、並びがずれているため、時期が違う可能性もある。概報（松江市1971）などでは採用していない。P1には柱根が残り、北側を除く３方には根固めの石材が残存する。

SB019（第62図）　IT10付近で検出した。すべての柱穴を検出していないため、規模は不明である。現状は東西棟で、３間（5.6m）以上×２間（4.4m）の建物で、西から１間目の梁間中央にも柱穴（P8）がある。



第60図　六所脇地区SB018・019の位置関係（S＝1：200）

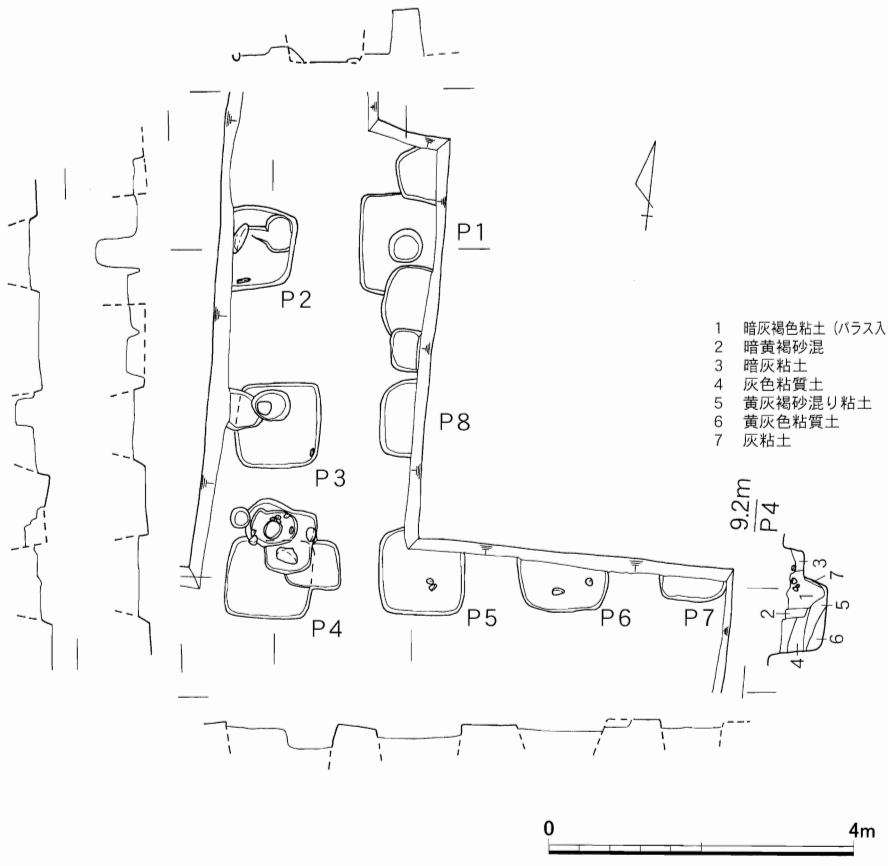


第61図　六所脇地区SB018実測図（S＝1：100）

SB020（第64・65図）　IR12付近で検出した。建物の全体を検出していないが、東西棟で、５間（14.0m）×４間（10.8m）の５間４面建物が考えられる。身舎の柱間は３mである。廂の柱列には建て替えが認められ、古・新として作図した。古段階（第64図）の廂柱間は2.9～３m、新段階（第65図）の廂柱間は2.4mである。SB018やSB019とは主軸が異なり、ほぼ軸に乗る。建物方位、柱穴が比較的小さく、柱の基部を根固めすることから、宮の後地区のE期に属すと考えられる。

SB021（第66図）　今回の整理で検討し、復元した。JS18付近で検出した。２間（2.4m）以上×２間（5.9m）である。P2やP4には根固めの石材の他、P2では柱根が残る。

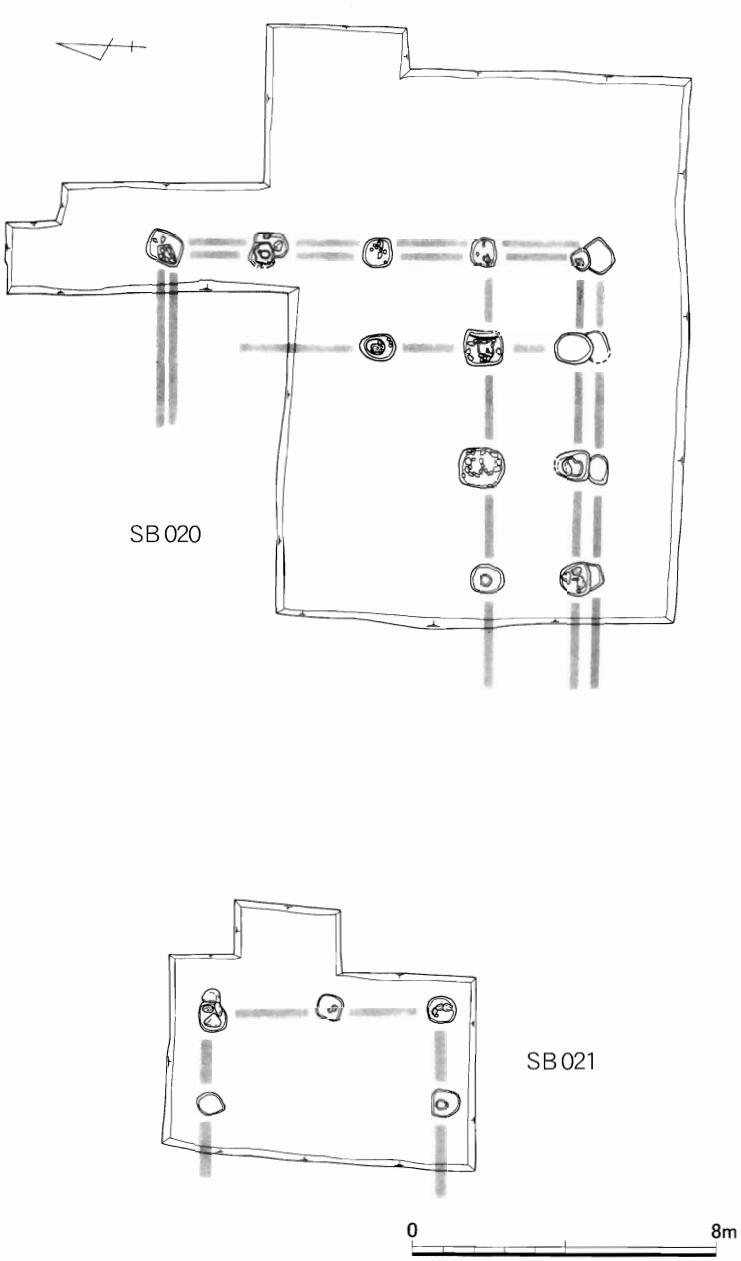
SD104（第57図）　JS18付近で確認した溝跡である。SB018に切られている。幅0.4～0.6mを測る。南端はSB021P5手前で止まる。



第62図　六所脇地区SB019実測図（S＝1：100）

（5）その他の時代の遺構・遺物

SK123（第68図）　IQ09付近の上層で検出した炉跡である。直径0.55m、深さ0.05mを測る。擂鉢状に凹み、周辺の表面は赤く焼けている。上層の遺構からは緑釉陶器の破片が多数発見される。古代末から中世にかけての時期に盛土整地され、その後に炉跡が作られている。



第63図　六所脇地区SB020・021の位置関係（S＝1：200）

その他の遺物（第69図20～28）

69－20は「IQ09黒色ピット」から出土した鉄製品である。残存長7.5cm、幅2.2cm、厚さ0.5cmを測る。長方形を呈し、端部近くに円形の穴が開く。21～25は「IR09灰黒色溝701129」と注記された遺物で、遺構の所在は不明である。この溝として注記されている遺物には須恵器（古墳時代の坏蓋、高坏、高台付坏、甕）、土師器（甕）、古代末土師器坏、製塩土器、瓦、緑釉陶器がある。21～25は古代末の土師器坏である。法量は大小があるが、器形は類似する。22の口縁端部には油煙の痕跡が残る。25はハの字に広がる高台を持つ。

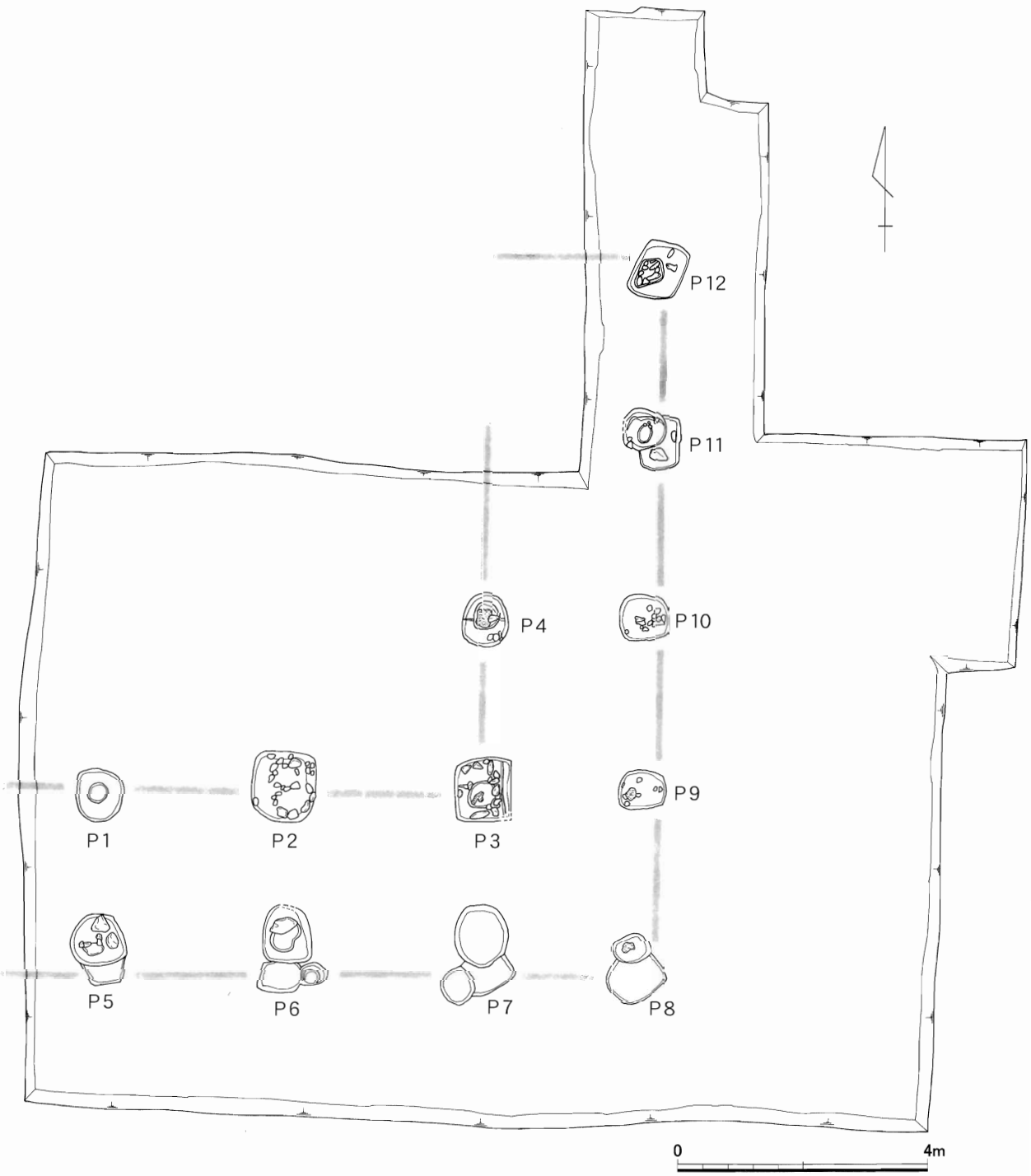
26～28は緑釉陶器で、26は「IQ10土坑」、27は「IS10暗褐色土坑」出土であり、9世紀後半の京都系である。28は「IT0（IT10か）黒土坑」出土で、近江系である。

（6）出土遺物（第69図29～第71図）

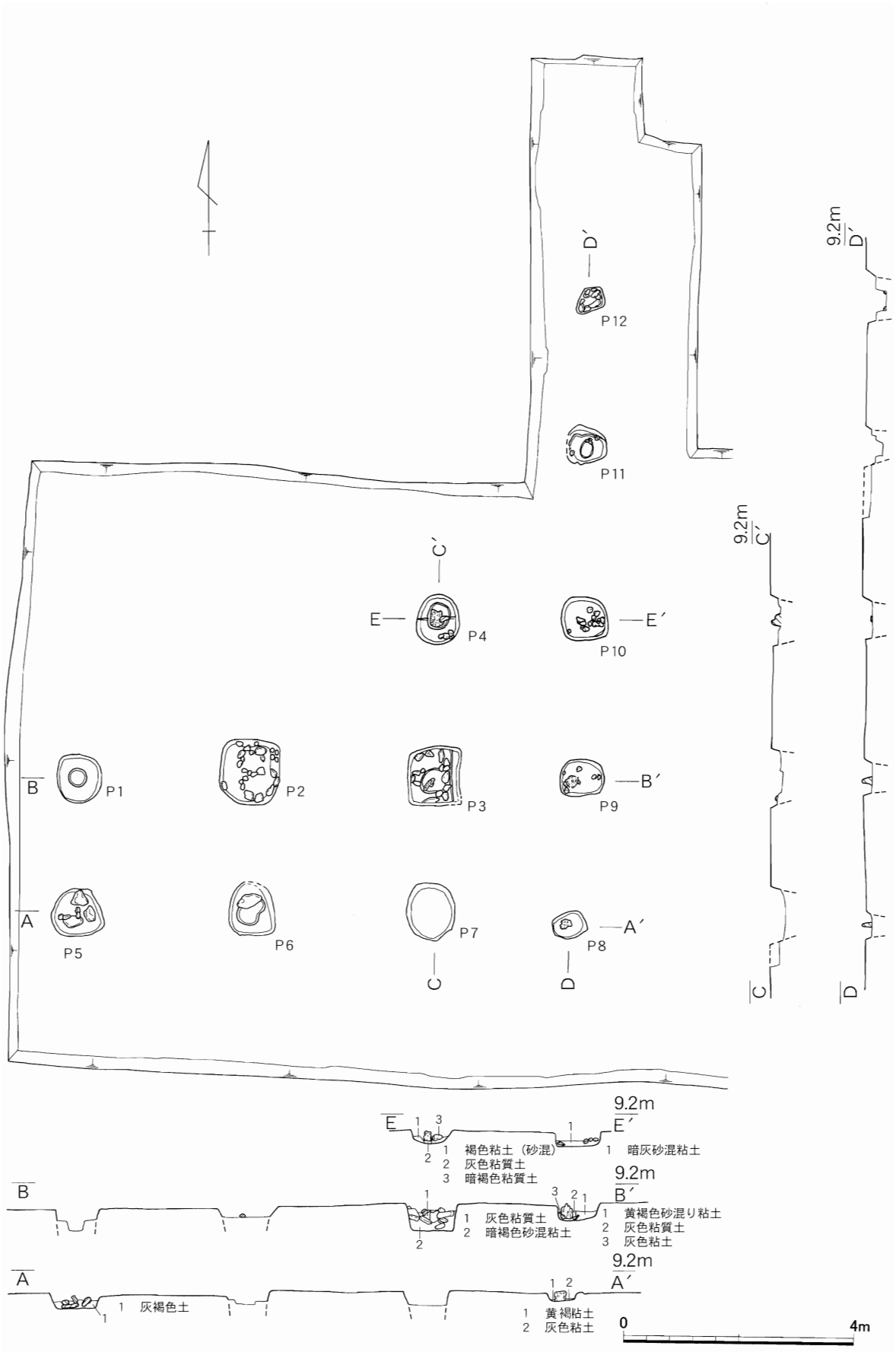
69－29～33は黒色土器である。内面のみ黒色処理され、33の皿以外は碗である。34～39は緑釉陶器である。34、35は削り出し高台で、円盤状を呈する。36は端部をヘラ状工具で押し、輪花状にする。39は口縁端部を内側から押すことにより輪花状にする。40は越州窯系青磁で、高台上

に８箇所、内面に２箇所以上の目跡がある。

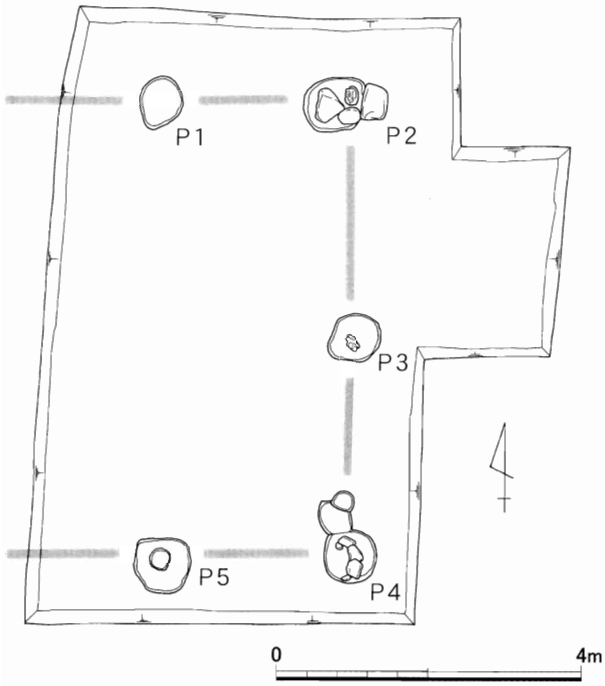
第70図は須恵器である。１～４は蓋である。１～３は古墳時代の坏蓋で、天井部はヘラケズリが残る。４はかえりの付く蓋で、転用硯である。外面にヘラ記号がある。５～11は古墳時代の坏身である。12～14は高台付坏である。12は高台内面に爪状圧痕が残る。14は内面が磨滅している。15は硯で、上面が磨滅している。16～18は高坏で、透かしが入る。坏部はコの字形を呈する。19～23は壺である。19は底部が広い。20は頸部外面にヘラ記号「×」がある。21は頸部に突帯を持つ。22は短頸壺で、胴部内外面はタタキ調整である。24、25は甕である。26は古墳時代の器台である。２段以上の三角形透かしがある。１～11、16～18、26の古墳時代の遺物は暗褐色土からの



第64図　六所脇地区SB020（古）実測図（S＝1：100）



第65図　六所脇地区SB020（新）実測図（S＝1：100）



第66図　六所脇地区SB021実測図（S＝1：100）

出土である。

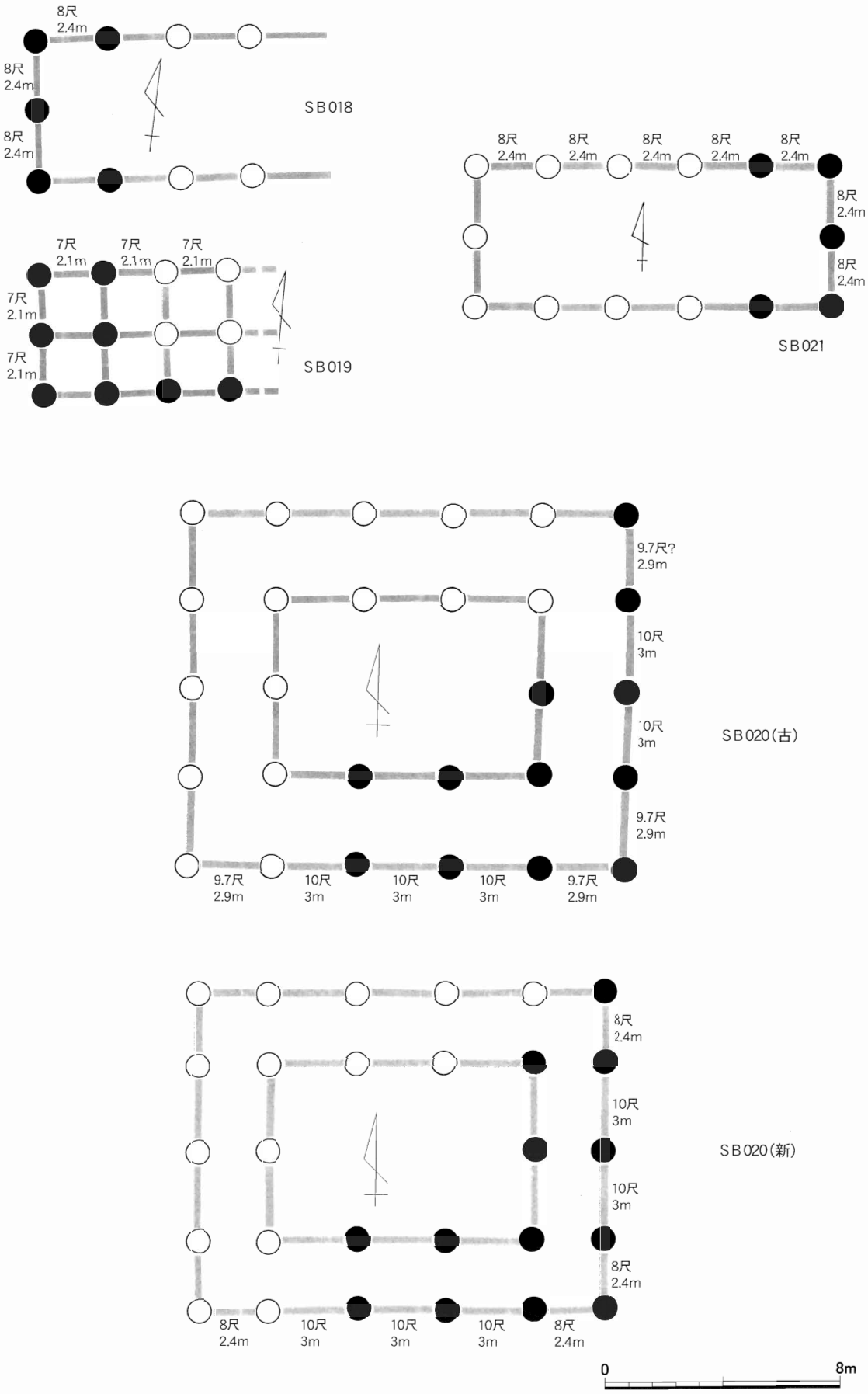
第71図は土師器、土製品、瓦である。１～４は甕である。２は内側に肥厚する。３の口縁部内面には浅い沈線状のくぼみがある。５は小型丸底壺で、外面ハケ目調整が残る。６の鉢は逆ハの字に開く口縁部を持ち、口縁部内面はヘラケズリである。口縁部内面から外面にかけて赤色顔料が残る。７～10は高坏である。７は表面が風化しているが、わずかに赤色顔料が残る。９は坏部内面から脚部にかけて赤色顔料が残る。脚部の内面は浅くくぼむ。10の坏部は凹状を呈する。11、12は土製支脚である。11は突起が３方向にあり、太い。12は小型で、突起は３方向である。13は軒丸瓦で、珠文帯と細い圏線を巡らせた平縁である。出雲国分寺跡３類である（前島1975）。14～30は耕作土あるいは黒褐色土から出土した土師器である。多くが回転糸切りで、体部は回転ナデである。21の底部はナデ調整で、厚い。

７、10は注記が明瞭でなく、包含層に入れているが、出土日時や層位からSD055の可能性がある。また、２～６、８、９、11、13は暗褐色土から出土している。

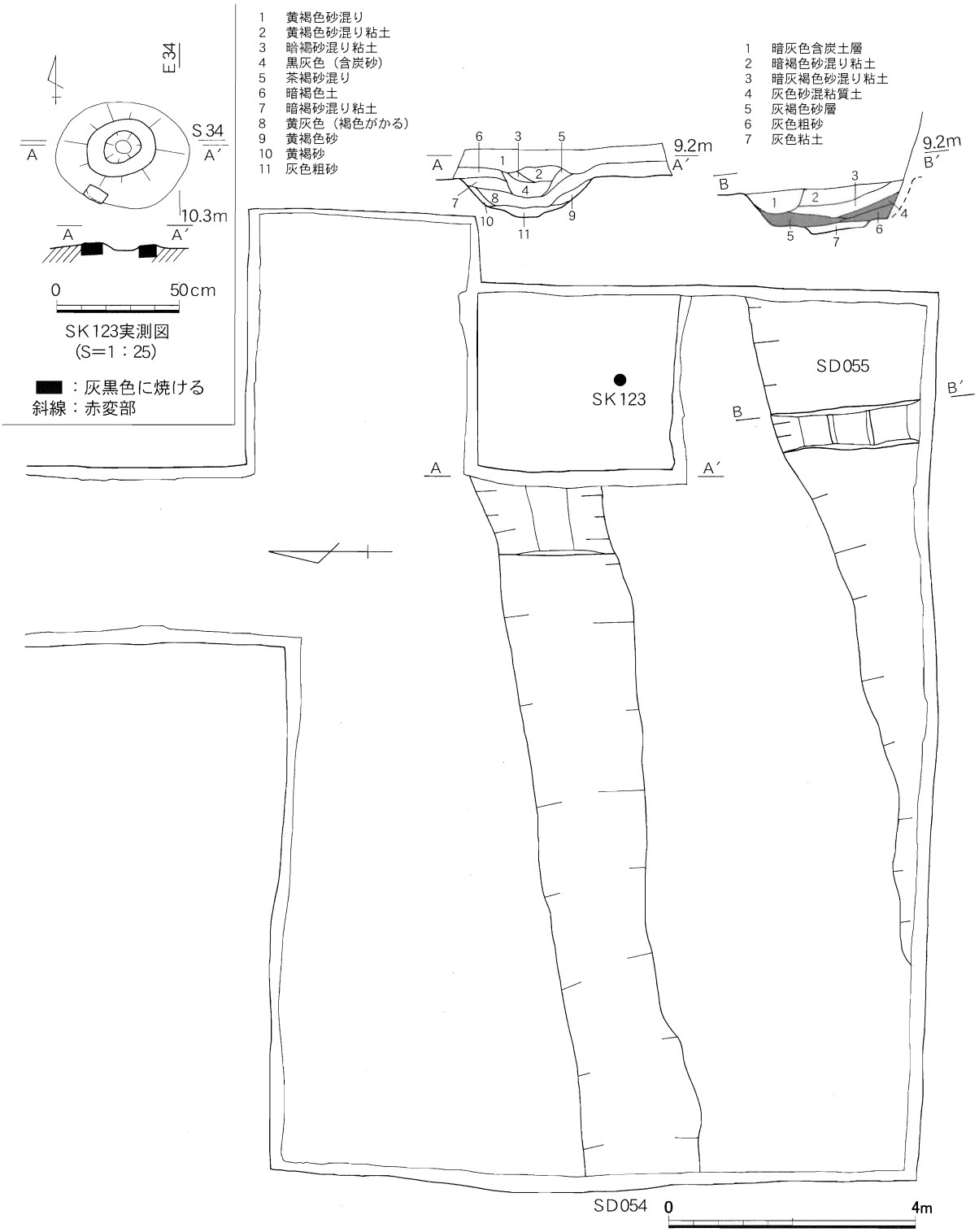
暗褐色土からは古墳時代の遺物が多く出土し、包含層の時期を示している可能性が高い。しかし、13の軒丸瓦が出土し、混入の可能性も否定できないが、造成時期を示している可能性も考えられ、今後検討を要する。

（７）小結

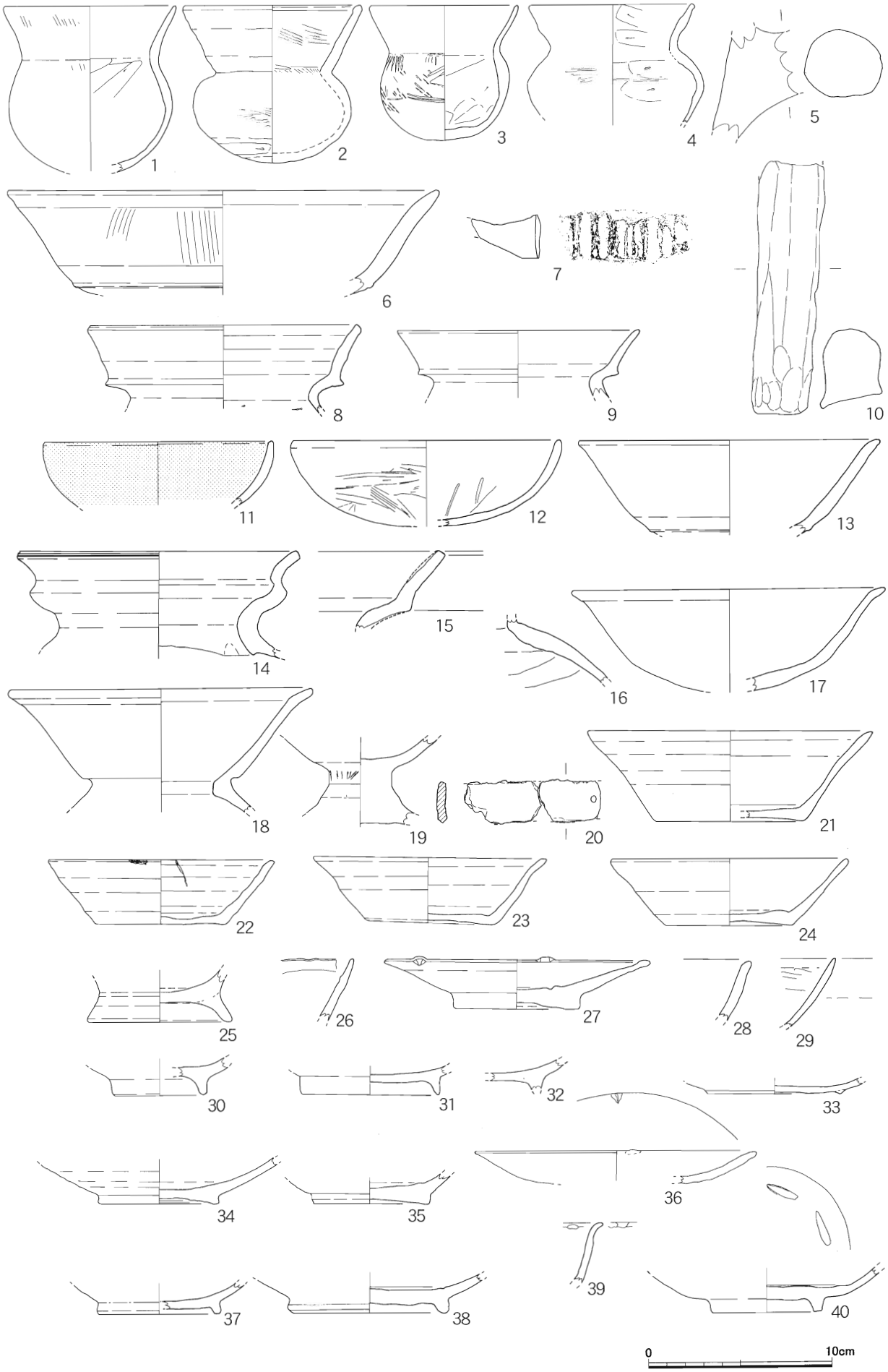
検出遺構は、弥生時代末から古墳時代中期の溝跡と、古代の掘立柱建物跡がある。掘立柱建物跡は２時期あり、古い時期の建物は軸が磁北に近く、Ｂ期に先行するＡ期とされている。新しい建物は軸にのっており、Ｂ期以降と考えられる。遺物では黒色土器や緑釉陶器などが多く、大規模な造成を行っていることが判明した。



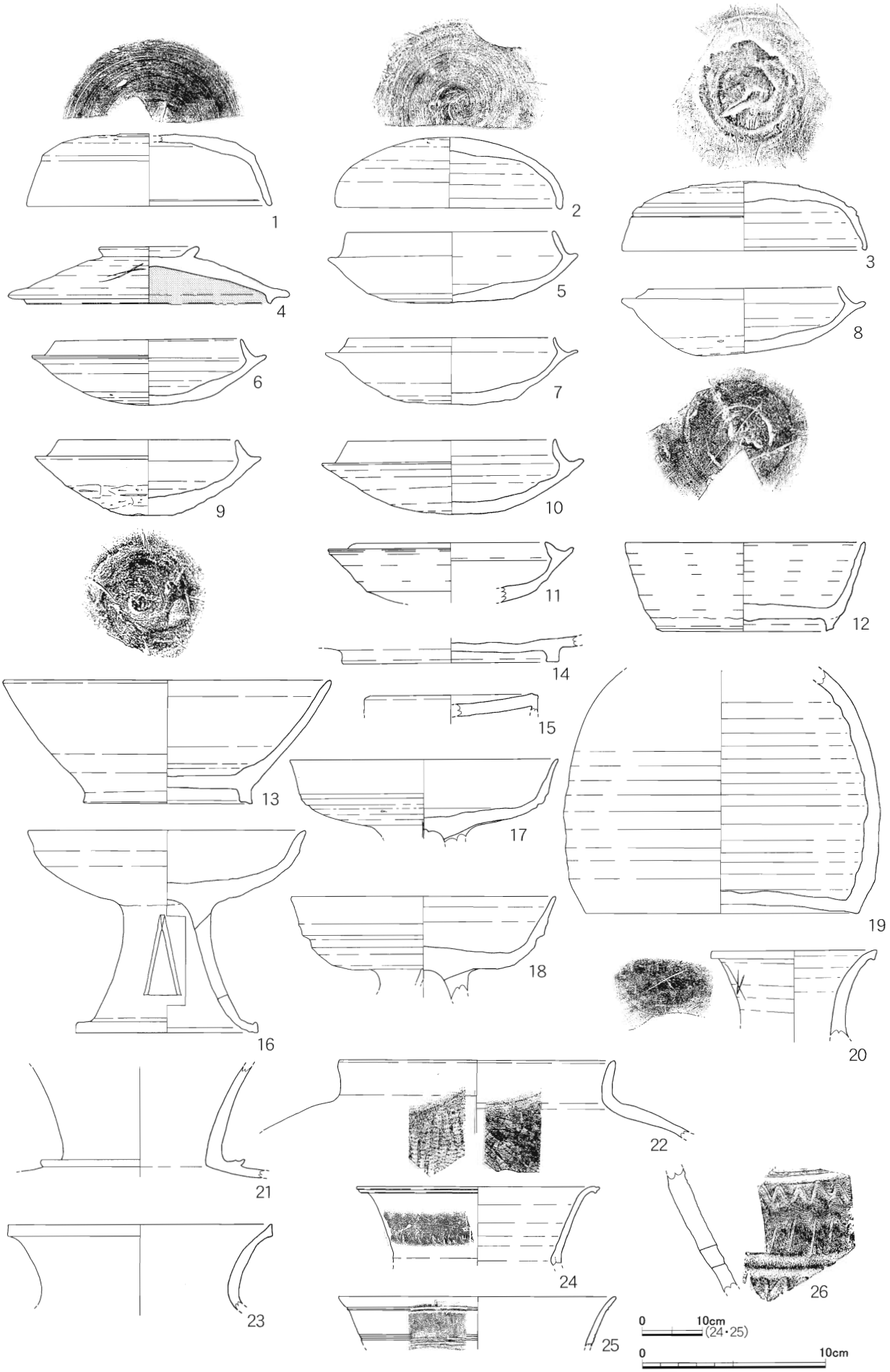
第67図　六所脇地区建物模式図（S＝1：200）



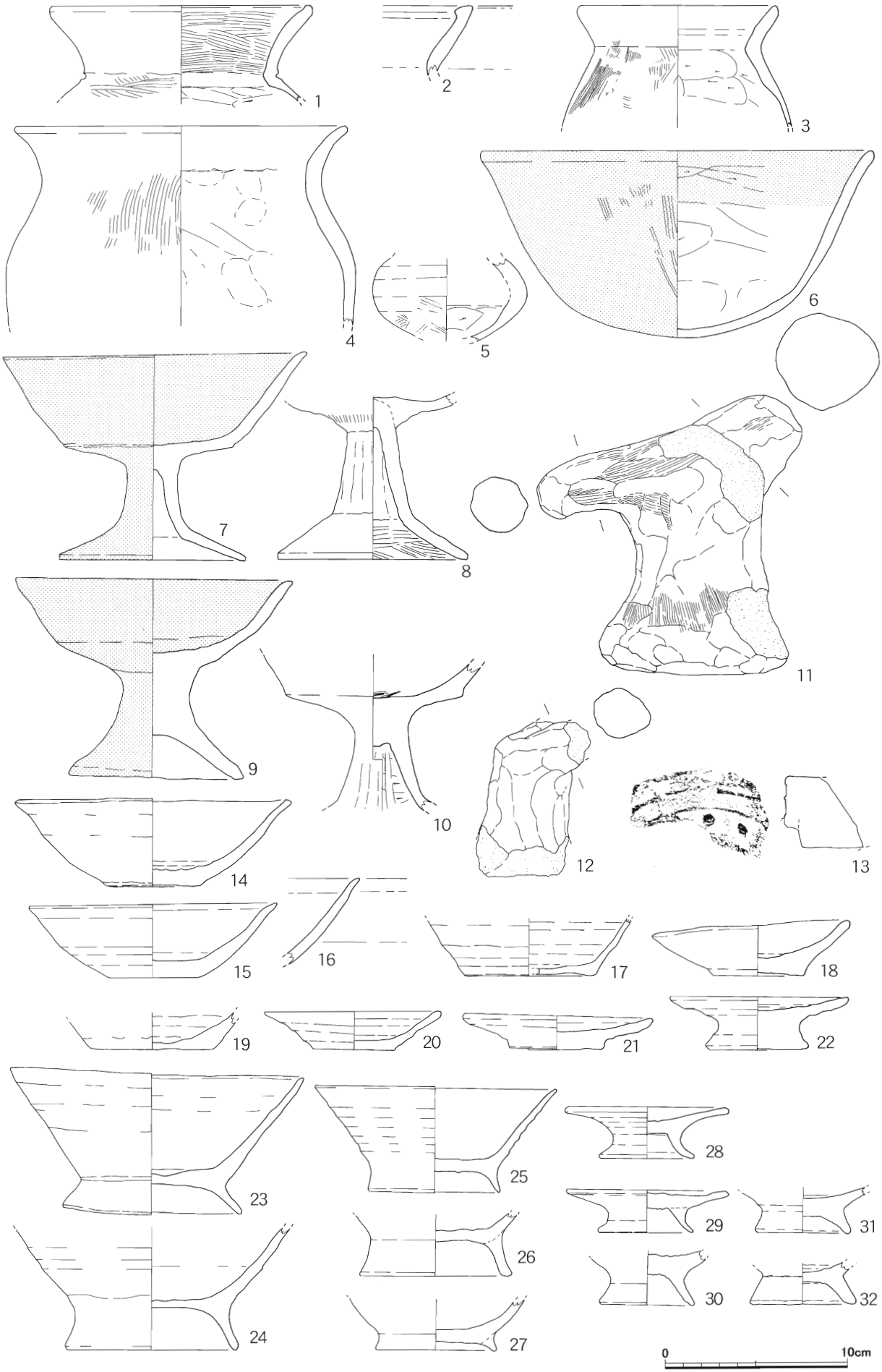
第68図　六所脇地区SD054・055実測図（S＝1：100）



第69図　六所脇地区遺構出土遺物実測図



第70図　六所脇地区包含層出土遺物実測図（１）



第71図　六所脇地区包含層出土遺物実測図（２）

第５節　宮の後地区の調査

（１）調査の概要

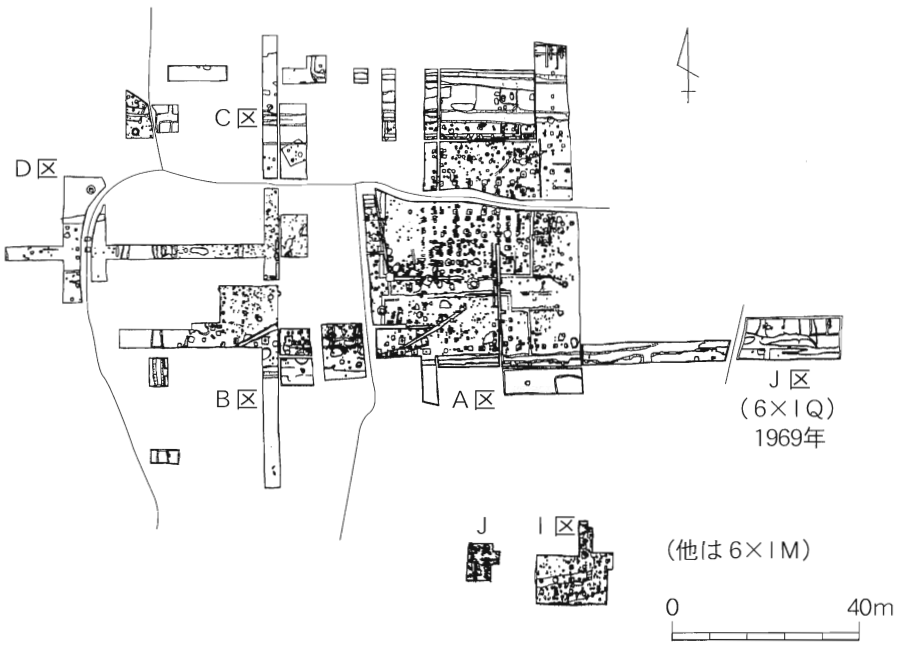
宮の後地区は松江市大草町字宮ノ後に位置し、六所神社の北側である。六所脇地区の北方50mにある。調査前は水田である。

宮の後地区は畦畔によりＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｊ区に分けられる（第72図）。六所神社北側をＡ区、その西側をＢ区、Ａ・Ｂ区の北側をＣ区、西側をＤ区、Ａ区の東側をＪ区とする。Ｊ区は６XIQであり、他は６XIMである。また、Ｊ区は宮の後地区と六所脇地区に存在しており、遺物を分別する際は、出土年月日や注記前方のローマ字「６XIM等」を確認する必要がある。

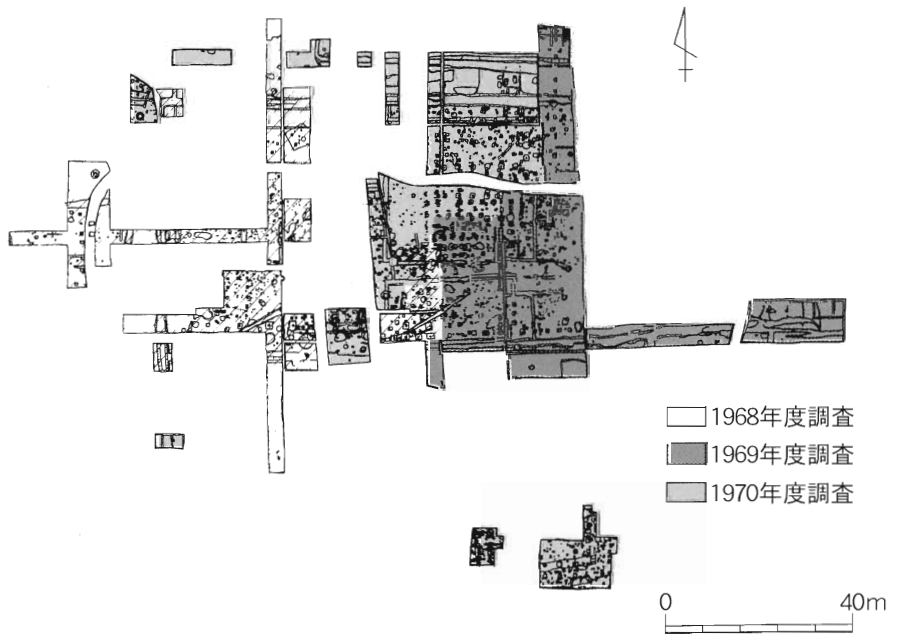
発掘調査は西側Ｂ区から開始され、調査の進展により、東側、北側へと拡張された（第73図）。Ａ区では年度を異にして一部重複して調査されている。

宮の後地区と六所脇地区は同じグリッドで調査されている（第74図）[(1)]。

遺構が密集して発見されたＡ・Ｃ区では掘立柱建物跡11棟、竪穴建物跡１基、井戸跡７基、溝跡24条がある。Ｂ区からは掘立柱建物跡３棟、溝跡６条、井戸跡４基がある。Ｄ区からは竪穴建物跡１棟、井戸跡２基、溝跡２条がある。Ｊ区は溝跡３条が確認された。



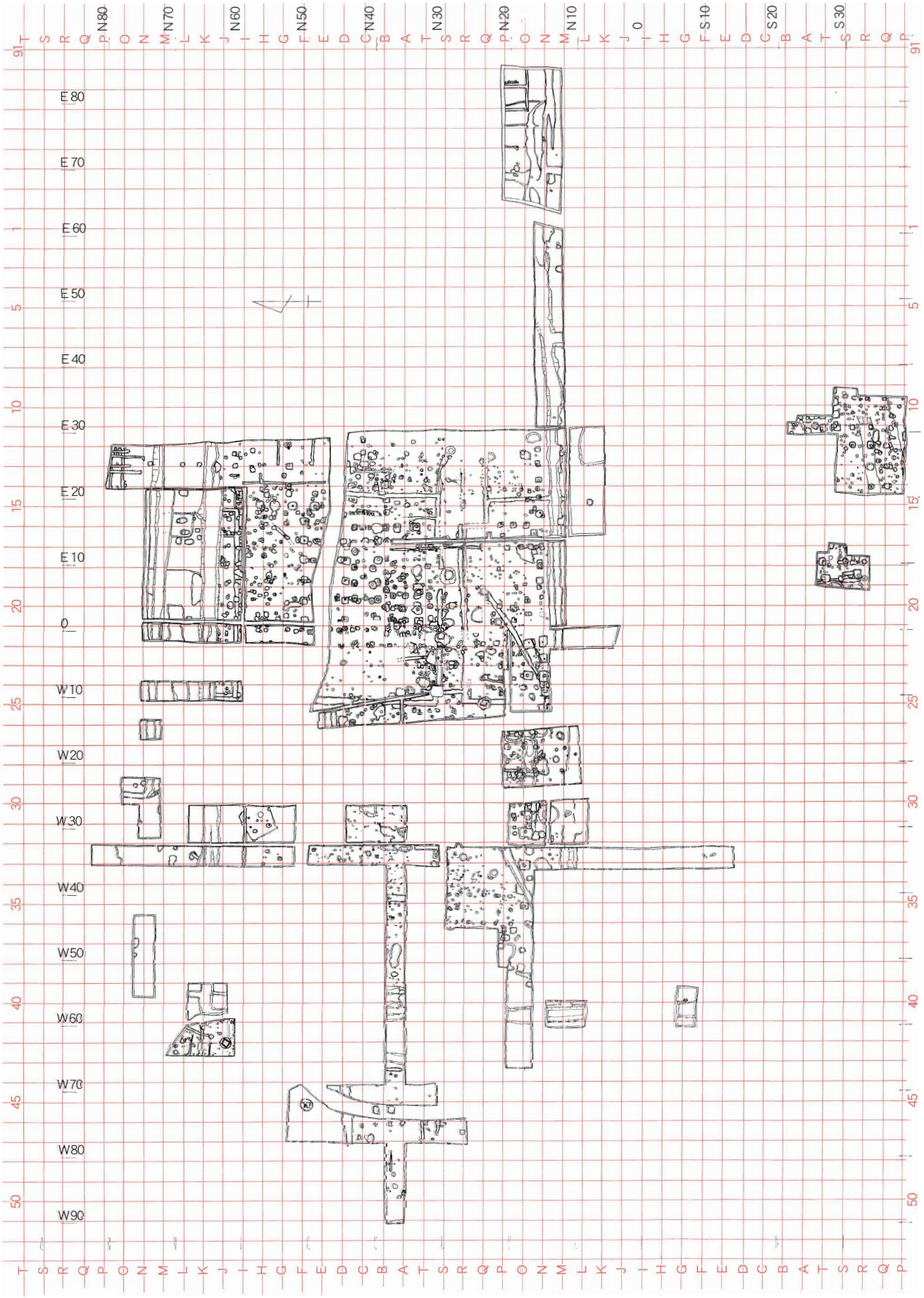
第72図　出雲国府跡調査区配置図（S＝1：1,600）



第73図　出雲国府跡年度別調査区配置図（S＝1：1,600）

（２）層序

基本層序は耕作土の直下に中近世の土器や陶磁器を含む灰色の礫層



第74図　宮の後地区グリッド配置図（S＝1：800）

第75図　宮の後地区主要部遺構実測図（１）（S＝1：350）

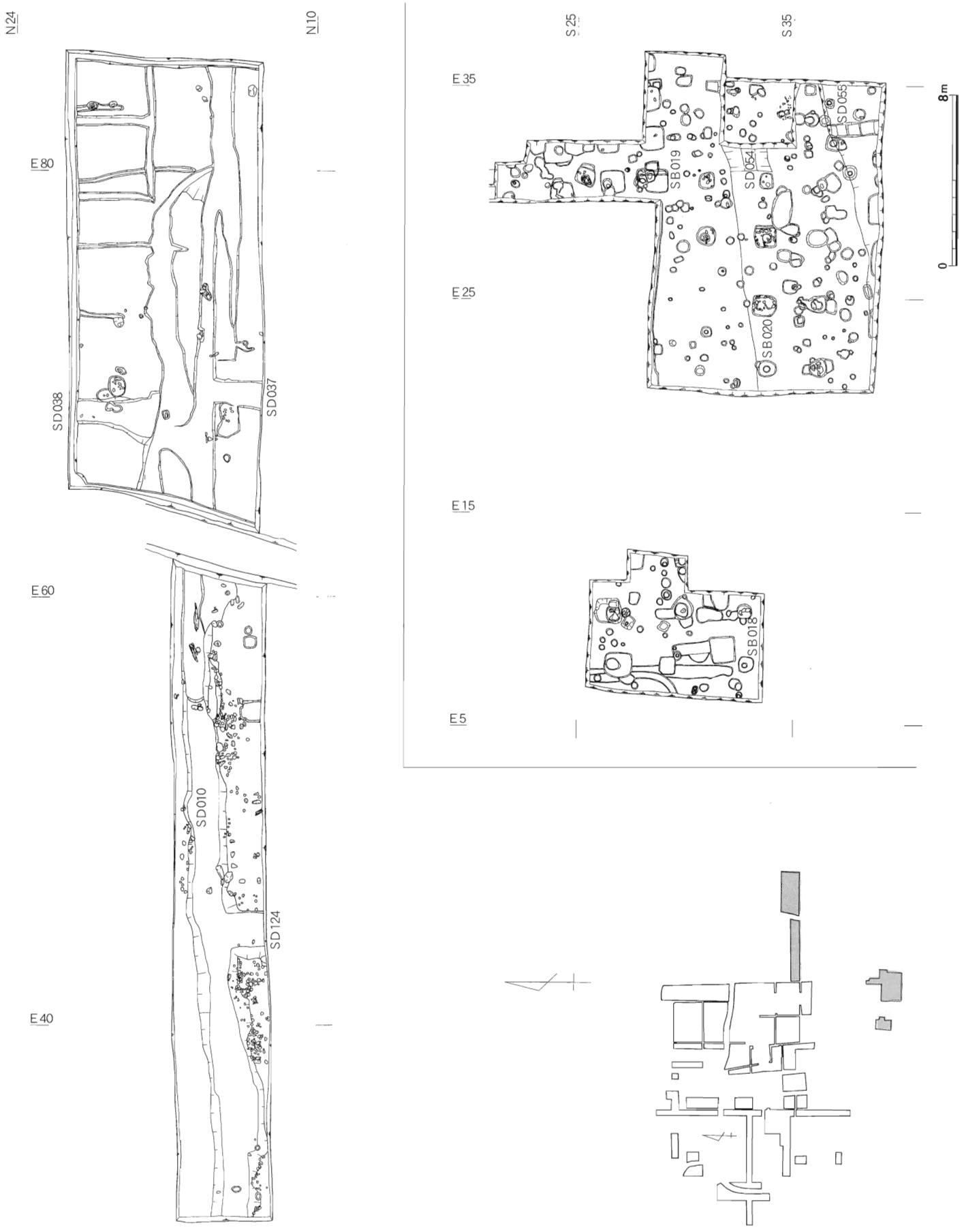
（バラス層）がある。ほぼ全域を覆っており、かつての河川の氾濫の痕跡と考えられる。礫層の下層には中世ないし古代の遺構が現れる。部分的にはすぐに地山に移行する場所もあるが、大半の地点では古代の整地層がある。整地層の厚さは均等でなく、砂質土や粘質土の場合がある。平安時代後期の遺構である柱穴や井戸の埋土は黒色土であり、容易に判別できる。奈良時代から平安時代前期の遺構は整地土上では判然としない場合が多い。遺構検出は灰褐色砂質土あるいは黄褐色粘質土の地山上で行った場合が多い。

（3）Ａ・Ｃ・Ｊ区の調査

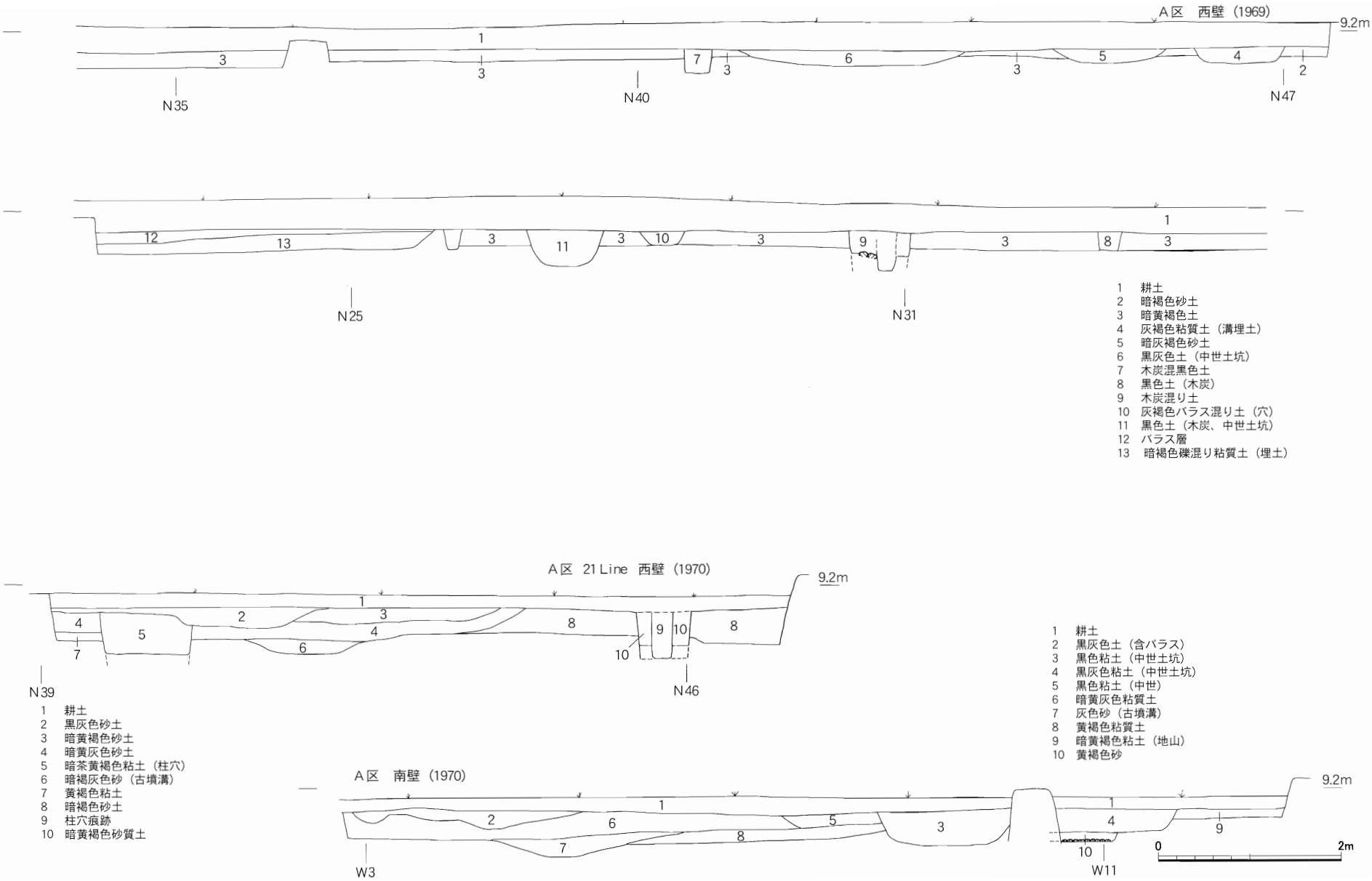
Ａ区はこの調査で最も遺構が多く検出された地区で、Ｃ区とあわせ遺跡の中心をなしていると考えられる（第74・75図）。

Ａ区は３年間調査されている。まず、第１次調査では西側Ｂ区側が調査され、掘立柱建物跡、溝跡などが確認された。第２次調査では、調査区の東側大部分とＪ区が調査され、北東側（Ｃ区）にトレンチが設定されている。第３次調査では遺構配置を精査するためＡ、Ｃ区の西側を調査した。

第76図　宮の後地区主要部遺構実測図（２）（S＝1：320）



第77図　宮の後地区A・J区・六所脇地区遺構実測図(S＝1：240)

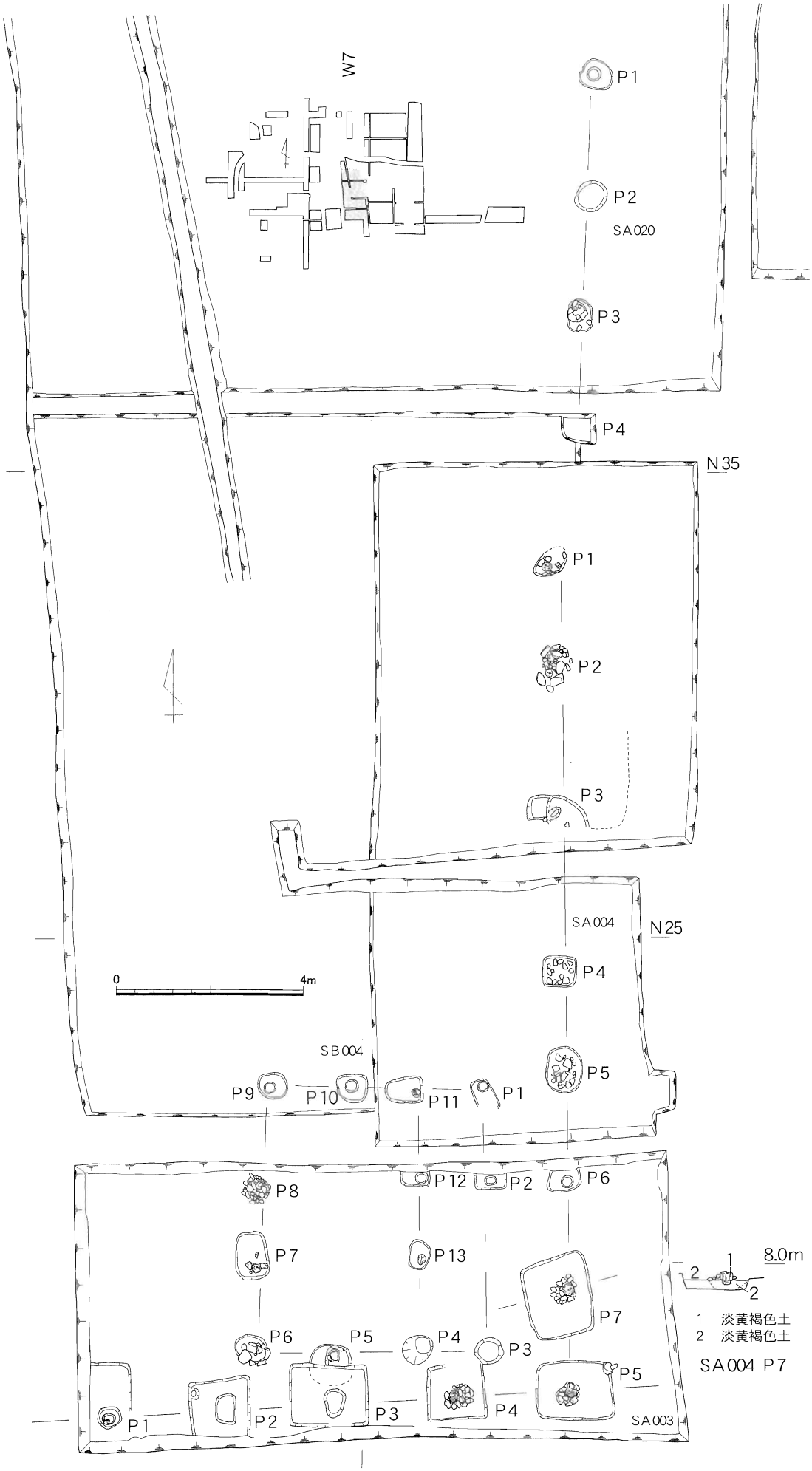


1　耕土
2　暗褐色砂土
3　暗黄褐色土
4　灰褐色粘質土（溝埋土）
5　暗灰褐色砂土
6　黒灰色土（中世土坑）
7　木炭混黒色土
8　黒色土（木炭）
9　木炭混り土
10　灰褐色バラス混り土（穴）
11　黒色土（木炭、中世土坑）
12　バラス層
13　暗褐色礫混り粘質土（埋土）

1　耕土
2　黒灰色砂土
3　暗黄褐色砂土
4　暗黄灰色砂土
5　暗茶黄褐色粘土（柱穴）
6　暗褐灰色砂（古墳溝）
7　黄褐色粘土
8　暗褐色砂土
9　柱穴痕跡
10　暗黄褐色砂質土

1　耕土
2　黒灰色土（含バラス）
3　黒色粘土（中世土坑）
4　黒灰色粘土（中世土坑）
5　黒色粘土（中世）
6　暗黄灰色粘質土
7　灰色砂（古墳溝）
8　黄褐色粘質土
9　暗黄褐色粘土（地山）
10　黄褐色砂

第78図　宮の後地区A区土層断面図（S＝1：60）



第79図　宮の後地区A区SB004・SA003・004・020実測図（S＝1：120）

また、北側で確認した溝跡（SD034）の性格を確認するためのトレンチも設定された。

検出された遺構は古墳時代、奈良時代～平安時代前期、平安時代後期に大きく分けられる。古墳時代の遺構は古代の遺構と重複し、一部の調査のみ行われた。調査区を南東から北西に斜行する溝跡（SD014）と竪穴建物跡（SB003）が確認された。

奈良時代～平安時代前期の遺構としては掘立柱建物跡、溝跡、土坑などが確認されている。C区では北大溝（SD005）、A・J区では南大溝（SD010）が確認され、その間から多くの遺構が検出された。

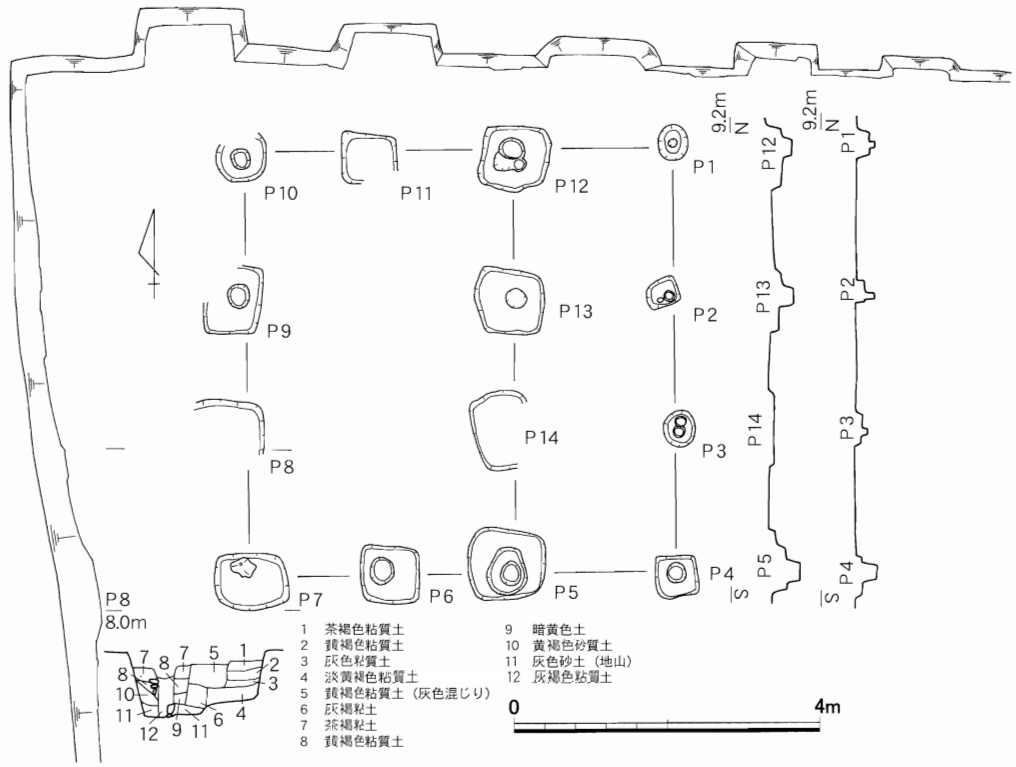
平安時代後期の遺構としては掘立柱建物跡（SB024）や井戸跡（SE003、SE008）がある。埋土が黒色土で確認しやすい。一部の遺構は奈良時代から平安時代前期の遺構を検出するため完掘された。

古墳時代の遺構・遺物

古墳時代と考えられる遺構としては、竪穴建物跡（SB003）、溝跡（SD014）がある。

SB003（第104図、第110図１～９）　CH31付近で検出した。SD009により、一部切られている。3.8m×4.1m、深さ0.15～0.17mを測る。方形を呈する。床面からは８個の柱穴が検出された。中央のピットは径0.33～0.43m、深さ0.37mを測る。西側にはやや大きいピットが２個並んでいる。径0.78m、深さ0.22m、柱穴間は2.25mを測る。0.8×１mの円形の焼土（炉？）と25㎝離れて三日月状の焼土がある。

110－１～３は土師器甕である。１、２は単純口縁、３は複合口縁である。４、５は土師器高坏である。４の内面は格子状に暗文が施される。６は須恵器坏蓋である。口縁端部は鋭く、外面の突帯も明瞭である。７は移動式竈の鰭と考えられる。８は製塩土器で、内面中央が肥厚する。９は縄



第80図　宮の後地区A区SB005実測図（S＝1：100）

文時代晩期の突帯文土器である。

SD014（第75図）　Ａ区南西隅付近のAN24からAP19で確認した溝である。南西から北東に主軸をもち、調査区を斜行する。南西端は調査区外に続き、北東端はSD023まで確認できるが、その後は不明である。幅0.5～0.8m、深さ0.26m、断面コ字形を呈する。出土遺物はないが、調査区に斜行していることから、これまでの調査結果からSD014は古墳時代の遺構と考えられる。

古代の遺構・遺物

古代の遺構としては掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡、柱穴が確認されている。

SB004（第79図）　AO23付近から検出した３間（5.2m）×３間（5.6m）の掘立柱建物跡である。主軸は南北方向で、東に廂が付く。

SB005（第80図）　AT19付近から検出した３間（5.6m）×３間（5.6m）の掘立柱建物跡である。主軸は南北方向で、東に廂が付く。Ｐ８はSB006Ｐ６と切り合い関係があり、SB006が新しい。掘方の平面形は方形が多い。

SB006（第81図）　AA17付近で検出した５間（14.8m）×２間（6.0m）の掘立柱建物跡である。主軸は南北方向である。SB005より新しい。SB016との距離は4.8mを測る。掘方の平面形は方形が多い。一部の柱穴には根固め石がある。

SB007（第83図）　AB18付近で検出した４間（9.7m）×２間（5.0m）の掘立柱建物跡である。主軸は南北方向で、北半は総柱である。Ｐ５とＰ６の距離は2.0mで、Ｐ６とＰ７の距離は2.5mである。掘方の平面形は円形や隅丸方形が多いが、Ｐ４とＰ12は方形を呈する。SB007Ｐ６とSB006Ｐ９は切り合いがあり、SB006が古い。SB007P7はSB025Ｐ３と切り合いがあり、SB007が古い。

SB008（第89図）　AB14付近で検出した２間（4.0m）×４間（8.4m）の掘立柱建物跡で、Ａ区とＣ区にまたがっている。主軸は南北方向である。

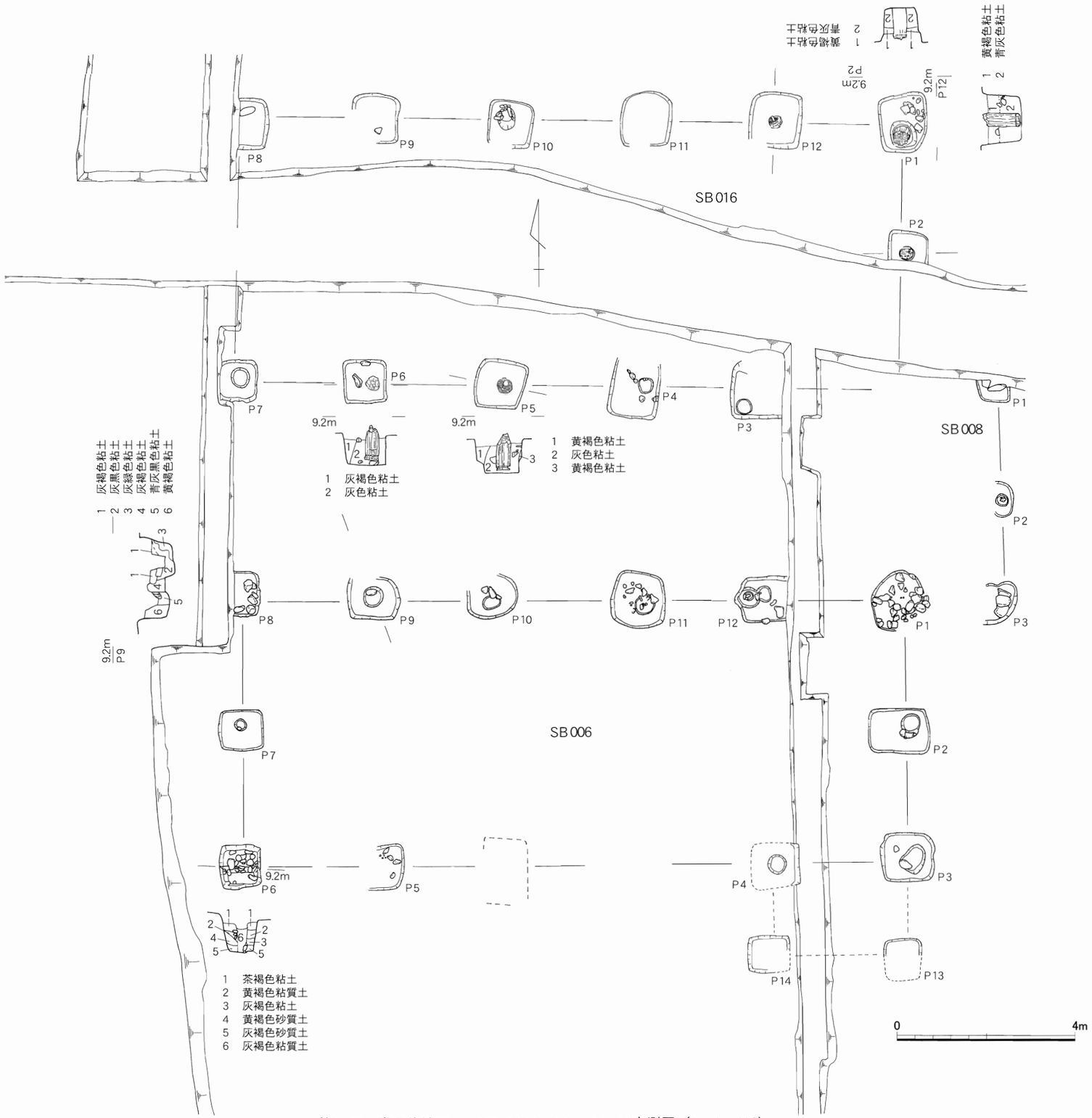
SB009（第84図）　AB15付近で検出した５間（10.7m）×２間（4.8m）の掘立柱建物跡である。主軸は東西方向である。西側は総柱で、中央に円形の柱穴を伴う。Ｐ３とＰ４の間にＰ17を置き、Ｐ10とＰ11の間にＰ21を置き、その間を４間で結ぶ。柱穴は小さく、Ｐ17で直径0.4mを測る。他の柱穴の掘方の平面形は方形が多く、Ｐ６で一辺0.9m、P12で一辺0.6mを測る。

SB010（第85図）　Ａ区北西隅のAC12付近で検出した２間（4.0m）以上×１間（2.3m）以上の掘立柱建物跡である。掘方の平面形は方形である。調査区外へ続くため建物規模は不明である。

SB016（第81図）　AD17、CE17付近のＡ、Ｃ区の調査境で検出した５間（14.8m）×２間（6.0m）の掘立柱建物跡である。主軸は東西方向である。SB006と同規模で、主軸もあわせている。SB006との距離は4.8mである。一部の柱穴には柱根が残存していた。掘方の平面形は方形である。

SB017（第86図）　AD20付近で検出した５間（11.5m）×２間（4.8m）の掘立柱建物跡である。Ａ、Ｃ区の境界付近で、SB025と重複して確認された。主軸は南北方向である。掘方の平面形は方形や円形がある。Ｐ８は一辺0.8m、Ｐ12は直径0.4m、Ｐ６は直径0.7mを測る(2)。

SB024（第87図、第110図21～24）　AT24付近で検出した５間（12.2m）×２間（５m）の掘立柱建物跡である。主軸はN－６°－Eとやや東にふれている。掘方の平面形は小型の円形が多く、Ｐ１は直径0.3mを測る。埋土は黒色土である。



第81図　宮の後地区A・C区SB006・016・SA016実測図（S＝1：100）

遺物は「AB25黒色柱穴」、「AS23黒色柱穴内」と注記されたものをあてた。周辺には同様の柱穴が多く、SB024と特定できない。110－21、22は須恵器である。21は輪状つまみをもつ蓋と考えられる。22は甕片である。23は直線的な体部をもつ土師器坏である。24は製塩土器で、軟質である。

SB025（第88図）　AD20付近で検出した６間（12.6m）×２間（4.2m）の掘立柱建物跡である。主軸は南北方向である(2)。

SA003（第79図）　AN11からAN25で検出した17間（3.9m）以上の柵列跡である。主軸は東西である。SD010の北に位置し、SD010と平行して存在する。玉石で柱を固定している。掘方の平面形は方形が多く、Ｐ３の一辺は1.6mを測る。

SA004（第79図）　AN21からAS22付近で検出した７間（14.8m）の柵列跡である。主軸は南北であり、SA003Ｐ５に取り付く。SA004Ｐ７とSA003Ｐ５の間隔は2.2mを測る。柱痕跡の周囲からは石材が出土しており、根巻き石と考えられる。Ｐ７など柱穴はみな掘方の範囲が不鮮明で、地山との区別が難しい。Ｐ７の土層は１、２層に分層するが、地山と掘方の区別は不明瞭である。２層は柱埋土あるいは地山の可能性もある。

SA005（第75図）　AN16からAO16で検出した３間（5.2m）の柵列跡である。主軸は南北であり、SA003に取り付く。SA004との距離は14.8mを測る。

SA006（第75図）　CF21からCH21で検出した３間（6.8m）以上の柵列跡である。主軸は南北で、北側はSA025に、南側はSB025に取り付く。

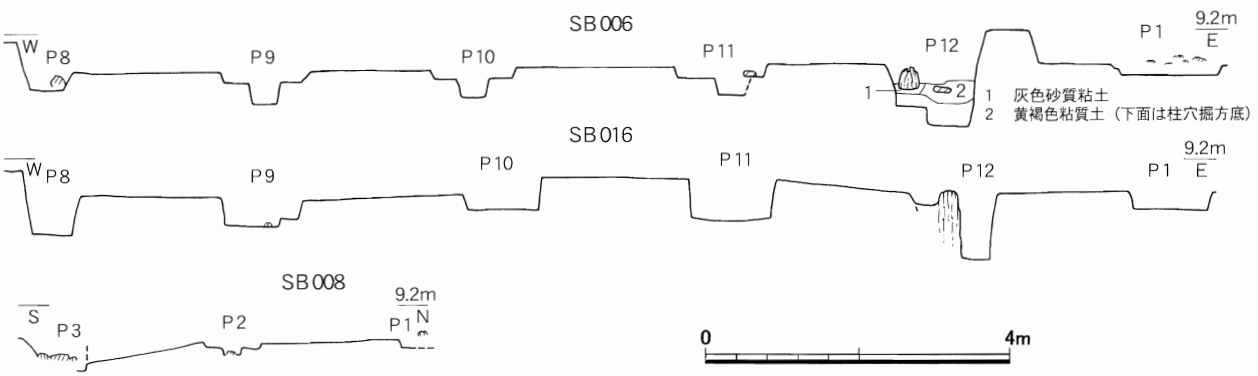
SA007（第75図）　AN13からAP13で検出した３間（7.4m）の柵列跡である。主軸は南北であり、SA003に取り付く。

SA009（第75図）　AO15からAP15で検出した２間（2.6m）の柵列跡である。主軸は南北で、SD010の北側に位置する。SA005の東側3.4mにある。

SA010（第85図）　AT13からAC13で検出した３間（6.3m）の柵列跡である。主軸は南北で、SB009と重複する。SB010の西側に位置し、距離は1.2mである。

SA012（第89図）　CF11からCF13で検出した２間（6.0m）の柵列跡である。主軸は東西で、SA019の東側に存在する。掘方の平面形は方形である。

SA013（第75図、第115図７、８）　CK12からCM12で検出した２間（7.3m）の柵列跡である。



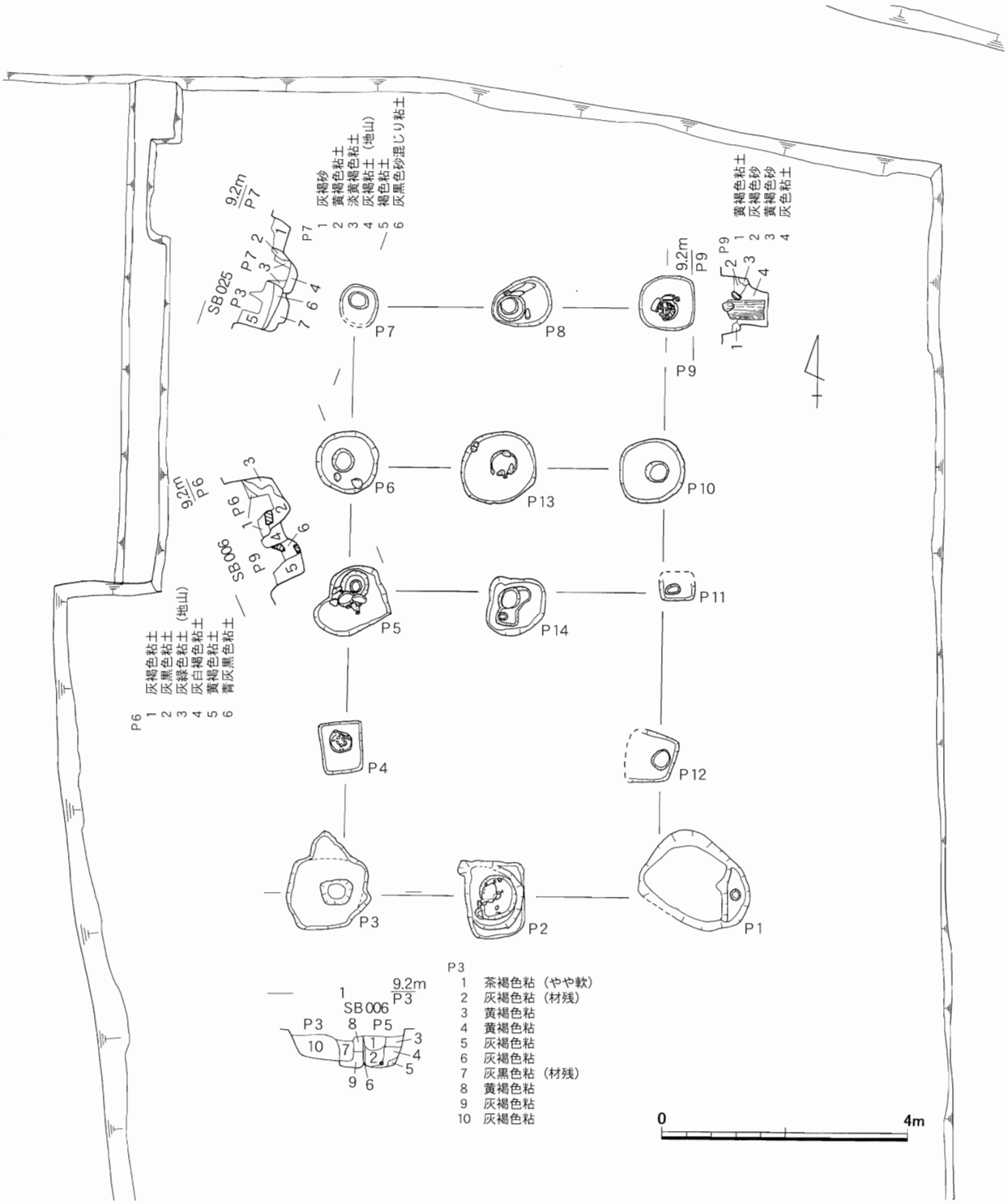
第82図　宮の後地区A・C区SB006・016・SB008柱穴断面実測図（S＝1：100）

主軸は南北で、SD034と重複がある。

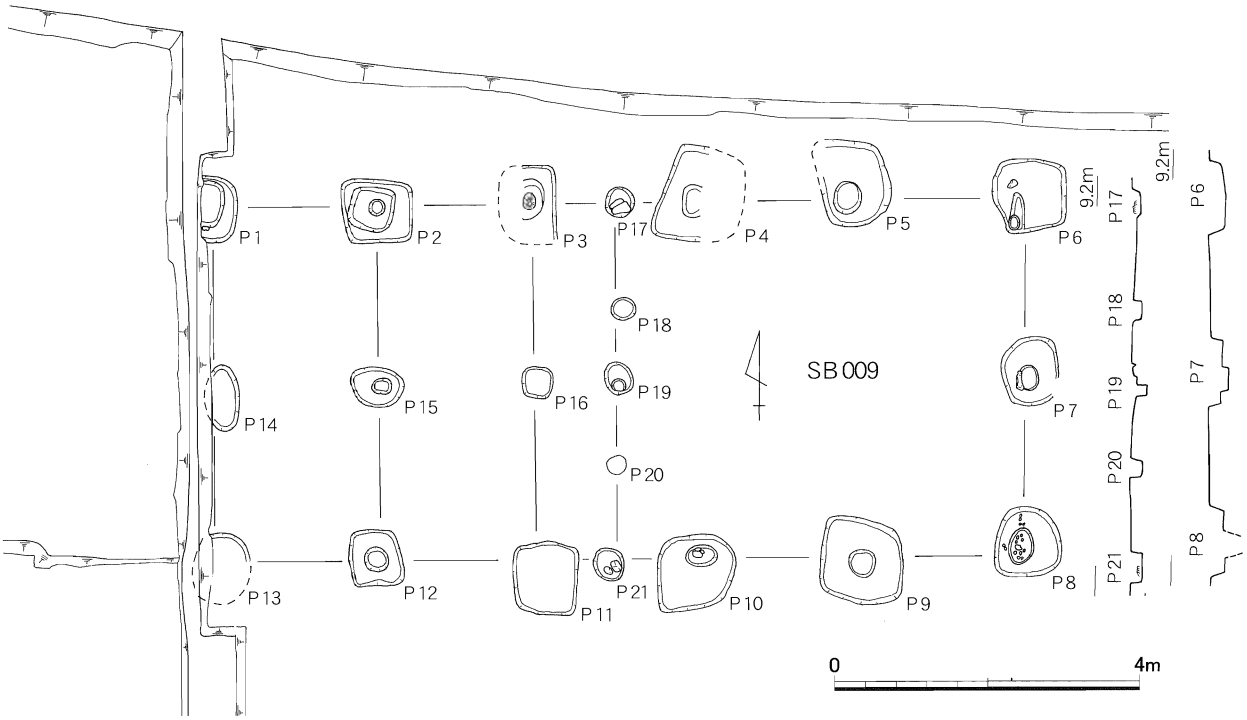
遺物は「CL12柱穴」と注記されたものをあてた。SA013Ｐ２の可能性がある。115－７は土師器坏で、内外面に赤色顔料を塗布する。８は製塩土器である。外面は指頭圧痕が残る。

SA014（第75図）　CH11からCM12で検出した５間以上の柵列跡である。主軸は南北で、CH12で東側に屈曲する。

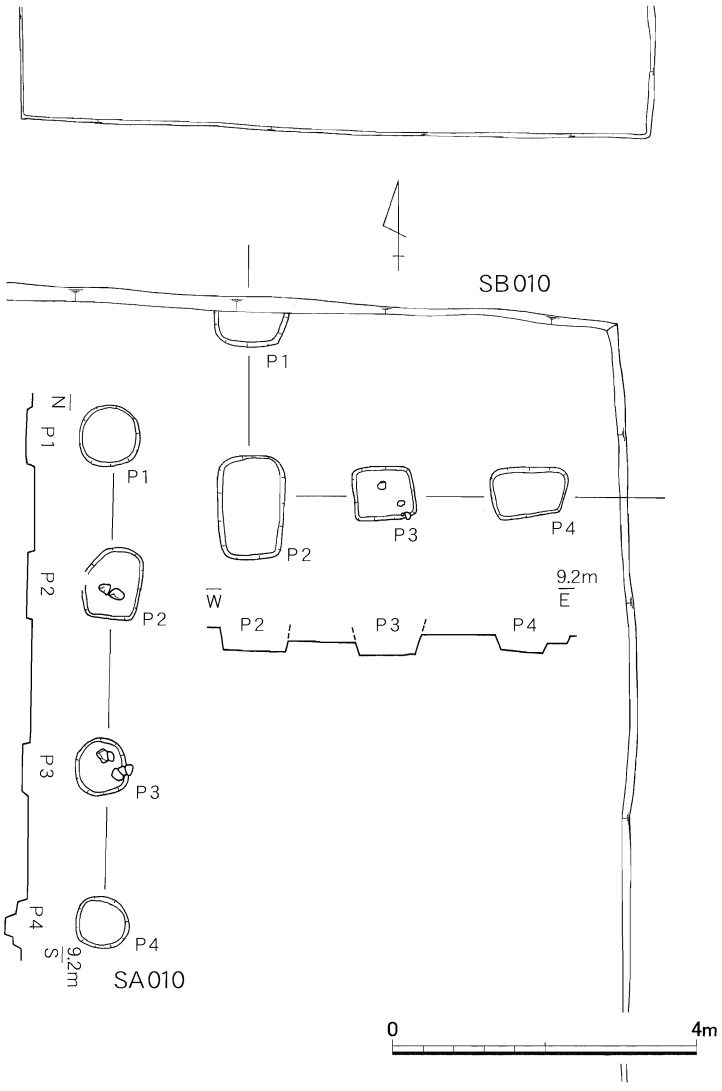
SA018（第75図）　AS12からAS16で検出した４間（12.0m）の柵列跡である。主軸は東西で、SD028の北側に存在する。SB009との距離は5.8mである。



第83図　宮の後地区A区SB007実測図（S＝1：100）



第84図　宮の後地区A区SB009実測図（S＝1：100）



第85図　宮の後地区A区SB010・SA010実測図（S＝1：100）

SA019（第89図）　CE14からCG14付近で検出した５間以上の柵列跡である。主軸は南北で、Ｐ１から東側に屈曲する。南側はSB008に取り付く。掘方の平面形は方形から円形で、柱根が残るものもある。

SA020（第79図）　AT21からAC21で検出した３間（7.8m）の柵列跡である。主軸は南北である。掘方の平面形は円形が多く、Ｐ１は直径0.7mを測る。

SA021（第75図）　CE15からCE17で検出した５間（12.9m）の柵列跡である。主軸は東西で、東側はSA022取り付く。SB016と重複している。SA023との距離は4.2mである。

SA022（第75図）　CE15からCG15で検出した３間（5.2m）の柵列跡である。主軸は南北で、南側はSA021と北側はSA023

に取り付き、コ字形を呈する。

SA023（第75図）　CG15からCF20で検出した６間（18.9m）の柵列跡である。主軸は東西で、東側はSA022に取り付く。

SA024（第75図）　AA17からAA20付近で検出した３間の柵列である。主軸は東西で、東側はSB009に取り付く。

SA025（第75図）　CH15からCH21で検出した８間の柵列跡である。主軸は東西で、SD048の南側に平行して並ぶ。西側はSA006に、東側はSA100に取り付き、コ字形を呈する。SA026を踏襲する。

SA026（第75図）　CI15からCI20で検出した７間（17.6m）の柵列跡である。主軸は東西で、西側はSA029に取り付き、鍵状を呈する。

SA027（第105図）　CI14からCI24で検出した10間（29.0m）以上の柵列跡である。SD005とSD048の間に位置し、主軸は東西である。

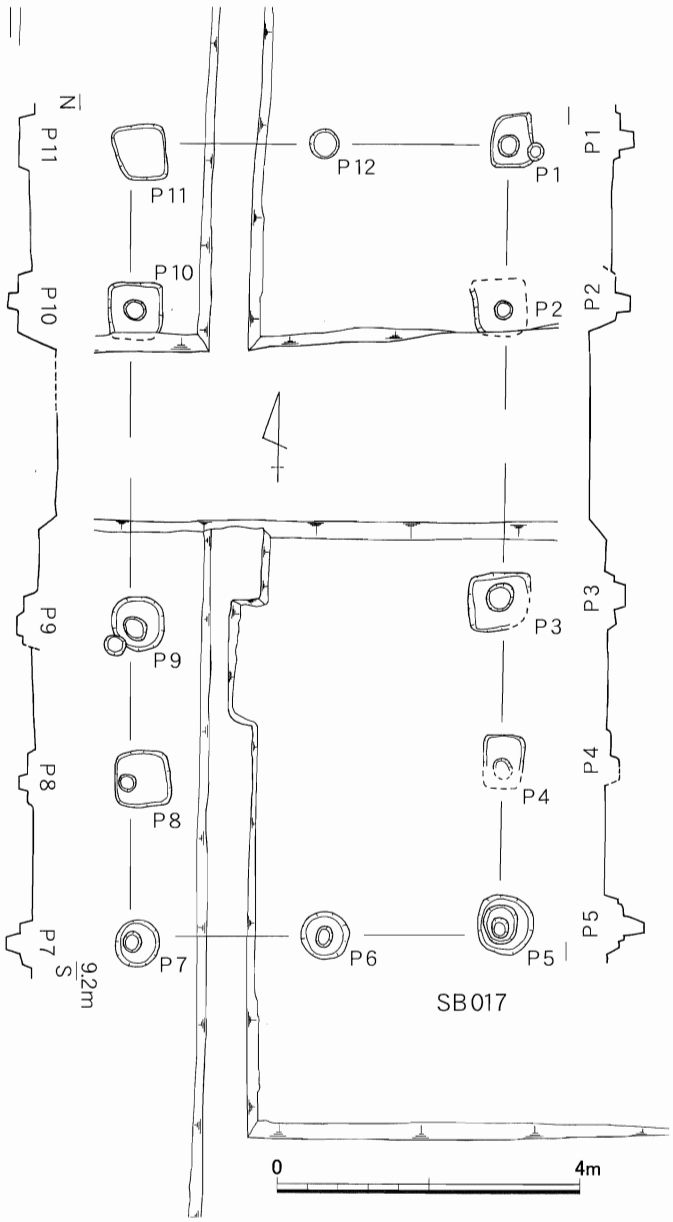
SA029（第75図）　CG14からCH14付近で検出した２間（10.0m）の柵列跡である。主軸は南北で、北側はSA026に取り付く。SB006とSB016の西側柱列と揃う。

SA100（第75図）　CG15で検出した２間の柵列跡である。北はSA025に取り付く(3)。

SD005（第107図、第120～130図）
Ｃ区で検出した北大溝である。SD005の北側は南側に比べ遺構密度が低く、SD034まで窪みはあるが、明確な遺構はない。

SD005は上幅1.4～2.8m、深さ0.44～0.76mを測り、断面はU字形を呈する。Ｃ区西端のトレンチではSD006、007が注ぎ込み、SD004とつながる。隣接するＤ区のトレンチでは大溝は確認できず、SD105となる。

土層堆積は地点により少し異なるが、概ね対応ができる。Ｃ区西壁土層断面図（第103図）では上層から①炭化物を含む灰黒粘土層、②混砂灰褐色粘土層、③褐色砂層、④灰褐色粘土層、⑤青灰色粘土層となる。21ライン東壁土層断面図の黄褐色砂は③の下層で、⑤の上層であ

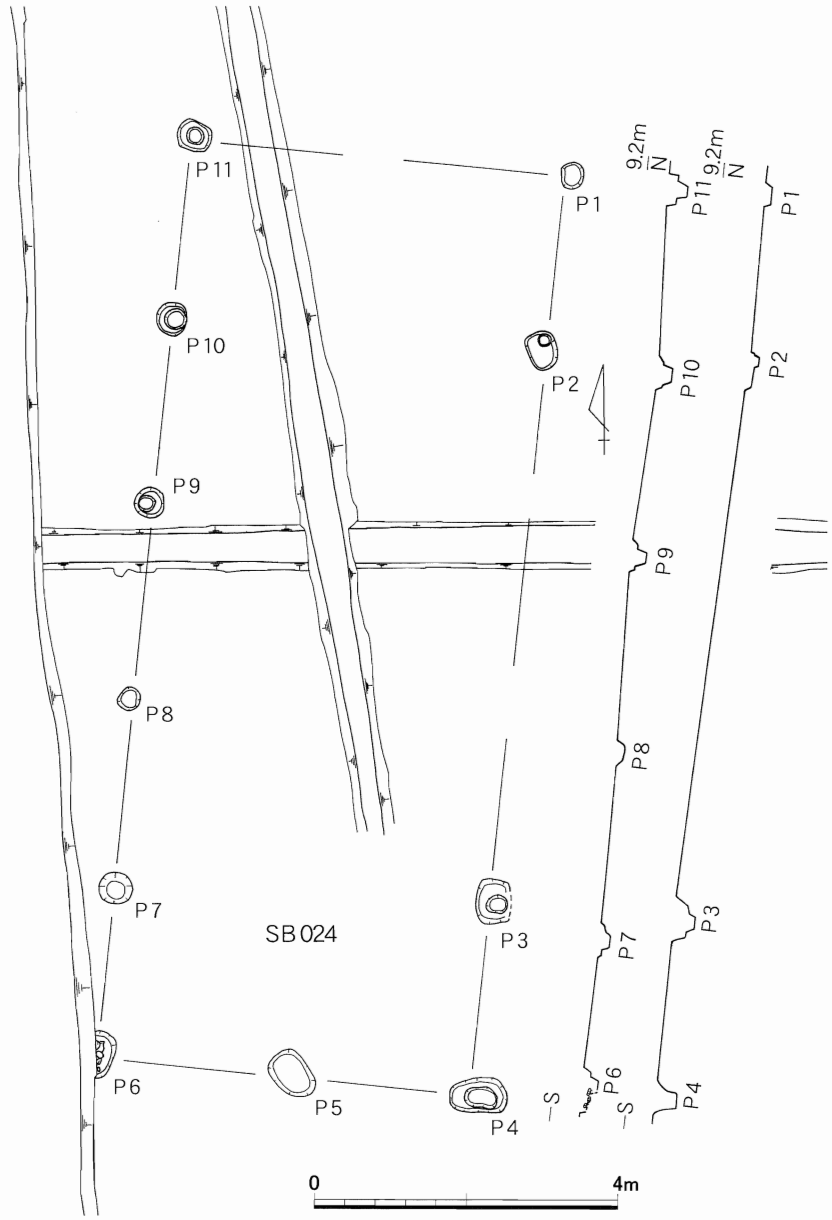


第86図　宮の後地区Ａ・Ｃ区SB017実測図（S＝1：100）

る。

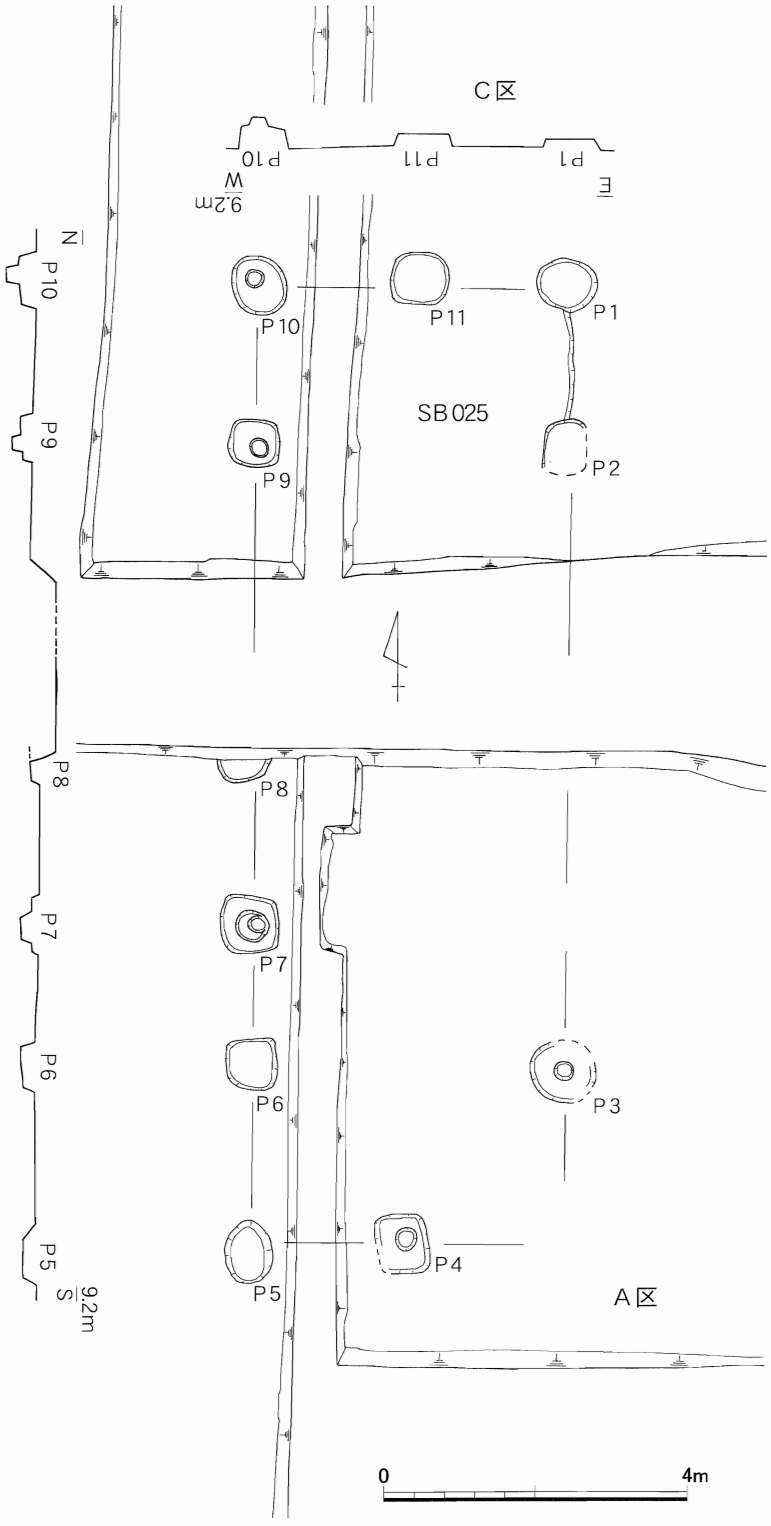
SD005からは須恵器、土師器、転用硯、製塩土器、移動式竈、土製支脚、漆付着土器、鉄滓、羽口、坩堝、瑪瑙、水晶等がある。筋砥石は溝の掘方付近で出土している。

120－１～22は「埋土灰黒」と注記された遺物である。１～４は須恵器蓋で、４は壺の蓋と考えられる。１は大型のつまみをもつ。２は内面に磨滅及び墨痕があり、転用硯である。５～10は須恵器坏である。５は軟質である。６の高台は底部外縁につき、体部は内湾する。７は口縁部が外反する。10の体部は垂直に立ち上がる。11～19は須恵器皿である。13～15は器高が低く、口縁部は外反する。19の器壁は薄く、口縁部は外反する。口縁端部にわずかに立ち上がりがある。20は小型の須恵器壺で、体部は垂直に立ち上がる。21は取瓶で、外面は被熱により灰色に変色し、内面は橙色である。22は須恵器鉢で、口縁部が外反する。120－23～123－13は「灰褐（色）砂」と注記された遺物である。120－23～31は須恵器蓋である。23は軟質で、口縁端部がシャープである。突帯は鋭く、ヘラケズリの範囲は広い。24は扁平である。25の口縁部は丸みをもちながら下垂する。26は天井部に２～３条の沈線がある。27は小型で、口縁部外面がくぼむ。29は器高が低く、口縁部内面がくぼむ。30は天井部に細く浅い線刻がある。31は天井端部に突帯が廻り、口縁部は外反した後下垂する。胎土と焼成は特徴的である。32は坏と考えたが、類例はなく詳細は不明である。外面はミガキと考えられるほど丁寧に仕上げられる。120－33～121－28は須恵器坏である。33、34は底部静止糸切りである。口縁部が外反するもの、口縁部下にくぼみがあるもの、口縁部が直口のものなどバラエティーに富む。34の内面は漆が付着する。36は内面に明瞭な稜がある。40は口縁部端部が丸く、内面に墨痕

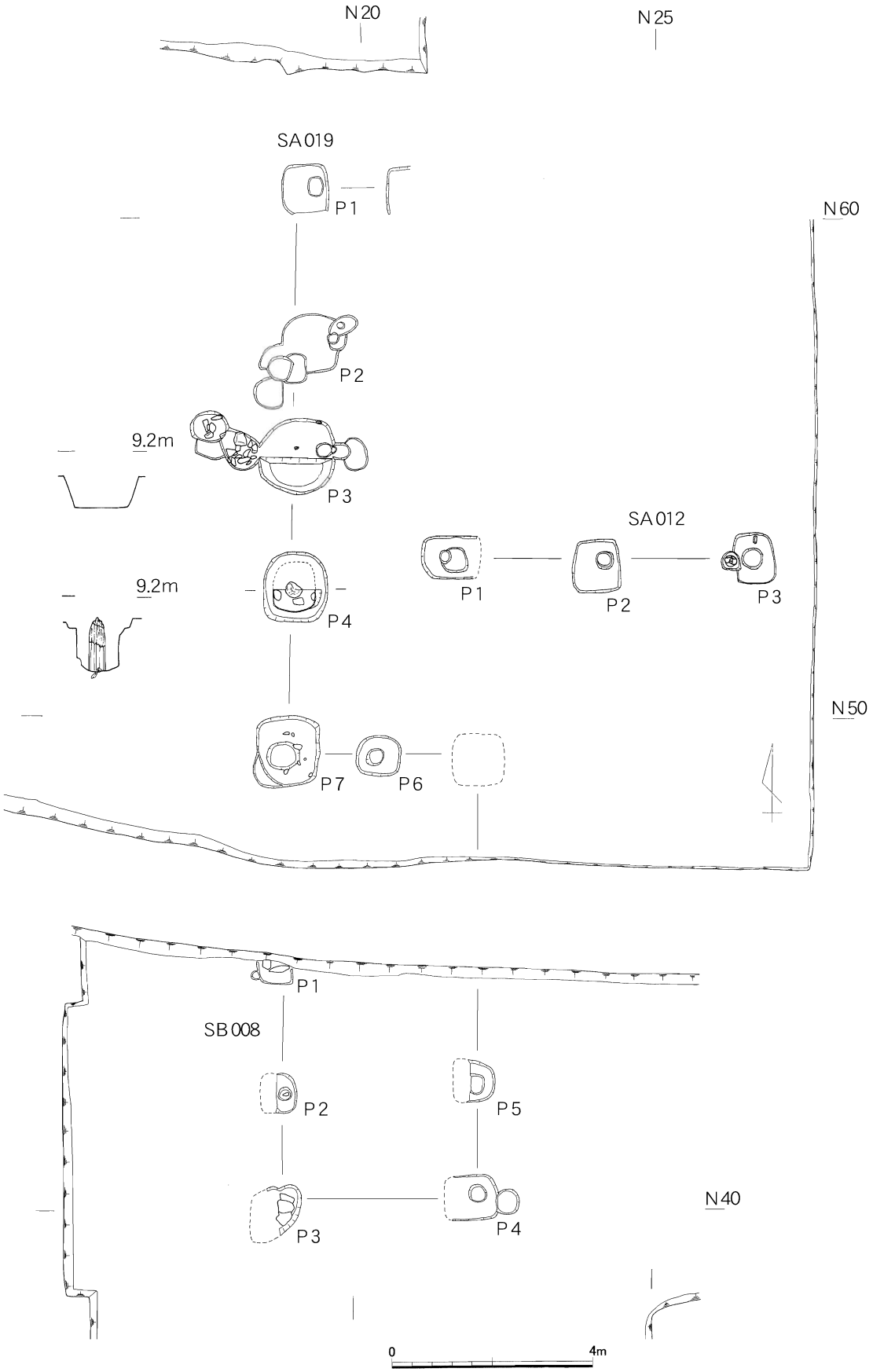


第87図　宮の後地区A区SB024実測図（S＝1：100）

がある。121－３は大型で、重量がある。４は口縁部が直口で、底部がヘラケズリ調整され、鉢に近い。５は器高が高く、口縁端部はわずかに内傾する。10の口縁端部内面は肥厚し、沈線状になる。内面に線状の油煙が残る。11～14は高台をもち、大型である。14は坏部内面及び高台内に墨痕が残る。16の高台外面は直線的で、踏ん張る。19～26の高台は底部外縁に付く。22は口縁部が外反する。23～25はほぼ同じ法量である。27は高台内面の底部に工具によるものと考えられる擦痕が残る。29～36は須恵器皿である。32～34は口縁端部が上方につまみ上げられ、段あるいは沈線状を呈する。33、34は底部ナデ調整、粗い胎土、口縁部形態が似る。36は上質で、内湾する口縁部である。122－１～４は須恵器高坏で、１、２の坏部は大きく広がる。３、４の脚部端部は口縁部のように下垂する。５～10は須恵器壺である。５は短頸壺と考えられ、器壁は薄い。６の底部はヘラケズリ調整で、丸みをもつ。７は頸部中央に１条の沈線文がある。８は高台が底部外縁に付く。９の高台は端部をつまみ、接地面は小さい。内面に漆が付着する。10は体部が長く、底部は糸切りである。胎土は赤褐色を呈し、外面は自然釉が付着する。壺Gと考えられる。11、12は須恵器皿で、いわゆる「灯明皿型土器」である（林2000）。13～17は須恵器鉢である。14は焼成、色調が13に類似する。底部はヘラ切り後回転ヘラケズリ調整である。15の底部は糸切り後ヘラケズリ調整で、やや丸みをもつ。17は鉢の把手と考えられる。18は須恵器硯で、陸部は磨滅する。高台は高く、端部は平坦である。高台内面に



第88図　宮の後地区A・C区SB025実測図（S＝1：100）

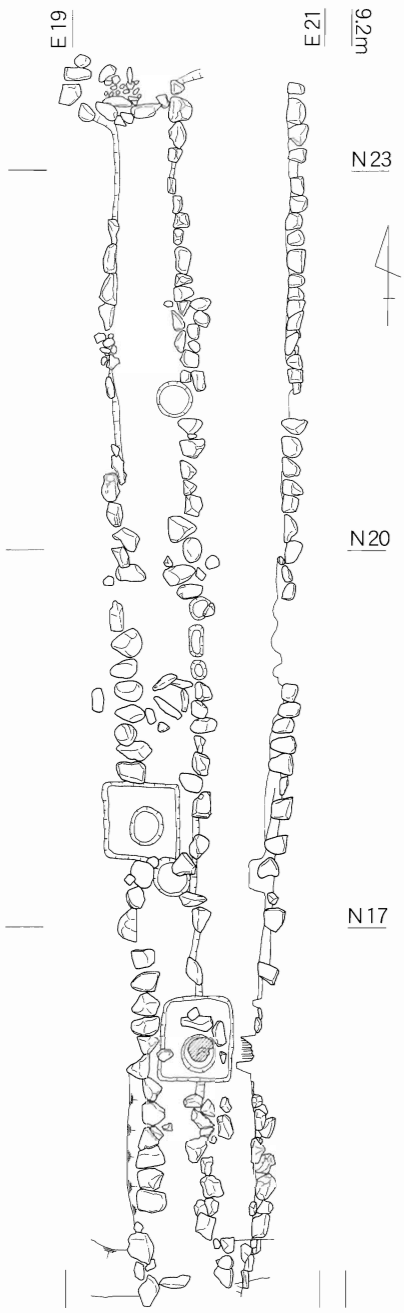


第89図　宮の後地区A・C区SB008・SA012・019実測図（S＝1：120）

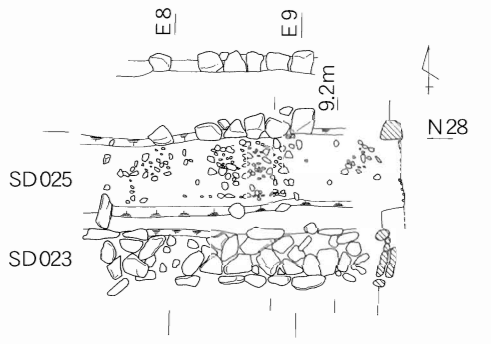
自然釉が付着する。19、20は須恵器甕である。20の口縁部は外反し、鉢の可能性もある。21は須恵器横瓶で、口縁部と接合しないが充填円盤が残る破片がある。22は軒丸瓦で、瓦当部は欠損する。接合部には布目が残り、布端痕が明瞭である。23は軒平瓦の可能性がある。瓦当部は欠損し、端部はタタキ残しで、一枚造りと考えられる。

123－１～６は土師器である。１は蓋である。２は坏で、口縁部は外反する。１、２は内外面に赤色顔料が塗布される。３～５は皿で、内外面に赤色顔料が塗布される。５の内面には放射状暗文が施される。６は高坏で、脚部が細く高い。７は製塩土器で、内面に布目が残る。外面には薄く煤が付着する。８、９は羽口である。９は先細りし、先端はガラス質化する。10は取瓶の注ぎ口付近と考えられる。口縁端部はシャープで、内面の口縁部付近には布目が残る。11は甑と考えられ、端部が内側に肥厚し、外面には煤が付着する。12は土製支脚である。長い突起と短い突起の間の側面に煤が付着する。13は筋砥石で、１面のみ使用し、４条の筋が残る。

123－14～124－12は「黄褐（色）砂」と注記された遺物である。14～16は須恵器蓋で、16は壺用と考えられる。14、15は退化した口縁端部に、大型の宝珠つまみが付く。17～23は須恵器坏である。21、22は高台が底部外縁に付く。23は底部に「×」のヘラ記号と高台内側に爪状圧痕がある。24は須恵器皿で、口縁部が大きく外反し、灯明皿型土器と考えられる。25は須恵器壺で、内部に漆が付着する。頸部のくびれ部では、厚く付着する。26は須恵器皿で、底部内面中央は少し磨滅している。124－１、２は須恵器壺である。１は長頸壺で、頸部外面に１条の沈線文がある。２は小型の短頸壺である。３は須恵器鉢で、把手には方形の刺突が２箇所ある。４は須恵器甕である。５～



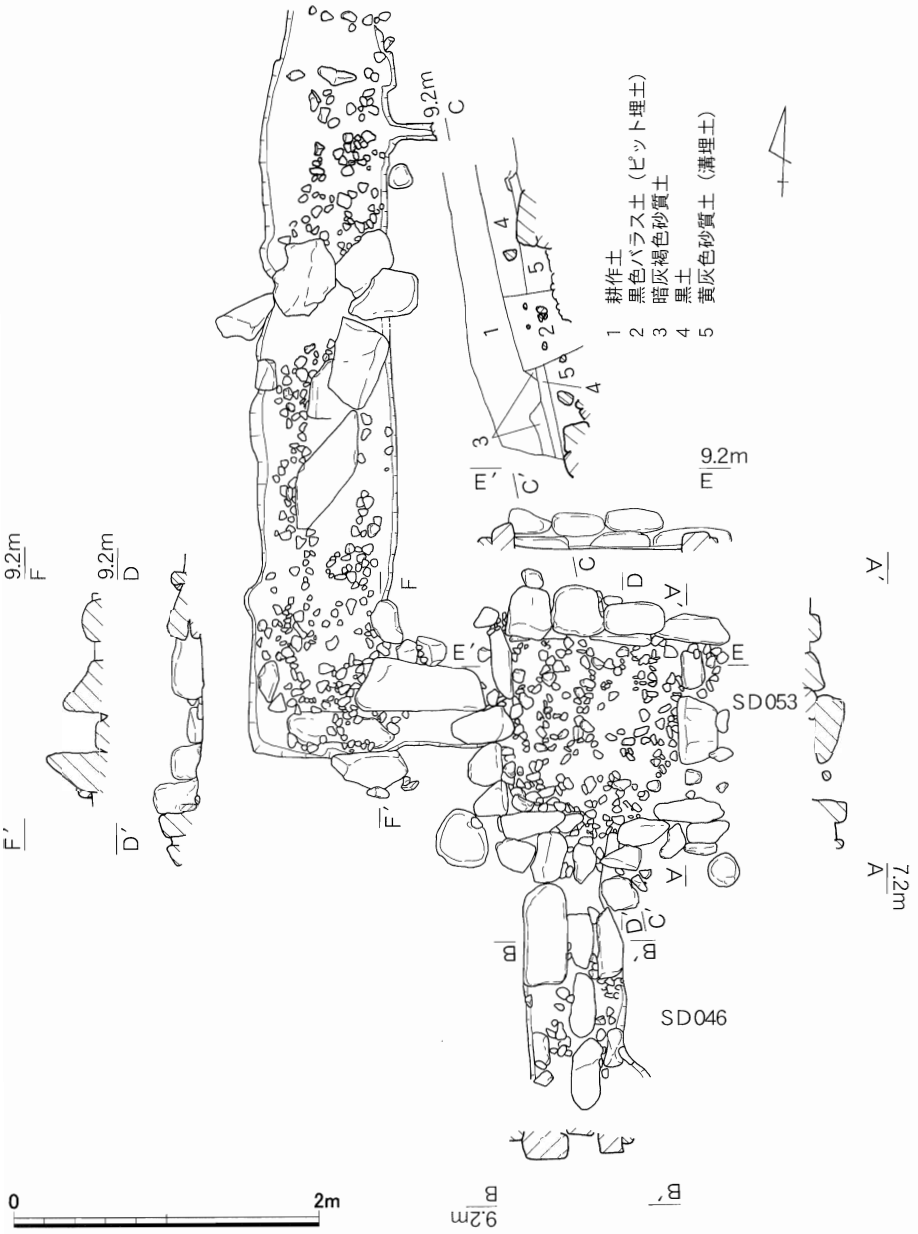
第90図　宮の後地区A区SD017実測図（S＝1：60）



第91図　宮の後地区A区SD023・025実測図（S＝1：60）

９は土師器である。５の口縁部は直線的で、内外面に赤色顔料が塗布される。６の内面には２段の放射状暗文が施される。７、８は皿である。９は高坏脚部と考えられ、脚部途中から踏ん張るように広がる。７～９は内外面に赤色顔料を塗布する。10は製塩土器で、胎土が特徴的で、白色、茶褐色の砂粒を多く含む。11は甑の把手と考えられる。12は一部欠損しているが、直方体の砥石である。表裏及び側面の２面が磨面である。

124－13～126－１は「灰褐（色）粘（土）」と注記された遺物である。13～18は須恵器蓋である。15は大型で、皿の蓋の可能性がある。天井部は扁平で、口縁部は下垂し、大型のつまみを付ける。内面は一部磨滅する。19～31は須恵器坏である。19は丸みをおびた体部で、20～31は断面コの字形の体部をもつ。25は口縁部下に沈線をもち、高台は底部外縁に付く。26は外面に２条の沈線がある。27～31は高台が付く。31は小型で、胎土が精緻、調整が丁寧で、搬入品の可能性がある(4)。32～40は須恵器皿で、33は内面に墨痕がある。35は器高が低く、焼成が軟質である。36の口縁部は大きく外反する。37は大型で、細く高い高台が付く。125－１～４は須恵器高坏である。１は坏部外面に「×」のヘラ記号がある。２～４は脚部が長く、端部が下垂する。５～８は須恵器鉢である。５の口縁部は内傾し、深い。６は把手で、半円形を呈する。７の内面は丁寧な調整で、磨滅がある。高台内には墨痕が残る。８の口縁部は外反し、端部は平坦である。９～11は須恵器壺と考えられる。９は口縁部に沈線状のくぼみができる。10は小型で、口縁部はラッパ状にひらく。11は小型で、体部は丸みをもつ。12は須恵器皿で、いわゆ



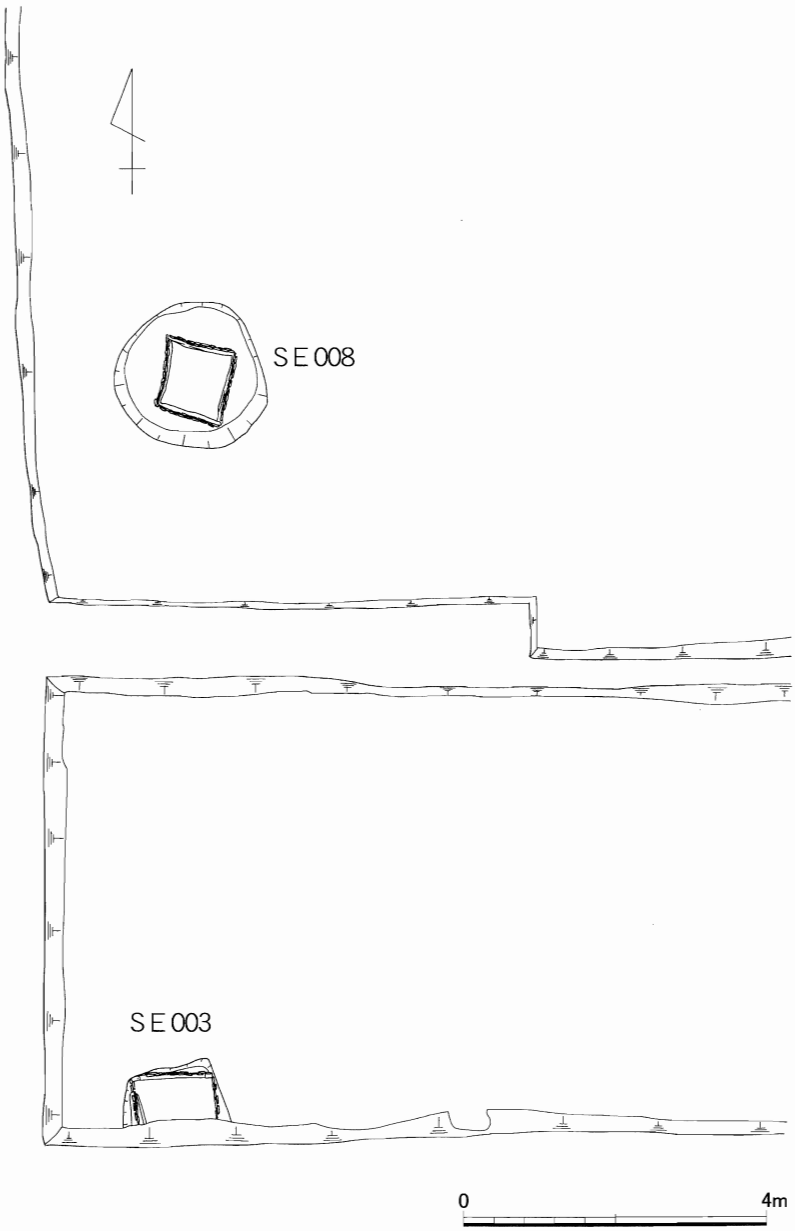
第92図　宮の後地区A区SD046・053実測図（S＝1：60）

る灯明皿型土器である。13は水晶で、両端を取る形割段階である。14は製塩土器で、口縁部は先細りである。15は移動式竈の鰭と考えられる。16～19は土師器甕である。18は長胴の体部である。126－１は１kgを超える碧玉の角礫原石である。一部に自然面を残し、二次的に剥離している。

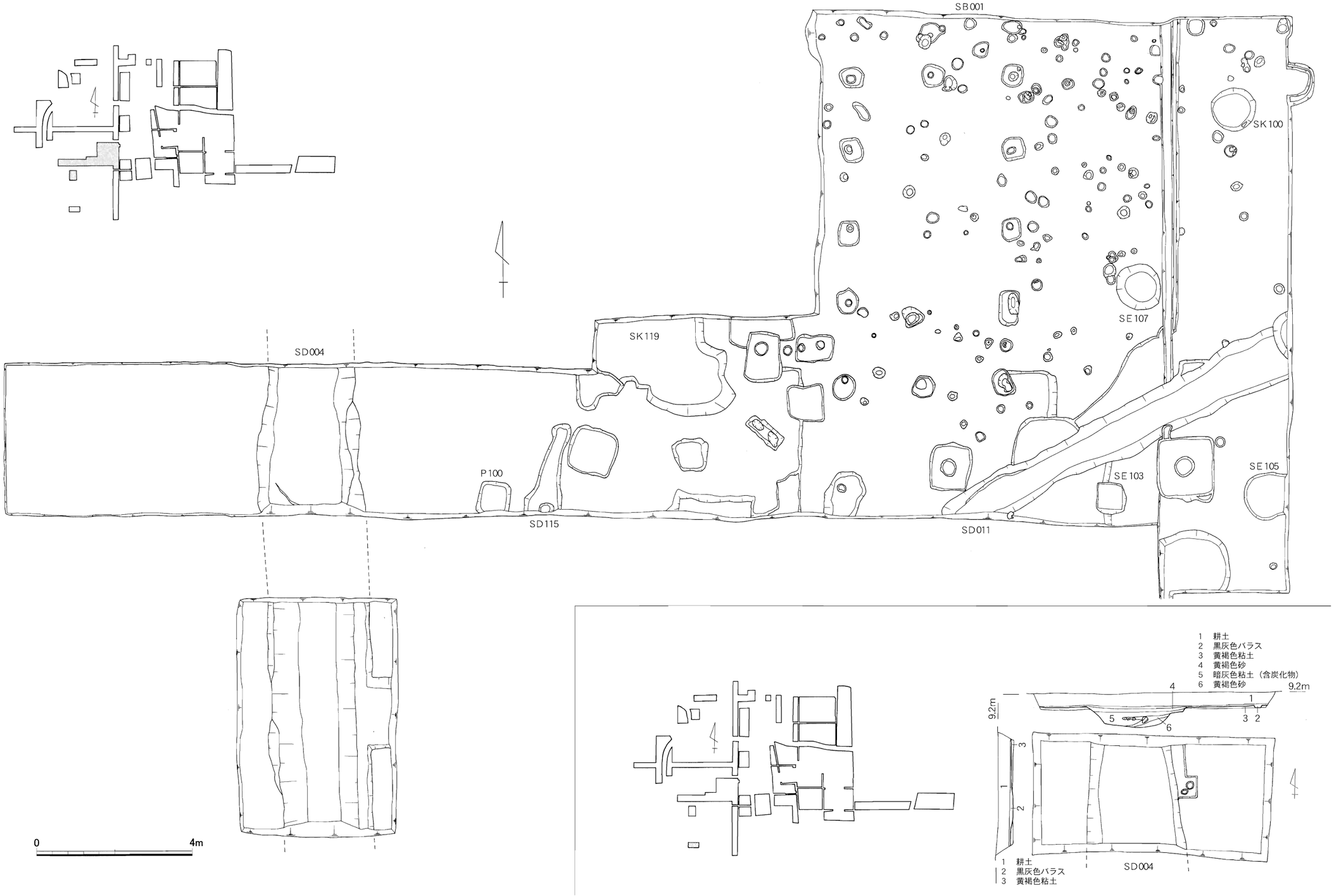
126－２～22は「(含) 炭灰褐 (色) 砂」と注記された遺物である。２～５は須恵器蓋で、５は壺の蓋と考えられる。３は平坦な天井部で、口縁部の器壁は薄い。４は扁平で、大型のつまみが付く。６～12は須恵器坏である。９は体部に突帯をもつ。口縁部内側は沈線状を呈する。10は高台内に「井」の墨書がある。13～15は須恵器皿である。14は高台内に黒色物が付着する。15は高台内側が大きくくぼむ。16、17は須恵器高坏である。脚部端部は下垂し、17は短脚である。18～20は須恵器皿で、いわゆる灯明皿型土器である。21は土師器短頸壺である。外面及び口縁部内面には赤色顔料が塗布される。22は製塩土器である。

126－23～31は「青灰砂、青灰色粘土」と注記された遺物である。23、24は須恵器蓋で、24は天井部端部に突帯が付き、受け口状の特徴的な口縁部をもつ。25～27は須恵器坏である。25は古墳時代の坏身で、器高が高く、口縁端部はシャープである。26は内面、破断面、口縁部外面に漆が付着する。27は小型である。28は須恵器皿である。29は土師器坏で、内面に放射状暗文とラセン状暗文がある。内外面に赤色顔料が塗布される。30は土師器皿である。31は甑と考えられる。体部から口縁部にかけて明瞭な境はない。

127－１～16は「暗灰色粘土」と注記された遺物である。１～４は須恵器坏である。３は胎土が粗く、黒色粒子を多く含む。４は大型である。５は須恵器托で、口縁部は緩やかに立ち上がる。６は須恵器平瓶で、把手が剥離している。７、８は須恵器壺である。７は頸部に２条の沈線文を施し、高台内に「井」のヘラ記号がある。９は須恵器鉢であ



第93図　宮の後地区A区SE003・008実測図（S＝1：100）



第94図　宮の後地区B区南西遺構配置図（S＝1：100）

る。10は須恵器甕で、口縁部は薄く、外反する。11は土師器坏で、内外面に赤色顔料が塗布されるが、暗文はない。12は土師器甕で、外面は粗いハケ目調整である。13、14は甑と考えられ、13の底部は多孔である。15は移動式竈で、焚口上部の庇付近の破片である。16は砥石で、４面使用される。

127－17～128－３は「灰色砂」と注記された遺物である。17は須恵器蓋で、皿の可能性もある。18～21は須恵器坏である。18は大型で、内外面に漆が付着する。22は須恵器短頸壺で、口縁部は外反する。23は土師器坏で、内面には２段の放射状暗文がある。128－１、２は土師器甕で、外面には煤が付着する。３は土製支脚である。平面形が方形に近く、内側は抉られている。

128－４～第130図は層位が不明なものが多いが、注記を詳細に見ると一部、前述した層位に入るものがある。注記の詳細は観察表による。128－４～11は須恵器蓋である。12～27は須恵器坏である。17は静止糸切りで、体部は丸みをもつ。20は高台内に墨と考えられる黒色物が付着する。21、22は大型で、高台は底部外縁に付着する。25は内面に漆が付着する。26は小型で、丁寧な調整で、精緻な胎土である。搬入品か。27は口径が大きく、皿に近い。28～40は須恵器皿である。28は口縁部端部に油煙が付着する。皿は器高が低く、口縁部が外反するものが多い。35、36は口縁部内面に沈線が１条ある。37は高い高台が付く。38、40は高台が底部外縁につき、高台断面が三角形状を呈する。129－１～５は須恵器高坏である。１、２は口縁部が立ち上がり、端部は平坦である。焼成は軟質で、灰色を呈する。３は短脚で、端部が下垂する。４は坏部外面に「×」のヘラ記号がある。５は大型で、脚径も広い。６～９は須恵器壺である。６の脚端部は下垂する。７は肩部が鋭角に張り、体部下半にはタタキ調整が残る。８は双耳が付くと考えられ、円孔があく。９は短頸壺である。10、11は須恵器甕で、10の内面と破断面に漆が付着する。11は小片で、突帯が鋭角である。古墳時代の可能性がある。12は須恵質の土錘で、Ａ類である。表面は丁寧なナデ調整である。13は坩堝と考えられ、被熱のためか灰色を呈する。14は土師器坏で、外面に赤色顔料が塗布される。15～17は製塩土器で、指頭圧痕が残る。18は甑の底部で、多孔式である。19は土製支脚である。20～22は土師器甕である。20は中央付近に最大径がくる。21は小型で、丸みをもつ。22は長胴形で、下膨れな体部である。

130－１～11は木製品である。１は板状で表面は風化している。２は長さ36.3㎝を測る板状を呈し、断面は三角形で、先端はこげている。３、４、６～９、11は板状を呈するが、墨痕はない。５は棒状を呈し、先端は鋭く切られている。10は横櫛であるが、遺物所在不明のため詳細は不明。130－12～15は筋砥石である。12は３面使用され、上面は２条の浅い溝、左面は３条の溝が残り、右面は磨滅のみである。13は３面が使用され、上面は５条の溝、下面は３条の溝が残り、右面は磨滅のみである。14は３面使用され、上面は１条の溝、左面は３条の溝、下面は１条の溝が残り、また、溝周囲にも磨面が広がる。15は上面が８条の溝、右面が１条の溝、左面が４～５条の溝、下面が５条の溝があり、溝周囲にも磨面が広がる。

第139図は墨書・刻書土器を集めた。１は須恵器皿あるいは坏と考えられ、底部外面に「厨」の墨書がある。２は須恵器皿あるいは坏と考えられ、底部外面に「〇（記号）」の墨書がある。３は須恵器皿で、底部外面に「＃（記号）」の刻書がある。４は須恵器坏で、底部外面中央に「門」の刻書がある。５は須恵器坏で、底部外面に「由」の刻書がある。６は須恵器坏で、底部外面に「酒坏」の墨書がある。７は須恵器坏で、焼成が悪い。底部外面に「由」の刻書がある。８は須恵器坏

で、底部外面端部に「□〔得ヵ〕」の墨書があり、中央に「×」のヘラ記号がある。９は須恵器坏で、高台は底部端部に付く。底部外面に「□〔國ヵ〕」の墨書がある。10は須恵器蓋で、内面端部に「由」の刻書がある。11は須恵器蓋で、宝珠つまみは大型である。内面中央に「社邊」の刻書がある。12は須恵器蓋で、天井端部に輪状つまみが付く。口縁部は受け部状を呈し、端部は下垂する。内面に「由」の刻書がある。13は須恵器蓋で、輪状つまみをもつ。内面は磨滅し、転用硯として使用されたと考えられる。つまみ内に「三□〔太ヵ〕三」の墨書があり、中央を漆で「×」と書く。「三□〔太ヵ〕三」は出雲郡美談郷の旧字と考えられている。14、17は須恵器で、底部外面に「□」の墨書がある。15は須恵器皿で、高いしっかりした高台が付く。底部外面に「田人」と「大」の文字が向きを変え墨書されている。16は須恵器で、小片である。底部外面に「□〔真ヵ〕□」の墨書がある。18は須恵器壺で、口縁端部はつまみ上げられている。口縁部内面に「長」の墨書がある。19は須恵器坏で、底部外面に「本」の墨書がある。20は須恵器皿で、底部外面中央に「箅」の墨書がある。21は須恵器で、小片である。底部外面に「白田」の刻書がある。

SD006（第106図）　CJ39付近で検出した南北溝である。南側はSD005に取り付き、北側はＣ区北側トレンチで確認されていることから北に続くと考えられる。断面Ｕ字形を呈し、幅1.0～1.3m、深さ0.3mを測る。SD034との距離は30.0mである。

SD007（第106図、第135図４～11）　CI39付近で検出した南北溝である。北側はSD005に取り付き、南側は調査区外へ続く。Ｂ区SD008との関係は不明である。断面コ字形を呈し、幅0.4～0.45m、深さ0.15mを測る。SD007からは転用硯を含む須恵器が出土している。

遺物は「CK39南北溝」と注記されたものである。135－４、５は須恵器蓋である。６～10は須恵器坏で、10は高台をもつ。６は底部静止糸切りである。７の形態は皿に近く、口縁部内外面に油煙が付く。胎土や焼成から出雲国府跡では類例が少なく、搬入品の可能性もある。８は大型の坏で、口縁端部に沈線状のくぼみがある。内面に墨状の痕跡がある。９は焼成が軟質で、灰白色を呈する。10は内湾する体部をもつ。11は須恵器甕である。

SD009（第104図、第135図16～20）　CH30付近で検出した東西溝である。古墳時代の建物（SB003）と重複し、SD005と平行して走る。SD005との距離は3.2mである。断面コ字形を呈し、幅0.39m、深さ0.1mを測る。

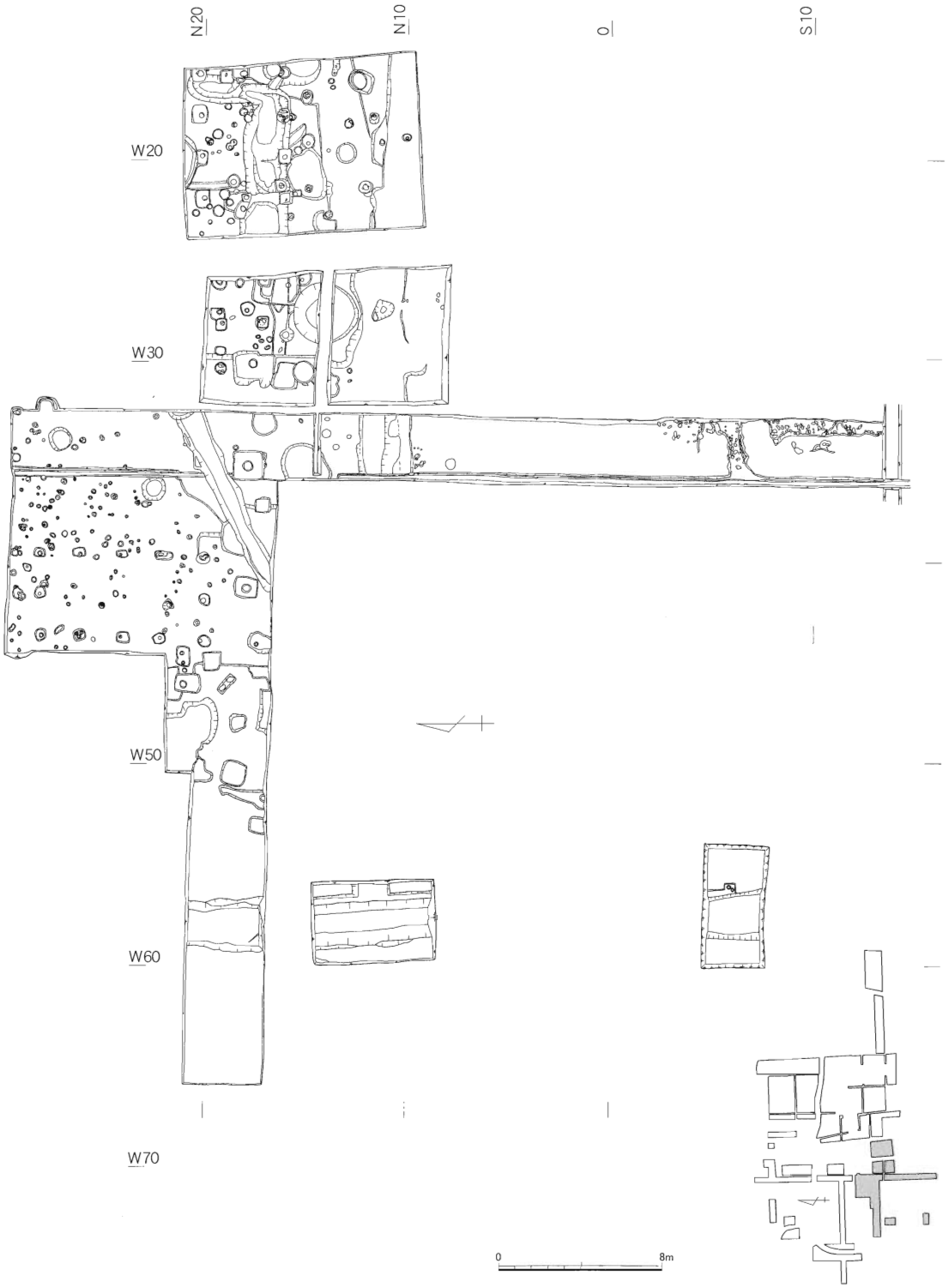
遺物は「CI31東西溝」、「CI32東西小溝」と注記されたものである。135－16は須恵器蓋で、宝珠つまみが付く。17は須恵器坏で、底部は丸みをもち、ナデ調整である。18、19は須恵器坏で、18は内面及び外面の大半に油煙が付着する。20は土師器坏で、端部はシャープである。

SD010（第75図、第131図～132図16、第139図22～26）　Ａ区南端から検出した南大溝である。東側はＪ区に続くが、東端は不明瞭になる。西端はやや幅を狭めて、調査区外へ続く。SD010にはＪ区でSD037、038が、Ａ区でSD124が接続する。また、SD017とは重複関係があり、SD010が新しい。SD010の上幅は1.2～2.4m、深さ0.2mを測り、断面Ｕ字形である。

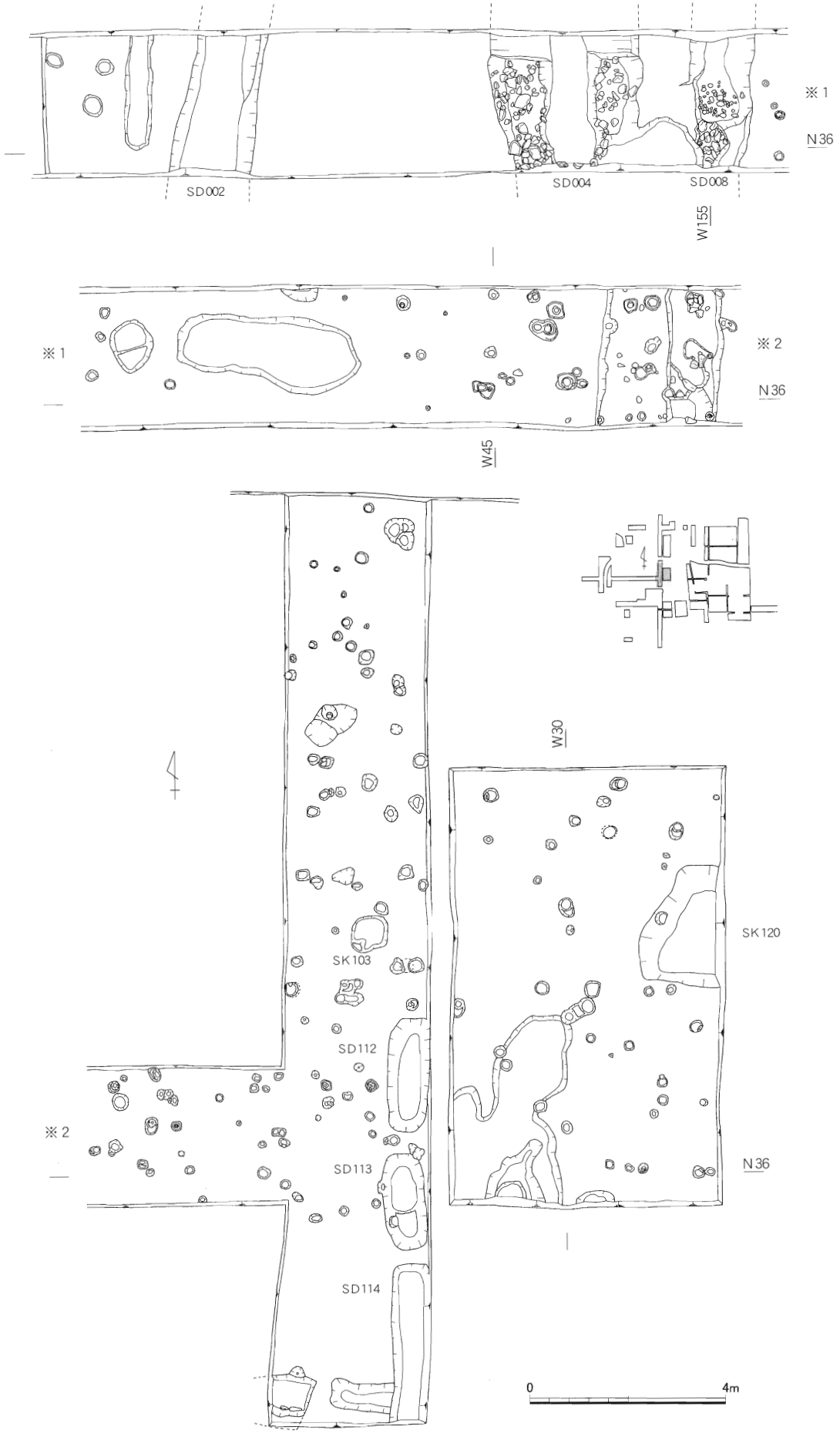
SD010からは須恵器、土師器、転用硯、製塩土器、移動式竈、土製支脚、漆付着土器、鉄滓、羽口、瑪瑙、水晶、黒曜石等が出土している。

131－１～132－６は「２砂」と注記された遺物である。１、２は須恵器蓋である。２の内面は著しく磨滅する。３～20は須恵器坏で、６は口縁部のくびれが強い。５は底部静止糸切りである。８～20は高台がつく。10は内面に漆が付着する。12は概報の第４形式の土器である。14は底部静

止糸切りである。15の高台は低く、底部外縁に付く。17は高台内に「×」のヘラ記号があり、爪状圧痕も残る。18は小型で、外面にミガキ調整が行われる。蓋の可能性がある。20は内面の調整が粗く、高台もやや厚く、壺の可能性がある。21～30は須恵器皿である。口縁部が内湾するもの(21、22)、外反するもの（24、25）があり、さらに底部の調整により分類できる。23の内面は磨滅している。27は内面に墨痕が付着する。31は須恵器托で、内面に墨痕が残る。32～37は須恵器壺である。36の内面には漆が薄く付着する。37は平底で、内面に墨痕が残る。38～41は須恵器高



第95図　宮の後地区B区南側遺構実測図（S＝1：320）



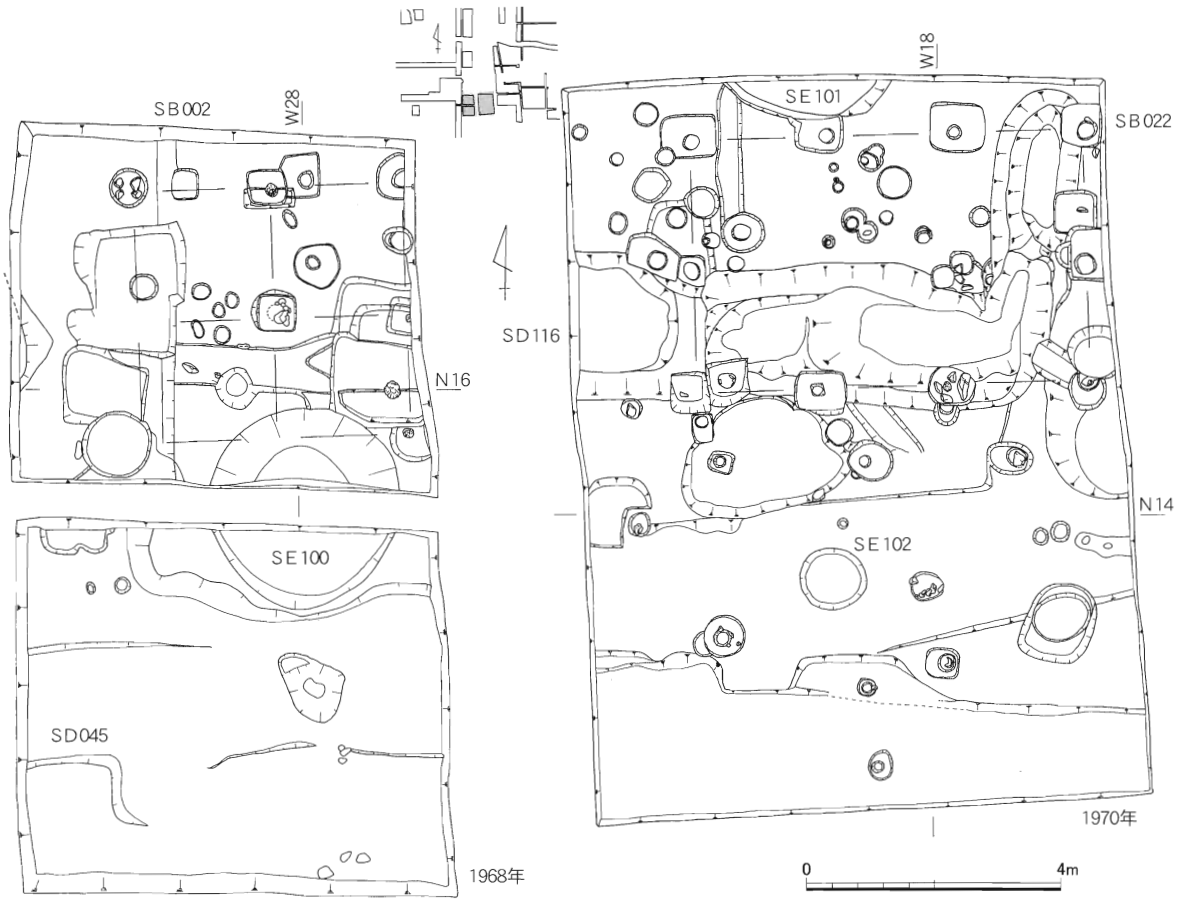
第96図　宮の後地区B区北側遺構実測図（S＝1：120）

坏である。38は方形の透かしが２方向にある。内面には漆が付着する。39は透かしが無く、脚部に「×」のヘラ記号がある。概報の第２形式である。42は短頸壺と考えられ、外面に刻書あるいはヘラ記号がある。43は風字硯で、方形の脚が付く。BO38グリッド出土の破片と接合する。132－１は土師器坏である。口縁端部は外反し、外面には黒斑がある。２～４は土師器皿で、２は内外面に赤色顔料が塗布される。４の口縁部は外反し、内面に放射状暗文がある。５は土師器坏である。６は丸瓦で端部はシャープである。

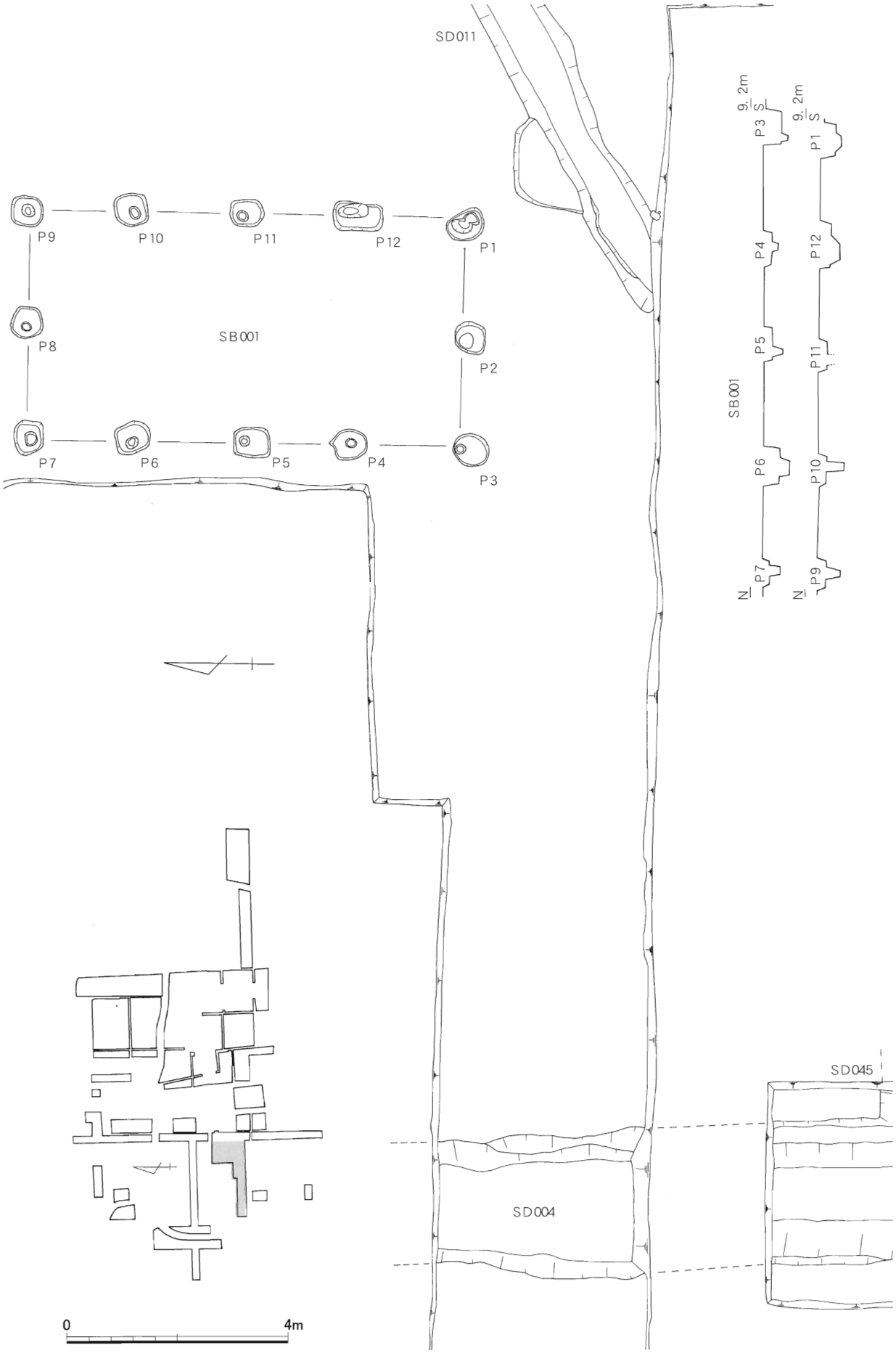
132－７以降は「２砂」以外のSD010出土遺物である。７は小型の須恵器蓋で、口縁部はかえりが付く。８、９は須恵器坏で、低く踏ん張る高台が付く。10、11は須恵器皿で、10は低く、断面台形の特徴的な高台である。12は須恵器鉢と考えられ、口縁部は内傾し肥厚する。京都産の可能性がある。13は須恵器壺である。14は中国製白磁皿Ⅱ－１類である。15は軒丸瓦で、出雲国分寺跡３類である（前島1975）。16は水晶で、自然面を残すが、分割している。

139－22、23、24は須恵器坏である。22は底部外面中央に「庄」の墨書がある。23は底部外面の高台内に「國」の墨書がある。くにがまえの三画目は不明であるが、囲いの中に五画分ある。24は、底部外面中央に「里」の墨書がある。偏がかけている可能性もある。25は須恵器蓋で、内面に「南」の墨書がある。26は須恵器坏と考えられる小片である。底部外面端部に「□」の墨書がある。

132－17～22はSD010の可能性がある。132－17は須恵器蓋で、天井部には回転糸切り痕が残る。18は須恵器坏で、高台内に墨痕が残る。19は須恵器硯で、内面に墨痕が残る。脚は２足残存



第97図　宮の後地区B区東側遺構実測図（S＝1：120）

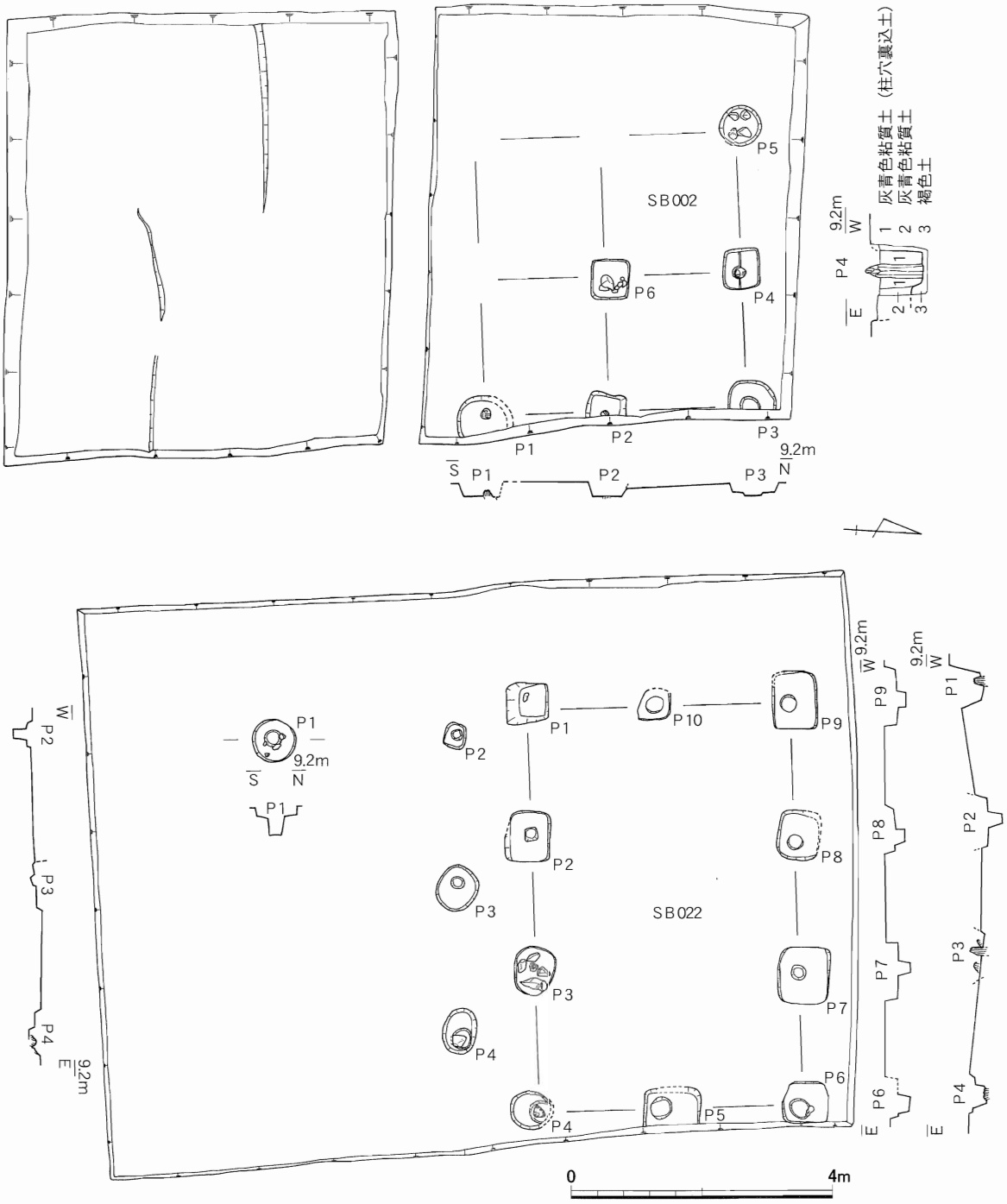


第98図　宮の後地区B区SB001・SD004・045実測図（S＝1：100）

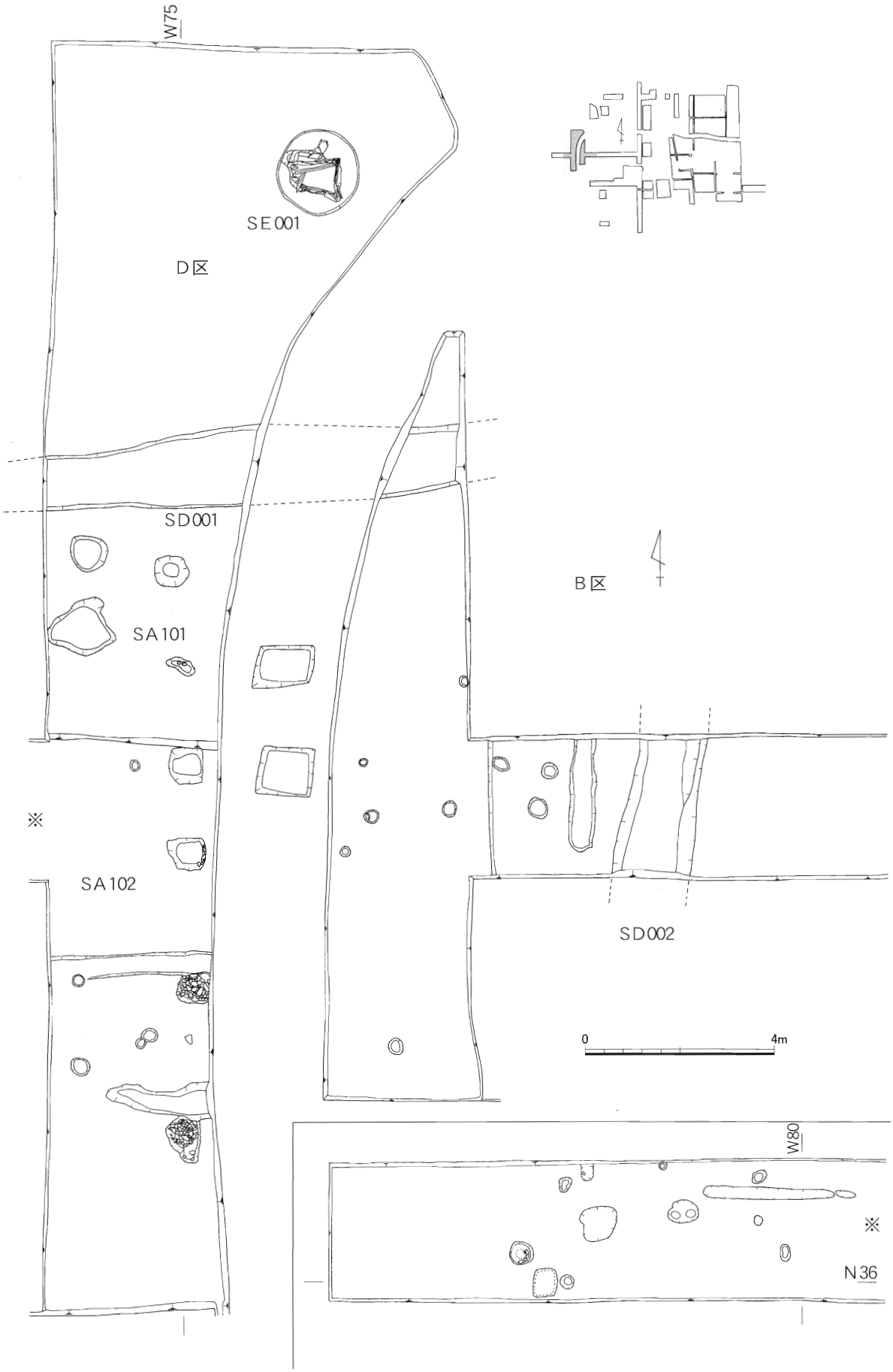
するが、本来は３足と考えられる。20は須恵器壺である。21は須恵器高坏で、脚端部はわずかに下垂する。22は移動式竈で、焚口の庇部と考えられる。

SD017（第90図、第135図32）　AL14からAP14で検出した南北溝で、南端は破壊される。側面には河原石を立て保護している。北側はSD018に接続する。長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。

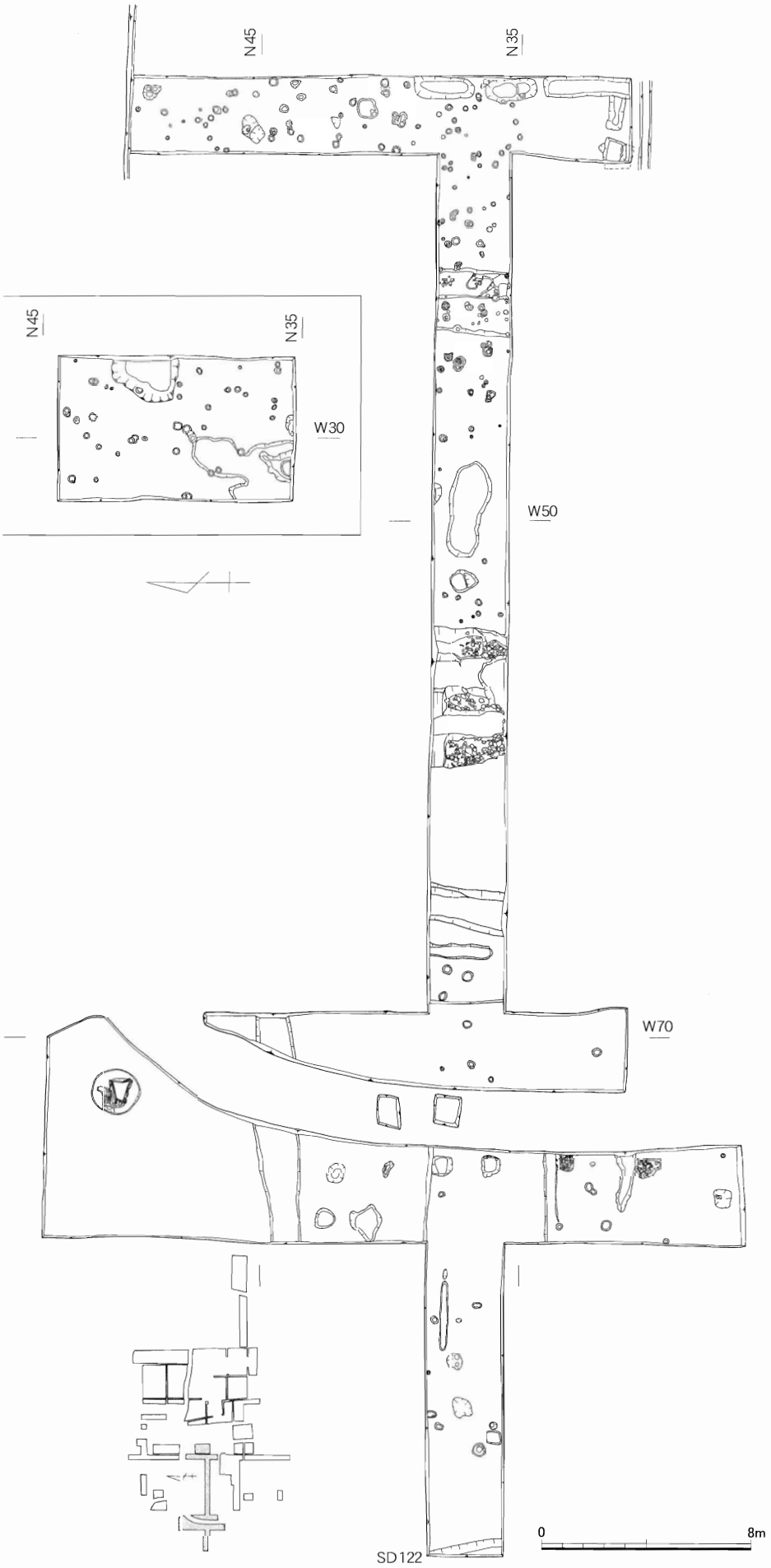
遺物は「AO14南北玉石溝」と注記されたものである。135－32は須恵器蓋である。小型で、口縁部はかえりをもつ。



第99図　宮の後地区B区SB002・022実測図（S＝1：100）



第100図　宮の後地区B・D区遺構実測図（S＝1：120）



第101図　宮の後地区B・D区遺構実測図（S＝1：240）

SD018（第75図）　AQ15付近で検出した溝跡である。L字状を呈し、南北4.0m、東西4.0mの長さがあり、側面には河原石を立て保護し、床面には砂利が敷かれる。北端はSD023、025が接続し、南端はSD017、019に接続する。幅0.8m、深さ0.4mを測る。

SD019（第75図）　AR12からAR13で検出した東西溝である。西端はSD018に接続し、東側は残存状況が悪く不明瞭であるが、SG001につながると考えられる。側面には石材が使用され、床面には砂利が敷かれる。幅0.6m、深さ0.4mを測る。

SD020（第75図）　AL13からAL14で検出した東西溝である。西側はSD

017に接続し、東側はSD022へ続く。SD010と重複し、北側掘方は検出されていない。深さ0.7mを測る。

SD021（第75図）　AL12で検出した南北溝である。SD020、022と北端で接続する。側壁は石材を立て、保護している。幅0.5m、深さ0.1mを測る。

SD022（第75図）　AL11からAL12で検出した東西溝である。西側はSD021に接続する。SD010と重複し、北側掘方は検出されていない。深さ0.15mを測る。

SD023（第75、91図）　AR15からAR18付近で検出した東西溝である。西側は不明瞭である。東端はSD018に接続する。側面には河原石を立て保護し、床面には板状の石が敷かれる。北側にはSD025があり、一部重複している。幅0.6m、深さ0.4mを測る。

SD024（第75図）　AR12からAR15で検出された東西溝である。西端はSD026に、東端はSG001に接続する。床面には砂利が敷かれる。幅0.6m、深さ0.3mを測る。

SD025（第75、91図）　AR15からAR25付近で検出した溝跡である。AR15からAR25では東西に走り、SD046の接続した後、南側へ屈曲する。南端は調査区外へ続く。東端はSD018に接続する。側面には河原石を立て保護し、床面には砂利が敷かれる。東西の長さ2.7m、幅0.8～1.0m、深さ0.4mである。南側にはSD023があり、一部重複している。

SD026（第75図、第136図20、21）　AR15からAS17付近で検出された溝跡である。西端は途切れるが、東側はL字形に屈曲し、SD024に接続する。SD027と重複し、東西方向に流れるが残存状況は悪い。床面には砂利が敷かれる。幅0.8m、深さ0.4mを測り、断面コ字形である。

遺物は、「AT16南北溝」「AS16南北溝」と注記されたものである。136－20は須恵器壺で、内面及び断面に漆が付着する。丸底で、肩部には段があり、厚手である。頸部から肩部にかけ打ち欠かれている。特異な形態であり、漆の運搬による移動品と考えられる。21は須恵器坏と考えられる。薄手で、内外面は丁寧なミガキ調整である。肩部もシャープな造りで、外面に1条の沈線をもつ。

SD027（第75図、第135図33）　AS23からAS14付近で検出した東西溝である。SD005の南34mに位置する。西側はSD053（会所）により、東側はSD026、028により破損する。また、SE004、005により一部破損する。幅0.8m、深さ0.2mを測り、断面コ字形である。

遺物は、「AS16東西溝」と注記されたものである。135－33は須恵器皿である。

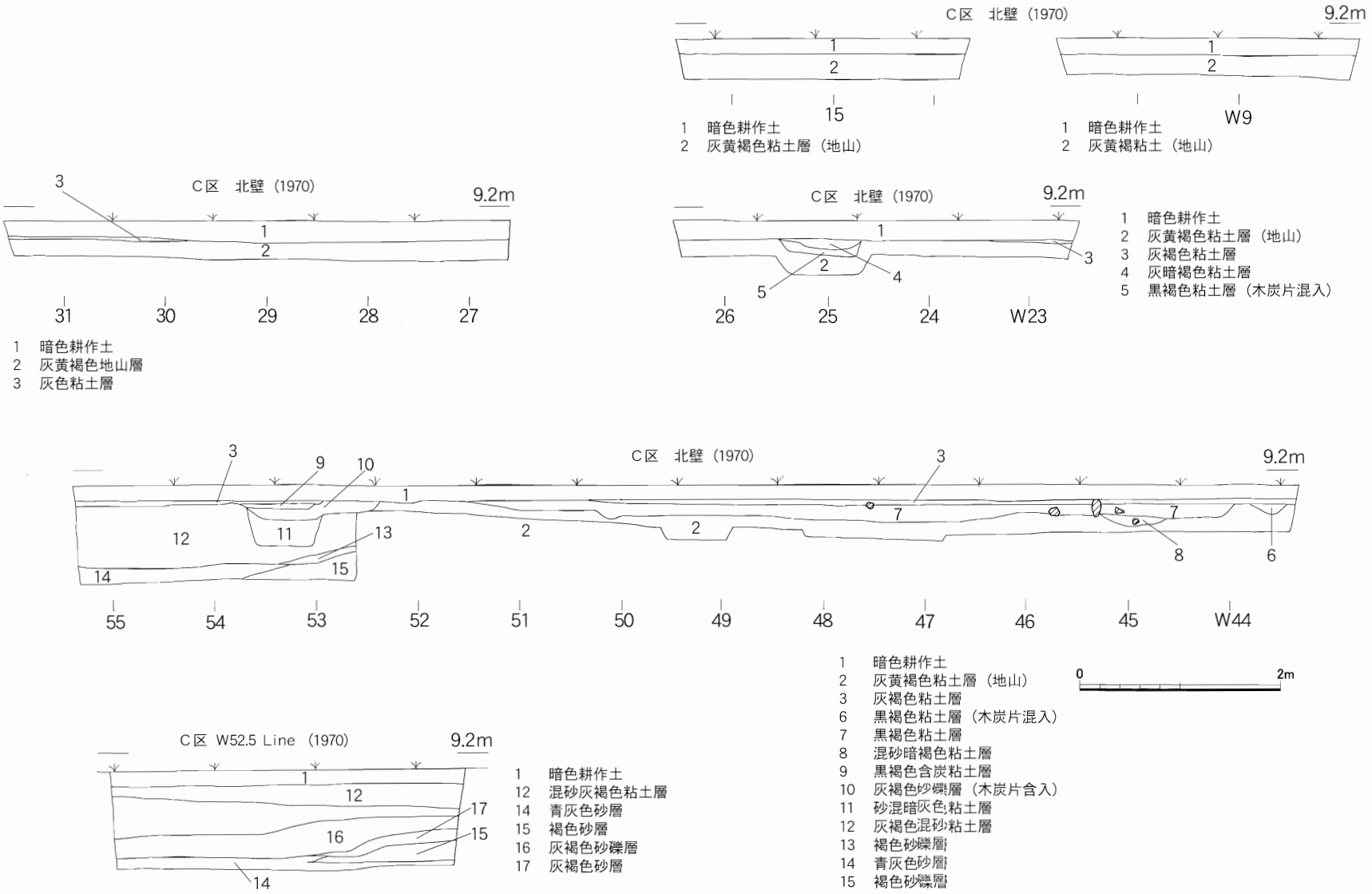
SD028（第75図、第135図34～36）　AR11からAS16で検出した東西溝である。東西に走りながら東側で、調査区を斜行し、SG001に接続する。西端はSD026、027と重複し、残存状況は悪い。側面の一部には石材を立て岸を保護している。幅0.8m、深さ0.2mを測り、断面コ字形である。

遺物は、「AS13東西溝」と注記されたものである。135－34は須恵器蓋、35は須恵器坏である。36は須恵器皿で、外反する口縁部をもつ。

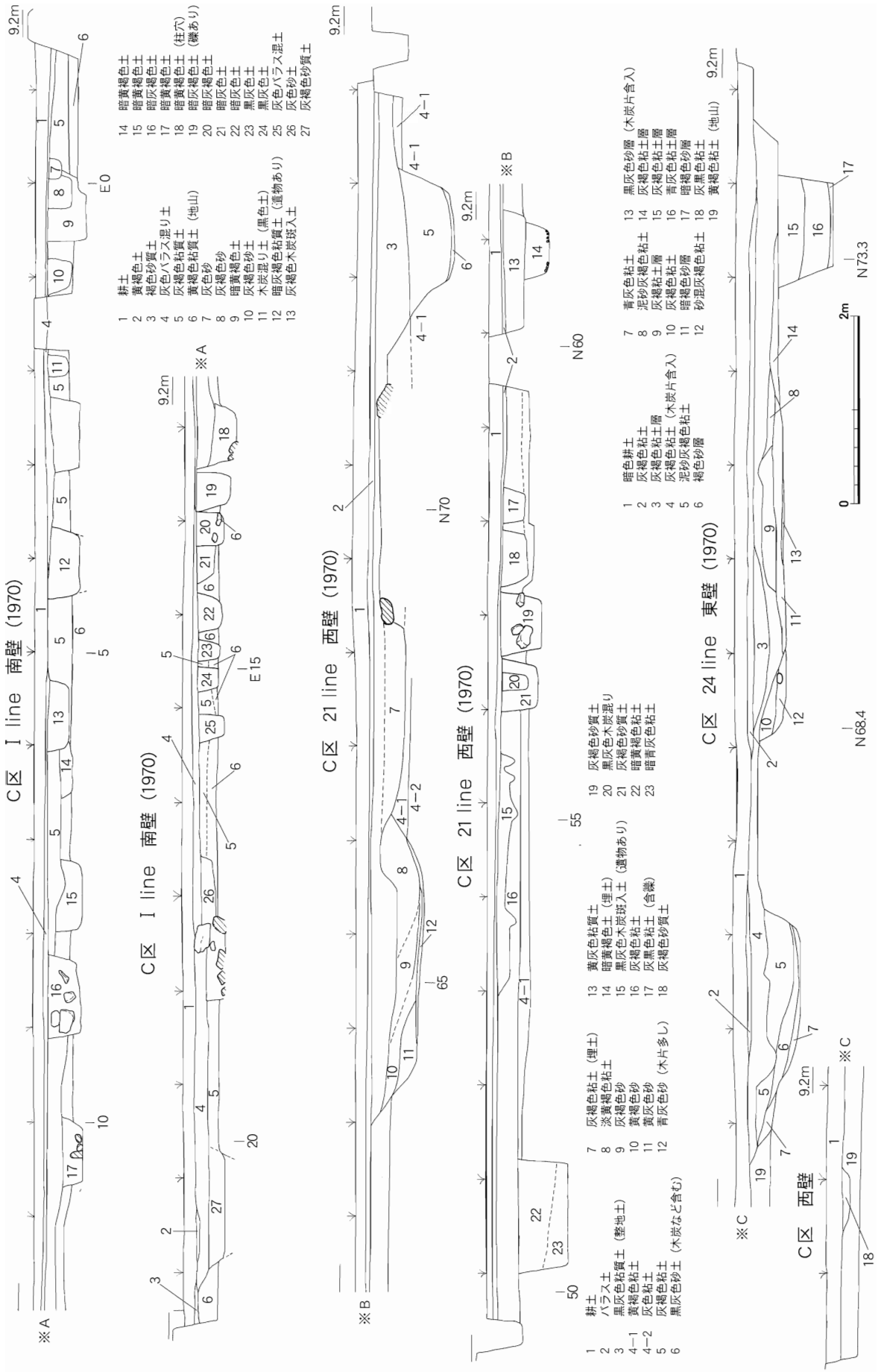
SD029（第75図、第135図37、38）　AS14からAC14で検出した南北溝である。南側はSD028に接続し、北側は調査区外へ続く。側壁には板状の石材を立て保護している。断面はコ字形で、幅0.5～0.7m、深さ0.1mを測る。西側28mにSD030が主軸をややずらして走る。

遺物は、「AB14南北溝」、「AB15南北溝」と注記されたものである。135－37は須恵器坏である。38は須恵器蓋で、天井部の調整は丁寧で、ミガキ調整か。

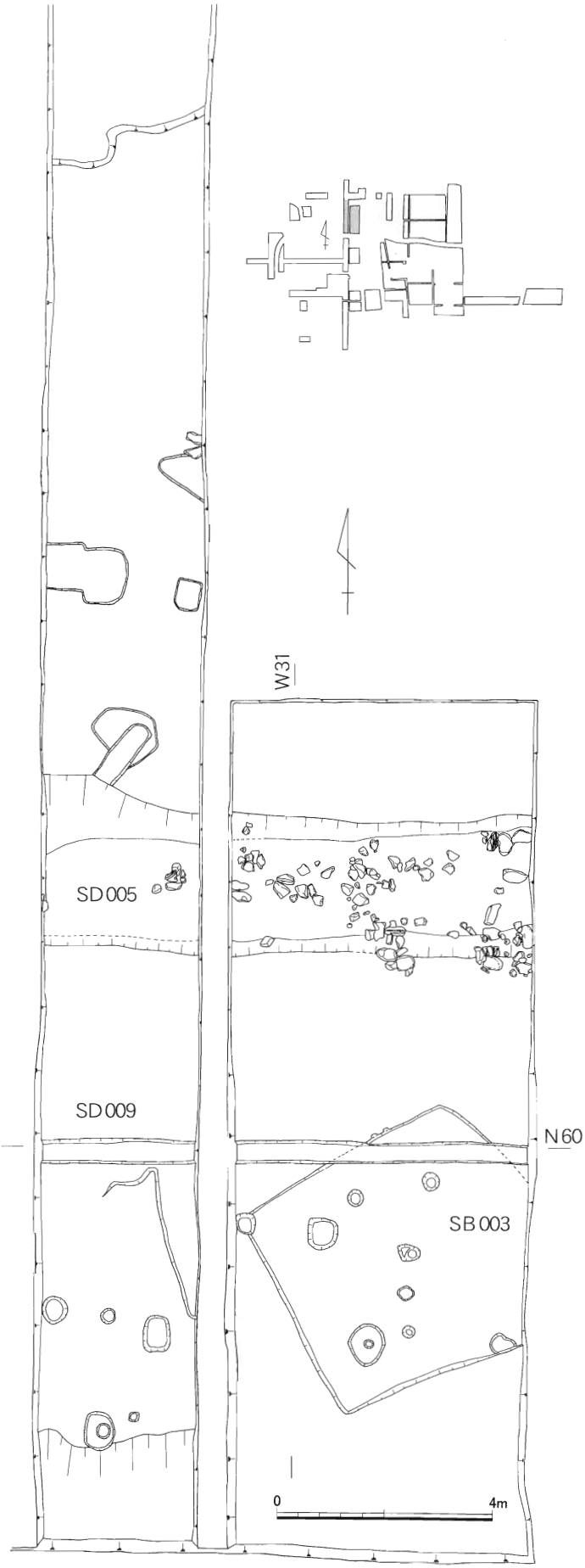
SD030（第75図、第135図39～41）　AS15からAA15で検出した南北溝である。南側はSD028に



第102図　宮の後地区C区土層図（1）（S＝1：60）



第103図　宮の後地区C区土層図（2）(S＝1：60)



第104図　宮の後地区C区SB003付近実測図（S＝1：120）

接続し、北側はやや不明瞭になる。東側にはSD029がある。

遺物は「AS15南北溝」と注記されたものである。135－39は須恵器蓋、40は須恵器坏である。41は須恵器硯の脚部と考えられ、突帯の上に透かしの痕跡がある。

SD031（第75図）　AR16で検出した南北溝である。SD023に注ぐ。断面はコ字形で、幅0.4～0.5m、深さ0.06mを測る。

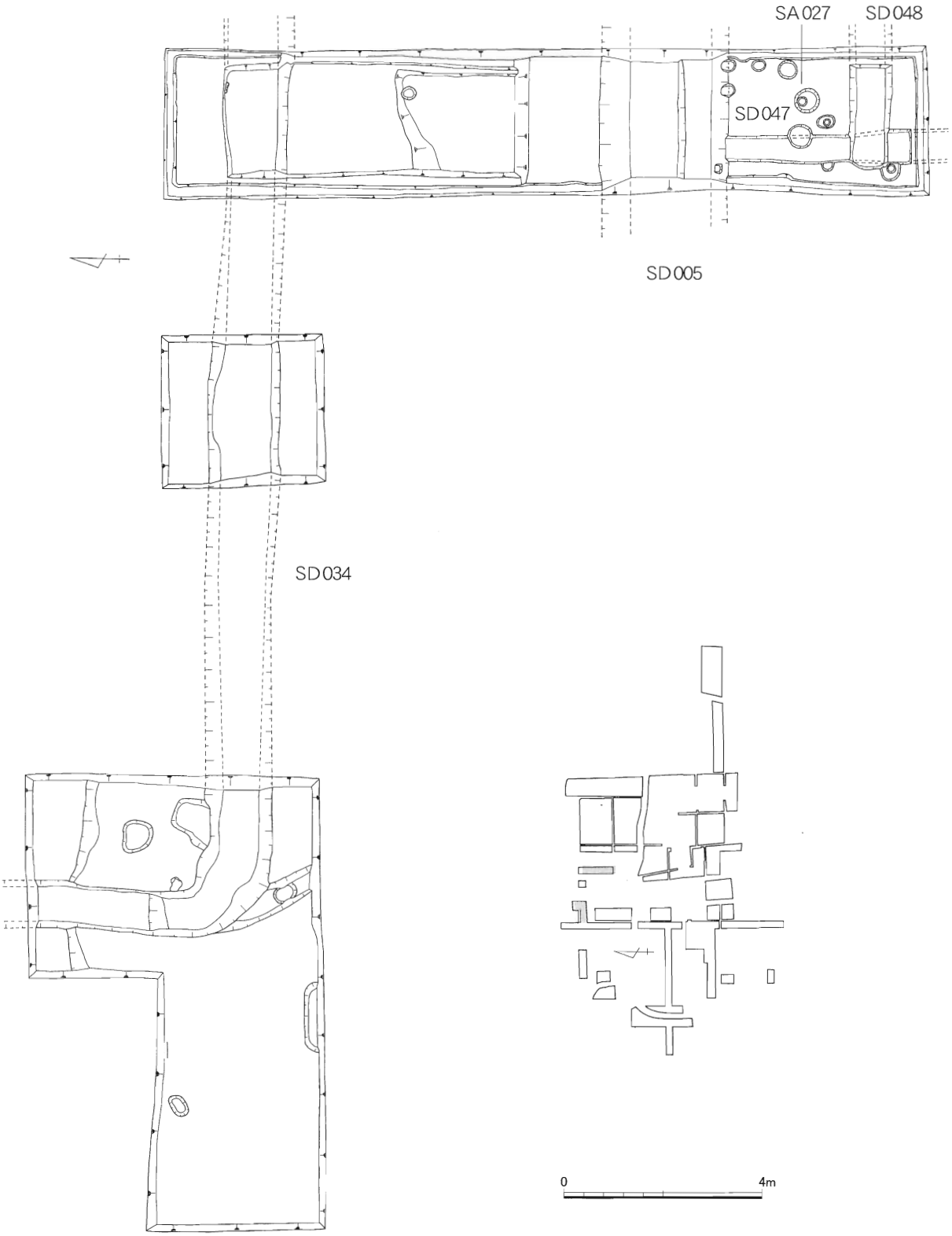
SD034（第75図、第133図1～38）

C区北端で検出した東西溝である。SD005の北側に位置し、幅1.6～1.9m、深さ0.2mを測り、断面U字形を呈する。東側は調査区外へ続くが、西側はCM29付近で北側に屈曲する。

SD034からは須恵器、土師器、転用硯、製塩土器、坩堝、瑪瑙、水晶、木簡が出土している。日誌によると、CK21付近では溝を掘り下げると北岸に沿って青灰色砂の窪みがあり、窪みから木簡３点を含む木片が多数出土した。また、133－38の「進上」木簡はCM15グリッドの溝を掘り下げ中に出土している。

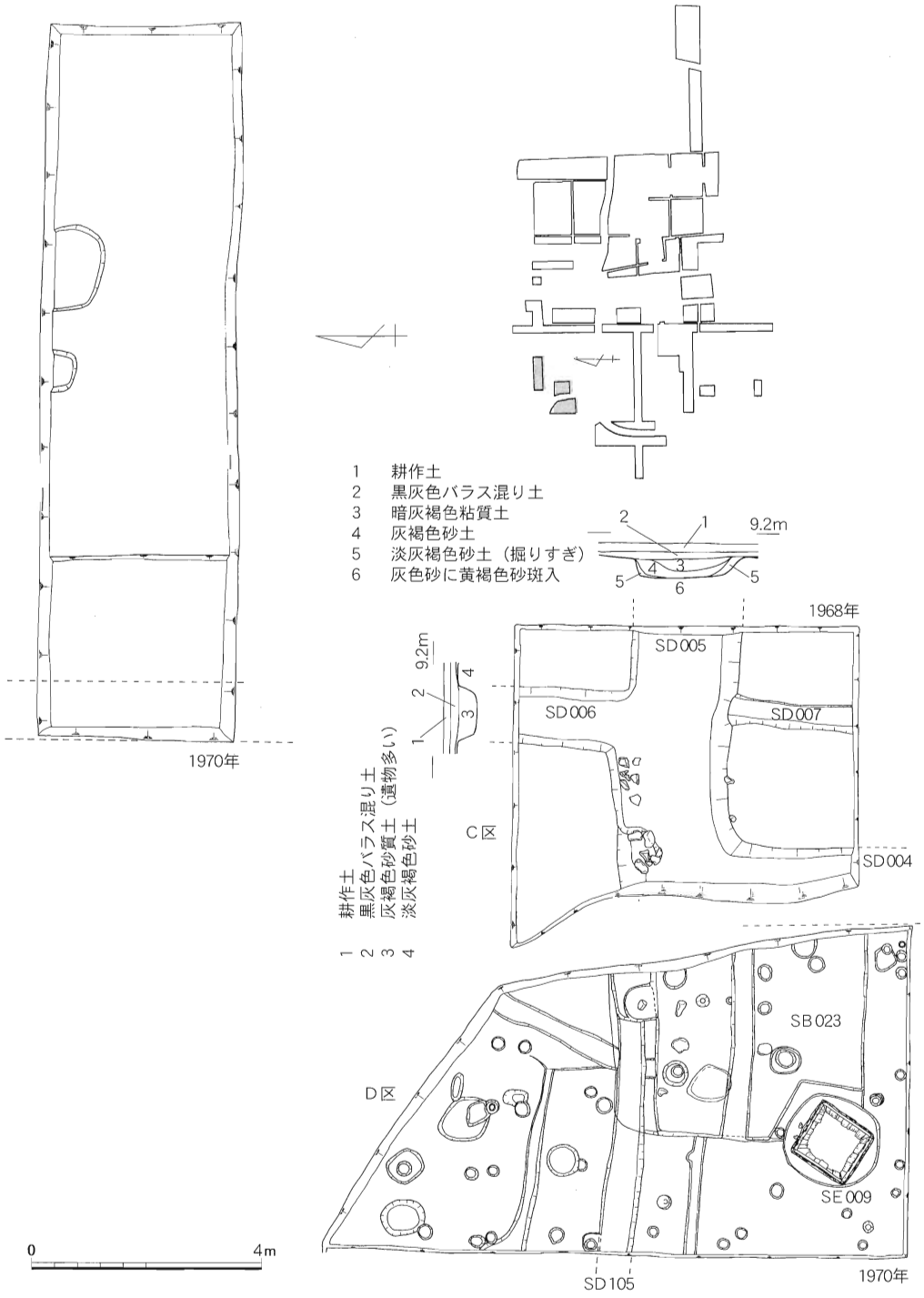
遺物は、「CM12、14、18、19、20、21、26、CN29東西溝」と注記された遺物である。133－１～４は須恵器蓋である。１は輪状つまみで、口縁部はかえりが付く。２は天井部に回転糸切り痕が残る。５～17は須恵器坏である。５は古墳時代の坏身で、ヘラケズリは丁寧に施され範囲は広い。６は大型で、底部は手持ちヘラケズリ調整である。７～９の体部は丸みをもちながら立ち上がる。13は底部静止糸切りで、丸みをもつ体部である。15、

16の底部には「×」のヘラ記号がある。17は器高が高く、口径の小さな特異な器形である。高台は平坦である。18～25は須恵器皿である。18の底部は静止糸切りである。19は内面に墨痕がある。23は大粒の白色砂粒を多く含み、大型の高台をもつ。25は断面三角形の高台をもつ。26、27は須恵器高坏である。26は口縁部が直立し、外面にヘラ記号がある。27は全形が分かる数少ない遺物である。口縁部端部には沈線状のくぼみがある。脚部端部は下垂する。坏部と脚部の接合部外面は



第105図　宮の後地区C区北側SD034北折れ付近実測図（S＝1：120）

大きくくぼむ。28～31は須恵器壺である。31は小型の短頸壺で、器壁は薄い。32は須恵器甕で、口縁部と頸部の境は不明瞭である。33は土師器皿で、内外面は赤色顔料が塗布される。34は土師器高坏である。35はミニチュア土器で、小型壺状を呈する。外面は粗いハケ目調整と指頭圧痕が残る。36～38は木製品である。36の上端はシャベル状に先細りするように加工している。下端は欠損する。表裏面はほぼ平坦である。37は板状木製品である。上端は丁寧に加工され、下端は欠損する。墨痕は確認できない。38は木簡である。上端平面ケズリの柾目材である。下端及び裏面は欠損する。「進上兵士財□□」、進上木簡あるいは帳簿木簡の可能性が指摘されている（平石1995）。



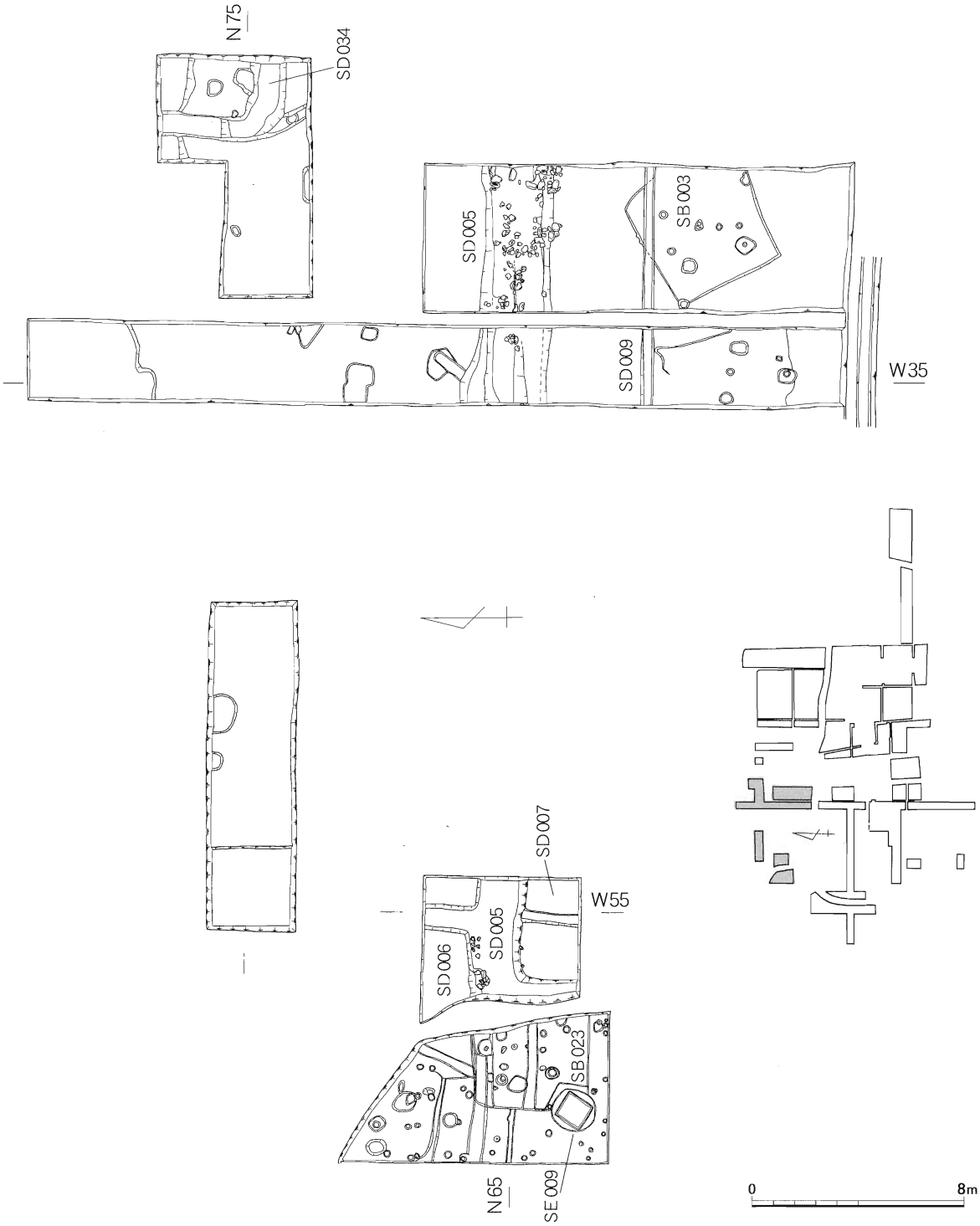
第106図　宮の後地区C・D区遺構実測図（S＝1：120）

SD035（第75図）　AS11付近で検出した溝跡である。SG001と重複し、残存状況は悪い。

SD037（第77図、第136図１）　JM96付近で検出した南北溝である。北側はSD010に接続し、南側は調査区外へ続く。幅1.2～1.4m、深さ0.1mを測り、断面コ字形を呈する。

遺物は、「JM96南北溝」と注記されたものである。136－1は須恵器蓋で、大型の輪状つまみをもち、口縁部はかえりがある。

SD038（第77図）　JO97付近で検出した南北溝である。南側はSD010に接続し、南側は調査区外



第107図　宮の後地区C・D区遺構実測図（S＝1：240）

へ続く。幅1.2m、深さ0.08mを測り、断面コ字形を呈する。

SD046（第75図）　AR24付近で検出した南北溝である。北側はSD053に、南側はSD025に接続する。側面には河原石を立て保護し、床面には砂利が敷かれる。長さ３m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。

SD047（第75図、第92図、第134図１～28）　AI24から南側で検出した南北溝である。北側はSD005に南側はSD053の会所（水溜）に接合する。底には玉砂利が敷かれ、側面は平坦な石材を立てて、護岸としている。幅0.9m、深さ0.1mをはかる。

遺物は、「AA24、AD24、25、AC24、25、CJ24南北溝」と注記された遺物である。134－１～７は須恵器蓋である。１～５は輪状つまみをもち、４は内面に墨痕がある。６は宝珠つまみで、器高は低い。８～16は須恵器坏である。８、９、11、16は底部静止糸切りである。10、11は底部ヘラケズリ調整である。12、13は内外面に漆が付着する。13、15の高台には墨痕が残る。17は須恵器鉢の把手と考えられる。大型の把手で、把手の両脇の体部には沈線文が残る。18は須恵器甕で、「井」のヘラ記号が残る。19は土師器坏で、内外面赤色顔料が塗布される。20～22は土師器皿である。20は口縁端部が平坦で、内面に沈線状のくぼみがある。内面にはラセン状暗文があり、概報の第２形式である。21は器高が低く、蓋の可能性がある。23は土師器高坏である。24～26は土師器坏であるが、時期が異なり、混入の可能性がある。24は内面に漆が付着する。26は高く外に広がる高台をもつ。27、28は土師器甕である。27は胴部中央に最大径をもつ。

SD048（第75図、第136図10～13）　CI14からCI24で検出した東西溝である。SD005の南側に位置し、距離は2.2mである。西側はSD047と重複関係がある。幅0.8m、深さ0.08mを測り、断面コ字形を呈する。途中、SD049、050が接続する。

遺物は「CI14東西溝」、「CI24東西溝」と注記されたものである。136－10は須恵器蓋で、天井部はヘラケズリ調整である。11は須恵器坏である。12は製塩土器で、手捏ね成形である。13は土師器甕で、内面に厚く黒色付着物がある。

SD049（第75図）　CI16付近で検出した南北溝である。北側はSD005に、南側はSD048に接続する。幅0.2～0.3m、深さ0.04mを測り、断面Ｕ字形を呈する。東側3.4mにはSD050が平行している。

SD050（第75図）　CI15付近で検出した南北溝である。北側はSD005に、南側はSD048に接続する。幅0.5～0.6m、深さ0.6mを測り、断面コ字形を呈する。

SD053（第92図）　AS24で検出した会所（水溜）である。SD053は河原石で方形に囲み、底に５～10㎝程度の砂利を敷く。北側はSD047に、南側はSD046に接続する。東西1.2m、南北1.1m、深さ0.2mを測る。

SD117（第75図、第136図14～19）　AA22からAD22付近で検出した南北溝である。幅0.5m、深さ0.1mを測り、断面U字形である。南端はSK004と重複している。北側は不明瞭である。

遺物は「AA22南北溝」、「AD22南北溝」と注記されたものである。136－14は須恵器甕で、外面に２条の沈線文とヘラ状工具による刺突文がある。刺突文上に円形の透かしがある。15は須恵器硯で、内面は磨滅する。高台内には墨状の黒色物が残る。器壁が薄く、特徴的な焼成である。16～18は土師器皿である。表面が風化し、焼成も悪い。17は内外面に赤色顔料が塗布され、口縁部は上方に立ち上がる。18は、内外面に赤色顔料が塗布される。19は土師器坏で、内面及び外面

の口縁部に漆が付着する。

SD118（第136図22）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「AD21南北溝」と注記されたものである。136－22は須恵器坏と考えられ、底部外面に「×」のヘラ記号がある。

SD119（第135図31）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「AC19古墳溝」と注記されたものである。135－31は移動式竈の端部と考えられる。端部は平坦で、鰭部は指頭圧痕が残る。

SD120（第137図22～24）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「CF21東側南北溝」と注記されたものである。137－22は須恵器蓋で、天井部は回転糸切りである。つまみは大型で、扁平である。23、24は須恵器坏で、高台は底部外縁に付く。

SD121（第75図、第135図28～30）　CG16付近で検出した溝跡である。主軸は北東から南西で、調査区に斜行する。両端は古代の遺構を保護するため、検出は行っていない。確認した長さ6.6m、幅0.43m、深さ0.23mで、断面U字形である。埋土は灰黒色粘土の一層である。

遺物は「CG16古墳斜溝」と注記されたものである。135－28～30は土師器坏で、口縁部が上方に垂直気味に立ち上がる。29の底部外面は、手持ちヘラケズリ調整である。30の口縁部外面に稜線が残る。古墳時代か。

SD124（第77図、第132図23～27）　AM06付近で検出された南北溝である。北側はSD010に接続し、南側は調査区外へ続く。SD037の西23.3mに位置する。幅2.25m、深さ0.2mを測り、断面コ字形を呈する。

遺物は、「AM03南北溝、AM06南北溝」と注記されたものである。AM03の南北溝の詳細は不明で、SD124との関連は明確でないが、今回は遺物をここで掲載しておく。132－23～25は須恵器坏で、25の底部はヘラ切り後ナデ調整で、ヘラ記号がある。26は須恵器皿で、口縁部の一部に油煙が残る。27は須恵器高坏で、脚には透かしがある。坏部内面は磨滅し、墨痕が残る。

不明　遺物（第137図27、28）「東西溝」と注記されたもので、遺構名は不明である。27は須恵器蓋で、内面が磨滅し、転用硯として使用されたと考えられる。28は土師器甕で、口縁部は丸みをもち、外反する。

SE003（第93図）　A区南西隅のAN25付近で検出した井戸跡である。SA003の一部と重複している。掘方の平面形は方形で、幅1.3mを測る。井戸は縦板を横桟で止める。一部は調査区外に続き、確認された二隅には隅柱が残る。幅約10cmの縦板を一辺につき16枚使用し、目隠し状に重なるように並べ、内側に横木を組んでいる。隅柱にはほぞを開け横木を組んでいる。一辺1.05m、深さ0.6m以上を測る。遺物は木製品が出土している。

SE004（第75図、第111図16～19）　AS21付近で検出した井戸跡である。掘方の平面形は楕円形で、南北2.5m、東西2.1mを測る。井戸は方形で、南北1.0m、東西0.9m、深さ0.45mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

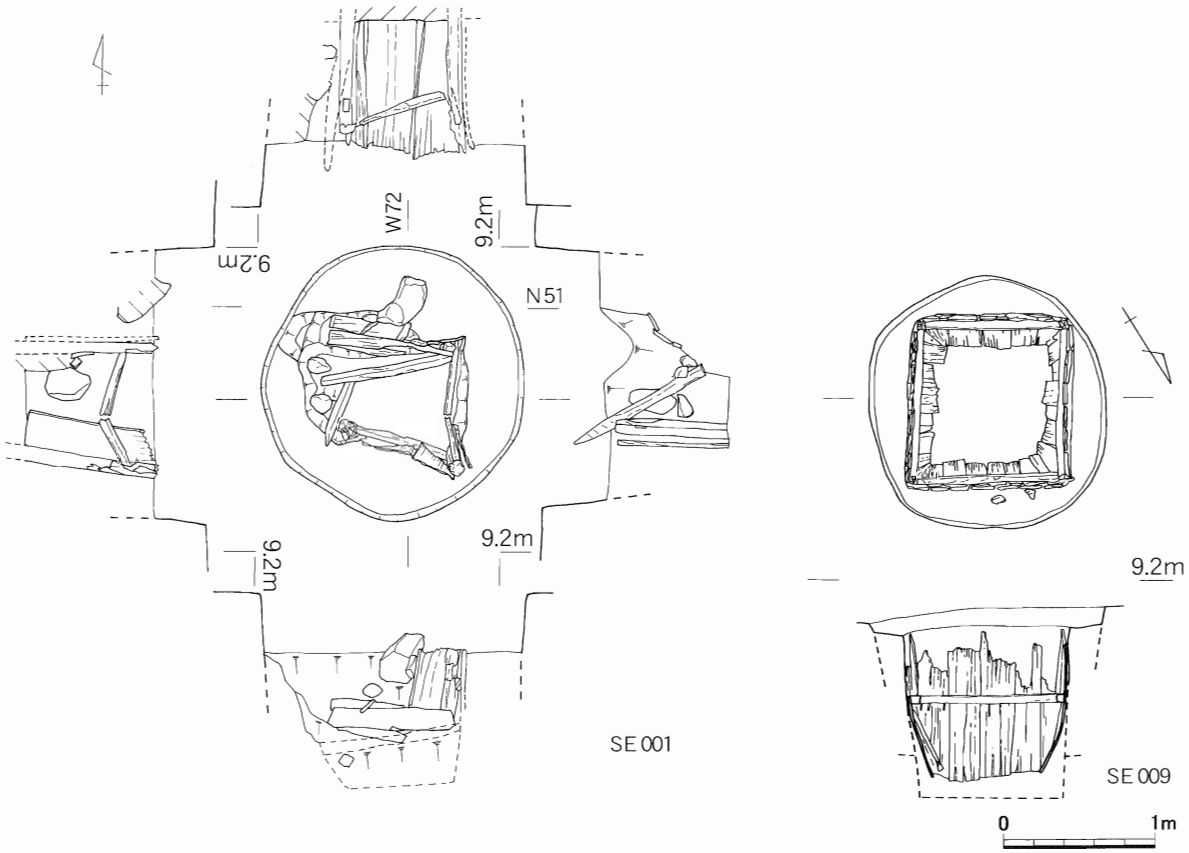
遺物は「AS21井戸内」と注記されているものをあてた。111－16は土師器坏で、ハの字状に開く体部をもつ。17は土師器柱状高台付坏で、底部は糸切りである。18は須恵器坏で、高台をもつ。19は土師器甕である。外面は煤が付着する。

SE005（第75図、第111図20～46）　AR18付近で検出した井戸跡である。SD027と重複し、SE005が新しい。掘方の平面形は上面では円形に近い方形、下面では方形を呈する。上面で直径2.4～2.6m、下面で1.15m、深さ1.1mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

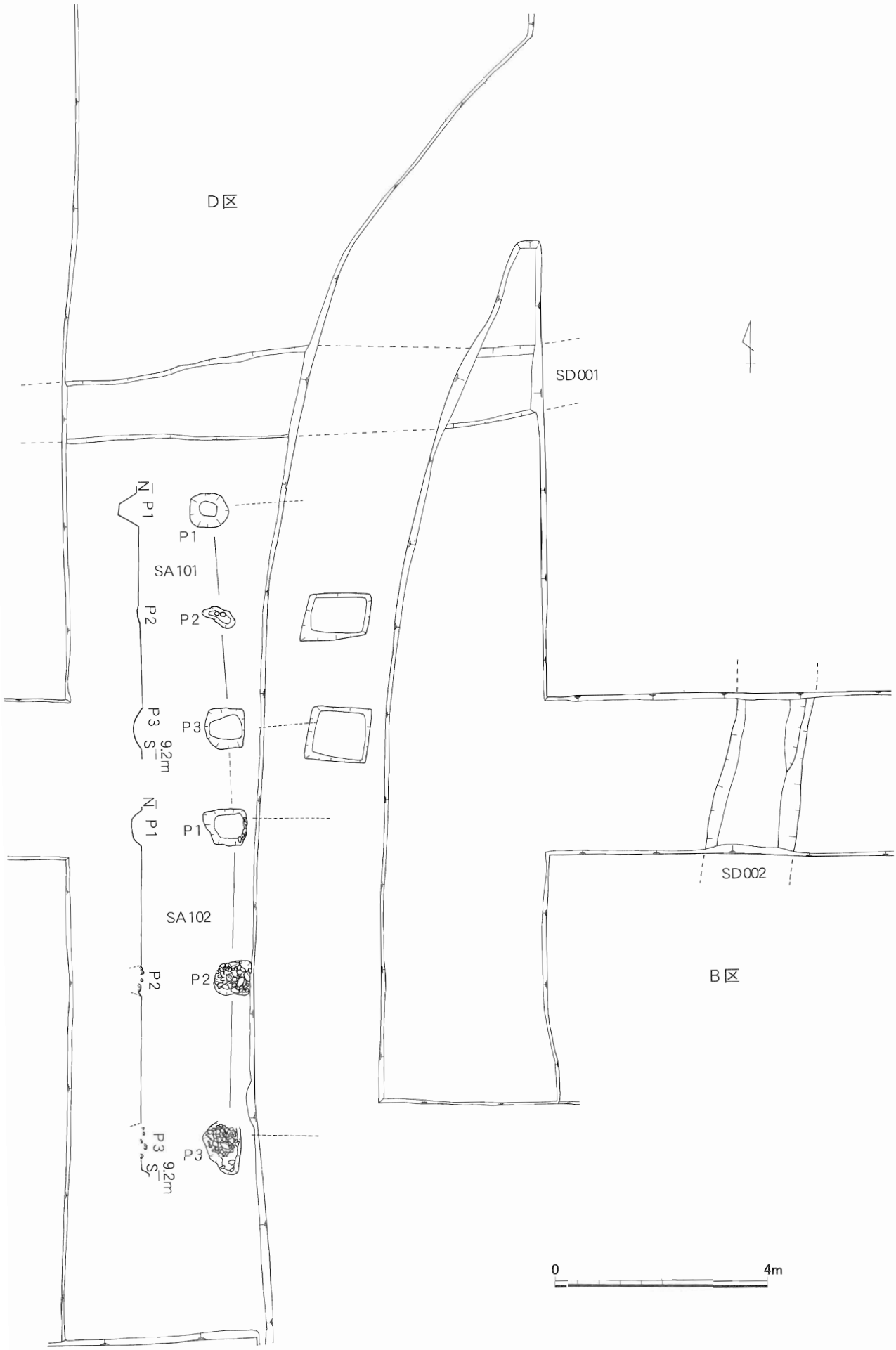
遺物は「AR17井戸」、「AR18井戸」、「AR19井戸」と注記されたものをあてた。111－20～23は土師器坏で、ハの字状に開く体部をもつ。24～30は土師器皿である。体部がハの字に開くもの（24～26）と内湾するもの（27、29）がある。31～35は柱状高台をもつ皿あるいは坏である。31の底部側面はくぼみをもつ。33は大型で、坏部も深みをもつ。36、37は高台をもつ皿あるいは坏である。土師器は確認できるものは底部糸切りである。38～41は中国製白磁である。38は底部内面に沈線があり、皿Ⅳ類である。39は高い高台をもつ碗Ⅴ類である。40、41は低いケズリ出し高台をもつ碗Ⅳ－１類である。42は須恵器硯で、AT23グリッドの破片と接合している。厚手で、深い海を持ち、内面にタタキ痕跡が残る。43は須恵器甕である。44は丸瓦で、内面に布目が残る。端部は鋭く切られている。45、46は棒状鉄製品である。表面の剥離が著しく、当初の形態は不明である。残存状況の良い所では断面は方形である。鉄箸か。

SE008（第93図、第111図47～51）　AQ24付近で検出した井戸跡である。SD046と重複し、SE008が新しい。掘方の平面形は円形で、2.0mを測る。井戸は幅10㎝程度の縦板を横桟で止めている。縦板はすべての面で一部が重なるように組まれている。平面図からは隅柱は確認できず、南北方向の横桟は東西方向の横桟のほぞに入れて止めている。

遺物は、「AQ24井戸」と注記されたものをあてた。111－47は須恵器坏である。48、49は土師



第108図　宮の後地区D区SE001・009実測図（S＝1：50）



第109図宮の後地区D区SA101・102実測図（S＝1：100）

器皿である。50は大型の高台をもつ土師器坏である。51は平瓦である。格子タタキと布目が残る。

SE106（第75図、第112図19～21）　AP20付近で検出した井戸跡である。掘方は方形で、一辺0.9～1.1m、深さ0.6mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は、「AP20井戸？」と注記されたものをあてた。112－19は土師器坏で、器厚は厚い。20は柱状高台をもち、厚手である。21は瓷器系陶器甕で、外面にタタキが施される。

SE107（第94図、第112図22～24）　BP33付近で検出した井戸跡である。掘方は円形で、直径1.1m、深さ0.4mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は、「BP33井戸北」と注記されたものをあてた。112－22、23は土師器皿である。24は柱状高台をもつ。

SE108（第75図、第112図32）　AR11付近で検出した井戸跡である。掘方は円形で、直径1.2m、深さ0.6mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は「AR11井戸内黒色」と注記されたものをあてた。112－32は土師器皿である。

SG001（第75図）　AP11付近で確認した水溜まり遺構である。南北1.1m、東側は調査区外に続くが現状で0.4m、深さ0.15～0.2mを測る。周囲には石が存在する。石が当初から人為的に敷設されたかは不明である。SG001にはSD019、024、028が注ぎ込む。

SK004（第75図、第113図1～19）　ASAT22－23付近で検出した土坑である。不整形で、南北5.0m、東西2.7m、深さ0.06mを測る。浅く、窪みに土器が堆積した可能性がある。SD027と重複関係があり、SK004が新しい。

遺物は「ASAT22－23土坑内」と注記されたものをあてた。113－1～5は須恵器蓋で、宝珠つまみが多い。5の天井部は糸切り痕を残す。6～14は須恵器坏で、9～14は高台をもつ。8の口縁部には油煙が残る。9の高台には爪形圧痕が残る。14の高台は低く、鋭い。体部は内湾する。15～17は皿で、17は高台をもつ。16の底部はヘラケズリ調整である。18は須恵器高坏で、円形の透かしが四方向にある。19は須恵器鉢である。

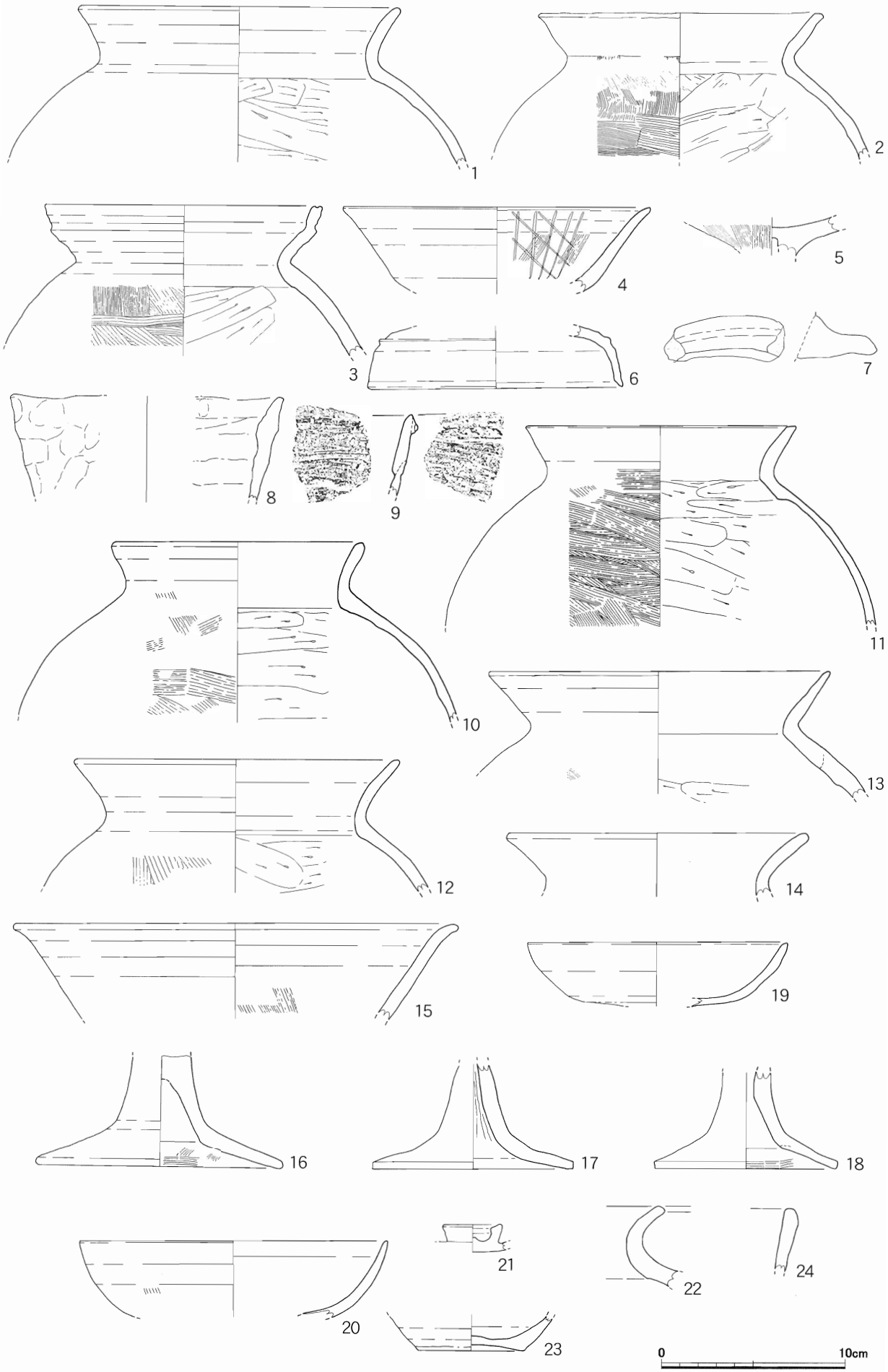
SK105（第113図20～24）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「AT22土坑内黒色土」と注記されたものをあてた。113－20、21は土師器坏で、器高は低い。22、23は土師器高台付皿で、22は断面三角形状の踏ん張る高台で、灰釉陶器の高台に似る。24は土師器高台付坏である。

SK106（第113図25～28）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「AT20黒色ピット（大）」と注記されたものをあてた。113－25は中国製白磁蓋で、天井部のみ施釉され、下端はケズリられている。26～28は須恵器である。26の焼成は軟質で、外面に「白」の刻書がある。27の皿は口縁部が外反する。28は、底部切り離しが静止糸切りの可能性がある。

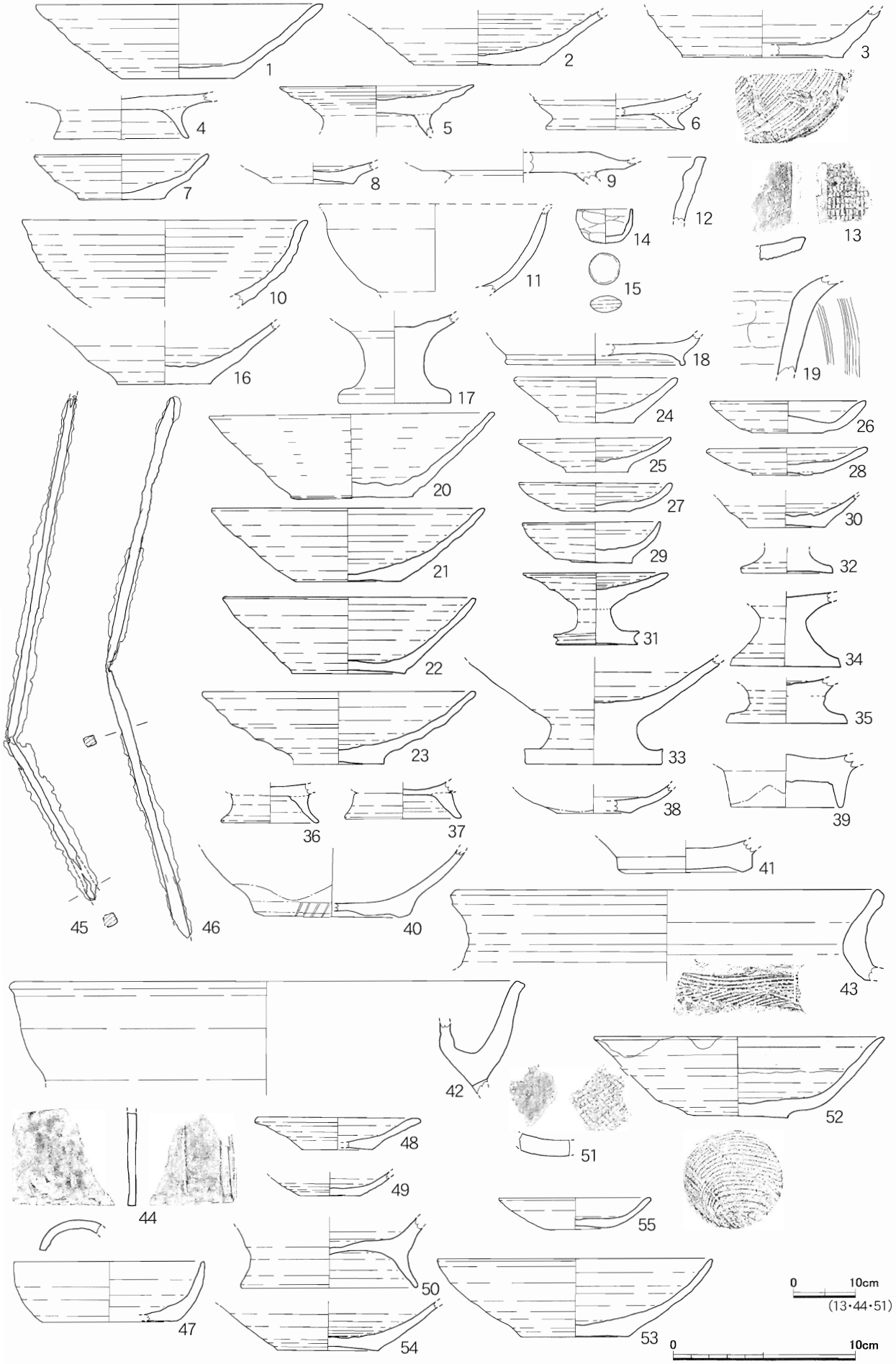
SK107（第75図、第113図29～32）　AO17で検出した土坑である。不整形で、南北2.4m、東西2.2m以上、深さ0.1mを測る。窪み状を呈し、SA005と重複関係があり、SK107が古い。

遺物は、「AO17土坑」と注記されたものをあてた。全て須恵器蓋で、天井部はヘラケズリが残り、口縁部はかえりをもつ。113－29～31は小型である。32の外面には「×」のヘラ記号がある。

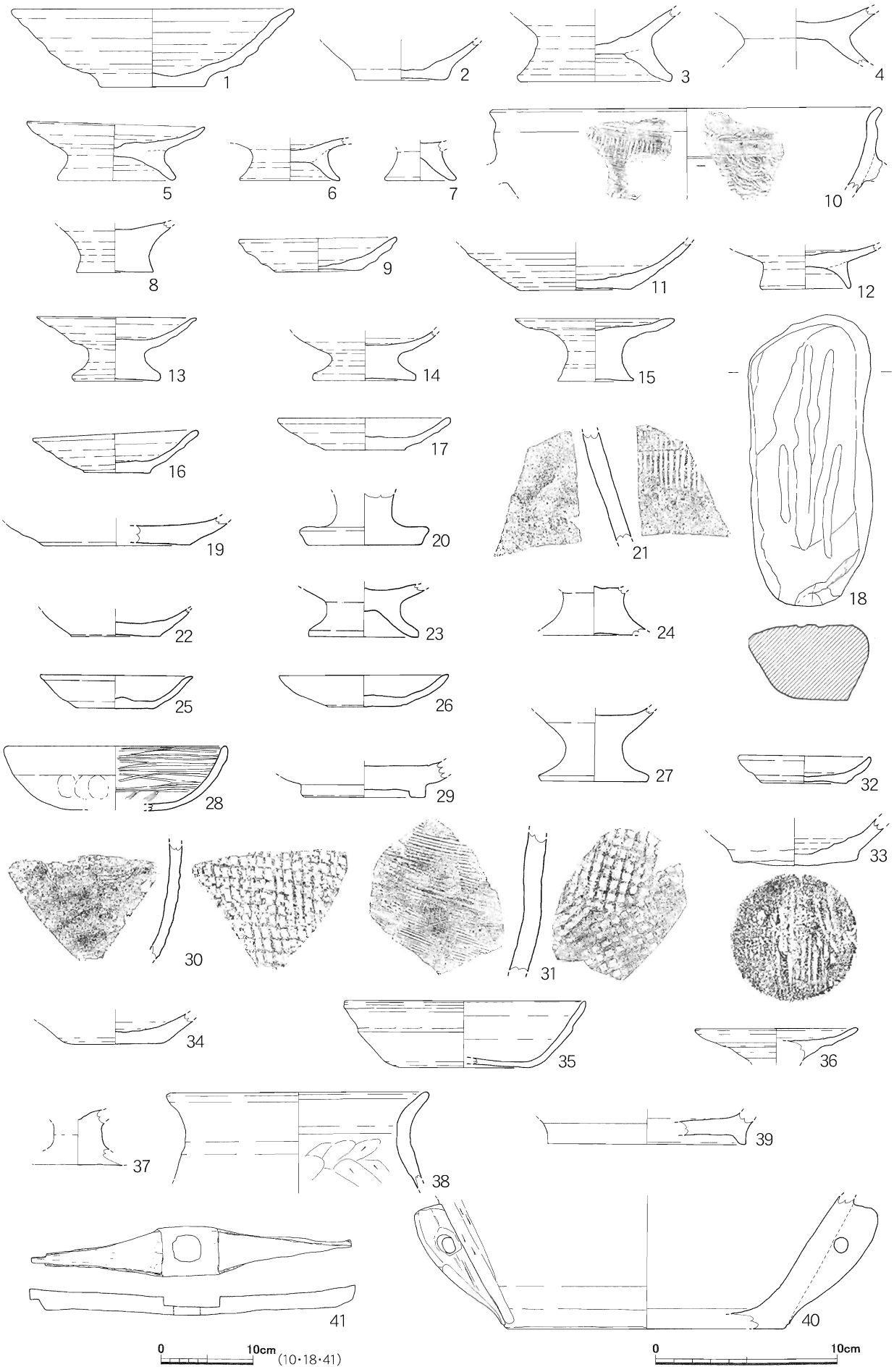
SK108（第75図、第113図33～35）　AC22付近から検出した土坑で、SA020の西側に位置する。



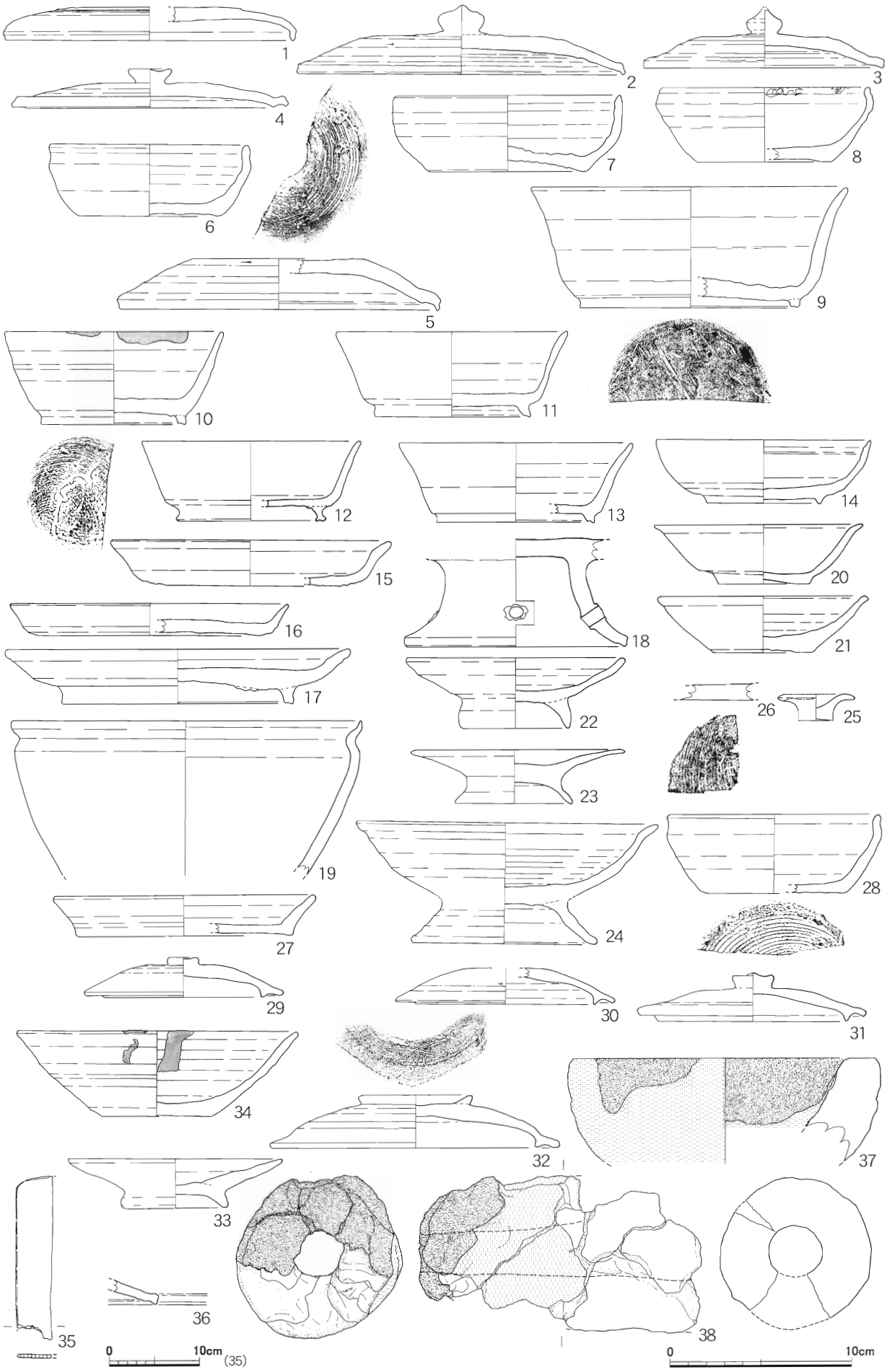
第110図　宮の後地区建物跡出土遺物実測図



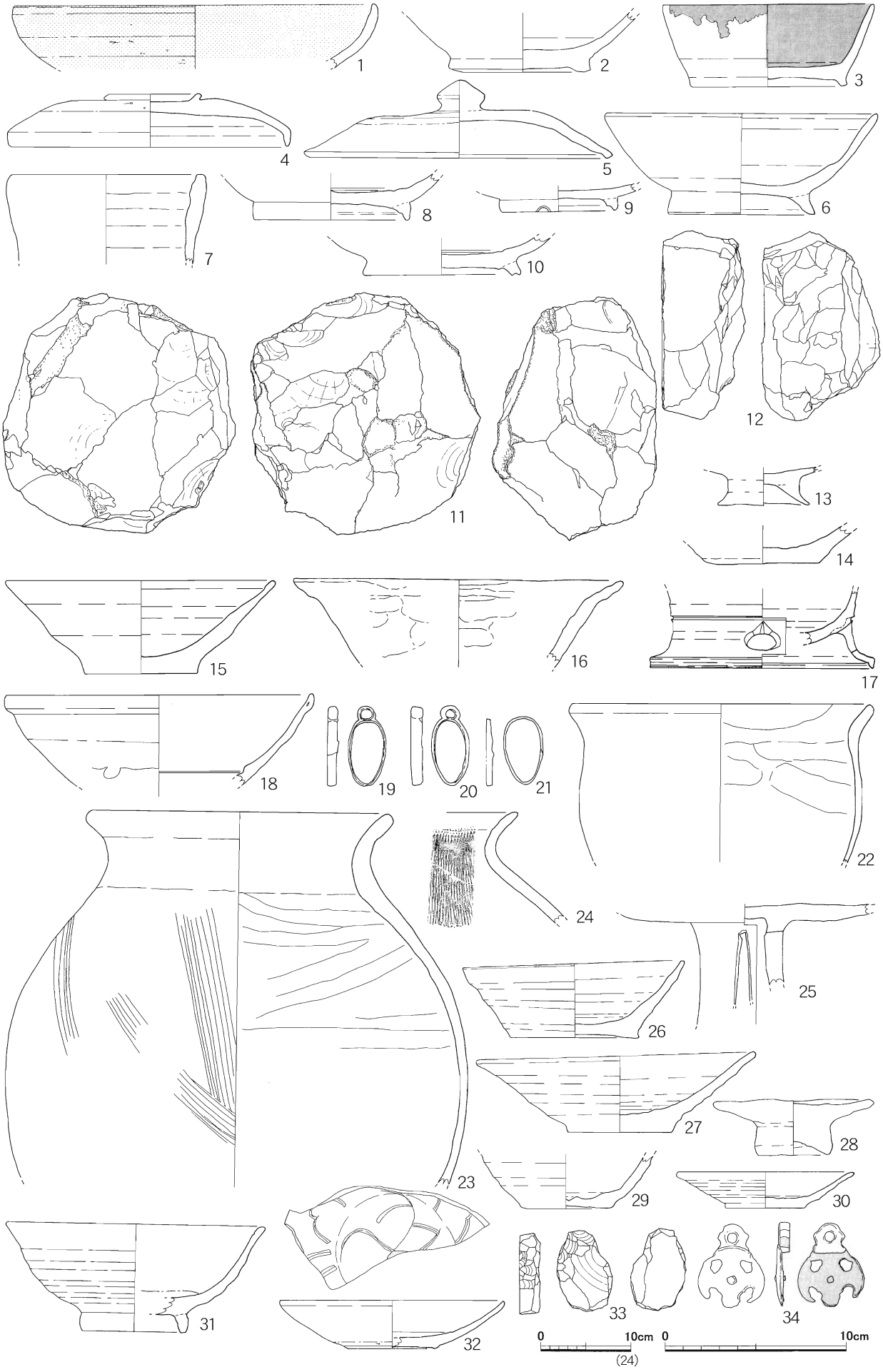
第111図　宮の後地区井戸跡出土遺物実測図



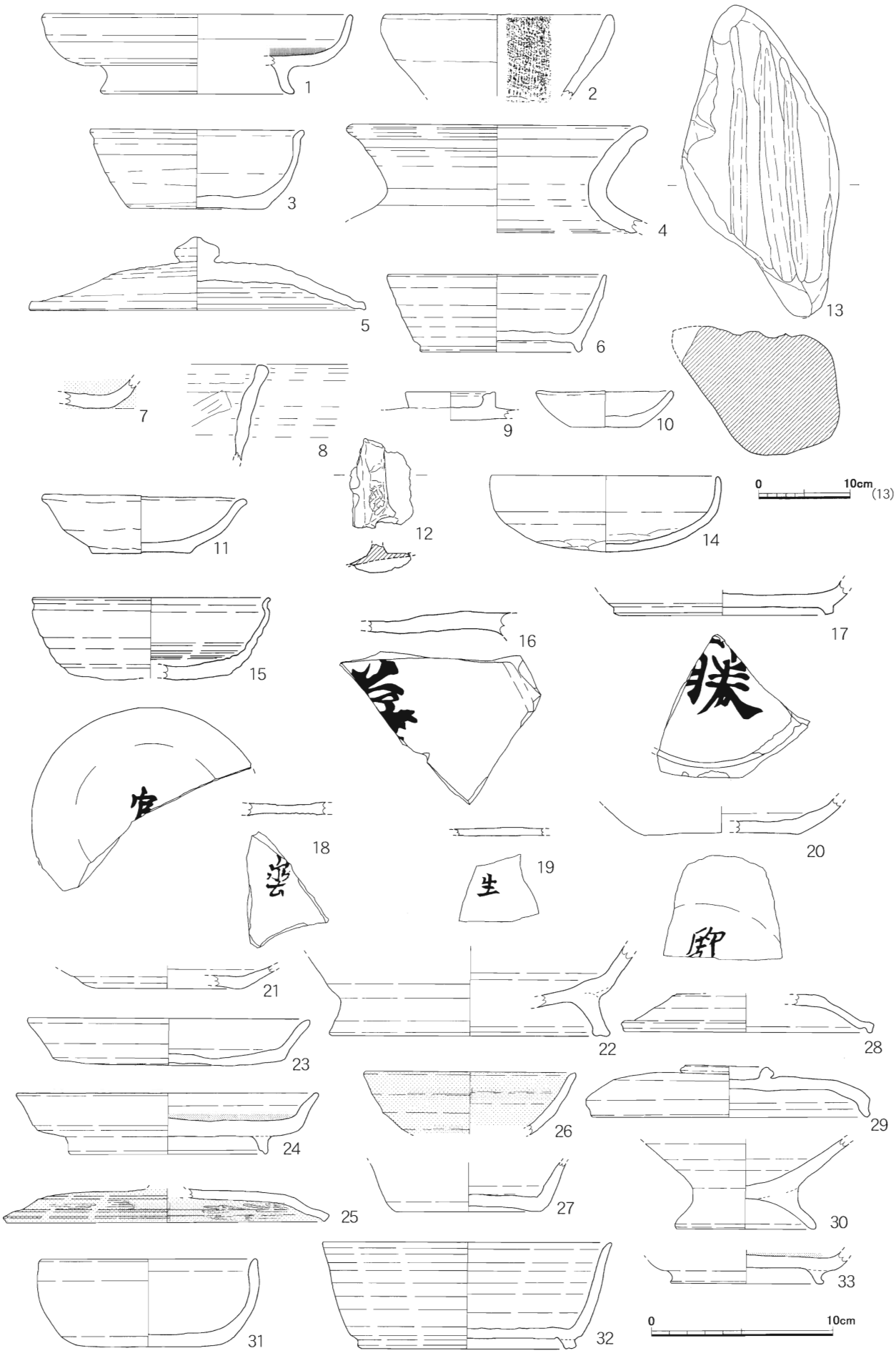
第112図　宮の後地区井戸跡他出土遺物実測図



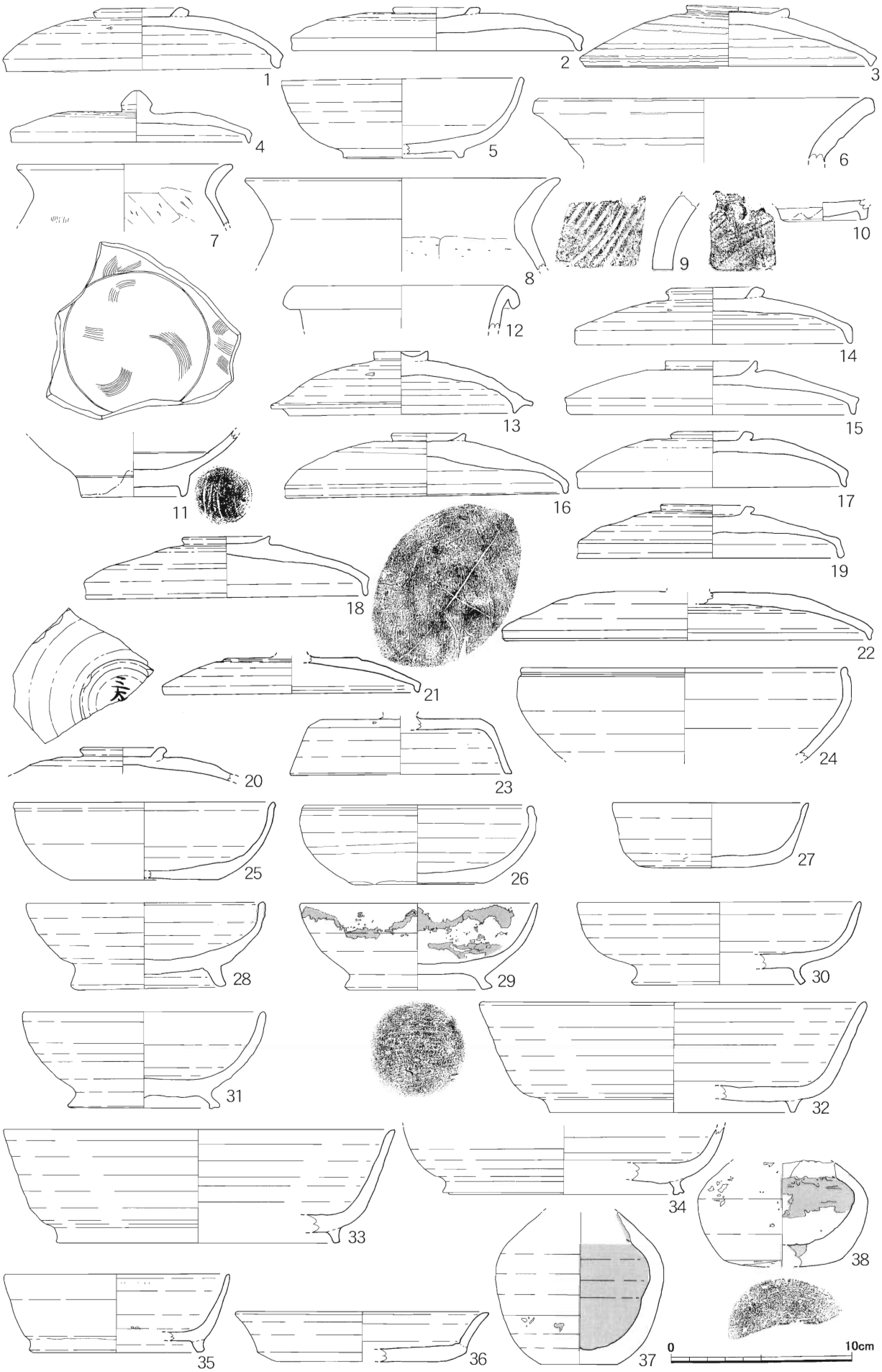
第113図　宮の後地区A区土坑他出土遺物実測図



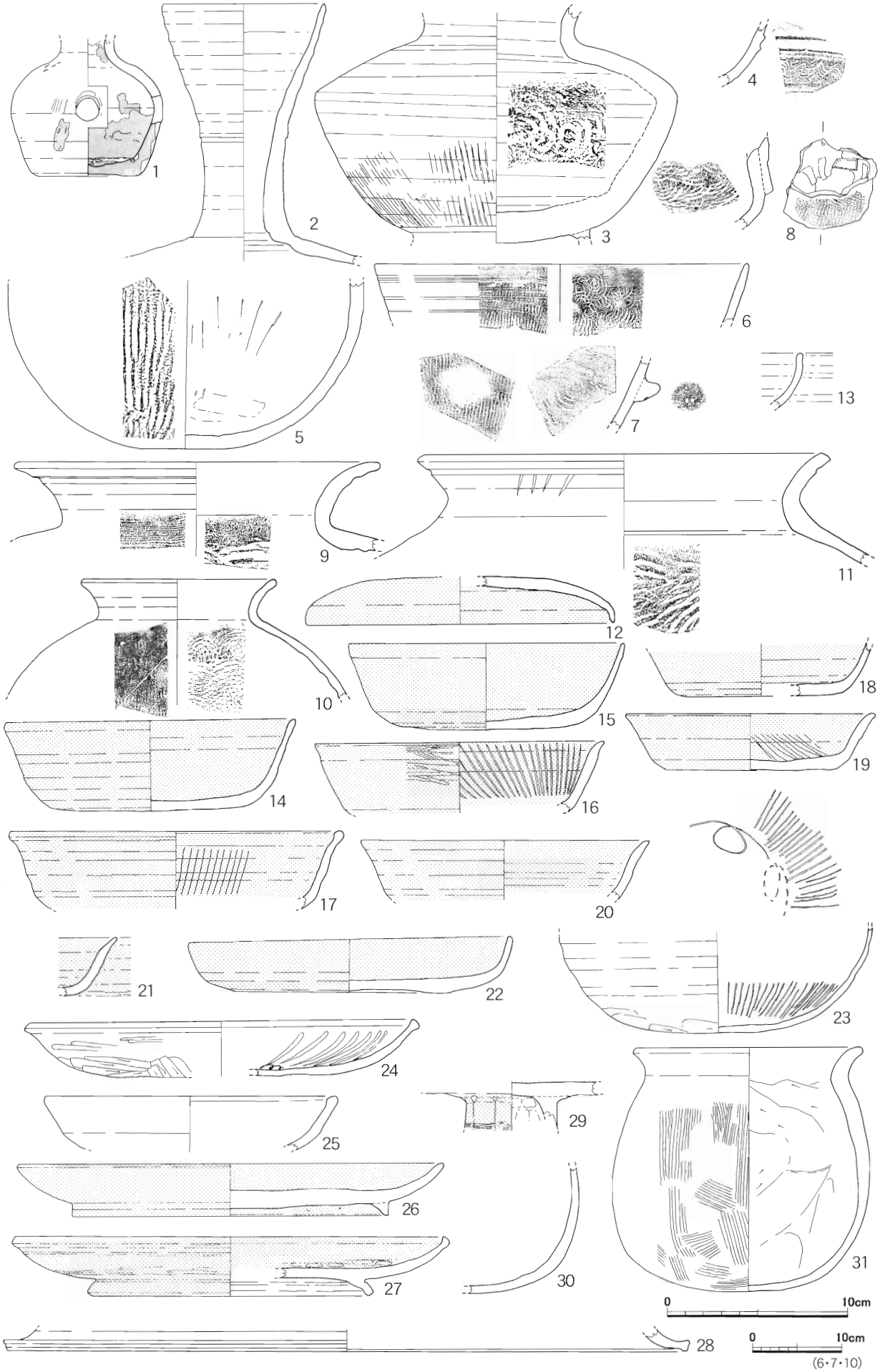
第114図　宮の後地区A・B区土坑他出土遺物実測図



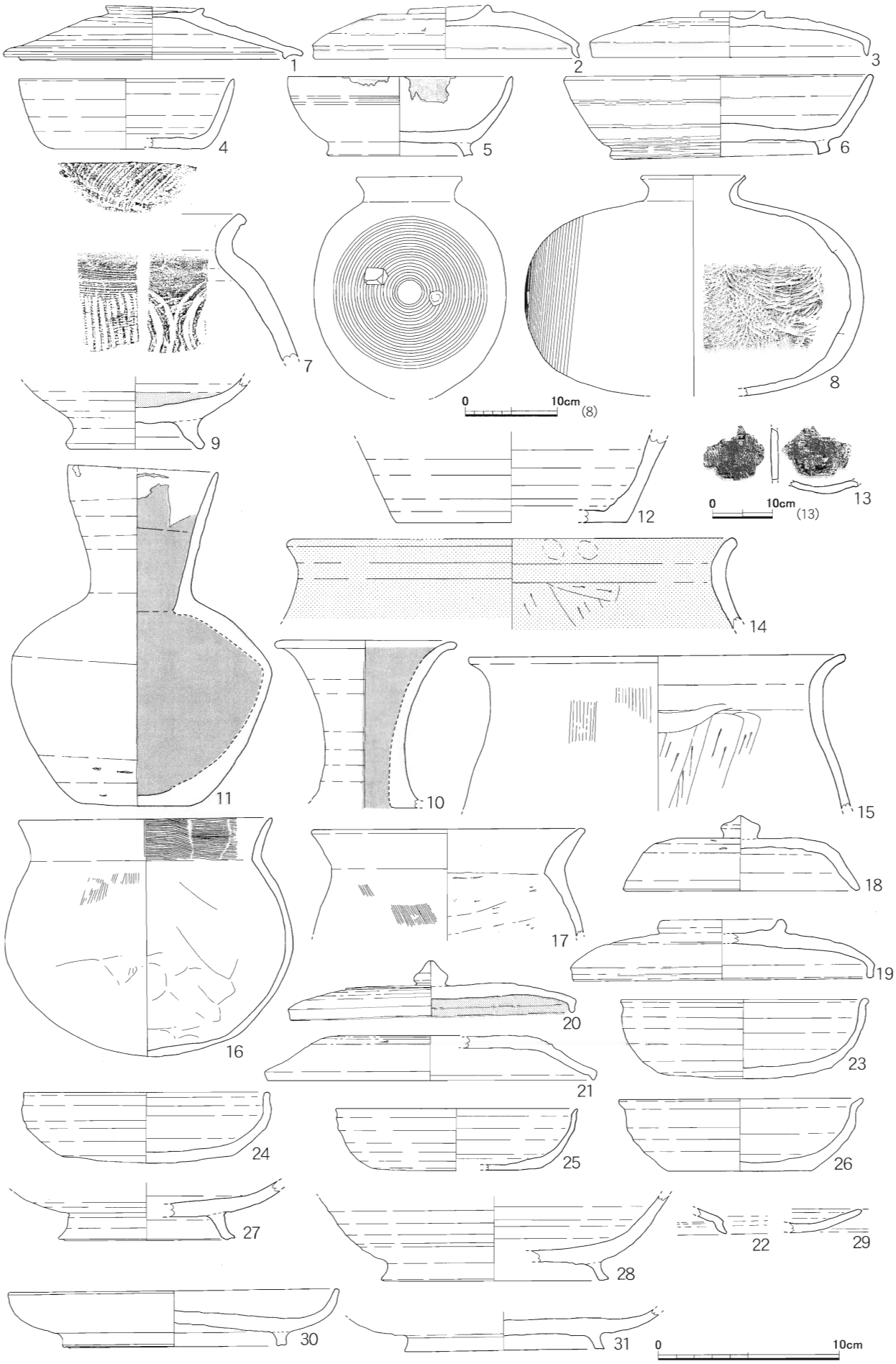
第115図　宮の後地区C・D区土坑他出土遺物実測図



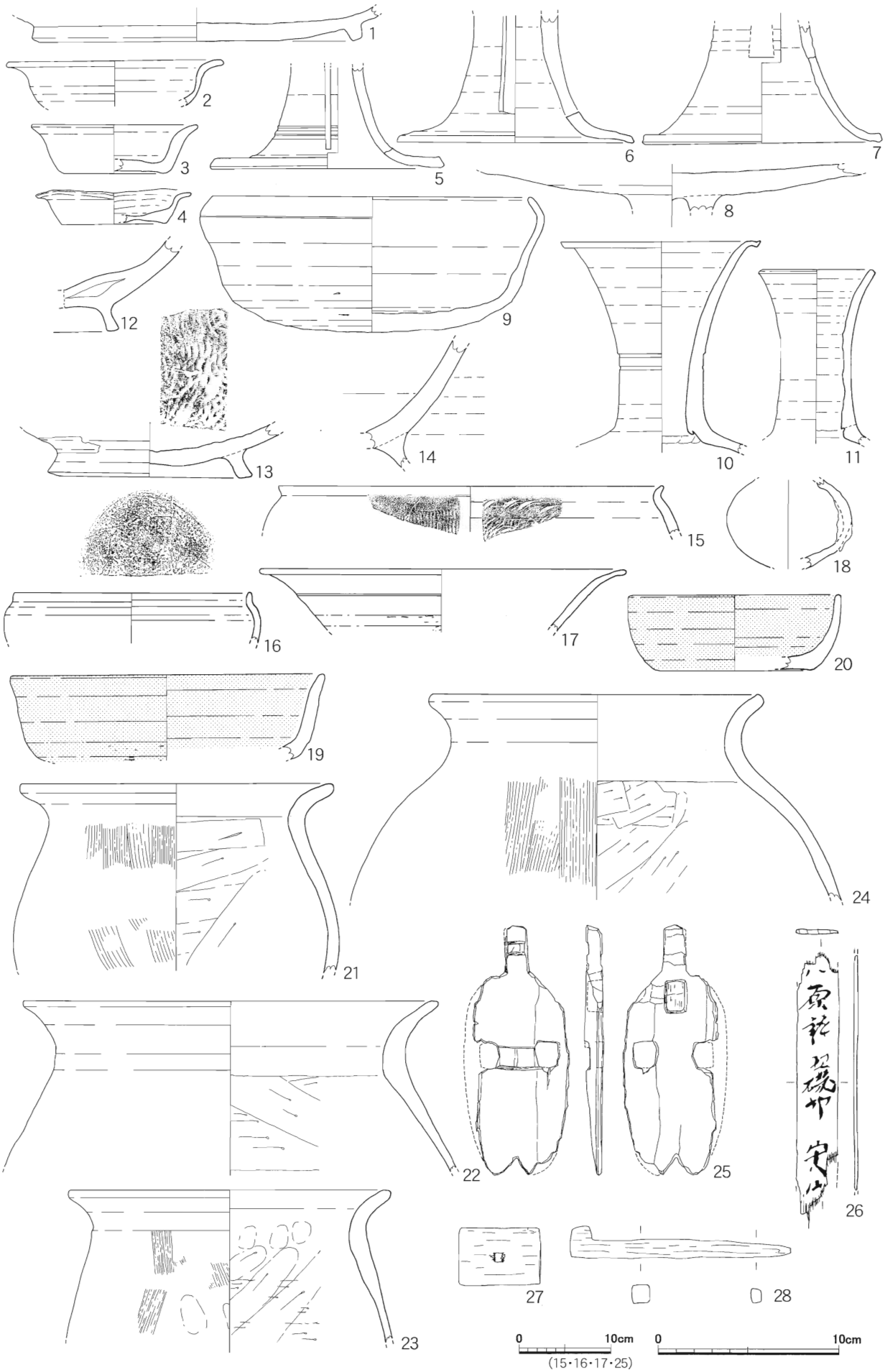
第116図　宮の後地区SD004出土遺物実測図（1）



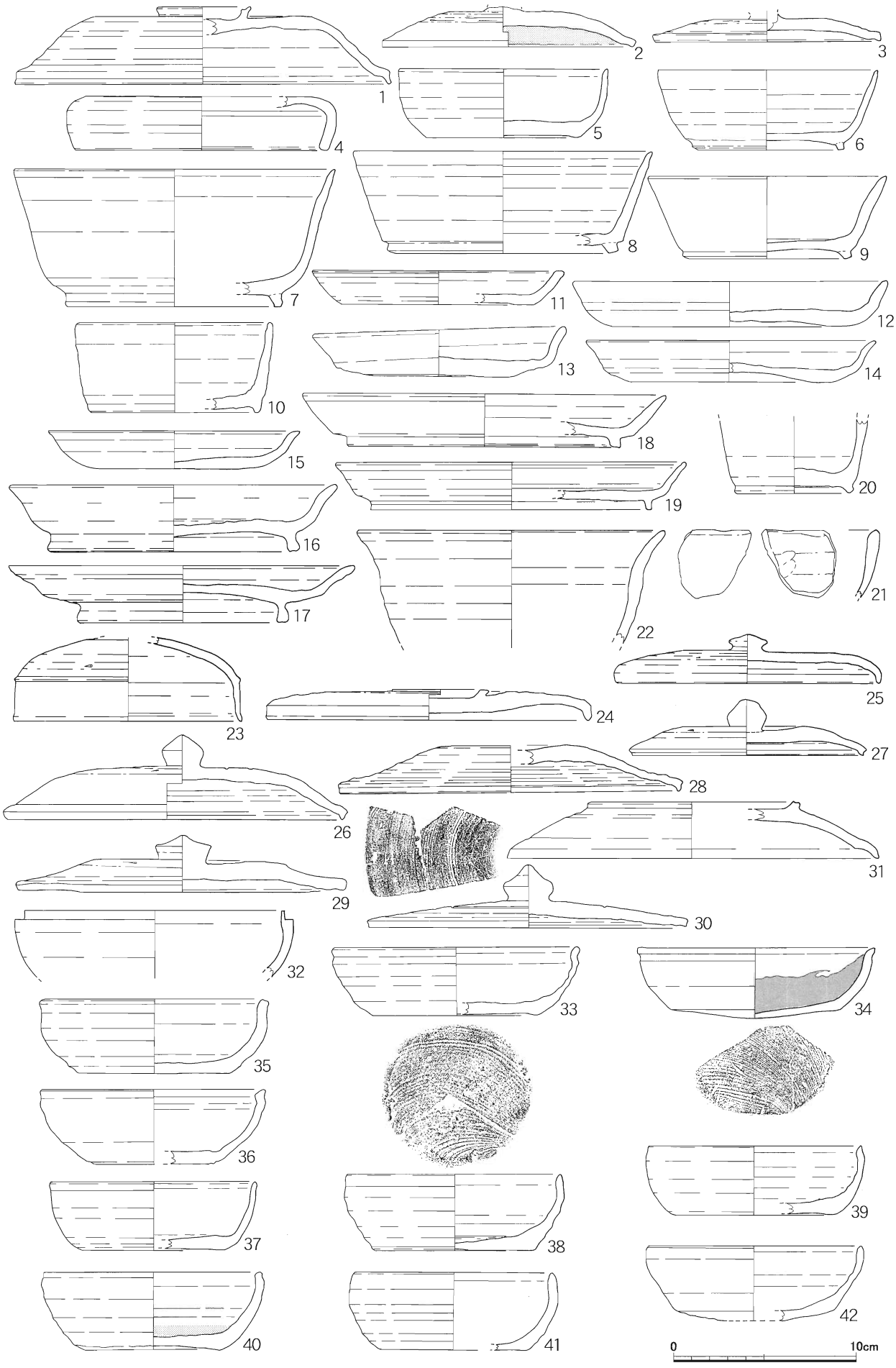
第117図　宮の後地区SD004出土遺物実測図（２）



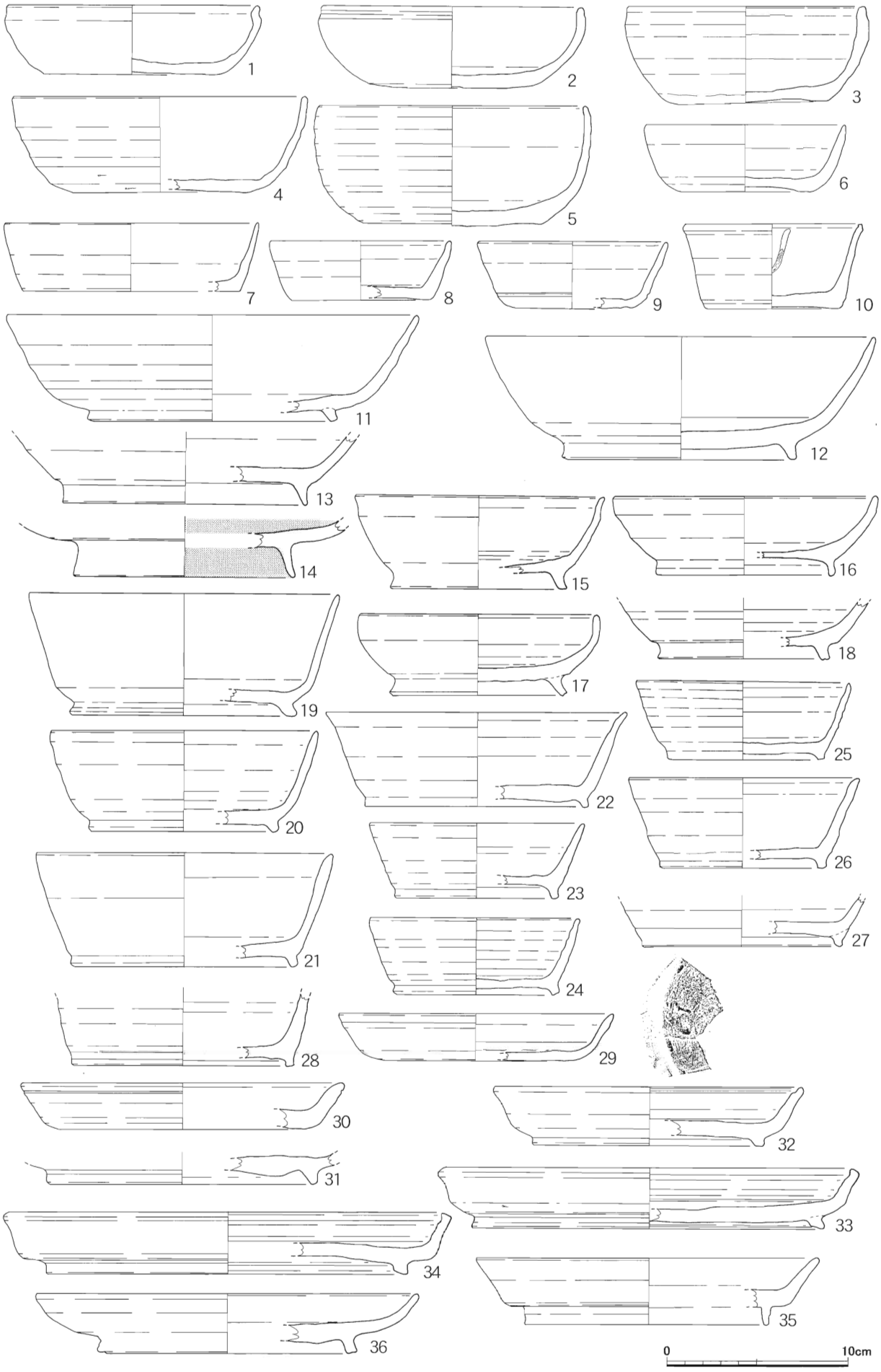
第118図　宮の後地区SD004出土遺物実測図（３）



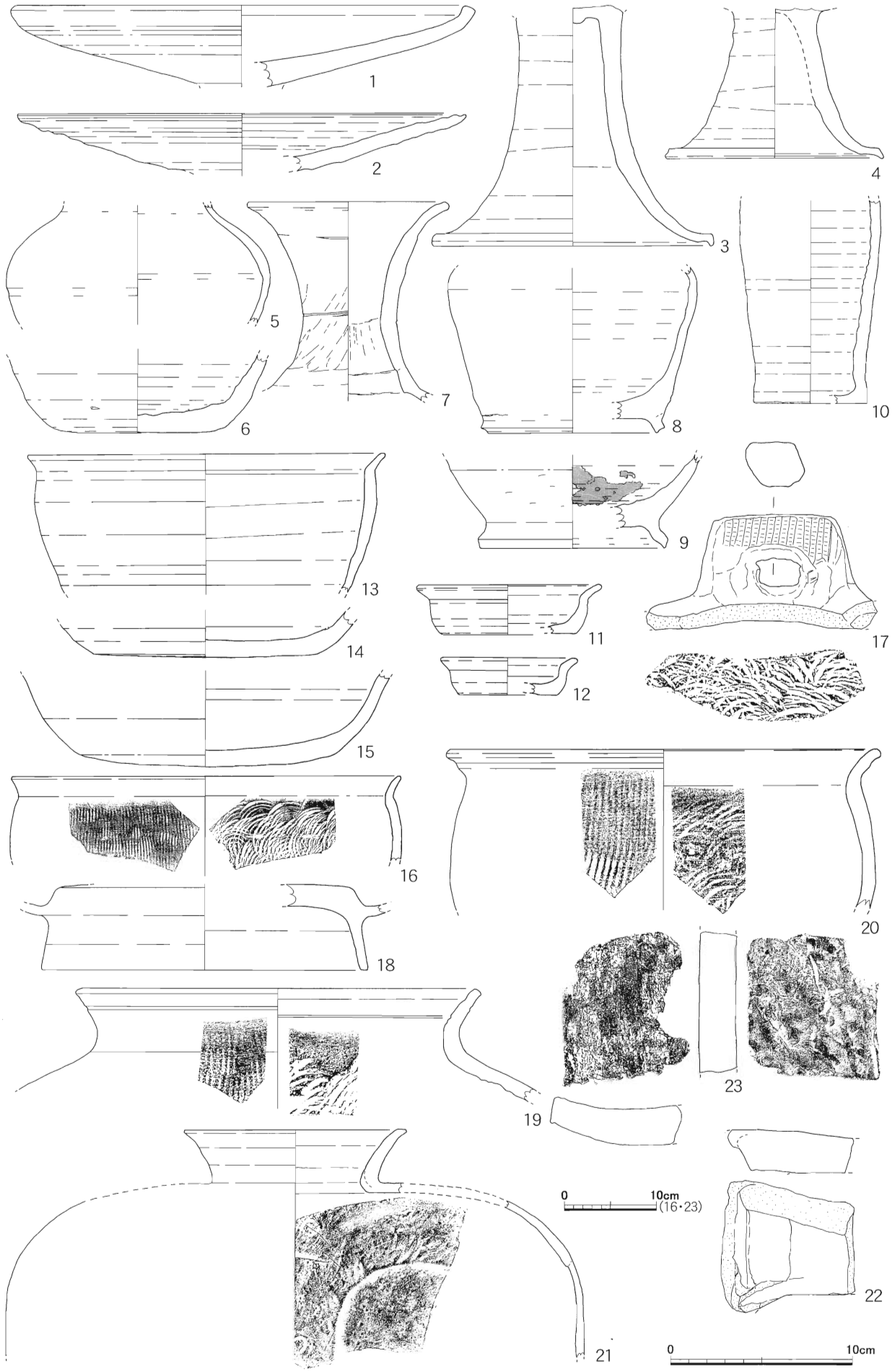
第119図　宮の後地区SD004出土遺物実測図（４）



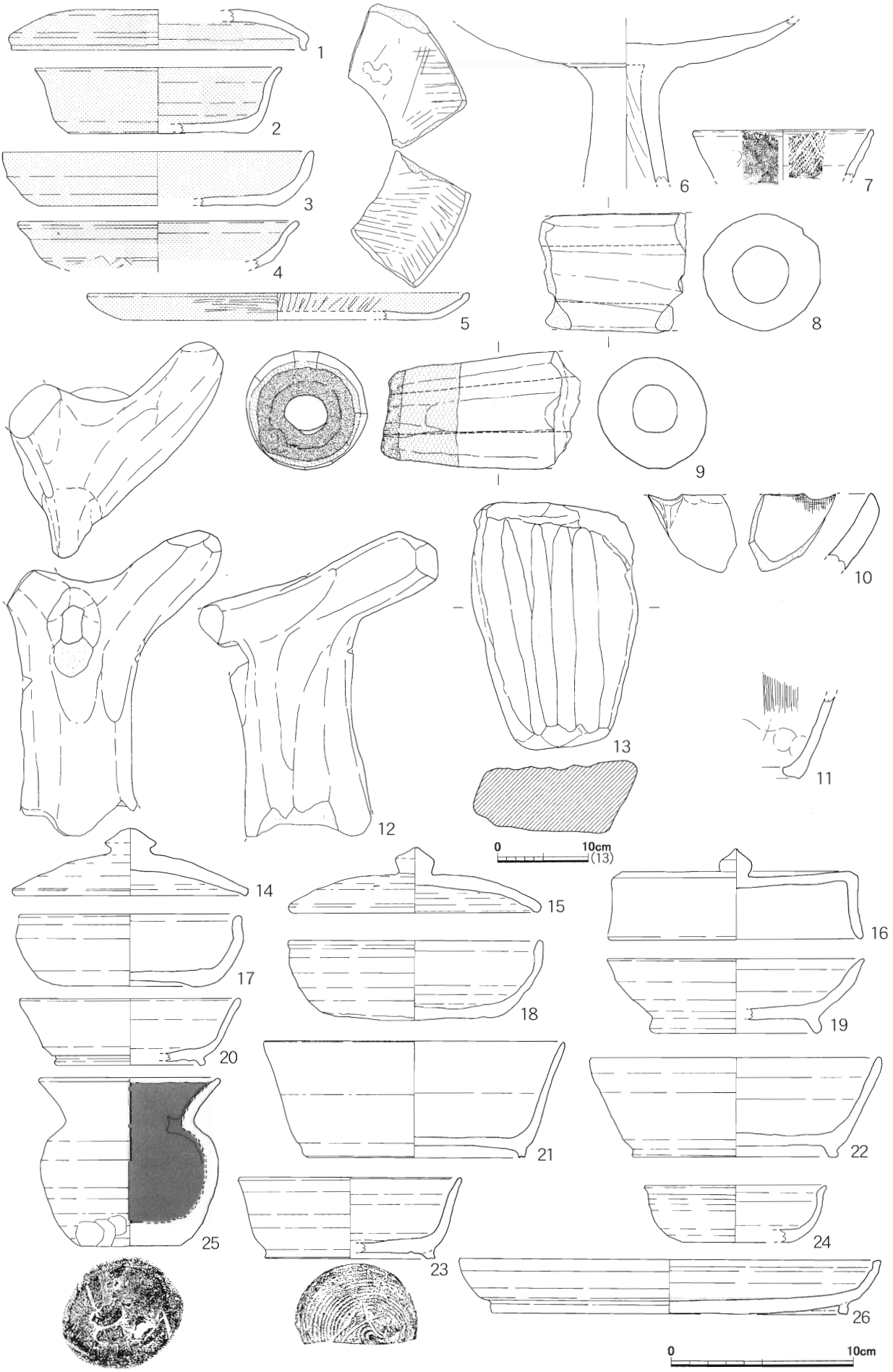
第120図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（１）



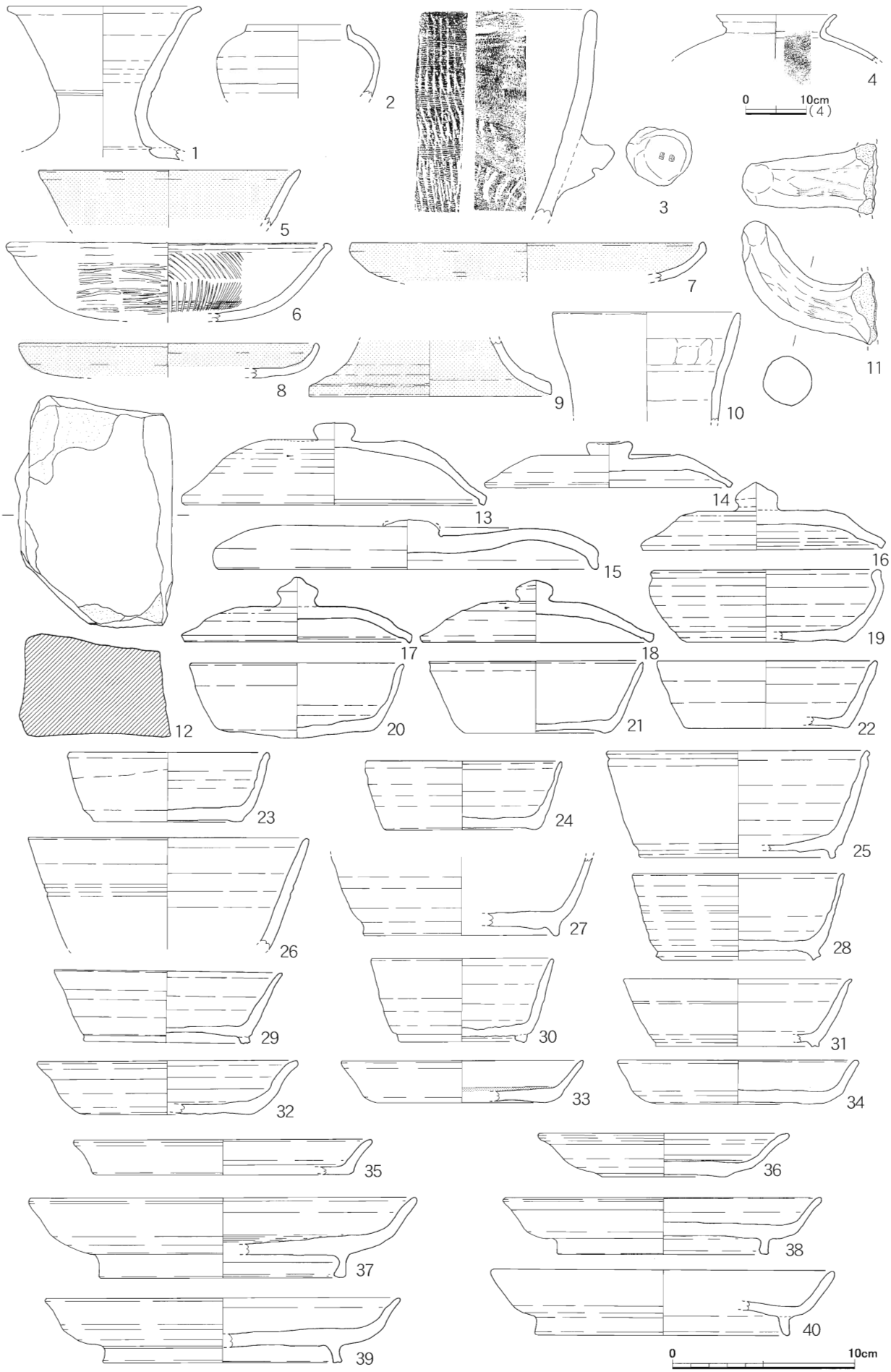
第121図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（２）



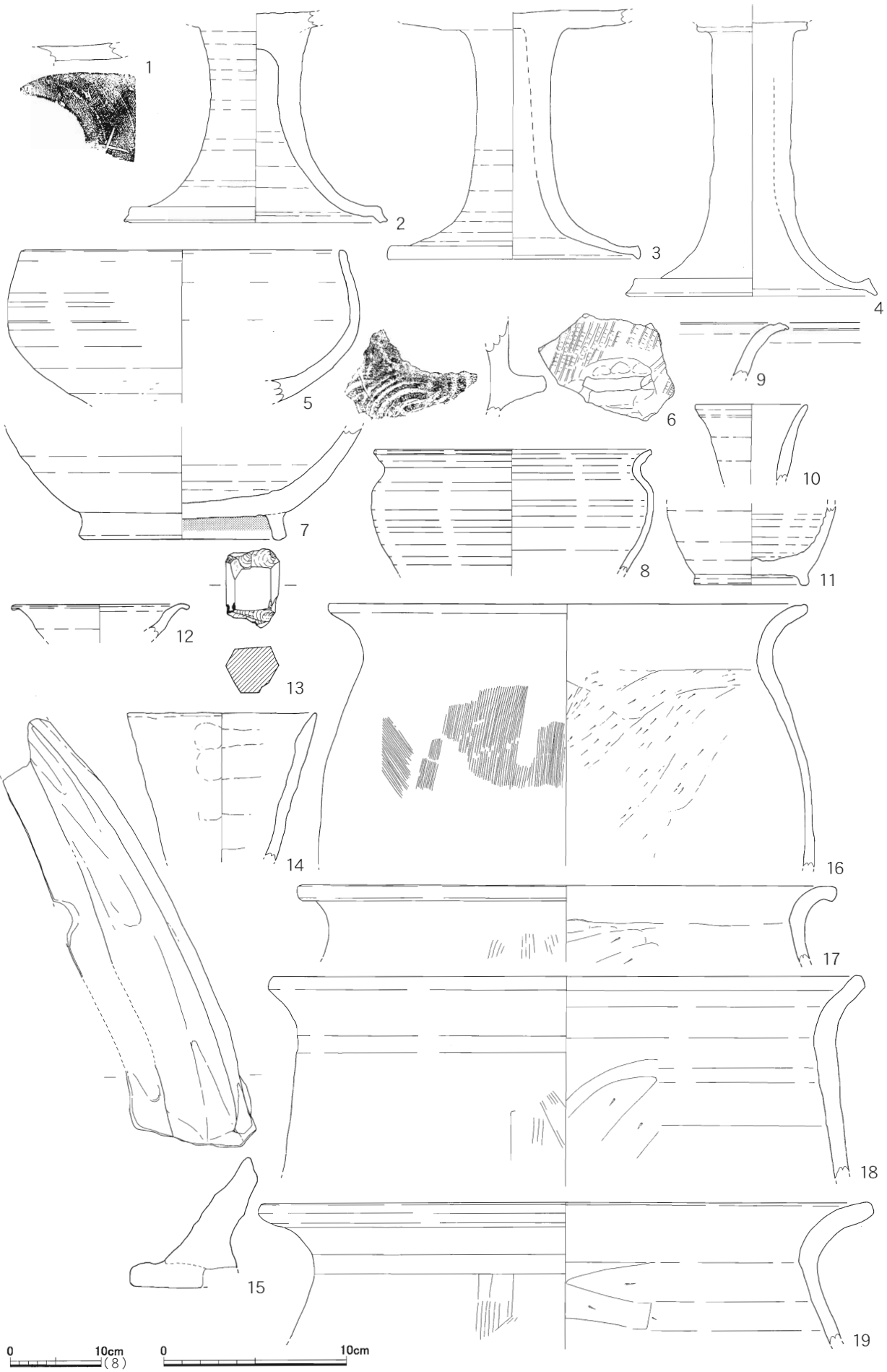
第122図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（３）



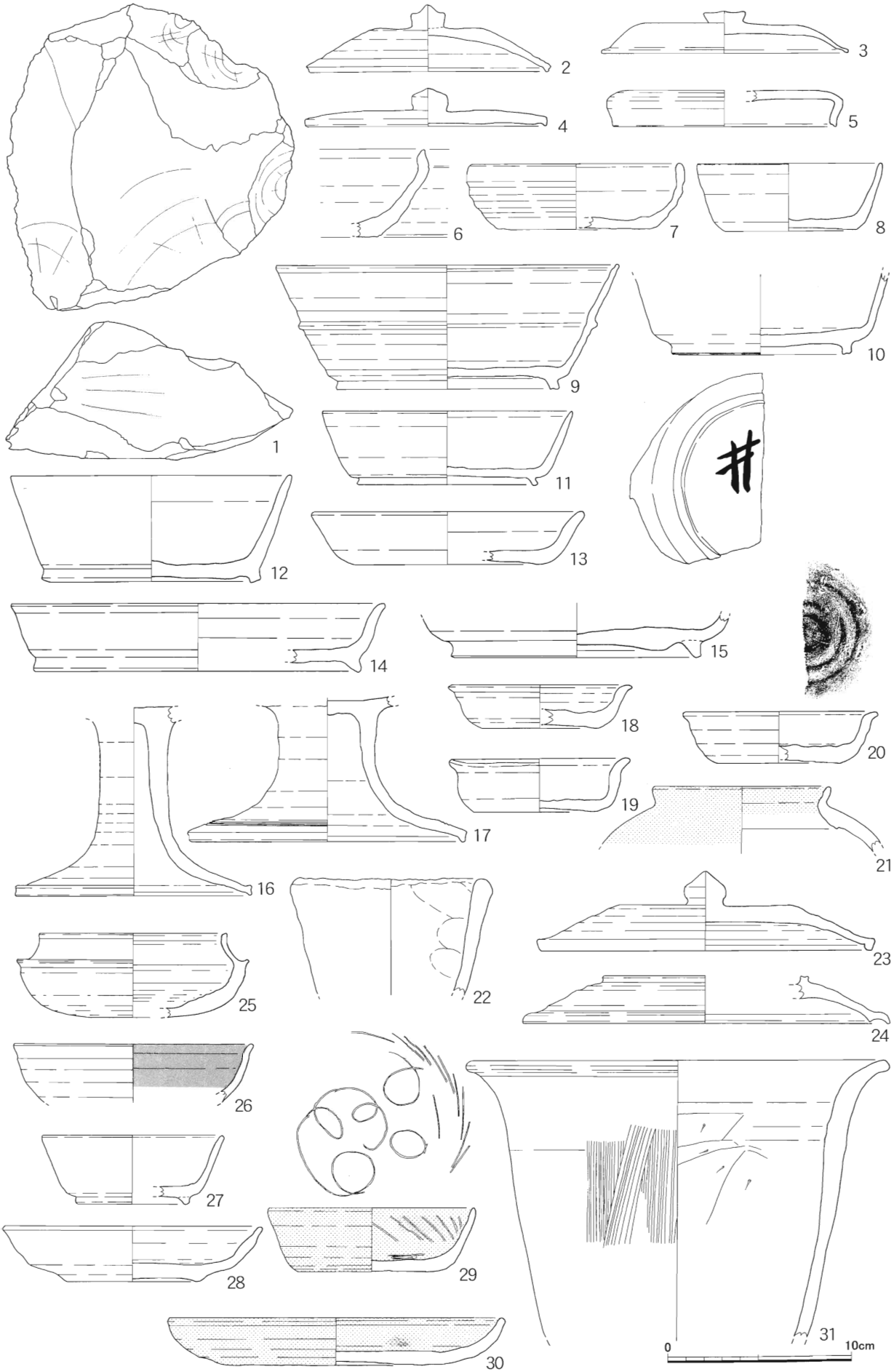
第123図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（４）



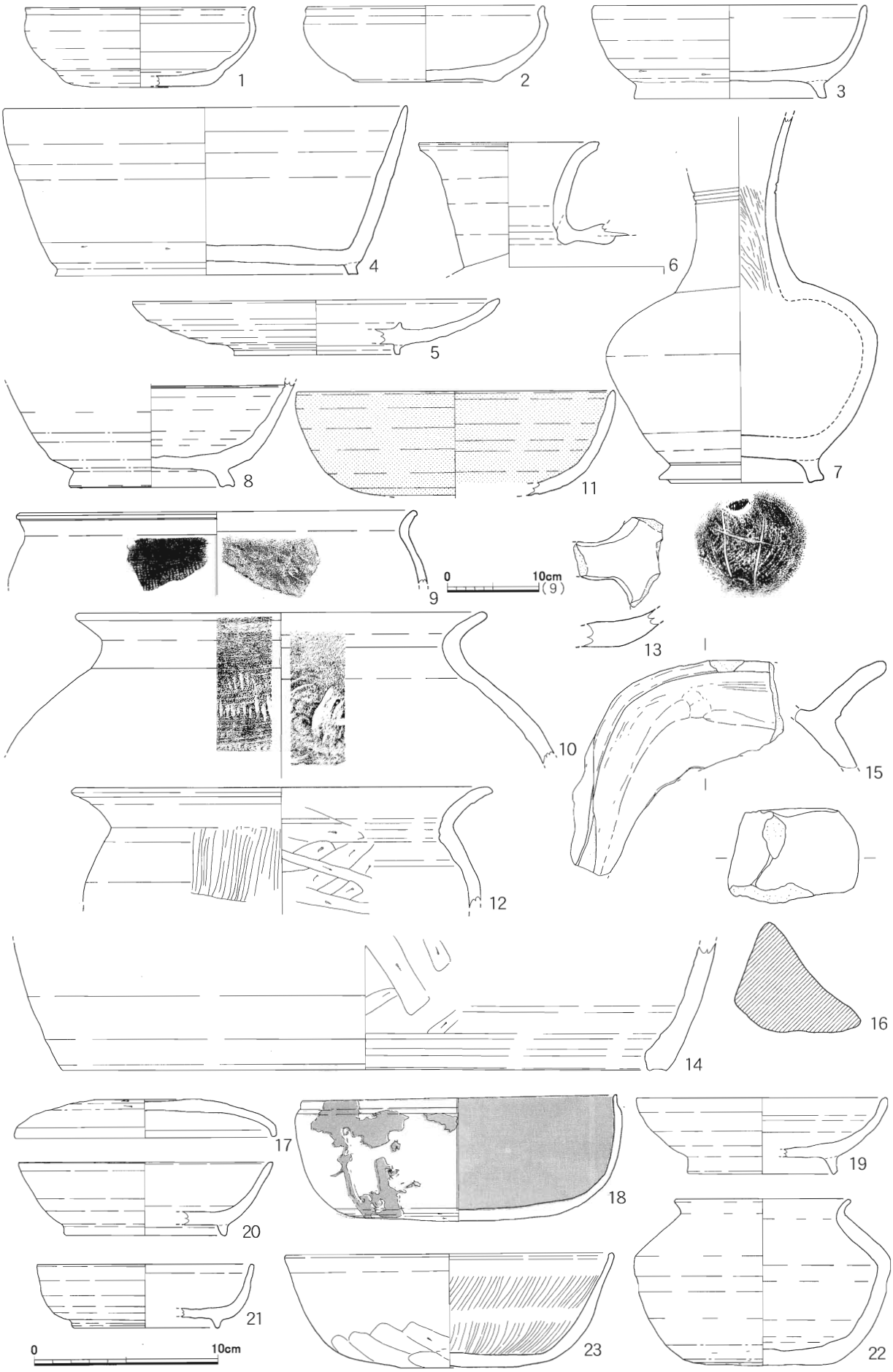
第124図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（５）



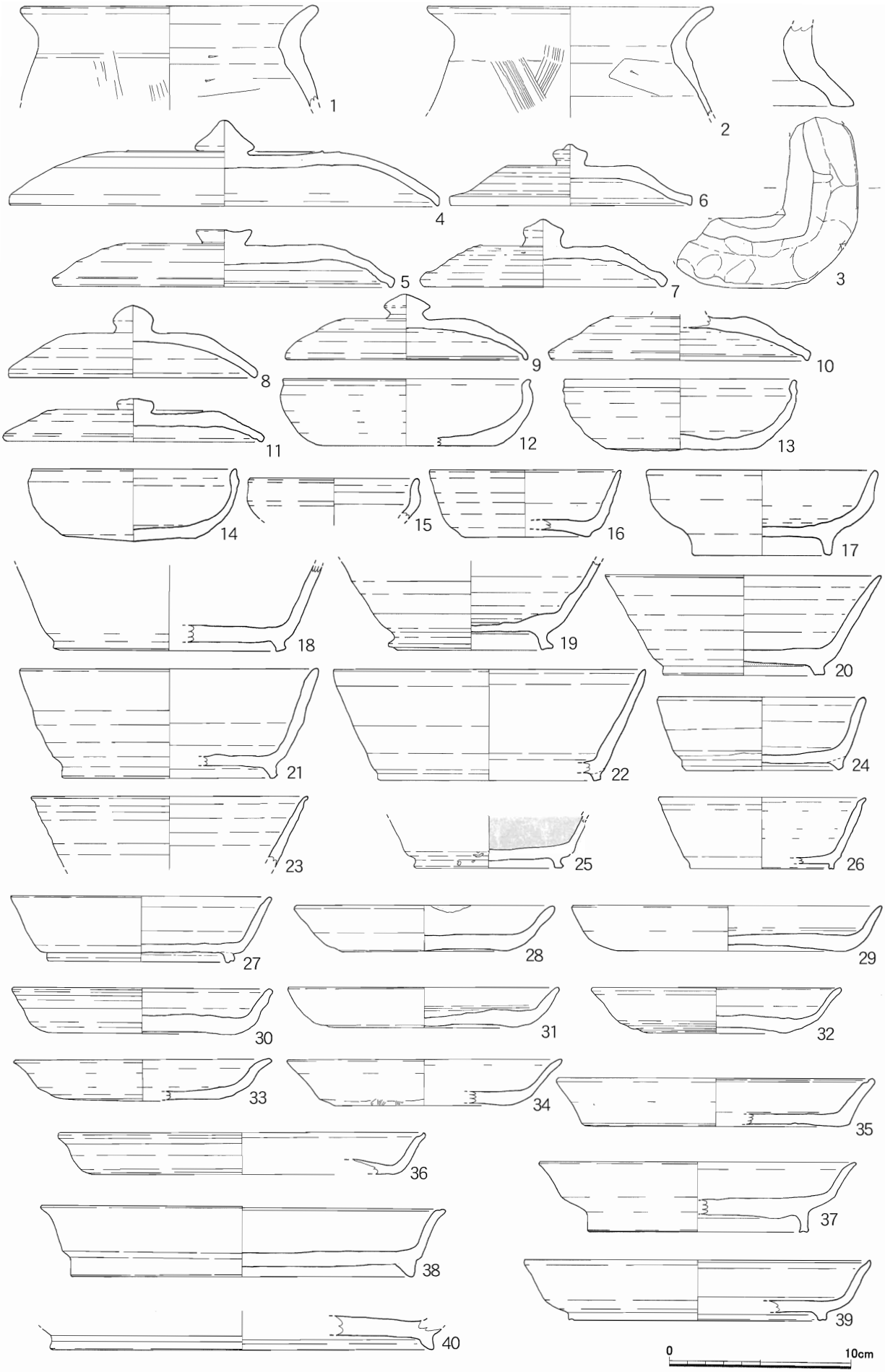
第125図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（６）



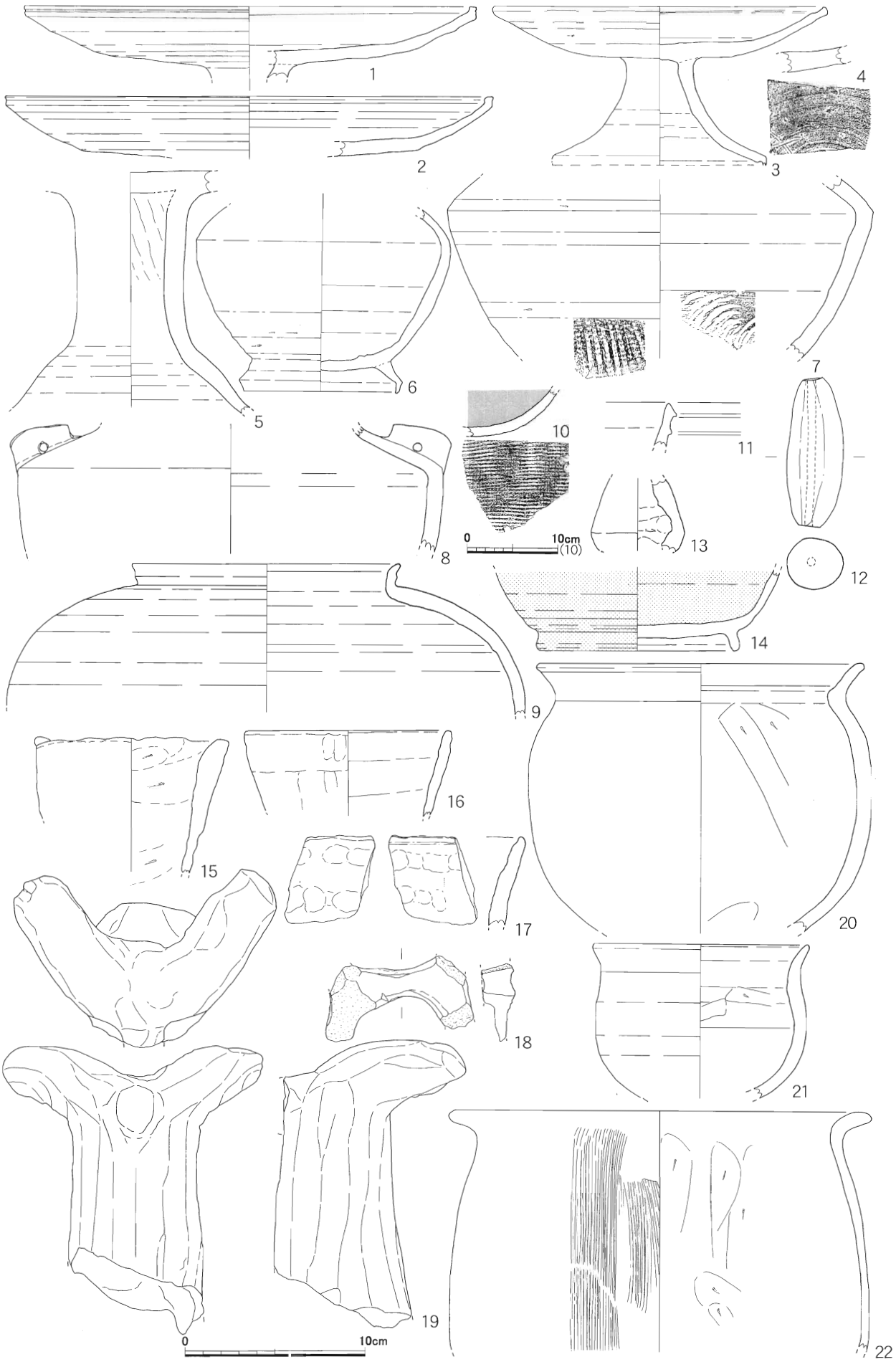
第126図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（７）



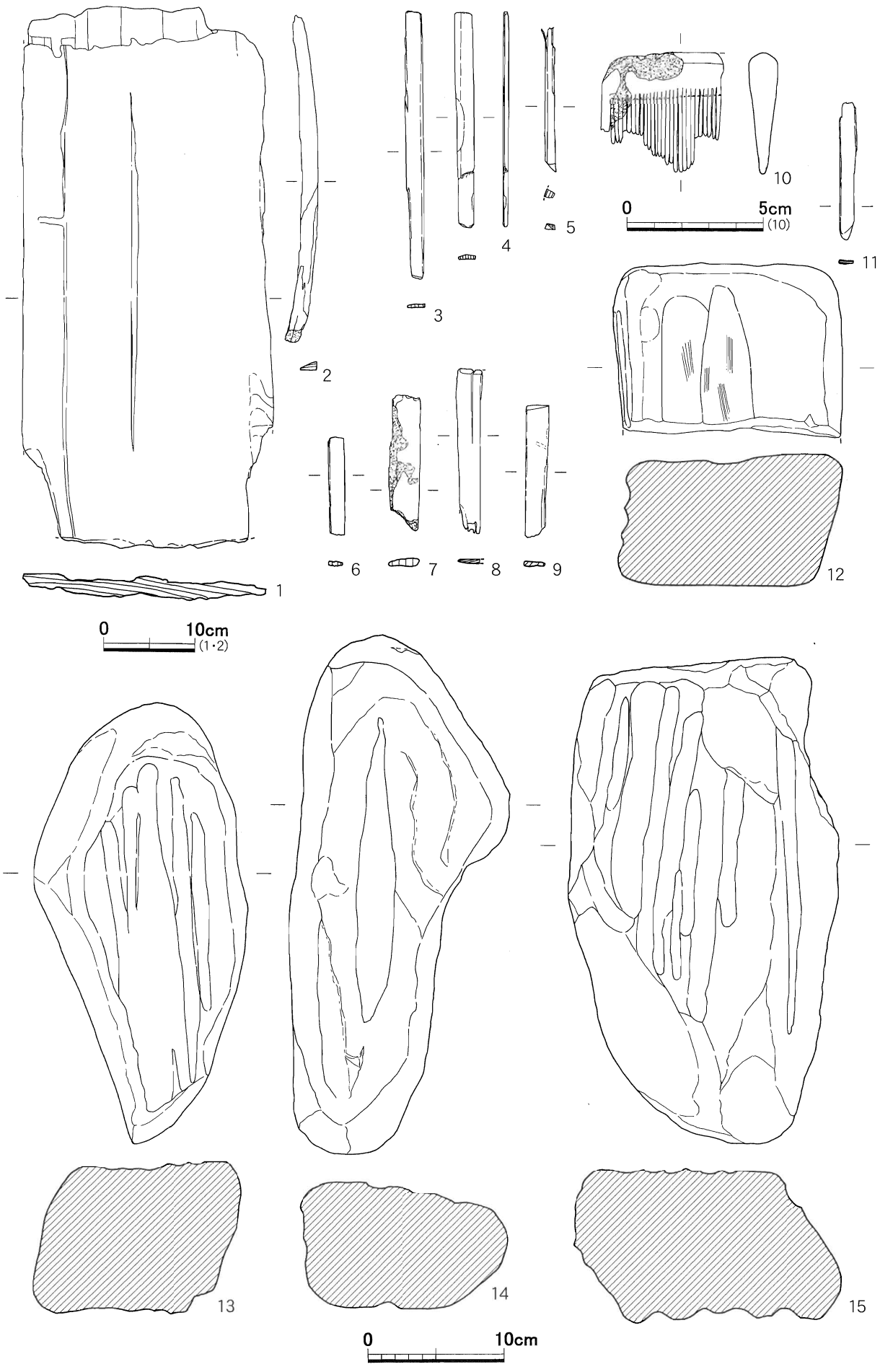
第127図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（8）



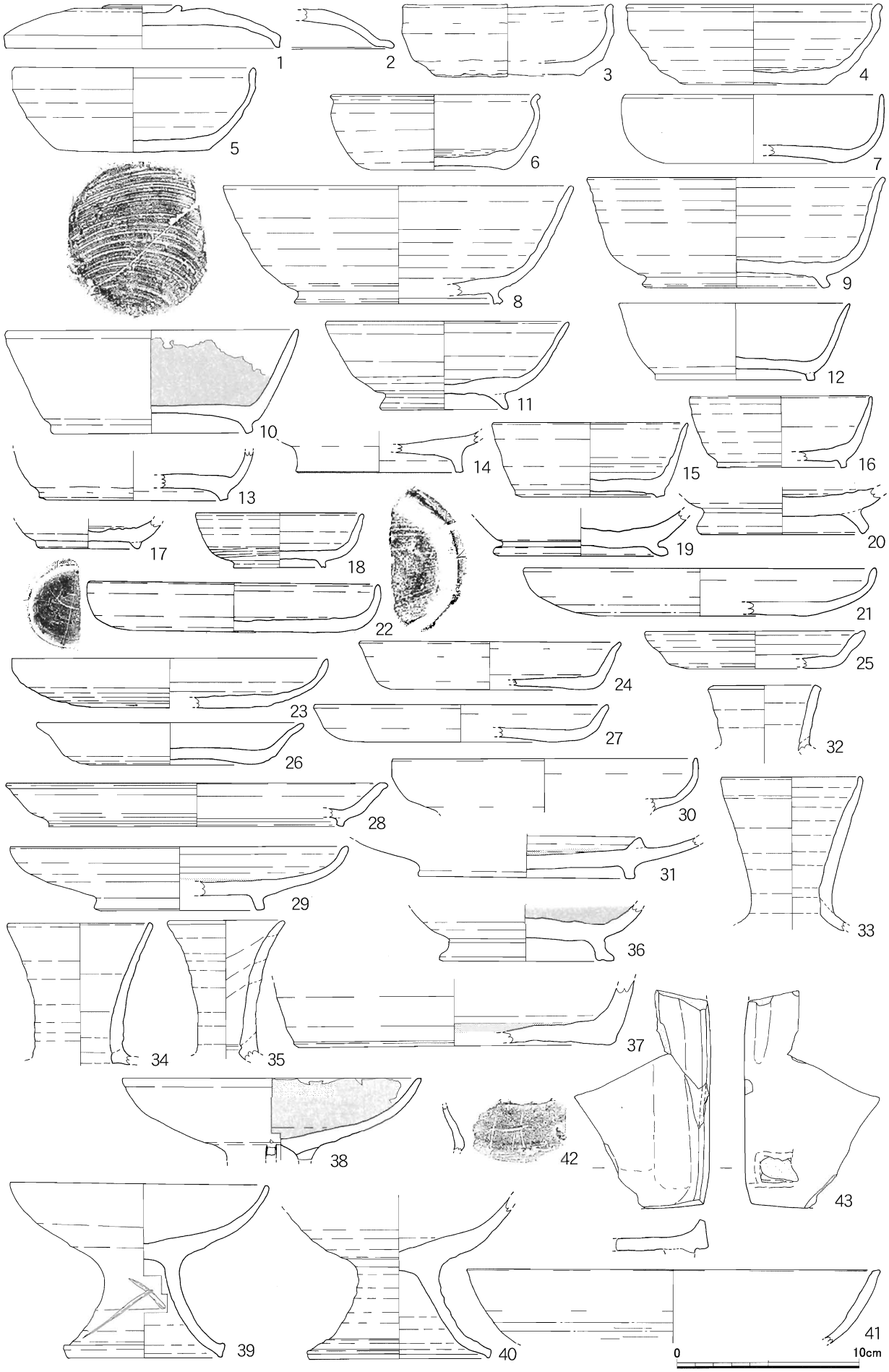
第128図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（９）



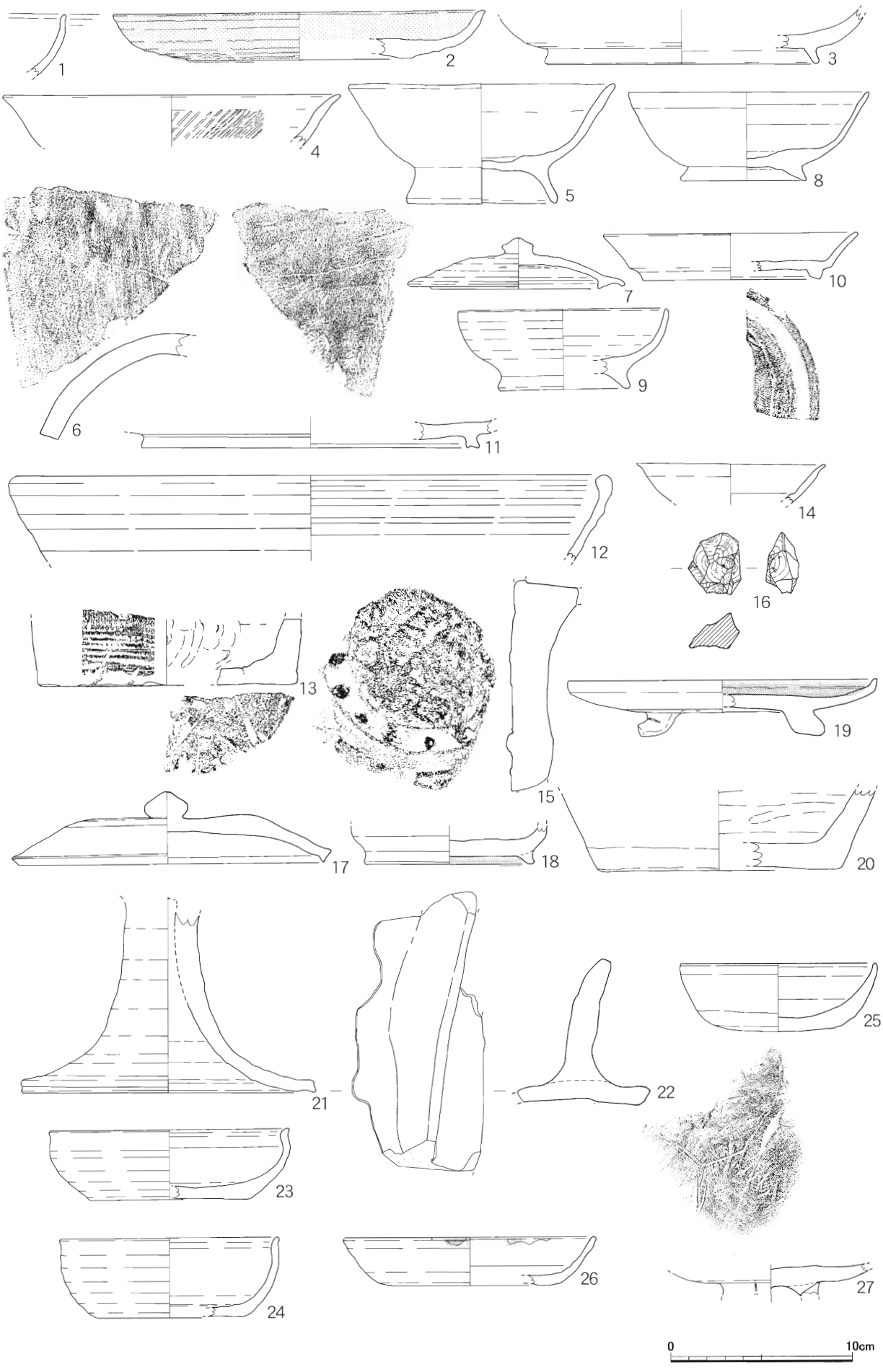
第129図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（10）



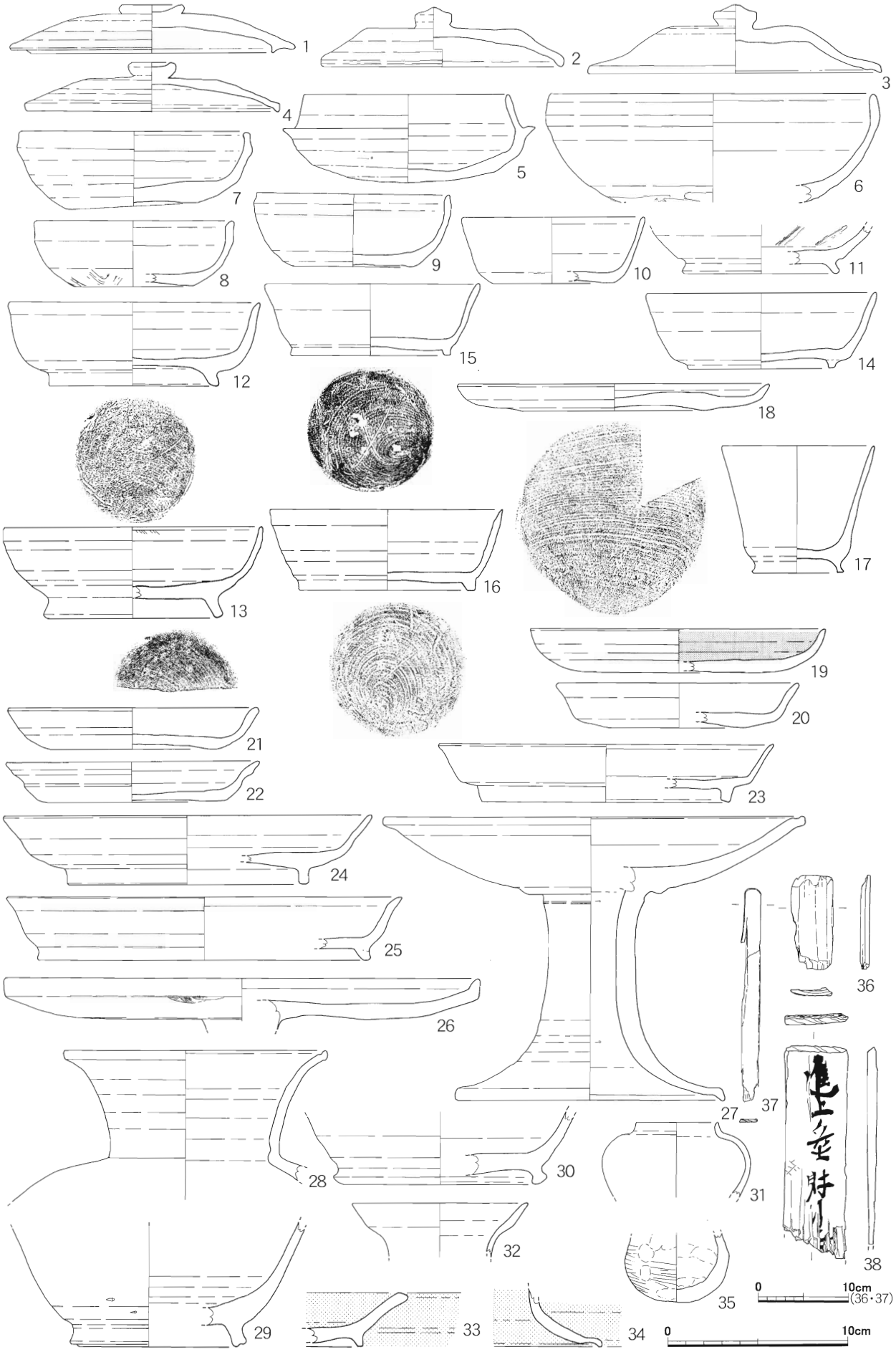
第130図　宮の後地区SD005出土遺物実測図（11）



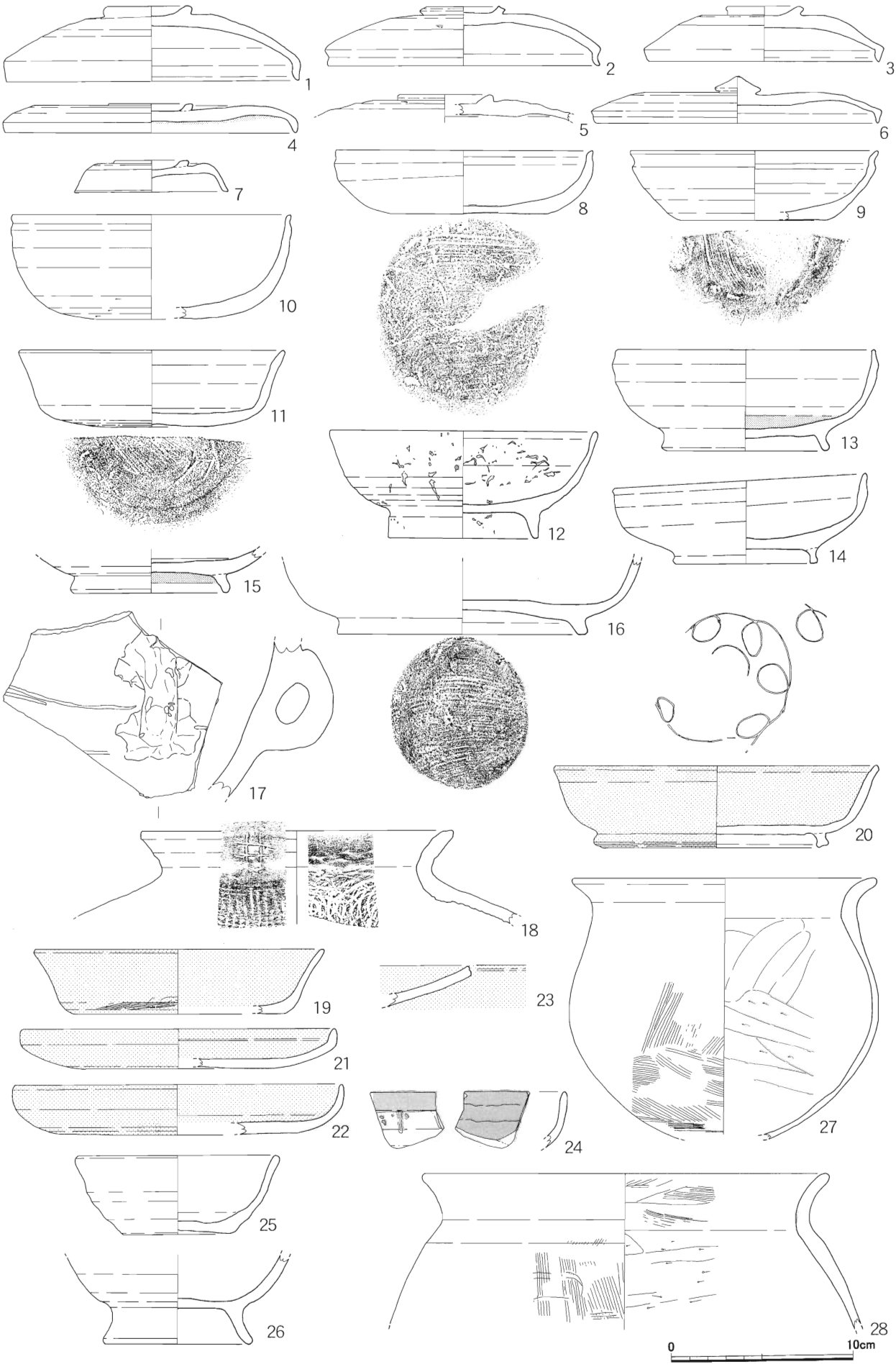
第131図　宮の後地区SD010出土遺物実測図



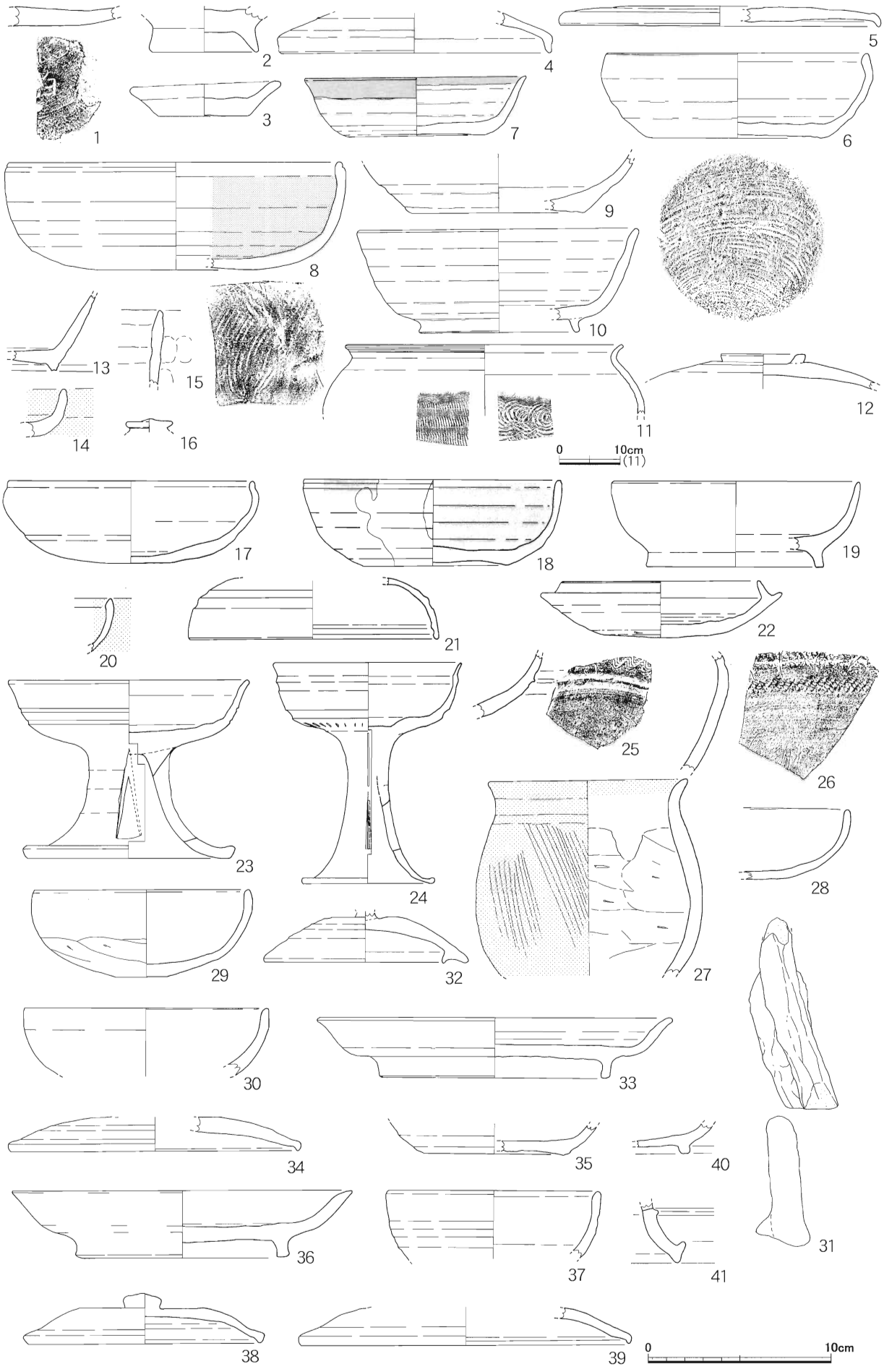
第132図　宮の後地区SD010他出土遺物実測図



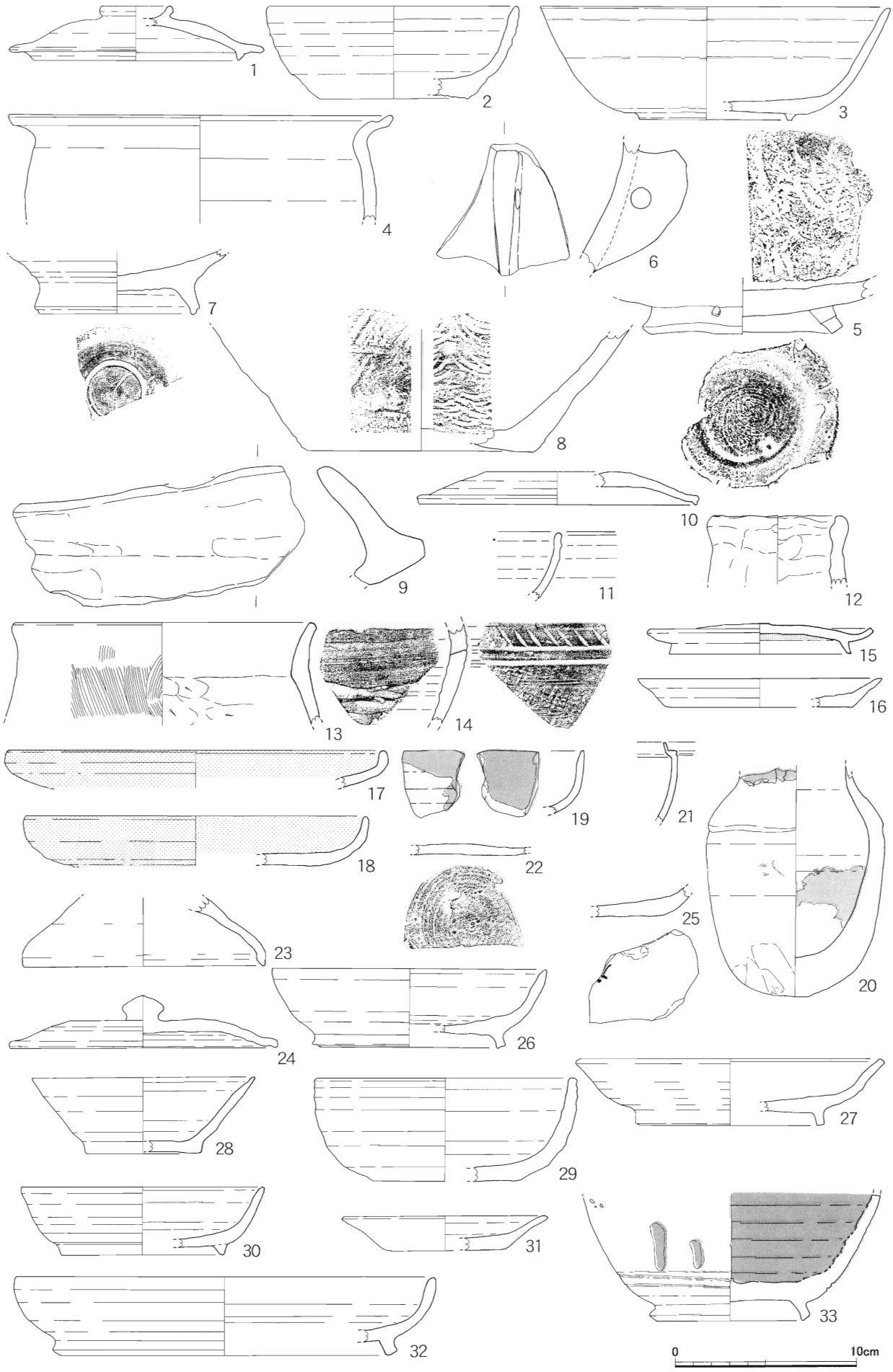
第133図　宮の後地区SD034出土遺物実測図



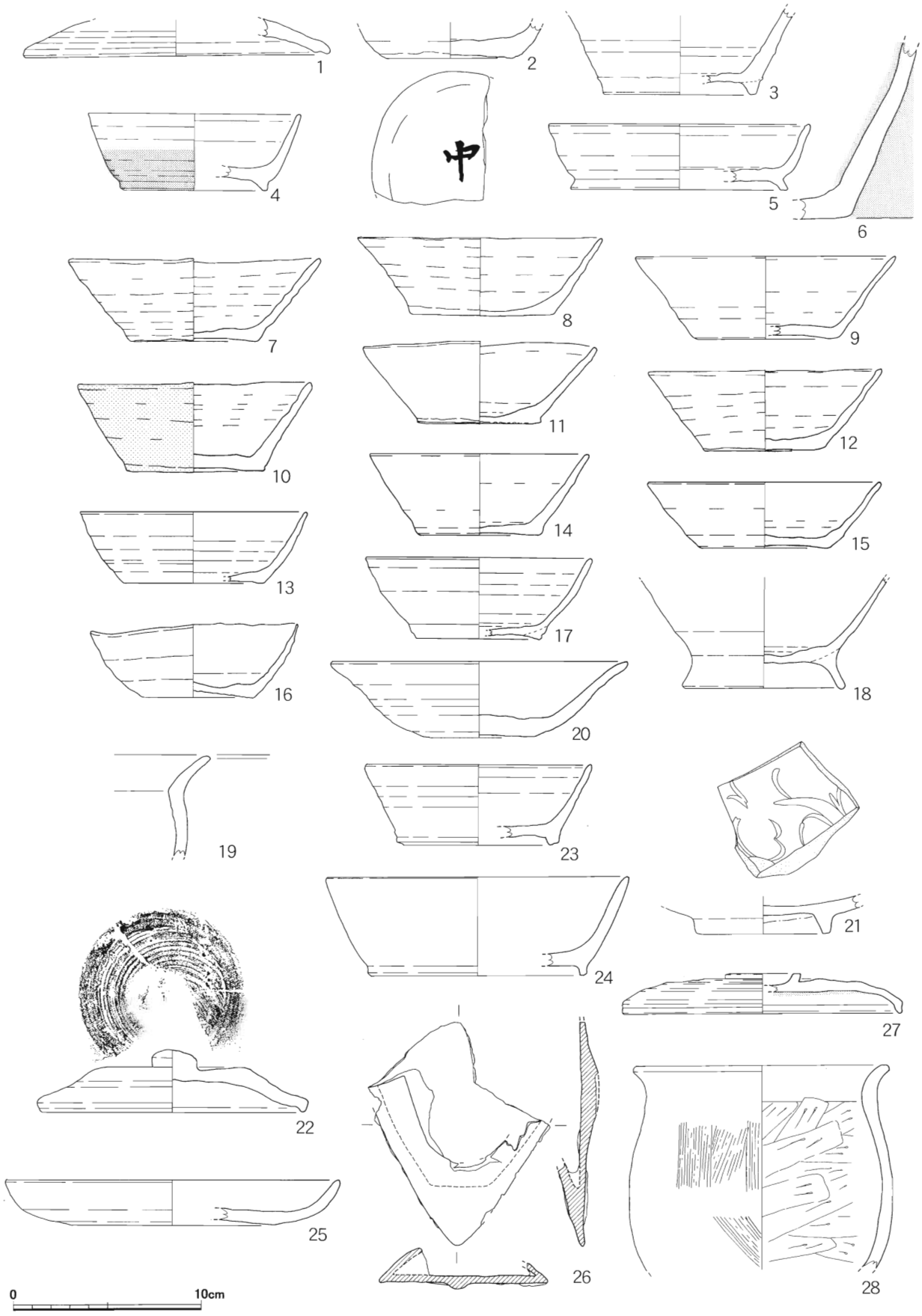
第134図　宮の後地区SD047出土遺物実測図



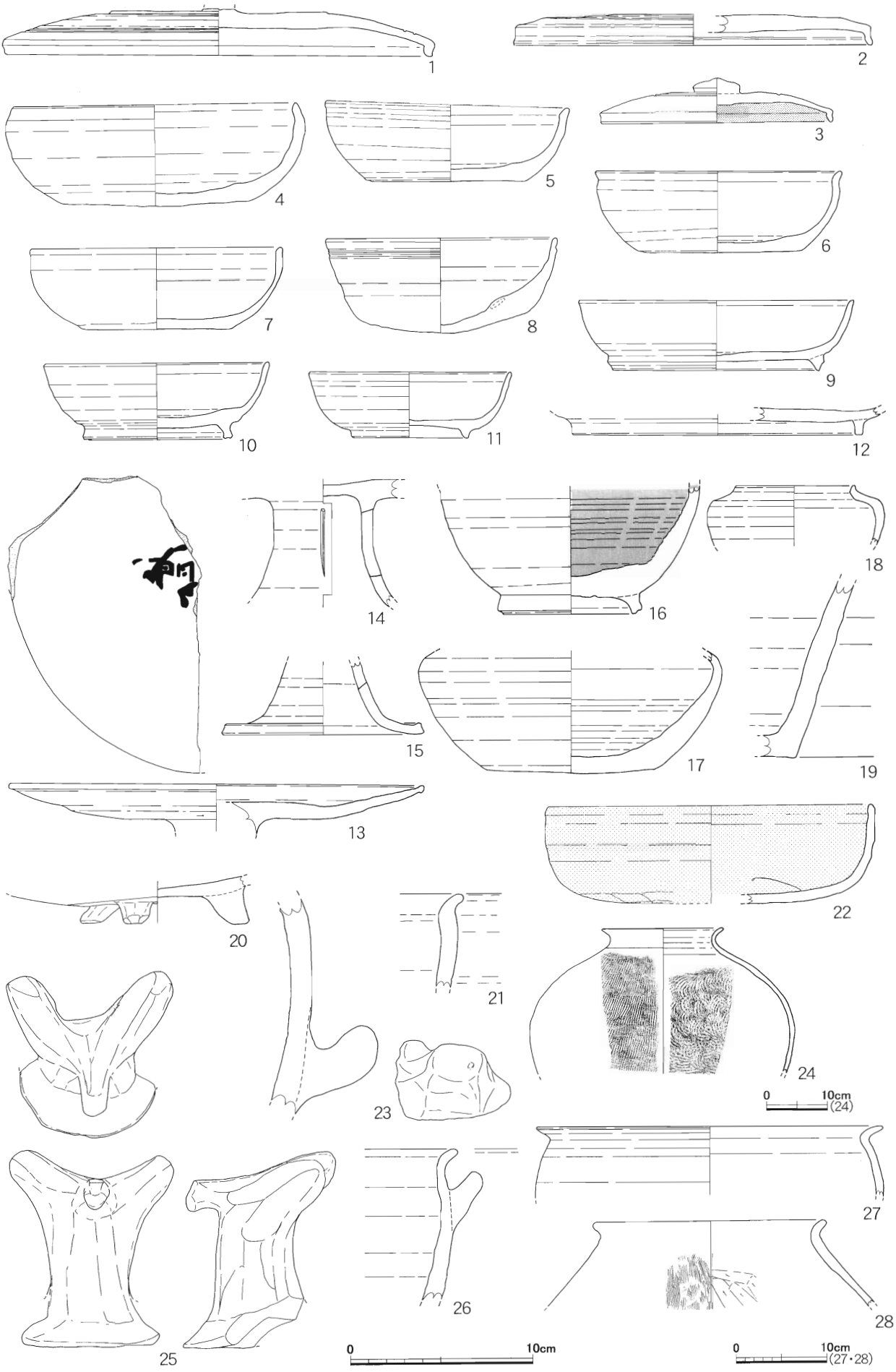
第135図　宮の後地区溝出土遺物実測図（1）



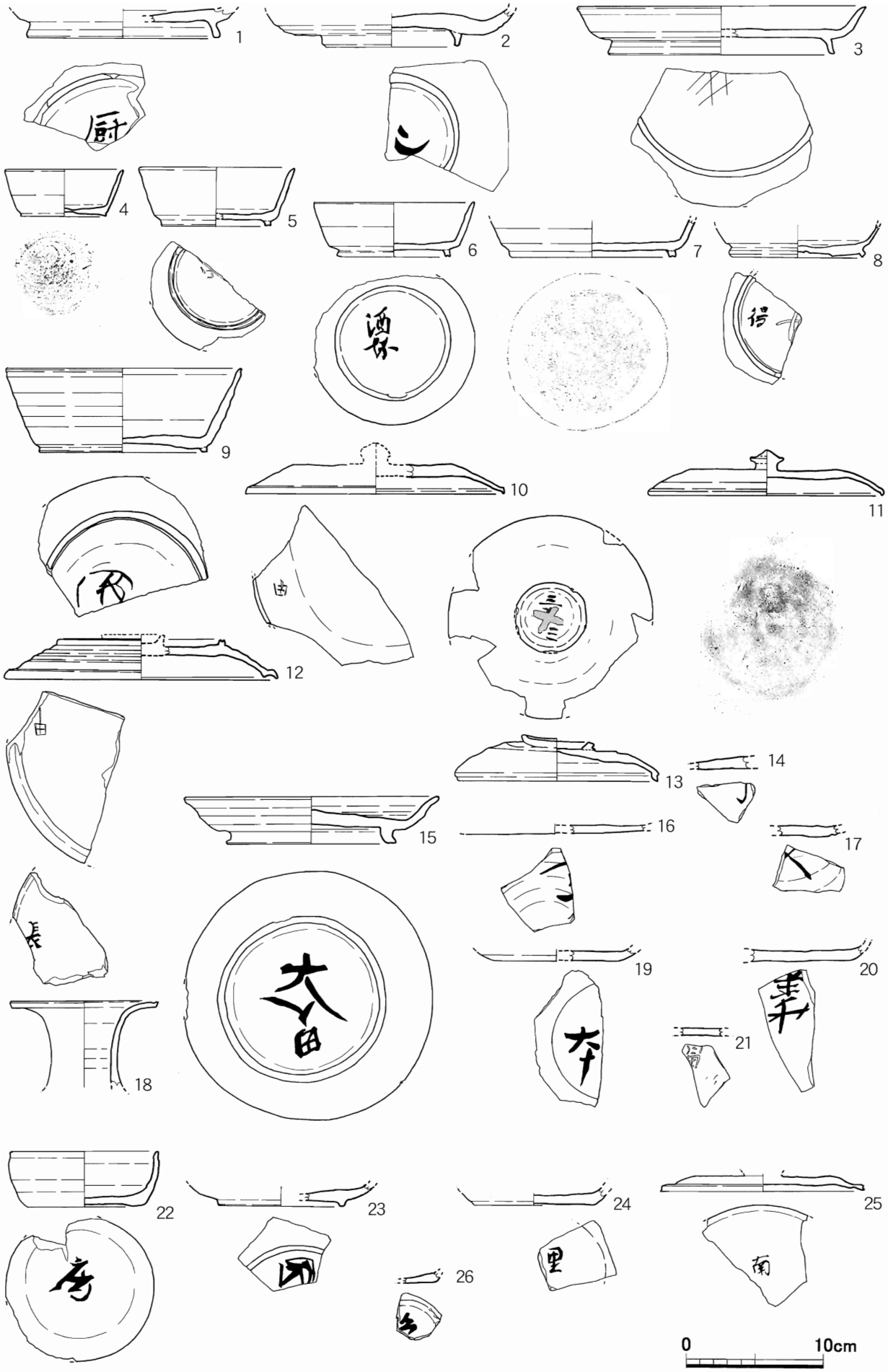
第136図　宮の後地区溝出土遺物実測図（２）



第137図　宮の後地区溝出土遺物実測図（３）



第138図　宮の後地区溝出土遺物実測図（4）



第139図　宮の後地区SD005・010出土墨書・刻書土器実測図

平面形は円形で、直径0.77～0.9m、深さ0.66mを測る。

遺物は、「AC22黒色土坑」と注記されたものをあてた。113－33は土師器高台付皿である。34は土師器坏で、口縁部に油煙が付着し、灯明皿として使用されていたことが分かる。35は板状木製品である。右側及び下端は欠損している下端には直径３～４㎜の穴が開く。端部は丁寧に面取りされている。

SK109（第114図４）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は、「AT23土坑内」と注記されたものをあてた。114－４は須恵器蓋で、輪状つまみが付く。

SK110（第114図５）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は、「AS22土坑内」と注記されたものをあてた。114－５は須恵器蓋で、天井部に糸切りの痕跡が残る。

SK111（第114図６）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「AA24北□土坑」と注記されたものをあてた。114－６は土師器坏で、ハの字状の高台をもつ。内面中段に段をもつ。

SK112（第114図８）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「AT23黒穴」と注記されたものをあてた。114－８は緑釉陶器碗で、内面には沈線が施される。高台は貼り付けられ、高台内側には段がある。10世紀中頃から後半の近江系である。「AR24バラス」と接合している。

SK113（第114図９）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「AP23黒褐色穴」と注記されたものをあてた。114－９は近江系の緑釉陶器である。貼り付け高台の端部に幅５㎜ほどのくぼみがある。

SK116（第115図１、２、15）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は、「CL19土坑灰褐色粘土」、「CK19土坑」と注記されたものをあてた。両土坑が同一である確証はない。115－１は須恵器皿で、高い高台をもつ。底部内面には漆が付着する。2は製塩土器で、内面には布目が残る。15は須恵器坏で、底部外面に「官」の墨書がある。

SK117（第115図10）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CF17黒色土坑」と注記されたものをあてた。115－10は土師器皿である。

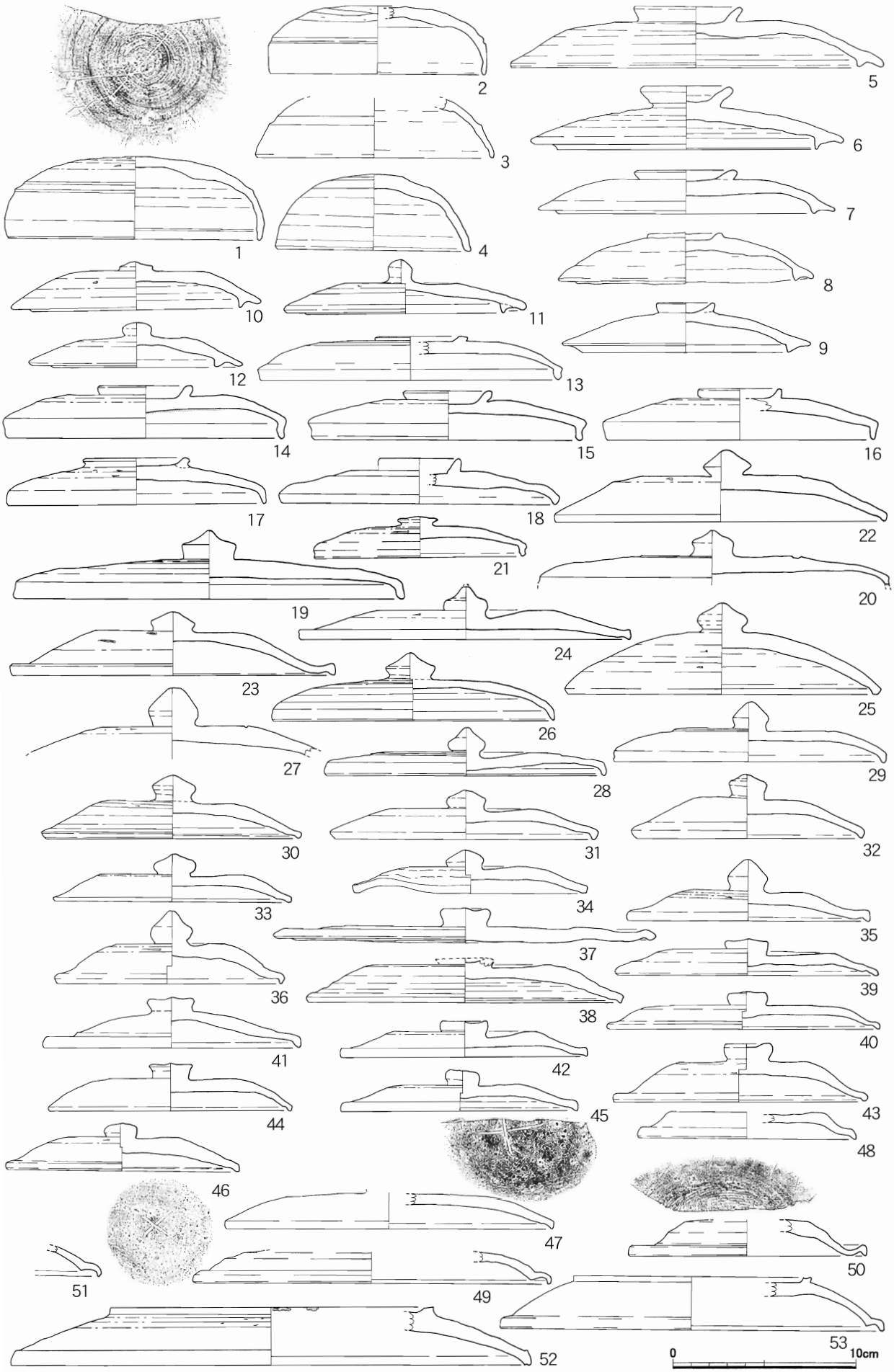
SK118（第75図、第115図16）　AQ20付近で検出した土坑で、SD023の南側に位置する。平面形は円形で、直径2.25m、深さ0.25mを測る。

遺物は「AQ20土坑」と注記されたものをあてた。SX110と同一遺構かは不明。115－16は須恵器皿と考えられ、底部外面に「□〔箏か〕」の墨書がある。

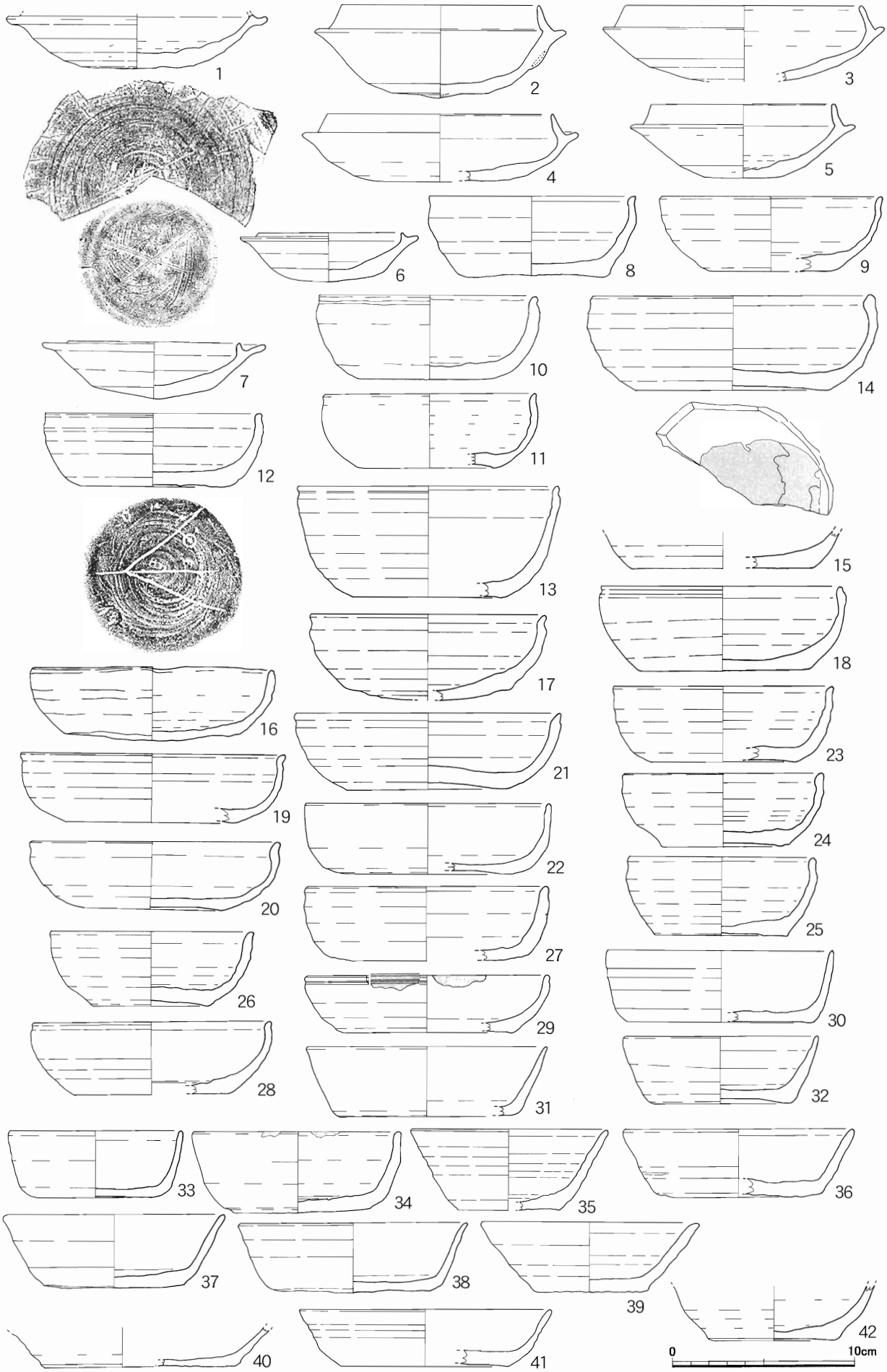
SK121（第115図12）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物が出土している。遺物は、「CK18土坑灰褐色粘土」と注記されたものをあてた。115－12は青銅製品である。中央部が高く、両端は薄くなる。厚さは厚いところで1.0㎝、薄いところで0.3㎝を測る。裏面には錆により砂粒が付着する。用途は不明。

SX102（第115図17、29）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は、「AT20灰色土南北オチコミ」と注記されたものをあてた。115－17は須恵器坏で、底部外面に「□勝」の墨書がある。29は須恵器蓋で、内面は磨滅し、転用硯として使用されたと考えられる。

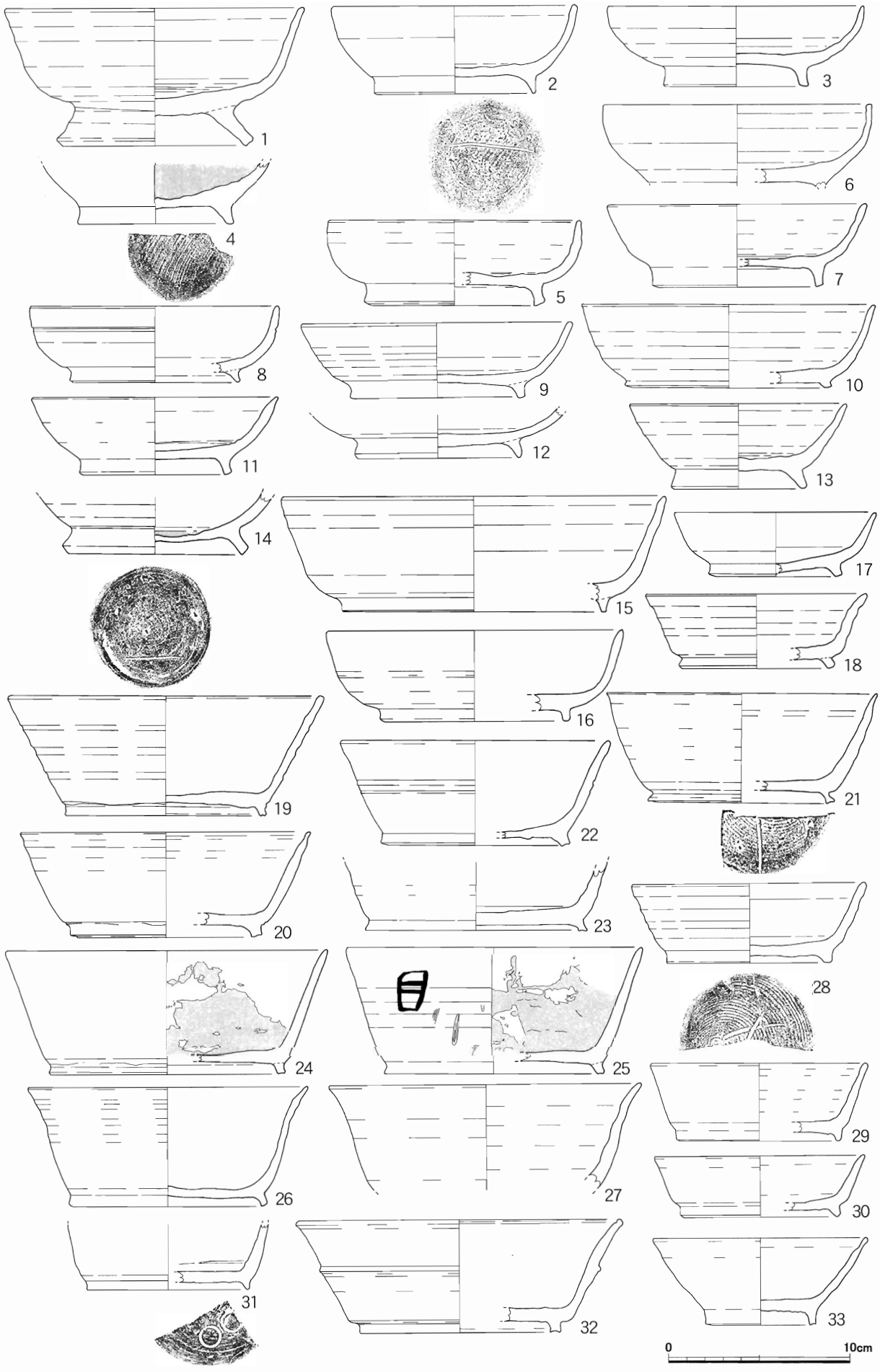
SX103（第115図19）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CK12掘方内」と注記されたも



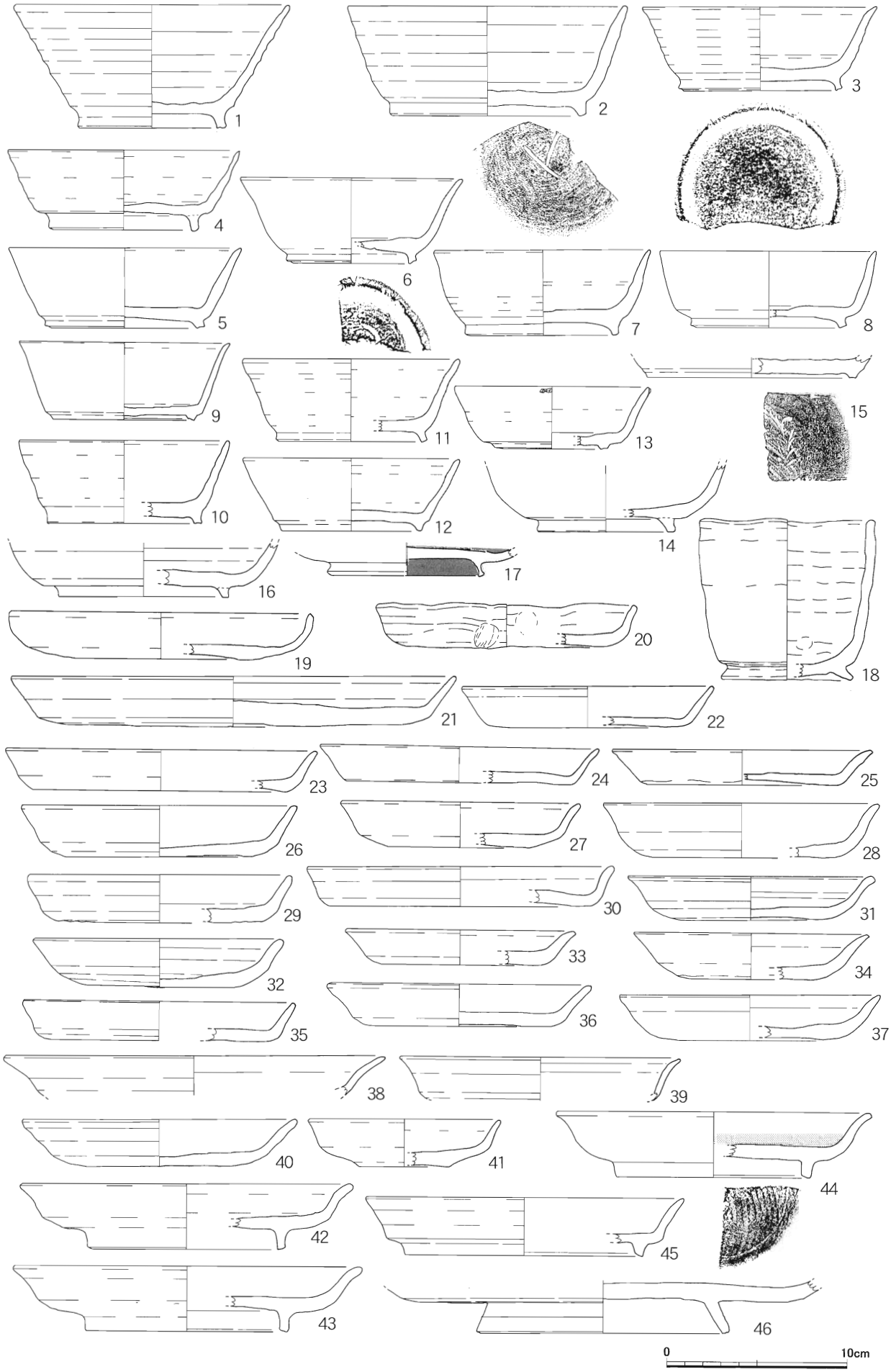
第140図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（１）



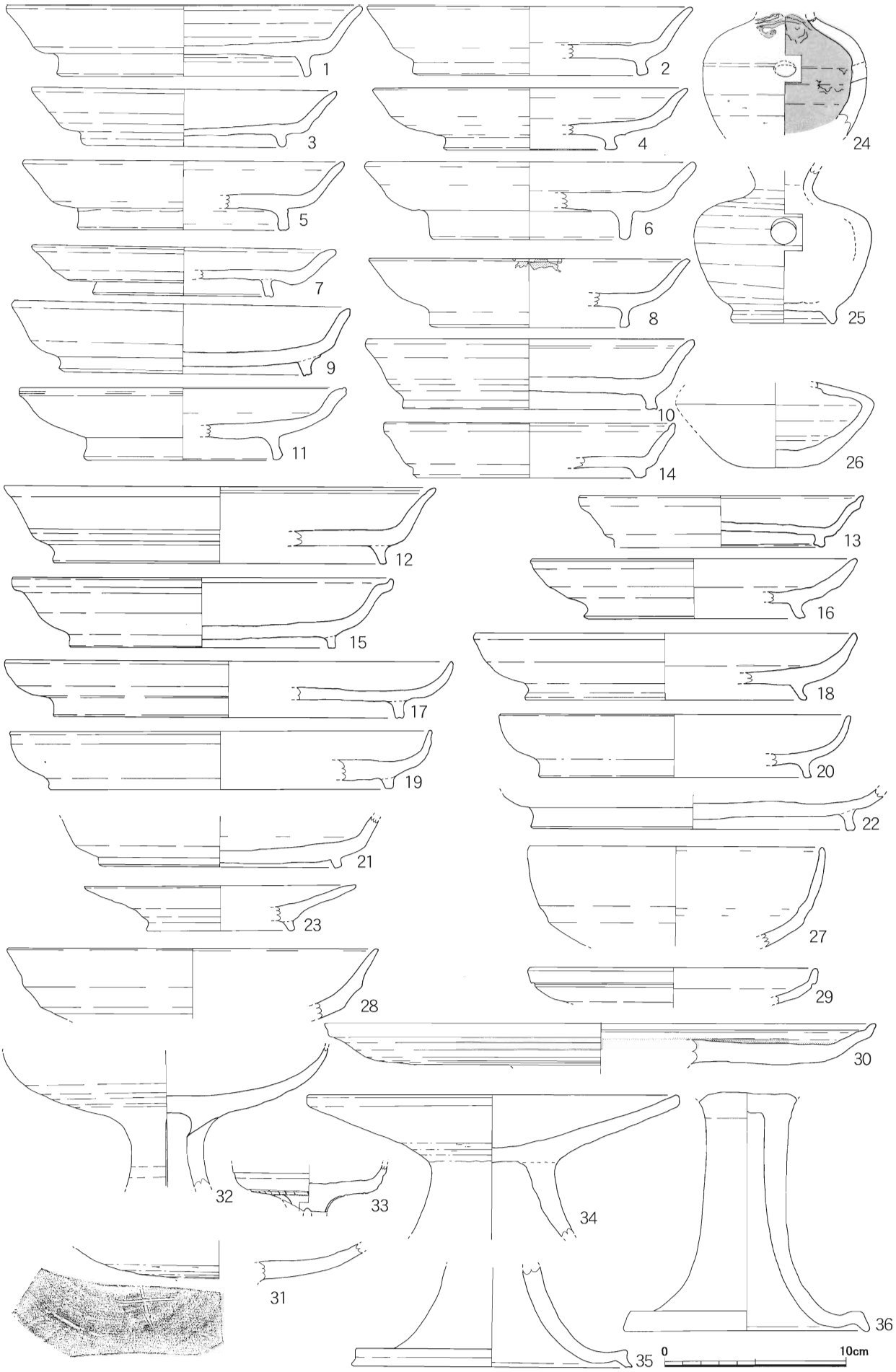
第141図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（２）



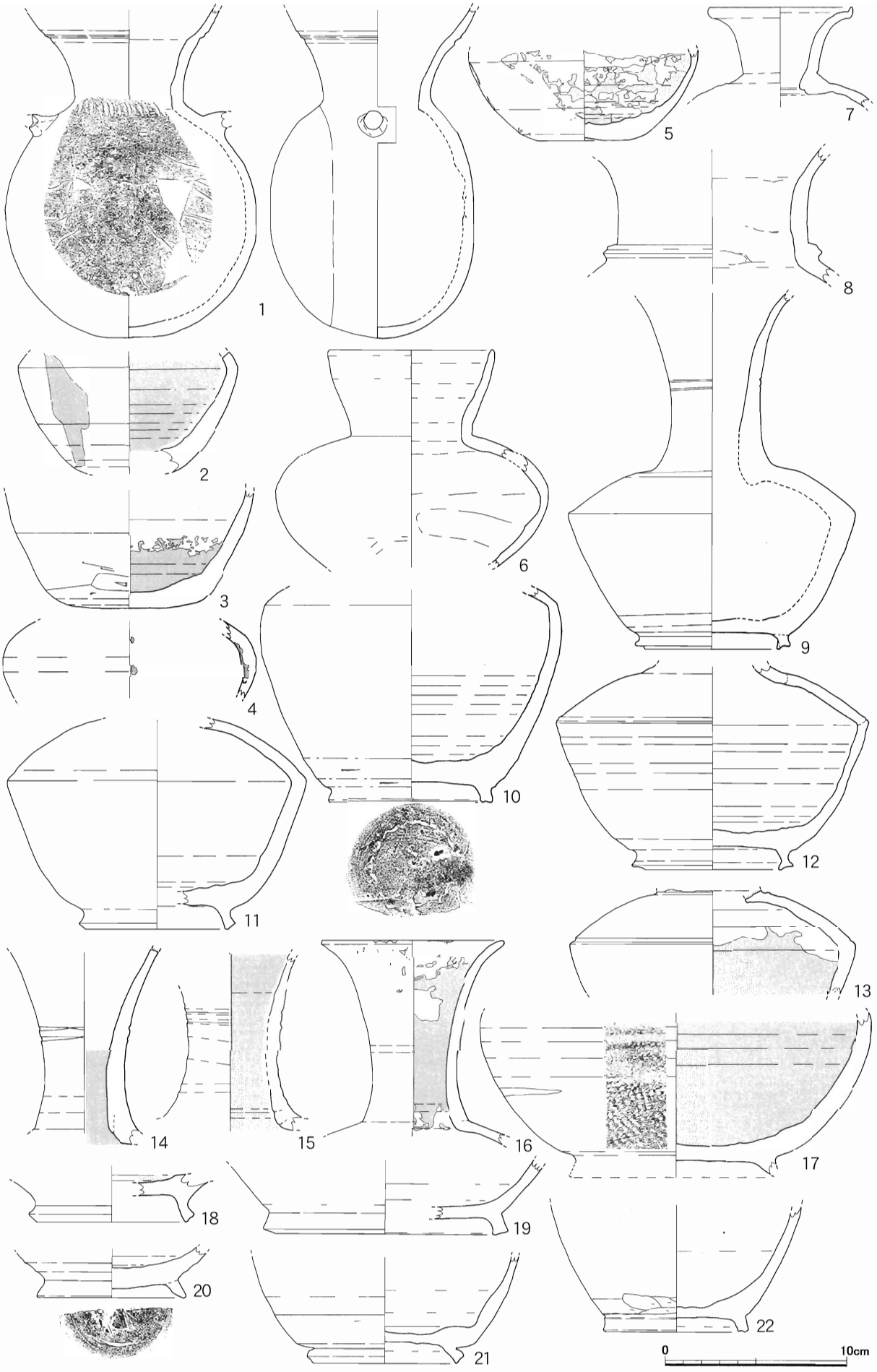
第142図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（3）



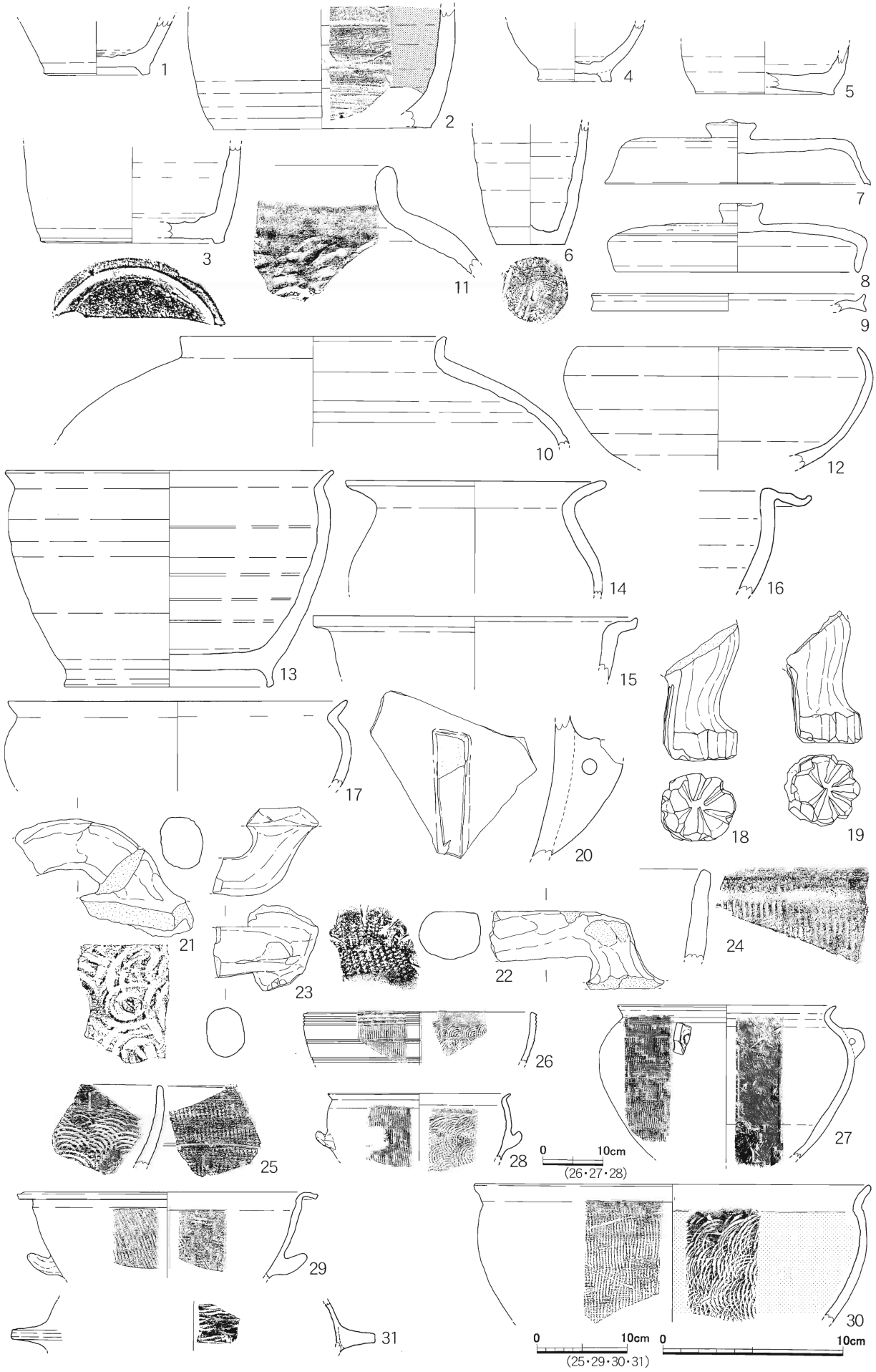
第143図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（４）



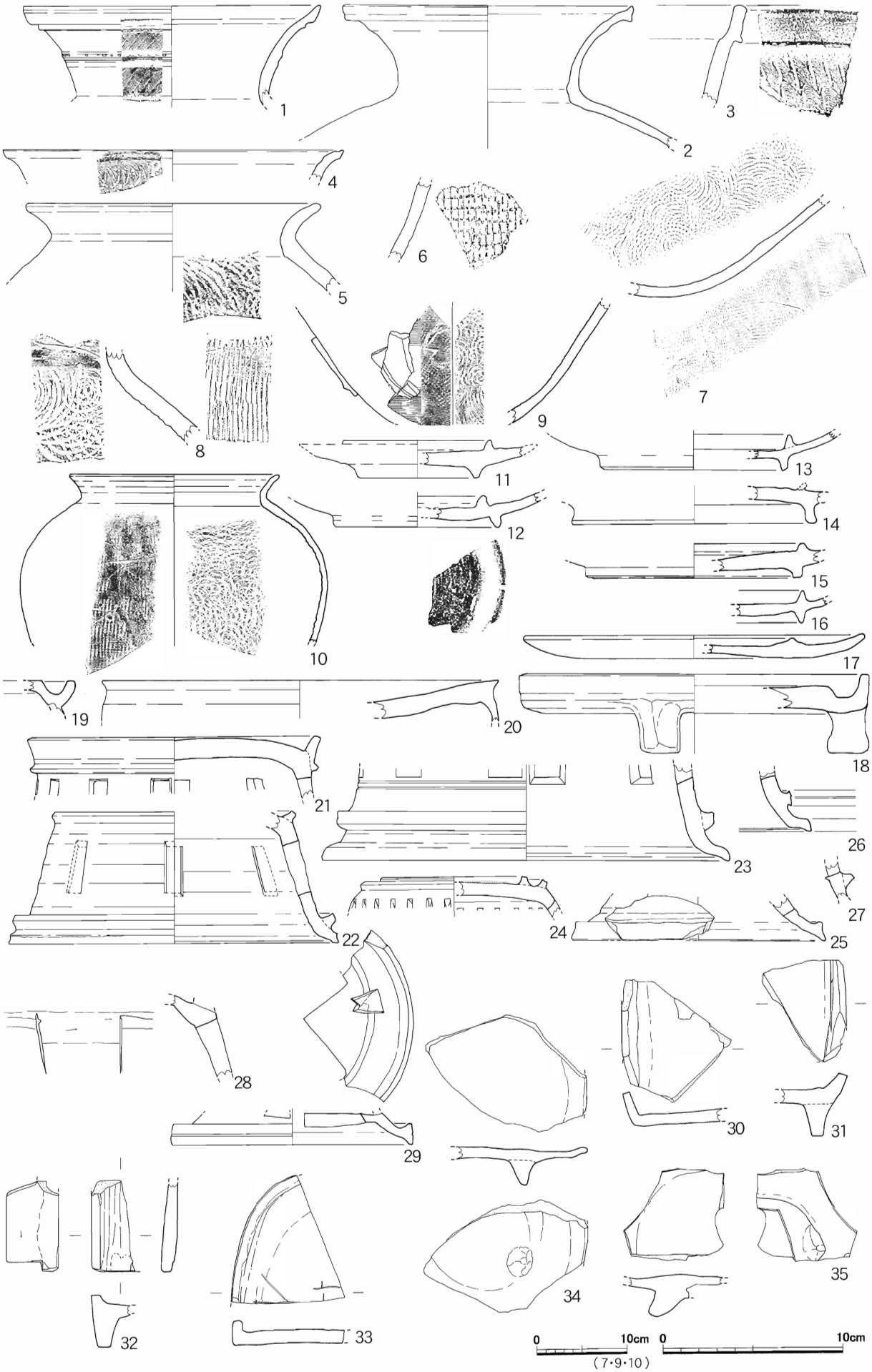
第144図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（５）



第145図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（6）



第146図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（７）



第147図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（8）

のをあてた。115－19は須恵器坏で、底部外面には「生」の墨書がある。

SX104（第115図20）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CK24灰黒粘土凹み」と注記されたものをあてた。115－20は須恵器坏で、底部外面に「駅」の墨書がある。

SX105（第115図21、22）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「AN11黒色土オチコミ」と注記されたものをあてた。115－21は須恵器皿で、内面は磨滅し、光沢がある。墨痕はない。22は須恵器壺と考えられる。

SX106（第115図28）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「AT18大掘り方」と注記されたものをあてた。115－28は須恵器蓋で、内面には磨滅し、転用硯として使用されたと考えられる。

SX108（第115図31、32）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CM24灰黒色粘土（凹み）」と注記されたものをあてた。115－31、32は須恵器坏で、31は内外面風化している。32は高台をもち、口縁端部のみ外反する。

SX109（第115図33）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CR24灰黒色粘土凹み」と注記されたものをあて、SX108との関係は不明。115－33は須恵器坏で、内面には墨痕が残り、転用硯として使用されている。

SX110（第114図３、第115図23～27）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「AQ20黒色オチコミ」と注記されたものをあてた。114－３は須恵器坏で、高台は底部の端による。内面及び口縁部外面には漆が付着する。115－23、24は須恵器皿である。高台内に油煙が付着し、底部内面には墨痕が残る。25～27は土師器で、25は蓋、26、27は坏である。25は内外面に赤色顔料を塗布し、丁寧に磨かれている。26は内外面に赤色顔料が塗布される。

Ｐ101（第113図36～38）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「AA12焼土ピット」と注記されたものをあてた。113－36は須恵器蓋である。37は坩堝と考えられる。厚手の碗形を呈し、底部は丸底と考えられる。口縁部の一部には緑色にガラス質化し、分析はしていないが、銅精錬に関連すると考えられる。38は37とセットになる羽口と考えられる。直径8.3㎝、残存長15.5㎝、通風孔の直径2.5～3.0㎝を測る。先端はガラス質化し、被熱した部分は灰色を呈する。

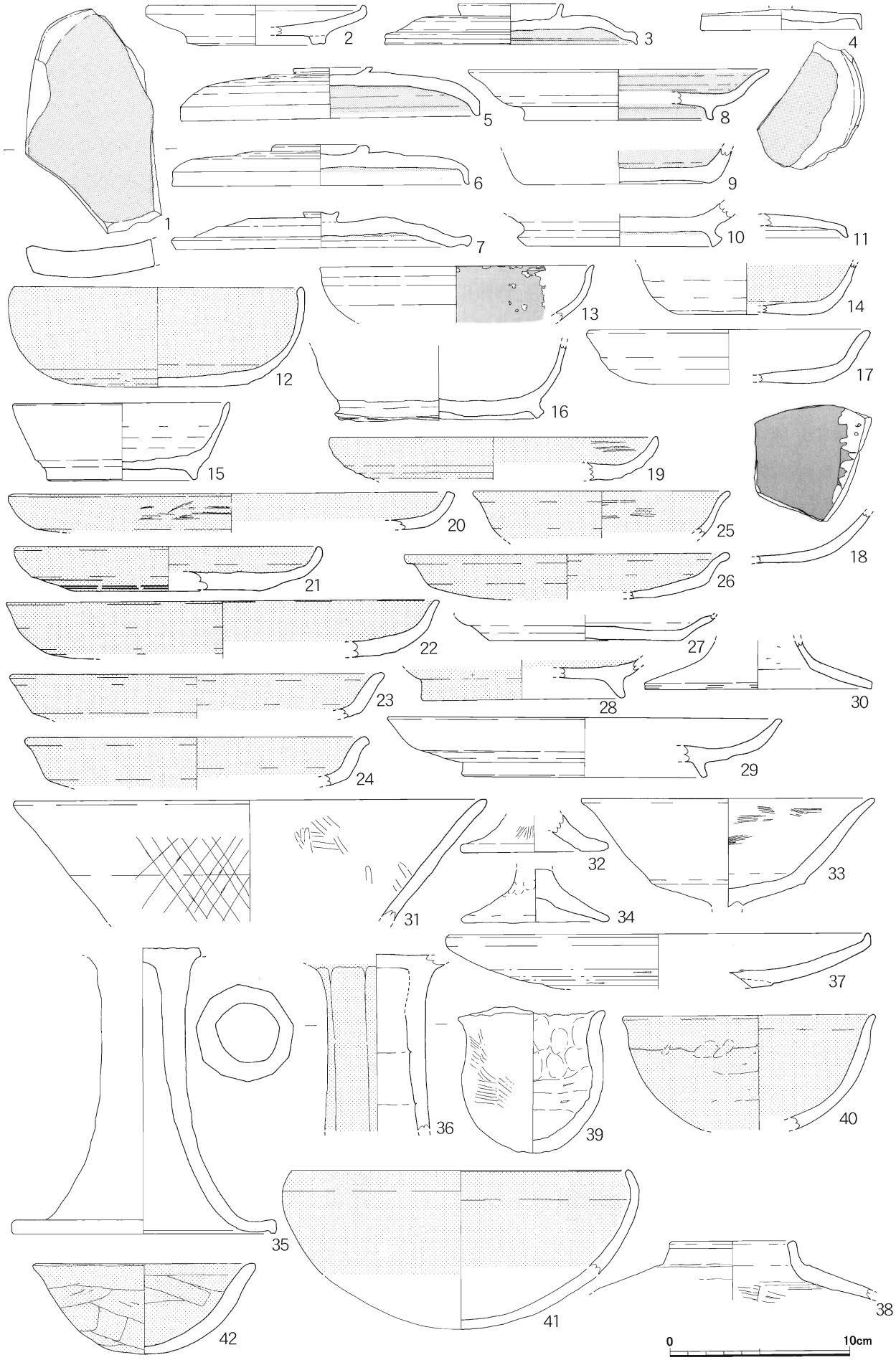
Ｐ102（第114図11）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「AT15黒色ピット」と注記されたものをあてた。114－11は碧玉石核である。周囲には形を調整する剥離が一部に入り、稜を潰す敲打がある。製品の形状は不明であるが、素材片の可能性もある。

Ｐ103（第114図１、２）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「AT18黒色ピット」と注記されたものをあてた。114－１は土師器皿で、内外面とも赤色顔料が塗布されている。底部付近はヘラケズリ調整である。２は中国製白磁碗Ⅳ－１類である。

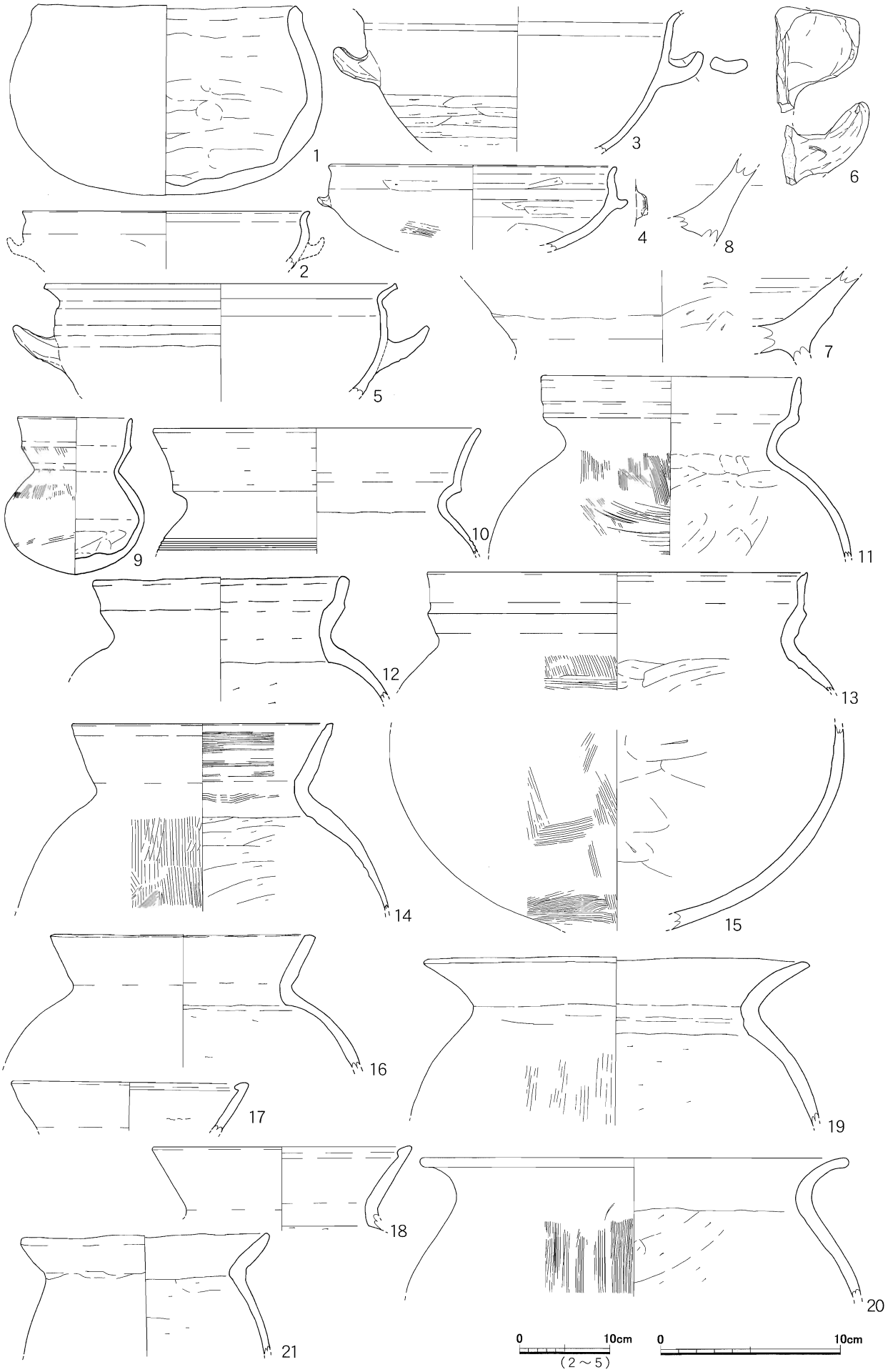
Ｐ104（第75図、第114図７）　AC20から検出した柱穴で、平面形は円形である。埋土や出土遺物から中世の小柱穴と考え、第75図の場所にあてた。

遺物は「AC20黒色柱穴」と注記されたものをあてた。114－７は製塩土器であり、焼成は軟質である。表面は風化が著しい。SB016を構成する柱穴からの出土の可能性もある。

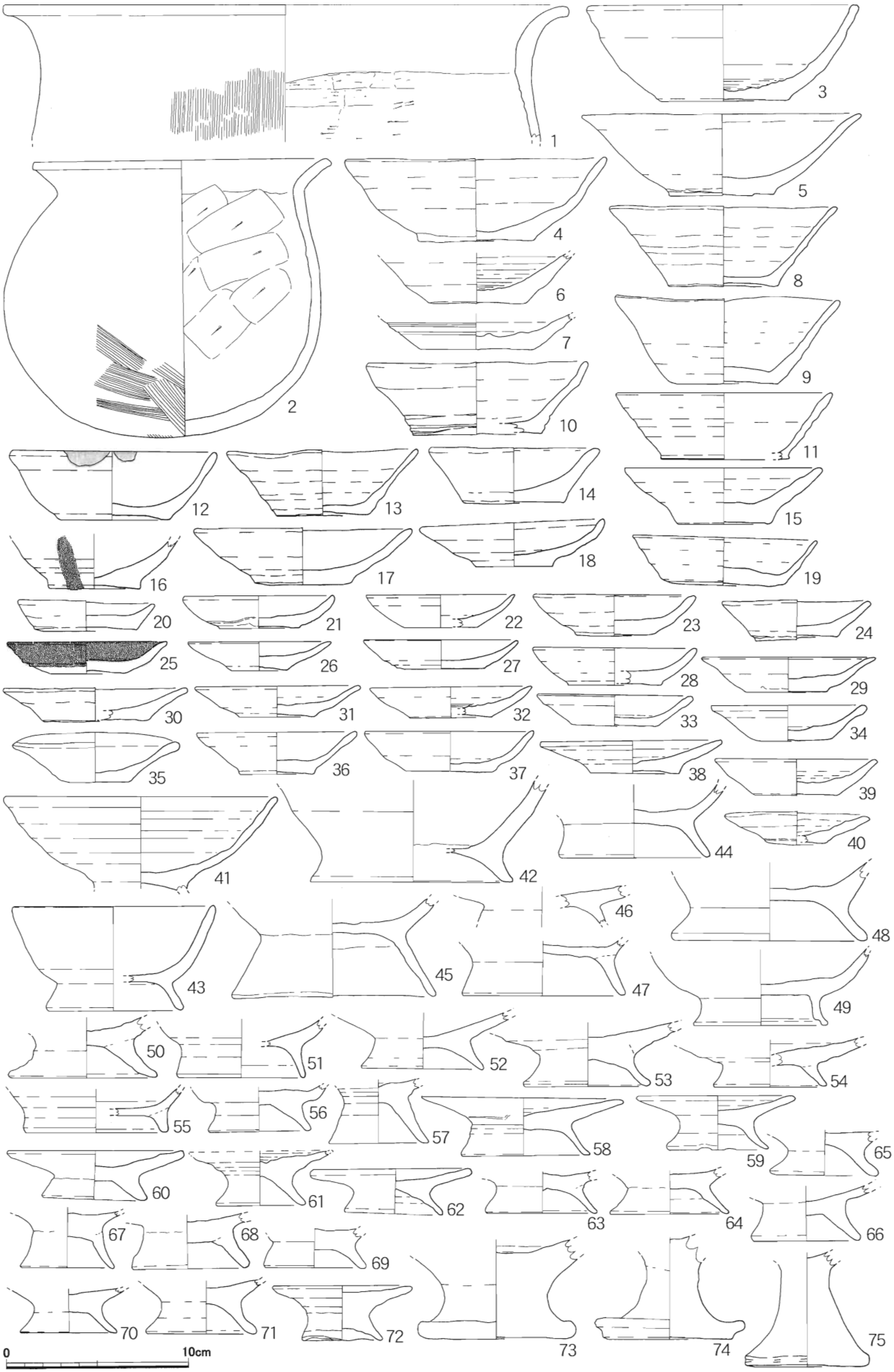
Ｐ105（第75図、第114図10）　AT19から検出した柱穴で、SE005の北側に位置する。SB006と重複関係がある。出土遺物からＰ105が新しい。



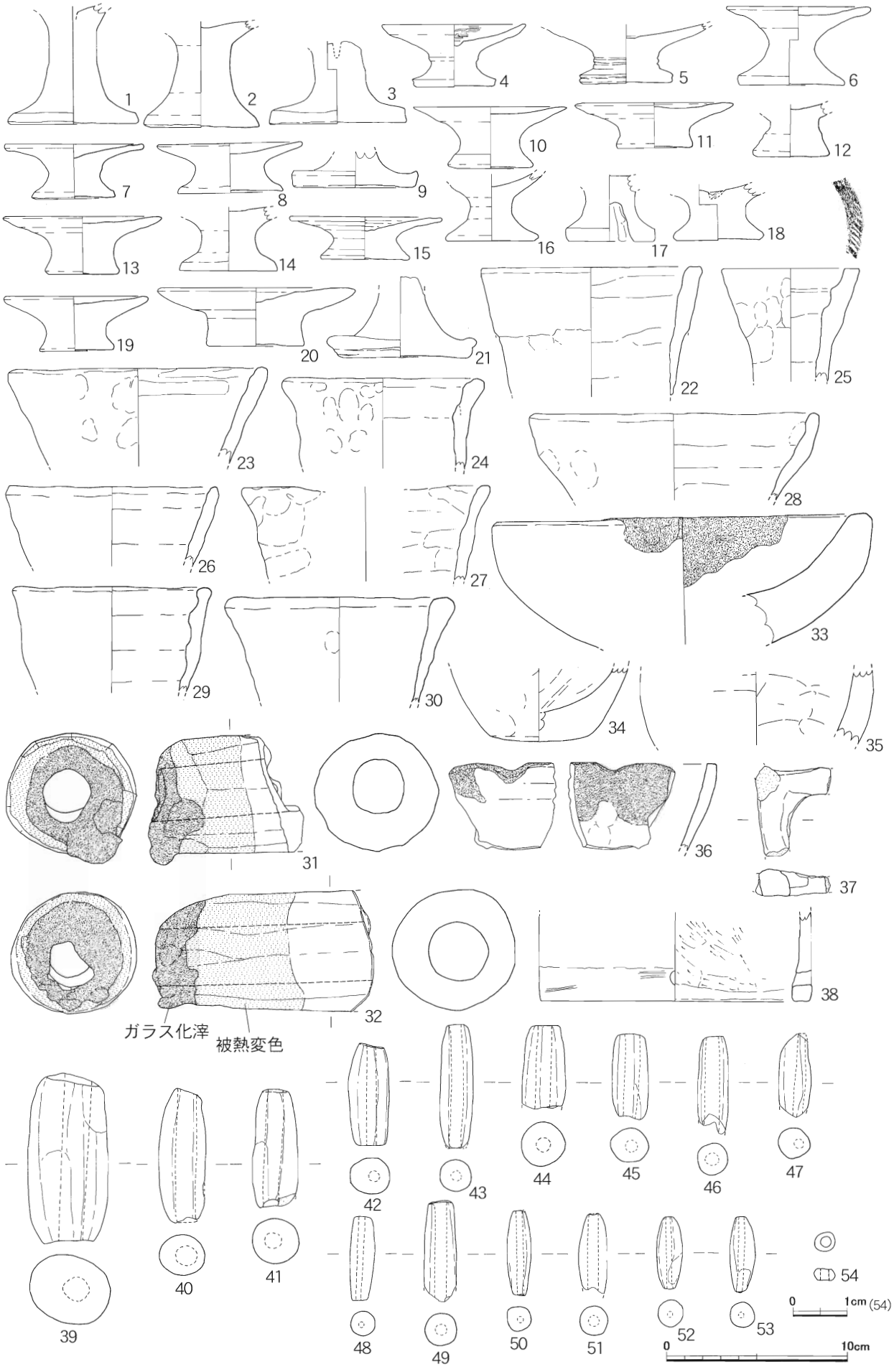
第148図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（９）



第149図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（10）



第150図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（11）



第151図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（12）

遺物は「AT19黒PIT」と注記されたものをあて、「AS19バラス」と接合した。114－10は近江系と考えられる緑釉陶器碗である。貼り付け高台で、端部には沈線がある。

P109（第115図3、4）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CH11暗灰ピット」と注記されたものをあてた。115－3は須恵器坏で、口縁端部が外反する。4は須恵器甕で、口縁部が大きく外反する。無文である。

P110（第115図5、6）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CJ12柱穴」と注記されたものをあてた。115－5は須恵器蓋で、厚手で、器高が高い。6は須恵器坏で、高台は底部外縁につく。

P111（第115図9）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CL14黒柱穴」と注記されたものをあてた。115－9は須恵器蓋と考えられる。輪状つまみであるが、端部は斜行し、深い。脚の可能性もある。

P112（第115図11）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CF17黒色PIT内」と注記されたものをあてた。115－11は土師器皿で、口縁部は外反する。

P114（第75図、第115図18）　AB19から検出された柱穴で、注記から平面形は円形と考えられる。第75図には可能性がある柱穴をあてた。

遺物は「AB19丸柱穴」と注記されたものをあてた。115－18は須恵器で坏と考えられる。底部外面には「山水土」の則天文字が墨書されている。

P115（第114図12）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「AD20黒色礫の穴」と注記されたものをあてた。114－12は碧玉製の石核で、両面に自然面を残す。

P116（第115図13）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「CI18灰褐柱穴」と注記されたものをあてた。115－13は筋砥石で、1面のみ使用されている。使用面には3条の筋状のくぼみがあり、その周囲も磨滅している。

（4）B区の調査

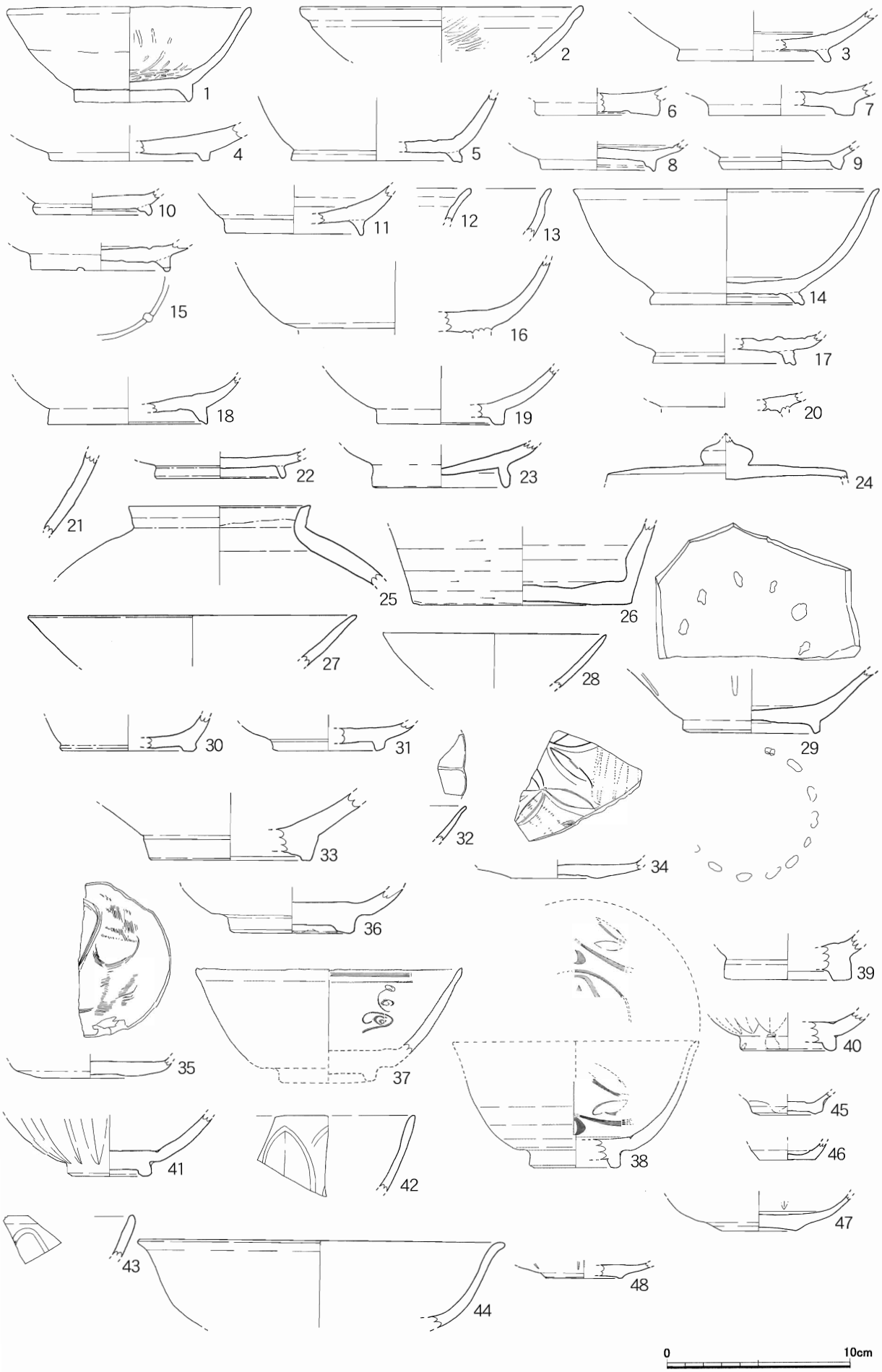
六所神社北西側に位置する調査区で、1968（昭和43）年度の調査開始年度に設定された。1970（昭和45）年度に西大溝（SD004）や南大溝（SD045）の続きを確認するトレンチが設定された。

古墳時代の遺構・遺物

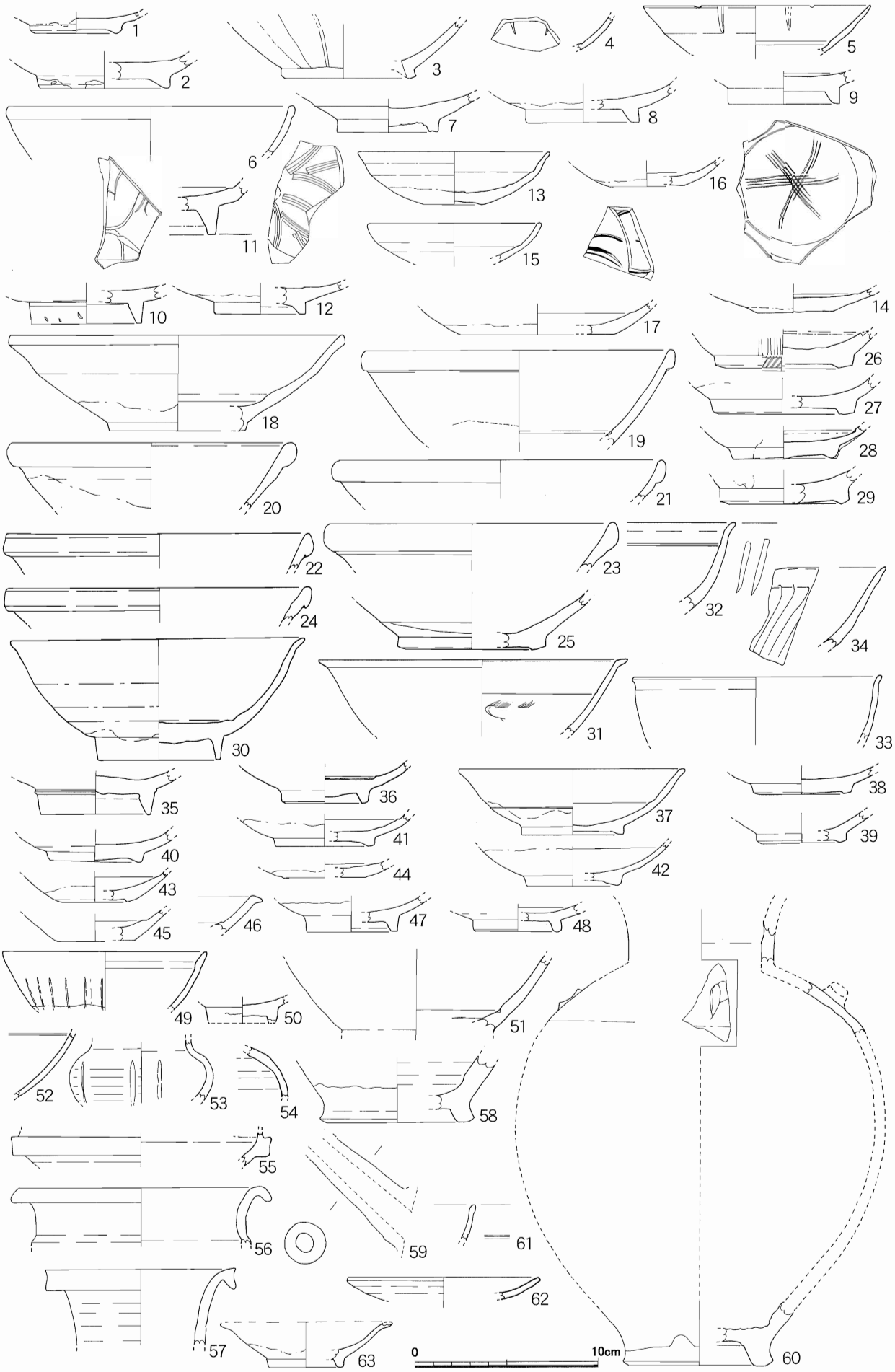
古墳時代の遺構としては溝跡（SD011）が確認されている。

SD011（第98図、第135図21～27）　BO33、BN34付近で検出した溝跡である。主軸は北東から南西で、調査区に対し斜行する。断面コ字形を呈し、幅1.0～1.5m、深さ0.19mを測る。

遺物は「BO32古溝」、「BO33古溝」、「BO34古溝」と注記されたものである。135－21は須恵器坏蓋で、肩部に沈線状のくぼみがある。22は坏身で、底部は回転ヘラケズリ調整である。23～25は須恵器高坏である。23は三角形透かしが四方向に施される。体部には2条の沈線がある。24は線状の透かしが二段ある。坏部外面には沈線状のくぼみと刺突文が施される。25は外面に櫛条工具による波状文が施される。26は須恵器壺あるいは瑞と考えられ、外面に沈線と刺突文が施される。27は土師器甕で、外面および、口縁部内面に赤色顔料が塗布される。



第152図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（13）



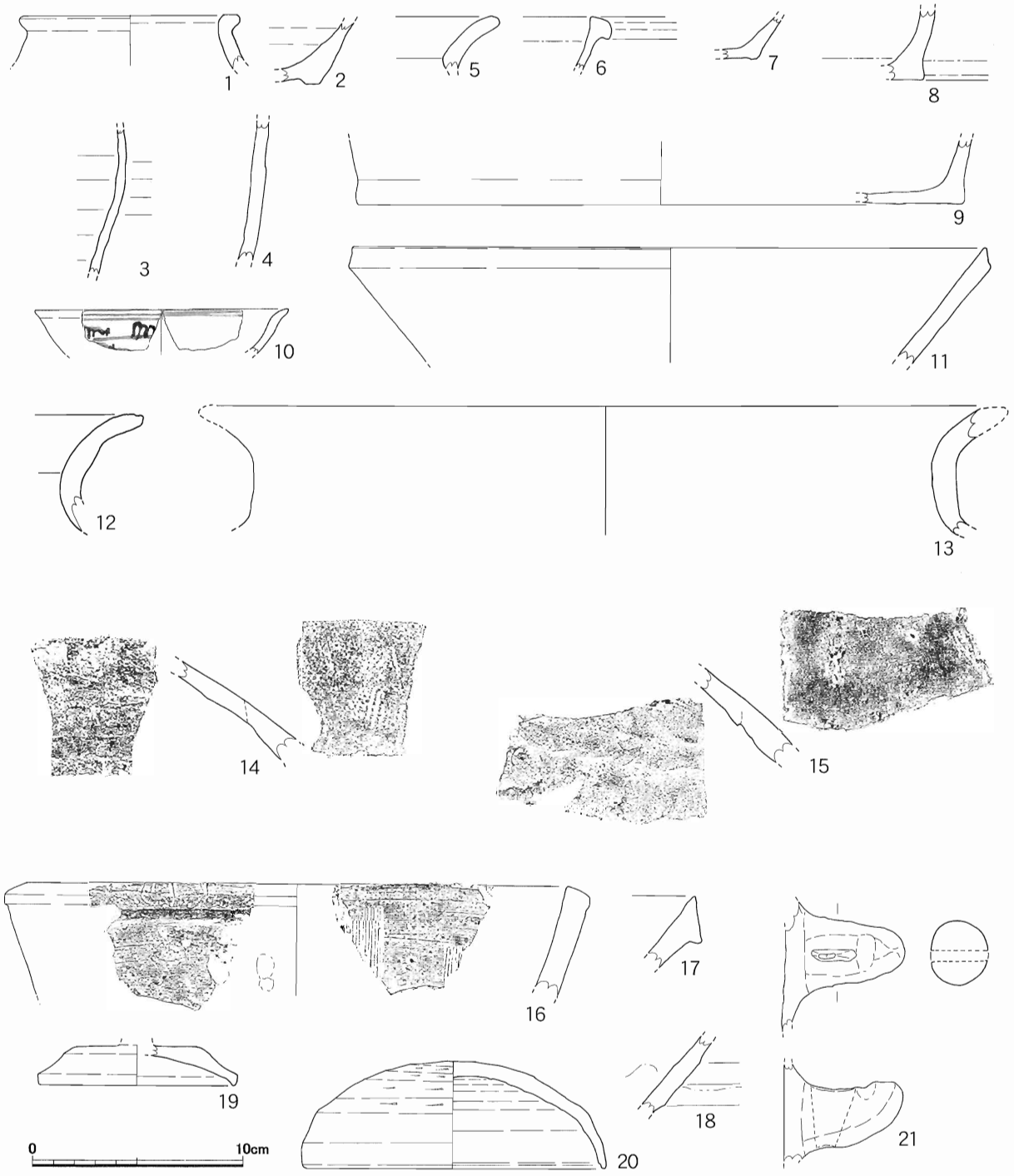
第153図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（14）

古代の遺構・遺物

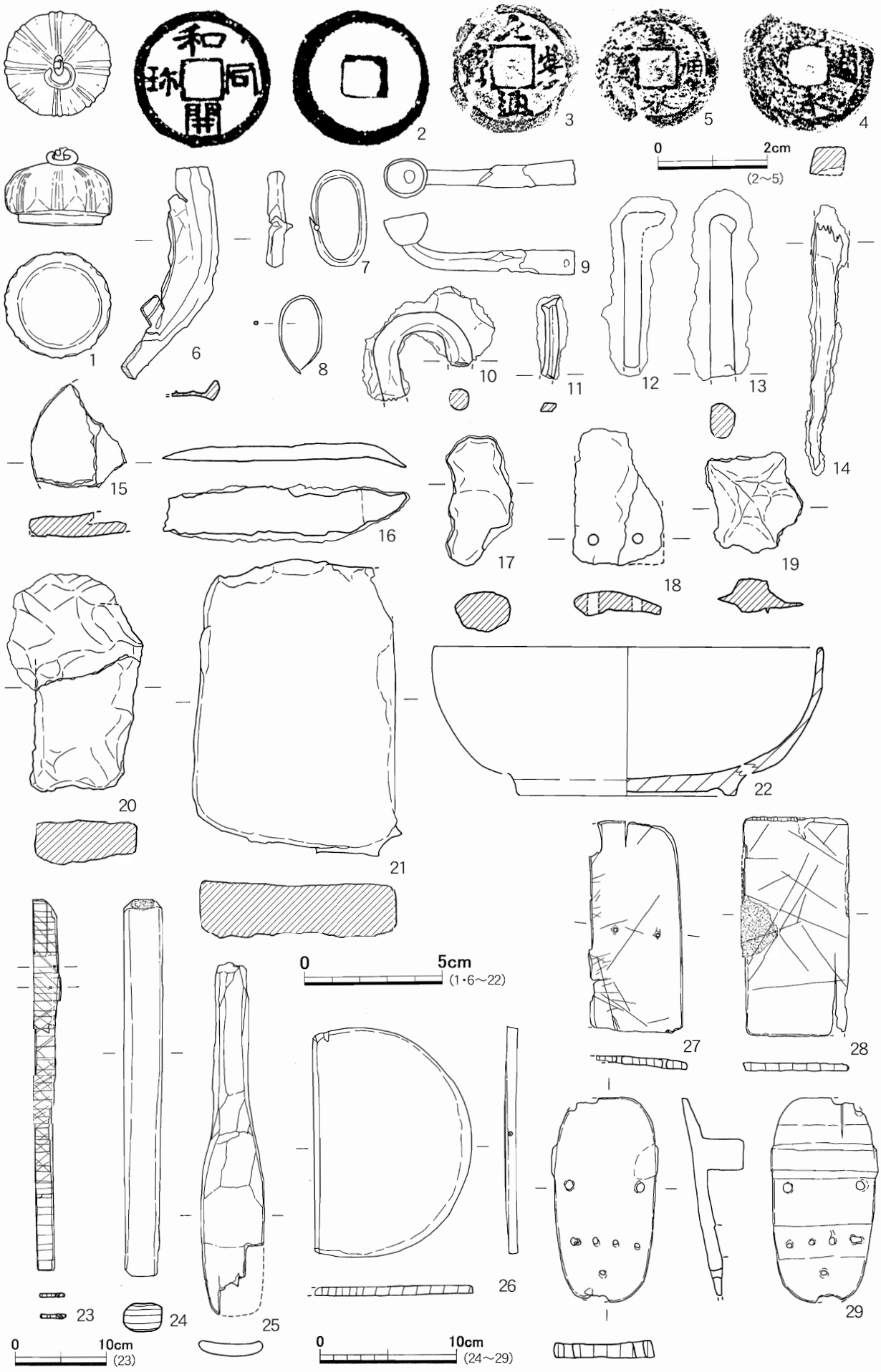
古代の遺構としては掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡、柱穴が確認されている。

SB001（第98図、第114図27）　BQ34付近で検出された掘立柱建物跡である。４間（8.0m）×２間（4.2m）で、主軸は南北方向である。

114－27はSB001Ｐ10から出土した可能性がある土師器坏である。「BQ34ピット内」と注記されているが、同グリッドには複数ピットがあり、断定はできない。強いロクロ目が残り、ハの字状に口縁部が開く。底部は回転糸切りで幅広で、厚い。古代末である。



第154図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（15）



第155図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（16）

SB002（第99図）　BN30付近で検出された掘立柱建物跡である。２間（4.1m）×２間（4.2m）の総柱建物跡である。掘方の平面形は円形と方形がある。Ｐ４の土層は１、２層ははっきり分かれない。３層は遺構面土であり、掘り過ぎである。一部の柱穴には柱根が残る。

SB022（第99図）　BO27付近で検出した３間（6.3m）×２間（4.1m）の掘立柱建物跡である。主軸は東西方向である。SB002の東側に位置し、距離は4.6mを測る。掘方の平面形は円形もあるが、方形が多い。

SD002（第100図、第135図１～３）　BT42付近で検出した南北溝である。主軸はやや東側に振る。断面コ字形で、幅1.4～1.6m、深さ0.27mを測る。軸が振り、明確な時期は不明である。

遺物は、「BA42溝」と注記されたものである。135－１は須恵器で、外面に「白」の刻書がある。２は土師器坏で、しっかりした高台をもつ。３は土師器皿で、底部静止糸切りである。

SD004（第95図、第116図～第119図）　Ｂ区の西側にある南北方向の主軸をもつ溝跡で、「西大溝」といわれる。SD004はＣ区でも確認され、SD005と接続し、北へは続かない。SD004の西側は東側に比べ遺構密度が低くなり、明確な遺構が少ない。溝の方向はほぼ座標南北方向を指している。上面での幅2.55～2.65m、深さ0.6mを測り、断面はU字形を呈する。

SD004の土層断面を観察すると、耕作土下に暗褐色粘質土が堆積し、その下層からバラス層を確認している。バラス層の下は大きく2層に分けられ、上層（１砂）：淡黄灰色砂、黄褐砂、下層（２砂）：灰色砂、暗褐色砂である。「大原評」の木簡や木製鋤は下層であるBO40南北溝２砂から出土している。

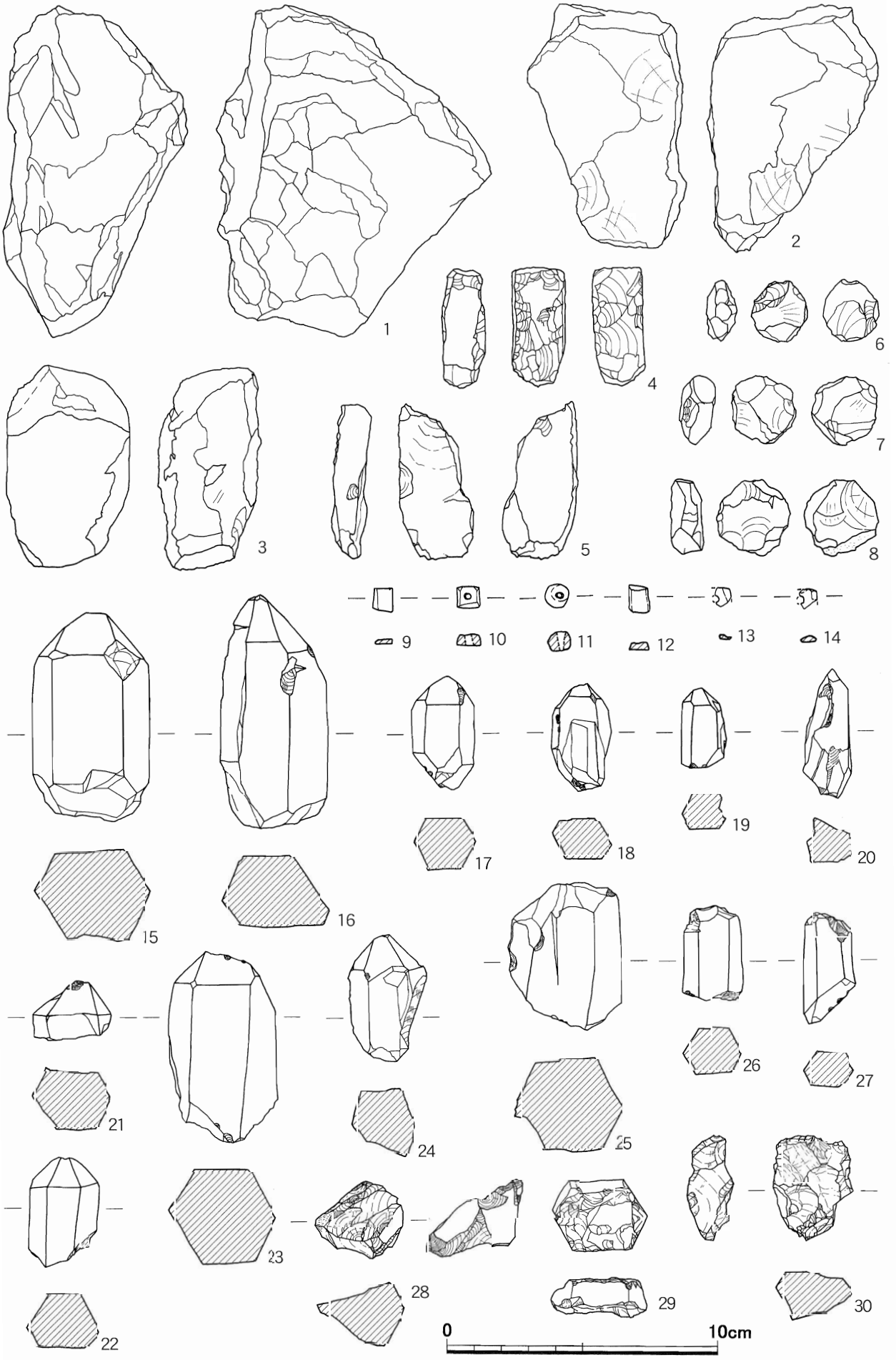
SD004からは須恵器（蓋、坏、皿、高坏、壺、器台、鉢、甕、転用硯）、土師器（坏、皿、盤、高坏、甕）、製塩土器、移動式竈、土製支脚、漆付着土器、瓦、ミニュチア土器、白磁等多くの遺物が出土している。また、土器以外にも木簡、木製鋤、不明木製品、金属生産関係遺物（坩堝）、玉生産関係遺物（瑪瑙、水晶）がある。

土器類には坏や皿、高坏などの供膳具が多数を占めるが、煮炊具の甕や漆の付着した長頸壺など漆を運搬したと考えられる遺物もある。木製品も明確な文字がある木簡は数が少ないが、調査日誌には木片が多数出土したとの記載もある。

遺物は層位を注意しながら版組みした。116－１～12は「暗褐色土」と注記されたものである。一部、「暗褐Ｉ」とあることから「１砂」出土遺物を含んでいる可能性がある。１～４は須恵器蓋である。１～３は輪状つまみで、４は宝珠つまみである。５は須恵器坏で、体部は丸みをもつ。６は須恵器甕である。７、８は土師器甕で、外反する口縁部をもつ。９は丸瓦で、端部は平坦で、凸面に平行タタキがある。10～12は中国製白磁である。10は高台の途中から高台にかけて無釉で、高台端部は鋭角に削られている。碗Ｖ類か。11の内面には櫛条工具による模様が施される。高台端部から内面は無釉で、碗Ｖ－４類。12は水注Ⅲ類の口縁部である。口縁部は折り返し、端部はやや丸みをもつ。

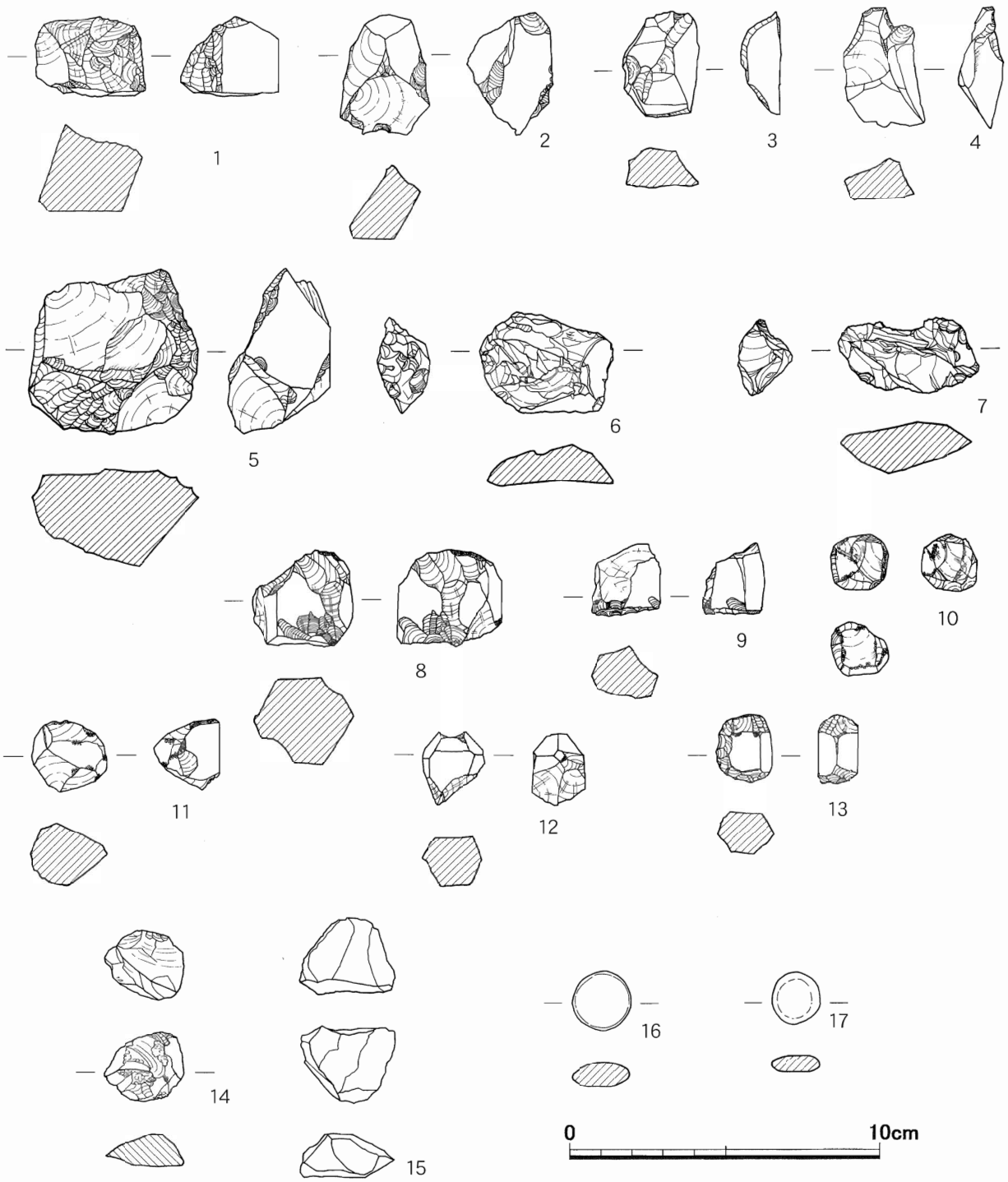
116－13～38、第117図は１砂と考えられる遺物である。13～23は須恵器蓋である。13はかえりのある口縁部をもち、器高が高く丸みをもつ。14～19は輪状つまみをもち、下垂する口縁部の外面が直線的なもの（14）や強く屈曲するもの（15）がある。16は内面に「×」のヘラ記号がある。18、19はつまみ内に糸切り痕が残る。19の胎土は砂粒が多く特徴的である。20はつまみ内に

第156図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（17）

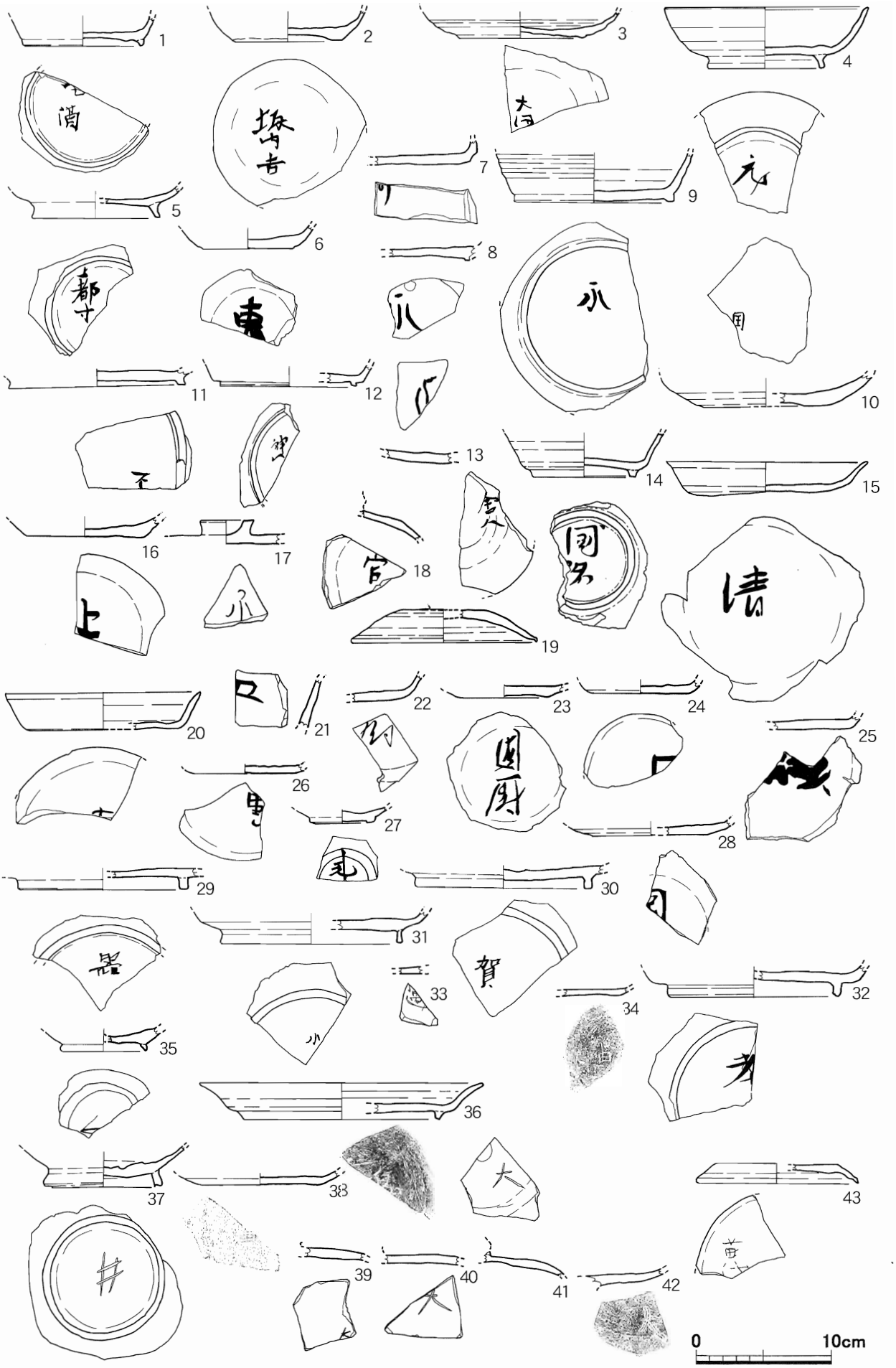


第157図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（18）

「三太」の墨書がある。「太」の４画目の点はよく分からない。内面は磨滅し墨痕も観察でき、転用硯である。21は欠損するが輪状ではないつまみをもつ。22は大型の蓋で、口縁端部が三角形状に引き出される。内面の一部が磨滅する。23は壺の蓋と考えられる。口縁端部は平坦で、つまみは欠損する。24～26、28～35は須恵器坏である。24は口縁部下に沈線がある。鉄鉢形土器の可能性もある。29は内外面に漆が付着する。高台内に静止糸切り痕が残る。30の高台は外反する。31の高台は踏ん張り、端部が肥厚する。32～34は大型で、口径が21㎝程度である。高台は低い。35の高台は底部外縁に付く。36は須恵器皿である。37、38は小型の須恵器壺である。内面や外面の



第158図　宮の後地区包含層出土遺物実測図（19）



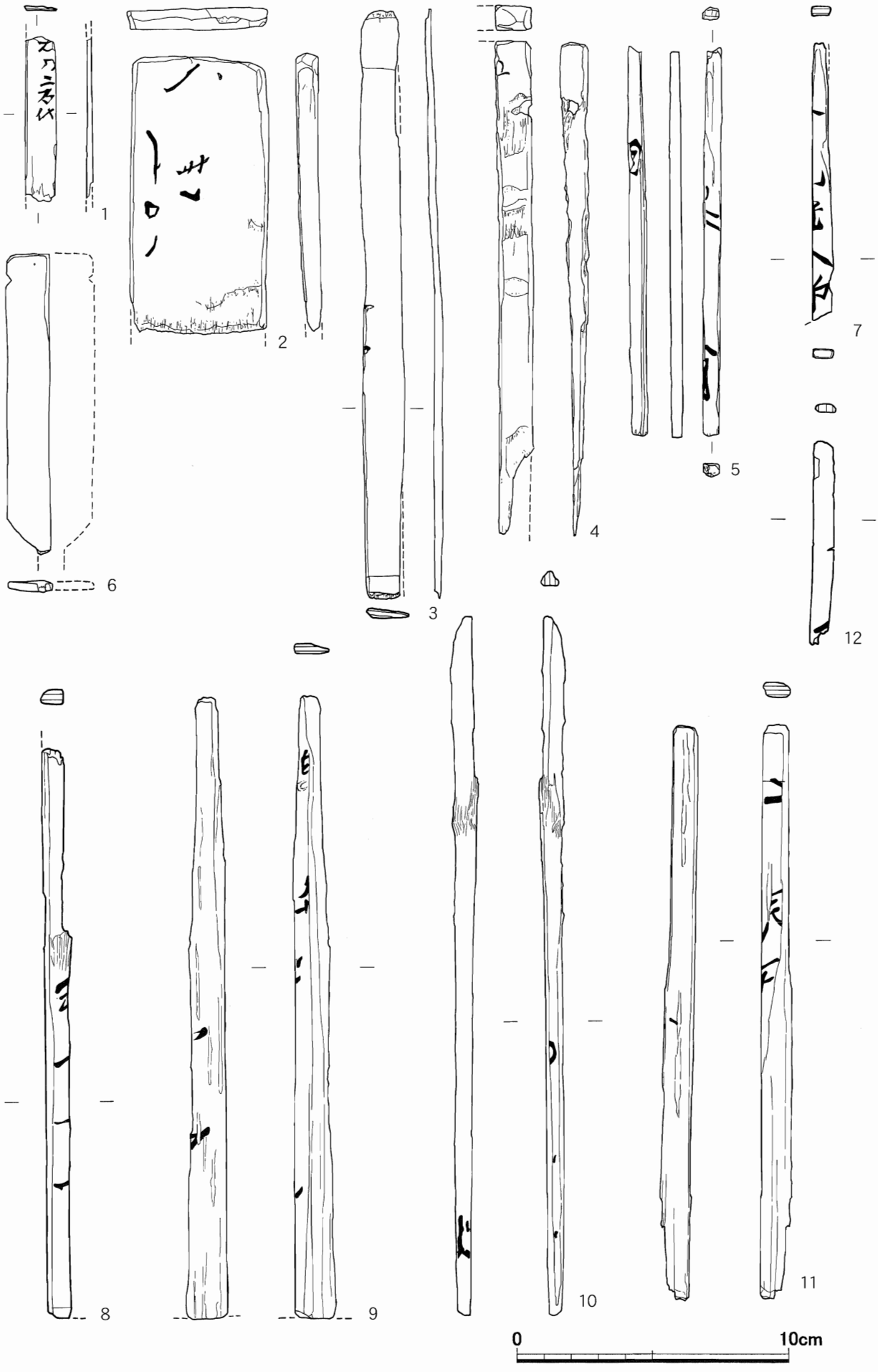
第159図　宮の後地区出土墨書・刻書土器実測図

一部、断面に漆が付着する。38は底部に「＝」のヘラ記号がある。117－1は須恵器甑で、内面や外面の一部、断面に漆が付着する。２、３は須恵器長頸壺である。２は頸部に１条の沈線がある。３の体部は丸みのある屈曲をもち、下半は外面が平行タタキ後ヘラケズリ調整で、内面は同心円の当て具痕が残る。高台はタタキ後、高台を接合する場所に沈線を１～２条施し、接合している。４は古墳時代の須恵器器台である。５は須恵器甕で、丸底で、内面はヘラケズリ後ナデ調整である。焼成は軟質で、外面には煤が付着する。６、７は須恵器鉢である。７は把手で、外面下方に方形の刺突文が２個ある。８～11は須恵器甕である。８は外面に別個体の甕片が釉着している。置台が接合している可能性がある。９は口縁部に１条の沈線が施される。体部外面には細かいカキ目が残る。11は口縁部が短く、端部が平坦である。外面に４条のヘラ状工具による縦線が施され、１条の沈線文で一部消える。

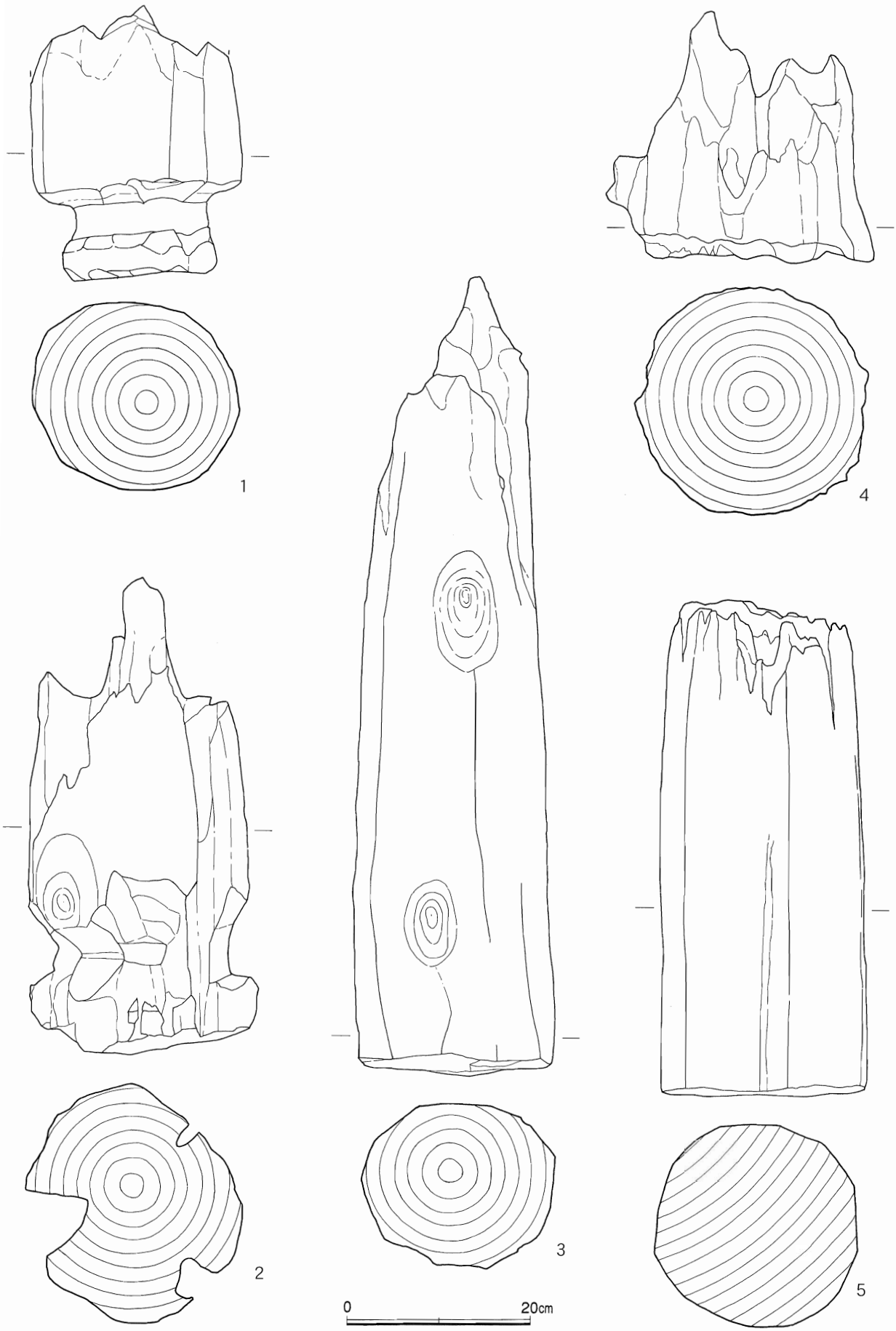
116－27は土師器坏である。117－12は土師器蓋で、つまみは剥離する。13～21、23は土師器坏である。13は須恵器坏の器形に類似し、口縁部下にくぼみがある。14は底部糸切り痕が残る。15は底部ヘラケズリ後ナデ調整と考えられる。16、17は内面に放射状暗文を施す。16は外面の口縁部下がくぼみ、丁寧に横方向のミガキがある。18は底部糸切り痕が残る。底部と体部の境界は明瞭である。19は内面に放射状暗文がある。口縁部は外反し、中央に稜がある。23は内面に放射状暗文とラセン状暗文がある。底部外面は手持ちヘラケズリで、他は丁寧なミガキ調整である。赤彩はなく、胎土が淡赤褐色を呈する。14～22は赤色顔料を塗布する。22、24～27は土師器皿である。24は口縁端部を内外面に肥厚させる。内面には放射状暗文やラセン状暗文があり、外面は丁寧なミガキ調整である。底部外面のケズリは４方向から「□」の字状に施す。25は風化が著しいが、口縁端部が内面に肥厚する。胎土が赤褐色である。26、27は高台をもち、赤色顔料が塗布される。26は底部がヘラケズリ調整である。27の内面にはラセン状暗文が二段に施される。28、29は土師器高坏と考えられる。28は脚部と考えられ、焼成は硬質で、表面は橙色を呈する。29は赤色顔料が塗布される。脚部は多角形を呈し、脚内部には坏部との接合のための指頭圧痕が残る。30、31は土師器甕で、外面に煤が付着する。31は外反する口縁部に下膨れする体部が続き、底部は平底である。

118－１～17は２砂と考えられる遺物である。１～３は須恵器蓋である。４～６は須恵器坏である。４は底部静止糸切りで、体部と底部の境は丸みをもつ。５は丸みをもつ体部で、口縁部には油煙が付着する。６は口径が大きく、底部ヘラ切り後ナデ消す。７は須恵器甕である。８は須恵器横瓶で、外面には焼台が付着する。９～12は須恵器壺である。９は大きめで、直径の狭い高台がつく。内面には墨痕が残る。10、11には内面を中心に断面にも漆が付着する。10の口縁端部は外反する。11は体部の屈曲が緩く、底部はヘラケズリ調整である。12は平底で、底部は丁寧なナデ調整である。外面は光沢をもち、滑らかである。13は平瓦で、平行タタキがナデ消されている。器面は粗く、薄く須恵質であり、「泥条盤築」か。14～17は土師器甕である。口縁部が丸みをもちながら外反するもの（14、15）と直線的に外反するものがある（16、17）。16は丸底で、体部中央に最大径をもつ。

118－18～119－24は層位が明確でないものである。「玉石溝」の注記は日誌のよると１砂上面のバラス層を指していると考えられる。18～22は須恵器蓋である。18は壺の蓋と考えられ、単純な口縁部をもつ。20は宝珠つまみをもち、内面に墨痕が残る。23～28は須恵器坏である。25は器



第160図　宮の後地区出土木簡実測図



第161図　出雲国府跡出土柱根実測図

高が低く、口縁部内面に平坦面をもつ。27、28は高台をもち、深めの坏である。27は高くしっかりした高台をもつ。118－29～119－１は須恵器皿である。29は浅く、外側に開く。30は丸みをもちながら立ち上がる。高台の有無は別として、117－22の土師器皿と類似する。119－１の高台は低く、底部中央が床に接する。２～４は小型の須恵器皿、いわゆる灯明皿型土器である（林2000）。２の器壁は薄く、大きく外反する。３、４は大小の違いはあるが、底部から上方に立ち上がり口縁部が外反する。５～８は須恵器高坏で、５～７は方形の透かしをもつ。脚部端部が単純なもの（５）と端部がわずかに下垂するもの（６）がある。８は坏部で、口径は大きい。９は須恵器鉢で、鉄鉢を模倣してしている可能性がある。口縁部は内傾し、底部はヘラケズリである。10～14は須恵器壺である。10は頸部に２条の沈線文を施し、口縁端部は外反し平坦面をもつ。11の頸部は直線的に立ち上がり、口縁部が少し外反する。12の高台は平坦面をもち、高い。14の内面は丁寧にナデ調整され、坏の可能性も残る。15、16は須恵器鉢の可能性があり、短い口縁部が屈曲し、体部と区分されている。15の外面は平行タタキが残り、口縁部はナデ消されている。16は内外面とも回転ナデが施されている。17は大型の須恵器甕である

119－18～24は土師器である。18はミニチュア土器で、表面に鉄分が多く付着する。19、20は坏で、赤色顔料が塗布される。21～24は甕で、体部が下膨れするもの（21）やハの字状に広がるもの（22）がある。

119－25は木製鋤である。中央に方形の孔が２箇所ある。その上には方形のくぼみがある。柄にはくぼみがある。遺物の所在不明。山本清氏資料に図面があり、概報に掲載されている（松江市1971）。26は木簡で、「大原評　□磯部　安□×」と読める。１号木簡である。（平石1995）。27、28は木製品である。27は長方形で、中央に方形の孔あるいはくぼみがある。27は釘状を呈し、断面は方形である。27、28は遺物が所在不明で、詳細は分からない。図面は山本清氏資料から採用したが、同一個体の可能性もある。

136－29～33は「BP40南北溝」と注記されたもので、SD004の可能性がある。29、30は須恵器坏である。30の高台は断面三角形状である。31、32は須恵器皿である。33は須恵器壺で、内面、断面及び外面の一部にも漆が付着する。漆は剥離が著しい。

SD008（第96図、第135図12～15）　BA39付近で検出した南北溝である。SD004と平行し、距離は17mである。断面U字形を呈し、幅1.0m、深さ0.13mを測る。

遺物は須恵器、土師器、製塩土器等が出土しており、「BA39　SD008」と注記されたものである。135－12は須恵器蓋で、輪状つまみをもつ。内面は磨滅し、転用硯とし使用されたと考えられる。13は須恵器坏で、高台は底部外縁に寄る。14は土師器皿で、内湾しながら立ち上がり、全面赤彩を施す。15は製塩土器で、軟質な焼成である。

SD045（第95図、第136図2～９）　Ｂ区中央を東西に走る南大溝である。西側はSD004に接続し、東側は掘方が不明瞭になるが調査区外へ続いている。SD010との関係は不明である。SD045から南側のトレンチ内は、遺構密度が低い。幅1.8m、深さ0.2mを測り、断面U字形である。

遺物は須恵器、土師器、漆付着土器、鉄滓、羽口、水晶等多くの遺物が出土しており、「BL26東西溝」、「BL27東西溝」、「BL28東西溝」、「BM28黒色落ち込み」と注記されたものである。136－２、３は須恵器坏である。３は大型の坏で、低い高台が付く。４、５は須恵器鉢で、４の口縁部は受け部をもつ。胎土や焼成が特徴的である。５は低い高台をもち、三方向に円形の透かしがある。

6は双耳をもつ鉢と考えられ、耳部は面取され、丁寧な造りである。円形の穴がある。7は須恵器壺で、高台内には円形の刻印とノ状のヘラ記号がある。8は甕あるいは鉢の可能性がある。9は移動式竈の口縁部と考えられる。

136－23～28は、SD045よりやや北側のグリッドであるが対応する溝はなく、SD045の可能性がある、「BM26東西溝」、「BM27東西溝」、「BM28東西溝」、「BN27東西溝」と注記された遺物である。23は須恵器蓋と考えられるが坏の可能性も残る。24は須恵器蓋で、口縁部内面には沈線状のくぼみがある。25、26は須恵器坏で、25は外面に墨痕があるが、判読できない。27は須恵器皿である。28は土師器坏で、混入品か。ハの字状に口縁部が開く。

SD112（第96図）　BA32で検出した南北溝である。SD113の北側に位置し、SD113、114と一連の溝の可能性がある。幅0.8m、深さ0.1mを測り、断面U字形である。

SD113（第96図、第137図20、21）　BT32付近で検出した南北溝である。SD112の南側に位置し、SD112、114と一連の溝の可能性がある。幅0.7m、深さ0.1mを測り、断面U字形である。

遺物は「BT32溝」と注記されたものである。137－20は土師器坏である。21は中国製青白磁碗である。内面にはヘラによる模様が施される。

SD114（第96図）　BS32付近で検出した南北溝である。SD113の南側に位置し、SD112、113と一連の溝の可能性がある。SD114の南端は調査区外へ続くが、隣接する南側トレンチでは検出されていない。幅0.8m、深さ0.1mを測り、断面コ字形である。

SD115（第94図、第138図1～28）　BO38付近で検出した南北溝である。SD004の東側に位置する。南側は調査区外へ続くが、北側は先細りし、現状では北側へは続かない。幅0.6～0.9m、深さ0.1mを測り、断面U字形である。不整形で、窪地の可能性もある。

遺物は「BO38南北溝」と注記されたものをあてた。138－1～3は須恵器蓋である。3は器壁が薄く、内面に墨痕があり転用硯である。4～8は須恵器坏で、口縁端部が外反するものや内湾するものがある。8は口縁部外面に1条の沈線がある。底部は回転糸切りであるが、丸みをもち、金属器写しの可能性がある。9～11は須恵器坏で、高台をもつ。12は須恵器皿と考えられ、大型である。1、2は口径から皿の蓋の可能性がある。13～15は須恵器高坏である。13は坏部内面に「門」の墨書がある。墨書の後に別の文字が重なっているが判読できない。14は線状の透かしが一段二方向にある。15は脚部で、透かしの一部が残る。16～19は須恵器壺である。17は扁平で、平瓶に近い器形である。18は小型の短頸壺で、器壁が薄い。19は直線的に体部が開く。外面に指頭圧痕が残る。20は須恵器硯で、三脚で支える。脚部の大きさは不揃いで、内面は磨滅している。21は須恵器鉢で、口縁端部が屈曲する。22は土師器坏で、全面赤色顔料が塗布される。底部外面は手持ちヘラケズリである。底部内面にはラセン状の暗文が施される。23は須恵器鉢で把手が付く。把手には方形の刺突がある。24は須恵器甕である。25は土製支脚で、底部は大きくくぼむ。26、27は須恵器鉢である。26は把手が付き、内外面回転ナデ調整である。27は外面が格子目タタキであるが、内面のタタキは回転ナデで消されている。28は土師器甕である。

SD116（第97図、第137図1～19）　BN28付近で検出した東西溝である。周辺は遺構密度が高く、SB022と重複関係がある。西側は調査区外へ続くが、隣接する西側トレンチでは検出されていない。SD116東端は、遺構図では北側に屈曲しているようにも見える。幅2.0m、深さ0.6mを測り、断面U字形である。床面は平坦ではなく、凸凹がある。

遺物は「BN28東西溝」、「BN27東西溝」と注記されたものである。137－１は須恵器蓋で、口縁端部に沈線状のくぼみがある。高坏の坏部の可能性もある。２～５は須恵器坏で、２は底部外面に「中」の墨書がある。３～５は高台をもつ。３の高台は底部外縁に付き、体部は直線的に伸びる。４の外面下半から高台内にかけて油煙が付く。５は皿に近い器形で、口縁端部が外反する。６は須恵器甕で、内外面や断面に墨痕がある。転用硯か。７～18は土師器坏で、18は高い高台が付く。７～16は形態が類似し、口縁部はハの字状に開く。17は底部端部に粘土を貼り付けわずかに高台状にしている。19は土師器甕の小片である。外面には煤が付着する。

SE100（第97図、第112図33～41）　BM30付近で検出した井戸跡である。掘方の平面形は円形で、直径3.2m、深さ0.6mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は「BM30穴黒色」、「BN30大ピット黒色土」、「BN30井戸北内」と注記されたものである。須恵器（坏、甕）、土師器（古代末の坏、甕）がある。112－33～35は土師器坏で、33の底部は板状工具によるナデ調整である。35は口縁部を強くナデ、底部は指頭圧痕が残る。厚さも均質で、搬入品の可能性がある。36、37は柱状高台をもつ。38は土師器甕である。口縁部内面に薄く煤が付着する。39は須恵器坏で、高台をもつ。40は須恵器壺で、体部下半に把手が付く。41は紡績具の糸巻きと考えられる。現物は所在不明であるが、山本清氏資料に実測図があり、掲載した。通常の糸巻きより大きく、長さ35㎝を測る。

SE101（第97図、第112図25～31）　BO27付近で検出した井戸跡で、大部分が調査区外へ続く。掘方の平面形は円形に近く、直径2.0m以上、深さ1.0mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は「BO27井戸埋土」と注記されたものをあてた。112－25、26は土師器皿で、口縁端部は薄くなりわずかに外反する。27は柱状高台をもつ。28は瓦器椀である。口縁部外面は横方向のナデ調整で、体部下半は指頭圧痕が残る。口縁部内面は横方向の粗いミガキ調整で、底部は粗いミガキが施される。29は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類で、底部は厚い。30、31は須恵器甕あるいは壺で、外面は格子タタキである。内面はナデ調整と板状工具によるナデ調整がある。

SE102（第97図、第112図11～18）　BM27付近で検出した井戸跡である。掘方の平面形は円形で、直径1.3m、深さ0.75mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は「BM27井戸埋土」と注記されたものである。112－11は土師器坏である。12は高台をもつ皿である。13～15は柱状高台付皿で、15の坏部の器高は低い。底部側面が面をもつもの（13、14）ともたないもの（15）がある。16、17は土師器皿である。18は筋砥石で、１面のみ使用し、４条の筋が残る。石の表面は風化している。

SE103（第94図、第112図２、４、７）　BN33で検出した井戸跡である。掘方の平面形は方形で、一辺1.0m、深さ0.55mを測る。

遺物は「BN33穴（井戸？）」「BN33井戸」と注記されたものである。２は土師器坏で、底部と体部の境には段がある。４、７は高台をもつ坏あるいは皿である。

SE105（第94図、第112図１、３、５、６、８～10）　BN32付近で検出した井戸跡である。掘方の平面形は円形で、直径1.25m、深さ0.4mを測る。水溜等の遺構は確認されなかった。

遺物は「BN32井戸内」、「BN32バラス下井戸？」と注記されたものである。112－１は土師器坏で、底部と体部の境には段がある。３、５、６は高台をもつ坏あるいは皿である。３の胎土は砂

粒を多く含み、粗雑である。８は柱状高台をもつ。９は土師器皿で、外面はロクロ目が強く残る。10は須恵器鉢で、把手をもつ。

SK100（第94図、第114図31、32）　BR32付近で検出した土坑である。平面形は円形で、直径1.1m、深さ0.45mを測る。

遺物は「BR32黒色土大ピット」、「BR32黒色大穴中」と注記されたものである。114－31は東濃灰釉陶器碗である。「BO36」、「BO37」、「DA47」から出土した破片と接合した。底部内面や高台内は無釉である。虎渓山段階である。32は中国製白磁皿Ⅶ－2b類である。化粧土をもち、内面には櫛刀で蕉葉文を施す。底部は高台状にわずかに削り出す。高台内に墨痕があるが、判読できない。

SK103（第96図）　BB32付近で確認した土坑である。隅丸方形を呈し、一辺0.6m、深さ0.1mを測る。

SK114（第114図29）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BO26黒色土坑」と注記されたものをあてた。114－29は土師器坏で、内湾する体部である。

SK115（第114図30）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BP32大穴黒色土」と注記されたものをあてた。114－30は土師器皿で、底部は回転糸切りである。体部の器壁は薄い。

SK119（第94図、第114図13～21）　BP37付近で検出した土坑である。不整形で、北側は調査区外へ続く。東西3.0m、南北は現状で2.3m、深さ0.12mを測る。

遺物は「BP37穴（黒色土）」と注記されたものである。114－13～15は土師器である。13は底部糸切り後、高台を貼り付ける。14の坏は底部糸切りである。15は器壁が厚く、重い。内外面は強いロクロ目が残り、底部は静止糸切りである。16は製塩土器で、口縁部が外反する。外面には指頭圧痕が良く残る。17は緑釉陶器香炉である。脚端部は下垂し、丸みをもつ。脚部には雫形の穴があり、復元で四方向に開く。脚と体部の接合付近に沈線が施される。器表には全面、薄く緑釉が残る。18は中国製白磁碗Ⅳ類である。内面には段がある。19～21は青銅製佩用金具である。幅2.6～6.0㎜の板状の銅板を楕円状に曲げ、一箇所で接合している。19、20は単脚足金具で、吊手孔はややずれるがほぼ真上にある。吊手孔が別造りかは不明。年代は７世紀初頭以降である（新納1987）。

SK120（第96図、第114図26）　BB30付近で検出した土坑である。東側は調査区外へ続き、南側と北側は直線的である。南北2.4m、東西は現状で1.7m、深さ0.3mを測る。

遺物は「BB30土坑」と注記されたものである。114－26は土師器坏である。

SK122（第114図33）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BN31土坑内」と注記されたものをあてた。114－33は端部を縦方向に調整剥離し形を整え、丸みを持たせている。黒色と灰色の縞模様を呈する頁岩である。同様の石材は156－23や第27表17、19がある。156－23は長辺と短辺に溝切りを行い、直線的な面を求めて加工している。第27表19は370ｇを測り、加工はなく、原石あるいは石核の可能性がある。玉を生産する石材ではなく、古代の石製品たとえば石帯の可能性が考えられる。

SX107（第115図30）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BB32黒色土（溝）」と注記されたものである。115－30は土師器坏で、ハの字状に広がる高台をもつ。

Ｐ100（第94図）　BN38で検出された柱穴で、平面形は方形である。遺物は「BN38ピット」と

注記されたものと考えられる。

P106（第114図22～24）　遺構の場所や形態は不明であるが、遺物がまとまって出土している。遺物は「BN31柱穴」と注記されたものをあてた。114－22、23は土師器甕で外反する口縁部をもつ。23の外面は粗いハケ目調整である。口縁端部は丸みをもつ。24は須恵器甕で、外面はハケ目状タタキである。

P107（第114図25）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BL26灰色ピット」と注記されたものをあてた。114－25は須恵器高坏である。方形透かしが二方向に施される。SD045付近である。

P108（第114図28）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は、「BM32PIT　黒色土中」と注記されたものをあてた。114－28は高台をもつ土師器皿である。柱状高台状を呈するが、高台内はくぼみ、足高高台との中間的な形状をする。

P117（第114図34）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「BN32バラス下ピット」と注記されたものをあてた。114－34は、ハート形の窓を持つ板と円形の穴が開く紐を接合して製作されている。板の中央には直径3.0㎜の別造りの鋲が残る。鋲頭は方形である。板の裏面及び紐の側面のくぼんだ所には黒色物が付着している。

（5）D区の調査

調査区の西端に位置する。北調査区と南調査区がある。南調査区は1968年度に畦畔に沿って調査され、溝跡（SD001）、井戸跡（SE001）、柵列跡（SA101、102）が検出された。北調査区は1970年にSD005の範囲を確認するために設定され、古墳時代の竪穴建物跡（SB023）、溝跡（SD105）、井戸跡（SE009）が確認された。

古墳時代の遺構・遺物

古墳時代の遺構としては竪穴建物跡（SB023）と溝跡（SD001）がある。

SB023（第106図、第110図10～20）　DI41付近で検出した。SE009やSD105で一部切られている。現状で、2.9m×3.0m、深さ0.2mの方形を呈する。竪穴建物跡に伴うかは不明であるが、床面からは10個の柱穴が検出された。

110－10～13は土師器甕である。単純口縁で、口縁部は外反する。14は古代の土師器甕と考えられる。15～18は土師器高坏である。15の口縁端部は外反する。16～18は脚部である。19、20は土師器坏である。

SD001（第109図）　DC46付近で検出した。溝跡の主軸はN－4°－Eになる。幅1.1～1.7m、深さ0.19mを測り、断面コ字形である。B区まで続く。

古代の遺構・遺物

SA101（第109図）　DB45付近で復元した2間の柵列跡あるいは掘立柱建物跡である。P2の平面形は不整形である。掘立柱建物跡であれば西側に柱穴がなく、東側に復元される。しかし、B区との境の畦にトレンチを入れるが柱穴は確認されず、柵列の可能性が高い。

SA102（第109図）　DS45付近で復元した2間の柵列跡あるいは掘立柱建物跡である。SA101と

柱穴列並ぶが、SA101Ｐ３とSA102Ｐ１の距離は1.8mと他の柱穴間の距離より狭く、別の遺構と考えた。掘立柱建物跡であれば西側に柱穴がなく、東側に復元される。

SD105（第106図、第137図25）　DJ42付近で検出した溝跡である。溝はほぼ東西に主軸をとる。Ｃ区で検出されたSD005との接点は未調査であるが、連続する溝の可能性がある。幅はかなり狭く、幅0.53～0.66m、深さ0.2mを測り、断面コ字形である。

遺物は「DJ41東西溝」と注記されたものである。137－25は須恵器皿である。

SD122（第101図、第137図26）　Ｄ区西端に位置する溝跡で、西側の掘方は調査区外である。調査区西側は旧河道により削られ、一段低くなっていることから、SD122は溝ではない可能性もある。

遺物は「DA51溝中」と注記されたものである。137－26は鉄製鍬先である。先端は鋭角で、周囲には袋部がある。裏面中央部には縦に突起をもつ。

SE001（第108図、第111図１～15）　DE45付近から検出した井戸跡である。掘方の平面形は円形で、直径は1.7～1.8m、深さ0.9～1.2mを測る。井戸の平面形は方形で、一辺0.9mを測る。側面は３枚程度の縦板を組み横桟止めされる。隅の状況は不明であるが、側面図にほぞ孔のある柱があることから隅柱があったと考えられる。内部から石が検出された。

遺物は「DE45井戸」、「DE45井戸黒色」、「DE45井戸埋土」と注記されたものをあてた。111－１～４は土師器坏で、４は高台をもつ。５～８は皿で、５、６は高台をもつ。６は焼成が良く、硬質である。７は底部と体部の境には段がある。９、10は須恵器坏で、10は軟質で丸みを持つ体部である。11は黒色土器碗で、内面は黒色である。12は製塩土器で、口縁端部は平坦である。13は平瓦で、布目とタタキが残る。14はミニチュア土器である。底部はケズリ調整で、口縁部は丁寧なミガキ調整である。15は水晶製平玉で、側面は面取されている。

SE009（第108図、第111図52～55）　DI42付近から検出した井戸跡である。掘方の平面形は円形で、直径1.6mを測る。井戸の平面形は方形で、一辺1.15m、深さ0.95mを測る。側面は５～９枚程度の縦板を組み横桟止めされる。南東側は縦板を一部重ねるように組まれている。横桟は隅柱と組まれていると考えられる。

遺物は「DI42井戸埋土」と注記されているものをあてる。111－52～54は土師器坏である。52の口縁部には油煙が残る。53の底部はナデ調整である。55は皿で、底部から体部にかけてなだらかに移行する。

Ｐ113（第115図14）　遺構の場所や形態は不明である。遺物は「DF46北西隅PIT」と注記されたものをあてた。115－14は土師器坏で、口縁部にはミガキが施される。底部は外面が手持ちヘラケズリ、内面が指頭圧痕が残る。

（６）出土遺物

宮の後地区からは須恵器、土師器、製塩土器、金属関連遺物、土製品、陶磁器、金属製品、木製品、瓦、石製品、玉作関係遺物、墨書土器、木簡、柱根、石塔が出土した。詳細は観察表に譲る。

須恵器（第140図～第148図11、第154図19、20）　古墳時代後期から平安時代の須恵器がある。特徴的なものとして140－49～53は口縁部が受け口状を呈する。坏では口縁部に油煙が付くもの、

漆が付着するもの、墨痕が残るものもある。143－18は器高が高く、深みのある坏である。壺には漆が付着するものがある。146－６は壺Ｇの可能性がある。獣足（146－18、19）は『出雲国府跡４』の第116図と同じ遺物である。硯には円面硯（147－22等）、風字硯（147－32等）、転用硯（148－３等）がある。154－19は小型蓋である。

土師器（第148図12～第150図２、第151図37、38）　古墳時代初頭～鎌倉時代を中心とした土師器である。坏、皿などの供膳具の他に甕、鍋といった煮沸具がある。畿内産土師器の他に赤色顔料が塗布された在地産の坏、皿がある。

製塩土器（第151図22～30）　少量ではあるが各地点から出土している。

金属器生産関係遺物（第151図31～36）　羽口、取瓶、坩堝がある。今回の資料は科学分析は行っていないが、鉄だけでなく銅製品の加工を行っていると考えられる。

土製品（第151図39～53、第154図21）　甑、土錘の他に土製支脚、移動式竈が出土している。

ガラス製品（第151図54）　151－54はガラス小玉である。淡水色を呈する。

陶磁器（第152図～第154図18）[5]　152－１～２は黒色土器、３～21は緑釉陶器、22～26は灰釉陶器である。152－27～154－10は貿易陶磁である。154－11～18は瓷器系陶器や備前焼である。

金属製品（第155図1～21）　155－１の分銅は『出雲国府跡１』の分析資料Ｂである。２の和銅開珎はSD005とSD034の間、SA013の西側、明確にはできないがCK15付近で出土している[6]。６は鏡片である。21は大型の鉄素材と考えられる。表面は劣化している。

木製品（第155図22～29）　155－22の漆器碗は表面に黒漆が塗布される。25は所在不明で、概報（松江市1971）の再トレースである。

瓦（第156図1～16）　平瓦が多く、丸瓦が少ない。軒瓦は極端に少なく、現時点で軒平瓦１点、軒丸瓦16点が確認されている。軒丸瓦では国分寺分類（前島1975）の２類と３類がある。

石製品（第156図17～27）　第27表による。打製石斧、石包丁、石錘等古代以外の遺物もある。156－23は２方向に溝を施し分割している。黒曜石は第28表のとおりである。

玉作関係遺物（第156図28、第157図、第158図）　集計表は第24～26表のとおりである。石材別では水晶を中心に、碧玉、瑪瑙、カド石、頁岩・滑石がある。また、筋砥石も第26表のとおりである。碧玉では、原石は円礫と角礫がある。石核、調整片、素材片では角張ったものと扁平なものがある。瑪瑙の原石では円礫と角礫がある。その他は剥片・チップのみで、明確な製作段階の遺物がなく、生産する器種は不明である。原石についても素材としては不的確なものが多い。カド石は大舎原地区で丸玉を製作していることが分かる破片が出土している（島根県2003）。今回の集計では剥片・チップのみである。頁岩・滑石では臼玉及び丸玉が造られている。厚さ約0.8cmの板状の素材に施溝している段階のもの、穿孔段階のものがある。頁岩・滑石の生産年代については、出雲国府跡では古墳時代の遺構が存在すること、この種の石材の生産が古代で類例がないことから、断定できない。

水晶・石英では、原石・石核では結晶体（水晶）と礫状（石英か）がある。結晶体の荒割は原石・石核の下端部を割る段階である。結晶体の形割は、上端部も割り、両端を欠き、周囲には自然面を残すものである。その後、縦方向に分割して分割片ができる。分割片を調整剥離し、調整片ができ、敲打して形を整える。製品として、平玉と丸玉が考えられる。分類として、原石・石核、荒割、形割、分割片、調整片、敲打片、剥片・チップに分けられる。白色・透明の石材とやや暗い黒水晶が

ある。

墨書・刻書土器（第159図）　第20表のとおりで、詳細は『山陰古代文字資料集成』（島根県2003）を参照。

木簡（第160図）　木簡は11点あり、既に詳細に検討されている。（平石1995、島根県2003）。

柱根（第161図）　現在、５本確認され、すべて自然乾燥している。表面が剥離するが、保存状況は比較的良好である。1、２は下端に抉りがある。３、５は面取りされ、底面に平刃の工具痕が残る。

石塔（写真図版106）　五輪塔がある。第17表のごとく空風輪６基、火輪１基である。２は地元で「白粉石」と言われる白色の石英安山岩質凝灰岩である。他は凝灰岩で、５㎜程度の粒子を多く含み、表面はざらざらした感じである。空風輪については、２は幅広で、丸みをもつ。他は縦長で、空輪と風輪の刳り込みが深い。７の軒下辺は直線的で、わずかに反る。石塔は表土出土や表採のため明確な時期は不明であるが、周辺の様相から15世紀を中心とした時期と考えられる。

獣骨　AS21～25、A021～15からウマ（成獣）の左臼歯、AS20からシカの左上腕骨遠位端、出土地不明であるがイノシシ（成獣）の右下顎犬歯が出土している。イノシシの犬歯は抜き取られた状態である（松井章氏の御教示）。

（７）小結

検出された遺構は古墳時代中期から平安時代後期のものと考えられる。遺物は弥生時代末から16世紀まで確認されている。表土からは17世紀の肥前系陶磁器も出土している。遺構変遷は後述したい。

注

（１）３mグリッドの基点は確認できなかった。調査日誌から1968年に設定された南北トレンチ東壁を32ライン、東西トレンチ南壁をＡラインとしたと推測される。

（２）SB017とSB025との記述は概報や町田報告において、本文記述や概報図10・13と遺構実測図（概報PLAN2、町田報告第３図）で遺構番号が振られた遺構とでは逆転している。今回、遺構図を作成する必要があったため、遺構実測図を優先し遺構番号を付けた。

（３）町田報告Ｅ期の記述に「SB25にはSA25・06・29の柵が取り付いている。」とあるが、第３図遺構図のSA029とは対応しない。SA025に取り付く柵をSA100とした（概報町田本による）。

（４）「搬入品」とは出雲国府跡からの出土量が稀で、今後、詳細に検討する必要があることから注意喚起するために使用した。出雲地域以外の産地という意味ではない。以下、同じ。

（５）陶磁器の一部は西尾・守岡（1996、1997）から転載した。

（６）和同開珎の拓本は『八雲立つ風土記の丘№96』から転載した。

第17表　石塔一覧表

	出土地点	日付	部位	写真	高さ(cm)	巾(cm)	重量(kg)
1	6 XIMBB45表土	681204	空風輪		28	17.4	5.14
2	6 XIM表採	730416	空風輪	106	29	19.5	7.4
3	6 XIM表採	730416	空風輪		23.6	14	4.5
4	6 XIMBB45表土	681204	空風輪	106	28.5	14.7	6.08
5	出雲国府跡	68～70	空風輪		28.7	17	8.24
6	出雲国府跡	68～70	空風輪		21.8	18	7.12
7	出雲国府跡	68～70	火輪	106	16	27	13.26

第６節　出雲国府跡から出土した遺物に付着した顔料

出雲国府跡から出土した須恵器１点と土師器３点に赤色顔料が付着していた。また、2003年に発行された報告書『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14　史跡出雲国府跡－１－』に掲載されている土師器の坏には緑色顔料が付着していることが確認された。土器をはじめとする遺物に付着している赤色顔料の種類として水銀朱（硫化水銀；HgS）とベンガラ（酸化鉄；Fe_2O_3）、鉛丹（Pb_3O_4）が想定される[1]。また緑色顔料に関しては、銅を主成分とする岩緑青（塩基性炭酸銅；$CuCO_3 \cdot Cu(OH)_2$あるいは塩基性硫酸銅；$CuSO_4 \cdot 3Cu(OH)_2$）や海緑石またはセラドナイト（雲母粘土鉱物）を主成分とした緑土（$K(Mg,Fe,Al)_2(Si,Al)_4O_{10}(OH)$）が考えられる[2]。これらの遺物に付着した顔料の主成分の同定を行なった。

１．試料

出雲国府跡から出土した須恵器１点と土師器４点を分析した。詳細は以下のとおりである。

挿図番号	種　別	器　種	付着している顔料	文　献
146図30	須恵器	鉢	赤色顔料	本報告書
148図20	土師器	鉢		
148図21				
124図５				
90図11	土師器	坏	緑色顔料	（註１）

２．分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析（XRF）による定性分析を行なった。

使用機器は奈良大学保存科学研究室が所有・管理しているEDAX社製エネルギー分散型微小部蛍光Ｘ線分析装置EAGLEⅡXXLである。分析条件は以下のとおりである。

Ｘ線管球　Cr（クロム）　　走査範囲（2θ）＝65°
測定雰囲気　真空　　測定時間　100秒
管電圧　20ｋＶ　　管電流　800　μＡ

３．結果

分析結果を以下に示す。

挿図番号	検出元素	結　果
146図30	Fe	ベンガラ
148図20	Fe	ベンガラ

挿図番号	検出元素	結　果
48図21	Fe	ベンガラ
124図５	Fe	ベンガラ
90図11	Fe，K	緑土

蛍光Ｘ線分析の結果、全ての試料で鉄（Fe）の検出ピークが高かった。したがって鉄を主成分に含む顔料が想定される。島根県内では鉄分を多く含んだ土壌成分を赤色顔料として使用していた形跡のあるものが報告されている[3]が、この場合土壌成分の大半をしめるケイ素（Si）の検出ピークが高くなくてはならない。今回の分析ではケイ素の検出ピークは低く、鉄の検出ピークがそれを上回っていたため、この赤色物質はベンガラであると推測した。

90図11に関しては鉄とともにカリウム（K）の成分が高く検出された。仮にこの物質が岩緑青であれば、銅（Cu）が検出されなければならないが、銅の成分は全く検出されなかった。また、緑土であればその中に含まれる鉄が発色の由来となり[4]、カリウムは緑土に含まれる元素であるため、この緑色顔料は緑土であるといえる。

４．まとめ

須恵器内面に付着していたベンガラは、実体顕微鏡による観察でもかすかに残っている程度であったが、塗彩していたのではなくベンガラを顔料として貯蔵していたと考えられる。土師器にはベンガラは塗彩されたかのように残存していた。したがって何らかの意図をもって使われていたものであると考えられる。

緑色顔料である緑土については、奈良時代以前には九州の装飾壁画古墳などに多数の使用例が見られ[5]、松江市石屋古墳出土の彩色埴輪にも緑土が使われていたことが確認されている[6]。

しかし、奈良時代以降、仏教文化の普及とともに緑色顔料として緑青を多用していた[7]にも関わらず今回、緑土が確認されたことによって、緑土も普遍的に使われていたのではないかと考えられる。

謝辞　蛍光Ｘ線分析にあたり、奈良大学保存科学研究室の西山要一教授には機器の使用に際し、ご配慮いただきました。厚く御礼申し上げます。

（註１）島根県教育委員会　2003『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14　史跡出雲国府跡－１－』

1　市毛勲　1998『新版　朱の考古学』　雄山閣

2　成瀬正和　2004「正倉院宝物に用いられた無機顔料」『正倉院紀要第26号』宮内庁正倉院事務所

3　建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会　1980『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』

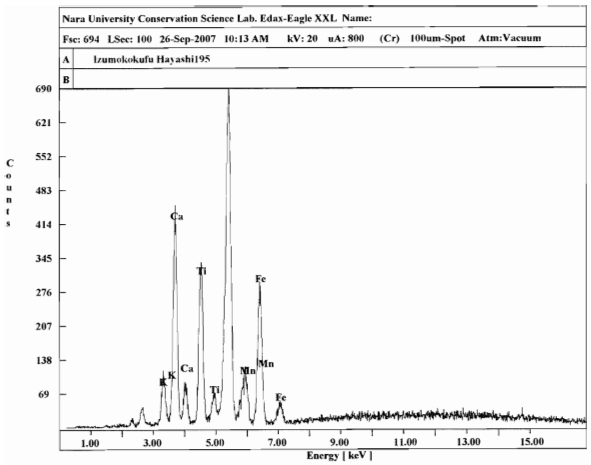
4　朽津信明・下山進・松本岩雄　2002「出雲地方中世～近世壁画の使用顔料に関する研究」『古代文化研究　第10号』島根県古代文化センター

5　朽津信明・川野邊渉　2000「九州装飾古墳の緑と「青」について」『保存科学　第39号』東京国立文化財研究所

6　三浦清・岡崎雄二郎・昌子寛光　1991「松江市石屋古墳から出土した形象埴輪の塗彩緑色顔料」『島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）第24巻－第１号』

7　朽津信明・中牟田義博・三木孝　2003「日本における緑色顔料「緑土」の使用について」『考古学と自然科学　第46号－日本文化財科学会誌』日本文化財科学会

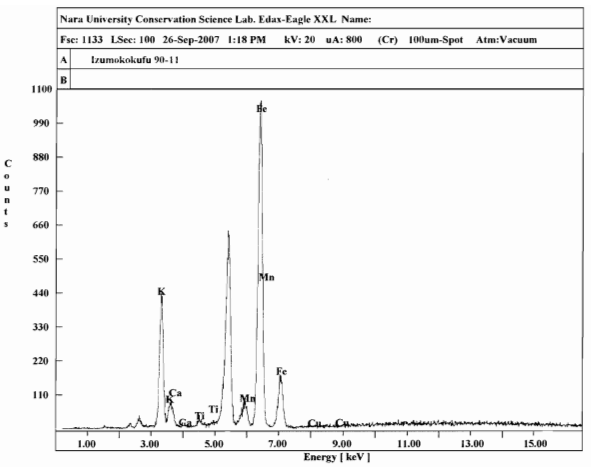
（柴崎晶子）



Izumokokufu Hayashi195		10:13 AM	26-Sep-2007		
Elem:	Net	Wt%	At%	Error%	BG	P/B
K K	10.93	4.62	6.00	3.21	0.70	15.61
CaK	47.53	15.67	19.84	1.48	0.84	56.58
TiK	39.16	9.43	9.99	1.64	1.05	37.30
MnK	14.04	20.19	18.65	2.93	1.44	9.75
FeK	35.21	50.09	45.52	1.76	1.70	20.71

C:\Edax32\Vision\VCrElem100u.NSF

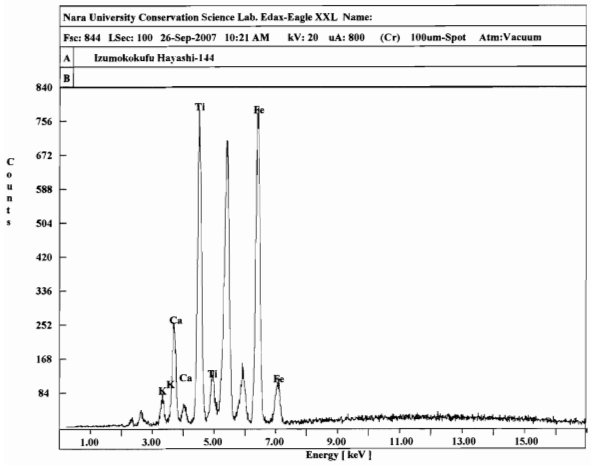
124－5



Izumokokufu 90-11		1:18 PM	26-Sep-2007		
Elem:	Net	Wt%	At%	Error%	BG	P/B
K K	48.98	10.05	13.73	1.45	0.56	87.46
CaK	4.38	0.71	0.95	5.49	0.70	6.26
TiK	2.64	0.22	0.24	8.72	1.33	1.98
MnK	10.10	4.96	4.82	3.48	1.12	9.02
FeK	144.15	83.28	79.61	0.84	0.93	155.00
CuK	0.66	0.78	0.65	21.21	0.65	1.02

C:\Edax32\Vision\VCrElem100u.NSF

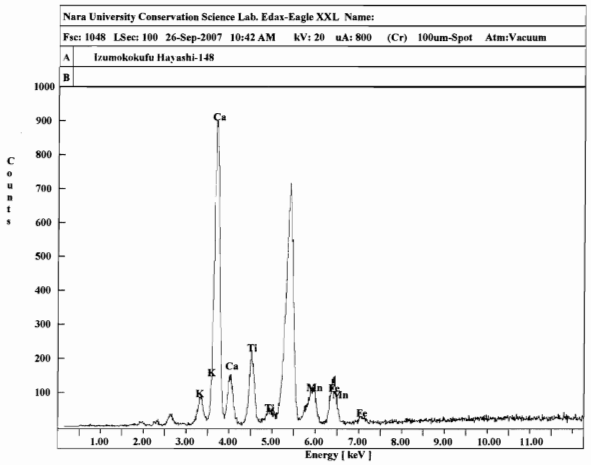
90－11



Izumokokufu Hayashi-144		10:21 AM	26-Sep-2007		
Elem:	Net	Wt%	At%	Error%	BG	P/B
K K	6.94	1.82	2.49	4.43	1.26	5.51
CaK	27.64	4.98	6.65	1.99	1.35	20.47
TiK	87.97	9.78	10.92	1.08	1.50	58.65
FeK	101.52	83.42	79.93	1.01	1.70	59.72

C:\Edax32\Vision\VCrElem100u.NSF

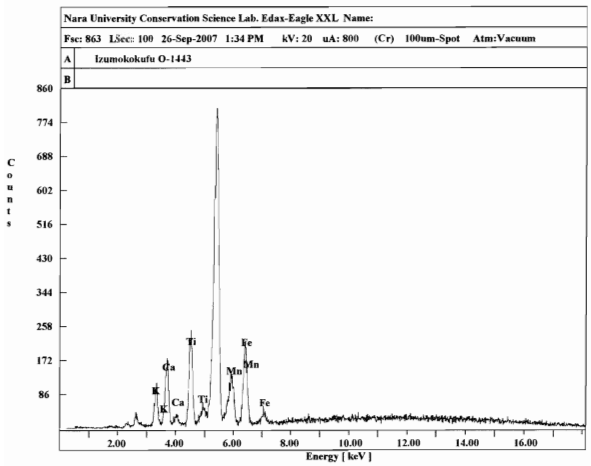
148－20



Izumokokufu Hayashi-148		10:42 AM	26-Sep-2007		
Elem:	Net	Wt%	At%	Error%	BG	P/B
K K	9.71	3.94	4.77	3.39	0.56	17.34
CaK	104.37	36.90	43.58	0.99	0.70	149.10
TiK	24.54	8.27	8.17	2.09	0.90	27.27
MnK	14.55	24.49	21.10	2.84	1.28	11.37
FeK	16.96	26.40	22.38	2.64	1.53	11.08

C:\Edax32\Vision\VCrElem100u.NSF

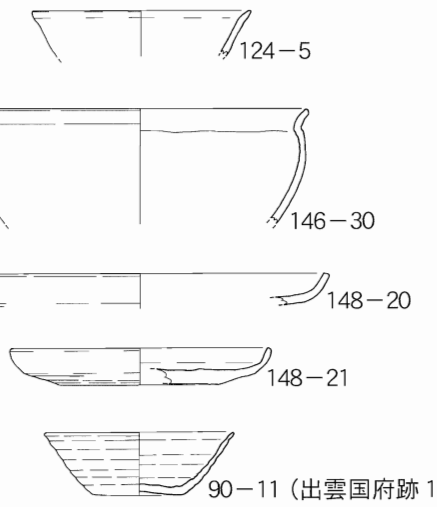
148－21



Izumokokufu O-1443		1:34 PM	26-Sep-2007		
Elem:	Net	Wt%	At%	Error%	BG	P/B
K K	10.23	6.09	8.09	3.41	0.98	10.44
CaK	17.37	7.97	10.32	2.55	1.12	15.51
TiK	26.56	7.71	8.36	2.05	1.59	16.70
MnK	15.94	30.59	28.92	2.74	1.60	9.96
FeK	25.22	47.65	44.31	2.12	1.70	14.84

C:\Edax32\Vision\VCrElem100u.NSF

146－30



第162図　蛍光Ｘ線分析スペクトル

第７節　総　括

1968（昭和43）～1970（昭和45）年度の３年間にわたる発掘調査は、出雲国府跡の所在地を確定した。しかし、解明しなければならない課題は多く、いくつかの課題について検討を加えたい。

（１）六所脇・宮の後地区の遺構変遷（第163～165図）

六所脇・宮の後地区の遺構変遷は概報（松江市1971）やその後の報告（町田1975）で述べられている。建物の時期については二書で変更点があり、詳細に検討を加えるべきであるが、今回はできなかった。そこで、町田報告を元に、遺構の変遷を述べたい。

古代の遺構は重複関係や配置によって、Ａ期～Ｆ期までの６期に区分できる。

Ａ期　六所脇地区で検出したSB018、019が該当する。Ｂ期以降の建物方位とは異なり、軸線から約６°西に振り、磁北に近い。古墳時代の溝に平行し、自然地形に基づいて構築されたと考えられる。なお、Ａ期の遺構は宮の後地区では確認されていない。

Ｂ期　宮の後地区で検出された遺構の方位は基線の北方向に近く、この傾向はＢ期以降踏襲される。この地区を大きく取り囲む幅約2.5mの西大溝（SD004）と北大溝（SD005）をつくる。北大溝は西端で直角に曲がり西大溝となる。北大溝の南2.4mに溝（SD048）が平行に設けられ、２つの溝間には柵列（SA027）がある。SA027は柱間が約３ｍで、木塀や土塀の支柱と考えられる。SD048からは２本の溝（SD049、050）が派生し、北大溝に接続する。こらの柵列や溝に対応する状態で、北大溝の南34mの地点に東西方向に走る溝（SD027）がある。

SD048とSD027に挟まれた区域には２棟の南北棟の掘立柱建物と柵列が配置される。南の建物（SB005）はSD027に接して、２間（3.4m）×３間（5.4m）の身舎の東側に廂（2.2m）がつく。廂柱穴の規模は小さい。その北４m隔て、５間（11.5m）×２間（4.8m）の建物（SB017）がある。その東側柱列はSB005の身舎側柱に揃える。SB017にはSA021～023の柵列が伴う。SA021はSB017の北から１間目の側柱に付き、13m東で北に折れ、５m北上し（SA022）、SA023につく。SA023の西端はSB017の北妻柱の北側で止まる。SB017の北東側は柵列により区画されることとなる。

北大溝の北５m前後のところにある東西に走り北へ曲る溝（SD034）もこの時期に比定され、北大溝の北側に別の官衙地所が想定される。島根県教育委員会による大舎原地区の調査により、遺構が確認されている。

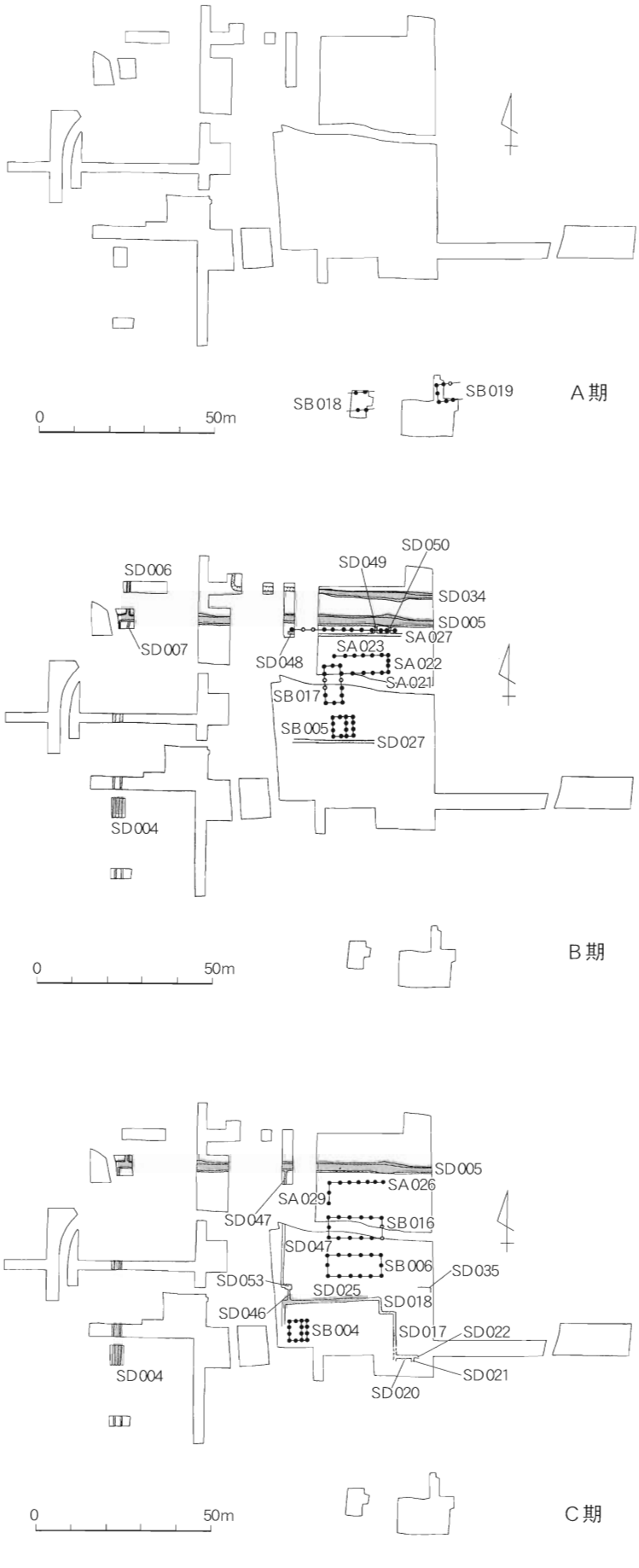
Ｃ期　西、北大溝は継続して存在する。この時期、内部を区画する幅0.9m内外の小さな溝が配される。溝はいずれも河原石を立て並べて護岸し、底に砂利を敷いたものである。西大溝の東約46mには北大溝に接続する溝（SD047）がある。この溝は南へ33m延び、会所（SD053）の西辺に取り付く。会所の南辺に取り付く溝（SD046）は約３m続き、東西方向の溝（SD025）に繋がる。SD025の西端は、SD047の延長線上からＬ字に南に曲がる。東端は会所の東約26mのところで南に折れ、SD018と繋がる。SD018は約４m延び、また東へ４m流れる。そこで、南北に延びるSD017に繋がる。SD017の南端はＥ期につくられるSD010によって破壊されているが、SD018との接点から南約11mのところに東西方向の溝（SD020、022）と連結した痕跡をかろうじて留める。SD022には南北に延びる溝（SD021）が派出する。発掘区の東辺で検出した溝（SD035）とその西側につくる石敷面もこの時期のものと考えられる。SD035はSG001に破壊されているが、おそらく南流してSD022に合流するものと想定される。

SD005とSD025に挟まれた区域には２棟の掘立柱建物と柵列を設ける。２棟の建物（SB006、016）は、東西棟５間（14.8m）×２間（６m）の同規模の建物で、東妻をSD018にそろえて4.7mへだてて南北に並ぶもので、一辺１mの掘方内に、約0.3mの柱を据え付けており、Ｂ期のSB017に比べて一回り規格が大きい。SB016の西妻の延長線には柵列（SA029）がある。それは北へ２間（10m）延びて東に折れる（SA026）。SA026はＢ期のSD048に重複している。６間あり、東端は建物の東妻柱に揃える。SD025の南側には３間（5.4m）×２間（3.8m）のSB004が位置し、東側に廂をもつ。

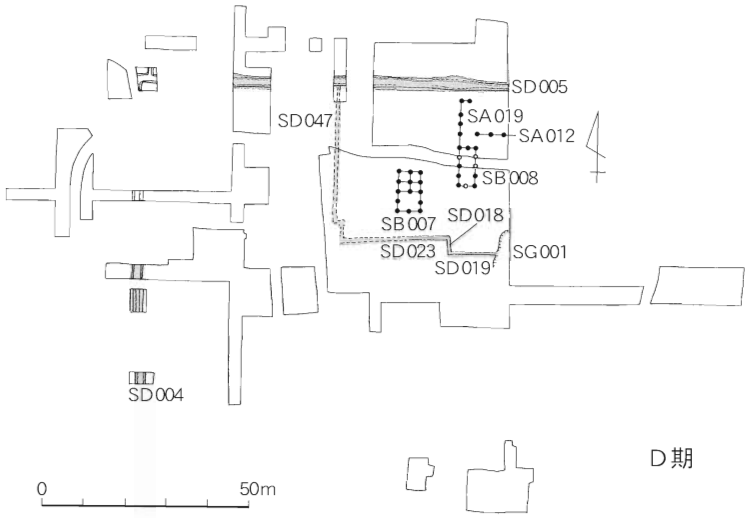
これらＣ期の遺構配置は最も整然と配置されている。

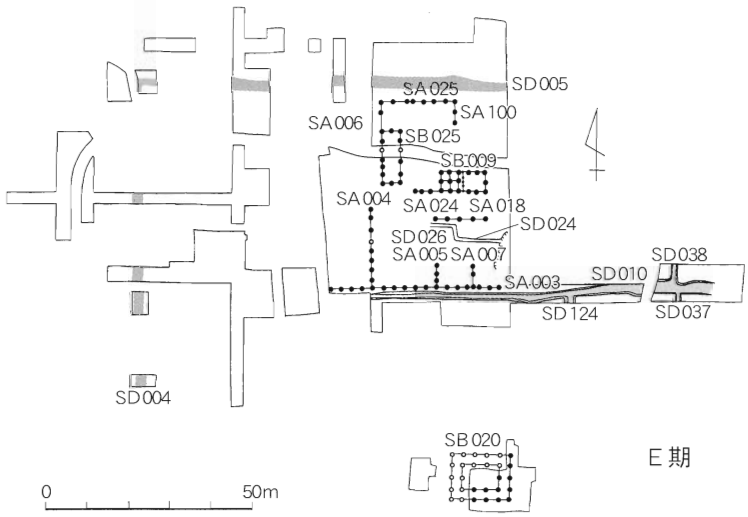
Ｄ期　西、北大溝は依然として存続する。建物群の南区を画する溝にはSD023とSD019がある。SD023はＣ期SD025の南に位置を変えたもので、東端はSD018と連結する。SD019はSD018の流路を東に向けて延長したもので東側の水溜まり（SG001）に注ぐ。SD023の西方は既に破壊されているが、SD046、047、053を含め、Ｃ期の遺構を踏襲していると考えられる。

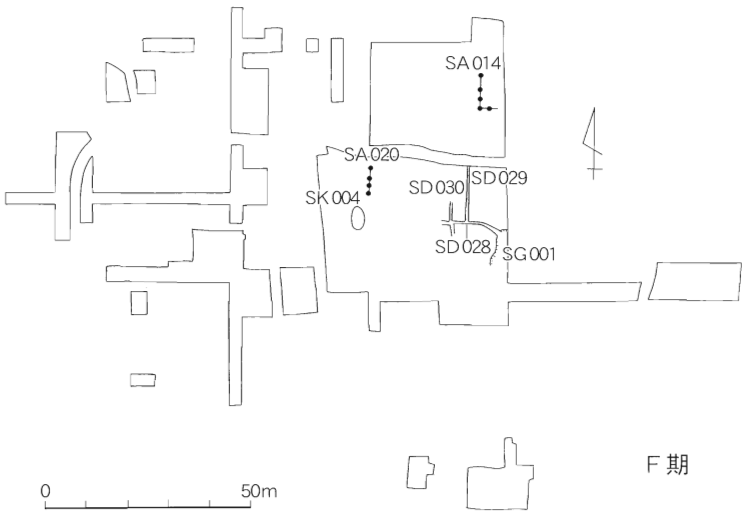
建物は２棟の南北棟である掘立柱建物（SB007、008）がある。SB007はSD023の北側に



第163図　宮の後・六所脇地区遺構変遷図（１）







第164図　宮の後・六所脇地区遺構変遷図（２）

位置する４間（9.7m）×２間（５m）の建物である。北から１、２間目の梁間中央に柱をたて、しかも２間目の柱間が他より狭く、２間×１間の建物と２間×２間の建物を連結したような形態をとる。SB008はSB007の東９mに位置し、西側柱に揃えてSA019が北へ11.2m延び、さらに東側に屈曲する。SA012もこの時期と考えられる。

Ｅ期　Ｅ期は概報（松江市1971）と町田報告（町田1975）では大きく異なり、新しく検討を加えている町田報告に従う。北大溝の南約51mに東西に走行する溝（SD010）を配し、それに平行するSA003と共に南側を区画している。溝の西端はSD045の消えるあたりだろう。東端は削平が著しく詳細不明であるが、南北に流れるSD037、038、124が取り付く。SA003は柱基部を石材により固定されている。SA003はＢ区SB022の南側から検出されていないことからSB022の東側で北に向け屈曲している可能性がある。SA003には３条の柵列（SA004、005、007）が取り付き、北に延びている。

柵列の北側には底に砂利を敷くSD024、026がある。SD026はＢ期SD027と重複し、東西に流れるが破壊が著しい。東側はSD024に接続し、SG001に注ぎ込む。

溝の北側には２棟の掘立柱建

物（SB009、025）がある。SB009はSB025の東９ｍに位置し、南側柱の西妻にSA024が取り付く。５間（10.7m）×２間（4.8m）であるが、西２間には梁間中央に柱を立て、桁行中央に間仕切の小柱を配している。SB025の西側柱の北妻にSA006が取り付き、SA025、100とコ字形に柵列が配される。

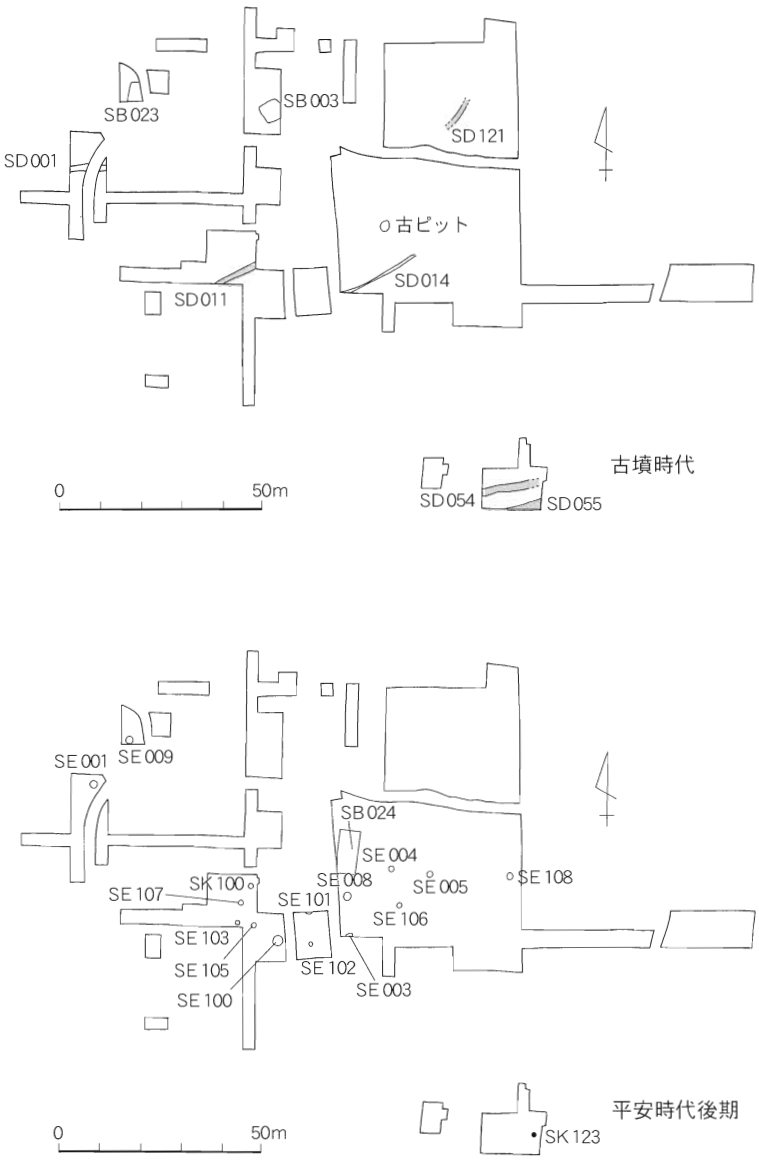
宮の後地区Ｅ期に相当する六所脇地区の遺構はSB020がある。SB020は全体を検出していないが、２間×３間の身舎に４面廂が付く建物と想定されている。外側柱には改修があり、柱間を縮小させている。このSB020をＥ期とした理由は町田報告で、①建物方位がほぼ同じ、②柱穴が比較的小型で、柱の基部を栗石で固定することが挙げられている。この建物は発掘された唯一の四面廂建物であり、「政庁後殿」などと指摘され、その機能は低くはないが（山中2003）、周辺の遺構との比較が難しく、性格を決める決定打は今はない。

Ｆ期　柵列、溝、土坑があるが、その内容についてはよくわからない。周囲を区画する溝は埋められる。SG001に注ぐSD028にはSD029、030が接続している。その西側には南北軸のSA020や廃棄土坑と考えられるSK004が存在する。北側には北大溝と重複するSA014が設けられている。

以上のような時期区分を行っているが、SB001、002、022など所属時期を決めがたい遺構がある。また、すべての遺構が合理的に解釈できるわけではなく、大舎原地区を含めて考えていかなければならない。

奈良時代を中心とする遺構のほか、古墳時代や平安時代後期の遺構がある。

古墳時代　竪穴建物（SB003、023）や、調査区を斜行する溝（SD001、011、014、054、055、121）が検出されている。古代の遺構を保存するために、古墳時代の遺構は全て精査されていない。また、大舎原地区や日岸田地区からも竪穴建物や溝が確認されていることから、出雲国府跡の広い範囲に集落が形成されていたことが判明した。遺構からは古墳時代前期末から中期を中心に弥生時代末から古墳時代後期までの遺物が出土している。また、縄文時代晩期の



第165図　宮の後・六所脇地区遺構変遷図（３）

突帯文土器（110－9）も出土しており、意宇平野の微高地上に継続して集落が営まれ、国府整備以前から最も居住域に適した場所の一つであったと考えられる。

平安時代後期　遺構としては井戸（SE001～009、SE100～108）や土坑（SK100、106等）、無数の掘立柱などがある。小柱穴が建物として確認できるものは少なく、SB024一棟にすぎない。六所脇地区炉跡（SK123）は上層で確認されたことからこの時期と考えられる。また、中国製陶磁器の出土量からも施設群は継続していると推定できる。

出雲国庁の復元は概報や町田報告で想定されている。その想定は調査例が少ない時期に近江国庁の調査例を参考にされている。しかし、現在では全国各地で国府の発掘調査は実施され、国府域の復元が行われている。国府の様相については各国府の共通点と共にその多様性が指摘されている(山中1994)。現状では未掘調査部分が多く、国府域の想定が確定できないのが現状であろう。

最後に、大舎原地区との関係を述べたい。出土遺物から見ると大舎原地区で最も古い遺構はⅠ－1期で須恵器第3形式にあたる。第1、2形式の遺構は大舎原地区では確認されていないことになる。Ⅰ－2期は第4形式で、Ⅱ－1期は第4～5形式となる（島根県2001)。しかし、六所脇・宮の後地区では第1形式から出土しており、古い時期から使用されていることが分かる。

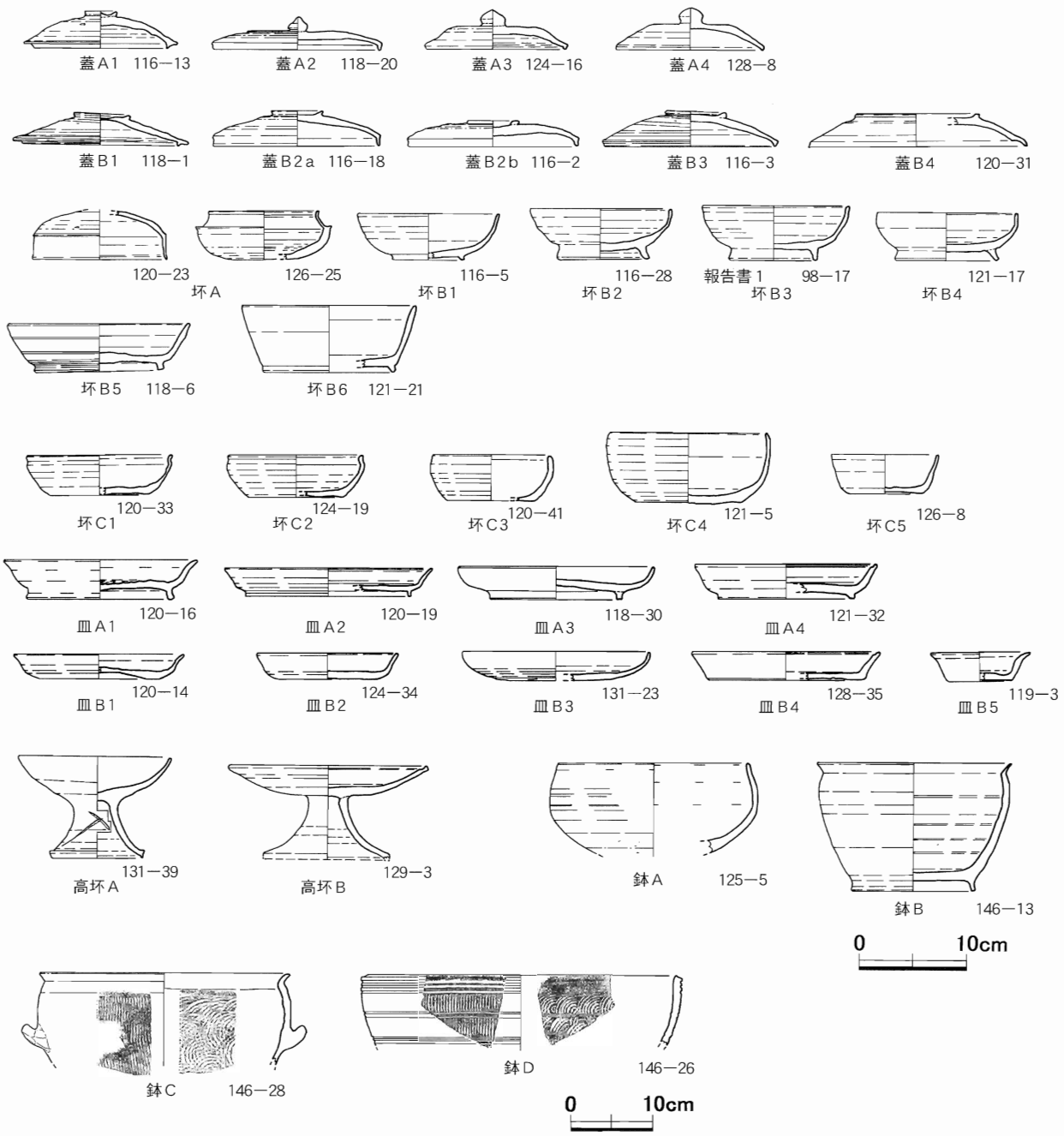
第3形式はSD047から出土した遺物を基準に設定されていることから大舎原Ⅰ－1期を中心とした時期となる。六所脇・宮の後地区F期であるSK004は出土遺物を見ると第4形式にあたると考えられ、F期は第4形式を中心とした時期になり、大舎原Ⅰ－2期ないしはⅡ－1期と想定できる。

一方、大舎原Ⅱ－2期以降について六所脇・宮の後地区との関連が不明となる。大舎原Ⅱ－2期を代表する1、4号建物は礎石建物となるが、宮の後地区では礎石建物が確認されていない。大舎原Ⅱ－3期は緑釉陶器を含み9世紀後半から10世紀前半、10世紀を前後する時期とされている。六所脇・宮の後地区では緑釉陶器を含む遺構があり、大舎原Ⅱ－3期に相当する時期の遺構も存在している。六所脇地区では緑釉陶器が造成土を含む上面の遺構からも出土している。周辺は大舎原Ⅱ－2期からⅡ－3期にかけ、かなり大規模な造作が行われいると考えられる。

平安時代後期とした遺構には白磁を伴うものが多い。一方、SE101からは13世紀の樟葉型瓦器椀や龍泉窯系青磁碗Ⅰ類が出土し、鎌倉時代の遺構も含んでいる。平安時代後期とした遺構は大舎原Ⅲ期を含んで、前後に幅広い時期のものと考えられる。今回、井戸跡や土坑から一括性の高い遺物が出土していることから平安時代後期から中世前半の遺構遺物の細分を行う時期に来ている。

六所脇・宮の後地区と大舎原地区の遺構は有機的に関係し、一連のものである。しかし、各地区で、遺構が希薄な時期もあり、遺構の方位や出土遺物から時期を細分し、同時期の施設群を復元していく必要があろう。

なお、方位軸について、第1～3次調査では磁北から基線を求めているため、国土座標に基づく測量は行われていない。平成11年度から再開された調査では日本測地系に従って測量されている。そこで、第1～3次の調査区の一部を再発掘し、日本測地系にあわせる作業を行っている。作業の結果、図面上で求められる座標と現地での座標が異なっていることが判明している。これは、国府域を復元する上で重要な中心軸の変更も考慮する必要が出てくる。今後、調査を継続し、座標を検討する必要がある。さらに、六所神社北側に設置された基準点のうち1点を再確認し、基準点測量を行うことも必要である。（守岡）



第166図　須恵器・土錘分類図

（2）須恵器

本報告資料では、編年の指標となる良好な一括資料の抽出が困難であるため、溝出土資料をもとに、遺構の存続期間の傾向を提示することを目的に、蓋坏を中心に形態の分類を行なう。

形態分類（第166図）　蓋Aは、宝珠状つまみ（ボタン状つまみも含む）をもつ蓋で、口縁端部の形態をもとに、１～４類に分類している。１類は口縁部内面にかえりをもつもの、２類は端部を折り曲げ、下垂させるもの、３類は端部の断面を三角形状に引き出すもの、４類は口縁端部をなでて面取りを行なうなどして、端部の引き出しを行なわないものである。

蓋Bは、輪状つまみをもつ蓋で、A類と同様、口縁端部の形態をもとに１～４類に分類し、２類はさらにａ、ｂ類に細分している。１類は口縁部内面にかえりをもつもの、２類は端部を折り曲げ、下垂させるもので、天井部がふくらみ、器高があるものをａ類、天井部中央が沈み、器高が低くなるものをｂ類とする。３類は端部の断面を三角形状に引き出すもの、４類は口縁端部を内湾させ、口縁部内面に退化したかえり状の稜をもつものである。本報告資料ではつまみが残存している資料はなかったが、松江市青木遺跡出土資料が同様の形態で輪状つまみをもつことから、B類に入れている（八雲村1996）[(2)]。

坏Aは、古墳時代的な様相を呈するものや、いわゆる坏蓋HやGといった古墳時代からの伝統的な資料を一括して、坏A類とする。

坏Bは高台付きの資料である。１～４類は丸みを帯びた体部をもつもの、５、６類は直線的に外傾する体部をもつもので、さらに底部の切り離しや高台の形状をもとに細分している。１類は低い高台をもつもので、底部は丁寧にナデ調整されており、切り離しは不明である。２類はハの字状に開く高台をもち、切り離しはヘラ切りのもの、３類はやや直立気味の高台をもち、切り離しは静止糸切りのもの、４類は切り離しが回転糸切りのものである。５類は切り離しがヘラ切りのもの、６類は切り離しが回転糸切りのものである。

坏Cは無高台の坏で、１～４類は丸みを帯びた体部をもつもの、５類は直線的に外傾する体部をもつものである。１類は口縁部にくびれをもち、切り離しが静止糸切りのもの、２類は口縁部にくびれをもち、切り離しが回転糸切りのもの、３類は口縁部のくびれが不明瞭で、切り離しが回転糸切りのもので、一部は口縁部の内面が肥厚する。４類は３類が大型化したもので、出土量は少ない。

皿Aは高台付きの皿、皿Bは無高台の皿で、それぞれ口縁部の形状により１～４類に分類される。１類は口縁部が外反するもの、２類は口縁部が外傾するもの、３類は口縁部が内湾するもの、４類は口縁部内面に沈線をもち、口縁部が段状になるものである。４類の資料は、松江市蛇喰遺跡から多く出土しており、松江市湯峠窯跡からの搬入品である可能性が指摘されている（玉湯町1999）。皿B5類は口縁部を大きく外へおり曲げた形態のもので、いわゆる「灯明皿型土器」である（林2000）。

高坏は全形が把握できる資料が少ないため、時期差が反映されやすい坏部の形状で分類を行なっており、碗状の坏部をもつものがA類、蓋を反転させたような扁平な坏部をもつものをB類とする。

鉢は、いわゆる鉄鉢形といわれるものをA類、口縁部が外側に折り曲げられるものをB類、B類と同様の器形の大型でタタキ成形のものをC類、大型の鍋状の器形でタタキ成形のものをD類とする。

変遷　先行研究をもとに、以上の分類の大まかな変遷をたどる。まず、坏A類を中心とする段階で

ある。次に、前段階と比べ器種が大型化する段階となる。この段階では、蓋は口縁部内面にかえりをもつA1・B1類があり、坏は底部切り離しがヘラ切りのB2類がある。次の段階になると、蓋の口縁部内面にみられたかえりは退化し、端部を折り曲げ下垂させる形状のものが登場する。この段階で、宝珠状つまみと輪状つまみの両者が存在するが、量的に輪状つまみが優勢となる。分類ではA2類とB2類のものがあてはまるが、先行研究からB2類は、B2a類からB2b類へと変化することが予想される。坏は切り離し技法に糸切り技法が加わる。また、糸切り技法は静止糸切りが主体の段階から回転糸切りが主体の段階へと変化する。これにそって、分類では、切り離しが静止糸切りの坏B3・C1類から、回転糸切りの坏B4・C2類が主体になる。また、坏Ｃ類の１類から３類への変化は、底部切り離しのほかに、口縁部にみられるくびれも注目され、口縁部のくびれが明瞭な１・２類から不明瞭な３類へと変化する。坏Ｂ類は内湾する形状から、徐々に直立外傾する形状へ変遷するものと考えられる。この体部の直立外傾化が進行するに従い、坏B5・6類、C5類が登場するものと考えられる。一方、蓋は口縁端部の下垂が弱まり、端部を断面三角形状につまみ出すものへと変化する。この変化に伴い、つまみの主体が、輪状つまみから宝珠状つまみへと変化し、輪状つまみはみられなくなっていく。皿は体部の直立外傾化の時期に盛行する。高坏は碗状の坏部をもつＡ類から扁平な坏部をもつＢ類へと変遷する。

各遺構出土の須恵器を分類し、一覧にしたものが第18表である。なお、参考として、平成11年

第18表　須恵器分類別集計表

	蓋												坏										
	A1	B1	A2	B2−a	B2−b	下垂	A3	B3	三角形	A4	B4	B	A	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	B5	B6	C5
	宝珠・かえり	輪状・かえり	宝珠・下垂	輪状・下垂	輪状・下垂		宝珠・三角	輪状・三角		宝珠・丸	輪状・丸	輪状	古	低高台	ヘラ切り	静止糸切り	回転糸切り	静止糸切り	回転糸切り	回転糸切り	回転糸切り	ヘラ切り	回転糸切り	回転糸切り
SD004	1	1	3	7	4		2	1						2	5	3	1			4	2	1	3	1
SD005			3	●	2	1	23	3		2	2		2		4	1	10	4	12	12	1		37	11
SD010				1			1							2		1	4	1	3	2			4	
SD045																	1		1	1			5	
SD047			1	3	1	2										1	4	3			1		1	2
SK004			1				4										1		1	2			5	
４号溝			4			2	18		8			5					2		12	13			19	9
14号土坑				5	2	1										7		1	1			1		
５号土坑			1			1	3			1									3	1			2	
５号土坑上層			1				2									1			2	5		1	3	3

	皿									高坏		鉢				土師器
	A1	A2	A3	A4	A5	B1	B2	B3	B4	A	B	A	B	C	D	
	外反	外傾	内湾	段状口縁	灯明皿	外反	外傾	内湾	段状口縁	碗状	扁平	鉄鉢形			鍋状	
SD004	1	1			3			2			1	1			1	○
SD005	11	9	1	2	6	7	4	1	5		5	1	4	1	1	○
SD010	3	1	3				1	2		4						○
SD045								1					1			×
SD047																○
SK004	1	1					1						1			×
４号溝	5	6			1	8	6	4	10		5	1	3	1		○
14号土坑		1														○
５号土坑	1	3									1					×
５号土坑上層	2	3				3	5				4					×

度以降の調査で検出したものから、代表的な４号溝、５号土坑、14号土坑の資料も含めている。

14号土坑は、口縁部が下垂する蓋、切り離しが静止糸切りの坏が優勢し、土師器が出土していることから、比較的古い様相を呈する。４号溝、５号土坑は14号土坑と比べ新しい様相の一括資料で、蓋の口縁端部の断面は三角形、切り離しが回転糸切りのものが優勢している。なお、４号溝よりもさらに時期幅が狭く、より新しい様相を呈す５号土坑からは、土師器は出土していない。

SD004は、かえりをもつ蓋や、口縁部が下垂する蓋が多く、古い蓋が優勢する傾向が読み取れる。同様に、坏は切り離しがヘラ切りや静止糸切りの資料が多く、古い様相を呈すものが優勢する傾向にあることが窺える。

SD005は出土資料が多く、ほぼ満遍なく各分類が出土している。実測資料には少ないが、蓋では輪状つまみで口縁部が下垂するものから端部が断面三角形となるもの、坏では切り離しが回転糸切りのもの、体部が直立外傾化した資料が多くみられる。SD004と同時期かやや新しい傾向にある。

SD010は遺物量が少ないが、坏では切り離しが回転糸切りのものが優勢する。しかし、高坏では古い様相を呈するＡ類が多く出土している。

SD045は遺物量が少ないが、切り離しが回転糸切りのものが優勢する。

SD047は下垂する口縁部をもつ蓋、切り離しが静止糸切りの資料が優勢し、やや古い様相を呈する。なお、ここで出土しているC5類は切り離しが静止糸切りであり、他のC5類とやや異なる。

SK004は口縁端部が断面三角形の蓋、切り離しが回転糸切りの坏が優勢し、新しい様相を呈する。

なお、土師器の出土の有無をみると、SD045とSK004という新しい様相の遺物が優勢する遺構では出土しないが、その他のある程度古い様相の遺物を含む遺構からは出土している。畿内産土師器の様相は林部氏により平城Ⅰ～Ⅱの奈良時代前半に多く搬入されていることが明らかにされており（林部1992)、今回の検討からも追認できる。

以上より、各遺構の関係を整理すると、古い様相を呈する遺物が優勢するSD004、005、047が遺構群の中で、比較的古くから機能していたものと考えられる。次にSD010といったような比較的新しい遺物が優勢する遺構が機能していたと考えられる。また、新しい様相の遺構として、SD045やSK004もある。ただし、SD010と比べ遺物が新しい様相を呈するもののみに限定される傾向にある。この差は、遺構の時期差や、継続期間の差を反映している可能性が考えられる。また、国府という遺跡自体が消費地遺跡であるため、古い様相を呈するものが混入している可能性も考えられる。

これらの遺構の位置関係をみると、SD004は南北溝、SD005、010は東西溝である。SD004、005がやや古くなる要因として、建物配置の規格の拡大や施設の性格の変化に伴い、既存の溝が埋め戻され、新しい溝が再整備された可能性等が考えられる。このことは、第163、164図の遺構変遷とも合致する。

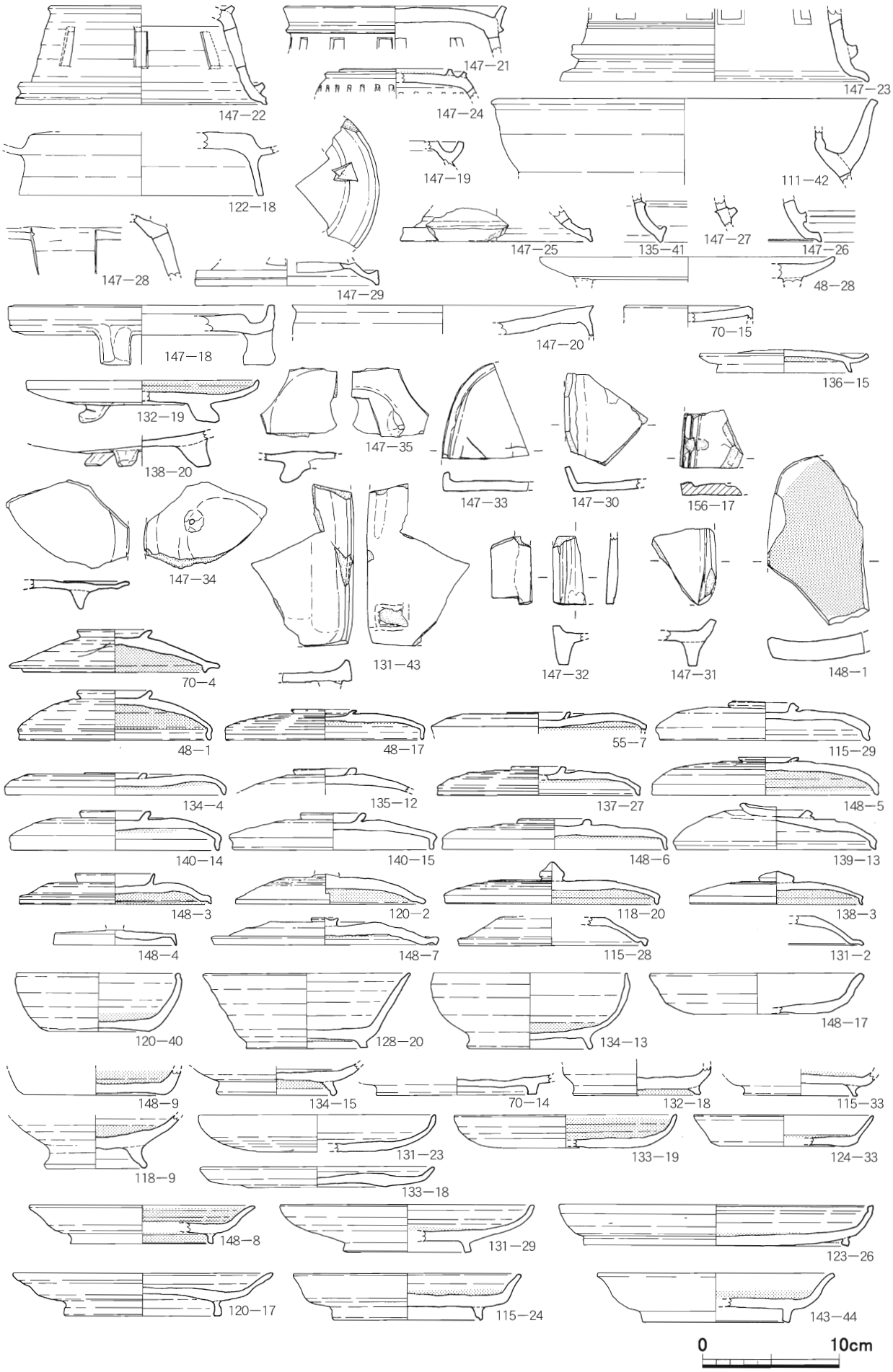
出雲国庁形式との比較　概報に示されている既存の形式（以下、国庁形式）との関係をみる。国庁形式は、基準資料の一括性への疑問や、同一形式に型式的に異なるものが共存する点、形態変化の一貫性の無さなどが、これまで問題点として指摘されてきた（島根県2003、同2005、平石2003、林2005)。そして、『史跡出雲国府附跡１』では、14号土坑、５号土坑下層、５号土坑上層の出土

資料の一括性が高いことから、出土遺物の特徴を抽出して、それぞれ第３形式、第４形式、第４～５形式に相当するとしている。第３形式の特徴として、①蓋は輪状つまみをもち、口縁部が直立する（本分類では蓋B2類、以下同様）、②蓋は頂部に静止糸切り痕を残すものがある、③無高台坏は口縁端部が短く屈曲し外反する（坏C1・2類）、④高台付坏は体部が丸みを帯びる（坏B3・4類）、⑤坏底部の切り離しは静止糸切り・回転糸切りの両者があるが、前者の比率が高い、⑥土師器坏・皿を多く伴い、一部は暗文を有するとする。第４形式は、①蓋は宝珠つまみをもち、口縁端部が下方に僅かに屈曲する（蓋A3類）、②蓋は頂部に回転糸切り痕を残すものが多い、③無高台坏は口縁端部が僅かに屈曲する（坏C3類）、④高台付坏は体部が直線的に外傾または外反する（坏C5類）、⑤坏底部の切り離しは回転糸切り、⑥土師器坏・皿を伴わないという特徴をもつとしている。また、林氏は大舎原地区出土資料では、輪状つまみをもつ蓋（蓋Ｂ類）と宝珠状つまみをもつ蓋（蓋Ａ類）とが、一括資料中には共存しないことを指摘し、輪状つまみをもつ蓋を第３形式、宝珠状つまみをもつ蓋を第４～５形式に相当するとしている。これらの論考により、第３形式から第５形式にかけては、それぞれの様相が少しずつ具体的になってきている。

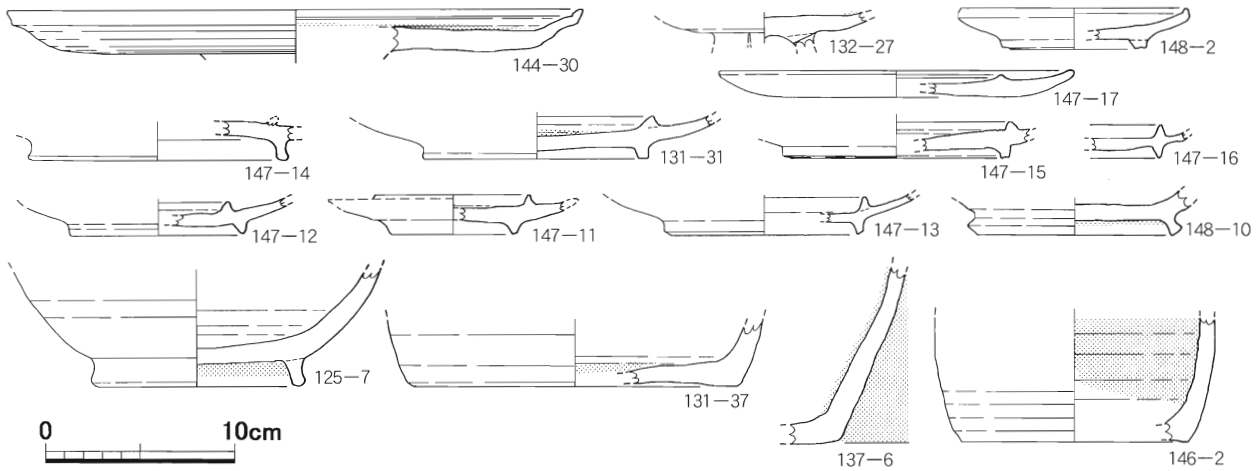
概報では、第３形式はSD047出土資料が基準になるとされている。『報告書１』で指摘されている第３形式の14号土坑出土資料とSD047の資料を比較すると、口縁が下垂する輪状つまみをもつ蓋B2類や、切り離しが静止糸切りの坏の優勢、体部に丸みをもつ坏Ｂ類、坏C1・2類の口縁のくびれが強いということなど、共通点が多く、ともに第３形式の段階とみて差し支えないものと考えられる。

なお、概報に掲載されている資料について、その多くが同定は不可能であったが、一部の資料については、同定することが出来た。また、概報では第１・３・４・５形式については遺構や整地土層からの一括資料を基準とするとされており、これらの遺構・整地土層についても不明な点が多く、第３形式の基準とされるSD047以外の、遺構・土層を同定することは出来ていない。この問題点を解決する糸口として、概報掲載資料と同定された遺物の注記を確認したところ、第１形式、第５形式について若干の成果が得られた。第１形式とされる資料は、「SD010の北岸の整地土層から検出した一群の須恵器」とされている。第１形式として掲載されている資料には、「AP15　黄褐色土」と注記されたものがあり（142－１・13、144－32）、場所的に、SD010の北岸に位置するグリッドであり、当時の調査日誌では、整地土層は黄褐色土とされている。この注記と近い位置である「AN～AP1～21　黄褐土・黄褐色土」とされる資料を見ると①口縁部内面にかえりをもつ蓋（140－５・６・９・10・12）、②いわゆる古墳時代的な様相を呈する坏（141－６・７）、③底部の切り離しがヘラ切りでハの字状に開く高い高台を有する坏（142－13）というように、ある程度のまとまりをもつことがわかり、この注記をもつ資料が第１形式とされた資料である可能性が強い。

第５形式は、同定された遺物自体が少ないこともあり、断定はできないが、同定された遺物の注記をみるとCM・CL14～15が場所的に近いものと思われる。概報では「SD005、SD034付近の土器堆積を切り込んでつくる土坑状の遺構から出土した須恵器」とされており、この注記でなおかつ土坑らしきものと思われる注記に「CL15黄褐粘土土坑」、「CL15黒色粘土埋土」というものがある。これらからの出土資料をみると、前者からは硯（147－29）が、後者からは高台付坏（143－11）、製塩土器（151－24）が出土している。143－11は、外傾する口縁をもち、坏底部の縁辺に高台が貼り付けられており、いわゆる第５形式とされる資料である。このことから、これらの注記



第167図　硯・転用硯実測図（1）



第168図　硯・転用硯実測図（２）

をもつ資料が第５形式とされたものに該当する可能性があると考えられる。昭和調査出土資料には、本報告で整理・紹介しきれなかった資料が多数存在するため、これらの注記をもとに整理を進めていくことにより、本報告でなしえなかった、概報で提示されたいわゆる国庁形式の詳細を明確にしていくことが今後の課題である。

課題　以上、形態分類をもとに須恵器の変遷を追いつつ、国庁形式の手がかりを追ってきた。これらの作業を通じて、出雲国府跡出土須恵器を中心とする当該期の須恵器研究に関して、いくつかの課題点が浮上した。第１点として、消費地遺跡としての須恵器保有のあり方の検討をしなければいけないという点が上げられる。これには生産地からの須恵器の流通を明らかにすることも含まれるが、一つの形式がどのくらいの型式幅を含むものかという検討も含まれる。この前提として、生産地である窯跡編年を確立することが必要となる。また、この点に関連して、窯差と時期差の整理も行う必要がある。第２点として、律令的土器様式（西1986）の土器と在地の土器との関係である。本報告資料のなかで、特に蓋に着目してみると、口縁部にかえりをもつ蓋のつまみには、宝珠状もしくはボタン状つまみをもつものと、輪状つまみをもつ資料があるが、輪状つまみを持つ資料のほうが、宝珠状・ボタン状つまみをもつ資料と比べると、口径が大きくなる傾向がある(3)。これについて、律令的土器様式の在地化の課程で、口径が大きくなっていった可能性が考えられ、蓋のつまみにみられる輪状つまみと宝珠状・ボタン状つまみのバリエーションについて、輪状つまみの出現と定着の過程を整理する必要があると考えられる。第３点として口縁が下垂する蓋について、その口径が大きいものは口縁部の端部が三角形状に引き出されるものが主流になる時期に、皿とのセットとして残る可能性があり、すべての要素がいっせいに新しい方向に進むのではなく、要素によっては、古いものが残る可能性も考えられる。第４点に、本報告では法量変化の分析ができていないため、法量変化の分析を行い、律令的土器様式との関係性を考察する必要がある。これらの課題点の他にも多くの課題が山積しており、今後の整理を通じて研究を進化させ、問題点を解消していかなければならない。第５点に土師器坏皿の問題がある。いくつかの課題が考えられるが、赤色顔料が塗布された坏皿の存続時期や供膳具内での割合、その模倣先と考えられる畿内産土師器の搬入状況についても検討する必要がある。また、出雲平野では赤色顔料が塗布された土師器が９世紀中葉から後葉まで残存しており（島根県2006b）、出雲国府跡を含めた出雲東部地域との比較検討が必要である。（中野）

（3）硯

国府では文書作成が頻繁に行われるため、それに必要な硯が出土する。近年では国府以外にも公的機関とされる遺跡から硯が検出されている。これらの遺跡と比較検討し、出雲国府の特徴を出したい。

定形硯の様相　第１～３次調査時に出土した硯のうち、定形硯は29点で、うち円面硯が21点、風字硯が８点出土している(4)。

円面硯のうち、圏脚円面硯の硯面の様相をみると、高い外堤と陸をもち、海が深いもの（147－19、111－42）と、脚から硯面を一体でつくり、硯面に堤を張り付けるもの（147－21、22、24）が出土している。また、脚端部にも、端部の突帯を表現するために端部を肥厚させるもの（147－25、29）や端部を肥厚させずに屈曲させるもの（147－22、23、26）などが出土している(5)。これらの製作技法の差は時期差や生産地の違いを反映している可能性が考えられる。

三足円面硯ではしっかりした脚部に、海と陸が明瞭に区分されたもの（147－18）や皿状の硯面をもつもの（132－19）などが出土している。また、この他に低脚円面硯や圏脚円面硯の脚部などが出土している。

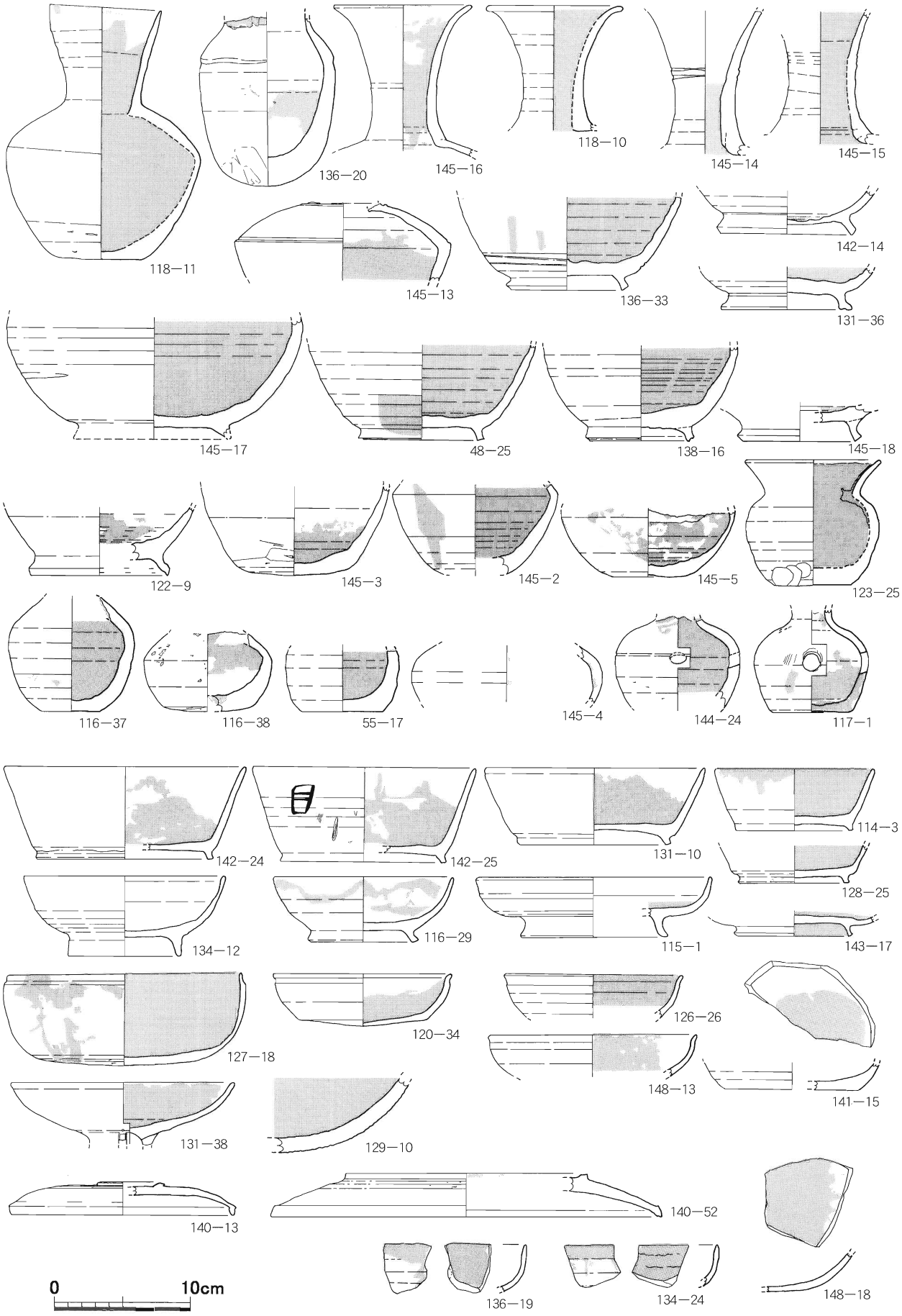
風字硯は、全形の把握できる資料は出土しておらず、硯頭の形態が分かるのは円頭風字硯である147－33のみである。また、147－34、35は皿体部の一部を外側に倒し、傾斜を緩くさせて硯尻をつくったものを硯面とし、それに断面三角形状になる小型の脚を貼りつけたものである。このタイプの風字硯の類例は出雲地域で何例か類例が見られる。類例のうちの一つは出雲市木舟８号窯跡（平田市2004）からの出土品で、９世紀前半代のものとされる。

転用硯の様相　転用硯は57点出土している(6)。転用硯の種類には、蓋21点、坏９点、皿11点、高坏２点、托９点、壺・甕５点で、過半数を蓋坏類が占める。壺・甕類のうち１点は、いわゆる猿面硯である。これらの様相を見ると、比較的古い段階の器種に蓋類（転用硯全体の28％）が多くて坏類は少なく（転用硯全体の14％）、新しくなるにしたがい皿類（転用硯全体の17％）が多くなる可能性が考えられる。

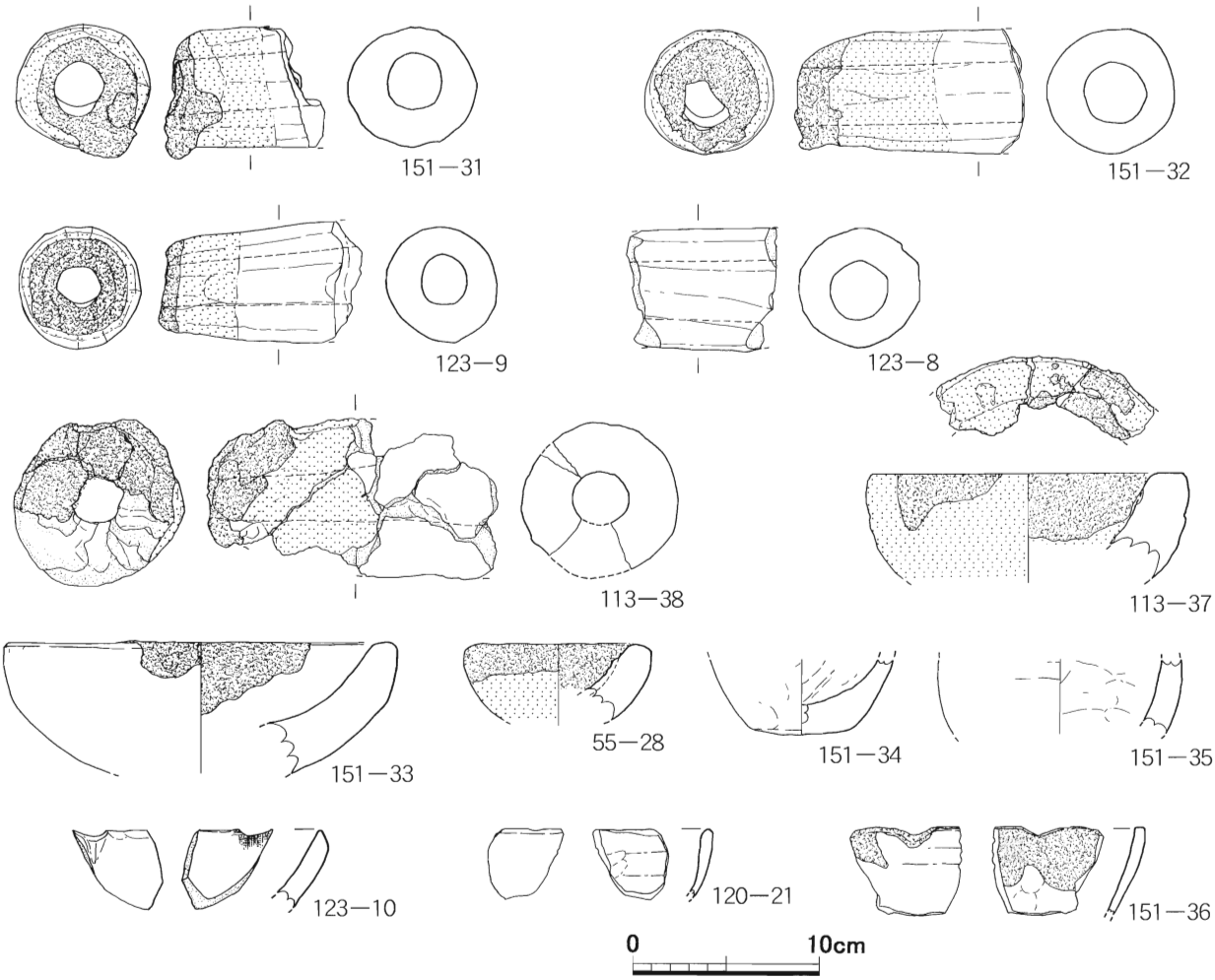
使用面では、多くが坏部内面を硯面として使用しているが、高台付坏７点のうち４点、高台付皿６点のうち１点が高台内面を硯面として使用している。

出雲国府跡の様相　出雲国府跡全体から硯の様相をみていく。なお、時期別の検討も必要であると思われるが、硯自体の編年作業が現状では困難であること、遺構出土の資料が極めて少なく、その遺構も溝であるため、時期の検討が困難であることから、ここでは、出雲国府跡の地区別の様相をみていく。まず、転用硯も含めた硯全体の出土状況をみると、宮の後地区80点、六所脇地区３点、大舎原地区96点、一貫尻地区16点、日岸田地区17点、樋ノ口地区３点と、宮の後地区、大舎原地区での出土量の多さが目立つ。これらの地区を機能別でみると、宮の後地区が後方官衙の曹司群、六所脇地区が政庁、大舎原地区と一貫尻地区が国司館、日岸田地区が工房、工房群と考えられている樋の口地区が周辺域にあたる。後方官衙や国司館と推定される地区で、硯の出土量が多く、政庁では出土量がきわめて少ない。このことは、政庁地区の調査面積が狭かったことも一因にあると考えられるが、文書事務を主体とする機関が政庁ではなく後方官衙や、国司の館の周辺域にあった可能性も考えられる。

定形硯と転用硯の比率をみると、宮の後地区27：53（定形硯：転用硯、数字は出土点数、以下



第169図　漆付着土器実測図



第170図　金属生産関連遺物実測図

同様)、六所脇地区１：２、大舎原地区18：78、一貫尻地区９：７、日岸田地区12：５、樋ノ口地区２：１である。出土量では大舎原地区が宮の後地区を上まわるが、定形硯の出土比率では、宮の後地区が約１：２、大舎原地区が約１：４と、宮の後地区の方が上まわる。このことは、宮の後地区の遺物に未整理の資料があるため流動的な数値であるが、宮の後地区の定形硯が増える可能性が高く、地区の性格を示していると考えられる。

官衙関連遺跡との比較　出雲地域の他の官衙関連遺跡と陶硯類の出土状況の比較を行なう。他の官衙関連遺跡で陶硯類が出土しているのは、カネツキ免遺跡（蓮岡他1985)、古志本郷遺跡（島根県2003ｂ)、三田谷Ⅰ遺跡（島根県1999)、青木遺跡（島根県2006ｂ)、鹿蔵山遺跡（大社町2005)などがある。仁多郡家関連遺跡であるカネツキ免遺跡からは定形硯２点、転用硯８点の計10点が出土している。神門郡家である古志本郷遺跡からは定形硯８点、転用硯９点の計17点、三田谷Ⅰ遺跡からは定形硯１点、青木遺跡からは定形硯１点、転用硯170点、計171点、鹿蔵山遺跡からは定形硯２点、転用硯１点が出土している。定形硯の出土数に着目すると、出雲国府跡が68点と、他の官衙遺跡と比べ圧倒的に多い。また、形態について着目すると、全形がわかる資料が少ないため一概にいえないが、カネツキ免遺跡出土の圏脚円面硯など、華麗な装飾を施すもの

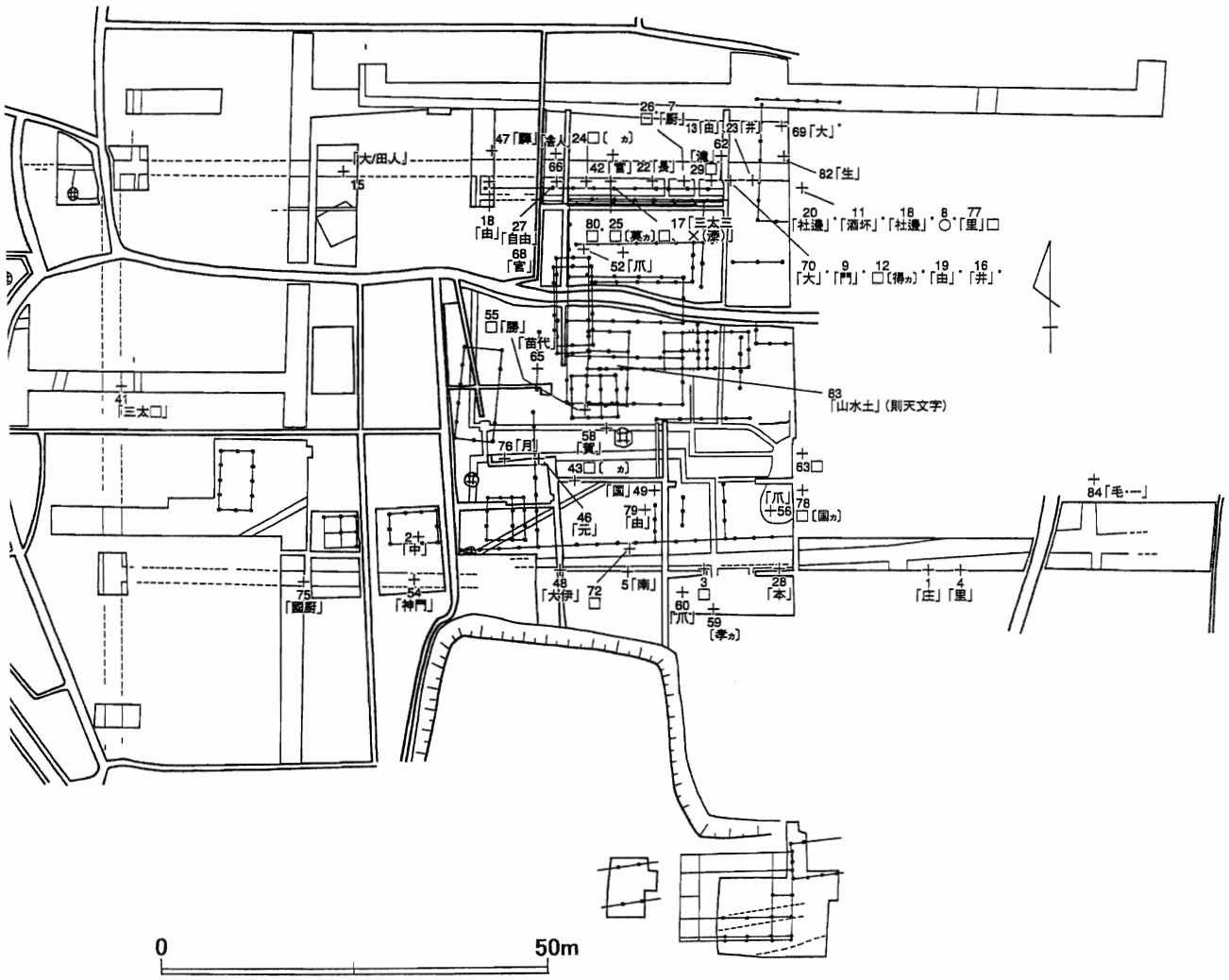
第19表　鉄滓集計表

地区名		椀形鍛冶滓	鍛冶滓	再結合滓	合計(g)
六所脇地区	Ⅰ・J	57.1		2028.3	2085.4
宮の後地区	A	340.6	2.9		343.5
宮の後地区	B	521.3			521.3
宮の後地区	C	866.7	44.9		911.6
不明		884.4	64.7	170.6	1119.7
計（g）		2670.1	112.5	2198.9	4981.5

などがあり、優品が国府に集中するとはいいきれないだろう。一方、転用硯への使用器種に着目すると、どの遺跡も蓋坏類が多数を占める点で共通するが、出雲国府跡では、托の転用が他の遺跡との差異として認められる。このことは、托自体が他の官衙関連遺跡からの出土が極めて少ないということに通じるものと考えられる。(中野)

(4) 手工業生産

漆付着土器　宮の後地区を中心に樋ノ口地区や一貫尻地区から漆が付着した土器が出土し、国府域で漆の大規模な集積、精製から使用まで行われていたと考えられる。漆付着土器は第1～3次調査では一定量出土し、今回は46点を実測した。しかし、未整理資料もあり、数値を示すことはできない。感覚的であるが、須恵器と土師器の割合はほとんどが須恵器で、土師器は極少量である。運搬具と考えられる甕、壺類では、頸部から体部の内面だけでなく、破断面にも漆が付着するものが多く、土器を破砕した後に漆の取り出しを行い、使用している。また、漆を掻き出した痕跡が残る個体もある。漆塗りのパレットと考えられる須恵器坏、高坏や土師器坏では内面全面に漆が残るものと内面の一部にのみ残るものがある。工房自体は発見されていないが、日岸田地区を含め、各地区から出土している漆付着土器を集約し、出雲国府跡での漆の使用状況を検討する必要がある。な



第171図　墨書土器出土地点（島根県2003年第13図転載）

第20表　墨書土器・刻書土器一覧

挿図番号		種別	器種	部位	内容		時期	注記	山陰文字集成
55	14	須恵器	蓋	頂部内面	刻書	大		「GS29　バラス上下　691113」	
113	26	須恵器	皿／坏	底部外面	刻書	白		「AT20　黒色ピット(大)　691127」	
115	15	須恵器	坏	底部外面	墨書	官	ⅢB～ⅣA	「CK19　土坑　701119」	42
115	16	須恵器	皿	底部外面	墨書	□〔笋カ〕	Ⅳ	「AQ20　土坑　691206」	43
115	17	須恵器	坏	底部外面	墨書	□勝	ⅢB	「AT20　灰色土　南北ｵﾘｺﾐ　691208」	55
115	18	須恵器	小片	底部外面	墨書	山水土(則天文字)	－	「AR19　丸柱穴　701110」	83
115	19	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	生	Ⅳ	「CK12　掘方内　691204」	82
115	20	須恵器	坏	底部外面	墨書	舜	Ⅳ	「CK24　灰黒粘土　凹み　700125」	47
116	20	須恵器	蓋	頂部外面	墨書	三太□	ⅢB	「SD004 RA40 Ⅰ砂　681124」	41
126	10	須恵器	坏	底部外面	墨書	井		「CJ14東西溝炭含灰褐砂701121」	
135	1	須恵器	皿／坏	底部外面	刻書	白		「RA42溝R」	
136	25	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	□		「RM26　東西溝褐色砂　701204」	
137	2	須恵器	坏	底部外面	墨書	中	ⅣA	「RN27　黒東西溝　701203」	2
138	13	須恵器	高坏	坏部内面	墨書	門		「RO38　南北溝R　681117」	
139	1	須恵器	皿	底部外面	墨書	厨	ⅣA	「CJ16　東西ミゾ灰褐砂　701122」	7
139	2	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	○（記号）	ⅣA	「CJ11　東西ミゾ　691204」	8
139	3	須恵器	皿	底部外面	刻書	＃（記号）	ⅣA	「CL11 東西溝　691204」	16
139	4	須恵器	坏	底部外面	刻書	門	ⅣB	「CJ14 東西溝 灰褐色粘土 701118」	9
139	5	須恵器	坏	底部外面	刻書	由	ⅣB	「CJ14 東西ミゾ灰カツ粘土 70111」	10
139	6	須恵器	坏	底部外面	墨書	酒坏	ⅣA	「CJ11東西ミゾ　691204」	11
139	7	須恵器	坏	底部外面	刻書	由	ⅣA	「CJ13　東西溝　691205」	13
139	8	須恵器	坏	底部外面	墨書	得	ⅣB	「CJ14　東西溝灰粘土　701118」	12
139	9	須恵器	坏	底部外面	墨書	□〔國カ〕	ⅣB	「CJ11 東西ミゾ　691204」	14
139	10	須恵器	蓋	頂部内面	刻書	由	ⅣB	「CJ24 東西溝灰黒粘土 701124」	18
139	11	須恵器	蓋	頂部内面	刻書	社邊		「CJ11東西溝　691204 R」	20
139	12	須恵器	突帯付蓋	頂部内面	刻書	由	ⅢB	「CJ14　東西溝 青灰色粘土 701121」	19
139	13	須恵器	蓋	頂部外面	墨書	三太三	ⅢB	「CJ19　東西溝灰褐色砂 701119」	17
139	13	須恵器	蓋	頂部外面	漆書	×（記号）	ⅢB	「CJ19　東西溝灰褐色砂 701119」	17
139	14	須恵器	小片	底部外面	墨書	□	－	「CJ16　東西溝灰青砂 701120」	26
139	15	須恵器	皿	底部外面	墨書	大	ⅣA	「CK31　東西溝　R青灰色粘土　681122」	15
139	15	須恵器	皿	底部外面	墨書	田人	ⅣA	「CK31　東西溝　R青灰色粘土 681122」	15
139	16	須恵器	小片	底部外面	墨書	□〔真カ〕	－	「CJ19　東西溝灰褐砂　701118」	25
139	17	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	□	－	「CJ15東西溝　炭灰褐砂　701121」	29
139	18	須恵器	壷	頸部内面	墨書	長	－	「CJ17　東西溝灰褐砂　701119」	22
139	19	須恵器	坏	底部外面	墨書	本	－	「CJ30･31 東西溝黄褐色砂 681123」	28
139	20	須恵器	皿	底部外面	墨書	□〔笋カ〕	－	「CJ20 東西溝灰褐色砂 701118」	24
139	21	須恵器	小片	底部外面	刻書	白田	－	「CJ21東西溝　黄褐砂701113」	27
139	22	須恵器	坏	底部外面	墨書	庄	ⅣB	「AM05　東西溝2砂 R691108」	1
139	23	須恵器	坏	底部外面	墨書	國	－	「AM15　東西溝2砂　691110」	3
139	24	須恵器	坏	底部外面	墨書	里	Ⅳ	「AM04　東西溝2砂　691109」	4
139	25	須恵器	蓋	頂部内面	墨書	南	ⅣB	「AM18　東西溝　691104」	5
139	26	須恵器	坏	底部外面	墨書	□	－	「AM12 東西溝2」	6
142	25	須恵器	高台付坏	体部外面	墨書	目	ⅣB	（注記なし）	
159	1	須恵器	坏	底部外面	墨書	□〔宅カ〕酒	ⅣB	「AS21　バラス　681128」	53
159	2	須恵器	坏	底部外面	墨書	城内吉	Ⅳ	（注記なし）	44
159	3	須恵器	坏	底部外面	墨書	大伊	Ⅳ	「AM21　バラス　691104」	48
159	4	須恵器	坏	底部外面	墨書	元	ⅢB	「AR22　黒色土R　681126」	46
159	5	須恵器	皿	底部外面	墨書	上都寸	ⅢB	（注記なし）	45
159	6	須恵器	坏	底部外面	墨書	東		「AN18　バラス　691112」	
159	7	須恵器	坏	底部外面	墨書	斤カ		6X1M68～70	
159	8	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	爪	－	「CG20　灰黒土　701111」	52
159	9	須恵器	坏	底部外面	墨書	爪	ⅣB	「AP12　黛灰粘土　691121」	56
159	10	須恵器	坏／蓋	底部外面	墨書	国	－	「AQ17　バラス　691122」	49
159	11	須恵器	坏	底部外面	墨書	不		「RM30　礫層　681116」	
159	12	須恵器	坏	底部外面	墨書	神門	ⅣB	「RL27　褐色砂　701204」	54
159	13	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	□	－	「e819　灰褐粘土　701118」	80

挿図番号		種別	器種	部位	内容		時期	注記	山陰文字集成
159	14	須恵器	坏	底部外面	墨書	國□		不明	
159	15	須恵器	皿	底部外面	墨書	清	ⅣA	「CK15　灰色バラス　701117」	62
159	16	須恵器	坏	底部外面	墨書	上		「BL28　褐色砂　701204」	
159	17	須恵器	蓋	頂部内面	墨書	爪		「CH20　灰黒土　701111」	
159	18	須恵器	蓋	頂部内面	墨書	官	－	「CJ21　黄褐色砂真上　701117」	68
159	19	須恵器	皿	底部外面	墨書	舎人	ⅣA	「K21　黒褐色粘土　701116」	66
159	20	須恵器	坏	底部外面	墨書	□	ⅣA	「AR11　黄褐色砂　691127」	63
159	21	須恵器	坏	体部外面横位	墨書	月	－	「AR23　灰色粘土　701105」	76
159	22	須恵器	坏	底部外面	墨書	厨カ		「AS21　黒色上　681129」	
159	23	須恵器	坏	底部外面	墨書	國厨	－	「RL32 黄褐色上中R　681113」	75
159	24	須恵器	坏	底部外面	墨書	□	Ⅳ	「6X1M」	73
159	25	須恵器	皿	底部外面	筆描え			「AS20　暗灰色土　6912061」	
159	26	須恵器	坏	底部外面	墨書	里□	－	「CM24 灰黒色粘土(凹)　701125」	77
159	27	白磁	皿	底部外面	墨書	毛・－	中世	「6X1Q　JQ97　バラス　691119」	84
159	28	須恵器	皿／坏	底部外面	墨書	□〔国カ〕	Ⅳ	「AQ11　黒灰粘土　691129」	78
159	29	須恵器	坏	底部外面	墨書	器	ⅣA	「6X1M」	57
159	30	須恵器	皿	底部外面	墨書	賀	ⅣA	「AS10or19　バラス　691124」	58
159	31	須恵器	坏	底部外面	墨書	爪	ⅣA	「AL16　灰色砂R　691113」	60
159	32	須恵器	坏	底部外面	墨書	□〔孝カ〕	ⅣA	「AK15　黄褐色土　691111」	59
159	33	須恵器	不明	底部外面	刻書	社邊	－	「6X1Q　TM92　バラス　691118」	81
159	34	須恵器	坏	底部外面	刻書	甲		「CK14　灰色バラス　701117」	
159	35	須恵器	坏	底部外面	刻書	白	Ⅲ	「AN18　バラス　691102」	72
159	36	須恵器	皿	底部外面	刻書	邊		「CJ18　灰色バラス上　701116」	
159	37	須恵器	壷	底部外面	刻書	＃		「BP37 バラス上R　681117」	23
159	38	須恵器	坏	底部外面	刻書	由	Ⅳ	「AP17 黄褐色　691113」	79
159	39	須恵器	蓋	頂部内面	刻書	白	－	「CL14 黒色上　701119」	21
159	40	須恵器	小片	底部外面	刻書	大	－	「CJ14 灰色バラス　701113」	70
159	41	須恵器	蓋	頂部外面	刻書	大	ⅣB	「CL12　暗褐砂　691202」	69
159	42	須恵器	高坏	坏部外面	刻書	大		「黒色土 701117」	
159	42	須恵器	蓋	頂部内面	刻書	苗代	ⅣB	「AR22　黄褐色　701104」	65

お、黒漆をかけた漆器（155－22）が１点のみ確認されている。

木製品　曲物、鋤先、櫛、しゃもじの他、溝跡を中心に用途が不明な木製品が出土している。棒状の木製品の中には箸と考えられるものもある。大舎原地区からは文書箱など官衙の性格を現す遺物が出土しており（島根県2001）、柱根も含めた樹種同定を行い、木製品の用途や遺構の性格を解明していく必要がある。

金属器生産関係遺物（第170図）　金属器生産遺物は羽口、坩堝、取瓶、鉄滓などが各地区から出土している。鉄器生産だけでなく、羽口や坩堝に残存する滓から銅製品の鋳造が行われていたことは明らかである。また、第19表のとおり椀形鍛冶滓を始め鉄滓や155－11の大型の鉄素材が出土し、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶が行われていた。出土地点を見ると遺構ではSD004～006、SD045から出土している。包含層ではSD005の周辺、特にCK17グリッド付近から出土している。A、C区の建物周辺での出土量は少なく、主要建物の周辺から出土する傾向がある。また、六所脇地区上層からは平安時代後期と考えられる炉跡（SK123）が確認されている。炉跡の近くであるIP11、IQ10グリッドからは再結合滓が多く出土している。六所脇地区の上層と下層では遺構の性格が変化していると考えられ、生産関係遺物の時期やその自然科学分析を含めた詳細な検討を行い、国府の手工業生産の管理運営の実態に迫る必要がある。

玉生産関係遺物　玉生産関連遺物は水晶、碧玉、瑪瑙、カド石、頁岩・滑石の石材や筋砥石がある。出土状況にまとまりはなく、各地から出土している。筋砥石はSD004、005、010、017、034、045から出土し、破損しているものが多い。筋砥石の規模を完存品でみると長さ30㎝以上、重さ７kg以上の大型とそれ以下のものに分かれる可能性がある。その違いについて明確な説明はできず、類例の増加に期待したい。頁岩・滑石製品の生産について国府では出土状況に不明な点が多いこと、類例が少ないこと（島根県2004）など古代に生産が行われていたか不明である。（守岡）

（５）文字資料（第171図）

文字資料は宮の後地区から出土している。木簡14点、墨書土器60点、刻書土器21点が確認され、詳細な検討は出土地点を含め、山陰古代文字資料集成（島根県2003）で行われている。しかし、一部追加訂正等があり、注記等を再検討し、確実に出雲国府跡から出土したものを第20表にまとめた。

木簡はSD004とSD034から出土し、墨書・刻書土器は、供膳具が多量に出土したSD005やSD010から比較的まとまって出土している。「国厨」「厨」「国」「駅」など施設や機能を、「三太三」「由」

第21表　緑釉陶器集計表

	9C前半～中	9C中	9C末～10C初	9C後半	9C後半～10C前半	10C前半	10C中以降	10C中～後半	10C後半	10C	9C～11C	不明	計
東海			2									2	4
近江							2	2	3	2		26	35
京都	1		1	7	4		1					3	17
京都　壺												1	1
京都？				1									1
篠						2						5	7
香炉										1			1
蓋												1	1
不明		1									1	7	9
	1	1	3	8	4	2	3	2	3	3	1	45	76

第22表　陶磁器集計表

		樋ノ口地区	一貫尻地区	六所脇地区	宮の後地区					不明	計
					A区	B区	C区	D区	J区		
白磁	Ⅲ Ⅱ・Ⅲ類				4						4
白磁	Ⅲ Ⅱ・Ⅳ類				4						4
白磁	Ⅲ Ⅱ－１類				9	1			3		13
白磁	Ⅲ Ⅱ類				6	6	3			2	17
白磁	Ⅲ Ⅲ類				3	1					4
白磁	Ⅲ Ⅳ－２類				1	1					2
白磁	Ⅲ Ⅳ類				4		2				6
白磁	Ⅲ Ⅳ類？				3				1	1	5
白磁	Ⅲ Ⅴ－２類								1		1
白磁	Ⅲ Ⅴ類				2						2
白磁	Ⅲ Ⅵ－１ａ類				1	1		2			4
白磁	Ⅲ Ⅵ－１類				1				2		3
白磁	Ⅲ Ⅵ－２類				3			1	1		5
白磁	Ⅲ Ⅵ類				10	5	3		3	3	24
白磁	Ⅲ Ⅶ－１ｂ類				1						1
白磁	Ⅲ Ⅶ－２類					1					1
白磁	Ⅲ Ⅶ類				2	2					4
白磁	Ⅲ Ⅹ Ⅰ類				1	2					3
白磁	広東系Ⅲ(平底)		2		15	7		1	1		26
白磁	福建系Ⅲ				1	1					2
白磁	碗Ⅱ類		4		22	16	7		1		50
白磁	碗Ⅳ～Ⅶ類		2		19				1	3	25
白磁	碗Ⅳ類		12	3	80	58	15	7	6	12	193
白磁	碗Ⅴ～Ⅶ類		1								1
白磁	碗Ⅴ～Ⅷ類(外反)		1		4	2					7
白磁	碗Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ類(直口)				1	1			1		3
白磁	碗Ⅴ・Ⅶ類		1		1						2
白磁	碗Ⅴ・Ⅷ類				1						1
白磁	碗Ⅴ－１類								1		1
白磁	碗Ⅴ－１ｂ類				1						1
白磁	碗Ⅴ－２ｂ類				3	1	1			3	8
白磁	碗Ⅴ－２類				4					2	6
白磁	碗Ⅴ－３類				3						3
白磁	碗Ⅴ－４ｂ類				1	1					2
白磁	碗Ⅴ－４ｃ類							2			2
白磁	碗Ⅴ-4・Ⅷ-3類(屈折)				9	7	2			1	19
白磁	碗Ⅴ類				11	5			1	2	19
白磁	碗Ⅵ・Ⅶ類				1						1
白磁	碗Ⅷ類		1		3						4
白磁	碗Ⅹ Ⅰ類				2	1			1		4
白磁	碗Ⅹ Ⅰ－４類				1						1
白磁	碗Ⅹ Ⅱ・Ⅹ Ⅲ類				3	3				1	7
白磁	碗Ⅹ Ⅱ－１ａ類				2						2
白磁	碗Ⅹ Ⅱ－１ｂ類？									1	1
白磁	碗Ⅹ Ⅱ類				1						1
白磁	碗Ⅹ Ⅲ類				3					1	4
白磁	碗直口縁				1	4	3			2	10
白磁	広東系碗				7	1	1		1		10
白磁	福建系碗		9		57	56	10	6	3	13	154
白磁	森田Ｄ類				1	1		1			3
白磁	森田Ｅ類				1						1
白磁	白磁碗				2						2
白磁	鉢？				2						2
白磁	小碗					1	1				2
白磁	合子身				1						1
白磁	蓋				1						1
白磁	壺・水注類Ⅱ系					1	2				3
白磁	壺・水注類Ⅲ系				46	27			1	2	76
白磁	壺・水注		1		4	1	2				8
白磁	小壺Ⅱ系				1						1
白磁	小壺Ⅲ系					1	1				2
白磁	広東系		1		8	11	4			2	26
白磁	福建系					2					2
白磁	白磁片		1		29	3			2	1	36

		樋ノ口地区	一貫尻地区	六所脇地区	宮の後地区					不明	計
					A区	B区	C区	D区	J区		
青磁	越州窯系碗・壺				1		1				2
青磁	越州窯系小碗						1				1
青磁	越州窯系碗Ⅰ・Ⅱ類				4					1	5
青磁	越州窯系碗Ⅰ－１類				1						1
青磁	越州窯系碗Ⅰ－２ｂ類				1						1
青磁	同安窯系Ⅲ Ⅰ－２類			1	3	2			1		7
青磁	同安窯系Ⅲ Ⅰ類				1						1
青磁	同安窯系Ⅲ		1		3	4				1	9
青磁	同安窯系碗				4	1	1				6
青磁	盤					1					1
青磁	龍泉窯系碗Ⅰ－２類				2	1					3
青磁	龍泉窯系碗Ⅰ－４類				3	1					4
青磁	龍泉窯系碗Ⅰ類				10	12	2				24
青磁	龍泉窯系碗Ⅱｂ類			2	7	2	1	1		1	14
青磁	龍泉窯系碗Ⅲ類				3						3
青磁	龍泉窯系碗Ⅳ類以降				4	1	1			2	8
青磁	龍泉窯系碗Ｄ・Ｅ類						2				2
青磁	龍泉窯系碗Ｄ類				5	1				2	8
青磁	龍泉窯系碗Ｅ類						1				1
青磁	龍泉窯系碗人形手					1					1
青磁	龍泉窯系碗Ｂ４類									1	1
青磁	龍泉窯系碗					3	1				4
青磁	青磁碗				1						1
青磁・白磁	不明				2						2
青白磁	碗・Ⅲ				2	1					3
青白磁	合子身				1						1
青白磁	小壺				1				1		2
青白磁	不明				1						1
青花	碗				1						1
中国陶器	褐釉壺				5	2		1			8
中国陶器	壺Ⅴ類				1						1
中国陶器	壺Ｂ群					4					4
中国陶器	天目茶碗					1					1
中国陶器	盤Ⅰ類		1								1
中国陶器	盤				3	3					6
灰釉陶器	灰釉陶器碗Ⅲ K90			1							1
灰釉陶器	10C以降					5		1			6
灰釉陶器	碗・Ⅲ				3				1	1	5
灰釉陶器	灰釉陶器壺	1					10			1	12
緑釉陶器	近江			4	28		1			2	35
緑釉陶器	京都			8	2	2	2		1	1	16
緑釉陶器	京都　壺				1						1
緑釉陶器	篠			4	2			1			7
緑釉陶器	東海			1	3						4
緑釉陶器	香炉					1					1
緑釉陶器	蓋						1				1
緑釉陶器	不明				6	1		1		3	11
瓦器椀	楠葉型					1					1
日本陶器	瓷器系陶器甕				26	19					45
日本陶器	古瀬戸Ⅲ					1					1
日本陶器	須恵器鉢					1					1
日本陶器	備前壺									3	3
日本陶器	備前甕						1				1
日本陶器	備前擂鉢					1				1	2
日本陶器	備前壺							1			1
日本陶器	陶器			1	1	1	1	1			5
計			36	3	408	232	57	20	31	52	839

「白田」など地名を表現していると考えられる資料がある。「国厨」がＢ区から出土し、他の多くがＣ区を中心に出土していることは遺構の性格を考える上で重要であろう。墨書される器種は壺（139－18）、白磁（159－27）以外は須恵器供膳具と著しく偏っている。時期的には第４形式を中心とした時期である。墨書・刻書土器は未整理遺物から発見される可能性は高く、継続して整理を行う必要がある。（守岡）

（６）陶磁器

緑釉陶器（第21、22表）　緑釉陶器は六所脇地区17点、宮の後地区53点（うちＡ区42点）、不明６点計76点出土している。その大半が近江系であり、10世紀後半以降のものである。大舎原地区では９世紀後半から10世紀前半が多く、地区により使用時期が異なっている。緑釉陶器を使用した饗宴を行う施設が時期ごとに移動していると考えられる。しかし、六所脇地区や宮の後地区では、その時期の建物を明らかにすることはできていない。山陰地域では鳥取市因幡国府跡72点、同市岩吉Ⅳ遺跡53点、浜田市横路遺跡原井ヶ市地区31点、津和野町高田遺跡39点が知られている（榊原2003）。緑釉陶器の産地は生産時期と密接な関係がある。出雲国府跡では９世紀から10世紀前半では猿投や京都系が、10世紀以降は近江系が多い。一方、石見地域では地理的要因もあるが防長系が多い。緑釉陶器が平安京経由でもたらされたものか、それ以外もあったのかなど、緑釉陶器から当時の流通経路や使用形態などの復元ができる可能性がある。

貿易陶磁（第21表）　出雲国府跡からは初期貿易陶磁をはじめ、11世紀後半以降の中国製白磁を中心に貿易陶磁が出土している。調査面積が異なり直接比較できないが、大舎原地区、日岸田地区、宮の後地区から白磁が千点強出土していることから、国衙衰退後も周辺には施設が存在していることは明らかである。出土密度は大舎原地区では１㎡あたり0.4点、１点あたり2.4㎡あったが、宮の後地区の白磁の出土密度は１㎡あたり0.24点（748点÷約3,100㎡）、１点あたり4.14㎡である。同時期の陶器類を含めておらず、大舎原地区と比べ出土量が少ない数値となっている。しかし、貿易陶磁の中心である中国製白磁では、小分類まで行うと種類が多く多様な器種が使用されていることが判明し、大舎原地区と同様出雲国府跡の特徴となる（山本2007）。また、青白磁や白磁合子、壺・水注類もまとまっている。出雲国府跡出土遺物だけでは比較できず、意宇平野をはじめ周辺の遺跡と出土量や種別の比較を行い、平安時代後期の遺跡の実態、しいては、国衙域衰退後の官人の活動実態を解明する必要がある。（守岡）

注

（１）土錘の分類（第166図）　土錘Ａ：大型で、円筒状を呈し、両端と中央の太さの差が小さいもの　土錘Ｂ：管状で、中央が脹らむが両端との差は小さいもの　土錘Ｃ：管状を呈し、細身で、中央が脹らみ両端に面をもたないもの

（２）八雲村教育委員会1996『青木ゆうゆう住まいづくり事業に伴う青木遺跡第Ⅰ調査区終了報告』
なお、『史跡出雲国府跡４』27－４は、宝珠つまみをもち、つまみの外側に環状突帯をめぐらせる資料であるが、本報告資料と比べ、焼成・胎土が異なるため、ここでは別系統のものとみなしている。

（３）口縁部にかえりを有する蓋のうち、宝珠状・ボタン状つまみをもつ資料の口径の平均が9.8㎝（ｎ＝８）で、輪状つまみをもつ資料の口径の平均が13.4㎝（ｎ＝９）となる。

（４）定形硯について、昭和調査出土品と平成11年度以降調査出土品との接合を試みた。その結果、接合はできなかった。
なお、『史跡出雲国府跡１』62－202と『史跡出雲国府跡３』54－１が接合した。

（５）この他に、『史跡出雲国府跡４』90－１のように、脚端部を玉縁状に肥厚させるものも出土している。

（6）転用硯の点数は実測資料の点数で、未整理の資料は含まれていない。

参考文献

浜田耕作・島田貞彦・梅原末治1927『出雲上代玉作遺物の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第10冊

近藤　正1968ａ「出土品　四　玉作関係遺物」『島根県文化財調査報告書　第５集』島根県教育委員会

近藤　正1968ｂ「寺跡　五　六所神社附近出土の古瓦その他」『島根県文化財調査報告書第５集』島根県教育委員会

町田　章1970「出雲国庁跡の調査」『奈良国立文化財研究所年報』奈良国立文化財研究所

松江市教育委員会1971『出雲国庁跡発掘調査概報』

町田　章1975「古代官衙跡　出雲国庁跡」『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会

前島己基1975「古代寺院跡」『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会

島根県教育委員会1975ａ『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』

島根県教育委員会1975ｂ『史跡出雲国府跡環境整備報告書』

町田　章・池田満雄・甲斐忠彦1977「出雲国府跡の調査とその成果」『日本考古学協会昭和52年度大会研究発表要旨』日本考古学協会

池田満雄1978「国府跡をめぐる諸問題」『季刊文化財　第32号』

町田　章1981「島根県出雲国庁の発掘調査」『日本考古学年報21・22・23』日本考古学協会

蓮岡法暲・西尾克己1985「仁多　カネツキ免遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書XI』島根県教育委員会

西　弘海1986『土器様式の成立とその背景』

新納　泉1987「戊辰年銘大刀と装飾大刀の編年」『考古学研究　第34巻第３号』

島根県教育委員会1988『土地改良総合整備事業に伴う史跡出雲国府跡発掘調査報告書』

鬼頭清明1989「島根・出雲国庁跡」『木簡研究　第11号』

松江市教育委員会1989『芝原遺跡』

馬淵久夫・平尾良光1989「出雲国庁跡出土「和銅開珎」の科学的調査」『八雲立つ風土記の丘　№96』

平尾良光1989「出雲国庁跡出土分銅の原料産地推定」『八雲立つ風土記の丘　№99』

平野芳英1989ａ「銀銭「和銅開珎」について」『八雲立つ風土記の丘　№96』

平野芳英1989ｂ「出雲国庁跡出土分銅について」『八雲立つ風土記の丘　№99』

山本　清1991「第五　出雲」『新修国分寺の研究　第四巻　山陰道と山陽道』

松山智弘1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌　第８集』

林部　均1992「律令国家と畿内産土師器」『考古学雑誌　第77巻第４号』

国立歴史民俗博物館1993『国立歴史民俗博物館資料調査報告書４』

山中敏史1994『古代地方官衙の研究』

平石　充1995「出雲国庁跡出土木簡について」『古代文化研究　第３号』

勝部　昭・西尾克己1996「出雲国」『国府－畿内・七道の様相－』日本考古学協会三重県実行委員会

池田満雄1996「出雲国庁跡出土木簡再考（１）」『八雲立つ風土記の丘　№136』

西尾克己・守岡正司1996「出雲国庁跡出土陶磁器について（１）」『八雲立つ風土記の丘　№141』

八雲村教育委員会1996『青木ゆうゆう住まいづくり事業に伴う青木遺跡第Ⅰ調査区終了報告』

西尾克己・守岡正司1997「出雲国庁跡出土陶磁器について（２）」『八雲立つ風土記の丘　№145』

平石　充1997「福富Ⅰ遺跡出土のへら書き土器について」『福富Ⅰ遺跡・屋形１号墳』島根県教育委員会

島根県教育委員会1999『三田谷Ⅰ遺跡（vol.１）』

玉湯町教育委員会1999『蛇喰遺跡』

井上寛司1999「出雲国府と中世出雲府中」『季刊文化財　第92号』

太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV』

林　健亮2000「灯明皿型土器から見た仏教関係遺跡」『出雲古代史研究　第10号』

柳浦俊一2001「出雲国府の発見」『八雲立つ風土記の丘　№166』

吉村靖徳2001「大宰府学校院出土衡器の一例」『九州考古　第75号』

角田徳幸2003「出雲国府跡の発掘調査」第14回出雲古代史研究会資料

肥塚隆保2003「出雲国府跡出土分銅の非破壊調査」『史跡出雲国府跡－１－』島根県教育委員会

山中敏史2003「官衙建物の平面形式」『古代の官衙遺跡　Ⅰ遺構編』

平石　充2003「文字資料（墨書土器）の時期に関して」『山陰古代文字資料集成Ⅰ』島根県古代文化センター

榊原博英2003「山陰地方の古代土器」『中近世土器の基礎的研究XVII』

島根県古代文化センター2003「山陰古代出土文字資料集成Ⅰ」『島根県古代文化センター調査研究報告書　14』

島根県教育委員会2003ａ『史跡出雲国府跡－１－』
島根県教育委員会2003ｂ『古志本郷遺跡Ⅴ』
林　健亮2004「出雲国府跡の発掘調査　平成15・16年度を中心に」『八雲立つ風土記の丘　№179』
島根県古代文化センター2004「古代出雲における玉作の研究Ⅰ－中国地方の玉作関連遺跡集成－」『島根県古代文化センター調査研究報告書　22』
島根県教育委員会2004『史跡出雲国府跡－２－』
平田市教育委員会2004『木舟窯跡群』
林　健亮2005「史跡出雲国府跡出土の土器について」『平安時代前期の土器様相』山陰中世土器検討会
大社町教育委員会2005『鹿蔵山遺跡』
島根県教育委員会2005『史跡出雲国府跡－３－』
林　健亮2006「ここまでわかった！出雲国府」第392回風土記の丘教室資料
島根県教育委員会2006ａ『史跡出雲国府跡－４－　日岸田地区の発掘調査１』
島根県教育委員会2006ｂ『青木遺跡Ⅱ（弥生～平安時代編）』
山本信夫・山本麻里子2007「山陰の出土貿易陶磁と傾向　集落における消費形態及び北部九州と日本海流通に関する基礎的検討」『波原遺跡・森広遺跡・片山遺跡』下関市文化財調査報告書25
伊藤　智2007「出雲国府跡－近年の発掘調査から－」第18回中・四国古代史研究会発表資料
間野大丞2007「出雲国府跡の発掘調査」平成19年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会資料

第３表　出雲国府跡遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
9－1	9	35号土坑	土師器	坏	13.2	5.0	5.5	ユビオサエ	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	黄橙色	
9－2	9	35号土坑	土師器	壷	－	2.8	－	ハケ	－	良好	外：浅黄橙色～橙色 内：橙色	
9－3	9	35号土坑	土師器	壷	15.7	－	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
9－4	9	35号土坑	土師器	壷	21.8	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
9－5	9	35号土坑	土師器	高坏	17.1	－	－	ハケ	1～3㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
9－6	9	35号土坑	土師器	高坏	－	12.8	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰白色 内：浅黄橙色	
11－1	9	36号土坑	土師器	高坏	－	－	－	ハケ、タテ方向のミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	橙色	
11－2	9	36号土坑	土師器	高坏	7.3	4.0	7.4	ユビオサエ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡橙色	
11－3	9	36号土坑	土師器	高坏	18.6	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
11－4	9	36号土坑	土師器	高坏	－	11.0	－	不明	2㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰白色 内：橙色	
14－1	10	62号溝	弥生土器	壷ヵ甕ヵ	－	8.0	－	不明	2～3㎜大の砂粒を多く含む	良好	灰白色	
14－2	10	62号溝	土師器	甕	15.6	－	－	ヘラケケズリ	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙色	
14－3	10	62号溝	土師器	皿ヵ	－	10.2	－	回転ナデ、ナデ	密、白色細砂粒を僅かに含む	良好	橙赤色～淡褐色	内外面赤彩
14－4	10	62号溝	土師器	皿ヵ	－	－	－	不明、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	内：浅黄橙色	内：摩滅 外：赤彩
14－5	10	62号溝	須恵器	蓋	14.1	－	－	回転糸切り、回転ナデ	密、細～1㎜の白色砂粒を少し含む	良好	橙灰色	
14－6	10	62号溝	須恵器	蓋	19.9	－	－	回転ナデ	密、白色細砂粒、砂粒を含む	良好	灰白色	
14－7	10	62号溝	須恵器	蓋	－	12.7	－	回転削り、回転ナデ	密、黒、白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
14－8	10	62号溝	須恵器	蓋	12.5	－	－	回転ナデ	やや密、細～1㎜程度の白色、砂粒を多く含む	良好	明灰色	
14－9	10	62号溝	須恵器	坏	18.9	－	－	回転ナデ	やや密、2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
14－10	10	62号溝	須恵器	坏	13.5	8.9	3.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、白色細砂粒、砂粒を多く含む	良好	明灰色	
14－11	10	62号溝	須恵器	坏	－	8.4	－	回転ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
14－12	10	62号溝	須恵器	高坏	－	14.7	－	回転ナデ	やや密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒をやや含む	良好	明灰色～灰白色	
14－13	10	62号溝	須恵器	甕	－	－	－	頸部ナデ、以下平行叩き	4㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰白色 中：灰色	
14－14	10	62号溝	須恵器	壷ヵ瓶ヵ	－	－	－	回転ナデ、ナデ	やや密、1㎜以下の砂粒白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
14－15	10	62号溝	須恵器	圏脚円面硯	－	－	23.8	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
14－18	10	67号溝	須恵器	坏蓋	14.8	－	－	頂部、回転ヘラケズりのちナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
14－19	10	67号溝	須恵器	坏	－	－	－	ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	
14－20	10	67号溝	土師器	皿	10.4	5.0	2.2	－	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：橙色 内：淡橙色	風化摩滅のため不明
14－21	10	67号溝	土師器	坏	－	6.4	－	不明	密	良好	外：灰白色 内：褐灰色	
14－22	10	67号溝	土師器	坏（高台付）	－	7.2	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
14－23	10	67号溝	土師器	坏（高台付）	－	－	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
16－1	10	37号土坑	土師器	皿	－	－	－		緻密	良好	削り落とし浅黄橙色	風化剥落、内外面赤彩
16－2	10	37号土坑	須恵器	坏　蓋ヵ	－	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
16－3	10	38号土坑	須恵器	皿	13.0	－	－	回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
16－4	10	38号土坑	須恵器	皿	14.0	－	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
16－5	10	38号土坑	須恵器	壷ヵ甕ヵ	－	－	－	平行叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	
16－6	10	38号土坑	須恵器	壷	－	9.3	－	下手は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	にぶい黄橙色	
18－1	10	ピット6	須恵器	蓋	－	－	－	ナデ、回転ナデ	やや密、細～1㎜の白色砂粒をやや含む	良好	灰白色	つまみ径1.9cm
18－2	10	ピット6	須恵器	坏	－	6.7	－	回転ナデ、回転糸切り	やや密、細～1㎜の黒色砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	
18－3	10	ピット6	須恵器	不明	－	13.7	－	回転ナデ	やや密、白・黒色砂粒をやや含む	良好	灰白色	
18－4	10	ピット6	製塩土器	－	－	－	－	ナデ	やや粗、細～1㎜の砂粒を多く含む	良好	明褐色	
18－5	10	ピット6	精塩土器	－	－	－	－	ナデ	やや粗、細～3㎜の赤色砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
18－6	10	ピット6	瓦	丸瓦	－	－	－	(凹)布目圧痕	粗、2㎜以下の砂粒を多く含む	－	暗灰色	還元炎によりやや焼貫、凸凹両面表面は焼良
18－7	10	ピット6	須恵器	坏	20.4	－	－	回転ナデ	やや密、1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	明灰色	
18－8	10	ピット6	瓦	平瓦	－	－	－	(凹)布目圧痕	やや密、白色細砂粒～2㎜の砂粒をやや含む	－	灰白色	還元炎により土師質、離れ砂あり
18－9	10	ピット4	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	やや粗、細～1㎜の砂粒を含む	良好	明灰色	
18－10	10	ピット16	須恵器	坏（高台付）	－	6.6	－	回転ナデ、回転糸切り	密、白色細砂粒、細～1㎜の黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
18－11	10	ピット10	須恵器	蓋（つまみ）	－	－	－	回転ナデ	密砂粒、白色細砂粒を全体に含む	良好	橙灰色	
18－12	10	ピット1	瓦	丸瓦	－	－	－	縄目？（風化）	粗、2㎜以下の砂粒を多く含む	－	暗灰色～灰白色	還元炎によりやや軟質
18－13	10	ピット13	須恵器	蓋	13.0	－	－	回転ナデ、ナデ	やや密、細～2㎜の砂粒を少し含む	良好	明灰色～暗灰色	
18－14	10	ピット13	須恵器	坏	13.6	－	－	回転ナデ	密、白、黒色細砂粒を少し含む	やや不良	灰白色	
18－15	10	ピット12	須恵器	坏	13.4	－	－	回転ナデ	密、白色砂粒を多く含む	良好	橙色	
18－16	10	ピット12	土師器	甕	18.0	－	－	ナデ、ヨコナデ	粗、白色細砂粒～1㎜程度の砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
18－17	10	ピット18	土師器	坏	23.7	－	－	ナデ	やや密、細～1㎜の白色の砂粒を少し含む	良好	橙色	赤色顔料塗布
18－18	10	ピット18	須恵器	坏	11.9	－	－	回転ナデ	やや密、細～1㎜白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
18－19	10	ピット18	須恵器	坏	－	7.8	－	回転ナデ、回転糸切り	やや密、細～1㎜白色砂粒を多く含む	良好	明灰色～暗灰色	
18－20	10	ピット18	瓦	平瓦	－	－	－	凸、削り	やや粗、2㎜以下の黒色砂粒を少し含む	良好	暗灰色～淡白色	還元炎によりやや軟質
18－21	10	ピット73	須恵器	蓋	16.1	－	－	頂部、回転ヘラケズリ	3㎜大のレキ含む	良好	灰色	
18－22	10	ピット72	須恵器	蓋	17.6	－	－	回転ナデ	2㎜角大の砂粒含む	良好	灰白色	
18－23	10	ピット72	須恵器	皿	－	20.4	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	灰白色	
18－24	10	ピット72	土師器	坏	－	－	－	－	微密	良好	内：漆 外：赤色塗彩	漆付着
18－25	10	ピット43	須恵器	甕	－	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：青黒色 内：灰色	波状文
18－26	10	ピット3	須恵器	坏	－	－	－	ナデ	2×4㎜角の白色レキ含む	良好	灰色	
18－27	10	ピット49	須恵器	坏	－	8.6	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	黒色	
18－28	10	ピット67	須恵器	長頸壺	13.6	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：オリーブ黒色 内：灰色	
18－29	10	ピット5	須恵器	坏	－	9.0	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
18－30	11	ピット89	須恵器	坏	－	6.9	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：黒色 内：灰白色	
18－31	11	ピット	須恵器	甕	－	－	－	頸部ヨコナデ、体部平行叩きのちカキメ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	灰色	
18－32	11	ピット47	土師器	柱状高台	－	5.0	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
18－33	10	ピット28	土師器	皿	－	3.3	－	不明、(底)回転糸切り	微密	良好	灰白色	
18－34	10	ピット12	土師器	坏	－	6.1	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－1	11	道路遺構（盛り土中）	土師器	皿	7.6	2.9	2.4	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－2	11	道路遺構（盛り土中）	土師器	坏（高台付）	－	6.2	－	ナデ	2～3㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－3	11	2号溝周辺	瓦	軒丸瓦	－	－	－	－	1～2㎜大の砂粒を含む	－	黒色	
20－4	11	2号溝周辺	土師器	坏	8.4	3.6	1.8	回転ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	浅黄橙色	
20－5	11	2号溝周辺	土師器	坏	8.8	3.6	2.4	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－6	11	2号溝周辺	土師器	皿	9.1	3.7	2.2	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
20－7	12	2号溝周辺	土師器	坏	－	5.0	－	ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	浅黄橙色	
20－8	12	2号溝周辺	土師器	坏	－	6.4	－	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：褐灰色 内：灰白色	
20－9	12	2号溝周辺	土師器	坏（柱状高台）	9.5	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：黄橙色 内：浅黄橙色	油煙付着
20－10	11	2号溝周辺	土師器	坏（柱状高台）	－	5.1	－	不明	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－11	11	2号溝周辺	土師器	坏（柱状高台）	－	5.9	－	(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
20－12	12	2号溝周辺	土師器	坏ヵ（柱状高台）	－	8.8	－	ナデ、(底)回転糸切り	1～3㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－13	12	2号溝周辺	須恵器	鉢	－	－	－	－	2～3㎜大の砂粒を含む	良好	褐灰色	東播系
20－14	12	2号溝周辺	白磁	碗	－	－	－	－	－	－	灰白色	広東系
20－15	12	2号溝周辺	白磁	碗	－	－	－	－	密	良好	灰白色	広東系
20－16	12	2号溝周辺	白磁	碗	－	－	－	－	密	良好	灰白色	広東系
20－17	12	2号溝周辺	白磁	皿	12.2	5.2	3.0	－	黒色微砂混ざる	良好	灰白色	Ⅵ類
20－18	12	2号溝周辺	須恵器	坏（高台付）	－	8.4	－	ナデ、(底)回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
20－19	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.7	4.3	1.9	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－20	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.5	3.8	2.0	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－21	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.1	3.7	2.1	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－22	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.7	3.7	2.0	不明、(底)回転糸切り	－	良好	浅黄橙色	
20－23	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.8	3.9	1.8	不明、(底)回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－24	12	2号溝周辺	土師器	坏	8.6	3.7	2.4	不明、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－25	12	2号溝周辺	土師器	坏（柱状高台）	－	8.0	－	不明	4×7㎜以上のレキ含む	良好	褐灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
20－26	12	69号溝	土師器	坏	8.4	3.0	1.9 －1.4	ナデヵ、(底)回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－27	12	69号溝	土師器	坏	－	4.8	－	ナデ、(底)回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
20－28	12	69号溝	土師器	坏	－	5.4	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－29	12	69号溝	土師器	坏	－	5.2	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
20－30	12	69号溝	土師器	坏	－	5.6	－	ナデ、(底)回転糸切り	－	良好	灰白色	
20－31	12	69号溝	土師器	皿（高台付）	－	5.2	－	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
20－32	12	69号溝	白磁	皿	10.9	－	－	－	－	－	浅黄色	Ⅱ類
20－33	12	69号溝	白磁	碗	－	－	－	－	－	－	灰白色	Ⅱ類
22－1	13	10号井戸	弥生土器	甕	13.9	－	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰褐色 内：浅黄橙色	
22－2	13	10号井戸	土師器	坏	12.7	8.0	3.6	不明	密	良好	浅黄橙色	内外面、赤色顔料塗布。風化摩滅
22－3	13	10号井戸	須恵器	蓋	15.0	－	－	頂部糸切り、肩部回転ヘラケズり、回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	褐灰色	
22－4	13	10号井戸	須恵器	蓋	17.4	－	－	回転ナデ	5㎜角のレキ混ざる	良好	外：明褐灰色 内：褐灰色	
22－5	13	10号井戸	須恵器	蓋	19.0	－	－	回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
22－6	13	10号井戸	須恵器	坏（身）	15.4	9.3	6.2	回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：黒色 内：灰色	
22－7	13	10号井戸	須恵器	皿	－	16.0	－	(底)回転糸切り	－	やや不良	灰白色	
22－8	13	10号井戸	土師器	皿	7.7	3.7	1.4	不明	2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－9	13	10号井戸	土師器	皿	7.6	3.6	2.2	ナデ	3㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
22－10	13	10号井戸	土師器	坏	17.6	－	－	回転ナデ	緻密	良好	浅黄橙色	
22－11	13	10号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台付）	－	4.6	－	ナデ、底部回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－12	13	10号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	5.4	－	(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
22－13	13	10号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	5.8	－	－	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－14	13	10号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	5.4	－	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－15	13	10号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	5.4×5.8	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	黄橙色	
22－16	13	10号井戸	土師器	皿（柱状高台）	8.8	4.4	7.6	ナデ、回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－17	13	10号井戸	土師器	皿（柱状高台）	13.0	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	橙色	
22－18	13	10号井戸	白磁	皿	－	－	－	－	黒色微砂含む	良好	灰白色	福建省系
22－19	13	10号井戸	白磁	皿	－	－	－	－	密	－	灰白色	Ⅳ類
22－20	13	10号井戸	白磁	不明	－	－	－	－	密	良好	灰白色	内面に白堆線
22－21	13	10号井戸	製塩土器	－	－	－	－	ナデ、オサエ	密	良好	浅黄橙色	
22－22	13	11号井戸	土師器	皿	7.9	3.2	2.0	不明	2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－23	13	11号井戸	土師器	皿	－	5.4	－	ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	褐灰色	灯明皿ヵ
22－24	13	11号井戸	土師器	坏	－	6.0	－	不明	密	良好	外：浅黄橙色 内：灰白色	
22－25	13	11号井戸	土師器	坏	－	7.4	－	ナデ	密	良好	浅黄橙色	
22－26	13	11号井戸	土師器	坏	－	7.4	－	不明	2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
22－27	13	11号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	4.6	－	－	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
22－28	13	11号井戸	土師器	皿ヵ坏ヵ（柱状高台）	－	3.9	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	褐灰色	
22－29	13	11号井戸	白磁	碗	16.6	－	－	玉縁口縁	黒色微砂含む	良好	灰白色	Ⅱ類
22－30	13	11号井戸	白磁	碗	－	3.2	－	－	黒色微砂含む	良好	灰白色	Ⅳ類
22－31	13	39号土坑	土師器	坏	－	3.6	－	－	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
24－1	14	12号井戸	土師器	皿	8.8	3.8	2.1	回転ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－2	14	12号井戸	土師器	皿	9.0	3.9	1.9	回転ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－3	16	12号井戸	土師器	皿	8.8	3.7	2.2	回転ナデ	緻密	良好	浅黄橙色	
24－4	14	12号井戸	土師器	皿	8.8	4.0	2.1	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、砂粒をやや含む	良好	浅黄橙色	
24－5	14	12号井戸	土師器	皿	8.8	4.0	2.1	回転ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	浅黄橙色	
24－6	14	12号井戸	土師器	皿	8.9	4.0	1.9	回転ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	浅黄橙色	
24－7	14	12号井戸	土師器	皿	9.0	3.8	1.9	回転ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	灰白色	
24－8	14	12号井戸	土師器	皿	9.0	4.3	2.3	ナデ、(底)回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
24－9	14	12号井戸	土師器	皿	9.3	3.3	2.2	回転ナデ、ナデ、(底)回転糸切り	2㎜大の砂粒を含む	良好	にぶい橙色	
24－10	14	12号井戸	土師器	皿	8.9	3.65	2.3	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、砂粒をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
24－11	14	12号井戸	土師器	皿	9.1	3.5	2.5	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒をやや含む	良好	浅黄橙色	
24－12	16	12号井戸	土師器	皿	9.3	－	－	回転ナデ	緻密	良好	浅黄橙色	
24－13	14	12号井戸	土師器	坏	14.3	5.5	4.35	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒をやや含む	良好	浅黄橙色	
24－14	14	12号井戸	土師器	坏	15.1	6.4	3.4	回転ナデ、(底)回転糸切り	密	良好	浅黄橙色	
24－15	15	12号井戸	土師器	坏	15.0	5.8	4.8	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り、回転ナデ	密、砂粒をわずかに含む	良好	浅黄橙色	
24－16	14	12号井戸	土師器	坏	13.0	5.5	4.7	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、２mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
24－17	16	12号井戸	土師器	坏	13.5	5.9	4.0	回転ナデ	緻密	良好	灰白色	
24－18	15	12号井戸	土師器	坏	－	6.0	－	回転ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－19	15	12号井戸	土師器	坏	－	6.0	－	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を含む	良好	褐灰色	
24－20	16	12号井戸	土師器	坏	－	6.0	－	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒をわずかに含む	良好	浅黄橙色	
24－21	16	12号井戸	土師器	坏	－	5.4	－	回転ナデ、後ナデ、回転糸切り	密、橙色砂粒をわずかに含む	良好	浅黄橙色	
24－22	14	12号井戸	土師器	坏(高台付)	－	－	－	ナデ	緻密	良好	浅黄橙色	
24－23	15	12号井戸	土師器	坏(高台付)	－	8.7	－	ナデ	緻密	良好	浅黄橙色	
24－24	16	12号井戸	土師器	皿(高台付)	10.2	－	－	ナデ	１mm以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
24－25	15	12号井戸	土師器	坏(柱状高台)	－	7.4	－	ナデ、(底)回転糸切り	１～２mm大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
24－26	15	12号井戸	土師器	皿(高台付)	－	7.5	－	ナデ、(底)回転糸切り	１～２mm大の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙色	
24－27	15	12号井戸	土師器	皿(高台付)	－	5.2	－	回転ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－28	15	12号井戸	土師器	皿(高台付)	－	5.4	－	回転ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－29	15	12号井戸	土師器	皿(高台付)	－	5.0	－	ナデ、(底)回転糸切り	１mm大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
24－30	15	12号井戸	土師器	皿(柱状高台付)	－	5.7	－	回転糸切り	やや密、１mm程度の赤色砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
24－31	15	12号井戸	土師器	皿(柱状高台付)	－	4.6	－	ナデ、回転糸切り	密、砂粒を全体に含む	良好	浅黄橙色	
24－32	15	12号井戸	土師器	皿(柱状高台付)	－	7.4	－	不明、(底)回転糸切り	１mm以下の砂粒を含む	良好	灰白色	煤付着
24－33	15	12号井戸	土師器	皿(柱状高台)	－	4.9	－	ナデ、(底)回転糸切り	緻密	良好	浅黄橙色	
24－34	16	12号井戸	土師器	鍋	－	－	－	ハケ後ナデ	１mm大の砂粒を含む	良好	明褐色	
24－35	16	12号井戸	黄釉陶器	盤	－	－	－	ヨコ、ナデ	密	良好	淡黄色	中国陶器Ｂ群
24－36	16	12号井戸	白磁	碗	－	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅴ～Ⅶ類
24－37	16	12号井戸	白磁	碗	18.3	－	－	－	黒色小砂粒含む	－		Ⅴ－２類
24－38	16	12号井戸	白磁	碗	－	5.4	－	－	緻密	良好	灰白色	Ⅴ類
26－1	17	N127E80	弥生土器カ	壺カ	－	－	－	不明	２～３mm大の砂粒を含む	良好	外：淺黄橙色 内：灰白～黒	口縁部内面に貼付突帯
26－2	17	N110E55	土師器	高坏	－	－	－	ヘラミガキ	１～２mm大の砂粒を含む	良好	橙色	
26－3	17	N125E70	土師器	蓋	14.2	－	2.9	(頂部)回転ヘラケズリのちナデ	４mm大のレキ含む	良好	浅黄橙色	赤色塗彩
26－4	17	N110E50	土師器	皿	－	(15.6)	－	不明	１mm以下の砂粒を含む	良好	外：黄橙色 内：	赤色顔料塗布
26－5	17	N125E75	土師器	皿	19.8	13.0	5.6	不明	１mm以下の砂粒を含む	良好	灰白色	赤色顔料塗布
26－6	17	トレンチ48	土師器	皿	25.0	－	－	ナデ	密、白色細砂粒を少し含む	良好	橙赤色～橙褐色	赤色顔料塗布
26－7	17	N125E75	土師器	甕	27.6	－	－	外：ハケ 内：頭部以下ヘラケズリ	１～３mm大の砂粒を含む	良好	外：橙色 内：にぶい橙色	
26－8	17	N110E50	土師器	竈	－	－	－	不明	１～２mm大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	内面被熱
26－9	17	N109E40	製塩土器	－	－	－	－	ユビオサエ	密	良好	浅黄橙色	
26－10	17	N110～105E49	製塩土器	－	－	－	－	不明	微密	良好	黄橙色	
26－11	17	N120E70	製塩土器カ	－	－	－	－	ユビオサエ	１mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
27－12	17	N110E50	須恵器	蓋	17.4	－	－	(頂部)回転ヘラケズリ、以下回転ナデ	１～２mm大の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
27－13	17	N110E48	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、頂部回転ヘラケズリ	密、１mm程の砂粒を少し含む	良好	灰色	つまみ径2.4mm
27－14	17	N110E55	須恵器	蓋	－	－	－	頂部、回転ヘラケズリ	１～２mm大の砂粒を含む	良好	灰白色	つまみ径2.8mm
27－15	17	N110E45	須恵器	蓋	14.9	－	－	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
27－16	17	N109E45	須恵器	蓋	12.4	－	－	回転糸切り、回転削り、回転ナデ	やや粗１mm以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
27－17	17	N110E45	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、後ナデ	明灰色	良好	明灰色	
27－18	17	N125E70	須恵器	蓋	－	－	－	不明	１mm以下の砂粒を含む	やや不良	外：灰色 内：灰白色	
27－19	17	N110E38	須恵器	坏	－	7.2	－	回転ナデ、回転糸切り	密、白・黒色細砂粒をやや含む	良好	灰白色～明灰色	
27－20	17	N110E40	須恵器	坏カ鉢カ	－	－	－	回転ナデ	密、１mm程の砂粒をわずかに含む	良好	灰色	漆付着

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
27－21	17	N110E45	須恵器	坏	－	8.4	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外：暗灰色 内：灰色	漆付着
27－22	17	N130E75	須恵器	皿	15.4	13.0	2.5	ナデ	2～3㎜大の白色砂粒を含む	良好	灰色	
27－23	17	N110E43	須恵器	皿	9.0	5.4	2.1	回転ナデ、回転糸切り	やや密、2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
27－24	17	N110E45	須恵器	灯明皿	10.2	7.8	7.8	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
27－25	17	ピット3	須恵器	皿	19.0	10.6	3.8	回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
27－26	17	トレンチ48	須恵器	皿（高台付）	－	12.9	－	回転ナデ、回転糸切り	粗、2㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
27－27	17	N104E45	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ	密、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外：灰色 内：灰色	
27－28	17	N105E38	須恵器	高坏	－	11.0	－	回転ナデ	密、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	
27－29	17	N105E38	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	やや密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
27－30	17	N110E40	須恵器	壺（突帯付）	－	－	－	回転ナデ	やや密、白、黒色細砂粒を多く3㎜の砂粒をわずかに含む	良好	明灰色	
27－31	17	N110E40	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ （後指圧調整）	密、1㎜以下の黒色砂粒を多く、白色細砂粒	良好	暗灰色～明灰色	
27－32	17	N106E43	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、叩き	密、1㎜以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
27－33	17	トレンチ48	須恵器	甕	－	－	－	回転ヘラケズリ	やや密、白、黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
27－34	17	N110-105 E50-55	須恵器	甕	－	19.1	－	叩き、ナデ	やや密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒、黒色細砂粒をやや多く含む	良好	明灰色	
27－35	17	N106E50	須恵器	壺ヵ甕	－	－	－	ナデ、平行叩き	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
27－36	17	N110E50	須恵器	甕ヵ壺	－	11.4	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	内面に被灰
27－37	17	N105E40	須恵器	壺ヵ甕	－	12.6	－	回転ナデ	密、1㎜程の砂粒を少し含む	良好	外：灰色 内：灰白色	
27－38	17	N106～110 E43～49	須恵器	鉢	－	11.0		ナデ？	密、白色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	内面に被灰
27－39	17	N125E70	須恵器	鉢	17.4	8.6	6.25	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
27－40	17	N110E50	須恵器	鉢	－	－	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰色 内：灰白色	
27－41	17	トレンチ48	須恵器	長頸瓶（頸部）	－	－	－	回転ナデ	やや密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
27－42	17	トレンチ48	須恵器	？	－	14.3	－	回転ナデ	密、白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
27－43	17	N105E30	須恵器	甕ヵ	－	－	－	粗いナデ	密、1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良好	灰色	
28－44	17	N105E47	土師器	坏	14.8	6.2	4.4	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－45	18	N110E48	土師器	坏	13.8	6.4× 6.1	5.6	ナデ、（底）回転糸切り	緻密	良好	灰白色	
28－46	17	N105E45	土師器	坏	15.7	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－47	17	N110E47	土師器	坏	14.8	－	－	ナデ	緻密	良好	灰色色	
28－48	17	N109E50	土師器	坏	15.8	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－49	17	N105E45	土師器	坏	15.2	－	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	にぶい橙色	
28－50	17	N105E40	土師器	坏	17.4	－	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－51	17	N109E50	土師器	坏	15.7	－	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－52	18	N110E45	土師器	坏	－	6.3	－	ナデヵ？、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－53	18	N110E50	土師器	坏	－	5.6	－	不明、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－54	18	N104E46	土師器	坏	－	6× 5.6	－	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	煤付着
28－55	18	N110E38 ～40	土師器	坏	－	5.4	－	不明、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：橙色 内：浅黄橙色	
28－56	18	N110E45	土師器	皿	8.3	4.5	2.1	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－57	18	N105E50	土師器	皿	8.8	4.4× 4.0	2.0	ナデ、（底）回転糸切り	4×5㎜角のレキ含む	良好	褐灰色	
28－58	18	N110E46	土師器	皿	7.9	3.2	2.4	回転ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－59	18	N110E47	土師器	皿	8.6	4.2	2.7	回転ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黒褐色	
28－60	18	N106～110 E43～49	土師器	皿	8.0	3.5	1.8	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：浅黄橙色 内：煤付着	煤付着
28－61	18	N109E50	土師器	皿	8.8	3.5	2.3	不明、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－62	18	N110E38	土師器	皿	8.6	3.9× 4.4	2.0	ナデ、回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	明褐灰色	
28－63	18	N108E41	土師器	皿	8.2	3.8	1.9	－	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－64	18	N107E47	土師器	皿	8.8	4.4	1.7	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－65	18	N109E44	土師器	皿	8.4	4.7	1.9	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－66	19	N107E43	土師器	坏（高台付）	14.2	6.9	5.0	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡橙色	
28－67	18	N110E45	土師器	皿（高台付）	8.7	－	－	回転ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を少し含む	良好	明褐灰色	
28－68	19	N104E49	土師器	皿（高台付）	－	7.6	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
28－69	19	N115E75	土師器	皿（高台付）	－	5.1	－	不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－70	19	N110E38～40	土師器	皿（高台付）	－	11.4	－	ナデヵ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色～橙色	
28－71	19	N110E45	土師器	皿（高台付）	－	8.2	－	ナデヵ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－72	19	N110E40	土師器	皿（高台付）	－	7.4	－	ナデ	1～3㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－73	19	N106～110E43～49	土師器	皿（高台付）	－	8.1	－	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－74	19	N110E45	土師器	皿（高台付）	－	7.4	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－75	19	N105E46	土師器	坏（高台付）	－	7.3	－	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	－	灰白色	
28－76	19	N105E40	土師器	坏（高台付）	－	7.0	－	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－77	19	N105E40	土師器	皿（高台付）	－	8.2	－	不明、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－78	19	N105E38	土師器	皿（高台付）	－	6.6	－	不明、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－79	19	N105E45	土師器	皿（高台付）	8.6	4.1	2.2	不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	橙色	
28－80	20	N105E40	土師器	皿（高台付）	－	4.9×4.5	－	（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－81	20	N110E45	土師器	皿（高台付）	－	4.6	－	ナデ、（底）回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－82	20	N104E50	土師器	皿（高台付）	－	4.0	－	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－83	20	N110E45	土師器	皿（高台付）	－	4.8	－	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－84	20	N109E44	土師器	皿（高台付）	7.8	5.4	4.0	ナデ、（底）回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－85	20	N109E45	土師器	皿（高台付）	8.0	4.4	3.6	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	
28－86	20	N105E45	土師器	皿（高台付）	8.0	5.0	3.1	ナデ、（底）回転糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－87	20	N110E46	土師器	皿（高台付）	7.7	5.5	3.5	ナデ、（底）回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	橙色	
28－88	20	N105E38	土師器	皿（高台付）	－	5.8	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
28－89	20	N104E45～46	土師器	皿	8.8	7.0	1.4	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	褐灰色	
28－90	19	N104E49	土師器	鍋	21.4	－	－	－	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	外：煤付着 内：黒褐色	煤付着
28－91	19	N105E40	中世須恵器	甕	－	－	－	格子状、叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	－	灰色	
28－92	19	N110E40	瓦質土器	鉢	？	－	－	ナデ、ユビオサエ	緻密	良好	灰色	
28－93	19	N110E40	瓦質土器	鉢	－	－	－	ナデ、ユビオサエ	緻密	良好	黒色	
29－94	20	N105E48	灰釉陶器ヵ	碗ヵ	－	－	－	ナデ	密	良好	灰白色	内面施釉
29－95	20	N110E50	灰釉陶器ヵ	碗ヵ皿	－	7.8	－	回転、（底）糸切り後ナデ	密	良好	灰白色	内面施釉
29－96	20	N105E38	瓷器系陶器	鉢	－	－	－	横方向のケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	にぶい黄橙	
29－97	20	N110E40	中国陶器	壺	24.4	－	－	回転ナデ	やや粗、白、黒色砂粒を多く含む	良好	外：褐灰 内：にぶい赤褐	Ⅹ Ⅱ－○類
29－98	20	N110E40	白磁	碗	16.5	－	－	－	密、白、黒細砂粒を少し含む	良好	灰白色	Ⅱ類
29－99	20	N110E45	白磁	碗	－	5.8	－	－	密、黒色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	Ⅱ類
29－100	20	N110E38	白磁	碗	－	6.0	－	－	密	良好	灰白色	Ⅲ類
29－101	20	N109E45	白磁	碗	16.6	－	－	玉縁口縁	密	良好	灰白色	Ⅳ類
29－102	20	N109E47	白磁	碗	16.8	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅳ類
29－103	20	N109E45	白磁	碗	－	4.8	－	－	密	良好	灰白色	Ⅳ類
29－104	20	N105E45	白磁	碗	13.8	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅴ類
29－105	20	N107E47	白磁	碗	14.0	－	－	－	密、黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色 破面淡白色	Ⅴ類
29－106	20	N110E45	白磁	皿	－	6.2	－	－	密	良好	灰白色	Ⅷ類
29－107	20	N104E45	白磁	碗	－	－	－	－	黒色微砂含む	良好	灰白色	Ⅴ類
29－108	20	N108E42	白磁	碗	－	－	－	－	密、黒色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	Ⅴ類
29－109	20	N105E47	白磁	碗	－	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅷ類
29－110	20	N110E45	白磁	碗	－	－	－	－	密、砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	Ⅷ類
29－111	20	N110E45	白磁	皿	14.1	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅱ類
29－112	20	N105E40	白磁	皿	10.3	－	－	－	黒色微砂含む	良好	灰白色	Ⅱヵ Ⅲ類
29－113	20	N106E46	白磁	皿	13.4	－	－	－	緻密、細砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	Ⅹ Ⅲ類
29－114	20	N105E40	白磁	皿	－	－	－	－	密	良好	灰白色	Ⅵ－２類
29－115	20	N106E46	白磁	皿	15.2	－	－	－	密、黒色細砂粒をわずかに含む	良好	灰白色	Ⅵ類
29－116	20	N107E45	白磁	皿	－	－	－	－	密、白、黒色細砂粒を少し含む	良好	淡黄色	Ⅵ類
29－117	20	N105E40	白磁	皿	－	3.2	－	－	密	良好	灰白色	Ⅵ類

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
29－118	20	N107E43	白磁	皿	－	6.0	－	－	密、黒色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	Ⅵ類
29－119	20	N108E44	白磁	皿	－	4.9	－	－	密、黒色砂粒を僅かに含む	良好	淡黄色	Ⅶ類
29－120	20	N110E50	青白磁	皿	－	－	－	内面に施文	密、砂粒を少し含む	良好	明緑灰色	
29－121	20	N110E40	白磁	皿	－	6.0	－	－	密、黒色砂粒を少し含む	良好	灰白色	Ⅳ類
29－122	20	N105E40	白磁	小碗	11.1	－	－	－	密、黒色砂粒をやや含む	良好	浅黄色	福建省系
29－123	20	N110E55	白磁	壺ヵ水注	16.1	－	－	－	密、黒色細砂粒を多く含む	良好	灰白色	
29－124	21	N105E45	白磁	合子蓋	－	－	－	－	－	良好	灰白色	広東系
29－125	21	N105E40	白磁	小壺（合子）蓋	－	－	1.4	－	緻密	良好	灰白色	広東系
29－126	21	N108E43	白磁	小壺	－	3.30	－	－	密、黒色砂粒を少し含む	良好	灰白　底辺部・破面　淡白色	
29－127	21	N106E43 N107E44	白磁	壺	－	－	－	－	密、黒色・白色細砂粒をやや含む	良好	灰白色	
29－128	21	N105E40	青白磁	壺	－	－	－	外面に施文	密	良好	灰白色	外面に文様
29－129	21	N110～105 E50～55	青白磁	碗	－	6.2	－	－	密	良好	灰白色	
29－130	21	N110E55	青磁	碗	－	－	－	－	密	良好	鈍い光沢、オリーブ灰	越州窯系
29－131	21	N110E60	青磁	碗	－	－	－	－	密、細砂粒を多く含む	良好	釉　オリーブ黄色	同安窯系Ⅲ類
29－132	21	N105E40	青磁	碗	－	－	－	－	緻密	良好	明オリーブ灰	Ⅰ類
29－133	21	N110E40	青磁	小盤	24.8	－	－	－	黒色微砂含む	良好	オリーブ灰	
29－134	21	N110E50	白磁	碗	－	4.9	－	－	密	良好	灰白色	Ⅱ類
29－135	21	N105E40	白磁	皿	－	3.6	－	－	密	良好	オリーブ黄	Ⅱ類
29－136	21	N120E75	褐釉（天目）	碗	－	－	－	－	緻密、黒色細砂粒を僅かに含む	良好	暗赤褐色	中国
29－137	21	N105E45	褐釉	耳壺	－	－	－	－	－	良好	灰白色	中国陶器C群Ⅲ類
29－138	21	N107E45	中国陶器	壺	9.4	－	－	－	－	良好	淡黄色	B群
29－139	21	N115E70	白磁	壺	－	7.5	－	回転ケズリ	密、砂粒を少し含む	良好	外：灰白色 内：橙色	広東系
29－140	21	N105E40	中国陶器	鉢	－	13.0	－	回転ナデ、ナデ	－	－	灰色	中国陶器B群Ⅰ類
29－141	21	N109E44	中国陶器	鉢	－	－	－	ナデ、回転ナデ	粗、2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	良好	灰褐色	中国陶器B群Ⅰ類
29－142	21	N115E40	黄釉陶器	盤	－	－	－	－	－	良好	淡黄色	中国陶器B群Ⅰ－1類
29－143	21	N105E40	黄釉陶器	盤	－	－	－	－	－	良好	オリーブ黄	中国陶器B群
29－144	21	N110E40	黄釉陶器	盤	－	－	－	－	－	良好	淡黄色	
29－145	21	N106E46	黄釉陶器	盤	－	－	－	－	無釉	良好	淡黄色	
30－146	22	N110E45	瓦	軒平瓦	－	－	－	(凸)斜格子叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	浅黄橙色	土師質
30－147	21	N106～110 E43～49	瓦	軒瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き	やや粗、3㎜の砂粒～細砂粒を多く含む	良好	浅黄橙色	土師質
30－148	21	N110E40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	明橙色	土師質
30－149	21	N110E40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き	やや粗、1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	須恵質
30－150	21	N110E45	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き	やや密、3㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	須恵質
30－151	21	N110E38 ～40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	灰黄色	軟質
30－152	21	N105E40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)縄目叩き、ユビオサエ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	軟質
30－153	21	西調査区	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)格子叩き	やや密、2㎜以下の砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	灰色	須恵質
30－154	21	N110E45	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)格子叩き	やや密、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰白色	須恵質
30－155	21	N106～110 E43～49	瓦	平瓦	－	－	－	格子叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	黒色	軟質
30－156	21	N110E40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)格子叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	軟質
30－157	21	N106～110 E43～49	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)斜格子叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	軟質
30－158	21	N105E45	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)叩き	3㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	須恵質
31－159	21	N105E40	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)平行叩き	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	軟質
31－160	21	N105E45	瓦	平瓦	－	－	－	(凸)平行叩き	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色	軟質
31－161	21	N110E40	瓦	丸瓦	－	－	－	(凸)ナデ	やや密、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙色	土師質
31－162	21	N109E47	瓦	丸瓦	－	－	－	(凸)ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	土師質
31－163	21	N110E45	瓦	丸瓦	－	－	－	(凸)ハケ目(表面摩耗)	やや粗、4㎜以下の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙色	土師質
31－164	21	N110E45	瓦	丸瓦	－	－	－	(凸)ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄橙色	土師質
31－165	21	N105E45	瓦	丸瓦	－	－	－	(凸)ナデ	やや粗、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙色	土師質
31－166	21	N109E48	瓦	丸瓦	－	－	－	凸、縦にケズリ後、横にナデ	やや粗、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	須恵質

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
31－167	21	N105E50	瓦	丸瓦（玉縁）	－	－	－	凸、ナデ	やや粗、1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰白色	須恵質
31－168	21	N105E47	瓦	丸瓦（玉縁）	－	－	－	凸、ナデ	やや密、1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	にぶい黄橙色	土師質
31－169	21	N109E51	瓦	丸瓦（玉縁）	－	－	－	凸、ナデ	やや密、1㎜以下の白色・橙色砂粒を少し含む	良好	灰色	須恵質

第４表　出雲国府跡堂田地区木製品観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構	器種	樹種	長さ（cm）	幅（cm）	厚み（cm）	備考
25－39	16	12号井戸	箸状	ヒノキ属	27.4	0.4 ～ 0.6	0.3 ～ 0.6	
25－40	16	12号井戸	箸状	スギ	26.6	0.4 ～ 0.7	0.4 ～ 0.5	
25－41	16	12号井戸	箸状	スギ	18.2	0.5	0.4	先端焦げている
25－42	16	12号井戸	曲物	スギ	5.1以上	2.2以上	0.4	ケビキあり
25－43	16	12号井戸	不明	クワ属	(2.5)	(1.8)	0.4 ～ 0.5	内外面に漆塗布
25－44	16	12号井戸	曲物	スギ	(2.5)以上	(4.3)	0.6	内外面に漆塗布
25－45	16	12号井戸	曲物	スギ	6.1	2.7	0.45	
25－46	16	12号井戸	曲物	スギ	17.3	5.2以上	0.5	
25－47	16	12号井戸	曲物	スギ	18.7	10.3	0.7	
25－48	16	12号井戸	不明	スギ	17.5	2.7以上	0.4	
25－49	16	12号井戸	不明	スギ	28.6	3.6	0.5 ～ 0.3	
25－50	16	12号井戸	不明	樹皮	－	－	－	
25－51	16	12号井戸	不明	スギ	10.7以上	3.8	0.6	
25－52	16	12号井戸	不明	広葉樹	口径 8.4	底径 6.5 ～ 7.0㎜	器高 0.65 ～ 7.0㎜	
25－53	16	12号井戸	不明	シャシャンボ	6.3	0.7	0.4	
25－54	16	12号井戸	不明	スギ	6.7	0.8	0.4	
25－55	16	12号井戸	不明	スギ	10.3	1.1	0.5	
25－56	16	12号井戸	不明	スギ	12.5	0.7	0.5	
25－57	16	12号井戸	不明	スギ	16.7	1.2	0.6	
25－58	16	12号井戸	不明	スギ	18.9	1.2	0.75	
25－59	16	12号井戸	不明	スギ	3.6	1.4	0.3	
25－60	16	12号井戸	不明	スギ	9.8	1.4	0.3	
25－61	16	12号井戸	不明	スギ	14.5	1.4	0.5	
25－62	16	12号井戸	不明	スギ	10.7	0.6 ～ 0.7	0.2 ～ 0.3	
25－63	16	12号井戸	不明	スギ	20.4以上	1.3 ～ 2.1	0.7 ～ 0.9	
25－64	16	12号井戸	不明	スギ	13.7	2.2	0.5	
25－65	16	12号井戸	不明	スギ	8.3	3.0	0.6	
25－66	16	12号井戸	不明	スギ	6.9以上	1.30	0.3	
25－67	16	12号井戸	不明	スギ	8.3	2.9	0.5	

第５表　出雲国府跡堂田地区土錘観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(mm)	重さ(g)	胎　　土	焼成	色調	備考
31－170	22	N110E44	土製品	土錘	6.2	3.0	2.7	0.6×0.5	52.03	2㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色	
31－171	22	N110E44	土製品	土錘	6.5	2.6		0.8	33.92	2～3㎜大の砂粒を含む	良好	浅黄色	
31－172	22	N109E46	土製品	土錘	5.3	1.8	1.7	0.5×0.6	15.88	1㎜以下の砂粒を含む	良好	にぶい橙～赤褐色	部分的に煤付着
31－173	22	N109E43	土製品	土錘	4.9	1.9	1.8	0.6×0.5	16.83	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	淡橙色黒斑あり	
31－174	22	N108E45	土製品	土錘	4.9	1.5	1.5	0.4	10.52	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色黒斑あり	
31－175	22	N110E40	土製品	土錘	5.1	1.6	1.45	0.3	11.08	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黒色	
31－176	22	N105E40	土製品	土錘	4.7	1.6		0.3	10.11	1㎜以下の砂粒を含む	良好	浅黄色一部黒斑	
31－177	22	N110E40	土製品	土錘	4.7	1.6	1.6	0.3	11.35	1㎜以下の砂粒を含む	良好	にぶい橙黒斑あり	
31－178	22	N109E40	土製品	土錘	3.8	0.9		0.3	2.16	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
31－179	22	N105E50	土製品	土錘	3.4	1.7	1.6	0.4	10.25	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
31－180	22	N110E45	土製品	土錘	2.6以上	1.6	1.4	0.4	5.76	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	
34－5	24	日岸田R417	土製品	土錘	2.8	0.8	0.85	0.2～0.3	1.58	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	赤色	
34－6	24	日岸田R417	土製品	土錘	3.1	1.6	1.7	0.4～0.5	7.53	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色黒斑あり	
34－7	24	鍛冶屋採集	土製品	土錘	5.1	2.3	1.9	0.5×0.6	19.03	1㎜大の砂粒を含む	良好	橙～灰白色	

第６表　出雲国府跡堂田地区石製品観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	器　種	石　材	長さ×幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	色　調	備　考
31－181	22	N108E47	石皿	凝灰岩	(8.9)×(5.2)	1.1	162.92	灰白色	二次的に熱を受ける
31－182	22	堂田東調査区ハイド	砥石	流紋岩	(5.1)×(4.5)	(2.3)	57.19	灰白色	二次的に熱を受ける
31－183	22	N105E38	不明	頁岩	(5.7)×(4.3)	1.5	46.96	黒色	
31－184	22	N110E43	不明	頁岩（火山灰質）	(4.4)×(2.6)	(1.4)	18.51	灰白色	
31－185	22	N104E49	石鍋	絹雲母	－	0.9～1.3	47.40	外：淡灰色 内：黒色	1.7×0.9cmのつまみ
31－186	22	N110E40	石硯	頁岩	10.7×7.6～8.4	0.95～1.35	133.38	灰色	
31－187	22	第48トレンチ	石鏃	黒曜石	1.3×1.4	0.3	0.48	－	
31－188	22	N105E38	石鏃	黒曜石	(1.4)×(1.2)	0.35	0.37	－	
33－55	23	N110E45	砥石	細粒花崗岩	12.0×8.7	10.0	1235.53	灰白色	
34－1	24	日岸田	磨製石斧	塩基性片岩	12.25×5.8	4.4	594.90	明オリーブ灰	
34－2	24	日岸田	磨製石斧	玄武岩	16.4×6.8	5.3	921.77	明オリーブ灰	
34－3	24	日岸田 5号竪穴住居	打製石斧	流紋岩	14.4×7.9	2.4	361.51	灰白色	
34－4	24	日岸田	砥石	流紋岩	8.35×4.6	4.1	291.05	灰黄色	
34－8	24	唐路	管玉板状素材	凝灰岩	8.4×8.8	1.8	173.68	浅黄色	三島利幸氏寄贈
34－9	24	堂田～日岸田	砥石	細粒花崗岩	17.3×10.3	10.5	1932.51	灰白色	三島利幸氏寄贈
34－10	24	日岸田～堂田	砥石	細粒花崗岩	17.4×12.4	12.5	3680.0	灰白色	三島利幸氏寄贈

第７表　出雲国府跡堂田地区金属器・金属器生産関係遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	胎　土	色　調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
14－16	10	62号溝	羽口	1㎜以下の砂粒を含む	外：灰色 内：浅黄橙	(5.0)	(4.8)	(1.2)	41.48	筋状の整形痕。先端部はガラス質に溶融。孔の内径3.6cm
14－17	10	62号溝	羽口	1㎜大の砂粒を含む	外：灰色 内：灰～浅黄橙	(6.2)	(5.7)	(2.0)	74.86	先端部ガラス質化になる、被熱変色部分あり。孔の内径3.4cm
31－189	22	N108E42	釘カ	－	－	(2.8)	1.0	0.7	－	
33－56	23	12号井戸	羽口	3㎜以下の砂粒を含む	橙色～黒色	(3.6)	(5.2)	(2.2)	34.18	孔の内径3.0cm
33－57	23	N110E45	椀形鍛冶滓	－	－	11.0	8.75	2.1	236.55	メタル度○

第８表　出雲国府跡堂田地区銭貨計測表

挿図番号	写真図版	出土地点	名　称	初鋳年	銭径（A）／（B）㎜	内径（C）／（D）㎜	銭厚（㎜）	量目（g）
31－190	22	N110E50	聖宋元寶	1101	(22.80)（21.30)	(18.40)／(18.40)	1.20	1.49
34－11	24	第41トレンチ	開元通寶	960	(22.10)（23.05)	20.05／19.80	1.60	2.44
34－12	24	第42トレンチ			27.30／27.40	－	1.20	4.69

第９表　『史跡出雲国府跡３』第23表　石製品観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	器　種	石　材	長さ×幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	色　調	備　考
6－1	7	寄贈	砥石	玄武岩	20.7×13.4	13.6	4760.00	黄褐色～暗灰色	一面に磨面ヵと窪み
77－2	55	37Tr1層		安山岩	10.9×9.6	3.2	537.57	灰色	両面に打面

第10表　『史跡出雲国府跡４』第８表　石製品観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	器　種	石　材	長さ×幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	色　調	備　考
29－30		29号土坑	砥石カ	細粒花崗岩	21.0×10.5	7.7	1861.15	黄褐色～暗橙褐色	
39－1		９号井戸	砥石	流紋岩	16.5×11.5	5.1	1328.33	白褐色	
62－1		62号溝	紡錘車	頁岩	径4.6	0.6	9.35		
62－2		62号溝	砥石	細粒花崗岩	41.8×22.8	16.8	20.41kg	淡褐色～淡桃褐色	３条の筋、２面に磨面
69－1		66号溝	砥石	細粒花崗岩	36.5×17.7	11.5	8.38kg	白褐色	２条の筋
101－21		N130E125	石包丁	頁岩	(4.6×4.0)	0.4			
106－1		日岸田	砥石	細粒花崗岩	27.8×16.3	12.6	6.18kb	白褐色～黄白色	３条の筋、２面に磨面
106－2		日岸田	砥石	細粒花崗岩	18.8×13.2	9.8	2.48kg	灰白色	２条の筋と磨面
106－3		日岸田	砥石	流紋岩	26.8×15.5	7.0	4kg	淡黄白色	３条の筋
106－4		日岸田	砥石	細粒花崗岩	13.8×12.3	9.4	2.82kg	白褐色～黄白色	１条の筋、４面に磨面

第11表　出雲国府跡堂田地区玉作関係遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	石材	製作段階	重量(g)	特　　徴
32－1	23	N125E70	水晶	原石	45.26	
32－2	22	N110E55	水晶	原石	15.56	
32－3	22	N107E39	水晶	原石	4.83	
32－4	22	N110E55	水晶	剥片	4.92	
32－5	23	N110E50	水晶	荒割	39.16	
32－6	23	N110－105　E50－55	水晶	荒割	36.62	
32－7	23	N108E49	水晶	荒割	71.49	
32－8	22	N110E55	水晶	荒割	15.70	
32－9	22	N125E70	水晶	荒割	11.80	
32－10	22	N110E50	水晶	荒割	13.66	
32－11	22	N110E45	水晶	荒割	5.65	
32－12	22	N125E70	水晶	素材大	15.20	
32－13	22	N110E45	水晶	素材大	18.08	
32－14	22	N125E70	水晶	素材大	11.51	
32－15	22	N107E50	水晶	平玉素材	16.44	
32－16	22	N110E45	水晶	平玉素材	15.74	
32－17	22	N110－105　E40－45	水晶	平玉素材	15.22	
32－18	22	N125E75	水晶	平玉素材	15.79	
32－19	22	N110E55	水晶	平玉素材	7.46	
32－20	22	N107E46	水晶	平玉素材	18.87	
32－21	22	N115E75	水晶	平玉素材	17.81	
32－22	22	N110E50	水晶	平玉敲打前	14.22	
32－23	22	N125E70	水晶	平玉敲打前	7.61	
32－24	22	N108E45	水晶	平玉敲打前	7.14	
32－25	22	N120E70	水晶	平玉敲打前	8.94	
32－26	22	N110E50	水晶	平玉敲打前	9.20	
32－27	22	N125E75	水晶	平玉敲打前	9.46	
32－28	22	N105E40	水晶	平玉敲打あり	9.14	
32－29	22	N105E45	水晶	平玉敲打あり	3.93	
32－30	22	N105E45	水晶	平玉敲打あり	4.76	
33－31	22	N120E75	水晶	平玉完成品	1.94	
33－32	22	N110E55	水晶	平玉完成品	1.17	
33－33	22	N110E51	水晶	丸玉敲打前	15.14	
33－34	22	N115E70	水晶	丸玉敲打前	5.16	
33－35	22	N115E70	水晶	丸玉敲打あり	12.52	
33－36	22	N130E80	水晶	丸玉敲打あり	7.94	
33－37	22	N120E70	水晶	丸玉敲打あり	5.23	
33－38	22	N120E75	水晶	丸玉敲打あり	3.04	
33－39	22	N110E50	水晶	丸玉敲打あり	2.78	
33－40	22	N110E38	水晶	丸玉研磨あり	7.01	
33－41	22	Tr48	水晶	丸玉研磨あり	3.04	
33－42	23	N125E75	水晶	大玉	55.39	
33－43	23	N105E38	碧玉	石核	221.47	
33－44	23	N110E40	碧玉	原石	79.89	
33－45	23	N125E75	碧玉	素材	33.43	
33－46	23	N120E75	碧玉	素材	18.17	
33－47	23	N110E55	碧玉	平玉素材	20.08	
33－48	23	N109E44	碧玉	平玉素材	15.67	
33－49	23	N125E70	碧玉	平玉素材	16.77	
33－50	23	N125E70	碧玉	平玉素材	14.65	
33－51	23	N107E50	碧玉	平玉調整剥離敲打前	9.30	
33－52	23	N110E45	碧玉	平玉調整剥離敲打前	9.25	
33－53	23	N108E43	碧玉	平玉調整剥離敲打前	9.67	
33－54	23	N110E45	碧玉	平玉調整剥離敲打前	9.55	

第12表　出雲国府跡堂田地区出土陶磁器分類表

種　別	分　類	計	備　考
白磁碗	Ⅱ類	46	
白磁碗	Ⅱ類カ	1	広東省系
白磁碗	Ⅲ類	1	福建省系
白磁碗	Ⅳ類	77	福建省系
白磁碗	Ⅴ類	15	福建省系
白磁碗	Ⅴカ Ⅷ類	6	福建省系
白磁碗	Ⅴ・Ⅵ類	3	
白磁碗	Ⅴ～Ⅶ	1	
白磁碗	Ⅴ～Ⅷ類	15	
白磁碗	Ⅶ類	8	
白磁碗	Ⅷ類	2	
白磁碗	ⅩⅠ類	1	
白磁碗	ⅩⅡ類	3	
白磁碗	ⅩⅢ類	2	
白磁小碗		1	
白磁碗		7	福建省系
白磁碗		14	広東省系
白磁皿	Ⅱ類	6	福建省系
白磁皿	Ⅱ・Ⅲ類	3	福建省系
白磁皿	Ⅲ類	3	
白磁皿	Ⅳ類	3	
白磁皿	Ⅴ・Ⅵ類	35	
白磁皿	Ⅵ類	56	広東省系
白磁皿	Ⅶ類	8	広東省系
白磁皿	ⅩⅢ類	1	
白磁皿		11	福建省系
白磁碗・皿	碗Ⅷカ 皿Ⅲ類	1	
白磁碗・皿	碗Ⅳ・皿Ⅱ類	38	
白磁碗・皿	碗Ⅴ～Ⅷ・皿Ⅳ類	30	
白磁壺		2	
白磁小壺		1	
白磁小壺蓋(合子)		1	広東省系
白磁合子蓋		1	広東省系
白磁壺カ水注		3	
白磁	福建省系	247	
白磁	広東省系	234	

種　別	分　類	計	備　考
白磁		26	
白磁小片		46	
白磁カ		6	
白磁カ		1	内面に白堆線
青白磁碗		1	
青白磁	皿	1	
青白磁壺カ		1	
青白磁合子カ		1	
龍泉窯系青磁碗	Ⅰ類	2	
龍泉窯系青磁皿		1	
龍泉窯系青磁		2	
同安窯系青磁皿		1	
同安窯系青磁碗		1	
同安窯系青磁		1	
同安窯系青磁カ		1	
越州窯系青磁碗		1	
青磁小盤		1	
青磁		3	
青磁カ		2	
中国陶器壺		2	
中国陶器鉢	B群Ⅰ類	5	
黄釉盤		15	
褐釉碗（天目）		1	
中国陶器		38	
中国陶器褐釉耳壺	C群Ⅲ類	1	
灰釉陶器カ		5	
中国陶器	ⅩⅡ－Ｏ類	1	
瓷器系鉢		1	越前カ
瓷器系陶器		2	
瓦質鉢(日本在地)		2	
陶器壺		1	
陶器		5	
磁器		1	
鉢		1	使用痕あり
不明陶器		39	
近世以降		139	
合計		1246	

第13表　出雲国府跡堂田地区瓦分類・集計表

東調査区	軒丸瓦	0
	軒平瓦	0
	丸　瓦	4
	平　瓦	4
	不　明	8
合　計		16

西調査区	軒丸瓦	2
	軒平瓦	4
	丸　瓦	82
	平　瓦	87
	不　明	102
合　計		277

丸瓦

焼　成	凸面焼成	狭端部形状	数　量
須恵質	凸面ナデ	玉縁式	8
		行基式	0
		不　明	12
	縄目を残す	玉縁式	0
		行基式	0
		不　明	0
土師質	凸面ナデ	玉縁式	3
		行基式	0
		不　明	39
	縄目を残す	玉縁式	0
		行基式	0
		不　明	0
軟　質	凸面ナデ	玉縁式	3
		行基式	0
		不　明	21
	縄目を残す	玉縁式	0
		行基式	0
		不　明	0
合　計			86

平瓦

タタキ痕	焼　成	離れ砂の有無	数　量
縄目タタキ	須恵質	有り	4
		無し	3
	軟　質	有り	2
		無し	14
	土師質	有り	2
		無し	7
平行タタキ	須恵質	有り	0
		無し	2
	軟　質	有り	0
		無し	1
	須恵質	有り	0
		無し	0
格子タタキ	須恵質	有り	1
		無し	2
	軟　質	有り	1
		無し	6
	土師質	有り	0
		無し	5
斜格子タタキ	須恵質	有り	2
		無し	0
	軟　質	有り	0
		無し	2
	土師質	有り	0
		無し	1
不　明	須恵質	有り	5
		無し	2
	軟　質	有り	5
		無し	12
	土師質	有り	1
		無し	11
合　計			91

第14表　出雲国府跡堂田地区金属器生産関係遺物集計表

東調査区

	点　数	重　量(g)
H（○）	0	
銹化（△）	10	257.35
羽口	5	145.06
羽口溶解物	22	95.32

西調査区

	点　数	重　量(g)
H（○）	1	236.55
銹化（△）	23	470.59
羽口	15	179.93
羽口溶解物	15	142.77

第15表　出雲国府跡堂田地区黒曜石集計表

黒曜石	合　計	
	点　数	重　量(g)
東調査区	22	37.96
西調査区	29	80.09
計	51	118.05

第16表　出雲国府跡堂田地区玉作関係遺物製作段階別集計表

水晶	剥片		原石		荒割		素材大		平玉　素材		調整剥片		平玉（二次調整あり　敲打前）	
	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
東調査区	132	193.42	7	60.44	9	131.99	7	102.56	14	128.48	12	67.92	8	51.53
西調査区	156	257.53	11	62.18	24	469.68	1	18.08	21	227.06	11	56.53	23	150.15
不明			1	137.33										
計	288	450.95	19	259.95	33	601.67	8	120.64	35	355.54	23	124.45	31	201.68

水晶	平玉　敲打あり		平玉　仕上げ・完成		丸玉（二次調整あり　敲打前）		丸玉　敲打あり		丸玉　研磨あり		大玉		合計	
	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
東調査区	3	9.66	1	1.94	4	15.04	9	56.96	1	3.04	1	55.39	208	878.37
西調査区	10	51.94	1	1.17	9	58.31	1	1.33	1	7.01			269	1360.97
不明													1	137.33
計	13	61.6	2	3.11	13	73.35	10	58.29	2	10.05	1	55.39	478	2376.67

碧玉	剥片		原石		石核		素材		平玉　素材		平玉　調整剥離　敲打前		合計	
	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
東調査区	9	10.42					2	51.6	2	31.42			13	93.44
西調査区	32	107.7	1	79.89	1	221.47			2	35.75	4	37.77	40	482.58
計	41	118.12	1	79.89	1	221.47	2	51.6	4	67.17	4	37.77	53	576.02

カド石	合計	
	点数	重量（g）
東調査区	20	204.16
西調査区	98	595.66
不明	1	34.72
計	119	834.54

メノウ	合計	
	点数	重量（g）
東調査区	14	56.91
西調査区	56	541.39
計	68	598.3

珪化木	合計	
	点数	重量（g）
東調査区		
西調査区	23	176.95
計	23	176.95

第23表　遺構一覧表

遺構	地区	グリッド	性　格	時期	規　模	方　向	庇	出土遺物	備　考
SB001	宮の後	B区	掘立柱建物	不明	4間(8.0m)×2間(4.2m)	南北棟			
SB002	宮の後	B区	掘立柱建物	不明	2間(4.0m)×2間(4.1m)				
SB003	宮の後	C区	竪穴建物	古墳時代				土師器	
SB004	宮の後	A区	掘立柱建物	C	3間(5.2m)×3間(5.6m)	南北棟	東		
SB005	宮の後	A区	掘立柱建物	B	3間(5.6m)×3間(5.6m)	南北棟	東		
SB006	宮の後	A区	掘立柱建物	C	5間(14.8m)×2間(6m)	東西棟			
SB007	宮の後	A区	掘立柱建物	D	4間(9.7m)×2間(5m)	南北棟			北半は総柱
SB008	宮の後	A区、C区	掘立柱建物	D	2間(4m)×4間(8.4m)	南北棟			
SB009	宮の後	A区	掘立柱建物	E	5間(10.7m)×2間(4.8m)	東西棟			
SB010	宮の後	A区	掘立柱建物	D	2間以上×1間以上				
SB011	樋ノ口	E区	掘立柱建物	奈良時代	5間(10.2m)×2間(5.2m)以上		北		
SB012	樋ノ口	E区	掘立柱建物	奈良時代	3間(7.2m)×2間(4.8m)				
SB013	樋ノ口	E区	竪穴建物	奈良時代					
SB014	樋ノ口	F区	竪穴建物	奈良時代				須恵器、土師器、羽口片	
SB015	樋ノ口	F区	竪穴建物	奈良時代				須恵器、土師器	
SB016	宮の後	A区、C区	掘立柱建物	C	5間(14.8m)×2間(6m)	東西棟			
SB017	宮の後	A区、C区	掘立柱建物	B	5間(11.5m)×2間(4.8m)	南北棟			
SB018	六所脇	J区	掘立柱建物	A	2間(4.4m)×3間(5.6m)以上				
SB019	六所脇	I区	掘立柱建物	A	3間(5.5m)以上×2間(4.4m)	東西棟			
SB020	六所脇	I区	掘立柱建物	E	5間(14m)×4間(10.8m)	東西棟	4面		玉石で柱を固定
SB021	六所脇	J区	掘立柱建物		2間×2間	東西棟			
SB022	宮の後	B区	掘立柱建物	E？	3間×2間	東西棟			
SB023	宮の後	D区	竪穴建物	古墳時代				土師器	
SB024	宮の後	A区	掘立柱建物	平安時代後期	5間(12.2m)×2間(5m)	南北棟			
SB025	宮の後	A区、C区	掘立柱建物	E	6間(12.6m)×2間(4.2m)	南北棟			
SA001									所在不明
SA002									所在不明
SA003	宮の後	A区	柵列	E	17間以上	東西軸			玉石で柱を固定
SA004	宮の後	A区	柵列	E	8間	南北軸			SA003に取付
SA005	宮の後	A区	柵列	E	3間	南北軸			SA003に取付
SA006	宮の後	C区	柵列	E	3間以上	南北軸			
SA007	宮の後	A区	柵列	E	3間	南北軸			SA003に取付
SA008									所在不明
SA009	宮の後	A区	柵列		2間	南北軸			
SA010	宮の後	A区	柵列	B	3間(6.3m)	南北軸			
SA011									所在不明
SA012	宮の後	C区	柵列	D	2間	東西軸			
SA013	宮の後	C区	柵列		3間	南北軸			
SA014	宮の後	C区	柵列	F	5間以上	南北軸、東西軸			屈曲する
SA015									所在不明
SA016	宮の後	A区							SB008の一部
SA017									所在不明
SA018	宮の後	A区	柵列	E	4間	東西軸			
SA019	宮の後	C区	柵列	D	5間以上	南北軸			屈曲する
SA020	宮の後	A区	柵列	F	3間	南北軸			
SA021	宮の後	C区	柵列	B	5間(12.9m)				SA022に取付
SA022	宮の後	C区	柵列	B	3間	南北軸			SA021・023に取付
SA023	宮の後	C区	柵列	B	7間以上	東西軸			SA022に取付
SA024	宮の後	A区	柵列	E	3間以上	東西軸			SB009に取付
SA025	宮の後	C区	柵列	E	8間	東西軸			SA026を踏襲
SA026	宮の後	C区	柵列	C	7間(17.6m)	東西軸			SA029に取付
SA027	宮の後	C区	柵列	B		東西軸			
SA028									所在不明
SA029	宮の後	C区	柵列	C	2間(10m)	南北軸			SA026に取付
SA100	宮の後	C区	柵列	E		南北軸			町田報告 SA029
SA101	宮の後	D区	柵列or掘立柱建物		2間				
SA102	宮の後	D区	柵列or掘立柱建物		2間				
SD001	宮の後	D区、B区	溝	古墳時代					
SD002	宮の後	B区	溝	奈良時代				須恵器、土師器	
SD003									所在不明
SD004	宮の後	B区	西大溝	B、C、D、E		南北軸		須恵器、土師器、木簡、鍬、曲物、櫛、瓦	
SD005	宮の後	C区	北大溝	B、C、D、E		東西軸		須恵器、生産遺物、木簡、瓦	
SD006	宮の後	C区	溝	B		南北軸			SD005に取付
SD007	宮の後	C区	溝	B		南北軸		須恵器	SD005に取付
SD008	宮の後	B区	溝	奈良時代		南北軸		須恵器、土師器、製塩土器	
SD009	宮の後	C区	溝	奈良時代		東西軸		須恵器	SB003より新しい
SD010	宮の後	A区、J区	溝	E		東西軸		須恵器、生産遺物	
SD011	宮の後	B区	溝	古墳時代		斜行		須恵器、土師器	
SD012									所在不明
SD013									所在不明
SD014	宮の後	A区	溝	古墳時代		斜行			
SD015									所在不明
SD016	宮の後	A区	溝	古墳時代					所在不明
SD017	宮の後	A区	石敷溝	C		南北軸		須恵器	SD008に取付
SD018	宮の後	A区	石敷溝	C、D		南北軸			SD025・017に取付、E期SD010により破壊

遺構	地区	グリッド	性　格	時期	規　模	方　向	庇	出土遺物	備　考
SD019	宮の後	A区	溝	D		東西軸			SG001、SD018に取付
SD020	宮の後	A区	溝	C		東西軸			
SD021	宮の後	A区	溝	C		南北軸			SD022が取付
SD022	宮の後	A区	石敷溝	C		東西軸			SD021が取付
SD023	宮の後	A区	石敷溝	D		東西軸			SD018に取付、SD025を改修
SD024	宮の後	A区	石敷溝	E		東西軸			
SD025	宮の後	A区	石敷溝	C		東西軸			SD018に取付
SD026	宮の後	A区	石敷溝	E		東西軸			B期にSD027と重複
SD027	宮の後	A区	溝	B		東西軸		須恵器	SD048と対応ヵ
SD028	宮の後	A区	溝	F		東西軸		須恵器	
SD029	宮の後	A区	石敷溝	F		南北軸		須恵器	SD028に取付
SD030	宮の後	A区	溝	F		南北軸		須恵器	SD028に取付
SD031	宮の後	A区	溝	奈良時代		南北軸			
SD032									所在不明
SD033									所在不明
SD034	宮の後	C区	溝	B		東西軸　南北軸		須恵器、製塩土器、生産遺物、移動式竈、木製品	屈曲する
SD035	宮の後	A区	石敷溝	C		南北軸			西側は石敷
SD036									所在不明
SD037	宮の後	J区	溝	E		南北軸		須恵器	SD010に取付
SD038	宮の後	J区	溝	E		南北軸			SD010に取付
SD039									所在不明
SD040									所在不明
SD041									所在不明
SD042									所在不明
SD043									所在不明
SD044									所在不明
SD045	宮の後	B区	溝			東西軸		須恵器、移動式竈、生産遺物	SD004に取付
SD046	宮の後	A区	石敷溝	C、D		南北軸			SD025に取付
SD047	宮の後	C区、A区	石敷溝	C		南北軸		須恵器	SD005に取付
SD048	宮の後	C区	溝	B		東西軸		須恵器、土師器、製塩土器	
SD049	宮の後	C区	溝	B		南北軸			SD005に取付
SD050	宮の後	C区	溝	B		南北軸			SD005に取付
SD051									所在不明
SD052	宮の後		溝	古墳時代					所在不明
SD053	宮の後	A区	会所	C、D					
SD054	六所脇	I区	溝	古墳時代		斜行		須恵器、土師器	
SD055	六所脇	I区	溝	古墳時代		斜行		須恵器、土師器	
SD101	一貫尻	G区	溝	奈良時代					
SD102	一貫尻	G区	溝					須恵器、土師器	
SD103	一貫尻	G区	溝	奈良時代					
SD104									欠番
SD105	宮の後	D区	溝	奈良時代		東西軸		須恵器	SD005の西に続く
SD106	樋ノ口	E区	溝	奈良時代				須恵器、移動式竈	
SD107	樋ノ口	E区	溝	奈良時代					
SD108	樋ノ口	E区	溝	奈良時代					
SD109	樋ノ口	E区	溝	奈良時代					
SD110	樋ノ口	E区	溝	奈良時代					
SD111	樋ノ口	E区	溝						
SD112	宮の後	B区	溝	平安時代後期					SD113・114と南北に連なる
SD113	宮の後	B区	溝	平安時代後期					SD112・114と南北に連なる
SD114	宮の後	B区	溝	平安時代後期				青白磁、土師器	SD112・113と南北に連なる
SD115	宮の後	B区	溝	奈良時代		南北軸		須恵器、土師器	
SD116	宮の後	B区	溝	奈良時代		東西軸		須恵器、土師器	
SD117	宮の後	A区	溝	奈良時代		南北軸		須恵器、土師器、硯	
SD118	宮の後	A区	溝	奈良時代		南北軸		須恵器	
SD119	宮の後	A区	溝	古墳時代				移動式竈	
SD120	宮の後	C区	石敷溝	奈良時代		南北軸			
SD121	宮の後	C区	溝	古墳時代		斜行軸		土師器	
SD122	宮の後	D区	溝	奈良時代		東西軸		鉄製鍬先	
SD123									欠番
SD124	宮の後	J区	溝			南北軸			SD010に取付
SE001	宮の後	DE44、45	井戸	中世				須恵器、土師器、黒色土器、製塩土器、瓦	
SE002	宮の後		井戸	中世					所在不明
SE003	宮の後	AN24、25	井戸	中世					
SE004	宮の後	AS21	井戸	中世				須恵器、土師器	
SE005	宮の後	AR18	井戸	中世				須恵器、土師器、白磁、鉄箸ヵ、瓦	
SE006	宮の後		井戸	中世					所在不明
SE007	宮の後		井戸	平安時代後期					所在不明
SE008	宮の後	AQ24、25	井戸	平安時代後期				須恵器、土師器	
SE009	宮の後	DI41、42	井戸	平安時代後期				土師器	

遺構	地区	グリッド	性　格	時期	規　模	方　向	庇	出土遺物	備　考
SE100	宮の後	BM30、BN30	井戸	平安時代後期				須恵器、土師器、木製紡績具	
SE101	宮の後	BO27	井戸	平安時代後期				須恵器、土師器、青磁	
SE102	宮の後	BM27	井戸	平安時代後期				土師器、筋砥石	
SE103	宮の後	BN33	井戸	平安時代後期					
SE105	宮の後	BN32	井戸	平安時代後期				須恵器、土師器	
SE106	宮の後	AP20	井戸	平安時代後期				土師器、瓷器系陶磁甕	
SE107	宮の後	BP33	井戸	平安時代後期				土師器	
SE108	宮の後	AR11	井戸	平安時代後期				土師器	
SG001	宮の後	A区	水溜まり	D、E、F					SD019・024が取付
SK001								土師器	所在不明
SK004	宮の後	AS・AT22－23	土坑	F				須恵器	
SK047								土師器	所在不明
SK100	宮の後	BR32	土坑	中世				灰釉陶器、白磁	
SK101	一貫尻	G区	土坑	古墳時代				須恵器、土師器	
SK102	一貫尻	G区	土坑	古墳時代					
SK103	宮の後	BB32	土坑	平安時代後期					
SK104	宮の後								欠番
SK105	宮の後	AT22	土坑	平安時代後期				土師器	所在不明
SK106	宮の後	AT20	土坑	平安時代後期				須恵器、白磁	所在不明
SK107	宮の後	AO17	土坑	奈良時代				須恵器	
SK108	宮の後	AC22	土坑	奈良時代				土師器、板状木製品	
SK109	宮の後	AT23	土坑	平安時代後期				須恵器	所在不明
SK110	宮の後	AS22	土坑					須恵器	所在不明
SK111	宮の後	AA23	土坑					土師器	所在不明
SK112	宮の後	AT23AR24	土坑	平安時代後期				灰釉陶器	所在不明
SK113	宮の後	AP23	土坑	平安時代後期				近江系緑釉陶器	所在不明
SK114	宮の後	BO26	土坑					土師器	所在不明
SK115	宮の後	BP32	土坑					土師器	所在不明
SK116	宮の後	CL19	土坑					須恵器、製塩土器	所在不明
SK117	宮の後	CF17	土坑	平安時代後期				土師器	所在不明
SK118	宮の後	AQ20	土坑					須恵器	所在不明
SK119	宮の後	BP37	土坑	平安時代後期				土師器、製塩土器、緑釉陶器、白磁、佩用金具	
SK120	宮の後	BB30	土坑	平安時代後期				土師器	所在不明
SK121	宮の後	CK18	土坑					青銅製品	所在不明
SK122	宮の後	BN31	土坑					石製品（石帯ヵ）	
SK123	六所脇	IQ09	炉跡	平安時代後期				緑釉陶器	所在不明
SX101	一貫尻	G区	溝						所在不明
SX102	宮の後	AT20	落ち込み					須恵器	所在不明
SX103	宮の後	CK12	掘り方					須恵器	所在不明
SX104	宮の後	CK24	凹み					須恵器	所在不明
SX105	宮の後	AN11	クボミ					須恵器	所在不明
SX106	宮の後	AT18	大掘り方					須恵器	所在不明
SX107	宮の後	BB32						土師器	所在不明
SX108	宮の後	CM24	凹み					須恵器	所在不明
SX109	宮の後	CR24	凹み					須恵器	所在不明
SX110	宮の後	AQ20	落ち込み					須恵器、土師器	所在不明
P100	宮の後	BN38	ピット						所在不明
P101	宮の後	AA12	焼土ピット					須恵器、金属器生産遺物	所在不明
P102	宮の後	AT15						碧玉石核	所在不明
P103	宮の後	AT18						土師器、白磁	
P104	宮の後	AC20	柱穴	平安時代後期				製塩土器	所在不明
P105	宮の後	AT19		平安時代後期				近江系緑釉陶器	
P106	宮の後	BN31	柱穴					須恵器、土師器	所在不明
P107	宮の後	BL26						須恵器	所在不明
P108	宮の後	BM32		平安時代後期				土師器	所在不明
P109	宮の後	CH11						須恵器	所在不明
P110	宮の後	CJ12	柱穴					須恵器	所在不明
P111	宮の後	CL14						須恵器	所在不明
P112	宮の後	CF17						土師器	所在不明
P113	宮の後	DF46						土師器	所在不明
P114	宮の後	AB19						須恵器	
P115	宮の後	AD20						碧玉石核	所在不明
P116	宮の後	CI18						筋砥石	所在不明
P117	宮の後	BN32						金属製品	所在不明

第24表　玉作関係遺物遺構別集計表

遺構出土の玉製作関連遺物	原石・石核				荒割				分割				水晶				調整片								敲打				剥片・チップ	
	礫状		結晶体		礫状		結晶体		礫状		結晶体		礫状		結晶体		平玉		丸玉		不明		平玉		丸玉			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
SD004			1	31.90			3	58.20																					1	7.90
SD005	1	5.89	1	12.00			3	95.32			10	223.30			2	64.00														
AB21東西溝											1	20.00																		
SD034															1	30.50														
B2号竪穴内堆積土																													6	4.90
AR24黒大柱穴																														
AT20灰色土南北オチコミ																													1	3.00
SB014																														
SB015											1	4.60																		
CE21東側南北溝			1	157.70																										
AD21東側南北溝																														
AS23灰褐色砂(溝内)																														
SB003																														
CK16暗黄褐土竪穴か							1	44.25																						
AR22礫PIT							1	128.17																						
CF17黒色土坑																														
BB31黒色PIT																														
AA18最新PIT																														
AA23古墳溝同土坑内																														
BA39黒色溝															1	20.80														
AR24石敷溝							1	24.40																						
BN27黒東西溝					1	160.54																								
AT19黒色PIT	1	1065.70																												
AT15黒色PIT																														
SE005																														
CL12柱穴																														
AT20黒色PIT																														
IT20黒色土坑																														
AT18黒色PIT																														
AR25黒色柱穴																														
SD017																														
BRP34古PIT内																														
AT22土坑内黒色土					1	20.40																								
BP34PIT内					1	52.90													1	2.90										
AT20黒色PIT?							1	25.10			1	3.70																		
G032凹み砂層											1	5.70																		
SD010	4	914.21	2	24.20	11	501.59	3	49.05	1	60.40	1	18.70			2	125.13										1	1.10			
SD045							1	10.50			1	31.00																		
C121南北溝埋土									1	24.80			1	24.00																
BA37PIT(黒色)											1	5.50																		
計	6	1985.80	5	225.80	14	735.43	14	434.99	2	85.20	17	312.50	1	24.00	6	240.43	0	0.00	1	2.90	0	0.00	0	0.00	1	1.10	7	7.90		

遺構出土の玉製作関連遺物	碧玉												メノウ								カド石	
	原石				石核		素材片				調整片(平玉)		剥片・チップ		原石				剥片・チップ		剥片・チップ	
	円礫		角礫				角張ったもの		扁平なもの						円礫		角礫					
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
SD004			1	399.60											1	35.10					1	7.10
SD005	1	24.51	2	1963.05	3	579.11	3	247.40	4	86.00			25	153.15	4	236.17					4	216.82
AB21東西溝																						
SD031							1	13.00														
B2号竪穴内堆積土																						
AR24黒大柱穴																	1	14.60				
AT20灰色土南北オチコミ																						
SB014																					1	22.20
SB015																						
CE21東側南北溝																						
AD21東側南北溝							1	57.50														
AS23灰褐色砂(溝内)							1	39.40														
SB003																	1	55.20				
CK16暗黄褐土竪穴か																						
AR22礫PIT																						
CF17黒色土坑																					2	71.90
BB31黒色PIT																					1	21.30
AA18最新PIT			1	353.10									1	22.70							1	200.20
AA23古墳溝同土坑内																					1	77.10
BA39黒色溝									1	27.70												
AR24石敷溝																						
BN27黒東西溝																						
AT19黒色PIT																						
AT15黒色PIT					1	1835.76																
SE005									1	128.20												
CL12柱穴					1	176.28																
AT20黒色PIT													1	3.41	4	116.60					1	55.38
IT20黒色土坑																					1	35.03
AT18黒色PIT			1	518.50									1	1.90			1	209.81			1	15.10
AR25黒色柱穴													1	19.00								
SD017																					1	57.10
BRP34古PIT内													1	8.10							1	16.00
AT22土坑内黒色土																						
BP34PIT内													1	2.50							1	3.80
AT20黒色PIT?																						
G032凹み砂層																						
SD010			3	603.60	3	527.44	1	52.50					1	7.20	1	50.10	1	2.54				
SD045																						
C121南北溝埋土							1	22.90			1	5.40	1	6.10								
BA37PIT(黒色)																						
計	1	24.51	8	3837.85	8.00	3118.59	8.00	432.70	6.00	241.90	1.00	5.40	33.00	224.06	10	437.97	3	267.55	1.00	14.60	17.00	799.03

第25表　玉作関係遺物石材別集計表

水晶地区別合計		原石・石核				荒割				形割				分割				調整片					
		礫状		結晶体		礫状		結晶体		礫状		結晶体		礫状		結晶体		平玉		丸玉		不明	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
樋ノ口地区	E・F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4.6	0	0	0	0	0	0
一貫尻地区	G	0	0	2	48.8	0	0	8	250.11	1	13.5	3	68.5	1	19.7	4	55.53	0	0	0	0	3	16.5
宮の後地区	A	20	5143.06	5	142.1	21	1240.74	22	662.84	14	407.46	14	500.88	18	278.7	26	547.73	8	43.21	2	14.2	0	0
宮の後地区	B	2	143.6	4	105.71	4	363.94	10	318.04	1	8.91	2	91.5	1	8.56	6	109.25	1	4.3	1	2.9	1	9.7
宮の後地区	C	13	3978.82	14	612.44	18	1475.46	24	901.12	15	356.03	24	1208.96	15	233.24	49	1045	3	22.4	0	0	1	4.4
宮の後地区	D	0	0	0	0	1	9.48	4	49.06	0	0	1	21.14	0	0	1	7.51	0	0	1	8.9	0	0
宮の後地区	J 69年	0	0	4	222.9	0	0	3	75.5	1	25.6	8	240.1	0	0	6	107.08	1	6.9	0	0	0	0
六所脇地区	I・J 70年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19.65	0	0	0	0	0	0
不明		6	1206.24	2	23.3	4	509.4	10	344.22	2	42.12	3	78.91	2	51.8	13	261.33	1	4.8	1	1.7	4	9.5
計		41	10471.72	31	1155.25	48	3599.02	81	2600.89	34	853.62	55	2209.99	37	592	107	2157.68	14	81.61	5	27.7	9	40.1

水晶地区別合計		敲打				剥片・チップ		計	
		平玉		丸玉					
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
樋ノ口地区	E・F	0	0	0	0	0	0	1	4.6
一貫尻地区	G	1	4.8	1	7.8	25	42.59	49	527.83
宮の後地区	A	1	10	3	44.21	69	163.51	223	9198.64
宮の後地区	B	0	0	0	0	7	8.25	40	1174.66
宮の後地区	C	0	0	2	23.97	63	101.37	241	9963.21
宮の後地区	D	0	0	0	0	0	0	8	96.09
宮の後地区	J 69年	1	5.22	0	0	0	0	24	683.3
六所脇地区	I・J 70年	0	0	0	0	1	10.8	2	30.45
不明		2	18.1	1	7.57	2278	215.47	42	2774.46
計		5	38.12	7	83.55	2443	541.99	630	24453.24

黒水晶		石核・石核		形割				分割		調整片		計	
				礫状		結晶体							
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
一貫尻地区	G							2	59.30	1	5.00	3	64.30
宮の後地区	A							1	33.60	1	10.30	2	43.90
宮の後地区	B	2	313.40					1	22.20			3	335.60
宮の後地区	C	1	153.30	1	28.41	1	14.27	2	71.53	2	9.77	7	277.28
不明								1	37.10			1	37.10
計		3	466.70	1	28.41	1	14.27	7	223.73	4	25.07	16	758.18

碧玉		原石				石核		素材片				調整剥片						その他		剥片・チップ		計	
		円礫		角礫				角張った物		扁平		平玉		管玉？		不明							
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
一貫尻地区	G							4	307.09	1	11.10									3	59.90	8	378.09
宮の後地区	A	9	1086.98	12	4781.00	10	4070.30	15	1043.95	25	988.22	2	14.70			3	30.93	2	354.00	37	316.00	115	12686.08
宮の後地区	B			1	399.60	2	482.60	4	176.20	3	97.00	1	11.30							6	49.68	17	1216.38
宮の後地区	C	3	174.21	12	4811.65	9	1587.55	19	1065.63	11	354.80	1	5.40			2	32.90			61	639.12	118	8671.26
宮の後地区	D																			1	11.40	1	11.40
宮の後地区	J 69年	1	90.80	1	105.70			1	43.00	1	12.20									2	33.33	6	285.03
六所脇地区	I・J 70年							1	26.00											3	55.87	4	81.87
不明				6	466.20	1	25.10	7	431.99	7	95.72			1	22.40			1	881.30	28	655.71	51	2578.42
計		13	1351.99	32	10564.15	22	6165.55	51	3093.86	48	1559.04	4	31.40	1	22.40	5	63.83	3	1235.30	141	1821.01	320	25908.53

メノウ		原石				剥片・チップ		計	
		円礫		角礫					
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
一貫尻地区	G			12	537.95	1	2.50	13	540.45
宮の後地区	A	25	940.09	19	849.22	2	22.20	46	1811.51
宮の後地区	B	2	44.99	5	241.78	1	3.80	8	290.57
宮の後地区	C	18	1101.05	14	877.82			32	1978.87
宮の後地区	D	2	18.86	2	25.66			4	44.52
宮の後地区	J 69年	1	40.60	4	564.34			5	604.94
六所脇地区	I・J 70年			2	74.20			2	74.20
不明		5	134.34	6	278.16	1	12.40	12	424.90
計		53	2279.93	64	3449.13	5	40.90	122	5769.96

カド石		剥片・チップ	
		点数	重量(g)
樋ノ口地区	E・F	6	128.21
一貫尻地区	G	9	207.10
宮の後地区	A	33	1290.07
宮の後地区	B	20	1285.70
宮の後地区	C	30	2992.44
宮の後地区	D	3	134.84
宮の後地区	J 69年	7	131.40
六所脇地区	I・J 70年	2	74.49
計		110	6244.25

頁岩・滑石		臼玉						丸玉		剥片・チップ		計	
		穿孔		素材		剥片		穿孔					
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
一貫尻地区	G			4	1.00	16	1.57					20	2.57
宮の後地区	C			9	3.58							9	3.58
不明		4	1.15	19	10.10			1	0.51	68	7.80	92	19.56
計		4	1.15	32	14.68	16	1.57	1	0.51	68	7.80	121	25.71

第26表　筋砥石・台石一覧表

		出　土　地　点	日付	挿図番号	長さ(cm)	重量(kg)	巾(cm)	厚さ(cm)	使用面	欠損の有無	石　材
1	筋砥石	６ＸＩＭＡＯ０２バラス	691106		30	13.28	15	13.5	2	完存	細粒花崗岩
2	筋砥石	出雲国府跡	68～70		20	6.44	19.4	9	4	破損	細粒花崗岩
3	筋砥石	６ＸＩＭＣＬ２０灰色バラス	701117		31	15.64	18	17.3	2	破損	細粒花崗岩
4	筋砥石	６ＸＩＭＤＩ４１耕作土	701119		33	16.6	16	14	2	完存	細粒花崗岩
5	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ１７灰褐色粘土	701118		24	8.62	17.5	10.9	1	破損	細粒花崗岩
6	筋砥石	６ＸＩＭＣＬ２０灰褐色粘土	701218		28	6.82	17	8.5	2	完存	細粒花崗岩
7	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ３１東西溝	68120？	130－12	12.7	4.08	15.1	9.6	2	破損	細粒花崗岩
8	筋砥石	６ＸＩＭＩＰ１０黄褐色バラス土	701119		10.5	7.28	18	15.9	3	破損	細粒花崗岩
9	筋砥石	６ＸＩＭＣＧ１６黄褐色粘土	701112		37	12.62	16	15.4	1	完存	細粒花崗岩
10	筋砥石	６ＸＩＭＧＳ１７黒褐色土	701218		40	18.6	18	17.4	2	完存	細粒花崗岩
11	筋砥石	６ＸＩＭＣＪ３９・４０東西溝暗灰褐粘	681126	130－14	38.3	7.68	16	9.5	3	完存	細粒花崗岩
12	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ３２暗灰粘土Ｒ	681120		35	19.06	19	17.3	2	完存	細粒花崗岩
13	筋砥石	６ＸＩＭＩＳ１０黒褐色土	701119		18	2.4	14	7.4	1	破損	細粒花崗岩
14	筋砥石	６ＸＩＭＡＢ２１黄褐色粘土	701104		15	1.6	10	60	1	破損	細粒花崗岩
15	筋砥石	６ＸＩＭＡＮ０７バラス	691107		39	9.56	19	13.9	2	完存	細粒花崗岩
16	筋砥石	６ＸＩＭＢＭ２７井戸埋土	701203	112－18	29.5	5.04	13	11	1	完存	細粒花崗岩
17	筋砥石	６ＸＩＭＣＩ１８灰褐柱穴	701118	115－13	32	9.36	16	14	1	破損	細粒花崗岩
18	筋砥石	６ＸＩＭＡＲ１４黄褐土	691223		41	13.28	14.7	13	4	完存	細粒花崗岩
19	筋砥石	６ＸＩＭＣＬ１４黒色バラス土	701117		22	7.3	11.5	11	3	破損	細粒花崗岩
20	筋砥石	６ＸＩＭＣ区北側東西溝	691223		18.5	3.82	9.8	9.8	2	破損	細粒花崗岩
21	筋砥石	６ＸＩＭＣＪ２１東西溝黄褐色砂	701117		28	4.4	11	7.3	3	破損	細粒花崗岩
22	筋砥石	６ＸＩＭＣＨ１９黄褐色粘土	701101		23	5.24	13.5	9.9	1	破損	細粒花崗岩
23	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ２４東西溝灰褐色砂	701125	123－13	25.6	5.66	16.5	7.9	1	破損	細粒花崗岩
24	筋砥石	６ＸＩＭＣＪ３４かまたは３９東西溝黄褐色砂	681126		23	2.68	17	8.9	1	破損	細粒花崗岩
25	筋砥石	６ＸＩＭＡＮ２３バラス土Ｒ	681120		27	12.86	15	18.5	1	完存	細粒花崗岩
26	筋砥石	６ＸＩＭＢＬ４０南北溝砂１	681128		28	7.18	11	14.5	2	完存	細粒花崗岩
27	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ３２東西溝	6812?5		25	5.54	13	14.5	3	破損	細粒花崗岩
28	筋砥石	６ＸＩＭＢＰ３７灰褐色土Ｒ	681119		40	9.98	12	10	3	完存	細粒花崗岩
29	筋砥石	６ＸＩＭＡＣ１７黄褐色粘土	701109		31	15.26	16.5	20.8	3	完存	細粒花崗岩
30	筋砥石	６ＸＩＭＡＳ２４石溝埋土	701108		25.5	18.1	19	17.4	2	破損	細粒花崗岩
31	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ３１東西溝	6812?6		29	6.14	13.5	12.3	1	完存	細粒花崗岩
32	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ４０東西溝	681209	130－13	28.7	7.22	12	11	2	完存	細粒花崗岩
33	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ３０東西溝底	6812?6	130－15	28.5	12.64	13.8	11.2	4	完存	細粒花崗岩
34	台石	出雲国府跡	68～70	写真106	29.5	12.36	20.8	7.6	1	破損	流紋岩?
35	筋砥石	６ＸＩＭＣＫ１３暗褐色砂	691204		28	15.76	12.5	21.3	1	破損	細粒花崗岩
36	筋砥石	出雲国府跡	68～70		41	18.1	24	17.4	2	完存	細粒花崗岩
37	筋砥石	６ＸＩＭＣＬ１２暗褐砂	691202		15	2.54	12	6	1	破損	細粒花崗岩
38	筋砥石	６ＸＩＭＣＮ　暗灰ピット	691203		15.5	2.72	8.5	10.8	3	破損	細粒花崗岩
39	筋砥石	６ＸＩＭＡＮ１６バラス	691112		12	2.64	13.8	10.3	1	破損	細粒花崗岩
40	筋砥石	６ＸＩＭＣＬ１１暗褐砂	691202		18.2	4.06	12.5	9.4	1	破損	細粒花崗岩

第27表　石器一覧表

整理番号	器　種	出土地点	日付	長さ(cm)	巾(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石包丁	6XIM		20.1	10.4	1.7	550.38	流紋岩	
3	打製石斧	6XIMBL40　1砂	681126	12.6	5.5	1.8	149.61	流紋岩	SD004
4	打製石斧	6XIMCG19黄褐粘	701112	9.4	3.5	1	46.1	安山岩	
5	スクレイパー	6XIMBM26東西溝褐色砂	701204	6.8	4.6	0.4	22.13	流紋岩	SD045
6	剥片	6XIMAM01床土下	691103				57.68	流紋岩	
7	剥片	6XIM					7.74	安山岩	
8	剥片	6XIMBK21バラス	701102				11.68	安山岩	
9	剥片	6XIMAM02バラス	691108				24.87	流紋岩	
10	剥片	6XIMEN39黄褐色粘土	691125				54.48	流紋岩	樋ノ口
11	剥片	6XIMBM29・30黄褐土	681129				80.85	流紋岩	
12	剥片	6XIMC　古墳竪穴					26.37	流紋岩	SB003
13	砥石	6XIMGO29バラス下	691114	6.2	4.3	2.3	79.78	砂岩	一貫尻
14	砥石	6XIMGS16黒褐色	701205	9.1	4.2	1.7	118.22	珪化木	一貫尻
15	砥石	6XIMAM01バラス土	691108	8.3	2.7	1	36.06	珪化木	
16	砥石	6XIMCL16灰褐色粘土	701118	13.7	7.9	3.3	506.28	珪化木	
17	石帯剥片	6XIMCI18黄褐色粘土	701116	5.9	5	2.1	51.6	頁岩	
19	石帯石核	6XIMCL12暗褐砂	691202	7.8	5	6.1	370	頁岩	
20	剥片	6XIMCI15灰褐色粘	701113				49.53	流紋岩	
25	砥石	6XIMDI41竪穴内	701121	9	8.9	2.2	210.81	凝灰岩	SB023
28	打製石斧	6XIMBA43耕作土	681122	6.9	6	1.5	84.1	流紋岩	
29	打製石斧	6XIMBA39耕作土	681122	8.6	5.8	0.7	82.1	流紋岩	

第28表　黒曜石集計表

地区名		石核		剥片・チップ		ＲＦ		ＵＦ		楔形石器		ノ　ッ　チ		ナイフ形石器?		計	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
一貫尻地区	G	1	5.84													1	5.84
宮の後地区	A	7	205.15	97	183.93	1	2.06	4	19.23	1	9.37	1	12.61	2	1.97	113	434.32
宮の後地区	B	1	11.62													1	11.62
宮の後地区	C	3	119.85	1	6.37			1	14.99	1	33.11					6	174.32
宮の後地区	SD010	1	9.1													1	9.1
不　明		1	5.01	1	1.51	1	3.75	2	15.78	2	4.8	1	22.66			8	53.51
計		14	356.57	99	191.81	2	5.81	7	50	4	47.28	2	35.27	2	1.97	130	688.71

第29表　土器・陶磁器・土製品観察表

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
48－1	56	FE39 2号竪穴覆土黄灰色粘土 FE39 2号竪穴覆土黄褐色粘土	須恵器	蓋	13.7	5.3	3.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、白色細砂粒を全体に多く含む	良好	青灰色	転用硯
48－2	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	蓋	16.7	3.6	2.7	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	密、3㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	表面風化
48－3	55	FE39 2号竪穴覆土黄褐色粘土	須恵器	蓋	－	4.0	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1.5㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	外面に黒褐色付着物
48－4	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色細砂粒を全体に多く含む	良好	明灰色	外面に黒褐色付着物
48－5	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	密、2㎜の砂粒、白色細砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	
48－6	56	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	坏	(12.3)	(2.7)	4.8	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒・細砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	自然釉付着
48－7	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ	密、1㎜以下の白色細砂粒を少し含む	良好	明灰色	
48－8	56	FE39 2号竪穴覆土黄褐色粘土	須恵器	高台付坏	－	(9.3)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、7㎜の砂粒、白色細砂粒を全体に少し含む	良好	明灰色	
48－9	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	密、白色細砂粒を少し含む	良好	青灰色	自然釉付着
48－10	55	FE39 2号竪穴覆土黄褐色粘土	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	密、白・黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
48－11	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土 FE39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	密、白色細砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	内外面に黒褐色付着物少しあり、自然釉付着
48－12	55	FE39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	鉢	－	－	－	回転ナデ、タタキ	密、1㎜以下の白色砂粒をまばらに含む	良好	明灰色	
48－13	55	FE39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	須恵器	横瓶ヵ	－	－	－	カキ目	密、1㎜以下の白色砂粒・細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
48－14	55	FG39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	土師器	甕	－	－	－		粗、1.5㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
48－15	56	FE39 2号竪穴覆土黄灰色粘土	土製品	土製支脚	－	－	－	ナデ	やや粗、1.5㎜以下の砂粒を非常に多く含む	良好	淡褐色	
48－16	55	FI39床土下黄褐色土	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、2㎜以下の黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
48－17	56	FH39竪穴内	須恵器	蓋	14.4	4.6	2.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、4㎜以下の白色砂粒を非常に多く含む	良好	青灰色	内面は墨薄く付着、転用硯
48－18	56	FH39竪穴内	須恵器	高台付坏	－	9.0	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	やや密、3.5㎜以下の砂粒・白色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	黄褐色、黒褐色の付着物
48－19	56	FI39床土下黄褐色土	須恵器	壺	－	4.9	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、1㎜以下の白色砂粒、黒色細砂粒を多く含む	良好	灰褐色	外面は黒褐色付着物やや薄く付着
48－20	55	FH39竪穴内	土師器	甕	－	－	－	風化著しい	粗、2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	良好	橙褐色	
48－21	55	EK36暗褐色土南北溝	須恵器	蓋	(17.0)	－	－	ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	二条の沈線
48－22	55	EK36暗褐色土南北溝	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ	白色粒子を含む	良好	淡褐色	
48－23	56	FB39黄褐色土	須恵器	坏	(13.4)	8.7	4.3	回転ナデ、回転糸切り	密、長石を少量含む	良好	灰色	
48－24	56	FB39黄褐色粘土	須恵器	高台付坏	(15.2)	10.0	5.4	回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒を少量含む	不良	灰白色	概報16図19
48－25	56	EQ39黄褐色粘土	須恵器	壺	－	8.2	(7.1)	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰白色	漆付着
48－26	55	EP39水田耕土	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	自然釉付着
48－27	55	FI39黄褐色土	須恵器	皿	(10.4)	(7.0)	－	回転ナデ、ナデカ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	灯明皿型
48－28	55	EN39耕土	須恵器	硯	(21.4)	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	
48－29	55	EP34水田耕土	須恵器	鉢	－	－	－	平行タタキ後カキ目	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外：灰黒色 内：灰色	
48－30	55	EL39黄褐色粘土	須恵器	甕	(22.0)	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色	自然釉付着
48－31	55	ER39黄褐色粘土	須恵器	甕	(13.0)	－	－	回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	自然釉付着
48－32	55	EQ39黄褐色粘土	須恵器	甕	(25.3)	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	灰白色	
48－33	55	FB39黄褐色粘土	土師器	甕	(32.0)	－	－	風化著しい	精良	やや不良	濃橙色	
48－34	55	FB39黄褐色土	土師器	甕	(26.0)	－	－	風化著しい	1～3㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
48－35	55	FI39耕土	瓦	平瓦	－	－	－	布目、縄目	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡赤褐色	
48－36	55	EK36耕土	灰釉陶器	壺	－	－	－	ナデ、ケズリ	精良	良好	淡灰白色	東海

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
55－1	58	GN31 G031 ピット内	土師器	甕	16.0	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	やや粗、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	外面：濃く煤付着 内面：薄く煤付着
55－2	57	GN31 G031 ピット内	土師器	高坏	－	－	－	ハケ目、ナデ	密、2㎜以下の透明な砂粒、白色細砂粒を少し含む	良好	灰褐色	
55－3		GN31 G031 ピット内	土師器	高坏	－	11.6	－	ハケ目、ヘラ磨き	やや密、1㎜以下の砂粒～白色砂粒を少し含む	良好	橙褐色	
55－4	57	G032凹み砂層	土師器	甑	－	－	－	指頭圧痕	密	良好	黒色	最大長：5.9cm 最大幅：3.2cm 厚　さ：2.0cm
55－5･6	57・58	GN31 G031 ピット内	土師器	壺	40.5	－	－	ヨコナデ	やや粗、4㎜以下の砂粒を多く、白色砂粒を少し含む	良好	淡灰褐色	煤付着、刻書
55－7	57	G030溝中	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰白色	転用硯、内面の全体に墨付着
55－8	57	G030溝中	土師器	甕ヵ	－	－	－	ヨコナデ	2㎜以下の砂粒多い	良好	淡黄褐色	55－5・6と同一個体ヵ
55－9	58	G028バラス面	須恵器	坏	(13.2)	(8.8)	(3.9)	回転ナデ、回転糸切り	2㎜大の白色砂粒含む	良好	灰色	
55－10	58	G029バラス面	須恵器	坏	(12.2)	(8.6)	3.8	回転ナデ、静止糸切り後ナデ、ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒、少量細かい白色砂粒多量	良好	灰色（変色部は暗灰色）	
55－11	57	G029床土下	須恵器	高台付坏	－	(4.8)	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む		外：紫灰色 内：灰色	
55－12	57	G037灰褐色砂質土木板の傍	須恵器	高台付坏	－	(8.6)	－	ナデ、回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外：暗紫灰色 内：灰色	
55－13	58	G031床土下	須恵器	高台付坏	(16.8)	(10.3)	6.5	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む		灰色	
55－14	57	G0－32床土下	須恵器	高台付坏	－	8.4	－	回転ナデ、不定方向ナデ	密、1～1.5㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	刻書「大」
55－15	57	GS29バラス土下	須恵器	皿ヵ	－	－	－	ナデ	2㎜大の白色砂粒含む	良好	灰色	刻書「林」ヵ
55－16	57	G0(Qヵ) 29バラス下層	須恵器	托	(17.0)	(11.0)	1.9	回転ナデ、ナデ、静止糸切り	密、白色微細砂粒を含む	良好	明灰色	
55－17	58	GP37灰褐色砂質土	須恵器	壺	－	(6.0)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、静止糸切り	密、キラキラした小片と細かい白色砂粒が多量混入	良好	外面：灰色 内面：灰白色	内面底部に漆と思われる黒い付着物
55－18	57	GR28床土下	須恵器	壺ヵ	－	(9.0)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切りヵ後ナデ、ナデ	密、砂粒が少量混入	良好	外面：暗灰色 内面：褐灰色	内面に薄く自然釉
55－19	57	G028バラス面	須恵器	器台	－	－	－	ナデ、コンパス文	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	淡灰色	
55－20	57	G032床土下	須恵器	甕	－	－	－	縦方向のカキ目後ナデ、横方向のカキ目後ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰黒～赤紫色 内：赤紫色	
55－21	57	G038灰色砂R	土製品	錘	－	－	－	ナデ	白色の微砂粒を多く含む	良好	灰白色	B類 長さ5.1～5.2cm 幅1.2～1.8cm　孔径0.6cm　重量20.01g
55－22	57	G034床土下	土師器	甕	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	濃肌色	煤付着
55－23	58	GB29黒灰色土	土製品	ミニチュア土器	2.4	－	3.1	指頭圧痕	2㎜程度の砂粒を含む	良好	黄褐色	
55－24	57	G028床土下	土師器	皿	(17.8)	－	－	ナデ	精良	良好	内：赤褐色 外：淡黄褐色	全面赤彩
55－25	57	G040床土下	土師器	坏	(13.6)	－	－	ナデ	精良	良好	肌色	
55－26	57	G028バラス面	備前焼	鉢	(31.4)	－	－	回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	Ⅰ期
55－27	57	G028床土下	白磁	碗	－	6.6	－	釉剥ぎケズリ	緻密	良好	灰白色	Ⅷ類
55－28	57	G038床土下	土製品	坩堝	(8.0)	－	－	ナデ	5㎜前後の小石を含む	良好	灰黄色	
55－29	57	G030床土下	土製品	土製支脚	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	1㎜の砂粒を密に含む	良好	黄灰色	脚部及び突起欠損
55－30	57	G034床土下	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ、ハケ	4㎜大の石英を含む	良好	濃肌色	煤付着
55－31	57	G032床土下	瓦	平瓦	－	－	－	指頭圧痕、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	凸：灰色 凹：濃緑黒色	須恵器作りの瓦
69－1	58	IQ11東西溝暗褐色	土師器	小型丸底壺	9.3	－	－	ハケ目後ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～3㎜の砂粒を多く含む	良好	淡黄～明橙色	
69－2	58	IQ11東西溝暗褐色	土師器	小型丸底壺	9.6	－	8.7	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	密、白色砂粒・黒色砂粒をやや含む	良好	乳橙褐色	概報21図3
69－3	58	IQ11東西溝暗褐色	土師器	小型丸底壺	8.0	－	7.5	ナデ、ハケ目	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	淡黄～黒色	
69－4	58	IQ11東西溝暗褐色	土師器	小型丸底壺	(8.8)	－	－	ヘラケズリ、ハケ目	やや密、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	乳橙褐色	表面風化
69－5		IQ12東西溝暗褐色	土師器	甑	－	－	－	ケズリ、ハケ目	1㎜以下の砂粒を多く含む		淡黄褐色	
69－6		IQ13東西溝暗褐色	土師器	高坏	23.5	－	－	回転ナデ、ハケ目	1㎜前後の砂粒と2～3.5㎜程度の礫を含む	良好	肌色	
69－7	57	IQ13東西溝暗褐色	土製品	不明（獣足）	－	－	－	ケズリ、ナデ	1㎜の砂粒を多く含む	良好	淡橙色	
69－8	57	IQ東西溝下層	弥生土器	甕	(14.6)	－	－	ヘラケズリ、ナデ	密、2㎜以下の礫・白色砂粒を多量に含む	良好	淡橙～灰白色	外面煤付着
69－9	57	IQ東西溝	弥生土器	甕	(13.2)	－	－		密、2㎜以下の石英・砂粒を多量に含む	良好	淡橙色	内外面とも風化磨滅
69－10	59	IQ12東西溝暗褐色	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
69－11	59	IP10東西溝	土師器	坏	(12.4)	－	－	ナデ	やや密、５㎜以下の砂粒を含む	良好	橙褐色	全面赤彩
69－12	59	IP10東西	土師器	坏	14.5	－	4.8	ミガキ、手持ちヘラケズリ	やや密、白色砂粒を含む	良好	淡橙褐色	
69－13	59	IP10東西溝	土師器	高坏	(16.4)	－	－	ナデ	密、４㎜程度の礫と２㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	橙～淡橙褐色	内面一部剥離
69－14	58	IP10東西	土師器	甕	(15.2)	－	－	ケズリ、ナデヵ	密、細かい砂粒を多量に含む	良好	浅黄橙色	外部一部剥離
69－15	59	IQ13柱穴埋土	土師器	甕	－	－	－	横方向のナデ	１㎜程度の粒子を含む	良好	茶褐色	
69－16	59	IQ13柱穴埋土	土師器	甕	－	－	－	横方向のハケ目、ナデ	１㎜程度の砂粒を含む	良好	黄褐色	黒斑
69－17	59	IQ13柱穴埋土	土師器	高坏	17.0	－	－	ミガキヵ、ヨコナデ、縦方向のナデ	１㎜程度の砂粒を含む	良好	橙色	
69－18	59	IQ13柱穴埋土	土師器	鼓形器台	16.6	－	－	ケズリ後ナデ	１㎜程度の砂粒を含む	良好	淡黄褐～桃色	表面風化
69－19	58	IQ13柱穴埋土	土師器	柱状高台付坏	－	－	－	ナデ	密、２㎜以下の砂粒を多く、白、橙色砂粒を少し含む	良好	淡褐色	内面媒着く付着
69－21	58	IR09灰黒色溝	土師器	坏	(15.6)	(8.0)	4.9	回転ナデ、回転ナデ後ナデ	１㎜前後の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙色	焼成時の粘土のふくらみあり
69－22	60	IR09灰黒色溝	土師器	坏	(14.4)	(7.0)	3.6	回転ナデ、回転糸切り	１～２㎜大の砂粒含む	良好	肌色	口縁から内面に煤付着、灯明皿
69－23	60	IR09灰黒色溝	土師器	坏	12.7	6.8	3.4	回転ナデ、回転糸切り	１㎜前後の砂粒と３㎜の礫を含む		肌色	
69－24		IR09灰黒色溝	土師器	坏	12.8	7.0	3.5	回転ナデ	１㎜位の砂粒と２㎜の礫を含む	良好	肌色	
69－25		IR09灰黒色溝	土師器	高台付坏	－	7.7	2.9	回転ナデ、ナデ	0.5㎜前後の砂粒と２㎜の礫を含む	良好	肌色、橙色	
69－26	59	IQ10土坑	緑釉陶器	碗	－	－	－	回転ナデ	密、淡黄灰色	良好	茶褐色	輪花ヵ、京都
69－27	62	IS10土坑暗褐色土	緑釉陶器	Ⅲ	14.6	7.0	2.7	回転ナデ、糸切り後ヘラケズリ後回転ナデ	精良	良好	淡緑色、やや淡黄橙色	輪花、近江、概報20図１
69－28	59	IT0黒土坑	緑釉陶器	碗	－	－	－	回転ナデ	密	やや不良(軟質)	淡緑色	京都
69－29	59	IR10黄褐色	黒色土器	坏	－	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	密	良好	外面：橙色 内面：黒色	内黒
69－30	59	IR10黄褐色	黒色土器	碗	－	5.0	－	風化著しい	密	良好	黄褐色	内黒
69－31	59	IQ7黒褐色土	黒色土器	碗	－	(7.4)	－	回転ナデ、ミガキヵ	白色砂粒を含む	良好	黄褐色	内黒
69－32	59	IR09耕作土	黒色土器	碗ヵ	－	－	－	風化著しい	１㎜以下の砂粒を含む	やや不良	黄褐色	内黒
69－33	59	IQ10黄褐色	黒色土器	Ⅲ	－	(7.2)	－	風化著しい	１～２㎜大の砂粒を含む	良好	明橙色	内黒
69－34	59	IQ19耕作土	緑釉陶器	Ⅲ	－	(6.7)	－	回転ナデ	密、黄色砂粒を含む、須恵質	良好	淡緑色	京都
69－35	59	TP黄褐色	緑釉陶器	碗	－	(6.4)	－	ナデ、回転ナデ、ケズリだし高台	密、細かい１㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡黄褐色	京都
69－36	59・62	IQ10黄褐土	緑釉陶器	Ⅲ	(15.2)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	密	やや不良	薄緑色	輪花(裏からヘラ状工具で押す)、概報20図２
69－37	59	IP10黒褐色土	緑釉陶器	碗	－	6.6	－	ケズリ	精微	良好	暗褐色	京都
69－38	62	IP09耕土	緑釉陶器	碗	－	(8.0)	－	糸切り後ナデヵ	密	良好	薄緑色	全面施釉(薄緑色)透明感がある、概報20図３、洛西、９Ｃ末10Ｃ初頭
69－39	59	IP09黄褐パラス	緑釉陶器	碗	－	－	－	口縁端部に押さえ	密	良好	薄緑色	篠
69－40	59	IA－10黒褐色	青磁		－	－	－	全面施釉、目跡	密、粉っぽい	良好	緑灰色	越州窯系
70－１	60	JR18暗褐色	須恵器	蓋	13.2	－	4.0	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む、精良	良好	灰白色	
70－２		JS17暗褐色	須恵器	蓋	12.2	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰白色	
70－３		JS16暗褐色	須恵器	蓋	13.4	－	3.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	１㎜程度の砂粒を多く含む	良好	灰色	
70－４	60	IR08暗褐色	須恵器	蓋	13.2	－	3.2	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	青灰色	転用硯、ヘラ記号「×」
70－５	60	JR－18六所脇暗褐色	須恵器	坏	11.2	－	3.9	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	１㎜前後の白色の砂粒を含む	硬質	暗灰色	
70－６	60	JR18暗褐色	須恵器	坏	10.2	－	3.6	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	やや精良、１㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	内面：灰色 外面：灰～黒色	ほぼ完形、外面に焼き膨れがあり、一部焼きただれる
70－７	60	IQ11暗褐色	須恵器	坏	11.2	－	3.7	回転ナデ、ナデ	１～２㎜の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	粘土紐の跡が残る
70－８		JR18暗褐色	須恵器	坏	10.3	－	3.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	ヘラ記号「－」
70－９		JS18暗褐色	須恵器	坏	(12.3)	4.3	3.2	ヘラ切り、ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	１㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	
70－10		JR18暗褐色	須恵器	坏	(11.3)	－	4.1	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	青灰～灰色	自然釉
70－11		IR09暗褐色	須恵器	坏	(10.3)	－	(11.4)	回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ	１～３㎜の白色の砂粒を少量含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
70－12		IS09耕作土	須恵器	高台付坏	13.1	4.9	9.7	ナデ、回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	良好	灰白色	爪状圧痕
70－13	60	IR09灰黒色溝	須恵器	高台付坏	18.0	9.2	6.8	回転ナデ、ナデ、糸切り	精良	良好	灰～灰白色	
70－14	60	IS09耕作土	須恵器	高台付坏	－	13.6	－	ナデ、回転ナデ、回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	転用硯
70－15	59	IQ09耕作土	須恵器	硯	－	－	－	ナデ	緻密	良好	淡灰褐色	
70－16	60	IR18暗褐色	須恵器	高坏	(15.0)	(10.0)	11.1	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰白色	三角形の透かしが二方向
70－17		JR18暗褐色	須恵器	高坏	14.4	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	0.5～1㎜の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	二方向に透かし
70－18		JS17	須恵器	高坏	14.4	－	－	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	青灰色	三角形透かしが二方向
70－19	60	IQ7黒褐色土	須恵器	壺	－	(15.0)	－	回転ナデ	3～5㎜の小石、1㎜の砂粒を多く含む	良好	灰色	自然釉付着
70－20		JS17暗褐色	須恵器	壺	9.0	－	－	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	黒灰～灰色	ヘラ記号「×」
70－21	60	IP10黄褐色パラス	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	頸部貼付突帯
70－22	59	IP09黄褐色パラス	須恵器	壺	14.0	－	－	タタキ後ナデ、回転ナデ、タタキ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	
70－23		JR17暗褐色	須恵器	壺	14.4	－	－	回転ナデ	精良	良好	灰白色	自然釉付着
70－24		IQ09耕作土	須恵器	甕	39.6	－	－	回転ナデ、波状文	密、微細砂粒を含む	良好	灰褐色	
70－25		JS16暗褐色	須恵器	甕	43.4	－	－	回転ナデ、波状文	精良	良好	灰～黒灰色	内外面自然釉
70－26	59	JS18暗褐色	須恵器	器台	－	－	－	ナデ、波状文	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	透かし
71－1	59	IP10東西溝灰褐色砂層	土師器	甕	(14.0)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	緻密	良好	乳褐色	表面に煤付着
71－2	59	IQ13暗褐色	土師器	甕	－	－	－	ヨコナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
71－3	60	IR19暗褐色	土師器	甕	(10.6)	－	－	ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡橙色	
71－4		IR09暗褐色	土師器	甕	(17.7)	－	－	ハケ目、ナデ、オサエ	2㎜の砂粒含む	良好	暗褐色	全面に煤付着
71－5	60	IP12暗褐色	土師器	小型丸底壺	－	－	－	ハケ目、ヘラケズリ	やや密、2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
71－6	61	JR18暗褐色	土師器	鉢	(21.1)	－	10.3	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	1㎜の砂粒を含み、2.5㎜の砂粒を僅かに含む	良好	淡橙色	口縁部に赤彩
71－7	61	IP－10暗灰色含炭層	土師器	高坏	16.5	10.1	11.5	風化著しい	1～2㎜大の砂粒含む	良好	淡肌色	赤彩
71－8		IQ12暗褐色	土師器	高坏	－	(10.4)	－	ヘラミガキ、ハケ目	1～2㎜大の砂粒含む	良好	淡赤褐色	
71－9	61	JR18暗褐色	土師器	高坏	14.8	9.4	11.0	風化著しい	密、淡黄褐色	良好	赤褐色	赤彩
71－10	61	IP10東西	土師器	高坏	－	－	－	ミガキヵ、ハケ目、ヘラケズリ後ナデヵ	やや粗（微細砂粒を多く含む）	やや不良	白褐色	表面風化
71－11	61	IP11暗褐色	土製品	土製支脚	－	－	－	ナデ、ハケ目	やや密（2㎜砂粒を多く含む）	良好	白褐～淡橙褐色	
71－12	61	IQ13黄褐色	土製品	土製支脚	－	－	－	ナデ	やや密（微細砂粒を多く含む）	良好	淡橙褐～淡黄褐色	
71－13	59	IP10暗褐色	瓦	軒丸瓦	－	－	－	風化	白色の小砂粒を含む	軟質	外面：暗灰色 断面：白色	出雲国分寺跡3類
71－14	61	IQ11耕作土	土師器	坏	(14.5)	5.3	4.8	回転ナデ、回転糸切り	赤色、白色の砂粒を少量含む	良好	橙色	
71－15	61	IR10黒褐色土	土師器	坏	13.5	5.0	4.1	回転ナデ、回転糸切り	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	淡橙色	内外面とも磨滅気味
71－16		IP10黒褐色土	土師器	坏	－	－	－	回転ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
71－17		IQ09耕作土	土師器	坏	－	6.4	－	回転ナデ、回転糸切り	赤色の小砂粒を含む	良好	明赤色	
71－18	61	IT10黒褐色土	土師器	坏	10.9	4.9	3.1	ヨコナデ、回転糸切り後ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の小石、砂粒を含む	良好	淡橙色	
71－19		IS30耕作土	土師器	坏	－	6.6	－	回転ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	明桃色	
71－20	61	IT10黒褐色土	土師器	皿	(9.6)	4.4	1.9	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	黄橙色	
71－21		IT10黒褐色土	土師器	皿	(10.2)	5.0	2.0	ヨコナデ、ナデ	密、微細砂粒と金雲母ヵを多く含む	良好	淡褐色	底部厚い
71－22	61	IR10黒褐色土	土師器	柱状高台付皿	9.6	5.1	2.9	ヨコナデ、回転糸切り	密、微細砂粒を多く含む	良好	明橙褐色	
71－23	61	IQ10黒褐色土	土師器	高台付坏	16.0	10.0	8.0	回転ナデ、回転糸切り	白色、赤色の小砂粒をやや多く含む	良好	淡橙色	
71－24		IT10黒褐色土	土師器	高台付坏	－	(9.1)	－	ヨコナデ、糸切り	密、1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
71－25		IQ09耕作土	土師器	高台付坏	13.0	7.1	5.9	回転ナデ、回転糸切り	白色、灰色の小砂粒を非常に多く含む	良好	明桃色	
71－26		IQ09耕作土	土師器	高台付坏	－	8.2	－	風化著しい	2㎜大の砂粒を含む	やや不良	濃橙色	
71－27		IQ09耕作土	土師器	高台付坏	－	(6.5)	－	風化著しい	精良	不良	肌～淡橙色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
71－28	61	IQ10黒褐色土	土師器	高台付皿	(8.6)	5.2	2.8	回転ナデ	0.5㎜前後の砂粒を含む	良好	黄橙色	
71－29		IT10黒褐色土	土師器	高台付皿	8.9	5.2	2.4	回転ナデ、回転ヘラ切りヵ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	淡橙色	
71－30		JS17黒褐色	土師器	高台付皿	－	(5.2)	－	回転ナデ	2㎜大の砂粒を含む	やや不良	濃肌色	
71－31		II	土師器	高台付坏	－	5.0	－	回転ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	明灰桃色	
71－32		JS17黒褐色	土師器	高台付坏	－	5.4	－	回転ナデ	白色、赤色の小砂粒を僅かに含む	良好	明桃色	
110－1	63	CH30－31古墳竪穴	土師器	甕	(17.4)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
110－2	63	CH30－31竪穴床面	土師器	甕	(14.6)	－	－	ヨコナデ、ナデ、ハケ目、ケズリ	白色の砂粒を少量含む	良好	明褐色、外面黒変	
110－3	64	CH30－31竪穴床面	土師器	甕	(15.0)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	1㎜程度の砂粒を含む	良好	にぶい灰黄色	
110－4	63	CH30－31竪穴床面	土師器	高坏	16.8	－	－	回転ナデ、ハケ目	0.5～2㎜の砂粒を含む	良好	にぶい淡橙色	内面格子状暗文
110－5	63	CH30－31竪穴床面	土師器	高坏	－	－	－	ナデ、ハケ目	0.5㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
110－6	63	CH31古墳竪穴	須恵器	蓋	(14.0)	－	－	回転ナデ、ナデ	密	良好	明灰色	
110－7	63	CH30－31竪穴床面	土製品	移動式竈ヵ	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	黄褐色	
110－8	63	AT19大掘り方（新）	製塩土器	製塩土器	(15.0)	－	－	ナデ、指頭圧痕	精良	良好	肌色	
110－9	63	CH30－31竪穴床面	突帯文土器	深鉢	－	－	－	突帯はナデ、巻貝条痕	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	黒灰色	
110－10	64	DI41竪穴の西側	土師器	甕	(13.6)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	黄～淡橙色	外面、大半が風化
110－11	64	DI41竪穴内セクション用アゼ	土師器	甕	(14.8)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	にぶい淡橙色	外面煤付着
110－12		DI41竪穴内	土師器	甕	(17.6)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	淡褐色	大半が風化
110－13	64	DJ41竪穴内	土師器	甕	18.6	－	－	ナデ、ヘラケズリ	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	淡黄色	風化著しい
110－14	63	D区 竪穴セクション用アゼ	土師器	甕	16.0	－	－	ヨコナデ	やや密、2㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	白褐～淡橙色	口縁端部内面黒斑
110－15	63	DI41竪穴内	土師器	高坏	(24.2)	－	－	ヨコナデ、ハケ目	砂粒を含む	良好	淡橙色	
110－16	64	DI41竪穴内	土師器	高坏	－	(13.4)	－	ヨコナデ、ナデ、ハケ目	0.5㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
110－17	64	D区 竪穴セクション用アゼ	土師器	高坏	－	(11.0)	(5.7)	風化著しい	0.5㎜程度の砂粒を含む	良好	橙色	
110－18		DI41竪穴内	土師器	高坏	－	(9.8)	－	ミガキヵ、ナデヵ、ハケ目	精良	良好	橙～黒灰色	外面黒斑
110－19	63	D区 竪穴セクション用アゼ	土師器	坏	(14.2)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	密、2㎜程度の砂粒をやや多く含む	良好	淡橙褐色	風化著しい
110－20	63	DI41竪穴内	土師器	坏	(16.8)	－	－	ヨコナデ、ハケ目	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
110－21	63	AB25黒色柱穴	須恵器	蓋ヵ	－	－	－	ナデ	精良	良好	濃肌色	
110－22	63	AS23黒色柱穴内	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、タタキ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	茶褐色	外面自然釉
110－23	63	AS23黒色柱穴内	土師器	坏	－	(5.8)	－	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	雲母、角閃石ヵを含む	良好	黄白色	
110－24	63	AS23黒色柱穴内	製塩土器	製塩土器	－	－	－	ナデ	白色の砂粒を含む	良好	橙色	
111－1	64	DE45井戸黒色	土師器	坏	(15.6)	(6.2)	4.1	ナデ、回転糸切り	赤色砂粒を含む	やや不良	白黄色	
111－2	63	DE45	土師器	坏	－	(7.0)	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	黄～淡褐色	
111－3	63	DE45井戸黒色	土師器	坏	－	(8.8)	－	回転ナデ、糸切り	精良	良好	淡黄褐色	
111－4	64	DE45井戸埋土	土師器	高台付坏	－	(7.4)	－	回転ナデ	赤色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
111－5	64	DE45井戸黒色	土師器	高台付皿	(10.6)	－	－	回転ナデ	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
111－6	63	DE45井戸	土師器	高台付皿	－	(7.6)	－	回転ナデ、糸切り、ナデ	精良	良好	灰色	
111－7	63	DE45井戸黒色	土師器	皿	9.4	4.8	－	回転ナデ、回転糸切り	赤色砂粒を含む	やや不良	にぶい黄橙色	
111－8	63	DE45井戸埋土	土師器	皿	－	4.5	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	灰～灰黄色	
111－9	63	DE45	須恵器	高台付坏	－	－	－	回転ナデ、糸切り	白色砂粒を含む	良好	灰色	
111－10	63	DE45井戸埋土	須恵器	坏	(15.6)	－	－	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	黒灰～にぶい橙色	
111－11	63	DE45井戸R黒色	黒色土器	碗	－	－	－	ナデ	精良	良好	淡褐色	内面黒色
111－12	63	DE45井戸埋土	製塩土器	製塩土器	－	－	－	ナデ、指頭圧痕	精良	良好	淡橙色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
111－13	63	DE45井戸黒色	瓦	平瓦	－	－	－	布目、タタキ	1㎜の砂粒を含む	良好	青灰～黒灰色	
111－14	64	DE45井戸埋土	土製品	ミニチュア土器	3.0	1.7	2.9	ミガキ、ケズリ、ナデ	密	良好	灰～黒灰色	
111－16	64	AS21井戸内	土師器	坏	－	5.2	－	回転ナデ、回転糸切り	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
111－17	64	AS21井戸内	土師器	柱状高台付坏	－	6.2	－	回転ナデ、糸切り	精良	良好	灰白色	
111－18	63	AS21井戸内	須恵器	高台付坏	－	9.6	－	回転ナデ	密	良好	青灰色	
111－19	63	AS21井戸内	土師器	甕	－	－	－	ナデ、ハケ目、ケズリ	2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	黄褐色	
111－20	63	R18井戸	土師器	坏	(15.4)	(6.6)	4.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を含む	やや軟質	赤橙色	
111－21	64	AR18井戸	土師器	坏	(15.0)	(5.8)	4.0	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含む	良好	橙～淡橙～灰色	黒色付着物
111－22		AR18井戸	土師器	坏	(14.0)	(6.1)	4.2	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含む	良好	灰～黄灰色	黒色付着物
111－23	64	AR18井戸	土師器	坏	(14.9)	(5.0)	4.0	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含む	良好	黄灰～暗灰色	黒色付着物
111－24	65	AR17井戸	土師器	皿	8.7	4.1	2.5	回転ナデ、回転糸切り	雲母を含む	良好	灰褐～黄橙色	
111－25	65	AR18井戸	土師器	皿	8.2	3.4	1.9	回転ナデ、回転糸切り	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
111－26	65	AR18井戸	土師器	皿	8.4	3.7	1.8	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含む	やや不良	淡褐色	
111－27	65	AR18井戸	土師器	皿	8.4	3.7	1.6	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	黒灰～淡褐色	
111－28	65	AR18井戸	土師器	皿	8.5	3.8	1.5	回転ナデ、回転糸切り	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
111－29	65	AR17井戸	土師器	皿	7.5	4.2	2.0～2.3	回転ナデ、回転糸切り	0.5㎜の砂粒を多く含む	良好	にぶい白黄	
111－30	65	AR18井戸	土師器	皿	－	8.2	1.8	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	にぶい灰黄	
111－31	65	AR18井戸	土師器	柱状高台付皿	7.9	4.5	4.0	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	精良	良好	淡褐色	
111－32	65	AR18井戸	土師器	柱状高台付皿	－	5.0	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	淡橙色	
111－33	65	AR18井戸	土師器	柱状高台付坏	－	(5.6)	－	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡黄白色	
111－34	65	AR18井戸	土師器	柱状高台付皿ヵ	－	6.0	－	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含む	良好	淡橙色	
111－35	65	AR18井戸	土師器	柱状高台付皿ヵ	－	6.6	－	回転ナデ、回転糸切り	雲母を含む、赤色砂粒を含む	良好	淡黄橙色	
111－36	65	AR18井戸	土師器	高台付坏	－	5.4	－	回転ナデ、ナデ	砂粒を含む	良好	にぶい淡褐色	
111－37	65	AR17井戸	土師器	高台付皿ヵ	－	6.2	－	回転ナデ	砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
111－38	63	AR18井戸	白磁	皿	－	4.0	－	ヘラケズリ	密、0.5㎜大の砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	Ⅳ－2類
111－39	63	AR18井戸	白磁	碗	－	6.0	－	ヘラケズリ	密、1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰白色	Ⅴ類
111－40	66	AR18井戸	白磁	碗	－	7.4	－	ヘラケズリ出し	密、胎土に隙間あり	良好	灰白色、灰色	Ⅳ－1類
111－41	66	AR19井戸	白磁	碗	－	6.4	－	回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	白色	Ⅳ－1類
111－42	65	AR21－23・AT23・AR18井戸	須恵器	硯	28.2	－	－	回転ナデ、タタキ	2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
111－43	66	AR18井戸	須恵器	甕	(23.0)	－	(5.0)	ナデ、回転ナデ、ハケ目	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
111－44	66	AR18井戸	瓦	丸瓦	－	－	－	布目、ケズリ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰～灰褐色	
111－47	66	AQ24井戸	須恵器	坏	(10.4)	(7.4)	3.3	回転ナデ、ナデ	0.5～1㎜の白色砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	
111－48	66	AQ24井戸埋土	土師器	皿	(8.8)	(4.0)	1.8	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	淡褐色	
111－49	66	AQ24井戸埋土	土師器	皿	－	(3.4)	1.3	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	淡褐色	
111－50	65	AQ24井戸埋土	土師器	高台付坏	－	(9.6)	－	回転ナデ、回転糸切り	白色・赤色の砂粒を含む	良好	橙色	
111－51	66	AQ24井戸埋土	瓦	平瓦	－	－	－	タタキ、布目	1㎜の砂粒を含む	良好	黒灰～灰色	
111－52	65	DI42井戸埋土	土師器	坏	15.8	5.5	4.5	回転ナデ、ナデ	雲母を密に含む	良好	にぶい黄橙～橙色	
111－53	65	DI42井戸埋土	土師器	坏	14.8	6.0	4.3	回転ナデ、ナデ	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	橙色	
111－54		DI42井戸埋土	土師器	坏	－	5.6	－	回転ナデ、回転糸切り	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	にぶい黄灰色	
111－55	65	DI42井戸埋土	土師器	皿	8.4	3.7	1.7～1.8	回転ナデ、風化	白色砂粒・雲母を含む	良好	にぶい黄褐色	
112－1	66	BN32井戸内R	土師器	坏	15.2	5.6	4.3	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	灰～淡褐色	
112－2	65	BN33穴（井戸ヵ）	土師器	坏	－	5.0	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	灰白色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
112－3	65	BN32バラス下(井戸ヵ)	土師器	高台付坏	－	(8.1)	－	回転ナデ	1㎜の砂粒を多く含む、1cm前後の小石をごくまれに含む	良好	淡橙～橙色	
112－4		BN33穴（井戸ヵ）	土師器	高台付坏	－	－	－	回転ナデ	精良	良好	淡黄褐色	
112－5	65	BN32井戸内R	土師器	高台付皿	9.1	6.1	3.0～3.2	回転ナデ	砂粒を含む	やや不良	にぶい淡褐～灰褐色	
112－6	65	BN32バラス（井戸ヵ）	土師器	高台付皿	－	(5.4)	－	回転ナデ	微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－7		BN33穴（井戸ヵ）	土師器	高台付坏	－	－	－	回転ナデ	精良	やや不良	淡黄褐色	全体に風化
112－8	65	BN32バラス下(井戸ヵ)	土師器	柱状高台付皿	－	(4.2)	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	やや不良	淡橙色	
112－9	66	BN32井戸内R	土師器	皿	8.6	4.6	1.8	回転ナデ、回転糸切り	砂粒・雲母を多く含む	良好	灰褐～橙褐色	
112－10	66	BN32バラス下(井戸ヵ)	須恵器	鉢	(42.0)	－	－	回転ナデ、タタキ、ナデ、２条の沈線	密、やや大きめの白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
112－11	67	BM27井戸埋土	土師器	坏	－	(6.0)	－	回転ナデ、ナデ	微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－12	67	BM27井戸埋土	土師器	高台付皿	－	4.8	－	回転ナデ、ナデ	砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－13	67	BM27井戸埋土	土師器	柱状高台付皿	8.7	4.7	3.5	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	赤色の微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－14	67	BM27井戸埋土	土師器	柱状高台付皿	－	(5.6)	－	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－15	67	BM27井戸埋土	土師器	柱状高台付皿	8.6	4.1	3.4	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－16	67	BM27井戸埋土	土師器	皿	9.0	3.6	1.9～2.3	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	暗灰黄色	
112－17	66	BM27井戸埋土	土師器	皿	(9.4)	4.4	1.7	回転ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	淡橙色	
112－19	66	AP20井戸ヵ	土師器	坏	－	8.0	－	回転ナデ、回転糸切り	2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	
112－20	67	AP20井戸ヵ	土師器	柱状高台付坏	－	6.2	－	回転ナデ、回転糸切り	2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	褐色	
112－21	66	AP20井戸ヵ	瓷器系陶器	甕	－	－	－	ナデ、タタキ	2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	茶褐色	内面：自然釉付着
112－22	66	BP33井戸北R	土師器	皿	－	4.8	－	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	灰白色	
112－23	67	BP33井戸北R	土師器	高台付皿	－	6.0	－	回転ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
112－24	67	BP33井戸北R	土師器	柱状高台付坏	－	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
112－25	66	BO27井戸埋土	土師器	皿	(8.4)	(1.8)	4.2	回転糸切り	精良	良好	淡灰白色	
112－26	66	BO27井戸埋土	土師器	皿	(15.4)	1.8	4.0	糸切りヵ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
112－27		BO27井戸埋土	土師器	柱状高台付坏	－	5.8	－	回転ナデ、回転糸切り	3㎜以下の赤色・白色粒子を含む	良好	黄褐色	
112－28	66	BO27井戸埋土	瓦器	椀	12.0	－	－	ミガキ	精良1㎜の白色砂粒を若干含む	良好	暗灰色	樟葉型13C
112－29	66	BO27井戸埋土	青磁	碗	－	6.6	－	ヘラケズリ	精緻	良好	暗緑色、淡灰色	龍泉窯系1類
112－30	66	BO27井戸埋土	須恵器	甕ヵ壺	－	－	－	ナデ、タタキ	2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
112－31	66	BO27井戸埋土	須恵器	甕ヵ壺	－	－	－	ナデ、タタキ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
112－32	66	AR11井戸内黒色	土師器	皿	(7.2)	4.6	1.5	回転ナデ、糸切り	精良	良好	黄褐色	
112－33	67	BM30黒色穴	土師器	坏	－	6.9	－	回転ナデ	白色の砂粒を含む	良好	明白茶色、暗灰色	底部：板状圧痕
112－34	66	BN30井戸北内R	土師器	坏	－	(3.9)	－	回転ナデ、回転糸切り	密、1.5㎜以下の白・橙色砂粒を全体に僅かに含む	良好	橙褐色	
112－35	67	BN30大Pit内黒色	土師器	坏	(13.1)	(7.1)	3.2	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	密、2.3㎜以下の橙色砂粒・黒色細砂粒を多く含む	良好	乳褐色	手捏ね
112－36	66	BN30井戸北内R	土師器	柱状高台付皿	(8.8)	－	－	回転ナデ	密、1㎜以下の橙色砂粒・砂粒を僅かに含む	良好	橙褐色	
112－37	67	BN30井戸北内R	土師器	柱状高台付坏	－	－	2.5	回転ナデ、回転糸切り	密、2㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
112－38	66	BN30井戸北内R	土師器	甕	(13.9)	－	－	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	やや粗、1.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙褐色	内面：煤薄く付着
112－39	66	BN30井戸北内R	須恵器	高台付坏	－	(10.8)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の白・黒色砂粒を全体に少し含む	良好	明灰色	外面：黒褐色付着物
112－40	66	BN30井戸北内R	須恵器	壺	－	(15.0)	(7.3)	ヘラケズリ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～3㎜の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
113－1		AS AT22-23土坑内	須恵器	蓋	(15.6)	－	1.9	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密、黒い粒子、長石を少量含む	良好	暗灰色	
113－2	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	蓋	(18.0)	－	3.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	灰色	宝珠つまみ
113－3	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	蓋	(11.2)	－	(3.2)	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	砂粒を含む	良好	黒灰～灰色	宝珠つまみ
113－4	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	蓋	(15.2)	－	2.1	回転ナデ、ナデ	密、長石、石灰を少量含む	良好	暗灰色	
113－5		AS AT22-23土坑内	須恵器	蓋	(17.4)	－	8.8	回転ナデ、ナデ、糸切り	密、長石を微量に含む	良好	赤褐色、明灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
113－6	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	坏	10.8	6.8	4.0	回転ナデ	密、石灰を少量含む	良好	灰色	
113－7		AS AT22-23土坑内	須恵器	坏	(12.3)	(8.6)	4.2	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入、2～3㎜の白色砂粒が少量混入	良好	暗灰色	
113－8		AS AT22-23土坑内	須恵器	坏	(11.2)	(7.4)	4.1	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を含み、3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	口縁端部：油煙付着
113－9		AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(17.4)	(12.0)	6.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	密、黒い粒子が少量混入、1㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	灰色、明灰色	
113－10	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(12.0)	(10.0)	5.1	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、長石を少量、石英を微量含む	良好	明灰色	口縁端部：油煙付着　概報17図50
113－11		AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(12.4)	8.5	9.7	回転ナデ、糸切り後ナデ	密、石英・長石を少量ふくみ、石粒をやや多く含む	良好	暗灰色	
113－12		AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.2)	4.4	回転ナデ	密、2㎜以下の石英・白色砂粒が多量混入	良好	暗灰色	重ね焼き痕あり
113－13		AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(12.8)	(8.2)	4.4	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	暗灰色	
113－14		AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付坏	(11.8)	(6.2)	3.5	回転ナデ、ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
113－15		AS AT22-23土坑内	須恵器	皿	(15.4)	(9.2)	2.5	回転ナデ、ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入、1㎜程度の白色砂粒が微量混入	良好	暗灰色	
113－16		AS AT22-23土坑内	須恵器	皿	(15.3)	(12.0)	1.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ	密、1㎜程度の石英が少量混入	良好	灰白色	
113－17	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	高台付皿	(18.6)	(12.7)	3.0	回転ナデ、回転糸切り	密、長石を少量含む	やや不良	明灰色	
113－18	67	AS AT22-23土坑内	須恵器	高坏	－	18.0	6.0	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含み、2～3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	円形四方向透かし
113－19	69	AS AT22-23土坑内	須恵器	鉢	(29.0)	－	－	回転ナデ	1～2㎜の砂粒を含み、5㎜前後の砂粒を少し含む	良好	暗灰色	
113－20	67	AT22土坑内黒色土	土師器	坏	11.5	5.1	3.3	回転ナデ、回転糸切り	1㎜以下の白色砂粒を含む	やや不良	淡黄褐色	
113－21	69	AT22土坑内黒色土	土師器	坏	(11.2)	5.6	3.1	回転ナデ	密、長石・石英を少量含む	やや不良	黄褐色	
113－22		AT22土坑内黒色土	土師器	高台付皿	(12.0)	5.8	3.9	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色	
113－23	69	AT22土坑内黒色土	土師器	高台付皿	11.6	3.0	6.4	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色	
113－24	69	AT22土坑内黒色土	土師器	高台付坏	(16.3)	(10.0)	6.7	回転ナデ、ナデ	0.5㎜前後の砂粒を含む	やや不良	橙～淡橙色	
113－25	68	AT20黒色ピット(大)	白磁	蓋	4.2	－	－	回転ナデ	密	良好	淡灰白色	広東系
113－26	68	AT20黒色ピット(大)	須恵器	坏ヵ皿	－	－	－	糸切り後ナデ、ナデ	1㎜前後の砂粒、雲母を含む	良好	白灰色	刻書「白」
113－27	69	AT20黒色ピット(大)	須恵器	皿	(14.2)	(11.6)	2.3	回転ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	黄灰色	
113－28	69	AT20黒色ピット(大)	須恵器	坏	(11.8)	(7.7)	4.3	回転ナデ、静止糸切り、ヨコナデ	密、細かい黒色砂粒が多量混入	良好	灰色（変色部は暗灰）	重ね焼き
113－29		A017土坑R	須恵器	蓋	8.7	－	2.2	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密、1㎜前後の砂粒を少量含む	良好	灰色	概報16図1
113－30	69	A017土坑R	須恵器	蓋	(9.7)	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	内面磨滅
113－31	69	A017土坑R	須恵器	蓋	10.3	－	2.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ	密	良好	灰色	
113－32		A017土坑R	須恵器	蓋	13.4	－	2.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	灰～灰白色	外面ヘラ記号「×」
113－33	68	AC22黒色土坑	土師器	高台付皿	(11.8)	5.5	(2.8)	回転ナデ、ナデ	密、白色微細砂粒を含む	良好	淡橙褐色	
113－34	69	AC22黒色土坑	土師器	坏	(15.4)	6.0	4.70	回転ナデ、回転糸切り	2㎜大の砂粒を含む	良好	明褐色	灯明皿型、口縁端部油煙付着
113－36	68	AA12撓土ピット	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	密、3㎜以下の白色砂粒を多く、5㎜の黒色砂粒を一粒含む	良好	明灰色	
113－37	68	AA12撓土ピット	土製品	坩堝	16.4			ナデ	砂粒を多く含む	良好	灰色	銅滓付着
113－38	68	AA12撓土ピット	土製品	羽口				ナデ	砂粒を多く含む	良好	灰色	先端ガラス質
114－1	68	AT18黒色ピット(中)	土師器	皿	(20.2)	－	－	ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	淡黄褐色	赤彩
114－2	68	AT18黒色ピット(中)	白磁	碗	－	6.7	－	回転ナデ、ヘラケズリ	密、2㎜以下の砂粒を少し含む	良好		Ⅳ－1類
114－3	69	AQ20黒色オチコミ	須恵器	高台付坏	(11.5)	8.6	4.6	回転ナデ、回転糸切り	1㎜前後の砂粒を含む	良好	暗青灰色	内外：口縁部に漆付着
114－4		AT23土坑内	須恵器	蓋	15.3	－	3.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	橙～暗褐色	輪状つまみ
114－5	69	AS22土坑内	須恵器	蓋	16.4	－	4.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	2～3㎜程度の砂粒を少し含む	良好	暗灰～灰褐色	宝珠つまみ
114－6		AA24北土坑内	土師器	高台付坏	15.0	8.2	5.7	回転ナデ、回転糸切り	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色	
114－7		AC20黒色柱穴	製塩土器	製塩土器	(10.8)	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	橙～肌色	
114－8	62・68	AT23黒穴AR24バラス	緑釉陶器	碗	－	8.6	－	回転ナデ、沈線、糸切り	精良	良好	緑色	近江10C中～後

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
114－9	68	AP23黒褐色穴	緑釉陶器	碗	－	6.3	－	回転ナデ、糸切り後回転ナデ	細かく均質な土	良好	淡緑色	近江
114－10	68	AS19パラス・AT19黒ピット	緑釉陶器	碗	－	－	－	回転糸切り、沈線	密	良好	濃緑色	近江
114－13		BP37穴Ｒ黒色土	土師器	高台付坏	－	(4.8)	－	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	軟質	白色	
114－14		BP37穴Ｒ黒色土	土師器	坏	－	5.7	－	ナデ、回転糸切り	密、微細砂粒を含む	良好	淡灰褐色	
114－15	69	BP37穴黒色土	土師器	坏	(15.0)	6.2	5.2	回転ナデ、静止糸切り	２㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
114－16	68	BP37穴Ｒ黒色土	製塩土器	製塩土器	(18.2)	－	－	ナデ	１～２㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰褐色	
114－17	68	BP37穴黒色土	緑釉陶器	香炉	－	12.2	－	回転ナデ	密、0.5㎜以下の白色砂粒を僅かに含む	良好	淡緑灰色	美濃ヵ、10Ｃ
114－18	68	BP37穴黒色土	白磁	碗	17.0	－	－	ケズリ、施釉	緻密	良好	灰白色	Ⅳ類
114－22	68	BN31柱穴Ｒ	土師器	甕	(16.4)	－	－	ナデ、ケズリ	５㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
114－23		BN31柱穴Ｒ	土師器	甕	(17.0)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ケズリ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
114－24		BN31柱穴Ｒ	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、ハケ目状タタキ	２㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡灰色	
114－25		BL26灰色ピット	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ	密、石英、長石を少量含む	良好	灰色	方形二方向透かし
114－26		BB30土坑内	土師器	坏	12.3	7.2	4.1～4.3	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	微砂粒を含む	良好	橙～淡橙色	
114－27	69	BQ34ピット内	土師器	坏	15.4	5.8	4.2	回転ナデ、回転糸切り	２㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
114－28		BM32ピットＲ黒色土	土師器	高台付Ⅲ	(8.4)	(3.8)	3.1	回転ナデ	白色・赤色の砂粒を含む	良好	桃白色	高台　特徴的
114－29		BO26黒色土坑	土師器	坏	－	5.0	－	ヨコナデ、回転糸切り	密、微細石英片・白色砂粒を含む	良好	淡橙褐色	
114－30		BP32大穴黒色土	土師器	Ⅲ	4.8	4.4	2.0	回転ナデ、回転糸切り	２㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	概報18図19
114－31	68	BR32大ピット黒色土	灰釉陶器	碗	14.2	－	6.0	回転ナデ、糸切りヵ	密、２㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	東濃虎渓山
114－32	68	BR32黒色大穴中	白磁	Ⅲ	(12.2)	4.8	2.7	ケズリ、施釉	精良	良好	淡灰白色	Ⅶ－２ｂ類
115－1		CL19土坑灰褐色粘土	須恵器	高台付Ⅲ	(16.8)	(10.6)	4.4	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、0.5～１㎜以下の白色砂粒を含む	良好	暗灰色	高台が高い
115－2		CL19土坑灰褐色粘土	製塩土器	製塩土器	(12.6)	－	－	指頭圧痕、布目圧痕	２～４㎜大の白色礫含む	良好	明橙色	
115－3		CH11暗灰ピット	須恵器	坏	(11.4)	7.0	(4.4)	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、0.5㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
115－4		CH11暗灰ピット	須恵器	甕	(16.0)	－	－	回転ナデ、ハケ目、タタキ	密、２㎜以下の白色砂粒を少し、黒色細砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	
115－5	70	CJ12柱穴	須恵器	蓋	8.6	－	4.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、１㎜以下の砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
115－6	70	CJ12柱穴	須恵器	高台付坏	12.0	8.9	4.3	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
115－7		CL12柱穴	土師器	坏	－	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ、ハケ目	密、１㎜以下の砂粒をやや多く含む	良好	橙褐色	全面赤彩
115－8		CL12柱穴	製塩土器	製塩土器	－	－	－	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	密、0.5㎜以下の砂粒を少し含む	良好	橙褐色	
115－9		CL14黒柱穴	須恵器	蓋ヵ	－	－	－	風化著しい	１㎜以下の砂粒を含む	やや不良	肌～灰白色	
115－10		CF17黒色土坑	土師器	Ⅲ	(7.4)	(3.9)	2.0	ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	やや不良	明桃色	ゆがみあり
115－11		CF17黒色Pit内	土師器	Ⅲ	約11.0	5.4	約3.0	回転ナデ、回転糸切り	赤色、白色の砂粒を含む	不良	橙色	ゆがみ大
115－14	70	DF46北西隅Pit	土師器	坏	12.4	－	4.2	ミガキ、手持ちケズリヵ	２㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	外面は器壁が荒れている
115－15	110	CK19土坑	須恵器	坏	(13.1)	(7.8)	(4.5)	ナデ、回転ナデ、回転糸切り後ナデ	１㎜の黒い粒を多量に含む、２㎜程度の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	外面底部に「官」の墨書
115－16	109	AQ20土坑	須恵器	Ⅲ	－	－	－	回転ナデ、ナデ	細かな砂粒を少量含む	良好	灰色	外面底部に□〔笥ヵ〕の墨書
115－17		AT20灰色土南北オチコミ	須恵器	坏	－	(12.2)	－	ナデ、回転ナデ、回転糸切り後ナデ	密	不良	内面：明茶褐色 外面：暗茶褐色	外面底部に「□勝」の墨書
115－18		AB19丸柱穴	須恵器	坏ヵ	－	－	－	ナデ、回転糸切り	砂粒などは含まない	良好	灰色	外面底部に「山水土」の墨書
115－19	109	CK12掘方内	須恵器	坏	－	－	－	ナデ、回転糸切り	密、砂粒はほとんど含まない	良好	灰色	外面底部に「生」の墨書
115－20		CK24灰黒粘土凹み	須恵器	坏	－	(8.6)	－	ナデ、回転糸切り、回転ナデ	細かな砂粒を含む	良好	淡い灰色	外面底部に「驛」の墨書
115－21		AN11黒灰色粘土クボミ	須恵器	Ⅲ	－	(7.7)	－	回転ナデ、回転糸切り	１㎜前後の砂粒を含む	良好	青灰色	内面磨滅
115－22		AN11黒灰色粘土クボミ	須恵器	壺	－	(15.2)	－	回転ナデ	0.1㎜～４㎜程度の砂粒を含む	良好	淡灰色	
115－23		AQ20黒色土オチコミ	須恵器	Ⅲ	(15.5)	(12.8)	2.5	回転ナデ、回転糸切り	0.5㎜前後の砂粒がほんの僅か含む	やや不良	淡灰色	
115－24	70	AQ20黒色土オチコミ	須恵器	高台付Ⅲ	(16.6)	(10.4)	3.4	回転ナデ	２㎜～３㎜の砂粒を含む	良好	外面：灰色 内面：淡灰色	高台内に油煙付着、転用硯

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
115－25	70	AQ20黒色土オチコミ	土師器	蓋	(17.6)	－	1.8	回転ナデ、ヘラケズリ	2㎜～3㎜の砂粒と1㎜前後の雲母を微量含む	良好	淡乳褐色	全面赤彩
115－26	68	AQ20黒色土オチコミ	土師器	坏	(11.5)	－	(3.4)	回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少量含む	不良	淡乳褐色	全面赤彩
115－27		AQ20黒色土オチコミ	土師器	坏	－	(8.0)	－	回転ナデ、回転糸切り	1㎜前後の砂粒を少量含む	不良	外面：薄橙色 内面：肌色	
115－28		AT19大掘り方	須恵器	蓋	(13.6)	－	－	糸切り、ヘラケズリ、回転ナデ	白色粒子1～3㎜が点在する	良好	灰色	転用硯
115－29	70	AT20灰色土南北オチコミ	須恵器	蓋	(15.2)	－	2.1	回転ナデ、ヘラケズリ	1㎜前後の砂粒と、2～3㎜の砂粒を含む	良好	暗灰色	転用硯
115－30		BB32黒色土(溝) P	土師器	高台付坏	(10.6)	(7.6)	－	回転ナデ	1㎜以下の長石と、1㎜以下の赤色粒子を微量に含む	良好	肌色	
115－31		CM24灰黒色粘土(凹み)	須恵器	坏	(11.8)	－	4.85	回転ナデヵ	1㎜～6㎜の白色砂粒を含む	やや不良	淡灰色	内外面、風化著しい
115－32		CM24灰黒色粘土 (凹)	須恵器	高台付坏	(15.7)	(11.8)	5.95	回転ナデ、回転糸切り	1～2㎜の白色砂粒を少量含む	良好	内面：灰色 外面：灰～灰白色	
115－33		CR24灰黒色粘土凹み	須恵器	高台付坏	－	(8.2)	－	回転ナデ、ナデヵ	0～1㎜以下の白色粒子と黒色粒子を微量含む	良好	灰色	転用硯
116－1	70	BA40暗褐色土	須恵器	蓋	(15.0)	－	3.4	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	2㎜の白色砂粒を含む	良好	黄灰～暗黄灰色	
116－2	70	BA40暗褐色土	須恵器	蓋	15.8	－	2.4	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
116－3	70	BA40暗褐土	須恵器	蓋	(15.8)	－	3.4	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、ナデ	やや粗、1～3㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	外：灰～暗灰色 内：淡褐～暗褐～暗灰色	
116－4	70	BA40暗褐色RO21	須恵器	蓋	13.1	－	2.9	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	
116－5	70	BA40暗褐色RO26	須恵器	坏	13.0	6.7	4.5	回転ナデ、ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
116－6		BA40南北溝暗褐色土	須恵器	甕	18.2	－	－	回転ナデ、沈線	やや粗、微細砂粒を多く含む	良好	灰白色	自然釉付着
116－7		BA40南北溝暗褐Ⅰ	土師器	甕	(11.8)	－	－	ナデヵハケ目カ、ナデ、ヘラケズリ	1㎜の砂粒を少量含む	良好	にぶい黄～橙色	口縁の一部に黒斑
116－8		BA40南北溝暗褐色土	土師器	甕	(17.2)	－	－	ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰褐色	煤付着
116－9		BA40南北溝暗褐Ⅰ	瓦	丸瓦	－	－	－	ナデ、タタキ	1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
116－10		BP40南北溝暗褐色土	白磁	碗	－	4.0	－	ヘラケズリ、施釉	精緻	良好	外面：乳白色 内面：灰白色	Ⅴ類ヵ
116－11		BP40南北溝暗褐色土	白磁	碗	－	2.8	－	施釉	密、1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	灰色	Ⅴ－4類
116－12		BP40南北溝暗褐色土	白磁	水注	(11.6)	－	－	回転ナデ、施釉	密、1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	Ⅲ系
116－13	70	BM40 Ⅰ砂	須恵器	蓋	(12.4)	－	3.5	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜の白色砂粒、5㎜くらいの小石を含む	良好	黒灰～灰褐色	一部自然釉が付着
116－14		BA40 Ⅰ砂	須恵器	蓋	15.1	－	3.2	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰色	
116－15	71	BA40 Ⅰ砂	須恵器	蓋	15.6	－	3.0	回転ナデ、ナデ	0.5㎜の砂粒を含み、1～1.5㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	内面磨滅
116－16	71	BA40南北溝Ⅰ砂	須恵器	蓋	15.5	4.1	3.5	回転ヘラケズリ、ナデ	精良、1㎜程度の白色砂粒を少量含む	良好	外：灰～暗灰色 内：灰色	内面ヘラ記号「×」、概報16図17
116－17		BA40 Ⅰ砂	須恵器	蓋	14.8	－	3.2	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	灰～暗灰色	
116－18		BA40 Ⅰ砂RO12	須恵器	蓋	(15.6)	－	3.35	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、石英を少量含む	良好	黄灰色	概報17図47
116－19	71	BA40南北溝Ⅰ砂	須恵器	蓋	14.5	－	3.0	回転ナデ	密、黒色微粒子、石英、長石を少量含む	良好	黄灰色	概報17図32
116－20		BA40 Ⅰ砂	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、ケズリ後ナデ	密	良好	灰色	墨書「三太」、転用硯
116－21		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	蓋	(14.0)	－	2.1	回転ナデ、ナデ	1㎜前後の砂粒を含み、3㎜の砂粒も僅かに含む	良好	褐灰色	
116－22		BA40 Ⅰ砂RO23	須恵器	蓋	(20.4)	－	－	回転ナデ、ヨコナデ	密、大きな砂粒を多く含む	良好	明灰色	外面全体に自然釉
116－23		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	蓋	(12.2)	－	(3.2)	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
116－24		BF40黄褐砂	須恵器	坏	(17.8)	－	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	
116－25		BO40南北溝砂Ⅰ(上層)	須恵器	坏	(14.2)	(8.0)	4.3	回転ナデ、回転糸切り後ナデ消し	1㎜の砂粒を含む	良好	青灰～灰色	
116－26	71	BL40 Ⅰ砂R	須恵器	坏	12.7	7.4	4.4	回転糸切り、ヨコナデ、ナデ	精良、1㎜未満の白色砂粒を少量含む	良好	内：淡い褐灰色 外：褐色、淡褐灰～黒色	
116－27		BM40 Ⅰ砂R51	土師器	坏	10.8	7.4	3.6	糸切り、回転ナデ、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	赤褐色	概報18図15
116－28	71	BF39南北溝黄褐砂	須恵器	高台付坏	13.0	7.9	4.8	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
116－29	71	BA40 Ⅰ砂	須恵器	高台付坏	13.0	8.1	4.8	静止糸切り、回転ナデ、ナデ	1～2.5㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	内外面に漆付着
116－30		BM40 Ⅰ砂	須恵器	高台付坏	(15.4)	(9.0)	4.6	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	暗灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
116－31		BM40南北溝Ⅰ砂	須恵器	高台付坏	(13.3)	(8.2)	5.4	回転ナデ、ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
116－32		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(21.2)	(13.0)	6.0	糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰～青灰色	
116－33		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(21.4)	(15.0)	6.2	糸切り、回転ナデ、ナデ	精良、白色砂粒を含む	良好	青灰～灰色	
116－34		BM40 Ⅰ砂	須恵器	高台付坏	－	(12.4)	－	糸切り後回転ナデ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	暗灰色	
116－35		BM40 Ⅰ砂	須恵器	高台付坏	(12.2)	(10.6)	4.35	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含み0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色	
116－36		BF39・40南北溝 黄褐砂	須恵器	皿	(14.0)	(9.4)	2.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰～灰白色	
116－37	71	BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	壺	－	4.2	(8.4)	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良、白色砂粒を含む	良好	灰白色	漆付着
116－38	71	BA40 Ⅰ砂	須恵器	壺	－	(6.4)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	内外断面に漆付着、底部外面ヘラ記号
117－1	71	BA40 Ⅰ砂	須恵器	甕	－	(7.5)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸り	1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	内外断面に漆付着
117－2		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	長頸壺	(8.8)	－	－	回転ナデ、ナデ、沈線	白色砂粒を含む	良好	黒灰～灰色	自然釉付着
117－3	71	BL40黄褐色土南北溝R	須恵器	長頸壺	－	9.8	－	ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラキリ	やや粗、1～3㎜程度の白色砂粒を密に含む	良好	灰色、黒～黄褐色	概報16図26
117－4		BA40南北溝Ⅰ砂	須恵器	器台	－	－	－	回転ナデ、波状文	白色砂粒を含む	良好	灰色	
117－5		BA40 Ⅰ砂	須恵器	甕	－	(5.2)	－	平行タタキ、ヘラケズリ、ナデ	精良	やや不良	灰白色	煤付着
117－6		CJ32灰色砂、BA40	須恵器	鉢	40.6	－	－	平行タタキ後ナデか、回転ナデ	長石、石英を少量含む	やや不良	黄灰色	SD005と接合
117－7		BP40南北溝砂Ⅰ	須恵器	鉢	－	－	－	カキ目後タタキ、ナデ、工具ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	把手
117－8		BM40南北溝Ⅰ砂	須恵器	甕	－	－	－	タタキ	白色砂粒を含む	良好	黒灰色	甕片転用置台
117－9		BA40 Ⅰ砂	須恵器	甕	(20.2)	－	－	回転ナデ、カキ目	精良	良好	暗灰～青灰色	
117－10		BA40 Ⅰ砂R37	須恵器	甕	(21.0)	－	－	回転ナデ、タタキ	密、砂粒を少量含む	良好	黄灰色	
117－11		BF39・40南北溝黄褐色砂	須恵器	甕	21.8	－	－	回転ナデ、タタキ	精良	良好	灰色	自然釉付着、ヘラ記号ヵ
117－12	71	BA40 R70 Ⅰ砂ヵ	土師器	蓋	(16.8)	－	－		2㎜以下の白色砂粒を含む	良好	赤褐色	全面赤彩
117－13		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	－	－	－	回転ナデ	0.5㎜の砂粒をまれに含む	良好	黄色	
117－14	71	BA40 Ⅰ砂R50	土師器	坏	16.0	11.0	5.0	回転ナデ、糸切り後ナデ、ナデ	精良	良好	赤褐色	全面赤彩、概報18図16
117－15	72	BA40 Ⅰ砂R46	土師器	坏	5.0	9.8	4.8	回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	赤褐色	全面赤彩 剥離が著しい
117－16		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	(16.0)	－	－	ヘラミガキ、ナデ	精良	良好	赤褐色	全面赤彩、暗文
117－17		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	(18.4)	－	－	回転ナデ後ヘラミガキ	精良	良好	にぶい橙色	全面赤彩、外面に黒斑
117－18		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	－	8.0	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	淡橙色	全面赤彩
117－19	72	BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	(13.8)	(9.0)	3.2	回転ナデ、ヘラミガキ	精良	良好	赤褐色	全面赤彩
117－20		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	(15.8)	－	(3.3)	ナデ	精良	良好	淡橙色	全面赤彩
117－21		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	坏	－	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ	精良	良好	淡橙色	全面赤彩
117－22		BA40 Ⅰ砂R6T	土師器	皿	17.8	12.0	3.2	ミガキ、ケズリ	精良	良好	淡赤褐色	器表は風化、全面赤彩、概報18図19
117－23		BA40 RO40 Ⅰ砂	土師器	坏	－	－	－	ミガキ、手持ちヘラケズリ	精良	良好	淡赤褐色	放射状暗文
117－24	72	BA40 Ⅰ砂	土師器	皿	21.2	12.6	3.1	回転ナデ、ミガキ、ヘラケズリ	密、0.5㎜前後の砂粒を多く含む	良好	黄橙～黄灰色	暗文、概報18図5
117－25		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	皿	(16.2)	－	－	風化著しい	2㎜大の砂粒を含む	良好	赤褐色	
117－26	72	BA40 Ⅰ砂R68	土師器	高台付皿	23.5	17.4	2.9	ミガキ、ケズリ、回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	赤褐色	全面赤彩、概報18図20
117－27		BA40 Ⅰ砂R54	土師器	高台付皿	(11.4)	(15.0)	3.3	ミガキ、ヨコナデ	精良	良好	赤褐色	内面はラセン状暗文、全面赤彩、概報18図6
117－28	62	BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	盤（洗）	－	37.4	－	ナデ	精良	良好	橙色	
117－29		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	高坏	－	－	－	ナデ、指頭押圧	精良	良好	淡橙色	赤彩
117－30		BA40南北溝Ⅰ砂	土師器	甕	－	－	－	ナデ後ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	黄灰色	外面に煤付着
117－31	72	BA40 Ⅰ砂	土師器	甕	12.2	3.8	13.55	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	1㎜の砂粒を多く含む	良好	黒～暗橙色	口縁～底部に煤付着
118－1	72	RO40 南北溝 砂2（下層）	須恵器	蓋	14.6	－	3.0	ヘラケズリ、ナデ	精良、1㎜未満の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	概報16図12

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
118－2	72	BO40南北ミゾ2砂	須恵器	蓋	14.4	－	3.0	回転ナデ、ナデ	1㎜前後の砂粒を含み、3㎜前後の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	輪状つまみ
118－3	72	BA40Ⅱ砂	須恵器	蓋	15.0	－	2.6	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	3～5㎜の砂粒を僅かに含み、1㎜前後の砂粒も含む	良好	青灰色	輪状つまみ、概報16図4
118－4		BA40 Ⅱ砂	須恵器	坏	(11.8)	(8.2)	3.9	回転ナデ、静止糸切り	密、砂粒を少量含む	良好	黄灰色	
118－5	72	BA40 R32 Ⅱ砂	須恵器	高台付坏	12.2	8.0	4.4	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡橙～暗赤色	油煙付着、概報17図49
118－6	72	BA40 Ⅱ砂	須恵器	高台付坏	16.6	11.2	4.3	回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	概報16図20
118－7		BP40南北ミゾ砂Ⅱ（暗褐色）	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、カキ目、タタキ	精良	良好	灰色	
118－8	80	BA40 南北ミゾ 2砂	須恵器	横瓶	11.4	－	(24.5)	回転ナデ、タタキ	白色砂粒を含む	良好	灰～黒灰色	焼成時の焼台付着、自然釉付着
118－9		BO40南北溝砂Ⅱ（下層）	須恵器	壺	－	(7.2)	(3.9)	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	転用硯
118－10		BO40南北溝砂Ⅱ（下層）	須恵器	長頸壺	10.0	－	(9.2)	回転ナデ	精良	良好	灰色	漆付着
118－11	80	BA40南北ミゾ砂2	須恵器	長頸壺	8.2	6.8	18.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ	0.5㎜の砂粒を含み、1～2㎜の砂粒を少し含む	良好	白灰色	漆付着
118－12		BP40南北ミゾ砂Ⅱ（暗褐色）	須恵器	壺	－	12.6	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	灰白色	搬入品カ
118－13	62	BP40東西ミゾ砂Ⅱ（暗褐色）	瓦	平瓦	－	－	－		1㎜の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	泥条盤築
118－14		BO40南北溝砂Ⅱ（下層）	土師器	甕	(24.2)	－	－	ナデ、ヘラケズリ	0.5㎜の砂粒を含む	良好	黄灰色	内面赤彩
118－15		BO40南北溝砂Ⅱ（下層）	土師器	甕	(20.8)	－	(8.5)	ナデ、ヘラケズリ	0.5～1㎜の砂粒を密に含む	良好	橙～暗黄色	
118－16		BA40 2砂	土師器	壺	(13.8)	－	13.2	ヨコナデ、ナデ、ハケ目、指頭圧痕	1.5㎜の砂粒を含む	良好	茶褐色	煤付着、概報18図22
118－17		BA40 南北溝 2砂	土師器	甕	(15.0)	－	－	ハケ、ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	茶褐色	煤付着
118－18	72	BA40 RO14	須恵器	蓋	13.0	－	4.2	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヨコナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	灰色	概報17図28
118－19		南北大溝バラス	須恵器	蓋	(16.4)	－	3.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色砂粒を含む	良好	外面：黒灰～灰色 内面：青灰色	
118－20	80	BA40 RO20	須恵器	蓋	15.8	－	3.1	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、1㎜以下の白色砂粒、細かい黒色粒子が少量混入	良好	灰色	転用硯
118－21		BA40 RO10	須恵器	蓋	(17.8)	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、砂粒を少量含む	良好	灰色	
118－22			須恵器	蓋	－	－	－		1㎜の砂粒を含む	やや不良	灰色	
118－23	80		須恵器	坏	13.6	9.6	4.4	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	
118－24			須恵器	坏	(13.4)	(9.4)	3.9	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	
118－25		BA40	須恵器	坏	(13.2)	(9.4)	3.4	糸切り、回転ナデ、ナデ	粗い、1㎜の砂粒を含む、3～5㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
118－26		BA40	須恵器	坏	(13.4)	(7.8)	4.0	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	精良	良好	灰色	
118－27		BA40	須恵器	高台付坏	－	(8.8)	(3.2)	ヘラキリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
118－28		BA39・40玉石溝R	須恵器	高台付坏	－	(12.4)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	外面：明褐～灰褐色 内面：灰色	
118－29		BA40	須恵器	皿	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、工具ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	灰色	
118－30	80	BA40 RO29	須恵器	高台付皿	(18.2)	12.3	3.1	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ヨコナデ	密、キラキラした細かい砂粒、白色砂粒が多量混入	良好	外面：灰色 内面：灰白色	概報17図38
118－31		BA39・40玉石溝R	須恵器	高台付皿	－	(10.9)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外面：明褐～灰色 内面：灰黒色	
119－1		BA40	須恵器	高台付皿	－	18.1	－	ヘラケズリ、回転糸切り、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	灰～明褐色 褐色	
119－2		国庁68-70	須恵器	皿	11.8	－	－	回転ナデ	精良	良好	暗灰～青灰色	灯明皿型
119－3			須恵器	皿	9.0	5.6	2.7	回転ナデ、回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含み、2㎜の砂粒を僅かに含む	良好	赤灰～灰色	灯明皿型
119－4		BM40黄褐土	須恵器	皿	8.8	5.8	1.9	回転ナデ、回転糸切り		良好	青灰色	自然釉付着、灯明皿型
119－5		BA40 R36	須恵器	高坏	－	(12.8)	－	回転ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒が少量混入	不良	灰色	四方向透かしカ
119－6		BA39・40玉石溝	須恵器	高坏	－	(13.0)	－	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	脚に長方形透かしカ
119－7		BA40 R35	須恵器	高坏	－	(13.2)	－	回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒が多量混入	不良	灰黄色	三方向透かしカ
119－8		BA40	須恵器	高坏	－	－	－	回転ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	不良	白灰色	
119－9	80	BA40	須恵器	鉢	17.3	－	7.5	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、細かい黒色粒子が多量混入	良好	青灰色	概報17図39

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
119－10		C地区40ライン南北溝	須恵器	長頸壺	11.0	－	－	回転ナデ、ケズリ、ナデ、指頭圧痕	白色砂粒を含む	良好	暗灰色	
119－11		BA39・40玉石溝R	須恵器	長頸壺	(5.8)	－	－	回転ナデ	精良、白色砂粒を含む	良好	暗灰～灰色	自然釉付着、壺Gカ
119－12		BM40赤褐色土南北溝	須恵器	壺	－	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	精良	良好	暗灰～灰色	自然釉付着
119－13		BA39・40玉石溝R	須恵器	壺	－	(9.8)	－	タタキ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	暗灰～灰色	
119－14		BA39・40玉石溝R	須恵器	壺ヵ	－	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
119－15		BA40	須恵器	鉢	(41.8)	－	－	回転ナデ、タタキ	白色砂粒、２㎜前後の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	
119－16		BM40赤褐色土 南北溝	須恵器	鉢	(26.0)	－	－	回転ナデ	精良	良好	青灰色	
119－17		BM40赤褐色土 南北溝	須恵器	甕	(40.2)	－	－	ヘラケズリ、ナデ	１～２㎜大の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
119－18		(南北溝)BF39	土製品	ミニチュア土器	－	－	－	不明	１㎜以下の砂粒を含む	良好	明褐色	
119－19		BA40南北溝	土師器	坏	(17.2)	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ	精良	良好	赤褐色	全面赤彩
119－20		BA39・40玉石溝R	土師器	坏	(11.4)	(8.4)	4.2	回転ナデ、糸切り	精良	良好	淡橙色	全面赤彩
119－21		BA39・40玉石ミゾR	土師器	甕	(17.2)	－	(10.4)	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5～１㎜の砂粒を多く含む	良好	淡橙色	
119－22			土師器	甕	(22.8)	－	(9.5)	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	１～２㎜の砂粒を密に含む	良好	にぶい淡橙色	一部に黒斑あり
119－23		BA39・40玉石溝R	土師器	甕	(17.6)	－	(8.4)	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5～１㎜の砂粒を多く含む	良好	淡橙色	
119－24		BA39・40玉石溝R	土師器	甕	(18.0)	－	(11.4)	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5㎜～１㎜の砂粒を多く含む	良好	にぶい黄色	
120－１		CJ24東西溝灰黒粘土	須恵器	蓋	(21.0)	－	4.3	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、２㎜以下の黒色砂粒を多く、白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	外面　自然釉、輪状つまみ付き
120－２		CJ21東西溝埋灰黒	須恵器	蓋	13.8	－	(2.2)	回転ヘラケズリ、ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	灰～灰褐色	転用硯
120－３		CJ21東西溝埋灰黒	須恵器	蓋	12.3	－	－	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、1.5㎜以下の白色砂粒を全体にまばらに含む	良好	青灰色	ボタン状つまみ付蓋ヵ
120－４		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	蓋	(13.7)	－	3.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、１㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	短頸壺の蓋
120－５		CK21東西溝埋土灰黒	須恵器	坏	11.4	8.4	3.8	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	0.5～１㎜前後の白色砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	一部ヘラ切りヵ、軟質
120－６		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.4)	4.4	回転糸切り、貼付高台、回転ナデ	0.5～２㎜程度の砂粒を含む	良好	暗灰色、青灰色	
120－７		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付坏	(17.6)	(12.0)	7.6	糸切り、回転ナデ	密、１㎜程度の砂粒を含む	良（やや軟質）	暗灰色	
120－８		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付坏	(16.4)	(12.6)	5.7	回転ナデ	0.5㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色、淡灰色	
120－９		CK21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付坏	13.2	9.2	4.6	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	不良	赤褐色	
120－10		CJ21 東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付坏	(10.6)	(9.4)	5.0	糸切り後ナデ、ナデ、回転ナデ	密、４㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
120－11		CJ24東西溝灰黒粘土	須恵器	皿	(13.1)	(10.0)	1.9	ナデ、回転ナデ	密、0.5㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
120－12		CK21東西溝埋土灰黒粘土	須恵器	皿	17.0	13.0	2.5	糸切りヵ、ナデ、回転ナデ	密、２㎜以下の砂粒を多く含む	良好	暗灰褐色	遺物所在不明
120－13		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	皿	13.9	7.2	3.3～3.8	回転糸切り後ナデ、ナデ、回転ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	黒褐色	
120－14		CK21東西溝灰黒	須恵器	皿	(15.1)	(10.8)	2.3	回転糸切り、回転ナデ	やや密、３㎜以下の砂粒・白色細砂粒を多く含む	良好	青灰色	
120－15		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	皿	(13.8)	－	2.1	糸切り、ナデ、回転ナデ	１㎜程度の砂粒を少量含む	良好	暗灰色、褐灰色	
120－16	74	CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付皿	17.8	13.3	3.7	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	暗青灰色、暗赤灰色	重ね焼き痕跡
120－17		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付皿	(19.0)	(11.2)	3.2	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	0.5～１㎜の白色砂粒を多く含む	良好	黒灰～灰色	転用硯
120－18		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付皿	(29.9)	(14.9)	2.9	ナデ、回転ナデ	密、１㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	不良	灰白色	軟質
120－19		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	高台付皿	(19.1)	(15.4)	2.1	回転糸切り、回転ナデ	密、１㎜以下の白色砂粒・黒色細砂粒を多く含む	良好	灰白色	
120－20		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	壺	－	(6.1)	－	回転糸切り、回転ナデ	密、白・黒色砂粒を全体に少し含む	良好	青灰色	
120－21		CK21東西溝埋土灰黒色	土製品	取瓶	－	－	－	ナデ、工具ナデ、指頭圧痕	微砂粒を多く含む	良好	灰～橙色	被熱変色
120－22		CJ21東西溝埋土灰黒	須恵器	鉢	(16.8)	－	－	回転ナデ	密、１㎜以下の白色砂粒を全体に少し含む	良好	青灰色	
120－23		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	蓋	(12.5)	－	－	回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ、回転ナデ	密、２㎜以下の砂粒・黒色細砂粒を多く含む	やや不良	白褐色	
120－24		CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	蓋	17.9	－	1.7	回転糸切り、回転ヘラケズリ、回転ナデ	１～２㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	
120－25		CJ17東西溝灰褐砂・CJ20東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	(14.3)	－	2.7	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、１㎜以下の白色砂粒・0.5㎜以下の黒色砂粒を全体に多く含む	良好	明灰色	宝珠つまみ
120－26	74	CJ16東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	18.4	－	4.7	沈線２条、回転ナデ	密、長石、石英を少量含む	やや不良	灰色	宝珠つまみ

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
120－27		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	(13.0)	－	3.1	ナデ、回転ナデ、回転ケズリ後ナデ	密	良好	灰色	
120－28		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	蓋	(18.1)	－	－	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、3㎜以下の白色砂粒を多く、黒色細砂粒を少し含む	良好	明灰色	
120－29	74	CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	18.0	－	3.1	ナデ、回転ナデ、回転ケズリ	密、長石を少量含む	良好	暗灰色	宝珠つまみ
120－30		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	(17.6)	－	3.5	沈線1条、回転ナデ、ヨコナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入			天井部ヘラ記号
120－31		CJ16東西溝灰褐砂	須恵器	蓋	(20.4)	－	3.1	ナデ、回転ナデ	やや粗、砂粒を多く含む	良好	灰白色	胎土・焼成特徴的
120－32		CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(4.3)	－	－	ヘラミガキ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒・黒色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	搬入品ヵ
120－33	74	CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(13.2)	9.0	3.75	静止糸切り、ナデ、回転ナデ	密	良好	青灰色	
120－34		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	14.0	13.2	3.9	静止糸切り、回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰～褐灰色	内面に漆付着
120－35		CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	坏	(12.6)	(8.2)	4.1	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色、灰色	
120－36		CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(12.2)	6.2	4.1	回転糸切り後ナデ、ナデ、回転ナデ	密、4㎜大の砂粒と細かい砂粒を僅かに含む	良好	淡灰～淡黄灰色	底部内面に赤色顔料
120－37		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	坏	(11.2)	(7.7)	3.8	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、白色砂粒を多く、黒色砂粒を少し含む	良好	灰白色	
120－38		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(11.2)	8.7	4.2	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	底部仕上げ粗雑
120－39		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(11.5)	(8.6)	3.8	ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の砂色砂粒・黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
120－40	74	CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	坏	12.2	7.4	4.3	回転糸切り、回転ナデ	密、長石、石英を少量含む	不良	明灰色	転用硯
120－41		CJ東西溝灰褐砂	土師器	坏	10.8	8.2	4.3	風化磨滅のため不明	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	明褐色	
120－42		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(12.0)	(8.6)	－	回転糸切り後ナデ、ヨコナデ、回転ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入	良好	緑がかった灰色	底部外面ヘラ記号「×」
121－1		CJ16東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(13.6)	9.6	3.8	回転糸切り後ナデ、ナデ、回転ナデ	密	良好	淡灰色	
121－2		CK24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	14.2	9.2	4.5	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	白色砂粒を含む	やや不良	赤褐色	
121－3	74	CJ17東西溝灰褐色砂・灰褐色粘土	須恵器	坏	13.0	8.4	5.4	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	～2㎜程度の砂粒を含む	良好	淡灰色	
121－4		CJ20東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(16.0)	9.6	5.3	ヘラケズリ、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	暗青灰色	
121－5	74	CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(14.4)	(9.6)	6.6	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、0.5～8㎜の白色砂粒・黒色細砂粒を非常に多く含む	良好	暗灰～青灰色	内面自然釉
121－6		CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	坏	10.1	7.0	3.7	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰～明褐色	重ね焼き痕あり
121－7		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(13.9)	(11.9)	3.8	回転糸切り、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を全体にまばらに含む	良好	明灰色	
121－8		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	坏	(10.0)	(7.6)	3.3	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	～2㎜程度の砂粒を含む	良好	青灰色、暗灰～灰白色	
121－9		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	坏	(10.4)	(6.3)	3.7	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、細かい白色砂粒が微量混入	良好	灰色	
121－10		CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	皿	(9.8)	(7.4)	4.7	糸切り、回転ナデ、沈線	密だが～1㎜程度の砂粒を少量含む	良（やや軟質）	灰白色	灯明皿型
121－11	74	CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(22.6)	(13.6)	5.9	回転糸切り、回転ナデ、回転ヘラケズリ	～1.5㎜程度の砂粒を含む	良好	青灰色、黄灰色	
121－12	74	CK24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(21.2)	12.2	6.8	ナデ、回転ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	風化激しい
121－13		CJ14東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	－	(13.2)	－	ナデ、回転ナデ	密、白・黒色砂粒を全体に少し含む	良好	灰白色	皿の可能性もある
121－14		CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	－	(11.9)	－	ナデ、回転ナデ	密、2㎜の砂粒を僅かに、白色砂粒を全体に多く含む	良好	淡灰色	転用硯
121－15		CJ18東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(13.4)	(9.4)	5.1	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	やや密、白色砂粒を多く含む	良好	暗赤褐～明灰色	内外面自然釉
121－16		CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(13.2)	9.2	－	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入	やや不良	明赤褐色	焼き歪み
121－17		CJ18灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(14.4)	(9.0)	4.4	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	高台は灰釉陶器に似る
121－18		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	－	(9.5)	－	ナデ、回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
121－19		CJ10東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(16.8)	(12.2)	6.7	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、砂粒を少量含む	不良	灰白色	
121－20		CJ東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(14.4)	(10.1)	5.6	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	やや不良	淡灰色	
121－21		CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(16.2)	(12.4)	6.3	糸切り、ナデ、回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	
121－22		CJ14東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(16.4)	(12.2)	5.2	高台、ナデ、回転ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	黄灰色	内面底部磨滅
121－23		CJ東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(11.6)	(8.1)	4.1	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒・黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	内面に黒褐色付着物あり
121－24	74	CJ20東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	11.3	8.3	4.3	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、7㎜の砂粒を含み、白色細砂粒を多く全体に含む	良好	暗灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
121－25		CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	11.8	8.6	4.4	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	2～3㎜大の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	
121－26		CJ16東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(12.6)	(9.2)	5.0	糸切り、静止ナデ、回転ナデ	密、5㎜の砂粒を含む	良好	暗灰色	内面底部磨滅
121－27		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付坏	－	(11.1)	－	ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の長石を少量含み、細かい白色砂粒を多く含む		灰色	貼付高台
121－28		CJ東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	－	(12.0)	－	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰～赤灰色	
121－29		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	皿	(14.9)	(10.0)	2.6	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密,0.5～1㎜の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
121－30		CJ東西溝灰褐砂	須恵器	皿	(17.6)	(13.4)	2.6	沈線、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	やや不良	淡灰色	風化激しい
121－31		CJ16東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付皿	－	(14.4)	－	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、5㎜の黒色砂粒・3㎜の白色砂粒・白色と黒色の細砂粒を少し含む	良好	淡灰色	
121－32		CJ14東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付皿	16.8	12.6	3.2	沈線、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	軟質
121－33		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付皿	(22.1)	(19.2)	3.30	回転糸切り、ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	やや密、3㎜以下の白色砂粒・砂粒を非常に多く含む	良好	青灰色	
121－34		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付皿	(23.6)	(19.6)	3.4	糸切り、ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、3㎜以下の半透明な粒子・白色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
121－35		CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	高台付皿	(18.8)	(13.4)	3.7	ナデ、回転ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	黄灰色	
121－36		CJ18東西溝灰褐砂	須恵器	高台付皿	(20.8)	(13.2)	3.3	回転糸切り、回転ナデ	やや密、白色砂粒を多く含む	やや不良	淡灰色	ヘラ記号ヵ
122－1		CJ17東西溝褐色砂	須恵器	高坏	(24.0)	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、石英を少量含む	やや不良	灰白色	軟質
122－2		CJ16東西溝褐色砂	須恵器	高坏	(24.4)	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色砂粒を少し含む	良好	灰白色	
122－3	74	CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	高坏	－	15.3	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	淡灰白色	軟質
122－4		CK24東西溝灰褐色砂	須恵器	高坏	－	(11.8)	－	回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒・白色細砂粒を多く含む	良好	青灰色	
122－5		CT17東西溝灰褐色砂	須恵器	短頸壺	－	－	－	回転ナデ	白色の微砂粒を少量含む	良好	明灰色	
122－6		CJ19東西溝青褐色砂・CJ20東西溝灰褐色砂	須恵器	壺	－	5.6	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラケズリ	密,2.5㎜以下の砂粒・白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
122－7	74	CJ24東西溝灰褐色砂	須恵器	長頸壺	10.6	－	－	沈線、ナデ、回転ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	青灰色	
122－8		CJ18東西溝灰褐色砂	須恵器	長頸壺	－	9.2	－	貼付高台、ナデ、回転ナデ	白色の小砂粒を少し含む	良好	くすんだ青灰色	
122－9		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	長頸壺	－	10.0	－	高台、回転ナデ、回転ヘラケズリ	砂粒をあまり含まない	良好	淡青灰色	内面に褐色の漆付着
122－10	62	CJ14東西溝灰褐色粘土・CJ21東西溝埋土　灰黒	須恵器	壺	－	6.2	－	糸切り、回転ナデ	精良、5㎜程度の砂粒を含む	良好	暗灰色、灰色	壺G、断面が赤褐色
122－11		CJ18東西溝灰褐砂	須恵器	皿	(9.8)	(7.0)	2.7	糸切り、自然釉、回転ナデ	密、白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	灯明皿型
122－12		CJ20東西溝灰褐色砂	須恵器	皿	(7.1)	(5.2)	2.0	回転糸切り、回転ナデ	密、白・黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	内面に黄褐色の付着物あり、灯明皿型
122－13		CJ18東西溝灰褐砂	須恵器	鉢	19.6	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	白色砂粒を含む	不良	橙色	
122－14		CJ18東西溝灰褐砂	須恵器	鉢	－	(12.2)	－	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	白色砂粒5㎜の小石を含む	不良	橙色	
122－15		CJ24東西溝灰褐砂	須恵器	鉢ヵ	－	(12.0)	－	糸切り、ナデ、回転ナデ、糸切り後回転ヘラケズリ	密、長石、砂粒を少量含む	良好	灰色	
122－16	62	CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	鉢	(42.2)	－	－	回転ナデ、タタキ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	把手
122－17	62	CJ16溝灰褐色砂	須恵器	鉢	－	－	－	平行タタキ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色、青灰色	底部外面自然釉
122－18	75	CJ17東西溝灰褐色砂	須恵器	硯	－	17.8	－	回転ナデ	精良	良好	青灰色	
122－19		C（Jヵ）17東西溝灰褐砂	須恵器	甕	(22.2)	－	－	平行タタキ、ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の長石が多量混入、2㎜以上の砂粒が少量混入	良好	明灰色	
122－20	62	CK24東西溝灰褐色砂	須恵器	甕	(23.2)	－	－	平行タタキ、当て具痕、回転ナデ	密、白色砂粒を僅かに含む	良好	暗灰色	
122－21		CJ40東西溝灰褐砂	須恵器	横瓶	12.0	－	－	当て具痕、ナデ、回転ナデ	黒色の微砂粒を含む	良好	灰～黒灰色	
122－22	62	CJ20東西溝灰褐砂	瓦	軒丸瓦	－	－	－	布目	白色の砂粒を含む	やや軟質	明灰色	瓦当文様不明
122－23	62	CJ17東西溝灰褐色砂	瓦	軒平瓦	－	－	－	ナデ	白色の砂粒を含む	軟質	黒褐色、明黄褐色	瓦当部なし
123－1	73	CJ18東西溝灰褐色砂	土師器	蓋	(16.0)	－	－	ナデ、ヨコナデ	密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を僅かに含む	良好	暗橙褐～淡褐色	赤彩
123－2	73	CJ16東西溝灰褐色砂	土師器	坏	(13.4)	(9.4)	3.7	ナデ、ヨコナデ	密、白・黒色細砂粒を全体に多く含む	良好	橙褐色	赤彩
123－3		CJ17東西溝灰褐色砂	土師器	皿	(17.0)	(13.0)	3.0	風化著しい	精良	良好	肌色	赤彩

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
123－4		CJ15東西溝灰褐色砂	土師器	皿	(15.2)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	密、白色砂粒を多く含む	良好	暗橙褐色	赤彩
123－5	73	CJ18東西溝灰褐砂	土師器	皿	(20.8)	(16.4)	1.5	沈線、ヘラケズリ	精良	良好	淡灰白色	赤彩　暗文
123－6		CJ14東西溝灰褐砂	土師器	高坏	－	－	－	シボリ　風化著しい	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
123－7		CJ20東西溝灰褐色砂	製塩土器	製塩土器	(9.7)	－	－	布目、指頭圧痕、ナデ	密、白色細砂粒を少し、橙色細砂粒を僅かに含む	良好	乳橙褐色	外面に煤が薄く付着
123－8		CJ東西溝灰褐砂	土製品	羽口	－	－	－		1㎜以上の砂粒を多く含む		灰～暗褐～橙色	
123－9	73	CJ東西溝灰褐砂	土製品	羽口	－	先端孔径2.2外形5.0	－		1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
123－10		CJ25東西溝灰褐砂	土製品	取瓶	－	－	－	布目、ナデ	微砂粒を多く含む	良好	黄～灰黄色	型づくり
123－11		CJ20東西溝灰褐砂	土師器	甑	－	－	－	ハケ、ナデ、ヨコナデ、指頭圧痕	密、2㎜以下の砂粒を多く、白・黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐～墨褐色	煤付着
123－12		CJ20東西溝灰褐色砂	土製品	土製支脚	－	－	16.8	ナデ、ケズリ	1㎜前後の砂粒を密に含む	良好	淡褐色	
123－14		CJ32東西溝・CJ30、31黄褐砂	須恵器	蓋	(12.5)	－	3.7	ナデ、回転ナデ	密、白色砂粒を少し含む	良好	暗赤褐色	宝珠つまみ
123－15		CJ東西溝黄褐色	須恵器	蓋	13.2	－	3.6	ナデ、回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラケズリ	やや密、砂粒を含む	良好	灰白色	宝珠つまみ
123－16	75	CJ31黄褐砂・CJ30東西溝暗灰色粘土	須恵器	蓋	13.8	－	4.9	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を多く、3㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	暗灰色	短頸壺の蓋ヵ
123－17		CJ21東西溝黄褐色砂	須恵器	坏	(12.0)	7.4	8.9	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、4㎜の砂粒を含む	不良	灰白色	
123－18	75	CJ39東西溝R黄褐砂	須恵器	坏	13.5	10.0	4.5	回転糸切り、回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	概報17図34
123－19		東西溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	14.0	8.8	4.1	回転糸切り、回転ナデ	密、長石礫を少量含む	不良	黄灰色	
123－20		CJ30、31東西溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.2)	3.7	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	良好		
123－21	75	CJ21東西溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(16.3)	(12.1)	6.4	糸切り、静止ナデ、回転ナデ	密、～1㎜以下の砂粒を含む	良好	暗灰色、淡赤灰色	
123－22		CJ19東西溝黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(15.9～16.6)	11.0	5.5	回転糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	灰色	
123－23		CJ21東西溝黄褐色砂・CJ東西溝黄褐色	須恵器	高台付坏	(12.2)	(9.2)	4.5	回転糸切り、爪状圧痕、ナデ、回転ナデ	密、2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色、灰白色	底部外面ヘラ記号「×」
123－24		CJ21東西溝黄褐砂	須恵器	皿	(9.8)	(5.8)	3.1	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白・黒色砂粒を全体に多く含む	良好	灰白色	底部仕上げが粗雑、灯明皿型
123－25	75	CJ31東西溝黄褐砂	須恵器	小型壺	9.6	5.4	9.2	ヘラ切、回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラケズリ	密、1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	灰黄～暗灰黄色	内面に漆付着
123－26		CJ21東西溝黄褐砂	須恵器	高台付皿	(23.0)	(19.4)	3.0	静止糸切り、板目、ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	2㎜程度の砂粒を含む	良（やや軟質）	淡黄灰色	転用硯
124－1		CJ31東西溝黄褐色砂	須恵器	長頸壺	(10.6)	－	－	沈線、ナデ、回転ナデ	密、砂粒を少量含む	良好	赤灰色	
124－2	73	CJ39黄褐砂	須恵器	短頸壺	5.6	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色の微細粒を含む	良好	灰色	
124－3	73	CJ31東西溝黄褐色砂	須恵器	鉢	－	－.	－	方形刺突文、回転ナデ、タタキ痕	密、細砂粒・白・黒色砂粒を少し含む	良好	青灰色	把手あり
124－4		CJ東西溝黄褐色	須恵器	甕	(20.0)	－	－	ナデ、平行タタキ、車輪文	密、黒雲母ヵを含む	良好	黄灰色	
124－5	73	CJ21黄褐色	土師器	坏	(14.2)	－	－	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	明白茶色	赤彩
124－6	75	CJ21黄灰色砂質土	土師器	坏	(17.4)	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	砂粒をほとんど含まない	良好	明淡桃色	暗文
124－7	73	CJ21黄灰色砂質土	土師器	皿	(19.2)	－	－	回転ナデ、ケズリ	ガラス質の微砂粒を含む	良好	黄白色	赤彩
124－8		CJ21黄灰色砂質土	土師器	皿	(16.1)	－	－	ナデ、回転ナデ、ケズリ	砂粒をほとんど含まない	良好	明白桃色	赤彩
124－9		CJ17黄褐色	土師器	高坏ヵ	－	(13.2)	－	ナデ	2～3㎜大の砂粒を含む	やや不良	黄褐色	赤彩
124－10	73	CJ30、31黄褐砂	製塩土器	製塩土器	(10.2)	－	－	指頭圧痕	3㎜大の礫を多く含む		淡紅色	
124－11	73	CJ34東西溝黄褐砂	土師器	甑	－	－	－	ハケ目	やや密、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を非常に多く含む	良好	灰褐色	薄く煤付着、把手
124－13	75	CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	蓋	(16.3)	－	4.5	ナデ、回転ナデ、ヘラケズリ	密、1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	淡灰色	重ね焼き痕、宝珠つまみ
124－14		CJ18東西溝埋土灰褐粘	須恵器	蓋	(12.8)	－	2.5	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色砂粒を多く含む	やや不良	淡灰～淡橙褐色	ボタン状つまみ
124－15	75	CK19灰褐色粘土	須恵器	蓋	20.6	－	－	ナデ、回転ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	青灰色	
124－16		CJ15東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	蓋	(13.4)	－	3.7	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、石英と長石を微量に含む	良好	灰白色	重ね焼き痕、宝珠つまみ
124－17		CJ15東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	蓋	(12.6)	－	3.6	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、2㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	灰色	宝珠つまみ

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
124－18	75	CJ14東西溝灰褐粘土	須恵器	蓋	12.3	－	3.4	ナデ回転ナデ、回転ヘラケズリ	やや密、1～4㎜程度の白色砂粒を含む		灰白色	宝珠つまみ
124－19		CJ18東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	(12.2)	8.7	4.0	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、白・橙色砂粒を少し含む	やや不良	灰褐色	
124－20		CJ20東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	(11.6)	8.4	4.1	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、長石、石英を少量含む	やや不良	黄灰色	
124－21		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	11.6	8.0	4.0	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3.5㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
124－22		CJ15東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	(12.2)	(8.8)	3.8	糸切り、回転ナデ	密、細かい白色砂粒が少量混入	良好	灰色	重ね焼き痕あり
124－23	75	CJ17東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	(10.9)	8.0	3.8	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	淡青灰～暗青灰色	重ね焼き痕あり
124－24		CJ20東西溝灰褐色粘土	須恵器	坏	10.6	8.0	3.8	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、4㎜以下の砂粒を僅かに、白色砂粒を多く、黒色砂粒を少し含む	良好	暗灰色	底部仕上げ粗雑、灯明皿型ヵ
124－25		CJ14東西溝灰褐色粘土 CJ14東西溝埋灰黒	須恵器	高台付坏	(15.2)	(10.8)	5.9	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	不良	灰白色	
124－26		CJ15東西溝灰褐粘土	須恵器	高台付坏	(15.2)	－	－	沈線2条、回転ナデ	長石を少量含む	良好	灰色	
124－27		CJ20東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	－	(10.6)	－	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	やや不良	灰白色	
124－28		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	12.4	8.2	4.8	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
124－29		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	(12.4)	(9.0)	3.9	回転糸切り、爪状圧痕、ナデ、回転ナデ	密	良	青灰色、茶褐色	
124－30		CJ15東西溝灰褐粘土	須恵器	高台付坏	(10.0)	(7.0)	4.6	ナデ、回転ナデ	密、砂粒を少量	良好	灰色	
124－31		CJ18東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	12.5	9.0	3.7	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	精緻で搬入品ヵ
124－32		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	皿	(14.2)	(8.8)	2.9	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	やや密、3㎜以下の砂粒、白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	底部調整粗雑
124－33	75	CJ14東西溝灰褐粘土	須恵器	皿	(13.1)	9.4	2.3	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	軟質、転用硯
124－34		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	皿	(13.0)	(8.3)	2.4	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒・砂粒を多く含む	良好	灰白色	
124－35		CJ16東西溝灰褐色粘土	須恵器	皿	(16.2)	(13.7)	1.9	ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の砂粒を少し、白色細砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	軟質
124－36		東西溝埋土灰褐ヵ	須恵器	皿	(13.5)	(6.6)	2.4	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、2㎜以下の砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	青灰色	底部仕上げ粗雑
124－37		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	(21.0)	(13.2)	4.4	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、3㎜以下の白色砂粒を多く、黒色砂粒を少し含む	やや不良	明灰色	
124－38		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	(17.2)	(11.4)	3.1	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	密、0.5㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
124－39		CJ20東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	(19.2)	(12.8)	3.5	回転糸切り、ナデ、回転ナデ	やや密、5㎜以下の半透明な砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
124－40		CJ15東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	高台付皿	(18.8)	(13.4)	3.6	回転ナデ	密、長石を少量含む	不良	灰褐色	
125－1		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、砂粒を少量含む	良好	灰色	外面ヘラ記号
125－2		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高坏	－	(14.3)	－	回転ナデ	密、5㎜程の白色砂粒が少量混入、1㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	明灰色	
125－3		CJ18東西溝埋土灰褐色粘土	須恵器	高坏	－	(13.8)	－	回転ナデ	密、長石、石英を少量含む	やや不良	黄灰色	
125－4		CJ15東西溝灰褐色粘土	須恵器	高坏	－	(13.8)	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	不良	灰白色	軟質
125－5		CJ21東西溝埋灰褐色粘土	須恵器	鉢	17.2	－	－	回転ナデ	3㎜以下の白色の砂粒を含む（大粒な石が多い）	良好	灰色、暗灰色	内面に自然釉
125－6	73	CJ21灰褐色粘土	須恵器	鉢	－	－	－	平行叩き、ナデ、タタキ	2㎜大の砂粒を含む	良好	暗青灰色、灰色	
125－7		CJ15東西溝埋土灰褐色粘土	須恵器	鉢	－	(11.4)	－	糸切り、ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の長石、石英を少量混入	良好	灰色	転用硯
125－8		CJ21東西溝灰褐色粘土	須恵器	鉢	(30.0)	－	－	回転ナデ、タタキ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く、4㎜の黒色砂粒を含む	良好	暗灰色	
125－9	73	CJ17東西溝灰褐粘土	須恵器	壺	－	－	－	沈線、回転ナデ	密、細かい白色砂粒、石英が多量混入	良好	灰色	
125－10		CJ東西溝灰褐粘土	須恵器	壺	6.2	－	－	回転ナデ	やや粗い、砂粒を少量含む	良好	暗灰色	
125－11	75	CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	壺	－	(6.2)	－	回転糸切り、回転ナデ	密、白・黒色砂粒を多く、橙色砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	
125－12	73	CJ16東西溝灰褐色粘土	須恵器	皿	(8.9)	－	－	回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く、4㎜の黒色細砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	灯明皿型
125－14	73	CJ14東西溝灰褐色粘土	製塩土器	製塩土器	(10.4)	－	－	ナデ、指頭圧痕	2～3㎜大の砂粒を含む	やや不良	肌色	
125－15		CJ14東西溝灰褐色粘土	土製品	移動式竈	－	－	－	ケズリ後粗いナデ	1㎜の砂粒を密に含む	良好	灰～淡橙色	
125－16		CJ14東西溝灰褐色粘土	土師器	甕	(26.2)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	煤付着

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
125－17		CJ24東西溝灰褐色粘土	土師器	甕	(28.8)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	密、白色微細砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
125－18		CJ14東西溝灰褐色粘土	土師器	甕	(32.2)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	やや粗、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く全体に含む	良好	灰褐色	煤薄く付着
125－19		CJ30・31東西溝灰褐色粘	土師器	甕	(32.9)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	やや粗、2㎜以下の砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
126－2		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	蓋	(13.2)	－	3.7	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、細かい白色砂粒が少量混入	良好	暗灰色	
126－3		CJ14東西溝含炭灰褐砂	須恵器	蓋	(13.3)	－	2.3	風化著しい	やや粗、2㎜程度までの透明・白色砂粒を含む	不良	乳白色	
126－4		CJ15 SD05東西溝 炭灰褐砂	須恵器	蓋	12.9	－	2.1	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	やや密、2㎜程度までの白色砂粒を多く含む	良好	赤褐色	
126－5		CJ14 SD05東西溝 含炭灰褐砂	須恵器	蓋	(12.1)	－	－	回転ナデ、ナデ	密,2.5㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰白色	短頸壺の蓋
126－6		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	坏	－	－	4.8	糸切り、回転ナデ	密、細かい黒色粒子が多量混入	良好	灰色	
126－7		CJ14東西溝含炭・褐砂	須恵器	坏	(11.2)	8.5	3.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
126－8		CJ14東西溝含炭灰褐色砂	須恵器	坏	(10.0)	(9.2)	3.7	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、1～2㎜の白色砂粒を多量に含む	良好	暗青灰色	
126－9		CJ15 SD05東西溝 炭灰褐砂	須恵器	高台付坏	18.4	11.9	6.8	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を全体に含む	良好	灰白色	胴部突帯
126－10		CJ14東西溝含炭灰褐砂	須恵器	高台付坏	－	9.8	－	回転糸切り、回転ナデ	白色の砂粒を含む	良好	青灰色	底部に墨書「井」
126－11		CJ14東西溝含炭灰褐砂	須恵器	高台付坏	(13.5)	(9.2)	4.0	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を多く・黒色砂粒を少し含む	やや不良	乳白褐色	
126－12		CJ14東西溝含炭灰褐砂・灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	(15.2)	(11.8)	5.8	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	体部に突帯がめぐる
126－13		CJ14東西溝SD05 CJ20含炭灰褐砂・灰褐色砂	須恵器	皿	(14.5)	(9.8)	2.9	糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、砂粒を微量に含む	やや不良	赤褐色	
126－14		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	高台付皿	(20.2)	(17.7)	3.7	回転ナデ	密、長石を少量含む	不良	にぶい褐色	
126－15		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	高台付皿	－	(13.5)	－	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ヨコナデ	密、2㎜以下の白色砂粒が微量混入	やや不良	灰オリーブ色	
126－16		CJ15東西溝SD05 含炭灰褐砂	須恵器	高坏	－	(12.8)	－	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	暗灰色	
126－17		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	高坏	－	(15.2)	－	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	灰色	
126－18		CJ15東西溝SD05 炭灰褐砂	須恵器	皿	(9.2)	(6.3)	2.4	回転糸切り、回転ナデ	密、白色砂粒を多く、黒色砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	灯明皿型
126－19	76	CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	皿	9.7	6.7	2.9	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	2㎜大の砂粒を含む	やや不良	淡灰色	灯明皿型
126－20		CJ15東西溝含炭灰褐砂	須恵器	皿	(10.6)	－	1.8	回転糸切り後ナデ、回転ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入	不良	灰白色	底部内面ヘラ記号「×」、灯明皿型
126－21	73	CJ15東西溝含炭灰褐砂	土師器	短頸壺	(9.7)	－	－	回転ナデヵ	密、石英が多く含まれ、細かい白色砂粒が多量含まれる	不良	浅黄橙色	口縁部に赤彩
126－22	73	CJ14東西溝SD05含炭灰褐色砂	製塩土器	製塩土器	(11.0)	－	－	ナデ	密、1㎜程の砂粒が少量混入	不良	橙色	軟質
126－23		CJ16東西溝SD05青灰砂	須恵器	蓋	(18.0)	－	4.3	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰黄～黒灰色	
126－24		CJ14東西溝SD05青灰色粘土	須恵器	蓋	(19.8)	－	－	回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	輪状つまみ
126－25	73	CJ18東西溝SD05青灰色粘土	須恵器	坏	(10.0)	(4.6)	4.6	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ	密、1㎜以下の透明な白色砂粒を多く含む	良好	淡灰色	
126－26	73	CJ24東西溝青灰色砂	須恵器	坏	12.6	－	－	回転ナデ	精良	良好	灰黄色	漆付着
126－27	73	CJ17東西溝青灰粘土	須恵器	高台付坏	(9.8)	5.8	3.8	回転ナデ、ナデ、糸切りヵ	密、2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
126－28	76	CJ14東西溝青灰色粘土	須恵器	皿	(14.2)	(7.2)	3.0	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	～1.0㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色、暗灰色	
126－29		CJ24東西溝青灰砂	土師器	坏	11.3	7.6	3.0	回転ナデ、ナデ、糸切り後ケズリ、ケズリ、ヨコナデ	精良	良好	赤褐色	内外面赤彩,暗文,概報18図11
126－30		CJ18東西溝SD05青灰粘	土師器	皿	(18.0)	－	－	回転糸切り、ヨコナデ、ハケ目	密、白・黒色細砂粒を少し含む	良好	橙～淡褐色	内外面赤彩
126－31	73	CJ18東西溝SD05青灰粘土	土師器	甑	(22.4)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	やや粗、2㎜以下の砂粒・白色砂粒を全体に多く含む	良好	灰褐色	
127－1		CJ32東西溝暗灰色粘	須恵器	坏	(12.4)	(5.1)	4.3	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、白色細砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	
127－2		CJ32東西溝暗灰色粘土	須恵器	坏	(12.8)	7.5	4.1	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色	
127－3		CJ31東西溝SD05暗灰色粘	須恵器	高台付坏	(14.8)	10.4	5.1	回転糸切り後ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	～0.5㎜程度の砂粒を含む	良好	内：淡灰色 外：暗灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
127－4	76	CJ30東西溝 SD05暗灰色粘 CJ30・31東西溝 黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(22.0)	16.4	9.1	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	～２㎜程度の砂粒を含む	良好	淡褐灰色	
127－5	73	CJ39・40東西溝 SD05暗灰色粘土	須恵器	托	(20.0)	(9.0)	3.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、白・黒色砂粒を少し含む	良好	灰白色	
127－6	76	CJ32東西溝 SD05暗灰色粘土	須恵器	平瓶	9.7	－	－	回転ナデ、ナデ	密、２㎜以下の白色砂粒・１㎜以下の黒色砂粒を全体に少し含む	良好	明灰色	
127－7	76	CJ39・40東西溝 暗灰色粘土	須恵器	長頸壺	－	7.6	－	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	１㎜前後の白色砂粒を含む	良好	灰色	ヘラ記号「廿」
127－8		CJ30東西溝 SD05暗灰色粘	須恵器	長頸瓶	－	8.9	－	回転ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	明灰色	
127－9		CJ39・40東西溝 暗灰色粘土	須恵器	鉢	(43.6)	－	－	回転ナデ、平行タタキ、カキ目、ナデ、ヨコナデ	密、２㎜程の白色砂粒が少量混入	良好	灰色	
127－10		CK30東西溝 SD05暗灰色粘土	須恵器	甕	(22.4)	－	－	回転ナデ、カキ目、平行タタキ、ナデ	密、２㎜以下の白色砂粒が微量、１㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	灰色	
127－11		CK30東西溝 SD05暗灰色粘土	土師器	坏	(17.2)	－	－	ヨコナデ	密、細砂粒を多く、白色砂粒を僅かに含む	良好	橙褐～灰褐色	内外面赤彩
127－12	73	CJ30東西溝 SD05暗灰色粘	土師器	甕	(22.5)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	密、２㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	乳橙褐色	
127－13		CK30東西溝 暗灰色粘土	土師器	甑	－	－	－	ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
127－14		CJ30東西溝 SD05暗灰色粘	土師器	甑	(32.8)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	やや粗、１㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	
127－15		CJ32東西溝 SD05暗灰色粘土	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ	１㎜の砂粒を密に含む	良好	にぶい黄白色	
127－17	76	CJ40東西溝 SD05灰色砂	須恵器	蓋	14.3	－	2.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヨコナデ	密、１㎜以下の砂粒が多量に混入	良好	灰色	概報17図37
127－18	76	CJ40東西溝 SD05灰色砂	須恵器	坏	17.0	12.0	6.9	回転糸切り後ヘラケズリ、回転ナデ	1.5～3.5㎜の砂粒を僅かに含む	良好	暗茶灰色	内面漆付着
127－19		CJ40東西溝 SD05灰色砂	須恵器	高台付坏	(13.7)	(8.2)	4.2	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	
127－20		CJ40東西溝 SD05灰色砂	須恵器	高台付坏	(13.8)	(8.8)	4.0	糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	～１㎜程度の砂粒を少量含む	良好	淡灰色	
127－21		CJ40東西溝 SD05灰色砂	須恵器	高台付坏	(11.8)	(7.8)	3.5	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密	良好	灰色	
127－22		CJ32東西溝 灰色砂	須恵器	短頸壺	9.4	7.8	9.1	ヘラ切り、回転ナデ、回転ヘラケズリ	白色の小砂粒を含む	良好	灰色	
127－23	76	V-12(2) SD05灰色砂	土師器	坏	17.6	10.5	6.2	ミガキ、回転ナデ、ナデ、ケズリ	１㎜程度の砂粒を僅かに含む	良好	白黄色	暗文、概報18図１
128－1		CJ32 SD05 灰色砂	土師器	甕	(15.9)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	やや密、１㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	橙褐～淡褐色	全体に薄く煤付着
128－2		CJ40東西溝 SD05灰色砂	土師器	甕	(15.6)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	粗、１㎜以下の砂粒、白色砂粒を多量に含む	良好	暗橙褐色	煤濃く付着
128－3		CJ40東西溝 SD05灰色砂	土製品	土製支脚	－	－	－	ヘラケズリ、指ナデ、ナデ	１㎜前後の砂粒を密に含む	良好	にぶい淡褐～橙色	
128－4	76	CK14 SD05 灰褐色粘土	須恵器	蓋	(23.5)	－	4.7	ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色の砂粒を含む	硬質	赤褐～暗灰色	
128－5		CJ11東西溝 SD05	須恵器	蓋	(18.4)	－	3.1	回転ナデ、ナデ	密、３㎜以下の半透明の砂粒、白、黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
128－6		CJ11東西溝 SD05	須恵器	蓋	(13.4)	－	3.4	ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密だが～１㎜程度の砂粒を含む	良好	淡灰色	遺物所在不明
128－7		CJ31東西溝 SD05黒色土	須恵器	蓋	(13.1)	－	3.7	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	密、白色砂粒を少し含む	良好	淡灰色	
128－8		CJ12東西溝	須恵器	蓋	13.5	－	4.0	回転ナデ、ナデ	１～２㎜の砂粒を含む	やや不良	白灰～灰色	
128－9		SD05	須恵器	蓋	(13.1)	－	3.6	糸切り、回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	密、1.5㎜以下の白、黒、橙色砂粒を全体に含む	良好	暗灰色	
128－10		CJ11東西溝 SD05	須恵器	蓋	(14.0)	－	－	回転糸切り、回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	密、２㎜以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
128－11		CJ13東西溝 SD05	須恵器	蓋	(14.2)	－	2.4	糸切り、回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	やや密、白色砂粒を多く含む	やや不良	淡灰色	
128－12		CK19 SD05 灰褐色粘土	須恵器	坏	(13.5)	(9.5)	4.7	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
128－13		CK19 SD05 灰褐色粘土	須恵器	坏	(12.6)	(8.2)	3.9	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	灰色	
128－14	76	CJ30東西溝 SD05	須恵器	坏	(11.4)	(7.4)	4.0	回転糸切り後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、～１㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
128－15		CJ21東西溝 SD05	須恵器	坏	(9.1)	－	－	回転ナデ	密、白色細砂粒を少し含む	良好	明灰色	
128－16		CJ30東西溝 SD05黒色土	須恵器	坏	(10.4)	(6.5)	3.7	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	
128－17		CJ21 SD05 黄褐色砂質土	須恵器	高台付坏	(12.5)	(7.4)	4.7	静止糸切り、回転ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	黒灰色	
128－18		CK14 SD05 灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	－	(11.8)	－	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
128－19		CJ17東西溝 SD05	須恵器	高台付坏	－	(10.0)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	青灰色	
128－20		CJ11東西溝 SD05	須恵器	高台付坏	(15.2)	(8.9)	5.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	転用硯
128－21		CJ31東西溝 SD05黒色土	須恵器	高台付坏	(16.4)	(11.9)	6.0	回転糸切り後ナデヵ、回転ナデ、ナデ	密、長石、石英を少量含む	良好	暗灰色	
128－22		CJ11東西溝 SD05	須恵器	高台付坏	(17.2)	(12.2)	6.1	回転ナデ	密だが～1㎜程度の砂粒を含む	良（やや軟質）	外：暗灰色 内：淡灰色	
128－23		CJ12東西溝 SD05	須恵器	高台付坏	(15.0)	－	－	回転ナデ	密、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
128－24		CJ24東西溝 SD05黒粘土	須恵器	高台付坏	11.5	8.9	4.1	回転糸切り、ヨコナデ、ナデ	やや精良、1～2㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色 内面一部黒色	
128－25		CJ11東西溝	須恵器	高台付坏	－	(8.0)	(2.9)	回転ナデ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	内面全面に漆付着
128－26		CK20 SD05 灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	(11.3)	(7.9)	3.9	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	赤褐～暗灰色	搬入品ヵ
128－27		CJ11東西溝 SD05	須恵器	高台付坏	(14.3)	10.3	3.6	回転ナデ、ヘラケズリ	長石を少量含む	良好	褐灰色	
128－28		CJ11東西溝 CM12(SD05)東西溝 砂	須恵器	皿	(14.4)	(9.0)	2.5	回転糸切り、回転なで、ナデ	～1.0㎜程度の砂粒を含む	良好	褐灰～暗灰色	灯明皿
128－29		CK21東西溝 SD05ヵ埋土 灰黒粘土	須恵器	皿	16.8	12.6	2.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を少量含む	やや軟質	明灰色	外面
128－30	76	CJ11東西溝 SD05	須恵器	皿	(14.2)	(10.3)	2.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒を多く、8㎜の砂粒を含む	良好	明灰色	
128－31		CJ11東西溝	須恵器	皿	(14.8)	10.4	2.3	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、3㎜以下の砂粒を含む	良好	淡赤褐～青灰色	
128－32		CJ13東西溝 SD05	須恵器	皿	(13.4)	(7.2)	2.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
128－33		CJ11東西溝 SD05	須恵器	皿	14.0	8.1	2.2	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	1～3㎜の白色の砂粒をやや多く含む	良好	青灰色	
128－34		CJ24 SD05 灰褐色粘土	須恵器	皿	(14.9)	(9.7)	2.5	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を多く含む	不良	灰色	
128－35		CK20 SD05 灰褐色粘土	須恵器	皿	(17.3)	(14.5)	2.7	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	灰色の小砂粒を含む	やや不良	くすんだ白色	
128－36		CJ12東西溝 SD05	須恵器	皿	(20.1)	(16.5)	2.3	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を僅かに含む	やや不良	灰白色	
128－37		CJ31東西溝 SD05黒色土	須恵器	高台付皿	17.2	6.0	3.8	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	やや不良	くすんだ灰色、高台内側橙灰色	
128－38	76	CK16 SD05 灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	22.4	18.8	3.9	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	内面－底面：赤褐色、口縁部：暗灰色	
128－39		CJ14東西溝 SD05黄灰色粘土	須恵器	高台付皿	(18.9)	(13.5)	3.3	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒、白色細砂粒を多く含む	不良	淡褐色	
128－40		CJ32東西溝 黄灰粘土	須恵器	高台付皿ヵ	－	(21.0)	－	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を全体に少し含む	良好	暗赤灰～淡灰色	
129－1	81	東西溝SD05	須恵器	高坏	25.1	－	－	回転ナデ、ナデ	微砂粒を多く含む	良好	黒黄色	
129－2		CJ13東西溝 SD05	須恵器	高坏	16.8	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、白色砂粒を少し、黒色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
129－3		CJ13東西溝 SD05	須恵器	高坏	(18.6)	－	8.8	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
129－4		CJ30東西溝 SD05黒色土	須恵器	高坏	－	－	－	回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が少量混入	良好	灰色	底部外面ヘラ記号「×」
129－5	81	CJ14東西溝	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰～灰白色	
129－6		CJ40東西溝 SD05	須恵器	長頸壺	－	8.6	(10.2)	ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密、砂粒を微量に含む	良好	黄灰色	
129－7		CJ14東西溝 SD05灰色粘土	須恵器	長頸壺	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、平行タタキ	密、やや砂粒を多く含む	良好	内：灰色 外：灰黄褐色	
129－8	73	CJ16溝SD05 灰褐色砂	須恵器ヵ	双耳壺ヵ	－	－	－	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	内：明灰色 外：緑色自然釉	
129－9		CJ11東西溝 SD05	須恵器	短頸壺	(14.6)	－	－	回転ナデ	密、1.5㎜以下の砂粒、白色・黒色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
129－10	80	CJ13東西溝	須恵器	甕	－	－	－	タタキ	密	良好	灰～暗灰色	内面と破面に漆付着
129－11		CJ12東西溝 SD05	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ	密、細かい白色砂粒を少量含む	良好	灰色、暗灰色	
129－12	73	CJ24東西溝 黒粘土	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	1～2㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰～灰色	長：8.3cm 孔径：0.45cm 幅：1.1～3.2cm 重量：77.13g B類
129－13		CJ31東西溝 暗灰色粘	土製品	坩堝	－	－	－	指頭圧痕、ナデ	精良	良好	灰色	
129－14	81	CJ12東西溝 SD05	土師器	高台付坏	－	(20.7)	－	回転ナデ、ナデ	密、細砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	橙褐～淡褐色	内外面赤彩
129－15	81	SD05ヵ	製塩土器	製塩土器	(10.8)	－	－	指頭圧痕	密	良好	橙色	
129－16	73	CJ30東西溝 SD05黒色土	製塩土器	製塩土器	(11.5)	－	－	指頭圧痕、ナデ	精良	良好	肌色	
129－17	73	CJ13東西溝	製塩土器	製塩土器	－	－	－	指頭圧痕	1～3㎜の白色小石を多く含む	良好	淡橙色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
129－18	73	CJ39・40東西溝	土師器	甑	－	－	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
129－19	81	CJ14東西溝暗褐砂	土製品	土製支脚	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	密、2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	良好	橙褐色	
129－20		SD05	土師器	甕	(17.9)	－	－	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	やや粗、1㎜以下の砂粒、白色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	煤付着
129－21		CJ19東西溝SD05青褐色砂	土師器	甕	(11.8)	－	－	ナデ、ヘラケズリ	粗、2㎜以下の砂粒を全体に多く含む	良好	黒褐色	煤付着
129－22		CJ39・40東西溝 CJ40東西溝SD05	土師器	甕	(22.4)	－	－	ハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリ	やや密、細砂粒を全体に多く、白色砂粒を少し含む	良好	暗灰褐色	煤付着
131－1		AM07東西溝2砂R	須恵器	蓋	15.0	－	2.4	回転ヘラケズリ、回転ナデ	1㎜前後の白色砂粒を少量含む、ガラス質の微砂粒を含む	良好	灰色	
131－2		AM18東西溝2砂	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰色	転用硯
131－3		AM04東西溝2砂	須恵器	坏	11.3	3.9	7.8	回転ナデ、回転糸切り	白色の微砂粒を多く含む	やや軟質	くすんだ灰色	歪みあり
131－4		AM12東西溝2 AM09東西溝2砂	須恵器	坏	(13.8)	(7.3)	4.4	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、白・黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
131－5		AM18東西溝2砂	須恵器	坏	(14.2)	8.2	3.7	回転ナデ、静止糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	暗灰～灰色	
131－6		AM05東西溝2砂R	須恵器	坏	11.3	7.4	4.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	やや密、1㎝の石粒、3㎜以下の砂粒を少し、白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
131－7		AM18東西溝2砂	須恵器	坏	(14.0)	(9.7)	3.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	1～2㎜の砂粒を含む	良好	暗灰～暗褐色	
131－8		AM21東西溝2砂	須恵器	高台付坏	(19.2)	(11.2)	6.5	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ回転糸切り	密、3㎜以下の砂粒を多く、白・黒色砂粒を全体に少し含む	良好	灰白色	
131－9	81	AM05東西溝2層	須恵器	高台付坏	6.2	9.3	6.1	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
131－10	81	AM12東西溝2砂R	須恵器	高台付坏	(16.0)	11.1	5.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	2㎜前後の砂粒を僅かに含み、1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	灰～暗灰色	内面　漆付着
131－11		6XIQ JN97東西溝2灰層	須恵器	高台付坏	13.4	7.0	4.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切り	やや粗い、1～2㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色、淡灰色	概報16図18
131－12	81	AM05東西溝2砂	須恵器	高台付坏	12.7	8.7	4.2	回転ナデ、ナデ	1㎜前後の白色砂粒を少量含む	良好	灰～灰褐色	概報17図50
131－13		AM04東西溝2砂	須恵器	高台付坏	－	10.4	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の砂粒を多く含む	良好	黒灰色	
131－14		AM04東西溝2砂	須恵器	高台付坏	－	9.2	－	回転ナデ、ナデ、静止糸切り	白色の小砂粒を含む	酸化炎気味だが良好	明白茶～暗灰色	
131－15		AM09東西溝2砂	須恵器	高台付坏	(10.6)	(7.3)	4.1	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、砂粒・白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	自然釉
131－16		AM12東西溝2砂	須恵器	高台付坏	(9.9)	(3.9)	6.9	回転ナデ、回転糸切り	密、白・黒色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
131－17	80	AM08東西溝2砂	須恵器	高台付坏	－	(5.4)	－	回転ナデ、爪状圧痕	密、細かい白色砂粒が多量混入	良好	にぶい橙色	底部外面ヘラ記号
131－18	81	AM21東西溝2砂R	須恵器	高台付坏	9.3	5.1	3.0	回転ナデ、ナデ、精美	密	良好	暗灰色	蓋の可能性
131－19		AM15東西溝2砂	須恵器	高台付坏	－	(9.0)	－	回転ナデ	密、4㎜、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
131－20		AM05東西溝2層	須恵器	高台付坏	－	8.7	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラケズリ	密、4㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	暗灰～灰白色	壺の可能性
131－21		AM21東西溝2砂	須恵器	皿	19.2	2.6	11.0	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
131－22		AM15東西溝2砂	須恵器	皿	15.8	11.5	2.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、黒色砂粒を非常に多く、2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
131－23		AM21東西溝2砂R	須恵器	皿	(17.4)	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密、砂粒を少量含む	良好	灰色	転用硯
131－24		AM04東西溝2砂	須恵器	皿	14.2	2.6	10.8	ナデ、回転ナデ、回転糸切り	4㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	重ね焼き痕あり
131－25		AM15東西溝2砂	須恵器	皿	12.0	7.3	2.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、黒色砂粒を少し、白色砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	
131－26		AM21東西溝2砂R	須恵器	皿	(14.6)	(10.0)	2.3	回転ナデ、回転糸切り	1㎜前後の砂粒を僅かに含む	良好	茶灰色	
131－27		AM04東西溝2砂	須恵器	皿	16.0	2.0	10.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む少量含む	良好	くすんだ青灰色	
131－28		AM15東西溝2砂	須恵器	高台付皿	20.7	16.1	2.4	回転ナデ	密、白色細砂粒を僅かに含む	良好	淡灰色	
131－29	80	AM09東西溝2砂	須恵器	高台付皿	(18.6)	(8.6)	4.5	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	暗灰色	転用硯
131－30		AM04東西溝2砂	須恵器	高台付皿	16.5	－	－	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	灰色	
131－31	81	AM07東西溝2砂R	須恵器	托	－	11.8	－	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	転用硯
131－32		AM03東西溝2砂	須恵器	壺	(6.2)	－	－	回転ナデ	密、細かい白色砂粒が微量混入	良好	灰色	内外面　自然釉
131－33		AM17東西溝2砂	須恵器	長頸壺	－	－	8.0	回転ナデ	密	良好	灰色	
131－34		AM16東西溝2砂	須恵器	長頸壺	(7.8)	－	－	回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
131－35		AM15東西溝2砂	須恵器	長頸壺	(6.5)	－	－	回転ナデ	密、5㎜以下の白色砂粒が少量、細かい白色砂粒が多量混入	良好	灰色	外面：自然釉
131－36		AM03東西溝2砂	須恵器	壺	－	9.6	(3.1)	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	褐灰色	内面：漆付着
131－37		AM18東西溝2砂	須恵器	壺	－	(16.5)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ケズリ、ナデ	やや密、2㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	転用硯
131－38	81	AM18東西溝2砂R	須恵器	高坏	(16.4)	－	－	回転ナデ	1㎜前後の砂粒含む	良好	青灰色	透かし二ヶ所内面　漆付着
131－39	81	6XIQ JN97東西溝2砂	須恵器	高坏	14.0	8.5	9.7	回転ナデ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	脚部にヘラ記号、概報16図23
131－40		AM05東西溝2層	須恵器	高坏	－	(9.9)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
131－41		AM04東西溝2砂	須恵器	高坏	22.7	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	白色の小砂粒を多く含む	良好	青灰色	
131－42		AM17東西溝2砂	須恵器	短頸壺	－	－	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色、暗灰色	刻書
131－43	77	AM16東西溝2層	須恵器	風字硯	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
132－1	80	AM21東西溝2砂	土師器	坏	－	－	－	調整不明	密、白色細砂粒を僅かに含む	良好	乳褐色	黒斑あり
132－2	80	AM21東西溝2	土師器	皿	(20.3)	(12.0)	2.6	ヨコナデ、ナデ	密、白色細砂粒、僅かに4㎜の石粒を含む	良好	赤褐～乳褐色	内外面　赤彩
132－3		AM07東西溝2砂	土師器	高台付皿	－	15.2	－	回転ナデ	ガラス質の微砂粒を少量含む	やや不良	明黄白色	暗文
132－4		AM21東西溝2砂	土師器	皿	18.6	－	－	ヨコナデ	赤色・白色の微砂粒を含む	良好	明桃色	赤彩ヵ
132－5	82	AM14東西溝2砂	土師器	高台付碗	14.4	6.7	8.0	回転ナデ	赤色・白色の砂粒やや含む	良好	明桃白色	
132－6		AM11東西溝2砂	瓦	丸瓦	－	－	5.8	ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	褐色	
132－7	82	AM17東西溝	須恵器	蓋	(9.2)	－	2.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒・砂粒を多く含む	良好	暗赤灰色	
132－8	82	6XIQ JN97東西溝	須恵器	高台付坏	13.1	6.6	4.9	回転ナデ	密、5㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
132－9		JN97東西溝灰褐砂	須恵器	高台付坏	(11.4)	(7.0)	4.4	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、白色砂粒を多く、黒色砂粒を少し含む	良好	灰白色	
132－10	82	AM18東西溝	須恵器	高台付皿	13.9	2.6	9.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り、ヘラ切り	白色の少砂粒を含む	良好	淡青灰色	
132－11		AM18東西溝	須恵器	高台付皿	－	(18.5)	－	回転ナデ	密、4㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
132－12	80	AM17東西溝	須恵器	鉢	32.3	－	－	回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を少量含む	良好	明青灰色	搬入品ヵ（京都）
132－13		AM17東西溝	須恵器	壺	－	14.2	－	ヨコナデ、タタキ	白色の少砂粒を少量含む	良好	灰色	断面に煤付着、半瓦当ヵ
132－14		AM14東西溝バラス	白磁	皿	10.4	－	－		密、灰色	良好	黄白色	Ⅱ－1類
132－15	80	AM18東西溝2	瓦	軒丸瓦	－	－	－		白色の砂粒を含む	やや軟質	くすんだ白色	出雲国分寺跡第3類
132－17		AM04東西溝2砂R	須恵器	蓋	17.2	－	4.0	ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ	0.5㎜前後の白色砂粒を多く含む、2～3㎜の砂粒を少量含む	良好	暗赤褐～黒灰色	天井部回転糸切りヵ
132－18	77	6XIQ(南)東西溝黒灰粘土	須恵器	高台付坏	－	9.2	(2.1)	回転ナデ、ナデ	密、白色の微砂粒を少量含む	良好	青灰～灰褐色	転用硯
132－19	82	6XIQJN92バラス・JM92ヵ東西溝黒灰粘土	須恵器	硯	17.0	－	3.1	回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	内面：墨痕3足ヵ
132－20		AM15東西溝バラス	須恵器	壺	－	13.6	－	ヨコナデ、回転ナデ、ナデ	ガラス質の微砂粒を少量含む	瓦質	淡灰色	
132－21		南側東西溝中	須恵器	高坏	－	15.9	－	回転ナデ	密、5㎜以下の白色砂粒を多く、黒色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
132－22		南側東西溝中	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ	白色砂粒を含む	良好	淡褐色	
132－23		AM03南北溝	須恵器	坏	(13.9)	(8.7)	3.9	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、2㎜以下の白色砂粒・黒色細砂粒を多く含む	良好	青灰～橙灰色	
132－24		AM03南北溝	須恵器	坏	(11.9)	(8.0)	4.3	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を少し、黒色砂粒を僅かに含む	良好	灰白～青灰色	
132－25	82	AM06南北溝	須恵器	坏	(10.9)	6.9	3.8	ナデ、ヨコナデ	やや精良、1㎜未満～1㎜大の白色砂粒をやや多く含む	良好	灰色	底部外面ヘラ記号、概報16図6
132－26	80	AM06南北溝	須恵器	皿	(13.8)	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、白色砂粒を多く、黒色砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	灯明皿
132－27		AM06南北溝	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰色	転用硯
133－1	82	CM20東西溝埋土灰褐色粘土	須恵器	蓋	(13.4)	－	2.7	回転ナデ、ナデ	0.5～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	
133－2	82	CM12東西溝	須恵器	蓋	13.1	－	3.3	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
133－3		CM12東西溝	須恵器	蓋	16.2	－	3.8	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	1～3㎜程度の砂粒を少量含む	良好	灰色	
133－4		CM12東西溝	須恵器	蓋	(13.8)	－	2.8	回転ナデ、ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	青灰色	
133－5	82	CM14東西溝灰色	須恵器	坏	11.2	－	4.9	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、石灰を少量含む	やや不良	灰白色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
133－6		CM26東西溝灰褐色土	須恵器	坏	(17.8)	－	－	回転ナデ、手持ヘラケズリ、回転ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	灰色	
133－7	82	CM17東西溝灰褐粘土	須恵器	坏	12.3	7.3	4.3	回転ナデ、ナデ、糸切り	白色砂粒を含む	良好	灰～暗青灰色	
133－8		CM12東西溝R	須恵器	坏	(10.8)	(6.5)	3.7	回転ナデ、ハケナデ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	暗灰～赤灰色	
133－9		CM12東西溝	須恵器	坏	(10.6)	(6.8)	4.0	回転ナデ、回転糸切り	1㎜の砂粒を含む	良好	暗灰～灰色	
133－10		CM12東西溝	須恵器	坏	(9.6)	(6.6)	3.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
133－11		CM26東西溝灰褐色土	須恵器	高台付坏	－	(8.4)	－	回転ナデ、ハケナデ、ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	赤灰～青灰色	
133－12	82	CM26東西溝灰褐色土	須恵器	高台付坏	(15.7)	9.2	4.7	回転ナデ、回転糸切り、回転ナデ、爪状圧痕	1～4㎜の砂粒を含む	やや不良	灰色	
133－13		CM19東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	高台付坏	(14.1)	(9.2)	5.1	回転ナデ、静止糸切り後ナデ消し、ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	
133－14		CM12東西溝R	須恵器	高台付坏	(12.6)	(8.1)	4.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜の砂粒を多く含み、2～4㎜の砂粒を含む	やや不良	橙色	
133－15		CM18東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	高台付坏	(11.6)	8.7	4.0	回転ナデ、回転糸切り、ナデ、爪状圧痕	密	良好	赤褐色	底部外面ヘラ記号「×」
133－16	82	CM18東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	高台付坏	12.8	4.8	4.5	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	赤橙色	底部外面ヘラ記号「×」
133－17	82	CM18東西溝	須恵器	高台付坏	(8.4)	(5.1)	7.5	回転ナデ、ナデ	2㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰～暗灰色	
133－18	83	CM12東西溝	須恵器	皿	(17.0)	10.2	1.5	回転ナデ、静止糸切り			灰～暗灰色	内面磨滅、転用硯
133－19		CM19東西溝青灰色粘土・CM20東西溝埋土灰褐色粘土・CM20東西溝青灰色粘土	須恵器	皿	(16.2)	(10.6)	2.4	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	青灰～褐灰色	転用硯
133－20		CM12東西溝	須恵器	皿	(13.2)	(7.5)	2.5	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	3.5㎜の砂粒を含む	良好	赤灰～暗灰色	
133－21		CM12東西溝R	須恵器	皿	(13.9)	(9.0)	2.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	やや不良	にぶい赤褐色	
133－22	83	CM12東西溝	須恵器	皿	(13.8)	(10.4)	2.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
133－23		CM12東西溝	須恵器	高台付皿	(16.2)	(13.6)	3.2	回転ナデ	1㎜の砂粒を多く含み、2～3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
133－24		CM12東西溝R	須恵器	高台付皿	(20.0)	(12.9)	3.8	回転ナデ、ナデ、糸切り	1㎜の砂粒を多く含み、3㎜の砂粒を僅かに含む	やや不良	灰色	
133－25		CM20東西溝埋土灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	(21.5)	(18.2)	3.5	回転ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	灰色	
133－26		CM12東西溝	須恵器	高坏	(26.0)	－	－	回転ナデ、ハケナデ	1㎜の砂粒を多く含み、3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	内面磨滅、ヘラ記号
133－27	83	CM12東西溝R	須恵器	高坏	(23.0)	(14.8)	(15.7)	回転ナデ、沈線 ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	やや不良	淡灰色	
133－28		CM12東西溝R	須恵器	広口壺	14.3	－	－	回転ナデ	密、砂粒を含む	良好	黒灰色	
133－29		CM17東西溝	須恵器	壺	－	(9.6)	－	ヘラケズリ、回転ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	
133－30		CM18東西溝埋土灰褐粘土	須恵器	壺	－	(10.6)	－	回転ナデ	1～3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰～暗灰色	
133－31		CM12東西溝	須恵器	小形壺	(4.5)	－	(4.2)	回転ナデ	密	良好	灰～青灰色	
133－32	80	CM21東西溝灰褐色粘土	須恵器	甕	(9.7)	－	－	回転ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
133－33	80	CM12東西溝	土師器	高台付皿	－	－	－	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒を多く含み、4㎜の砂粒を僅かに含む	良好	淡黄褐色	赤彩
133－34	80	CM21東西溝灰褐粘土	土師器	高坏	－	－	－	回転ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	淡黄褐色	赤彩
133－35	82	CN29南北溝黒灰色土	土製品	ミニチュア土器	－	－	－	荒いハケ、指頭圧痕	1㎜大の砂粒を含む	良好	黒～灰褐色、灰褐色	
134－1	83	AD25南北溝	須恵器	蓋	15.9	－	4.2	回転ナデ	1㎜の砂粒を含み、2㎜の砂粒を僅かに含む	やや不良	灰色	
134－2	83	AC24南北溝埋土 AD南北溝埋土	須恵器	蓋	14.8	－	3.3	回転ナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	灰色～橙色	
134－3		AC24暗褐土	須恵器	蓋	(12.6)	－	3.1	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	明灰褐色	
134－4	77	AC24南北溝埋土	須恵器	蓋	(16.0)	－	1.6	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色砂粒、1～2㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	転用硯
134－5		AT25石敷溝	須恵器	蓋	－	－	－	回転ヘラケズリ、ナデ、回転ナデ	やや粗い、長石、石英を少量含む	良好	褐灰色	
134－6		AD24南北溝埋土 AC24	須恵器	蓋	(15.5)	－	2.6	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	赤灰～灰色	
134－7		CJ24南北溝	須恵器	蓋	8.4	－	2.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、白色の微砂粒を多く含む	良好	暗灰～灰色	
134－8	83	AC24南北溝埋土 AD24南北溝埋土	須恵器	坏	14.0	9.7	3.5	回転ナデ、静止糸切り、ナデ	1～3㎜の砂粒を含む	良好	褐色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
134－9		AD25南北溝	須恵器	坏	(13.6)	(8.2)	3.9	回転ナデ、ナデ、静止糸切り	白色砂粒を含む	良好	褐灰～灰色	
134－10		AC24南北溝埋土	須恵器	坏	(15.2)	(6.5)	5.8	回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
134－11		CJ24南北溝埋土	須恵器	坏	(14.6)	－	4.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、静止糸切り	密、石灰、長石を多量に含む	良好	灰色	変色部は暗灰
134－12		AD25南北溝	須恵器	高台付坏	(14.3)	8.3	6.0	回転ナデ、糸切り、ナデ	1㎜以下の砂粒を含み、1～4㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	内外面に漆付着
134－13		AC25南北溝埋土	須恵器	高台付坏	(14.0)	9.0	5.6	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含み、3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	転用硯
134－14	83	AD24南北溝埋土	須恵器	高台付坏	13.7	7.8	5.0	回転ナデ、糸切り後ナデヵナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	
134－15		CJ24南北溝埋土	須恵器	坏	－	8.4	(2.4)	回転ナデ、ナデ	白色砂粒、石英を含む	良好	灰色	転用硯
134－16		AC24南北溝埋土	須恵器	高台付坏	－	13.8	－	回転ナデ、静止糸切り	1㎜以下の砂粒を含み、2㎜前後の砂粒を少し含む	良好	灰～赤灰色	
134－17		AC24南北溝埋土	須恵器	鉢	－	－	－	平行タタキ、沈線	1㎜の砂粒を僅かに含む		青灰色	把手
134－18		AD24南北溝埋土	須恵器	甕	(17.1)	－	－	ナデ、平行タタキ、同心円文あて具痕	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	ヘラ記号「＃」
134－19		AC24南北溝埋土	土師器	坏	15.8	11.9	3.6	回転ナデ、ハケナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	橙色	内外面赤彩
134－20	83	CJ24南北溝	土師器	高台付皿	17.6	11.8	4.6	回転ナデ	精良	良好	淡黄褐色	内外面赤彩、概報18図10
134－21	83	AD25南北溝	土師器	皿ヵ	17.1	5.4	2.2	回転ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	淡黄褐色	内外面赤彩
134－22	83	AD24南北溝埋土	土師器	皿	17.9	13.1	2.8	回転ナデ、ヘラケズリ、ナデヵ	1㎜以下の砂粒を含み、2㎜の砂粒を僅かに含む	良好	橙褐色	内外面赤彩
134－23		AD24南北溝埋土	土師器	高坏	－	－	2.2	ヨコナデ、1条の沈線、ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	橙色	内外面赤彩
134－24		AC24南北溝埋土	土師器	坏	－	－	－	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡黄橙～灰色	内面：漆付着
134－25		AA24南北溝ヵ	土師器	坏	(10.8)	6.0	4.4	ヨコナデ、回転糸切り、ナデ	やや密、微細石英片・砂粒を多く含む	良好	乳褐～淡灰色	
134－26		AA24南北溝埋土	土師器	高台付坏	－	8.0	(4.9)	回転ナデ、糸切りのち回転ナデ、ナデ	白色砂粒・ガラス質の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
134－27	83	AC24 南北溝埋土	土師器	甕	(16.3)	－	14.4	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	橙～黒褐色	口縁～底部 煤付着
134－28		AS24南北溝	土師器	甕	22.0	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	2㎜の砂粒を含み5㎜の砂粒を僅かに含む	良好	淡黄～黒色	
135－1		BA42溝R	須恵器	高坏ヵ蓋	－	－	－	ナデ	精良	やや不良	灰白色	外面に刻書「白」
135－2		BA42溝R	土師器	高台付坏	－	(5.8)	－	回転ナデ	精良	良好	橙色	
135－3		BA42溝R	土師器	皿	7.9	5.0	1.9	回転ナデ、静止糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
135－4		CK39南北溝	須恵器	蓋	(14.6)	－	－	回転ナデ、ナデ	石英を少量含む	良好	黄灰色	
135－5		CK39南北溝	須恵器	蓋	(17.3)	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密長石を少量含む	やや不良	灰色	
135－6	78	CK39南北溝	須恵器	坏	14.2	－	4.7	回転ナデ、静止糸切り、ナデ	密、大きな白色砂粒が少量、細かい白色砂粒少量含む	不良	外面：灰黄色 内面：黄灰色	
135－7		CK39南北溝	須恵器	坏	(12.0)	(7.2)	3.2	回転ナデ、回転ヘラケズリ、糸切り後ナデ、ナデ	精良	良好	灰白色	油煙付着、灯明皿
135－8		CK39南北溝	須恵器	坏	(18.0)	(8.6)	5.9	回転ナデ、静止糸切り	密、1㎜以下の砂粒を少量含む	良好	灰色	
135－9		CK39南北溝	須恵器	坏	－	(9.4)	－	回転ナデ	密、長石を微量に含む	不良	灰白色	
135－10		CK39南北溝	須恵器	高台付坏	(15.4)	(8.8)	4.7	回転ナデ、ナデ	密、細かい白色砂粒が少量混入	良好	外面：灰色 内面：明灰色	工具によるキズあり
135－11		CK39南北溝	須恵器	甕	46.0	－	－	回転ナデ、平行タタキ後カキ目	密	良好	灰色	青海波文
135－12		BA39 SD008	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	転用硯
135－13		BA39 SD008	須恵器	高台付坏	－	－	－	回転ナデ、糸切り、ナデ	精良	良好	青灰色	
135－14		BA39 SD008	土師器	皿	－	－	－	ヨコナデ	精良	良好	赤褐色	赤彩
135－15		BA39 SD008	製塩土器	製塩土器	－	－	－	ナデ、指頭圧痕	1㎜以下の砂粒を含む	軟質	淡橙色	
135－16		C132東西小溝	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	砂粒を少し含む	良好	青灰色	
135－17	78	C132東西溝	須恵器	坏	(13.4)	－	4.6	回転ナデ、ナデ	精良	良好	青灰色	
135－18	78	C131東西溝内	須恵器	坏	(14.0)	(7.8)	4.8	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	油煙付着、灯明皿型
135－19		C131東西溝内	須恵器	坏	(13.4)	9.6	4.7	回転ナデ、ナデ	白色粒子を含む	良好	青灰色	
135－20		C131東西溝内	土師器	坏	－	－	－	不明	精良	良好	暗赤褐色	赤彩
135－21	80	BO33古溝下層部R	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	2㎜以下の白色粒子を含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
135－22	78	BO33古溝二層	須恵器	坏	(10.8)	－	3.1	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヨコナデ	密、細かい白色砂粒が少量混入	やや不良	灰色	
135－23	78	BO32	須恵器	高坏	13.0	11.0	9.8	回転ナデ、ナデ	密、1㎜前後の白色砂粒を含む	良好	灰白色	三角形の透かし
135－24	78	BO34古溝上層部R	須恵器	高坏	10.2	7.2	12.1	回転ナデ、ナデ、刺突文				二段透かし
135－25	80	BO33古溝下層部R	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、クシ状工具による波状文	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
135－26	80	BO33古墳溝下層部RR	須恵器	甕ヵ壺	－	－	－	回転ナデ、刺突文	精良	良好	灰色	自然釉付着
135－27	80	BO34古溝下層部R	土師器	甕	(10.8)	－	－	ケズリ、ナデ、ハケ目	2㎜の白色粒子を含む	良好	黄褐色	赤彩
135－28	78	CG16古墳斜溝	土師器	坏	－	－	－	風化著しい	やや密、白色砂粒を多く含む	良好	淡赤褐色	
135－29	78	CG16古墳斜溝	土師器	坏	(11.7)	－	4.8	ヘラケズリ、ヨコナデ	やや粗、1㎜程度の砂粒を含む	良好	淡橙色	
135－30	78	CG16古墳斜溝	土師器	坏	(13.4)	－	－	ヨコナデ	密、砂粒を僅かに含む	良好	淡橙褐～淡白褐色	
135－31		AC19古墳溝	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ、指頭圧痕	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡赤褐色	
135－32		AO14南北玉石溝	須恵器	蓋	(8.4)	－	－	回転ナデ	密、長石、石英などの砂粒を少量含む	良好	黄灰色	
135－33		AS16東西溝黄褐土	須恵器	高台付皿	(19.4)	12.6	3.3	回転ナデ、回転糸切り、ヨコナデ	密、大きな白色砂粒が少量混入	良好	灰色	
135－34		AS13東西溝	須恵器	蓋	(15.6)	－	－	回転ナデ	長石を少量含む	良好	黄灰色	
135－35		AS13東西溝	須恵器	坏	－	(7.6)	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	黄灰色	
135－36		AS13黄褐色土	須恵器	高台付皿	18.5	(10.4)	3.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	やや不良	淡灰～橙色	軟質
135－37		AB14南北溝	須恵器	坏	(11.5)	－	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
135－38	78	AB15南北溝	須恵器	蓋	12.7	－	2.8	回転ナデ、回転糸切り後ナデ消し、ナデ	密	良好	青灰色	
135－39		AS15南北溝	須恵器	蓋	(18.0)	－	－	回転ナデ	5㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
135－40		AT15南北溝(Ⅱ)	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ、糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
135－41		AT15南北溝(Ⅱ)	須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ	精良	良好	濃青灰色	
136－1	78	JM96黒灰色粘土	須恵器	蓋	(11.1)	－	3.0	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	
136－2	78	BL26灰色粘土東西溝	須恵器	坏	(13.8)	(8.0)	5.1	回転ナデ、ナデ回転糸切り	密、1㎜以下の黒色粒子が少量混入	良好	暗灰色	
136－3		BL26灰色粘土東西溝	須恵器	高台付坏	(19.0)	(8.4)	6.2	回転ナデ、ナデ	密	良好	黒灰色	外部全面に自然釉
136－4	78	BL26黒東西溝	須恵器	鉢	(21.0)	－	－	回転ナデ	密、細かい黒色粒子、白色砂粒と透明な粒が多量混入	良好	青みがかった灰色	胎土・焼成特徴的
136－5		BL26灰色粘土東西溝	須恵器	高台付鉢ヵ	－	9.9	－	回転ナデ、同心円文押え具痕	白色の砂粒を含む	やや硬質	青灰色	三方向透かし
136－6		BL27灰色粘土東西溝	須恵器	鉢	－	－	－	ナデヵ回転ナデ、工具ナデ	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	灰～青灰色	把手
136－7		BL26灰色粘土東西溝	須恵器	壺	－	(9.0)	－	ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	高台内ヘラ記号
136－8		BL28黒東西溝	須恵器	甕ヵ鉢	－	(12.0)	－	タタキ後回転ナデ、回転ナデ	密、長石・石英を少量含む	良好	灰色	
136－9		BM28黒落ちこみ	土製品	移動式竈	－	－	－	ナデ	1㎜の砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
136－10		CI14東西溝埋土	須恵器	蓋	(15.4)	－	－	回転ナデ 回転ヘラケズリ、ヨコナデ	密、2㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	褐灰色、変色部は灰色	
136－11		CI14東西溝埋土	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	灰色、変色部は青灰色	重ね焼き痕あり
136－12		CI24灰褐色粘土	製塩土器	製塩土器	(6.6)	－	－	指頭圧痕	白色の砂粒を含む	良好	灰褐色	
136－13		CI24東西大溝 灰褐色粘土	土師器	甕	(16.2)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	やや粗、微細砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	内面に厚く煤付着
136－14		AA22南北溝	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、クシによる刺突文、ハケ目	2㎜以下の砂粒、白・黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	円形の透かし
136－15	77	AA22南北溝	須恵器	円面硯	12.2	10.0	1.7	回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡灰色	墨痕ヵ
136－16		AD22不明(南北溝)黄褐色粘	土師器	皿	(13.4)	(10.0)	(1.6)	風化著しい	1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	灰褐色	
136－17	78	AD南北溝	土師器	皿	(20.6)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	密	良好	乳褐色	内外面赤彩
136－18	78	AD南北溝	土師器	皿	(18.6)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ、ナデ	密、微細砂粒を含む	良好	赤褐色	内外面赤彩
136－19	78	AD南北溝	土師器	坏	－	－	－	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	黄橙～灰色	漆付着
136－20	83	AT16南北溝	須恵器	壺	－	1.3	－	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	白灰色	漆付着
136－21	78	AT16南北溝	須恵器	坏	－	－	－	横方向のミガキ	精良	良好	灰色	搬入品ヵ

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
136－22		AD21不明東側南北溝	須恵器	坏ヵ	－	－	－	回転糸切り、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む		青灰色	底部外面ヘラ記号「×」
136－23	78	BM26褐色砂	須恵器	蓋	(13.1)	－	－	回転ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	灰色	坏の可能性
136－24	78	BM28褐色砂東西溝	須恵器	蓋	(14.6)	－	2.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
136－25	78	BM26褐色砂東西溝	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ、糸切り痕ヵ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	暗灰褐色	墨書
136－26	78	BM26褐色砂東西溝	須恵器	高台付坏	(14.9)	(9.6)	4.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、黒色砂粒を多く、白色砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	
136－27	78	BM27褐色砂東西溝	須恵器	高台付皿	(16.5)	(10.4)	3.7	ナデ、回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒をやや多く含む	硬質	暗青灰色	
136－28		BN27東西溝	土師器	坏	(12.2)	6.2	4.2	回転ナデ、ナデ	微砂粒を多く含む	良好	白黄色	
136－29		BP40南北溝	須恵器	坏	(14.4)	(8.2)	5.7	回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	灰～明褐色	
136－30		BP40南北溝	須恵器	高台坏付	(14.4)	(8.8)	3.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰黄色	
136－31		BP40南北溝	須恵器	皿	(11.0)	(6.7)	1.9	回転ナデ、静止糸切り、ナデ	1㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰～青灰色	
136－32		BP40南北溝	須恵器	高台付皿	(23.0)	(18.0)	4.3	回転ナデ、ナデ	精良白色砂粒を含む	不良	灰黄～褐灰色	
136－33		BP40南北溝	須恵器	壺	－	8.0	(6.9)	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	青灰～灰色	漆付着
137－1		BN28東西溝黒色土	須恵器	蓋	(15.8)	－	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
137－2		BN27黒東西溝	須恵器	坏	－	(6.6)	－	回転糸切り、回転ナデ	0～1.5㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	底部外面に「中」の墨書
137－3		BN27黒東西溝	須恵器	高台付坏	－	(8.0)	－	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰色	
137－4		BN27黒東西溝	須恵器	高台付坏	(11.2)	(7.2)	4.1	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	黒灰～暗褐灰色	油煙付着
137－5		BM27黒東西溝	須恵器	高台付坏	(13.6)	(11.4)	3.5	回転ナデ、糸切り、ナデ	密、白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
137－6		BN27黒東西溝	須恵器	甕	－	－	－	タタキ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	青灰色	転用硯
137－7	79	BN27黒東西溝	土師器	坏	13.2	6.8	4.4	回転ナデ、回転糸切り	白色、赤色の小砂粒をやや多く含む	やや不良	淡橙色	
137－8	79	BN27黒東西溝イキ	土師器	坏	12.8	7.8	4.1	回転ナデ、回転糸切り	白色、赤色の微砂粒をやや多く含む	良好	桃色	
137－9		BN27黒東西溝	土師器	坏	13.7	7.6	4.4	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を少量含む	良好	淡橙色	
137－10		BN27黒東西溝イキ	土師器	坏	12.4	7.3	4.7	回転ナデ、ナデ	白色の微砂粒を含む	良好	明白茶色	外面漆付着
137－11		BN27黒東西溝　斜行する溝ヵ	土師器	坏	12.2	6.6	4.4	回転ナデ、回転ヘラケズリヵ	白色の小砂粒を含む	やや不良	明桃茶色	歪みあり
137－12	79	BM27黒東西溝　斜行する溝ヵ	土師器	坏	12.2	6.2	4.2	回転ナデ、回転糸切り	赤色の小砂粒を含む	やや不良	白～明桃色	
137－13		BN東西溝黒色土	土師器	坏	(12.0)	(7.4)	3.8	回転ナデ	密、砂粒を微量に含む	不良	にぶい黄橙色	
137－14		BN27黒東西溝	土師器	坏	11.2	6.3	4.4	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を少量含む	良好	明橙色	
137－15		BN27黒東西溝	土師器	坏	12.2	6.3	3.5	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を少量含む	良好	明桃色	
137－16		BN28黒東西溝	土師器	坏	(11.0)	(5.9)	4.0	回転ナデ、ナデ	密、砂粒を少量含む	不良	にぶい黄橙色	かなりの歪み
137－17	79	BN28東西溝黒色土	土師器	坏	(12.0)	－	4.3	回転ナデ	密、透明な砂粒が微量、キラキラした細かい砂粒が少量含む	不良	淡橙色	
137－18	79	BN2層黒東西溝	土師器	高台付坏	－	(8.6)	－	回転ナデ	密、石英、長石などを少量含む	不良	にぶい黄橙色	表面風化
137－19		BN28東西溝黒色土	土師器	甕	－	－	－	ナデ、ケズリ	キラキラした細かい砂粒、2㎜以下の白色砂粒が多量、粒の大きな砂粒も少量みられる	やや不良	外面：黒色 内面：褐灰色	煤付着
137－20	79	BT32黒褐色土溝中	土師器	坏	(17.6)	(6.0)	4.1	回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	淡橙～淡橙白～淡黒灰色	
137－21	78	BT32黒色土(溝)	青白磁	碗	－	(7.0)	－	ヘラケズリ	密	良好	淡灰色、釉は淡緑色	
137－22	79	CP21東側南北溝　不明	須恵器	蓋	13.8	－	3.4	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
137－23	79	CP21東側南北溝	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.6)	4.3	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	やや良好	外面：黒灰色 内面：暗褐灰色	
137－24		CP21東側南北溝	須恵器	高台付坏	(16.0)	(11.6)	5.3	回転ナデ、ナデ	2㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	外面：黒褐色 内面：灰色	
137－25		DJ4東西溝	須恵器	皿	(17.6)	(10.8)	2.4	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒を多量含む	良好	緑灰～青灰色	
137－27	78	東西溝	須恵器	蓋	(14.1)	－	2.1	回転ナデ	密			転用硯
137－28		東西溝	土師器	甕	(15.4)	－	(10.8)	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	0.5㎜の砂粒を密に含む	良好	にぶい灰褐色	煤付着
138－1	84	BO3溝北溝R	須恵器	蓋	23.4	－	(2.55)	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	密、0.5㎜前後の白色砂粒を少量含む	良好	灰～灰黄色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
138－2	84	B038南北溝バラス土	須恵器	蓋	(19.5)	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、２㎜以下の白色、黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	黒褐色付着物
138－3	84	B038南北溝R	須恵器	蓋	(12.8)	－	2.5	回転ナデ、沈線	密、黒い砂粒が微量混入	良好	黄味がかった灰色	転用硯
138－4	84	B038南北溝R	須恵器	坏	15.3	－	5.6	回転ナデ、糸切り	密、細かい砂粒が少量混入	やや不良	明灰色	
138－5	84	B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	坏	13.0	7.3	4.4	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、0.5㎜以下の白色砂粒を少し、黒色砂粒を僅かに含む	良好		
138－6	84	B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	坏	13.3	7.7	4.5	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、0.5㎜以下の白・黒色砂粒を少し含む	良好	明灰色	黒褐色付着物
138－7	84	B038南北溝R	須恵器	坏	13.5	8.15	4.5	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	２㎜程度の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
138－8	84	B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	坏	12.6	－	5.25	回転ナデ	やや粗、長石を少量含む	良好	黒灰色	
138－9		B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	高台付坏	(15.0)	(11.2)	3.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1.5㎜以下の白色、黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
138－10		B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	高台付坏	(12.1)	(7.3)	4.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、１㎜以下の黒色砂粒をとても多く、１㎜以下の白色砂粒を僅かに含む	良好	暗灰色	
138－11	84	B038南北溝灰褐色土R	須恵器	高台付坏	(10.9)	(6.2)	3.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、３㎜以下の白色砂粒を多く、黒色彩砂粒を多く含む	良好	明灰色	
138－12		B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	高台付皿	－	(15.3)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、1.5㎜以下の白色、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	黒褐色付着物
138－13		B038南北ミゾR	須恵器	高坏	(22.6)	－	－	回転ナデ、ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	墨書「門」の上に墨痕あるいは別の文字が重なっている
138－14	84	B038南北溝バラス土R	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ	密、２㎜以下の白色、黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	線状の透かしが二方向 黒褐色付着物
138－15		B038南北ミゾR	須恵器	高坏	－	(10.8)	－	回転ナデ	0.1㎜～1.5㎜位の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：灰白色	二方向透かし
138－16	84	B038南北ミゾ　バラス	須恵器	短頸壺	－	7.2	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、回転糸切り	密、0.5㎜以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	漆付着
138－17		B038南北ミゾ	須恵器	短頸壺	－	(9.1)	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、1.5㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
138－18	79	B038南北ミゾ　バラス土	須恵器	短頸壺	(6.4)	－	－	回転ナデ	１㎜前後の砂粒を含む	良好	灰黄色	
138－19	79	B038南北溝バラス土	須恵器	短頸壺	－	－	－	回転ナデ、指頭圧痕	１㎜以下の砂粒と２㎜～４㎜の礫を含む	良好	外面：灰色 内面：灰白色	
138－20	84	B038南北ミゾ	須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰～暗褐色	
138－21	79	B038南北溝バラス土R	須恵器	鉢	－	－	－	回転ナデ	密、0.5㎜以下の白、黒色砂粒を少し含む	やや不良	灰白色	黒褐色付着物
138－22	84	B038南北溝	土師器	皿	(17.6)	(15.2)	5.4		精良	良好	赤褐色	全面赤彩、概報18図8
138－23	79	B038南北溝バラス土R	須恵器	鉢	－	－	－	タタキ、ナデ	密、１㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
138－24	84	B038南北溝R	須恵器	甕	(20.2)	－	－	回転ナデ、タタキ	密、３～４㎜の礫をまれに含む	良好		自然釉付着
138－25	84	B038南北溝	土製品	土製支脚	－	－	(10.8)	ヘラケズリ	0.5㎜～１㎜の砂粒を密に含む	良好	淡褐色	
138－26	79	B038南北ミゾ	須恵器	鉢	－	－	－	回転ナデ、ナデ	密、２㎜以下の白色、黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	杷手
138－27	79	B038南北溝バラス土R	須恵器	鉢	(37.5)	－	－	回転ナデ、格子目タタキ	0.5㎜以下の砂粒が少量、２㎜前後の礫を少量含む	良好	外面：緑黒 内面：灰色	
138－28	79	B038南北溝	土師器	甕	(24.8)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	やや密、２㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙褐色	
139－1		CJ16東西ミゾ灰褐砂	須恵器	高台付皿ヵ坏	－	(14.4)	－	回転ナデ、ナデ	0.5㎜以下の白色砂粒を含む		外面：赤みをおびる 内面：灰茶褐色	墨書「厨」
139－2	109	CJ11東西ミゾ	須恵器	高台付皿	－	9.6	－	回転ナデ、回転糸切り、貼付け後ナデ	１㎜程度の砂粒を多く含む	やや軟質	灰色	墨書「○(記号)」
139－3		CL11東西ミゾ	須恵器	高台付皿	(21.0)	16.2	3.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り後ナデ消し	0.5㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰褐色	刻書「＃(記号)」
139－4		CJ14東西溝灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	8.7	6.35	3.5	回転ナデ、回転糸切り	微細な砂粒と１～２㎜の砂粒を少し含む	良好	灰色	刻書「門」
139－5		CJ14東西ミゾ灰カツ粘土	須恵器	高台付坏	11.35	8.05	4.35	回転ナデ、ナデ、回転糸切りヵ後ナデ	0.5～１㎜程度の白色砂粒を含む	良好	暗灰色ヵ	刻書「由」
139－6		CJ11東西ミゾ	須恵器	高台付坏	11.9	8.2	4.0	回転ナデ、ナデ	１～２㎜程度の砂粒を多く含む	良好	灰色	墨書「酒坏」
139－7		CJ13東西溝	須恵器	高台付坏	－	(11.9)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	１㎜程度の砂粒を含む	やや不良	黄灰色	刻書「由」
139－8	110	CJ14東西溝灰粘土	須恵器	高台付坏	－	9.6	－	回転ナデ、ナデ	微細な砂粒を含む	良好	外面：暗めの灰色 内面：白っぽい灰色	墨書「得」 ヘラ記号「×」
139－9	109	CJ11東西ミゾ	須恵器	高台付坏	17.4	12.6	6.2	回転ナデ、ナデ	0.5㎜以下の細かな白色の砂粒を含む、所々に礫	良好	濃青灰色	墨書「國ヵ」
139－10		CJ24東西溝灰黒粘土	須恵器	蓋	(19.0)	－	－	回転ナデ、ナデ	１～２㎜の砂粒を含む	やや不良	黄灰色	刻書「由」
139－11		CJ11東西ミゾ	須恵器	蓋	(17.0)	－	3.35	回転ナデ、ナデ	１㎜大の白色砂粒を少量含む		灰白色	刻書「社邊」

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
139－12		CJ14東西溝青灰色粘土	須恵器	蓋	(20.0)	－	3.0	回転ナデ、ナデ、静止糸切り	1～1.5mm程度の砂粒、1～4mmの礫を含む	良好	外面：灰色 内面：淡灰色	刻書「由」
139－13	110	CJ19東西溝灰褐色砂	須恵器	蓋	14.5	－	3.4	回転ナデ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	墨書「三太三」、転用硯、漆で「×」
139－14	109	CJ16東西溝灰青砂	須恵器	皿ヵ坏	－	－	－	ナデ	0.5mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	墨書不明
139－15	110	CK31東西溝R青灰色粘土	須恵器	高台付皿	18.3	12.3	3.4	回転ナデ、回転糸切り、貼付け後ナデ、ナデ	細かい砂粒と2mm程度の礫を含む	良好	にぶい灰色	墨書「田人」「大」
139－16	110	CJ19東西溝灰褐砂	須恵器	皿	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、1～2mm程度の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：黄灰色	墨書「真ヵ」
139－17	109	CJ15東西溝炭灰褐砂	須恵器	皿ヵ	－	－	－	回転糸切り	微細な砂粒を含む	良好	灰色	墨書不明
139－18		CJ17東西溝灰褐砂	須恵器	壺	(11.0)	－	－	回転ナデ	密	良好	灰色	墨書「長」
139－19	110	CJ30・31東西溝黄褐色砂	須恵器	皿	－	(9.0)	－	回転ナデ、ナデ、糸切り	1mm程度の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	墨書「本」
139－20	110	CJ20東西溝灰褐色砂	須恵器	皿	－	－	－	回転ナデ、回転糸切り	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	灰色	墨書「筭ヵ」
139－21		CJ21東西溝黄褐砂	須恵器	皿ヵ坏	－	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を少量含む	良好	外面：褐色 内面：灰色がかった褐色	刻書「白田」
139－22	109	AM05東西溝2砂R	須恵器	坏	10.8	8.2	4.1	回転ナデ、ナデ	微細な砂粒を含む	良好	灰色	墨書「庄」
139－23	109	AM15東西溝2砂R	須恵器	高台付坏	－	9.4	－	ヘラ切り	1mm大の黒色の砂粒を含む	やや不良	明褐灰色	墨書「國」
139－24	111	AM04東西溝2砂	須恵器	坏	－	8.6	－	回転ナデ、ナデ	密、ごく細かい砂粒を少量含む	やや不良	にぶい灰色	墨書「里」
139－25	111	AM18東西溝	須恵器	蓋	(15.0)	－	－	回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ後天井部にナデ	0～3mm程度の砂粒を含む	良好	淡灰色	墨書「南」、重ね焼き痕あり
139－26	111	AM12東西溝2	須恵器	坏ヵ	－	－	－	ナデヵ、回転糸切りヵ後ナデ	0.5mm以下の細かな砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：暗灰色	墨書
140－1		AA23灰色粘土	須恵器	蓋	13.8	－	4.6	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、石英が少量混入	良好	暗灰色	概報21図8
140－2	90		須恵器	蓋	(11.6)	－	3.8	ケズリ、回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	やや硬質	青灰色	
140－3			須恵器	蓋	(12.8)	－	－	回転ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	灰色	
140－4	85	RA015黄褐色土	須恵器	蓋	10.6	－	4.2	ヘラ切り、ヨコナデ、ナデ	精良、1～2mm程度の白色砂粒を少量含む	良好	内面：灰色 外面：灰～白灰色	ほぼ完形、天井部に自然釉がかかる
140－5	85	RA016	須恵器	蓋	20.3	－	3.3	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	密、1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	外面は、黄褐色で、黒褐色付着物あり
140－6	86	AP15黄褐色	須恵器	蓋	(17.1)	－	3.5	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密、細かい白色砂粒が少量混入	良好	明灰色、暗灰色	自然釉付着、概報16図3
140－7		AK21灰色砂R	須恵器	蓋	14.0	－	2.4	回転ナデ、ナデ	密、黒色の微細粒を含む	良好	灰黄～灰色	外面の一部に自然釉付着
140－8		BO27黄褐色土	須恵器	蓋	(11.9)	－	2.8	回転ナデ、ケズリ、回転ヘラケズリヵ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	
140－9		AP5黄褐色	須恵器	蓋	11.2	－	2.75	回転ナデ、ナデ	密、細粒を多く含む	良好	灰黄～灰色	一部に自然釉付着
140－10	86	AP15黄褐色土	須恵器	蓋	11.3	－	2.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～2mmの砂粒を僅かに含む	良好	灰～茶灰色	
140－11	85	AO13バラスR	須恵器	蓋	10.9	－	3.0	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、ナデ	やや精良、1mm未満の白色砂粒を多く含む	良好	内面：淡灰色 外面：灰色	
140－12	86	AP15黄褐色R	須恵器	蓋	8.9	－	2.45	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1～3mmの砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
140－13		BN37バラス土R	須恵器	蓋	(16.2)	(4.2)	2.4	回転ナデ、ケズリ、ナデ	白色の微細粒を含む	良好	灰色、外面の口縁部は赤紫色	つまみの横に墨書あり、漆付着
140－14	86	CL12黒色土	須恵器	蓋	15.0	－	2.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	1mm前後の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	転用硯、墨痕あり
140－15		AK21灰色砂R	須恵器	蓋	14.6	－	2.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	密	良好	灰黄～灰色	自然釉付着、内面磨滅、転用硯
140－16		JN96灰褐粘土	須恵器	蓋	14.6	－	2.85	回転ナデ、回転ヘラケズリ	0.5～1mm前後の白色砂粒を多く含む	良好	灰白～灰色	
140－17		JN92バラス	須恵器	蓋	(14.2)	－	2.6	回転ヘラケズリ、ナデ	1mm大の砂粒を含む	良好	灰色	
140－18		CI14黄褐色	須恵器	蓋	(14.8)		2.5	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	明青灰色	自然釉付着
140－19	86	JO97灰褐色粘土、バラス JO97バラス	須恵器	蓋	(21.0)	－	3.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	良好	灰白色	
140－20		AR-AT21-23	須恵器	蓋	19.0	－	3.0	回転ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	暗灰色	
140－21	86	BN32黄褐土	須恵器	蓋	11.3	－	2.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ	密、白色砂粒を含む	良好	明青灰色	
140－22	86	CM12	須恵器	蓋	18.0	－	3.95	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ	0.5～1mm前後の砂粒を多く含み2mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	灰～黒灰色	自然釉付着
140－23	86	CK18灰褐色粘土	須恵器	蓋	17.55	－	3.45	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切り後回転ナデ消し、ナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	灰色	
140－24			須恵器	蓋	18.0	－	2.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	0.5～1mm前後の砂粒を多く含む	良好	青灰～灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
140－25		CK19灰黒色粘土	須恵器	蓋	(16.5)	－	5.0	回転ナデ、ナデ	やや粗１～４㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	外面に黒色の付着物あり
140－26	85	BO37黄褐土R	須恵器	蓋	15.4	－	3.7	回転ヘラケズリ後ヨコナデ、ナデ	精良、１㎜未満の白色砂粒を少量含む	良好	外面：淡灰～灰～褐色 内面：淡灰色	つまみ径2.7cm
140－27		AR-AT21-23黒色土	須恵器	坏	－	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
140－28		BL30礫層内R	須恵器	蓋	(15.4)	－	2.7	回転ナデ、ナデ	密、２㎜以下の長石と細かい白色砂粒が多量混入	良好	灰色	
140－29	86	AD23黄褐色粘土	須恵器	蓋	13.7	－	3.3	回転ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	青灰色	
140－30	85・86	CG13バラス	須恵器	蓋	14.0	－	3.5	回転ヘラケズリ後ヨコナデ、ナデ	やや粗、１～３㎜の程度の白色砂粒をやや密に含む	良好	外面：灰～暗灰色 内面：灰色	
140－31	85・86	CI13暗褐砂	須恵器	蓋	14.1	－	2.7	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ	１～３㎜の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
140－32		C地区Zグリッド不明	須恵器	蓋	12.4	－	3.6	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ後ナデヵ	細かい白色砂粒を多く含む	良好	外面：青灰色 内面：灰白～淡橙褐色	
140－33	85	CL12暗褐砂	須恵器	蓋	13.0	－	2.6	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	１㎜前後の砂粒を多く含む	良好	灰～青灰色	
140－34		CL14黒色土	須恵器	蓋	(12.6)	－	2.4	回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ナデ、ナデ	密、１㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	
140－35		AQ11バラスR	須恵器	蓋	13.1	－	3.4	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ		良好	黄灰色	
140－36			須恵器	蓋	(12.3)	－	7.0	ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、ナデ	やや密、炭化物白色砂粒を含む		暗青灰色	
140－37	86	CL15灰色バラス土	須恵器	蓋	(20.5)	－	1.9	回転ナデ、ナデ、ヘラ状の圧痕	１～４㎜の白色砂粒を含む	良好	灰色	
140－38		BL32バラス	須恵器	蓋	(17.4)	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切り、ヨコナデ	密、大きめの白色砂粒が多量混入	良好	灰色、暗灰色	概報17図44
140－39	86		須恵器	蓋	14.1	－	2.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ、カキ目ヵ	密、白色微細粒を多く含む	良好	明灰色	特徴的な胎土、焼成
140－40		CL14灰色バラス土	須恵器	蓋	(14.8)	－	2.1	回転ナデ、ヘラケズリ後ナデヵナデ	密、１㎜以下の白色砂粒を多く含む	やや良好	灰白色	特徴的な焼成
140－41		BBP37灰褐色土	須恵器	蓋	14.05	－	2.8	回転ナデ、ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	赤灰～灰色	焼成時の空洞あり
140－42		AB18灰褐色粘土　オチコミ	須恵器	蓋	13.6	－	2.0	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	１㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
140－43		CL14黒色バラス砂	須恵器	蓋	13.6	－	3.2	回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、ナデ	密、１㎜以下の白色砂粒を含む	不良	濃橙色	
140－44			須恵器	蓋	(13.2)	－	2.7	回転ナデ、ナデ	１㎜前後の白色の砂粒を含む	良好	灰色	
140－45		CK14灰色バラス	須恵器	蓋	(12.9)	－	2.3	ヘラケズリ、ナデ	２～３㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色	内面ヘラ記号「×」
140－46	86	AC21黄褐色土	須恵器	蓋	14.7	－	2.7	回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、回転糸切りヵ後ナデ、ナデ	密、３㎜以下の礫石英と２㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	暗青灰色	内面ヘラ記号「×」
140－47		CL14黒色土	須恵器	蓋	(17.8)	－	－	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	硬質	橙灰色	赤焼
140－48		CK15灰色バラス	須恵器	蓋	(13.8)	－	2.5	回転ナデ、ナデ	１㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰白色	特徴的な胎土、焼成
140－49		CI11暗褐砂	須恵器	蓋	(19.4)	－	－	回転ナデ	緻密	良好	明灰色	
140－50	90	CL14黒色土	須恵器	蓋	(12.8)	－	－	回転ナデ、ナデ、糸切り	密	良好	淡灰色	
140－51		CI11暗褐色砂	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	密、極小の白色砂粒を含む	良好	外面：灰色 内面：灰白色	
140－52		AC黄褐色	須恵器	蓋	28.4	－	3.2	回転ナデ、ヘラケズリ	１～２㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
140－53	90		須恵器	蓋	(20.8)	－	－	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	灰色	
141－1			須恵器	坏	－	－	－	ケズリ、回転ナデ	白色の砂粒を少量含む	良好	黄灰色	
141－2			須恵器	坏	(10.7)	－	5.1	回転ナデ、ケズリ、ナデ	白色黒色の微砂粒を含む	やや硬質	淡青灰色	
141－3			須恵器	坏	(12.8)	－	－	回転ナデ、ケズリ	白色の小砂粒を含む	良好	灰白色	
141－4	87		須恵器	坏	(12.3)	－	3.7	回転ナデ	白色の砂粒を少量含む	良好	灰色	
141－5			須恵器	坏	(10.0)	－	4.1	回転ナデ、ケズリ	白色の小砂粒をやや多く含む	やや硬質	暗灰色	
141－6	85	AN14黄褐土	須恵器	坏	7.9	－	2.7	静止ヘラケズリ、ナデ、回転ナデ	精良、１～２㎜程度の白色砂粒を少量含む	良好	灰色	
141－7	87	AN15黄褐色粘土	須恵器	坏	9.4	－	3.1	回転ナデ	密、１～２㎜の砂粒を含む	良好	灰黄色	内面ヘラ記号「×」
141－8		AL11黒灰色粘土	須恵器	坏	(11.2)	7.5	－	回転ナデ、回転糸切り	１～２㎜の砂粒を多く含む	良好	灰褐色、黒灰色	
141－9		CI24黒色バラス土	須恵器	坏	(12.0)	(4.9)	4.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、１㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰～暗赤灰色	
141－10	87	CJ19灰色バラス土	須恵器	坏	11.7	7.5	4.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	やや不良	灰色	
141－11		AR-AT21-23黒色土	須恵器	坏	(11.5)	(6.8)	4.1	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	良好	暗青灰色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
141－12		58-138ラベル不明	須恵器	坏	(15.8)	8.0	4.1	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	2～3㎜大の砂粒を含む	良好	灰～明褐色	底部にヘラ記号あり
141－13		BF40黄褐色砂、BF39黄褐色砂	須恵器	坏	(14.2)	(8.4)	6.1	回転ナデ	長石を少量含む	良好	灰色	底部ヘラ記号ヵ
141－14	87		須恵器	坏	(15.0)	(10.5)	5.2	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	
141－15		AK15灰色砂	須恵器	坏	－	9.8	(2.0)	回転ナデ、ナデ	密、1㎜前後の砂粒を少量含む	不良	にぶい黄色	漆付着
141－16	87	AL21灰色砂	須恵器	坏	(13.0)	(9.5)	4.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
141－17			須恵器	坏	(12.8)	(9.0)	4.7	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	暗灰色	
141－18	87	BM38SD04	須恵器	坏	13.2	9.3	4.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色砂粒を含む	良好	にぶい黄色	
141－19		Ｃ地区Ｚグリッド不明	須恵器	坏	(14.4)	(9.4)	3.8	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰～淡灰色	
141－20		CK19灰褐色粘土	須恵器	坏	12.7～13.8	7.6	3.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、4㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	淡灰～暗灰色	
141－21		出CK14暗褐色粘土	須恵器	坏	14.2	8.4	4.2	回転ナデ、回転糸切り	密、長石を少量含む	やや不良	黄灰色	
141－22		BP37灰褐色土R	須恵器	坏	(13.3)	(9.4)	3.9	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色砂粒をやや多く含む	良好	暗青灰色	
141－23		CJ18灰色バラス土	須恵器	坏	(12.0)	(7.8)	4.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、黒色砂粒をやや含む	やや不良	灰白色	
141－24		CL16灰色バラス土	須恵器	坏	(10.3)	6.3	4.0	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、1㎜程度の白色砂粒をやや多く含む	良好	灰褐色	
141－25		CCL17バラス土	須恵器	坏	(10.0)	(7.1)	4.3	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、黒色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
141－26		CJ20灰色バラス土	須恵器	坏	(11.0)	6.35	4.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を含む	良好	灰白～淡赤灰色	
141－27		AR-AT21-23黒色土	須恵器	坏	(13.0)	(9.8)	4.1	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	やや密、白色微細粒を多く含む	良好	淡灰色	
141－28		Ｃ地区Ｚグリッド不明	須恵器	坏	(12.8)	(8.6)	4.0	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、細かい白色砂粒を含む	良好	外面：暗青灰色 内面：黒灰色	
141－29		BL28褐色砂	須恵器	坏	(13.4)	(9.2)	3.2	回転ナデ、糸切り後ナデ、ナデ	密、細かい黒色粒子が多量混入	良好	灰色、黒色	口縁端部に油煙
141－30		AT25黄褐色粘土	須恵器	坏	(12.2)	(10.2)	4.0	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	暗青灰色	
141－31	87	CK17灰色バラス	須恵器	坏	(13.1)	(9.5)	3.8	回転ナデ	白色の砂粒を非常に多く含む	良好	暗青灰色	
141－32	87	CJ20灰色バラス	須恵器	坏	10.5	7.5	3.7	回転ナデ、ナデ	微砂粒を多く含む	不良	褐灰～淡橙色	
141－33		CL19灰色バラス土	須恵器	坏	(9.4)	6.2	3.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、3㎜以下の白色砂粒を含む	良好	明灰色	
141－34		CL18灰褐粘土	須恵器	坏	11.3	7.5	4.5	回転ナデ、回転糸切り	砂粒をあまり含まない	やや軟質	明灰色	油煙付着
141－35		AR13バラスR	須恵器	坏	(10.8)	(5.5)	4.5	回転ナデ、回転糸切り	密、細かい白色粒子が微量混入	不良	灰白色、変色部は黒	
141－36		CL20黒色粘土層	須恵器	坏	(12.6)	(9.2)	3.8	ヘラケズリ後回転ナデ、回転糸切り後ナデ	6㎜程度の礫、3㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	灰色	
141－37		AR11バラスR	須恵器	坏	12.0	7.6	3.1	回転ナデ、ナデ	密	良好	灰～灰白色	
141－38	87	CM12暗褐砂SD34、CM東西ミゾSD34	須恵器	坏	12.2	8.4	3.8	回転ナデ、回転糸切り	1～2㎜の砂粒を含む	良好	青灰	
141－39		AT23黒色土	須恵器	坏	11.9	6.2	3.9	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が少量混入	不良	明灰色、変色部は暗灰色	
141－40		CG20灰黒土	須恵器	坏	－	12.4	－	回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り	砂粒をほとんど含まない	良好	明灰白色	搬入品ヵ
141－41		DI41黄灰色土	須恵器	坏	13.8	9.2	3.2	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を僅かに含む	良好	外面：暗青灰色 内面：灰色	
141－42			須恵器	坏	－	(7.2)	－	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
142－1	85	AP15褐色土	須恵器	高台付坏	(16.5)	(10.1)	17.6	回転ナデ、回転糸切り後回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の砂粒白色細砂粒を多く含む	良好	黄灰色	概報16図8
142－2	87	CJ19灰褐色砂	須恵器	高台付坏	13.6	8.9	4.9	回転ナデ、ヨコナデ	密、1㎜以下の砂粒が多量混入	良好	灰色	ヘラ記号「一」、墨書「目」
142－3	87	BP37灰褐色土	須恵器	高台付坏	14.0	8.0	4.4	回転ナデ、ナデ、静止糸切り	密、1～2㎜の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
142－4		CH4黄褐色	須恵器	高台付坏	－	(8.6)	－	ナデ、静止糸切り	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	灯明皿
142－5		CI24灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	(13.6)	(8.8)	4.7	回転ナデ	白色の微細粒を含む	良好	灰色	
142－6		SP40	須恵器	高台付坏	(14.8)	9.6	－	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	
142－7			須恵器	高台付坏	(14.0)	(8.6)	4.6	回転ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を含む	良好	灰色	
142－8		BF39耕作土	須恵器	高台付坏	(13.8)	(9.4)	4.2	回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の長石が多量混入		外面：灰色 内面：明灰色	
142－9		BF40黄褐砂	須恵器	高台付坏	(15.0)	(9.7)	4.2	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、横ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒が多量混入	良好	灰色	
142－10		BM26黄褐砂	須恵器	高台付坏	(16.2)	(13.4)	4.6	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	精良	不良	灰～灰白色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
142－11		CT21褐色砂質土	須恵器	高台付坏	(13.4)	(7.5)	4.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	7㎜の白色の石を含んでいる他、白色の小砂粒を含む	良好	明褐～灰色	
142－12		BO36黄褐土	須恵器	高台付坏	－	(9.2)	－	回転ナデ、ナデ	密、細かい砂粒が少量混入	良好	灰色	
142－13		AP15黄褐土R	須恵器	高台付坏	(12.0)	7.6	4.7	回転ナデ、ヘラ切り	密、細かい黒色粒子が少量混入	良好	灰色	概報16図7
142－14		CM29灰黒粘土	須恵器	高台付坏	－	9.6	(3.4)	回転ヘラケズリ、回転ナデ	密、0.5～1㎜の砂粒を多く含む	良好	灰色	底部ヘラ記号「－」
142－15		BF40黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(21.2)	(15.0)	6.4	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ	密、細かい白色砂粒を多量に含む	良好	外面：灰色 内面：明灰色	
142－16		CJ18灰色バラス土	須恵器	高台付坏	(16.2)	(9.8)	5.0	回転ナデ、ナデ	白色の砂粒を含む	やや軟質	灰色	
142－17		AK21　7色砂R	須恵器	高台付坏	11.1	7.4	3.5	回転ナデ、ナデ	密、微砂粒を多く含む	良好	灰白色	
142－18		BF40黄褐色砂	須恵器	高台付坏	(12.2)	(8.6)	4.1	回転ナデ、糸切り後ナデ	密、細かい白色砂粒を少量含む	良好	外面：灰色 内面：青みがかった灰色	
142－19	87	CM15黄褐粘土	須恵器	高台付坏	(17.0)	6.6	(11.0)	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	暗灰色	概報17図60
142－20		CL14灰色バラス土	須恵器	高台付坏	(15.7)	(9.4)	5.8	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の砂粒を含む	良好	淡青灰色	
142－21		CL17灰色バラス	須恵器	高台付坏	(14.8)	(9.3)	6.1	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	灰色	ヘラ記号「－」
142－22		AR-AT21-23黒色土	須恵器	高台付坏	(14.5)	(9.5)	5.8	回転ナデ、沈線2条、回転糸切り	砂粒をほとんど含まない	良好	黒灰色	
142－23			須恵器	高台付坏	－	12.2	－	回転ナデ、糸切り痕をナデ消す、ナデ	白色の砂粒を含む	良好	灰色	
142－24		AK21灰○石○	須恵器	高台付坏	(17.6)	(12.8)	7.8	回転ナデ、回転糸切り	1㎜程度の砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	内面に漆付着
142－25			須恵器	高台付坏	(16.1)	(11.9)	7.0	回転ナデ、回転糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	内外面に漆付着、体部外面に墨書「目」あり
142－26	87	CK17灰色バラス	須恵器	高台付坏	(15.2)	10.3	6.6	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を含む	やや硬質	暗青灰色	
142－27		CL14灰色バラス土	須恵器	高台付坏	(17.0)	－	－	回転ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	明灰色	
142－28		JN96灰褐色砂	須恵器	高台付坏	(12.9)	(9.1)	4.4	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	ヘラ記号「×」
142－29		CF16黄褐粘	須恵器	高台付坏	(11.7)	(8.6)	4.3	回転ナデ、回転糸切り痕をナデ消す、ナデ	白色の小砂粒を多く含む	良好	青灰色	
142－30	87		須恵器	高台付坏	(11.4)	(8.4)	3.4	回転ナデ、回転ヘラ切り	白色の微砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
142－31		BM40バラス土	須恵器	高台付坏	－	(9.0)	－	ナデ	精良	良好	灰色	ヘラ記号「○」
142－32	87	BM27褐色砂	須恵器	高台付坏	(17.7)	(11.1)	6.3	回転ナデ、回転糸切り	白色の砂粒をやや多く含む	良好	明灰色	断面三角形の突帯
142－33		バラス土	須恵器	高台付坏	(11.7)	(5.4)	4.8	回転ナデ、糸切り、棒状工具によるナデ、ナデ	白色の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
143－1	88	AT23灰色粘土	須恵器	高台付坏	(15.0)	(8.0)	6.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	精良	不良	黒灰～灰白色	
143－2		CH19灰褐粘	須恵器	高台付坏	(15.4)	(10.8)	6.1	回転ナデ、回転糸切り後粗いナデ、ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	外面：暗灰～灰色 内面：灰色	ヘラ記号「×」
143－3			須恵器	高台付坏	(12.8)	(8.3)	4.6	強い回転ナデをロクロ目状に切り離しをナデ消す	白色の砂粒を非常に多く含む	良好	黒灰色	
143－4		AS21黒色土	須恵器	高台付坏	(12.7)	(7.5)	4.5	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	赤色、白色の砂粒を含む	やや軟質	灰色、底部は橙灰色	
143－5		CJ21バラス土	須恵器	高台付坏	(12.8)	(8.0)	4.4	回転ナデ、ナデ	白色の砂粒を多く含む	良好	外面：灰褐色 内面：青灰色	
143－6		CL19灰色バラス土	須恵器	高台付坏	(12.1)	(6.3)	4.8	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	
143－7		AQ21バラス	須恵器	高台付坏	(11.8)	7.7	4.7	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を少量含む	良好	暗青灰色	
143－8			須恵器	高台付坏	(11.8)	(7.9)	3.8～4.2	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を非常に多く含む	良好	暗灰色	
143－9		CL15灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	(11.5)	(7.8)	4.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	やや硬質	明灰色	
143－10		AR～AT21～23黒色土	須恵器	高台付坏	(11.5)	(8.5)	4.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
143－11		CL15埋土黒色粘土	須恵器	高台付坏	(11.9)	(7.8)	4.6	回転ナデ、底部糸切りをナデ消す	1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	暗灰色	
143－12	88	68－70	須恵器	高台付坏	(11.8)	(7.7)	(4.1)	回転ナデ、ナデ	白色の砂粒を含む	良好	暗青灰色	
143－13		BM30礫層	須恵器	高台付坏	(10.6)	(5.4)	3.4	回転ナデ、ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	暗灰色	
143－14		C124灰褐色粘土SD048	須恵器	高台付坏	－	(6.8)	－	回転ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	軟質	淡褐色	
143－15		CL15灰褐色粘土	須恵器	高台付坏	－	(11.6)	－	ナデ、糸切り後ナデ、爪状圧痕	1㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色	
143－16		JN93バラス	須恵器	高台付坏	－	(9.4)	－	回転ナデ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外面：暗紫色 内面：灰色	
143－17		灰黒粘土	須恵器	高台付坏	－	－	(1.4)	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	密、0.5～1㎜の白色砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	漆付着

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
143－18	88	AR～AT21～23黒色土	須恵器	碗	(9.2)	(7.1)	8.9	回転ナデ、ナデ	灰色の小砂粒を含む	良好	白色	
143－19	88	BN32黄褐土	須恵器	皿	(16.4)	8.4～11.9	2.6	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	良好	灰色	
143－20	90	AS－21黒色土	須恵器	皿	(14.0)	(11.1)	2.4	口縁部2段ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を含む	良好	灰褐色	
143－21	88	CL21	須恵器	皿	24.6	－	2.8	回転ナデ、ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	灰白色	
143－22		CL14黒色土	須恵器	皿	(13.8)	(11.0)	2.3	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	密、2㎜以下の白色砂粒を多く含む	やや良好	外面：黒灰～淡灰色 内面：淡灰白色	
143－23		68－70	須恵器	皿	(17.0)	(14.0)	2.3	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を少量含む	良好	橙色	
143－24		CL15灰色バラス土	須恵器	皿	(15.3)	(12.4)	2.0	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	灰色	
143－25		BH32黒色土R	須恵器	皿	(14.2)	(10.4)	1.9	回転ナデ、回転糸切り	砂粒をほとんど含まない	やや不良	灰色	
143－26		CL14黒色土	須恵器	皿	(15.2)	(10.4)	2.8	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、微細砂粒を少し含む	不良	明橙褐～茶褐色	内面に円形の重ね焼き痕あり、表面風化著しい
143－27		CL18灰褐粘土	須恵器	皿	(13.0)	(7.7)	2.5	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色、黒色の小砂粒を含む	やや不良	暗灰色	
143－28		CL14黒色土	須恵器	皿	(15.2)	(10.0)	3.0	ナデ、糸切り	5×7㎜角の礫を含む	良好	肌色	
143－29		AS19バラス	須恵器	皿	(14.4)	(11.4)	2.6	回転ナデ、回転糸切り	密、長石を少量含む	やや不良	黄灰色	
143－30		JN93バラス	須恵器	皿	(17.0)	(14.2)	2.2	ナデ、回転糸切り	密	良好	灰色	
143－31	88	AR18バラス土	須恵器	皿	13.6	7.7	2.5	ヨコナデ、ナデ、回転糸切り	やや精良1㎜未満の白色砂粒をやや密、に含む	良好	灰色	
143－32		AR23黒色土	須恵器	皿	13.9	8.5	2.7	ヨコナデ、ナデ、回転糸切り	やや粗1～2㎜程度の白色砂粒、石英等をやや密、に含む	良好	褐灰色	
143－33		AB21	須恵器	皿	(12.4)	(8.6)	1.9	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	暗灰色	
143－34		CL－14灰色バラス	須恵器	皿	(12.7)	(6.9)	2.6	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を多く含む	良好	灰色	
143－35		C地区Z	須恵器	皿	(15.0)	(12.6)	2.2	回転ナデ、糸切り後ナデ、ナデ	密、石英片と微細砂粒を含む	良好	灰白色	
143－36		AD21	須恵器	皿	(14.0)	(10.6)	2.3	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	密、白色微細粒を少し含む	良好	明灰色	
143－37	88	CJ20灰色バラス	須恵器	皿	(14.2)	(8.0)	2.5	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	やや不良	暗青灰～赤褐色	
143－38		CJ18灰色バラス土	須恵器	皿カ	(21.0)	－	－	回転ナデ	緻密	良好	明灰色	
143－39		BO31バラス土R	須恵器	皿	(15.6)	－	(2.3)	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
143－40		CL17灰色バラス	須恵器	皿	(15.0)	(10.6)	2.6	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
143－41	90	CL19礫	須恵器	皿	(10.4)	(5.0)	2.6	回転ナデ、糸切り後ナデ	白色の砂粒を少量含む	良好	明灰色	
143－42		CK20灰褐色粘土	須恵器	高台付皿	(18.0)	(10.0)	3.6	回転ナデ、糸切り痕	白色の小砂粒を含む	やや不良	灰白色、橙色	
143－43			須恵器	高台付皿	(19.2)	(11.2)	3.6	回転ナデ、回転糸切り、ケズリ	白色の小砂粒を多く含む	良好	くすんだ青灰色	
143－44			須恵器	高台付皿	(17.1)	(10.7)	3.6	回転ナデ、糸切り	白色の小砂粒を多く含む	良好	赤褐色	転用硯
143－45		CK16灰色バラス	須恵器	高台付皿	(17.4)	(13.1)	3.2	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を少量含む	良好	灰白色	
143－46	88	BM26褐色砂	須恵器	高台付皿カ盤	13.2	－	－	ナデ、回転糸切り後ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	灰色	
144－1	88	DI41バラス	須恵器	高台付皿	(19.4)	(13.6)	3.9	回転ナデ	密、長石を少量含む	やや不良	赤褐色	
144－2		AT－24黄褐色粘土	須恵器	高台付皿	(17.7)	(6.1)	3.8	回転ナデ、ナデ	白色の小砂粒を含む2～5㎜の砂粒を含む	硬質	暗青灰色	
144－3		CJ－20灰色バラス	須恵器	高台付皿	(16.8)	(11.0)	3.2	回転ナデ、ナデ、回転糸切り後ナデ	密、極小の白色砂粒を僅かに含む	やや不良	青灰色	
144－4		CG20黒灰色土	須恵器	高台付皿	(17.1)	(8.2)	3.4	回転ナデ、ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	やや不良	灰色	
144－5		AB16黄褐土	須恵器	高台付皿	(17.6)	(11.4)	3.8	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	白色の砂粒をやや多く含む	良好	暗灰色、一部は紫色	
144－6			須恵器	高台付皿	(17.8)	(10.7)	4.3	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を多く含む	やや不良	灰色	
144－7	88	AQ11バラス	須恵器	高台付皿	(16.8)	(10.0)	2.7	回転ナデ、糸切り、ナデ	密、細かい白色砂粒が多量混入	良好	暗青灰色	底部にヘラ記号「－」
144－8			須恵器	高台付皿	(17.5)	(10.0)	3.8	回転ナデ	白色の微砂粒を多く含む	良好	赤褐～黒灰色	灯明皿
144－9	85	CI13バラス	須恵器	高台付皿	18.5	13.6	3.9	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を含む	やや不良	暗灰～黄灰色	
144－10			須恵器	高台付皿	(17.7)	(14.0)	3.85	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、白色砂粒を少し含む	良好	暗灰色	
144－11		CK18灰色バラス土	須恵器	高台付皿	(17.8)	(10.6)	4.0	風化著しい	白色、赤色の小砂粒をやや多く含む	やや不良	桃褐色	
144－12		CK32バラス	須恵器	高台付皿	(23.6)	(18.4)	4.2	回転ナデ、ナデ	密、0.5～1㎜の白色砂粒を多く含む	良好	灰黄色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
144－13	88	CL14黒色土	須恵器	高台付皿	15.7	11.5	2.9	回転ナデ、ナデ	緻密、白色微砂粒を含む	やや不良	淡黄灰～淡灰色	底部外面ヘラ記号
144－14		C地区Z	須恵器	高台付皿	(16.0)	(12.4)	3.0	回転ナデ、ナデヵ	密	やや不良	白褐色	
144－15	88		須恵器	高台付皿	(21.0)	(14.2)	3.8	ナデ、回転糸切り	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	灰色	口縁端部段
144－16		BF39黄褐色砂	須恵器	高台付皿	(18.0)	－	3.3	回転ナデ、ヨコナデ	密、2㎜以下の白色粒子が多量混入	良好		
144－17			須恵器	高台付皿	(29.6)	(19.3)	3.2	回転ナデ	密、長石を微量含む	良好	黄灰色	
144－18		C区Z　グリッド不明	須恵器	高台付皿	(20.8)	(14.6)	3.7	回転ナデ、ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	暗青灰色	
144－19		CI14黄褐色粘土	須恵器	高台付皿	(23.2)	(19.0)	3.2	ナデ、糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：灰色 内面：暗青灰色	
144－20		BP37灰褐色土	須恵器	高台付皿	(19.3)	(15.0)	3.4	回転ナデ、ナデ	密、～0.5㎜の砂粒を含む	良好	青灰色	
144－21		AS21黒色土	須恵器	高台付皿	－	(12.7)	－	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り後ナデ	白色の小砂粒を多く含む	やや硬質	灰色	
144－22		BP37灰褐色土	須恵器	高台付皿	－	(17.8)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヨコナデ	密、細かい白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
144－23		CE19黄褐色粘土	須恵器	高台付皿	(15.0)	(8.2)	2.5	回転ナデ	1～2㎜大の黒色砂粒を含む	良好	外面：青灰色 内面：淡青灰色	
144－24	90		須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、1条沈線	1㎜の砂粒を含む	良好	灰色	漆付着
144－25	88	AS19黄褐色土	須恵器	甕	－	5.6		回転ナデ、ナデ	密、2㎜以下の砂を含む	良好	青灰色	概報16図21
144－26	88	CM24灰黒粘土	須恵器	平瓶	－	5.3	－	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り後ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	
144－27		CJ21褐色砂質土	須恵器	高坏ヵ	(16.0)	－	－	回転ナデ	白色の砂粒を含む	やや不良	淡灰色	
144－28			須恵器	高坏ヵ	(20.2)	－	－	回転ナデ、ケズリ	砂粒をほとんど含まない	やや不良	灰色	
144－29		BF39耕作土	須恵器	高坏ヵ	(16.0)	－	－	回転ナデ、沈線	密、1㎜以下の白色砂粒が少量含む	良好	灰色	
144－30	90	CG20黄褐色粘土	須恵器	高坏	(30.4)	－	(2.3)	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	微砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	ヘラ記号「－」、転用硯
144－31		CJ18灰色バラス土	須恵器	高坏	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	ヘラ記号「×」
144－32		AP15黄褐色	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を含む	良好	灰色	二方向透かし、概報16図9
144－33	90	JR17暗褐色	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ	白色の砂粒を含む	やや硬質	暗灰色	三方向透かし
144－34		DI42バラス	須恵器	高坏	(20.4)	－	－	ナデ、回転ヘラケズリ	2～5㎜大の白色礫を含む	良好	灰～暗灰色	
144－35		AR-AT21～23黒色土	須恵器	高坏	－	(15.4)	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	やや不良	外面：灰白色 内面：橙色	
144－36	88	CL14黒色土	須恵器	高坏	－	(13.5)	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	不良	淡灰色	
145－1	89	CH12灰褐色	須恵器	提瓶	－	－	－	回転ナデ、カキ目、沈線、刺突文	1㎜前後の砂粒を含む	良好	灰～暗灰色	
145－2	90	AR-AT21-23	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	灰白色	漆付着
145－3	89		須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	2～3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	漆付着
145－4		CH15黄褐色粘土	須恵器	壺	－	－	－	ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	やや硬質	明灰色	漆付着
145－5		AO16黄褐色土	須恵器	壺	－	(5.0)	－	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	漆付着、ヘラ記号「×」
145－6		暗褐	須恵器ヵ	壺	8.8	－	－	ナデ、ケズリ後ナデ、回転ナデ	白色の砂粒を少量含む	やや不良	黒灰～灰白色	
145－7		CL16灰褐色粘土	須恵器	瓶類	7.9		－	回転ナデ	白色の小砂粒を少量含む	硬質	暗灰色	
145－8		AP11バラス	須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ	白色の微砂粒を僅かに含む	良好	青灰色	自然釉付着、突帯
145－9	89	BP37黄褐色土R	須恵器	長頸壺	－	7.2	(19.5)	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1～2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	灰～黄灰色	自然釉付着
145－10			須恵器	長頸壺	－	(9.0)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、爪状圧痕	密、白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	
145－11		BN32Pit黒色土中R	須恵器	壺	－	(8.0)	－	回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	自然釉付着
145－12	89	A区	須恵器	長頸壺	－	8.9	－	回転ナデ	密、長石、石英を少量、砂粒をやや多く含む	良好	灰色	概報16図27
145－13		CI24灰褐色粘土	須恵器	壺	－	－	(5.7)	回転ナデ	密、0.5～1㎜の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰～暗灰色	漆付着
145－14		BP40	須恵器	長頸壺	－	－	(10.7)	回転ナデ、ナデ	微砂粒を密に含む	良好	灰黄色	漆付着
145－15	89		須恵器	長頸壺	－	－	－	回転ナデ	密、黒色砂粒、砂粒を多く、白色砂粒を少し含む	良好	暗灰色	漆付着
145－16	89		須恵器	長頸壺	10.0	－	－	回転ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	暗灰色	漆付着
145－17	89		須恵器	壺	－	－	－	回転ナデ、タタキ	精良白色砂粒を含む	良好	灰白色	漆付着
145－18		CM30バラス	須恵器	壺	－	8.2	(2.4)	回転ナデ	密	良好	灰～褐灰色	漆付着

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
145－19		AS21黒色土	須恵器	壺	－	(11.9)	－	回転ナデ、ナデ	ガラス質の微砂粒を非常に多く含む	やや不良	灰白色、一部黒灰色	
145－20		AA15黄褐色土	須恵器	壺	－	8.1	－	ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	高台内に線刻
145－21		CL14黄褐色	須恵器	長頸壺	－	(7.8)	－	回転ナデ、回転ヘラ切り	白色の砂粒を含む	やや硬質	暗灰色	
145－22	89	CJ21バラス土	須恵器	長頸壺	－	7.7	－	ナデ、ケズリ、回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	淡青灰色	
146－1	90	BM28 SD10黒落ち込み	須恵器	壺	－	(5.1)	－	回転ナデ、糸切り	白色の砂粒を含む	硬質	明灰色	
146－2	90	JM96、97バラス	須恵器	壺	－	(12.0)	(6.6)	回転ナデ、ヘラケズリ	精良	不良	淡灰黄～黄白色	転用硯
146－3	89	AN21～25 AD21～25バラスR	灰釉陶器	水瓶	－	(9.2)	－	ナデ、ケズリ後ナデ、強い回転ナデ	白色の砂粒を僅かに含む	良好	灰色	外面に黄褐色自然釉付着
146－4	91	AS18バラス	須恵器	壺	－	(4.1)	－	回転ナデ	密、細かい白色砂粒が微量混入	良好	灰色	自然釉
146－5	91	CK21バラス土	須恵器	壺ヵ	－	(7.7)	－	回転ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
146－6	91	CL14黒色土	須恵器	壺	－	3.8	(6.7)	回転ナデ	密、1㎜前後の白色砂粒をまれに含む	良好	暗褐色	概報17図63
146－7	91	CG20灰黒土	須恵器	短頸壺	(14.8)	－	3.6	回転ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	青灰色、紫色	
146－8	91	CL15灰褐色粘土	須恵器	短頸壺	(13.4)	－	3.9	回転ナデ	密、長石を少量含む	良好	灰白色	
146－9	90	JN96	須恵器	壺	(15.0)	－	－	ナデ	精良	良好	灰色	
146－10	90	CK19灰黒色粘土	須恵器	短頸壺	(14.8)	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	自然釉
146－11	90	JN94バラス	須恵器	鉢	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰黒色	自然釉
146－12	90	CM12暗褐砂SD34	須恵器	鉄鉢形土器	(15.6)	－	－	回転ナデ	1～2㎜の砂粒を含む	良好	灰色	
146－13	85	CL12暗褐砂	須恵器	鉢	18.2	11.6	12.0	回転ナデ、回転糸切り	密、長石を少量含む	良好	灰色	概報17図53
146－14		JN93バラス	須恵器	壺	(14.4)	－	－	回転ナデ、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
146－15	90	JM92バラス	須恵器	鉢ヵ	(18.0)	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗青灰色 内面：青灰色	
146－16	90	JM98バラス	須恵器	鉢	－	－	－	回転ナデ、ナデ	1～2㎜の白色砂粒石英を含む	不良	灰白色	
146－17	90		須恵器	鉢	(18.6)	－	－	回転ナデ	白色の微砂粒を少量含む	良好	暗灰色	片口
146－18	90	AT22黒色土R	須恵器	獣足	－	－	－	ナデ	密、細かい砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
146－19	90	BO36バラス	須恵器	獣足	－	－	－	ナデ	密、細かい砂粒を多く含む	良好	暗灰色	
146－20	90	BM26褐色砂	須恵器	把手	－	－	－	ナデ	㎜の砂粒を多く含む	良好	暗灰色	把手
146－21	90	JM90ヵ91灰褐色粘	須恵器	鉢ヵ	－	－	－	ナデ、指頭圧痕	㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：灰黒色 内面：灰色	把手
146－22	90	AS21黒色土	須恵器	平瓶	－	－	－	ナデ、平行タタキ後ナデ	1～2㎜大の砂粒含む	良好	灰～暗灰色	把手
146－23	91		須恵器	鉢ヵ	－	－	－	ナデ、タタキ、当て具痕	密	良好	灰～灰白色	把手
146－24	91	AB23	須恵器	鉢	－	－	－	平行タタキ後ナデ、ナデ	1㎜大の砂粒を僅かに含む		灰色	把手
146－25	91	JM93バラス	須恵器	鉢	(35.6)	－	－	平行タタキ後ナデ、同心円当て具痕	1㎝×0.8㎜の礫を含む 1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
146－26	91	JO97灰褐色粘質土	須恵器	鉢	(37.6)	－		回転ナデ、カキ目、タタキ、当て具痕	精良、白色砂粒を含む	良好	灰～灰白色	
146－27	92		須恵器	鉢	36.4	－	－	回転ナデ、タタキ後粗いカキ目	精良	良好	灰～黒灰色	把手
146－28	91	JO97バラス	須恵器	甕	(30.4)	－		回転ナデ、タタキ、ナデ、当て具痕	精良	良好	灰～青灰色	把手
146－29	91	CK14暗褐色粘土	須恵器	鉢	(33.2)	－	－	回転ナデ、タタキ、ナデ	密、白色微細粒を少し含む	良好	暗灰色	把手
146－30		CK18灰色バラス土	須恵器	鉢	(43.6)	－	－	回転ナデ、タタキ、当て具痕	密、5㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	濃灰色	把手
146－31	91	CH18黄褐色粘土	須恵器	鉢	－	－	－	ナデ当て具痕	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	外面：暗灰色 内面：灰色	把手
147－1	91	CM18灰黄褐粘土	須恵器	甕	(16.4)	－	－	回転ナデ、波状文	1～1.5㎜の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	
147－2		CI24黒色バラス土	須恵器	甕	(16.0)	－	－	回転ナデ	密、微細砂粒を含む	良好	淡灰色	
147－3	91	Q●529バラス土下	須恵器	甕	－	－	－	回転ナデ	密、長石、石灰片やや多く含む	良好	灰色	
147－4		AP23バラス	須恵器	甕	(27.4)	－	－		密、黒色微細砂粒を含む	やや不良	暗灰～灰白色	表面風化
147－5		BTヵ40黄褐色砂	須恵器	甕	(16.0)	－	－	回転ナデ、平行タタキ	密、1㎜以下の砂粒を少量含む	良好	暗灰色	
147－6	91	AM5バラス	須恵器	甕	－	－	－	格子目タタキ	精良	良好	灰色	転用硯ヵ
147－7		CJ21灰褐色粘土	須恵器	甕	－	－	－	カキ目、タタキ	密、白色砂粒を含む	良好		

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
147－8	93	BO39包含層バラス土	須恵器	甕	－	－	－	平行タタキ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰色、灰黒色	
147－9		JN97・JM96灰褐色砂	須恵器	甕	－	－	－	平行タタキ後カキ目	精良	良好		
147－10		JN97灰褐色粘質土・JM98灰褐色砂	須恵器	甕	23.0	－	－	回転ナデ、タタキ、カキ目	精良	良好	黒灰～灰色	自然釉
147－11	93	CK15暗褐土	須恵器	托	－	(6.8)	－	ナデ	1㎜以下の砂粒含む	良好	灰色	転用硯
147－12	93	CK14暗褐色土	須恵器	托	－		－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	転用硯ヵ
147－13	93	CK15灰色バラス	須恵器	托	(10.5)	(9.8)	－	回転ナデ、回転ヘラ切り	白色の小砂粒を含む	良好	灰色	転用硯
147－14	93	CL24灰黒粘土	須恵器	托	－	(13.6)	－	回転ナデ、ナデ、糸切り	精良	良好	灰色	転用硯
147－15	93	CL32バラス土	須恵器	托	－	(12.0)	－	回転ナデ、ナデ、糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	転用硯
147－16	93	BM27バラス	須恵器	托	－	－	－	回転ナデ、ヘラケズリ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	転用硯
147－17	93	BP37バラス	須恵器	托	(18.7)	(10.2)	1.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の微砂粒を多く含む	良好	灰色	
147－18	91	CK32バラス	須恵器	硯	(19.4)	－	4.4	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	獣脚
147－19	93	BP33バラス土	須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
147－20	93	AS23黄褐色粘土	須恵器	硯	(22.0)	－	－	回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
147－21	77	CK16バラス・CJ16灰色バラス	須恵器	硯	15.6	－	－	回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	方形透かし
147－22	93	AR-AT21-23黒色土	須恵器	硯	－	18.4	－	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	灰～青灰色	方形透かし
147－23	93	CM24バラス土	須恵器	硯	－	(20.6)	－	回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	方形透かし
147－24	77	CM19灰色バラス	須恵器	円面硯	(10.0)	－	－	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰色	方形透かし、墨付着
147－25	93	BH32黒色土R	須恵器	円面硯	－	14.0	－	回転ナデ	密、白色砂粒を少し含む	良好	淡灰色	方形透かし
147－26	93	CM24バラス土	須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
147－27	93		須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
147－28	93	CM16バラス	須恵器	硯	－	－	－	ヘラケズリ、回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	方形透かし
147－29	93	CL15黄褐色粘土土坑	須恵器	硯	－	(13.4)	－	回転ナデ	精良	良好	灰色	三ヶ所　透かし
147－30	77・93	CJ18灰色バラス	須恵器	風字硯	－	－	－	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
147－31	77・93	BP33バラス土	須恵器	風字硯	－	－	－	ナデ	精良	良好	灰色	
147－32	77・93	CF19黄褐色粘土	須恵器	風字硯	－	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
147－33	77	CH20灰黒土	須恵器	風字硯	－	－	－		白色砂粒を含む	良好	青灰～灰色	刻書「口」
147－34	93	CK20灰黒色粘土	須恵器	硯	－	－	－	回転糸切り、回転ナデ、ナデ	密	良好	明灰白色	
147－35	93	AQ21バラス	須恵器	硯	－	－	－	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	
148－1	93	BL30黒色土内R	須恵器	硯	－	－	－		精良	良好	灰色	甕片
148－2	93	AB15灰褐砂	須恵器	硯	(11.8)	(7.6)	2.2	糸切り、回転ナデ	精良	やや不良	暗灰褐色	
148－3		AI15灰色砂	須恵器	蓋	13.9	－	2.2	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	やや密、1㎜以下の砂粒・白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	転用硯、内面墨付着
148－4	93		須恵器	蓋	9.0	－	－	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰黄色	転用硯、内面墨付着
148－5	94	JM98バラス灰褐色砂	須恵器	蓋	(16.6)	－	2.8	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰白色	転用硯、内面墨付着
148－6	93	JM94灰褐色粘質土	須恵器	蓋	16.4	－	2.3	回転ナデ、ナデ	密、白色砂粒を含む	良好	灰色	転用硯、内面墨付着
148－7	93	AQ19	須恵器	蓋	(16.6)	－	－	糸切り後ヘラケズリ、回転ナデ	密、1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	転用硯、内面墨付着
148－8	93	AL15灰色砂	須恵器	高台付皿	(16.6)	(10.4)	2.8	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	暗灰色	転用硯、内外墨付着
148－9	77		須恵器	坏	－	10.2	1.8	回転ナデ、ナデ消し、ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	転用硯、内外墨付着
148－10	94	CK19灰褐粘土	須恵器	壺	12.2	－	－	回転ナデ、ナデ	2～3㎜の砂粒を僅かに含む	良好	暗灰色	転用硯、内外墨付着
148－11	93	BA40耕作土R	土師器	蓋	－	－	－	回転ナデ、ナデ	精良	良好	黄橙色	
148－12	92	BM40砂	土師器	坏	15.8	10.0	5.5	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ、糸切り	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	全面　赤彩　概報18図17
148－13	93	不明	土師器	坏	(15.0)	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	橙色	内面　漆付着
148－14	94	CL14黒色土	土師器	坏	－	(8.1)	－	回転ナデ、ケズリ、ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	橙色	内面　赤彩

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
148－15	94	CJ18灰色バラス土	須恵器	高台付坏	(11.8)	7.8	4.3	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の微砂粒を少量含む	良好	赤橙色	
148－16	94		須恵器	高台付坏	－	(10.7)	－	ナデヵ	白色の砂粒を含む	良好	橙色	
148－17	94	CL14黒色土	須恵器	皿	(15.4)	(10.6)	3.0	ヨコナデ、ナデ、回転糸切り	密、微細砂粒を含む	不良	暗橙褐色	転用硯
148－18	94	JQ97バラス	土師器	坏	－	－	－	ナデ	密	やや不良	淡白橙色	内面　漆付着
148－19	94	AR-AT 21-23黒色土	土師器	皿	18.2	－	－	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好		全面　赤彩
148－20	94	AR-AT 21-23黒色土	土師器	皿	(23.9)	(22.5)	－	ミガキ、ケズリ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	橙色	全面　赤彩
148－21	94	AR-AT 21-23黒色土	土師器	皿	(16.6)	(12.3)	2.5	回転ナデ、ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	明茶白色	全面　赤彩
148－22	94	BN31黄褐土	土師器	皿	(23.9)	(17.5)	－	回転ナデ、ナデ、ケズリ	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	黄白色	全面　赤彩
148－23	94	BN32黄褐色土	土師器	皿	(20.4)	－	－	回転ナデ	白色の微砂粒を含む	良好	明黄灰色	全面　赤彩
148－24	94	BN32黄褐色土	土師器	皿	(18.5)	－	－	回転ナデ、ミガキヵ	砂粒をほとんど含まない	良好	黄白色	全面　赤彩
148－25	94	BN32黄褐色土	土師器	皿	(14.0)	－	－	回転ナデ、ミガキヵ	白色の砂粒を僅かに含む	良好	黄白色	全面　赤彩
148－26	94	CG20ヵ灰黒土	土師器	皿	(17.8)	(15.6)	－	ナデ、回転ナデ	白色の砂粒を含む	良好	黄白色	全面　赤彩
148－27	94	BA41耕作土R	須恵器	皿	－	10.6	－	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	精良	やや不良	白灰色	
148－28	94	CJ21ヵ褐色砂質土	土師器	高台付皿	－	(11.0)	－	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	良好	明茶白色	全面　赤彩
148－29	94	CI31バラス土	土師器	高台付皿	(21.2)	(13.0)	3.3	回転ナデ	ガラス質の小砂粒を含む	良好	淡桃白色	
148－30	94		土師器	高坏	－	(12.5)	－	ヨコナデ、ケズリ	1㎜程度の白色の砂粒を多く含む	良好	明黄白色	
148－31	94	暗褐	土師器	高坏	(26.0)	－	－		やや密、3㎜程度の石と細かな砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	外面　暗文
148－32	94	JS18暗褐色	土師器	高坏	－	(8.2)	－	タテ方向のハケ、ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰褐色、淡灰色	
148－33	95	暗褐	土師器	高坏	(16.0)	－	－	ヨコナデ、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	明黄白色	
148－34	95	AR11バラス	土師器	高坏	－	8.2	－	ナデ	白色の砂粒を含む	良好	淡白茶色	
148－35	94	CL18灰色バラス	土師器	高坏	－	(14.7)	－	不明	密、1～2㎜の白色砂粒が少量混入	不良	浅黄橙色	
148－36	94	CK15灰色バラス土	土師器	高坏	－	－	－	風化	精良	良好	淡褐色	赤彩
148－37	95	BP37灰褐色土R	土師器	高坏	(23.0)	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	密、微細砂粒を含む	やや不良	白褐～淡黄褐色	
148－38	95		土師器	壺	(4.4)	－	－	ヨコナデ、ナデ、ハケ目	やや粗、1㎜程度の砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
148－39	94		土師器	壺	8.1	－	8.1	ナデ、ハケ目	密、石英・雲母ヵが少量混入	やや不良	にぶい橙色	
148－40	95		土師器	坏ヵ	(13.8)	－	－	ナデ、ケズリ後ナデ	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	明褐色	全面　赤彩
148－41	92・95	不明	土師器	鉢	(18.6)	－	(8.8)	ミガキ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	赤褐色	全面　赤彩
148－42	92・95	JR18暗褐色	土師器	小形鉢	11.8～12.2	－	5.0	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	淡黄橙	全面　赤彩
149－1	95	CI14黄褐色土	土師器	鉢	(14.4)	－	10.6	ハケ目、粗いナデ	赤色、白色の砂粒を少量含む	良好	明橙色	外面　下半分　黒変
149－2	95	BP37灰褐色土R	土師器	鉢	(31.7)	－	－	ヨコナデ、ハケ目	密、白色砂粒を僅かに含む	良好	淡黄褐色	把手付
149－3	92	BP37灰褐土	土師器	鉢	－	－	－	回転ナデ、ナデ、ケズリ	精良	良好	にぶい黄橙色	把手付 概報18図7
149－4	92	BO38	土師器	鉢	(31.4)	－	－	ヘラケズリ、ハケ目	密、3㎜以下の砂粒を僅かに、白色砂粒を少し含む	良好	乳褐色	把手付
149－5	92	B南北溝	土師器	鉢	38.8	－	－	回転ナデ、ナデ	精良、微砂粒を含む	良好	にぶい淡橙色	外面下部　煤付着 把手付
149－6	95	CT21褐色砂質土	土師器	鉢ヵ	－	－	－	ナデ	灰色・赤色の砂粒を含む	酸化炎で硬質に焼成される	桃色	把手
149－7	95	AQ11バラス	土師器	鉢ヵ壺	－	－	－	ヘラケズリ	粗、2㎜程度の砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
149－8	95	AM7バラス	土師器	鉢ヵ壺	－	－	－	不明、ヘラケズリ	粗、1～3㎜程度の砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
149－9	95	AQ22黄褐土	土師器	小型壺	－	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、指圧痕	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黒～淡黄褐色	概報21図1
149－10	95		土師器	甕	(18.0)	－	－	ヨコナデ、櫛描平行文、ケズリ	白色の小砂粒を含む	良好	明橙色	
149－11	96		土師器	甕	(14.2)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ケズリ	白色の小砂粒を多く含む	良好	明褐色	外面下半分　黒変
149－12	95	CF17黄褐色粘	土師器	甕	13.8	－	－	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	白色の砂粒を含む	良好	淡褐色	外面　煤付着
149－13	96	暗褐	土師器	甕	(21.0)	－	－	ハケ目、ヨコナデ、ケズリ	白色の砂粒を含む	良好	明褐色	外面　煤付着

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
149－14	96		土師器	甕	(13.8)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ケズリ	白色の砂粒を多く含む	良好	明橙白色	
149－15	95	AS25黄褐色粘土	土師器	甕	－	－	－	ハケ目、ナデ	やや密、微細砂粒を多く含む	良好	淡橙褐～淡褐色	底部穿孔
149－16	96		土師器	甕	13.5	－	－	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	良好	橙褐色	
149－17	95		土師器	甕	(13.0)	－	－	ヨコナデ	白色の微砂粒を含む	良好	灰褐色	
149－18	96		土師器	甕	(14.2)	－	－	ヨコナデ、ケズリ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	明桃褐色	
149－19	96	CF15黄褐色粘	土師器	甕	(20.6)	－	－	ヨコナデ、ケズリ	白色の小砂粒を非常に多く含む	良好	白色	
149－20	96	C131バラス土	土師器	甕	(23.3)	－	－	ヨコナデ、ハケ目、ケズリ	白色の小砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
149－21	96	C124灰褐色土	土師器	甕	(13.5)	－	－	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ			淡褐色	
150－1	98	CL14黒色土	土師器	甕	(31.0)	－	－	ハケ、ナデ、ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	褐色	
150－2		BP37灰褐土	土師器	甕	16.3	－	15.2	ハケ目ケズリ	密、1㎜以下の砂粒が多量、石英が少量混入	良好	にぶい黄橙色	変色部　暗灰、概報18図21
150－3	98	BL29、30バラス	土師器	坏	(14.4)	6.8	5.3	回転ナデ、風化著しい	やや密、3㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	淡橙白色	
150－4	96	AR14黒色粘土	土師器	坏	(14.1)	6.3	4.6	回転ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を僅かに含む	やや不良	明桃色	軟質
150－5			土師器	坏	(15.1)	(5.8)	4.5	回転ナデ、回転糸切り、	白色の小砂粒をやや多く含む	良好	明淡褐色	
150－6		AR、AT21-23黒色土	土師器	坏	－	－	5.4	回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	淡白色	内面一部　黒変
150－7		JN92バラス	土師器	坏	－	(6.2)	－	回転ナデ、静止糸切り後ナデ	密、キラキラした細かい砂粒が少量混入	やや不良	浅黄橙色	やや軟質
150－8		AB17黄褐色粘土	土師器	坏	(12.4)	(6.0)	4.4	回転ナデ、板状圧痕	小砂粒を含む	良好	淡橙色	歪み大
150－9		バラス	土師器	坏	(12.3)	5.9	4.8	回転ナデ、回転糸切り	赤色、白色の砂粒を多く含む	やや不良	明桃色	やや軟質
150－10			土師器	坏	(12.0)	(7.2)	3.9	回転ナデ、糸切り	白色の小砂粒を含む	やや不良	淡桃色	やや軟質 灯明皿に使用
150－11		AR25灰色粘土	土師器	坏	(11.7)	(7.2)	3.7	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	明橙白色	
150－12	96		土師器	坏	11.0	6.2	3.8	回転糸切り	2㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	淡橙白色	灯明皿型
150－13			土師器	坏	10.4	3.6	5.0	回転ナデ、回転糸切り	砂粒をあまり含まない	やや不良	明白茶色	やや軟質 歪みあり
150－14		OP12黒灰色粘質土	土師器	坏	(9.0)	5.5	3.1	回転ナデ、回転糸切り	灰色の砂粒をやや多く含む	やや不良	明桃白色	やや軟質
150－15		A011バラス	土師器	坏	(10.6)	(5.0)	3.1	回転ナデ、回転糸切り	赤色、白色の砂粒を少量含む	良好	明桃白色	
150－16		褐色土	土師器	坏	－	(5.0)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデヵ	密、砂粒を僅かに含む	良好	淡橙褐色	ゆがみ
150－17	96	AR14黒灰色粘土	土師器	皿	(11.8)	4.5	3.1	回転ナデ、回転糸切り	砂粒をほとんど含まない	やや不良	淡橙色	やや軟質
150－18	96	BS32黒褐土	土師器	皿	9.8	4.2	2.6	回転ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	赤褐色	
150－19	96		土師器	坏	(10.1)	(6.6)	2.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を含む	良好	明橙色	
150－20		AB10黄褐土	土師器	皿	7.4	5.7	1.5～1.8	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	赤色、白色の小砂粒を含む	やや不良	明桃色	やや軟質 歪み大
150－21		A020バラス	土師器	皿	(8.2)	4.9	1.8	回転ナデ、ナデ	やや密、砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
150－22		JN92バラス	土師器	皿	(8.1)	(4.0)	1.7	回転ナデ、回転糸切り	密、白色砂粒を僅かに含む	やや不良	淡白褐色	
150－23	96	BL29、30バラス	土師器	皿	8.6	4.5	2.3	回転ナデ、回転糸切り	砂粒を含まない	良好	明白茶色	
150－24	96	AT20バラス	土師器	皿	8.2～7.7	4.7～4.0	2.2～1.7	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の砂粒を含む	やや不良	桃白色	やや軟質 歪み大
150－25		JR15黒褐色土	土師器	皿	(8.8)	4.1	1.8	回転糸切り	精良	良好	明肌色	灯明皿型
150－26		バラス	土師器	皿	(7.8)	(3.0)	1.6	回転糸切りヵ	密、2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡橙色	
150－27		AR灰色粘土	土師器	皿	(8.4)	(5.0)	1.6	回転ナデ、回転糸切りヵ	密、微細砂粒・雲母ヵ多く含む	良好	淡褐色	
150－28		AM05バラス土	土師器	皿	(8.8)	(5.0)	2.1	回転ナデ、回転糸切りヵ	白色の小砂粒を少量含む	やや不良	橙色	やや軟質
150－29		褐色土	土師器	皿	(9.3)	4.5	1.9	回転ナデ、回転糸切り	密、黒色砂粒を少し含む	良好	淡橙褐色	
150－30		JN94バラス	土師器	皿	(10.0)	(5.6)	1.8	回転ナデ、回転糸切り	ガラス質の微砂粒を含む	やや不良	明白茶～橙色	やや軟質
150－31			土師器	皿	(9.0)	(4.2)	1.7	回転ナデ、回転糸切り	白色の微砂粒を少量含む	良好	桃白色	
150－32			土師器	皿	(8.9)	(4.5)	1.7	回転ナデ、回転糸切り	白色の小砂粒を僅かに含む	良好	淡灰色	
150－33		JN92バラス	土師器	皿	(8.6)	(5.0)	1.7	回転ナデ、回転糸切り後ナデ	密、ガラス質の微砂粒が多量混入	やや不良	褐灰色、にぶい黄色	
150－34		JN95バラス	土師器	皿	8.5	4.0	2.0	風化著しい	1㎜以下の砂粒を多量に含む	良好	淡橙白色	

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
150－35	96	AN～AO23～24灰褐色粘土	土師器	Ⅲ	9.2	3.4	2.8	回転糸切り	密、極小の白色砂粒を僅かに含む	良好	橙色	
150－36			土師器	Ⅲ	(8.6)	4.2	2.3	回転ナデ、回転糸切り	灰色の小砂粒を含む	良好	淡白色	
150－37	96		土師器	Ⅲ	9.3	4.7	2.2	風化著しい	やや密、1㎜程度の砂粒を含む	良好	乳褐色	
150－38	96	AZ	土師質Ⅲ	Ⅲ	9.9	4.9	1.8	回転ナデ、回転糸切り	1㎜前後の砂粒、雲母を含む	良好	にぶい黄褐色	
150－39		AR-AT21-23黒色土	土師器	Ⅲ	(8.6)	(4.5)	2.0	回転ナデ、回転糸切り	赤色の小砂粒を多く含む	良好	明桃色	
150－40		M92バラス	土師器	Ⅲ	(7.4)	(3.0)	1.8	回転ナデ、回転糸切り	白色・赤色の砂粒を僅かに含む	やや不良	明白茶色	軟質
150－41	97	JN93バラス.	土師器	高台付坏	(14.8)	－	－	回転ナデ、ナデ	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	
150－42		AN12バラス	土師器	高台付坏	－	11.0	－	風化著しい	密、微細砂粒を含む	やや不良	乳褐色	
150－43			土師質土器	高台付坏	(11.2)	(7.4)	5.8	回転ナデ	3㎜大の礫と1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	
150－44	97	AA24	土師器	高台付坏(碗)	－	8.0	－	回転ナデ、ナデ	やや密、1㎜程度の白色砂粒・透明な砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
150－45	97	黒褐色	土師器	高台付碗	－	11.0	－	ナデ	白色の小砂粒を含む	軟質	明橙色	
150－46		AN11灰黒色粘土	土師器	高台付Ⅲ	－	－	－	回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	やや不良	明桃色	やや軟質
150－47		23灰色粘土	土師器	高台付坏	－	(9.0)	－	回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	やや不良	肌色	
150－48		AP21バラス	土師器	高台付坏	－	(10.6)	(4.3)	風化著しい	精良	やや不良	橙色	
150－49		BO26バラス	土師器	高台付坏	－	7.4	－	風化著しい	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
150－50		●P12黒灰色粘質土	土師器	高台付Ⅲ	－	(7.4)	－	回転ナデ、糸切り	密	良好	乳白～淡灰褐色	
150－51		バラス	土師器	高台付坏	－	(7.0)	(3.2)	回転ナデ	1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡褐色	
150－52			土師器	高台付Ⅲ	－	(6.6)	－	回転ナデ、ナデ	赤色・白色の砂粒を少量含む	やや不良	明桃色	やや軟質
150－53			土師器	高台付Ⅲ	－	6.7	－	回転ナデ、ナデ	やや密、3㎜以下の白色砂粒を含む	良好	白褐色	
150－54		AN11灰黒色粘土	土師器	高台付Ⅲ	－	(6.2)	－	回転ナデ、ナデ	緻密、白色微細砂粒を少し含む	やや不良	淡黄褐色	
150－55		BM27バラス	土師器	高台付坏	－	(7.8)	(2.8)	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒を含む	良好	にぶい橙色	
150－56		●P12黒灰色粘質土	土師器	高台付坏	－	(5.7)	－	風化著しい	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
150－57		●P12黒灰色粘質土	土師器	高台付坏	－	5.5	－	ナデ	精良	良好	肌色	
150－58	97	AA24	土師器	高台付Ⅲ	11.5	7.0	3.2	回転ヘラケズリ後回転ナデ	密、細かな砂粒を多く含む	良好	淡橙褐色	
150－59	97	BN32黒色土	土師器	高台付Ⅲ	8.7	5.6	3.0	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡赤褐色	高台端部5ヶ所指頭圧痕、花弁状
150－60	97	AR14黒灰色粘土	土師器	高台付Ⅲ	9.5	5.6	2.8	回転ナデ、ナデ	密、微細砂粒を含む	良好	淡褐色	
150－61		AM17バラス	土師器	高台付Ⅲ	(8.0)	(5.0)	(3.0)	風化著しい	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	淡黄白色	
150－62	97		土師器	高台付Ⅲ	(8.5)	5.2	2.6	回転ナデ	密	良好	淡橙褐色	
150－63		黒褐色	土師器	高台付Ⅲ	－	5.9	－	回転ナデ、ナデ	密、微細砂粒を含む	良好	橙褐色	
150－64			土師器	高台付Ⅲ	－	6.4	－	回転ナデ	密、白色砂粒を含む	良好	橙褐色	
150－65		AM06バラス	土師器	高台付Ⅲ	－	5.8	－	回転ナデ、ナデ	灰色の砂粒を含む	やや不良	明桃色	やや軟質
150－66		BL27黒色バラス土	土師器	高台付Ⅲ	－	5.8	－	回転ナデ、磨滅	白色の砂粒を含む	やや不良	明灰白色	軟質
150－67		AQ22バラス	土師器	高台付Ⅲ	－	5.0	－	回転ナデ、磨滅	ガラス質の砂粒をやや多く含む	良好	明茶白色	
150－68		AL11黒灰色粘土	土師器	高台付Ⅲ	－	6.1	－	回転ナデ、ナデ	密、金雲母片ヵ微細砂粒を少し含む	良好	白褐色	
150－69		AK13黒灰色粘土	土師器	高台付坏	－	5.5	－	風化著しい	2㎜大の砂粒を含む	やや不良	淡褐色	
150－70		CJ18灰色バラス土	土師器	高台付Ⅲ	－	5.4	－	回転ナデ	白色の砂粒を少量含む	やや不良	桃色	軟質
150－71			土師器	高台付Ⅲ	－	5.9	－	回転ナデ、不明、紐状圧痕	白色の小砂粒を含む	やや不良	明桃色	軟質
150－72	97	AL12	土師器	柱状高台付Ⅲ	(7.8)	4.5	3.0	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
150－73	97		土師器	柱状高台付Ⅲ	－	(7.7)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の砂粒を含む	良好	明黄灰色	
150－74		AM10床土下	土師器	柱状高台付Ⅲ	－	6.8	－	回転ナデ、回転糸切り	やや密、微細砂粒を多く含む	良好	乳白色	
150－75	97	CI14黄褐色粘土	土師器	柱状高台付Ⅲ	－	6.9	－	工具による回転ナデ、回転糸切り、ナデ	白色の小砂粒を僅かに含む	やや不良	淡黄白色	やや軟質

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
151－1			土師器	柱状高台付皿	－	(7.2)	－	ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を含む	不良	明白茶色	
151－2	97	AM8床土下	土師器	柱状高台付皿	－	6.4	－	ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を多く含む	やや不良	淡白色	
151－3		AM8床土下	土師器	柱状高台付皿	－	(7.6)	－	回転ナデ、回転糸切り	ガラス質の砂粒をやや多く含む	やや軟質	桃白色	
151－4	97	AM14パラス	土師器	柱状高台付皿	7.9	4.4	3.5	回転ナデ、回転糸切り	赤色、白色の微砂粒を含む	良好	明白桃色	
151－5	97	JN95パラス	土師器	柱状高台付皿	－	4.9	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	赤色の砂粒を含む	やや不良	明白桃色	
151－6	97	DI41パラス	土師器	柱状高台付皿	(8.0)	5.9	4.3	ナデヵ、回転糸切りヵ	2～3㎜大の礫を含む	良好	肌色	
151－7	97	BN32 Pit上黒色土中R	土師器	柱状高台付皿	(7.6)	4.3	(3.1)	回転ナデ、回転糸切り	密、微細砂粒を少し含む	良好	乳白色	
151－8	97	AM13床土下	土師器	柱状高台付皿	(7.9)	5.8	2.8	回転ナデ、回転糸切り	灰色の砂粒を含む	やや不良	淡白色	
151－9	97	AR－AT21～23黒色土	土師器	柱状高台付皿	－	6.5	－	回転ナデ、糸切り後ナデ	やや粗、3㎜以下の砂粒を含む	良好	淡橙白色	
151－10	97	AM13床土下	土師器	柱状高台付皿	(8.5)	13.6	3.4	回転ナデ、回転糸切り	密、細かな砂粒を多く含む	良好	淡白褐色	
151－11	97	AM07床土下	土師器	柱状高台付皿	(7.9)	4.1	2.5	回転ナデ、回転糸切り後ナデ、ナデ	やや密、砂粒を多く含む	良好	淡褐色	
151－12	97	JN93灰褐色粘質土	土師器	柱状高台付皿	－	4.0	－	回転ナデ、回転糸切り	緻密、微細砂粒を少し含む	やや不良	乳褐色	
151－13	97	AM06	土師器	柱状高台付皿	(8.4)	4.9	3.2	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、黒色砂粒を少し含む	良好	淡白褐色	
151－14	97	AN19	土師器	柱状高台付皿	－	5.4	－	風化著しい	白色の微砂粒を僅かに含む	軟質	淡白色	
151－15	97		土師器	柱状高台付皿	(12.5)	4.9	2.4	回転ナデ、回転糸切り	精良	良好	肌色	
151－16	97	AM06	土師器	柱状高台付坏	－	5.0	－	回転ナデ、回転糸切り	密	良好	乳白色	
151－17	97	AP21－25パラス	土師器	柱状高台付皿	－	5.0	－	ナデ、回転糸切り	精良	良好	肌色	底部から刺突
151－18	97	AM03床土下	土師器	柱状高台付皿	－	(5.0)	－	ナデ	白色の小砂粒を含む	やや不良	桃白色	
151－19	97	AP13パラス	土師器	柱状高台付皿	7.6	4.0	3.0	回転ナデ後ナデ、回転糸切り	やや密、1㎜程度の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	煤付着
151－20	97		土師器	柱状高台付皿	(11.0)	5.3	3.2	風化著しい	2～3㎜大の礫を含む	良好	肌色	
151－21	97	AN20パラス	土師器	柱状高台付皿	－	(6.9)	－	ナデ、回転糸切り	白色の砂粒を含む	やや軟質	明白茶色	
151－22	98	AT19パラス	製塩土器	製塩土器	(12.2)	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	濃い肌色	
151－23	98	CL14黒色土	製塩土器	製塩土器	(13.4)	－	－	指頭圧痕、ナデ	やや粗、1㎜大の砂粒を多く含む	良好	暗橙褐色	
151－24	98	CL15黒色粘土　埋土	製塩土器	製塩土器	(10.6)	－	－	指頭圧痕	やや粗、微細砂粒を多く含む	やや不良	淡橙褐色	
151－25	98	AA19パラス	製塩土器	製塩土器	(7.6)	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	明肌色	
151－26	98	AC24暗褐色土	製塩土器	製塩土器	(11.2)	－	－	ナデ	密、微細砂粒を含む	不良	乳褐～淡橙褐色	
151－27	98	AC24、25耕作土R	製塩土器	製塩土器	(13.7)	－	－	指頭圧痕、ナデ	精良	良好	肌色	
151－28	98	CL14黒色土	製塩土器	製塩土器	(16.0)	－	－	ナデ	やや粗、0.5㎜大の砂粒を多く含む	やや不良	淡褐～橙褐色	
151－29	98		製塩土器	製塩土器	(10.0)	－	－	ナデ	密	やや不良	淡橙褐色	
151－30	98	CJ21黄褐色粘土	製塩土器	製塩土器	(12.0)	－	－	指頭圧痕、ナデ	やや密、白色微細粒を含む	良好	明橙褐色	
151－31	98	AN04パラス	土製品	羽口				ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	しぶい黄色	孔径：2.9cm 外径：6.3cm
151－32	98	CK18灰褐色粘土	土製品	羽口				ナデ	砂粒を密に含む	良好	淡黄白色	残存長：12.0cm 幅：6.7cm 内径：3.2～3.3cm
151－33	98	AN06パラスR	土製品	坩堝	(20.4)	－	－	ナデ	1～3㎜の砂粒を含む	良好	黄灰色	
151－34	98	不明	土製品	坩堝	－	5.4	－	ナデ	1㎜前後の白色の砂粒を非常に多く含む		暗褐～黄褐色、体部赤変	
151－35	98	CJ21黄褐色砂質土	土製品	坩堝	－	－	－	ナデ	ガラス質の微砂粒を多く含む		内面：褐～黒褐色 断面：赤～黄褐色	外面にはひび割れ
151－36	98	CM24灰黒粘土	土師器	取瓶	－	－	－	ナデ	0.5㎜前後の砂粒を含む	良好	淡褐～灰色	
151－37	98	CM24灰黒粘土	土師器	甑ヵ	－	－	－	ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	肌色	
151－38	98	CL15灰色パラス土	土師器	甑ヵ	－	－	(15.0)	ナデ、ヘラケズリ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	灰褐色	煤付着
151－39	101	灰褐色砂	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	微砂粒を多く含む	良好	灰～淡橙色	全長：9.6cm 幅：4.5cm 孔径：1.4cm 重量：181.65g、A類
151－40	101	CJ19灰色パラス	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	1㎜の砂粒を密、に含む	良好	黄灰色	全長：7.3cm 幅：2.6cm 孔径：1.1cm 重量：45.5g、A類

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
151－41	101	AB24灰褐色粘土	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	微砂粒、1㎜の砂粒を多く含む	良好	淡橙色	全長：6.5cm 幅：2.6cm 孔径：0.8cm 重量：42.55ｇ、 Ｂ類
151－42	101	BO35バラス	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	微細粒を含む	良好	淡橙色	全長：5.7cm 幅：2.3cm 孔径：0.6cm 重量：25.65ｇ、 Ｂ類
151－43	101	JN93灰褐粘土層	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、黒色のガラス質の砂粒を多く含む	良好	淡黄色	全長：6.9cm 幅：1.0～1.8cm 孔径：0.5cm 重量：25.38ｇ、 Ｂ類
151－44	101	AS21黒色土	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	1～3㎜の砂粒を含む	良好	淡橙色	全長：4.6cm 幅：2.5cm 孔径：0.8cm 重量：28.87ｇ、 Ｂ類
151－45	101	JN94バラスR	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、黒色のガラス質の微砂粒を多く含む	良好	にぶい灰黄～にぶい黄色	全長：4.5～4.7cm 幅1.4～2.0cm 孔径：0.65cm 重量：19.08ｇ、 Ｂ類
151－46	101	JN93灰褐粘土層	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、黒色のガラス質の微砂粒を含む	良好	にぶい灰黄～にぶい灰色	全長：4.4cm 幅：1.7cm 孔径：0.7～0.8cm 重量：16.34ｇ、 Ｂ類
151－47	101	CL14バラス	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	白色の微砂粒を多く含む	良好	灰黄色	全長：4.6cm 幅：1.0～1.8cm 孔径：0.4～0.6cm 重量：14.10ｇ、 Ｂ類
151－48	101	CJ21黄褐色粘土	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	ガラス質、白色の微砂粒を多く含む	良好	灰～黒灰色	全長：4.7cm 幅：0.8～1.4cm 孔径：0.35～0.4cm 重量：9.92ｇ、Ｂ類
151－49	101	JN92バラスR	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、雲母を含む	良好	にぶい黄白色	全長：5.6cm 幅：1.4～1.8cm 孔径：0.7cm 重量：16.03ｇ、 Ｂ類
151－50	101	BM26褐色砂	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	黒色、ガラス質、白色の微砂粒を含む	良好	にぶい白灰色	全長：4.7cm 幅：0.7～1.3cm 孔径：0.35～0.4cm 重量：8.45ｇ、Ｂ類
151－51	101	AO16黄褐土	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、微砂粒を含む	良好	橙色、淡白黄色	全長：4.4cm 幅：0.6～1.6cm 孔径：0.6cm 重量：9.13ｇ、Ｃ類
151－52	101	JM96灰褐砂	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	黒色の微砂粒、ガラス質の微砂粒を含む	良好	赤彩、橙～黄橙色、淡白色	全長：4.0cm 幅：0.5～1.4cm 孔径：0.3cm 重量：8.03ｇ、Ｃ類
151－53	101	AR20バラス土R	土製品	土錘	－	－	－	ナデ	密、ガラス質の砂粒を多く含む	良好	赤彩、橙色、淡白色	全長：4.2cm 幅：0.6～1.4cm 孔径：0.3cm 重量：7.85ｇ、Ｃ類
152－1	92		黒色土器	碗	13.3	6.2	5.3	内面のみ黒色化処理、荒いミガキあり	赤色、白色の砂粒を含む	良好	外面：桃色	内黒
152－2	98	AA19黄褐色土	黒色土器	碗	(15.4)	－	－	ナデ、ヘラミガキ、黒化処理	3㎜大の礫を含む		明橙色	内黒
152－3	98	CK18耕土	緑釉陶器	碗	－	(8.4)	－	貼付け高台	密	良好	淡緑色	京都（洛北）
152－4	98	DI41バラス	緑釉陶器	碗	－	(8.7)	－	ナデ	密、須恵質微少の空間がある	良好	淡緑色	猿投９Ｃ中
152－5	98	AQ11バラス	緑釉陶器	碗	－	(9.2)	－	ナデ	密	良好	淡緑色	東海９Ｃ～10Ｃ初
152－6	98	AM18バラス	緑釉陶器	碗ヵ	－	(6.6)	－	糸切り後えぐり、回転ナデ、蛇の目高台	密、須恵質	良好	淡緑色、青灰色	京都９Ｃ後
152－7	98	JN93灰褐粘土	緑釉陶器	碗ヵ	－	(8.0)	－	ナデ	白色で、やや軟質	良好	淡緑色	京都
152－8	62	AP24黒バラス	緑釉陶器	碗ヵ	－	6.2	－	回転ナデ	精良土師質（軟質）	良好	緑色	近江
152－9	98	不明	緑釉陶器	碗ヵ	－	6.4	－	回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ	密、1㎜大の砂粒を僅かに含む	良好	淡黄灰色、淡緑色	近江
152－10	98	AD24灰色粘土	緑釉陶器	碗ヵ	－	6.4	－	ナデ、糸切り	軟質、灰白色～黄白色のきめ細かい土	良好	淡緑色	近江
152－11	62	BO33黄褐土	緑釉陶器	碗ヵ	－	7.6	－	ナデ	密、微少の白色砂粒を多く含む	良好	灰色、濃緑色	近江
152－12	98	AS24灰褐粘土	緑釉陶器	碗ヵ	－	－	－	回転ナデ	密	良好	赤褐色、濃緑色	近江
152－13	98	CJ39バラス	緑釉陶器	碗ヵ	(8.3)	－	－	回転ナデ	密	やや軟質	灰色、濃緑色	近江
152－14	98	AA23灰色粘土、AA24バラス	緑釉陶器	碗	16.6	8.4	6.4	回転ナデ、ナデ、糸切り	密、灰色	良好	濃緑色	近江
152－15	62	AQ22バラス土	緑釉陶器	碗	－	(7.6)	－	回転ナデ、糸切り	精良	良好	淡赤褐色、濃緑色	近江
152－16	98	AA22灰色粘土	緑釉陶器	碗	－	－	－		密	やや軟質	濃緑色	近江
152－17	98	AB17バラス、AQ22バラス	緑釉陶器	碗	－	－	－	回転ナデ、回転糸切り	密	不良	肌色、濃緑色	近江
152－18	98	AD24灰色粘土	緑釉陶器	碗	－	(8.6)	－	回転ナデ	密	良好	淡灰～淡橙褐色、暗緑色	近江
152－19	98	不明	緑釉陶器	碗	－	(6.8)			密、1㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	黄褐色	洛西、９Ｃ後半
152－20	98	AQ22バラス土	緑釉陶器	碗ヵ	－	－	－	回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	緑色、青灰色	近江ヵ、10Ｃ

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
152－21	98	AC12バラス	緑釉陶器	壺	－	－	－	回転ナデ	精良	良好	淡灰白色、薄緑色	
152－22	99	AR11バラス	灰釉陶器	Ⅲヵ	－	(7.0)	－	回転ナデ、ナデ	精良	良好	灰白色、くすんだ緑色	
152－23	99	J096バラス	灰釉陶器	Ⅲ	－	6.9	－	回転ナデ	砂粒を含まない		白色、淡緑色	東濃ヵ
152－24	99	CM12暗褐砂	灰釉陶器	蓋	－	－	－	回転ナデ	密	良好	青灰色、淡緑色	短頸壺の蓋
152－25	99	CK20灰黒色粘土	灰釉陶器	短頸壺	10.0	－	－	回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色、くすんだ緑色	
152－26	99	CM19灰色バラス	灰釉陶器	壺	－	－	(12.0)	回転ナデ、ナデ、ケズリ	2㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	
152－27	99	AL13床土下	青磁	碗	(18.0)	－	－		密	良好	暗緑褐色	越州窯系ⅠorⅡ類
152－28	99	AP11バラス	青磁	碗	(10.2)	－	－		精良	良好	茶黄色	越州窯系ⅠorⅡ類
152－29	99	AR21黒色土	青磁	碗	－	6.8	－		精良	良好	緑灰色	越州窯系Ⅰor2b類
152－30	99	CJ18黄褐色粘土	青磁	碗	－	(7.2)	－	ヘラケズリ	精良	良好	灰色、暗緑色	越州窯系Ⅰ類
152－31	99	バラス	青磁	碗ヵⅢ	－	(6.0)	－	施釉	緻密	良好	灰色、オリーブ色	越州窯系ⅠorⅡ類
152－32	99	AN25バラス土	青磁	碗	－	－	－	口縁は花形	精良	良好	淡緑灰色	越州窯系ⅠorⅡ類
152－33	99	CI32バラス土	青磁	壺	－	(8.8)	－	回転ナデ	緻密、2㎜以下の砂粒を僅かに含む	良好	淡灰～淡黄灰色、暗黄緑色	越州窯系
152－34	99	BD33バラス	青磁	Ⅲ	－	－	－	施釉	緻密		黄緑色	同安窯系Ⅰ－2類
152－35	99	JN94バラス	青磁	Ⅲ	－	8.0	－	施釉	緻密	良好	灰色、オリーブ色	同安窯系Ⅰ－2類
152－36	99	AN11バラス	青磁	碗	－	－	－	施釉	精良	良好	緑色	同安窯系Ⅰ－2類
152－37	99	BO34バラス	青磁	碗	(14.4)	－	－	施釉		良好	緑色	同安窯系Ⅰ－4類
152－38	99	AN18バラス	青磁	碗	－	(4.6)	－	施釉		良好	黄緑色	同安窯系Ⅰ－2類
152－39	99	AR25灰色バラス土	青磁	碗	－	(7.0)	－	施釉		良好	黄緑色	龍泉窯系
152－40	99	BO35バラス	青磁	碗	－	4.6	－	施釉	緻密	良好	灰褐色、灰白色、淡いオリーブ色	龍泉窯系Ⅱ－b類
152－41	99	AM18バラス	青磁	碗	－	4.6	－	施釉	密	良好	灰色、灰白色、淡緑色	龍泉窯系Ⅱ－b類
152－42	99	AM13バラス	青磁	碗	－	－	－	施釉	緻密	良好	灰色、オリーブ色	龍泉窯系Ⅱ－b類
152－43	99	AP25灰褐色粘土	青磁	碗	－	－	－	施釉		良好	淡緑色	龍泉窯系Ⅱ－b類
152－44	99	BM39バラス	青磁	碗	(20.0)	－	－	施釉	密	良好	淡灰白色、暗緑色	龍泉窯系D類
152－45	99	JN94バラス	青白磁	小壺	－	(3.6)	－	回転ナデ、ケズリ	白色	良好	淡緑色	
152－46	99	AQ11バラス	青白磁	合子　身	－	3.0	－	回転ナデ	密	良好	無施、淡黄褐色	
152－47	99	バラス土	青白磁	Ⅲ	－	(4.0)	－	回転ケズリ	緻密	良好	灰白色、淡水色	
152－48	99	AL12黒灰色粘土	青白磁	Ⅲ	－	(3.6)	－		精良	良好	青白色	
153－1	99	BO36バラス土	白磁	碗	－	4.6	－	ケズリ、施釉	精良	良好	淡灰色	ⅩⅠ類
153－2	99	AN14バラス	白磁	碗	－	(7.0)	－	ケズリ、施釉	緻密	良好	灰白色、白色	ⅩⅠ類
153－3	99	AN05バラス	白磁	碗	－	－	－	ケズリ、施釉	緻密	良好	乳白色	ⅩⅠ－4類
153－4	99	AQ13バラス	白磁	碗	－	－	－	施釉	緻密	良好		ⅩⅠ類
153－5	99	AN25バラス土	白磁	Ⅲ	－	－	－	ヘラ押し段	精良、黒色粒子を含む	良好	淡緑白色	ⅩⅠ類
153－6	99	AC24灰褐色粘土	白磁	碗	－	－	－	施釉	緻密	良好	淡黄緑色	Ⅱ類
153－7	99	BN28バラス	白磁	碗	－	－	－	内面施釉、ケズリ	緻密	良好	淡緑色	Ⅱ類
153－8	99	AO17バラス	白磁	碗	－	－	－	内面施釉、ケズリ	密	良好	灰白色	Ⅱ類
153－9	99	AM07バラス	白磁	碗	－	6.0	－	内面施釉、ケズリ	密	良好	灰色、淡白色	Ⅱ類
153－10	99	AM10床土下	白磁	碗	－	6.0	－	内面施釉、ケズリ	緻密	良好	灰白色	ⅩⅡヵⅩⅢ類ヵ
153－11	99		白磁	碗	－	－	－	内面施釉、ケズリ	精良	良好	緑白色	ⅩⅡヵⅩⅢ類ヵ
153－12	99	AN02バラス	白磁	碗	－	5.0	－	内面施釉、ケズリ	密	良好	白色	ⅩⅢ類ヵ
153－13	92	DA48黒色土中、BL32バラス土	白磁	Ⅲ	10.2	3.2	2.9	内面施釉、ケズリ	密、砂粒をほとんど含まない	良好	乳褐色、灰白色	Ⅵ－1a類

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
153－14	99	DA48黒色土	白磁	Ⅲ	－	4.0	－	内面施釉、ケズリ	緻密	良好	白色、褐色がかった白色	Ⅵ－２類
153－15	99	AM11床土下	白磁	Ⅲ	(9.4)	－	－	内面施釉、ケズリ	密	良好	黄白色	Ⅵ－１ヵ２類
153－16	99	AQ13バラス土	白磁	Ⅲ	－	－	－	内面施釉、ケズリ	灰色粉っぽい	良好	褐色、灰白色	Ⅵ類
153－17	99	JN93灰褐色粘土	白磁	Ⅲ	－	(8.4)	－	内面施釉、ケズリ	密粉っぽい	良好	灰色、乳白色	Ⅵ類
153－18	99	JN95バラス、JN95バラス	白磁	碗	－	－	－	内面施釉、ケズリ	密	良好	灰色、灰白色（やや緑色）	Ⅳ類
153－19	99	バラス	白磁	碗	(17.0)	－	－	内面施釉、ケズリ	緻密	良好	灰白色	Ⅳ類
153－20	99	AQ18バラス土	白磁	碗	(15.4)	－	－	内面施釉、ケズリ	緻密	良好	白色、灰褐色	Ⅳ類
153－21	99	AT24、25耕作土中	白磁		－	－	－	施釉	緻密	良好	乳白色	Ⅳ類
153－22	99	CK15バラス	白磁		－	－	－	施釉	緻密	良好	淡緑色	Ⅳ類
153－23	99	CH21黄褐色粘土	白磁		－	－	－	施釉	緻密	良好	乳白色	Ⅳ類
153－24	99	CM29バラス	白磁		－	－	－	施釉	緻密	良好	淡青色	Ⅳ類
153－25	100	黒灰色粘土	白磁	碗	－	(8.0)	－	施釉、ケズリ	精良	良好	淡灰白色	Ⅳ類
153－26	100	AM20バラス	白磁	碗	－	7.4	－	施釉、ケズリ	緻密	良好	灰色、灰白色	Ⅳ類
153－27	100	AM06バラス	白磁	碗	－	(7.6)	－	施釉、ケズリ	密微細な黒色粒子あり	良好	白色、灰白色	Ⅳ類
153－28	100	AM06バラス	白磁	碗	－	5.6	－	施釉、ケズリ	緻密	良好	褐色がかった白色	Ⅳ類
153－29	100	AQ12バラス	白磁	碗	－	－	－	ケズリ	精良	良好	灰白色	Ⅳ類
153－30	92	AP12黒灰色粘土	白磁	碗	13.0	6.5	－	施釉、ケズリ	微細な黒色粒子を少量含む	良好	灰白色、象牙色	Ⅴ－２類
153－31	100	AM07バラス	白磁	碗	15.8	－	－	施釉	密微細な黒色粒子を含む	良好	灰緑色、灰色	Ⅴ－４ｂ類
153－32	100	DI42バラス	白磁	碗	－	－	－	施釉	密、やや隙間あり	良好	白色	Ⅴ－４ｃ類
153－33	100	AN07バラス	白磁	碗	(13.6)	－	－	施釉	密	良好	淡白色	Ⅴ－３類
153－34	100	AP12黒灰色粘土	白磁	碗	－	－	－	施釉	密	良好		Ⅴ－１ｂ類
153－35	100	N26バラス	白磁		－	(6.0)	－	施釉、ケズリ	密	良好		Ⅴ類
153－36	100	AN25バラス土	白磁	碗	－	(4.8)	－	施釉、ケズリ	精良	良好	緑白色	ⅥヵⅦ類ヵ
153－37	106	BO37バラス土	白磁	Ⅲ	12.3	5.6	3.6	施釉、ケズリ	微細な黒色粒子を含む	良好	灰白色	Ⅱ－１類
153－38	100	AN05バラス	白磁	Ⅲ	－	5.3	－	施釉、ケズリ	緻密	良好	灰白色	Ⅱ－１類ヵ
153－39	100	AR23黒色粘土	白磁	Ⅲ	－	－	－	施釉、ケズリ	密	良好	白色	Ⅱ類
153－40	100	AM07バラス	白磁	碗	－	5.0	－	施釉、ケズリ	密	良好	灰白色	Ⅱ－１類ヵ
153－41	100	AM04バラス土	白磁	Ⅲ	－	(5.4)	－	施釉、段	密	良好	白色	Ⅱ－１類
153－42	100	JM92バラス	白磁	小碗	－	(4.8)	－	施釉	密	良好	灰色、淡緑灰色	Ⅱ－１類ヵ小碗ヵ
153－43	100	AM01床土下R	白磁	Ⅲ	－	(3.4)	－	施釉、ケズリ	密、黒色粒子を少量含む	良好	白色、灰白色	Ⅳ類
153－44	100	AS23灰色粘土	白磁	Ⅲ	－	(4.6)	－	施釉、ケズリ	密	良好	白色（やや緑色）	Ⅳ～Ⅴ類
153－45	100	CI19黄褐色粘土	白磁	Ⅲ	－	(4.4)	－	施釉、ケズリ	密	良好	白色	Ⅳ～Ⅵ類
153－46	100	AN18バラス	白磁	Ⅲ	－	－	－	施釉	密	良好	白色、灰白色（やや緑色）	
153－47	100	AR23灰色バラス土	白磁	Ⅲ	－	(5.0)	－	施釉	密	良好	白色	Ⅱ類ヵⅩⅠ類ヵ
153－48	100	AM11床土下	白磁	Ⅲ	－	(4.6)	－	回転ナデ、釉剥ぎ	密、きめ細かい	良好	黄緑色	Ⅲ類
153－49	100	BP35バラス土	白磁	小碗	(11.0)	－	－	施釉	精良	良好		Ⅴ～Ⅵ類
153－50	100	CM19バラス土　黄褐色粘土	白磁	小碗	－	(3.6)	－	ケズリ	精良	良好	緑白色	Ⅴ～Ⅵ類
153－51	100	AQ12バラス	白磁	碗	－	－	－		緻密	良好	白色	大型品
153－52	100	AL14黒灰色粘土	白磁	鉢ヵ	－	－	－	施釉	精良	良好	乳白色	Ⅱ系
153－53	100	AP17バラス	白磁	小壺	－	－	－	施釉、瓜胴形	密	良好	灰色	広東系
153－54	100	BR35バラス	白磁	壺	－	－	－	施釉	白色、黒色粒子を含む	良好	灰色	大宰府Ｃ，Ｄ期
153－55	100	AN25バラス土	白磁	合子	－	－	－	施釉	密	良好	灰白色	白磁
153－56	100	CF21黄褐色粘土	白磁		13.2	－	－	回転ナデ	密	良好	白灰色	Ⅱ系
153－57	100	AO20バラス、AO17バラス	白磁	水注ヵ	－	－	－	施釉	微細な茶色粒子を僅かに含む	良好	白色	Ⅲ系

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
153－58	100	AR23灰色バラス土	白磁		－	(7.6)	－	回転ナデ	密	良好	白灰色	Ⅲ系
153－59	100	JN93灰褐	白磁	水注	－	－	－	施釉	密	良好	灰色	注口
153－60	100	AM07バラス、AN11バラス	白磁	水注	－	－	－	施釉	密	良好	乳白色	Ⅲ系
153－61	100	AM09バラス	白磁	碗	－	－	－	施釉	密	良好	白色、灰色	森田D群
153－62	100	DI42バラス	白磁	Ⅲ	－	－	－	施釉	密	良好	白色	森田D群
153－63	100	AM07バラス	白磁	Ⅲ	－	－	－	施釉	灰色の微細粒を含む	良好	灰白色	森田E群
154－1	100	AA24、25耕作土	中国陶器	耳壺	(10.4)	－	－	回転ナデ、施釉	1㎜以下の白色・黒色粒子を含む	良好	濃緑色	B群
154－2	100	AM12床土下	中国陶器	耳壺	－	－	－	ケズリ、施釉	1㎜以下の白色・黒色粒子を含む	良好	淡緑灰色	B群
154－3	100	BO36バラス土	中国陶器	壺	－	－	－	ロクロ目が強い	精良	良好	濃緑灰色	
154－4	100	AM11床下土	中国陶器	壺	－	－	－	回転ナデ、ケズリ後ナデか	密、きめ細かい1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	緑灰色、淡灰色	中国陶器、Ⅴ類
154－5	100	GR28床土下	中国陶器	盤	－	－	－	施釉	白色・黒色粒子を多く含む	良好	黄褐色	鍔状の口縁、Ⅰ－1類
154－6	100	BM31耕作土	中国陶器	盤	－	－	－	施釉	密、胎土に隙間あり	良好	緑がかった灰色、灰白色	Ⅰ－2類
154－7	100	AM18バラス	中国陶器	盤	－	－	－	内面施釉	密、0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰色、黄褐色	C群
154－8	100	BO31バラス土	中国陶器	盤	－	－	－	内面施釉	精良、1㎜以下の砂粒を含む	良好	くすんだ緑色、淡灰色	
154－9	100	ARバラス	中国陶器	盤	－	－	－	内面施釉	白色・灰色・黒色粒子を多く含む、粘土に近い	良好	淡緑黄色、灰色	Ⅱ類
154－10	100	AR12	青花	碗	(12.0)	－	－		密	良好	白色、淡青白色	
154－11	100	BI32黒色土	須恵器	鉢	(30.0)	－	－	回転ナデ、ナデ	やや密、2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰～暗灰色	東播系須恵器ヵ
154－12	100	AP22	瓷器系陶器	甕	－	－	－	回転ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	良好	緑灰色、灰色	
154－13	100	AO20バラス	瓷器系陶器		－	－	－	回転ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	良好	緑茶色	自然釉
154－14	100	AN19バラス	瓷器系陶器		－	－	－	ナデ、タタキ	砂粒を多く含む	良好	緑茶色	
154－15	100	AO20バラス	瓷器系陶器		－	－	－	ナデ、タタキ	砂粒を多く含む	良好	緑茶色	
154－16	100	AM17、18バラス	備前	擂鉢	(29.8)	－	－	回転ナデ、擂目	やや密、1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	黒褐～暗灰色	Ⅲ期
154－17	101		備前	擂鉢	－	－	－	ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	茶褐色	Ⅳ期
154－18	101	BC44耕作土	古瀬戸	灰釉盤	－	－	－	施釉、回転ナデ	精良	良好	淡緑色	古瀬戸後期Ⅳ古
154－19	101	BL30暗褐色土	須恵器	蓋	(9.2)	－	1.9	回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	暗灰色	小型
154－20		不明	須恵器	蓋	14.3	－	5.1	回転ナデ、ヘラケズリ	0.5～2㎜程度の砂粒を含む	良好	淡灰色	
154－21	101	J区　灰褐色粘質土	土師器	甑	－	－	－	ナデ、指頭圧痕、穴は貫通	0.5㎜前後の砂粒と2㎜前後の礫を含む	良好	灰白色	把手
156－1	101	CK24黒色バラス土	瓦	軒丸瓦	16.0	－	－		砂粒を含む	良好	灰～淡黄褐色	出雲国分寺跡第2類
156－2	101	CL灰色バラス土	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ナデ	白色の小砂粒を少量含む	やや軟質	外面：黒灰色 断面：明黄白色	出雲国分寺跡第3類
156－3		CL●●バラス	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ケズリヵ	白色の砂粒をやや多く含む	良好	外面：黒灰色 断面：灰白色	出雲国分寺跡第3類
156－4	101	AL20黄褐色	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ナデ	白色の砂粒を含む	良好	外面：黒灰色 断面：灰白色	出雲国分寺跡第2類
156－5	101	CKバラス	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ナデ	白色の砂粒を含む	やや軟質	外面：黒灰色 断面：明褐色	文様不明
156－6	101	CJ16バラス＋黄褐色粘土	瓦ヵ	軒丸瓦ヵ	－	－	－	ナデ、ケズリ	1～5㎜の橙色・白色の砂粒をやや多く含む	酸化炎で軟質に焼成	外面・剥離面：黒灰色 断面：明桃色	
156－7	101	耕作土	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ケズリ、布目圧痕	丸瓦部は白色の砂粒を含む、補強粘土部分は1㎜大の砂粒を多く含む	軟質～瓦質	にごった灰色 断面：白色	文様不明
156－8	101	BO26バラス	瓦	軒丸瓦	－	－	－	ケズリ、布目圧痕	1㎜以下の白色の砂粒を多く含む	軟質	灰白色	文様不明
156－9	102	CF19耕作土	瓦	軒丸瓦	－	－	－		2㎜以下の白色砂粒を少し含む	やや不良	黒色	出雲国分寺跡第2類
156－10	102	AM12床土下	瓦	軒丸瓦	－	－	－		1㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	断面中央の色調が灰色、内外は黄褐色	出雲国分寺跡第2類
156－11	102	AL11黒灰色粘土	瓦	軒丸瓦	－	－	－		精良	やや不良	灰～暗灰色	出雲国分寺跡第2類
156－12	102	CG20黄褐色粘土	瓦	平瓦	－	－	－	模骨痕、糸切りヵ、ケズリ、タタキ	白色の砂粒を多く含む	良好	青灰色	須恵質
156－13	102	CH18黄褐色粘土	瓦	平瓦	－	－	－	布目、ナデ	5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	緑色の自然釉付着
156－14	102	BO38バラス土R	瓦	平瓦ヵ	－	－	－	糸切り、ナデ	白色の砂粒をやや多く含む	須恵質で良好	凸面：明灰色 断～凹面：灰色	凸面ハケ目
156－15	102	CG18灰褐粘	瓦	平瓦	－	－	－	糸切りヵ、タタキヵ、ケズリ、ハケ目	白色の小砂粒を含む	いわゆる瓦質	暗灰色 断面：明灰色	凸面ハケ目

挿図番号	写真図版	出土遺構名	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	形態・手法の特徴	胎　　土	焼成	色調	備考
156－16	102		瓦	平瓦	－	－	－	布目、ナデ	白色の砂粒を多く含む	酸化炎気味でやや軟質	褐～明橙色	凹面に離れ砂、凸面に細かい布目
159－1		AS21バラス	須恵器	高台付坏	－	9.0	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	1.5mm程度の砂粒を含む	良好	暗黄灰色	墨書「口〔宅ヵ〕酒」、煤付着
159－2	110		須恵器	坏	－	7.6	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	2.5mm程度の砂粒を含む	良好	青灰色	墨書「城内吉」
159－3	111	AM21バラス	須恵器	坏	－	(9.0)	－	回転ナデ、回転糸切り痕、ナデ	密	良好	灰～灰褐色	墨書「大伊」
159－4	111	AR22黒色土R	須恵器	高台付坏	(15.2)	(8.8)	4.6	回転ナデ、ナデ	密	良好	灰色	墨書「元」
159－5	110		須恵器	高台付坏	－	(9.4)	－	回転ナデ、回転ヘラケズリ	2㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	墨書「上都寸」
159－6	111	AN18バラス	須恵器	坏	－	6.6	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密、1㎜以下の砂粒を含む	良好	暗青灰色	墨書「東」
159－7	111		須恵器		－	－	－	回転ナデヵナデヵ	密、1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	墨書「斤ヵ」
159－8	111	CG20灰黒土	須恵器	高台付皿ヵ坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ、回転糸切り	1㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	墨書「爪」
159－9	112	AP12黒灰粘土	須恵器	坏	－	11.4	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	細かい砂粒を少量含む	良好	灰色	墨書「爪」鉄分ヵの付着あり
159－10	112	AQ17バラス	須恵器	坏(蓋ヵ)	－	(8.6)	－	回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、ナデ	2㎜程度の砂粒を含む	やや不良	淡灰色	墨書「国」
159－11	113	BM30礫層	須恵器	高台付坏	－	(13.0)	1.2	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	墨書「不」
159－12		BL27褐色砂	須恵器	坏	－	(10.0)	－	回転ナデ	1㎜程度の砂粒を含む	良好	灰白色	墨書「神冂」
159－13	112	CJ19灰褐粘土	須恵器	皿ヵ	－	－	－	不明	砂粒を僅かに含む	良好	黒褐色	墨書「上」
159－14	112		須恵器	高台付坏	－	7.4	－	回転ナデ、回転糸切り	1㎜前後の白色砂粒を含む	良好	外面：青灰色 内面：暗黄褐色	墨書「國口」
159－15	113	CK15灰色バラス	須恵器	皿	14.9	11.1	－	回転ナデ、回転糸切り痕、ナデ	微細な砂粒を含む	やや不良	灰色	墨書「清」
159－16	112	BL28褐色砂	須恵器	皿ヵ坏	－	(8.6)	－	回転ナデ、糸切り痕、ナデ	密2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰褐色	墨書
159－17	113	CH20灰黒土	須恵器	蓋	－	－	－	ナデヵ	精良	やや不良	淡灰白色	墨書「爪」
159－18	113	CJ21黄褐色砂真土	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ、ナデ	細かい砂粒を含む	良好	灰色	墨書「官」、宝珠つまみ
159－19	112	CK21黒褐色粘土	須恵器	蓋	－	－	(2.5)	回転ナデ	密	やや不良	黄灰色	墨書「舎人」、宝珠つまみヵ
159－20	113	AR11黄褐色砂	須恵器	皿	(14.2)	(11.0)	2.8	回転ナデ	密	良好	淡灰色	墨書
159－21	113	AR23灰色粘土	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ	細かな砂粒を少量含む	良好	青灰色	墨書「月」
159－22	112	AS21黒色土	須恵器	坏	－	－	－	回転ナデ、糸切り後ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	墨書「厨ヵ」
159－23	113	BL32黄褐色土中R	須恵器	坏	－	(6.2)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデヵ	1～2㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	墨書「國厨」
159－24			須恵器	坏	－	(7.0)	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	2㎜程度の砂粒を少量含む	良好	灰色	墨書
159－25	112	AS20暗灰色土	須恵器	皿	－	(12.4)	－	回転ナデ、ナデ	密、白色微細粒を少し含む	やや不良	淡橙褐色	墨書
159－26	113	CW24灰黒色粘土（凹）	須恵器	坏	－	(7.6)	－	回転ナデ、糸切り後ナデ、ナデ	密、1.5㎜程度の砂粒を含む	やや不良	灰色	墨書「里口」
159－27	114	JD97バラス	白磁	碗	－	(4.8)	－	施釉	密	良好	褐色がかった灰白色	墨書「毛」
159－28	112	AQ11黒灰粘土	須恵器	皿	－	(8.4)	－	回転ナデ、ナデ	密、1.5㎜程度の砂粒を含む	良好	にぶい灰色	墨書「国」
159－29	114		須恵器	皿	－	(12.2)	－	回転ナデ、回転糸切り	1～0.5㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	墨書「器」
159－30	114	AS10ヵ19バラス	須恵器	高台付皿	－	12.6	－	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密	良好	灰色	墨書「賀」
159－31	114	AL16灰色砂R	須恵器	高台付坏	－	(13.4)	－	回転ナデ、ナデ	密、砂粒などをほとんど含まない	やや不良	白っぽい灰色	墨書「爪」
159－32	114	AK15黄褐色土	須恵器	皿	－	12.4	－	回転ナデ、回転糸切り	1㎜程度の砂粒を含む	良好	褐色	墨書「考ヵ」
159－33		JM92バラス	須恵器	坏ヵ皿ヵ蓋	－	－	－	回転ナデ	密、砂粒僅か	良好	灰色	刻書「邊」
159－34		CK14灰色バラス	須恵器		－	－	－	不明	密、0.5㎜以下の砂粒を含む	やや不良	淡橙褐～淡黄褐色	刻書「由」
159－35		AN18バラス	須恵器	高台付坏	－	(6.2)	－	回転ナデ、ナデ	1㎜の砂粒、～4㎜の黒い粒子を含む	良好	灰色	刻書「白ヵ」
159－36		CJ18灰色バラス土	須恵器	高台付皿	(20.8)	(14.4)	2.7	回転ナデ、ナデ	精良白色砂粒を含む	良好	青灰～灰色	刻書「邊」
159－37		BP37バラス土R	須恵器	壺	－	7.6	－	ナデ	1㎜程度の砂粒をごく少量含む	良好	外面：濃い灰色 内面：にぶい灰色	刻書「＃(記号)」、漆付着
159－38		AP17黄褐色土	須恵器	皿ヵ坏	－	(8.8)	－	回転ナデ、ナデ	密、ごく細かい砂粒を含む	良好	外面：黄味がかった灰白色 内面：灰白色	刻書「由」
159－39		CL14黒色土	須恵器	蓋	－	－	－		0.5㎜以下の石英、雲母などを含む	良好	外面：灰色 内面：淡灰色ヵ	刻書
159－40		CJ14灰色バラス	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデヵ	密	良好	淡灰色	刻書「大」
159－41		CL12暗褐色	須恵器	蓋	－	－	－	回転ナデ	1㎜程度の砂粒を非常に多く含む	良好	淡灰色	刻書「大」、宝珠つまみ
159－42		黒色バラス	須恵器	高坏	－	－	－	回転ナデ、ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰～灰白	刻書「大」
159－43		AB22黄褐色	須恵器	蓋	(12.0)	－	－	回転ナデ、ナデ	密、1.5㎜程度の砂粒を少量含む	やや不良	白灰色、口縁は黒色	刻書「苗代」、擬宝珠つまみ

第30表　木製品観察表

挿図番号	写真図版	種　別	器　種	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　　考
55－35	57	木製品		G038灰色砂	16.4	5.6	1.0	
112－41	108	木製品	糸巻	BN30土坑	35.0	5.5	2.2	山本清氏資料トレース　遺物所在不明
113－35	68	木製品	板状	AC22土坑	18.0	4.0	0.4	円孔あり
119－25	108	木製品	鋤	BO40南北溝砂Ⅱ	28.8	10.5	1.8	山本清氏資料トレース　遺物所在不明
119－26		木製品	木簡	BA40南北溝砂Ⅱ	14.2	2.3	0.2	1号木簡　板目　型式081
119－27		木製品	方形	BL40南北溝砂Ⅱ	3.1	4.4	2.5	山本清氏資料トレース　遺物所在不明　方形の穴ヵ
119－28		木製品	棒状	BL40南北溝砂Ⅱ	12.2	1.0	1.0	山本清氏資料トレース　遺物所在不明
130－1	107	木製品	板状	青灰色砂	60.3	27.0	2.0	
130－2	107	木製品	棒状	青灰色砂	36.3	1.75	0.8	
130－3	107	木製品	板状	CJ24●灰色砂	19.8	1.3	0.3	
130－4	107	木製品	板状	CJ20青灰色砂	15.9	1.3	0.4	
130－5	107	木製品	箸ヵ	CJ青灰色砂	10.6	0.7	0.6	
130－6	107	木製品	板状	CJ20灰褐色砂	7.2	1.2	0.4	
130－7	107	木製品	板状	CJ20灰褐色砂	10.0	2.2	0.7	
130－8	107	木製品	板状	CJ18灰褐色砂	12.2	1.7	0.5	
130－9	107	木製品	板状	CJ20灰褐色砂	9.8	1.7	0.4	
130－10		木製品	楯	CJ40灰色砂	4.4	4.4	1.1	山本清氏資料トレース　遺物所在不明
130－11	107	木製品	板状	CJ20	10.1	1.2	0.3	
133－36		木製品	板状	CM21東西溝灰色	10.5	4.7	0.9	下側は欠損、両長辺は本来の形状不明
133－37		木製品	板状	CM20東西溝ヵ灰色粘土	23.5	1.8	0.4	
133－38		木製品	木簡	CM13～16	11.4	3.4	0.5	2号木簡　柾目　型式019 表面ハギトリ、欠損
155－22	104	木製品	漆器碗		(14.2)	(8.1)	(5.5)	漆　黒色
155－23	104	木製品	曲物ヵ		(41.6)	3.0	0.4	円孔あり
155－24	104	木製品	棒状	AP20	27.9	2.9	2.1	
155－25		木製品	しゃもじ		(26.3)	4.8	0.9	概報（図19－6）トレース　遺物所在不明
155－26	104	木製品	曲物		17.0	11.5	0.7	
155－27	104	木製品	曲物ヵ		15.7	6.8	0.6	二ヶ所に3㎜の孔、最後はまな板
155－28	104	木製品	板状		16.2	7.7	0.6	表・裏　擦痕多い
155－29	104	木製品	下駄		15.2	7.5	3.8	
160－1		木製品	木簡		6.2	1.1	0.2	3号木簡　表裏　ハギトリ　上下　柾目
160－2		木製品	木簡		10.2	5.0	0.8	4号木簡　表　浅いカットグラス状ケズリ　上　平面ケズリ　下　欠損
160－3		木製品	木簡		21.7	1.6	0.4	5号木簡　表　細かい連続したハギトリ　裏　ハギトリ状　上下　キリ・オリ
160－4		木製品	木簡		18.0	1.3	1.0	6号木簡　表　ハギトリの後明瞭なカットグラス状ケズリ　上　平面ケズリ　側面ケズリ
160－5		木製品	木簡		14.2	0.7	0.5	7号木簡　表裏　細かいハギトリの連続　上両側面からのキリカキ　下　キリオリ
160－6		木製品	木簡		11.1	1.6	0.4	9号木簡　表裏　ハギトリ状　上　側面ケズリ　キリカキ　下　キリオリ
160－7		木製品	木簡		10.2	0.7	0.4	9号木簡
160－8		木製品	木簡		21.0	1.0	0.55	10号木簡
160－9		木製品	木簡		23.0	1.5	0.4	11号木簡
160－10		木製品	木簡		25.8	0.85	0.5	12号木簡
160－11		木製品	木簡		21.1	1.1	0.6	13号木簡
160－12		木製品	木簡		7.6	0.7	0.3	14号木簡
161－1	106	木製品	柱根		25.6	22.6	－	えぐり、木材　ヒノキ
161－2		木製品	柱根		52.3	22.7	－	えぐり
161－3	106	木製品	柱根		87.0	21.0	－	面取り、木材　ヒノキ
161－4	106	木製品	柱根		27.0	25.2	－	
161－5		木製品	柱根		54.0	22.0	－	面取り

第31表　石製品観察表

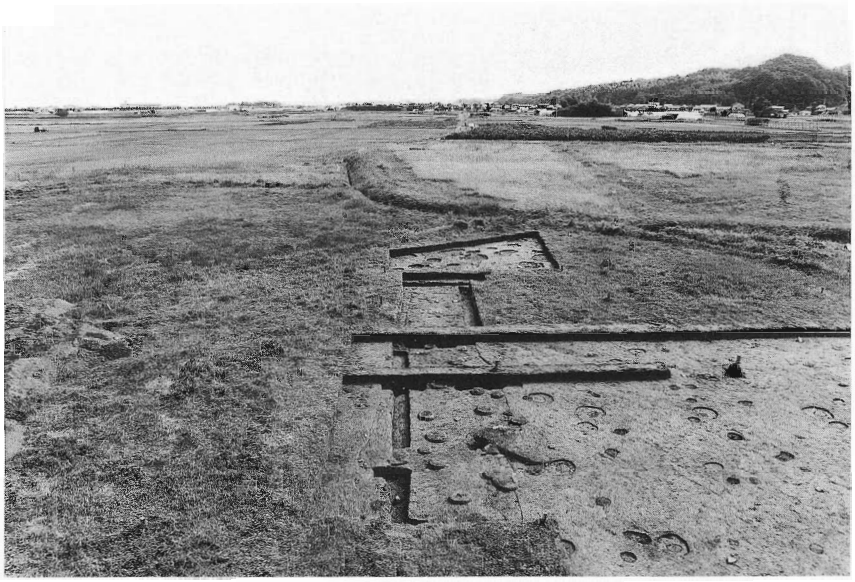
挿図番号	写真図版	器　種	種　別	出土地点	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　　考
55－32		原石	結晶体	G029パラス面	水晶	3.8	2.0	1.7	16.00	
55－33	57	紡錘車		G030床土下	凝灰岩	－	4.8	2.7	35.83	
55－34	57	砥石		G029パラス土下	砂岩	6.9	5.8	3.8	213.12	
111－15	105	碁石状平玉		DE45井戸埋土	水晶	1.7	1.7	0.9	3.31	
112－18	107	筋砥石		BM27井戸埋土	細粒花崗岩	29.5	13.0	11.0	5040	
114－11	103		石核	AT15黒色ピット	碧玉	13.5	12.4	9.1	1836.76	
114－12	102・103		石核	AD20黒色礫	碧玉	10.2	6.5	4.5	413.90	
114－33	103	石帯	未製品	BN31土坑内R	頁岩	4.2	2.9	1.1	22.94	
115－13	107	筋砥石		CI18灰褐柱穴	細粒花崗岩	32.0	16.0	14.0	9360	
123－13	107	筋砥石		CK24灰褐色砂	砂岩	25.6	16.5	7.9	5660	1面使用
124－12	103	砥石		CJ30、31黄褐色砂	細粒花崗岩	12.2	8.6	5.6	870.13	4面使用
125－13	105	形割	結晶体	CJ20灰褐色粘土	水晶	4.3	2.6	2.5	42.15	

挿図番号	写真図版	器種	種別	出土地点	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
126－1	103	平玉・原石	角礫	CJ15東西溝灰褐色	碧玉	15.4	16.2	7.5	1736.15	
127－16	103	砥石		CJ32東西溝暗灰色粘土	砂岩	5.1	7.0	6.0	210.41	
130－12	107	筋砥石		CK31東西溝	細粒花崗岩	12.7	15.1	9.6	4080	2面使用
130－13	107	筋砥石		CK40東西溝	細粒花崗岩	28.7	12	11	7220	2面使用
130－14	107	筋砥石		CJ39,40東西溝暗灰褐粘	細粒花崗岩	38.3	16	9.5	7680	3面使用
130－15	107	筋砥石		CK30東西溝	細粒花崗岩	28.5	13.8	11.2	126400	4面使用
132－16		分割	結晶体	AM18東西溝	水晶	3.4	2.8	1.7	18.70	
156－17	102	石硯		AQ18バラス土	頁岩	4.3	4.6	0.9	24.04	
156－18	102	石錘		AC17黄褐色	流紋岩	5.3	4.3	2.5	75.08	切目石錘
156－19	102	砥石		BO39バラス土	凝灰岩	7.2	7.5	2.9	280.00	3面使用
156－20	102	砥石ヵ		CN32耕作土	流紋岩	9.7	7.5	3.5	468.29	研磨面
156－21	102	滑石製品		BL28耕作土	滑石	6.9	1.7	1.2	21.85	滑石製石鍋を転用ヵ
156－22	102	人物像	石製品	AP16黄褐土	凝灰岩	20.4	9.0	4.4	1092.93	頭部欠損
156－23	102	石帯	未製品	AB18黄褐色土	頁岩	4.5	3.0	1.1	25.04	暗灰色
156－24	102	石帯		AB15灰褐色砂	碧玉	10.5	7.6	3.4	307.20	
156－25	102	碁石状平玉		AA18黄褐色土	安山岩ヵ玄武岩	2.7	2.3	1.3	12.22	黒色
156－26	102	碁石状平玉		CH13バラス	安山岩ヵ玄武岩	2.3	1.6	0.8	5.04	黒色
156－27	102	研磨された石		AN13黄褐色土	碧玉	5.6	5.1	2.1	46.80	
156－28	102	原石	円礫	AQ18バラス土	碧玉	10.3	5.3	3.6	278.20	
157－1	102	原石	角礫	CJ19灰色バラス土	碧玉	12.3	10.1	6.7	789.40	
157－2	102		石核	AQ18バラス土	碧玉	9.2	6.3	5.9	321.10	
157－3	102		石核	CK19灰褐色粘土	碧玉	7.5	3.9	4.5	166.10	
157－4	102	管玉ヵ	素材片	国庁68－70	碧玉	4.4	2.0	1.6	22.40	
157－5	102	平玉	素材片	AB17	碧玉	5.8	2.8	1.5	25.47	
157－6	102	平玉	調整剥片	AL13床土	碧玉	2.3	2.1	1.1	6.00	
157－7	102	平玉	調整剥片	AM01バラス土	碧玉	2.4	2.4	1.3	8.70	
157－8	102	平玉	調整剥片	BZバラス	碧玉	2.9	2.8	1.3	11.30	
157－9	105	臼玉	施溝		滑石	0.9	0.7	0.2	0.23	
157－10	105	臼玉	穿孔		滑石	0.9	0.9	0.4	0.52	
157－11	105	臼玉	穿孔		滑石	1.1	0.8	0.3	0.51	
157－12	105	臼玉	施溝		滑石	0.9	0.9	0.7	0.43	
157－13	105	臼玉	穿孔		滑石	0.7	0.6	0.2	0.15	
157－14	105	臼玉	穿孔		滑石	0.8	0.7	0.3	0.14	
157－15	105	原石	結晶体	CE21	水晶	7.8	4.3	3.4	157.70	半透明
157－16	105	原石	結晶体	AN11	水晶	8.5	4.0	2.7	139.78	半透明
157－17	105	原石	結晶体	CK18	水晶	4.2	2.2	1.9	25.60	半透明
157－18	105	原石	結晶体	DI42	水晶	3.9	2.2	1.5	17.94	透明
157－19	105	荒割り	結晶体	DK42	水晶	3.0	1.7	1.3	8.35	透明
157－20	105	原石	結晶体		水晶	4.8	1.8	1.7	16.44	半透明
157－21	105	荒割り	結晶体	JN97灰褐色粘質土	水晶	2.2	2.9	2.3	13.20	半透明
157－22	105	荒割り	結晶体	BM26褐色砂	水晶	4.1	2.6	2.0	27.94	半透明
157－23	105	荒割り	結晶体	AB22礫柱穴	水晶	7.1	4.0	3.6	128.17	半透明（白に近い）
157－24	105	荒割り	結晶体	CL21灰褐色砂土	水晶	4.7	2.9	2.6	37.11	半透明
157－25	105	形割	結晶体	CM29バラス	水晶	5.5	4.2	3.4	130.37	半透明
157－26	105	形割	結晶体	DK42バラス	水晶	3.6	2.2	1.7	21.14	透明
157－27	105	形割	結晶体	CK18灰色バラス土	水晶	4.1	1.9	1.3	14.29	透明
157－28	105	分割	結晶体	CG17黄褐色粘土	水晶	2.9	3.2	2.3	22.20	半透明
157－29	105	分割	結晶体	CI18黄褐色粘土	水晶	2.6	3.6	1.5	15.31	
157－30	105	分割	結晶体	AQ23黒色バラス土	水晶	3.9	3.0	1.8	19.44	
158－1	105	分割	結晶体	不明	水晶	2.6	3.5	2.8	32.80	半透明
158－2	105	分割	結晶体	GP28下層バラス面	水晶	3.9	2.9	2.4	26.50	透明
158－3	105	分割	結晶体	AN21～25 AD21～25バラス土層	水晶	3.4	2.4	1.3	11.50	半透明
158－4	105	分割	結晶体	AD21 68～70	水晶	3.9	2.3	1.3	12.40	透明
158－5	105	分割	結晶体	CM29バラス	水晶	5.4	5.4	3.2	100.28	半透明
158－6	105	分割	結晶体	CM14灰色バラス土	水晶	3.3	4.3	1.2	17.02	
158－7	105	分割	結晶体	不明	水晶	2.4	4.5	1.4	16.20	
158－8	105	敲打・丸玉	結晶体	AC21黄褐粘土	水晶	3.1	3.2	2.8	34.52	半透明
158－9	105	敲打・丸玉	結晶体	CI19黄褐色粘土	水晶	2.3	2.2	1.7	11.62	半透明
158－10	105	敲打・丸玉	結晶体		水晶	1.8	1.9	1.8	7.57	透明
158－11	105	敲打・丸玉	結晶体	CM19バラス土・黄褐色粘土	水晶	2.3	2.4	2.0	12.35	半透明
158－12	105	敲打・丸玉	結晶体	AS16バラス	水晶	2.3	2.0	1.6	8.59	透明
158－13	105	敲打・丸玉	結晶体	GO29バラス土　下	水晶	2.2	1.8	1.4	7.80	透明
158－14	105	敲打・平玉		出雲国庁跡68～70	水晶	2.5	2.2	1.1	5.60	
158－15	105	敲打・平玉		出雲国庁跡	水晶	2.5	3.1	1.4	12.50	
158－16	105	碁石状平玉		AO17黄褐色土	水晶	径1.85		0.8	4.11	白色
158－17	105	碁石状平玉		BO36黄褐色土内R	頁岩ヵ	径1.6		0.5	2.23	黒色系

第32表　金属製品・ガラス製品観察表

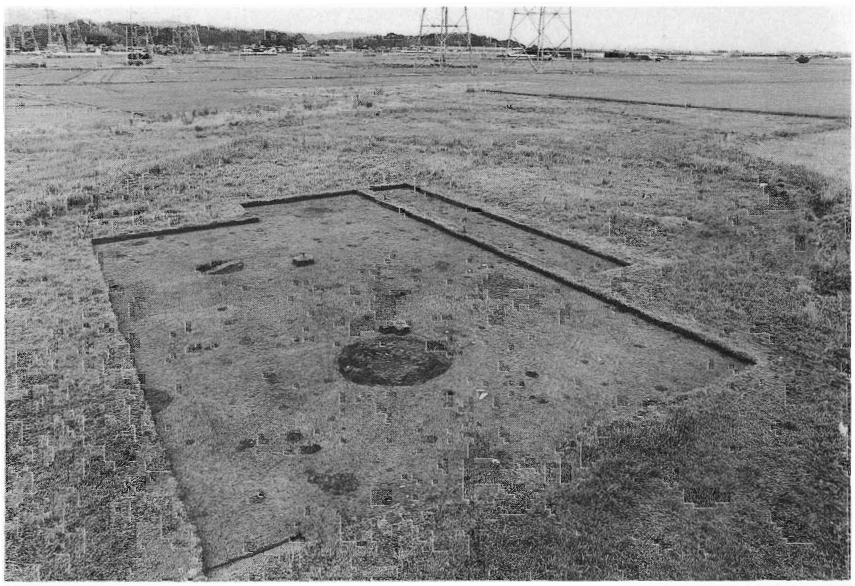
挿図番号	写真図版	種　別	器　種	出 土 地 点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備　　考
69－20	59	鉄製品	板状	IQ09黒色ピット	7.5	2.2	0.5		径0.3cmの円形の穴に、鉄の鋲状のものがつまる
111－45	104	鉄製品	鉄箸	AR18井戸	30.2	0.7	0.7		全面　錆、剥離
111－46	104	鉄製品	鉄箸	AR18井戸	30.3	0.6	0.5		全面　錆、剥離
114－19	103	銅製品	刀責金具	BP37穴黒色土	4.4	2.05	0.05	4.08	
114－20	103	銅製品	刀責金具	BP37穴黒色土	4.4	2.1	0.13	6.09	
114－21	103	銅製品	刀責金具	BP37穴黒色土	3.8	2.2	0.07	1.45	
114－34	103	銅製品	金具	BN32バラス下ピット	4.7	3.65	0.6	16.61	
115－12	68	銅製品	不明	CK18土坑灰褐色粘土	5	3.3	0.3～1		
137－26	78	金属器	鍬先	DA51溝中（黒色土）	11.8	9.2	0.4		
151－54	105	玉類	ガラス小玉	BL32黒色土	最大径 3.3mm	－	最大厚 2.1mm	0.03	水色、巻き技法
155－1		銅製品	分銅	宮の後地区	径 3.8	高さ 2.3	吊手を含む高さ 2.9	157.9	『出雲国府跡１』分析資料Ｂ
155－2	106	銀製品	和同開珎	SD005とSD034の間	2.51	2.47	0.13	4.5	外部の和字の右傍に笵の傷、開字の門が開いてない
155－3	103	銅製品	元豊通宝	BL27黒色バラス	2.49	2.42	0.06		裏に文字なし
155－4	103	銅製品	寛永通宝	AQ21バラス		2.48	0.04		裏に文字なし、表面の文字判読困難、古寛永ヵ
155－5	103	銅製品	寛永通宝	JS18黒褐色土	2.28	2.27	0.12		新、裏は付着物、文字不明
155－6	103	銅製品	鏡	AP19バラス	8.2	1.8	0.1	26.15	二次被熱、赤茶褐色化、緑青、変形著しい
155－7	103	銅製品	刀責金具	AQ18バラス	3.6	2.1	0.24	7.02	山状に隆起
155－8	103	銅製品	銅線		2.9	1.6	0.05	0.24	
155－9	103	銅製品	煙管	B	7	0.8	0.9	6.35	
155－10	103	鉄製品	棒状	JR15黒褐色土	径0.7～0.8cmの棒状				
155－11	103	鉄製品	鉄釘		3	0.5	0.4		
155－12	103	鉄製品	鉄釘ヵ		5.7	0.6			
155－13	103	鉄製品	鉄釘	JR18黒褐色土	6	0.8	1.2		
155－14	103	鉄製品	鉄釘	BM31明褐色砂	10	1.2	1		
155－15	103	鉄製品	紡錘車ヵ	AQ15バラス	3.8	3.5	0.7		
155－16	103	鉄製品	鉄鎌ヵ	AQ12バラス	8.8	2.2	0.6		
155－17	103	鉄製品	棒状		4.8	1.1	1.5		全面　錆
155－18	103	鉄製品	板状	AR11バラス	5.1	3.2	0.9		径に0.4cmほどの穴　二ヶ所、孔は別材がつまる
155－19	103	鉄製品	方形	TSD区黒褐色土	3.1	3.5	1.2		
155－20	103	鉄製品	板状	AM08バラス	7	3.7	1.3		
155－21	104	鉄製品	鉄素材	国府	11.5	7.5	2.1	687	

図　　版



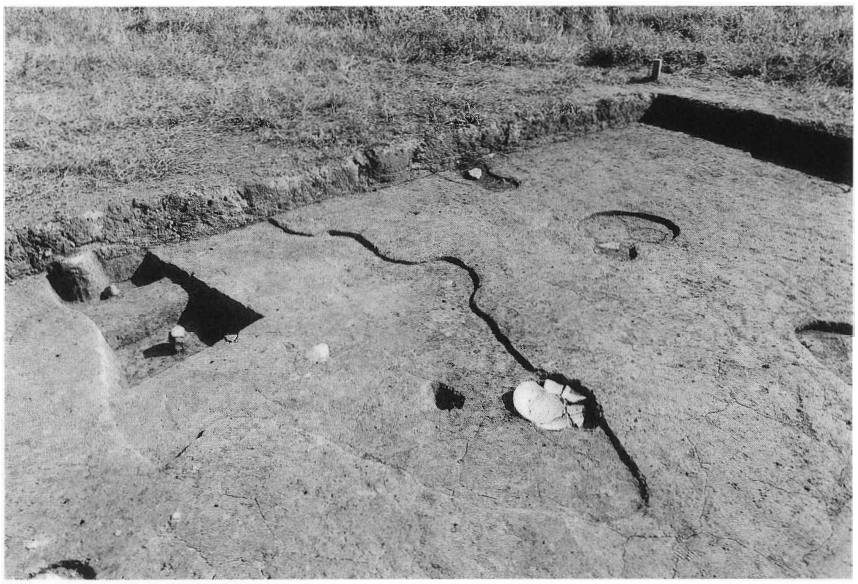
堂田地区東調査区近景
（西から）

堂田地区第48トレンチ全景
（北西から）



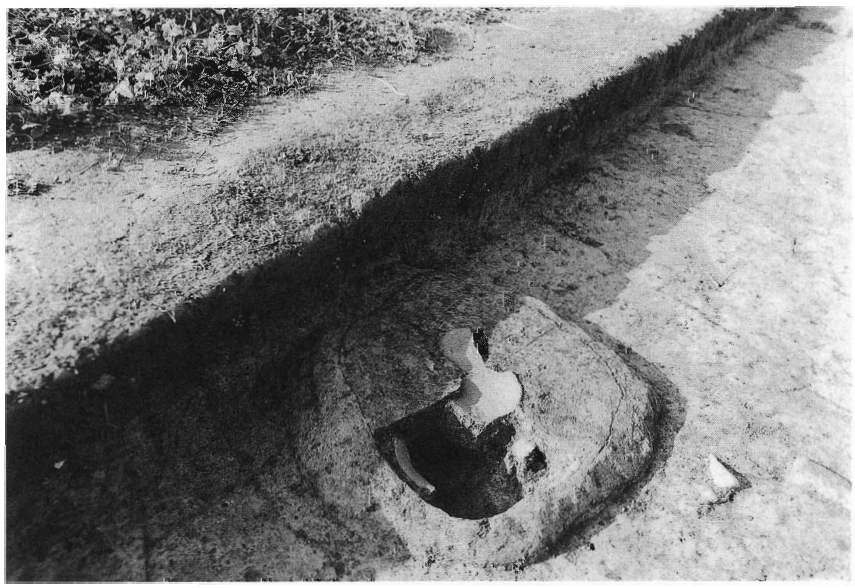
堂田地区東調査区全景
（南西から）

図版 2



堂田地区35号土坑(北西から)

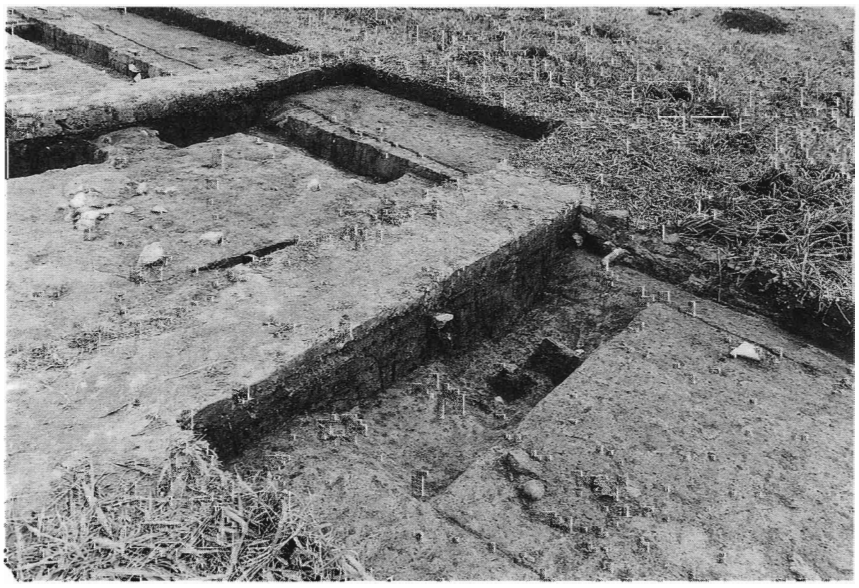
堂田地区37号土坑(南西から)



堂田地区38号土坑(北東から)

堂田地区62号溝土層断面
（南東から）

堂田地区62号溝ｇ－ｈライン
土層断面（南東から）

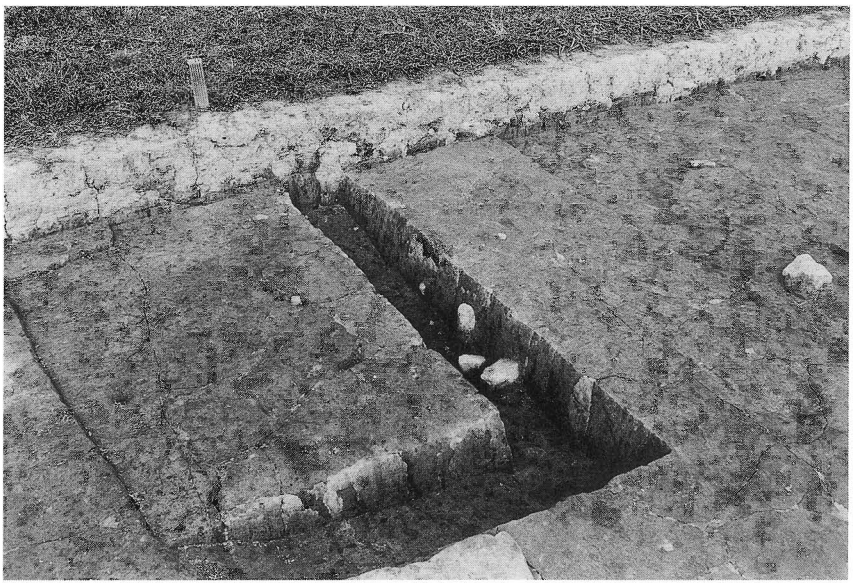


堂田地区62号溝ｅ－ｆライン
土層断面（南東から）

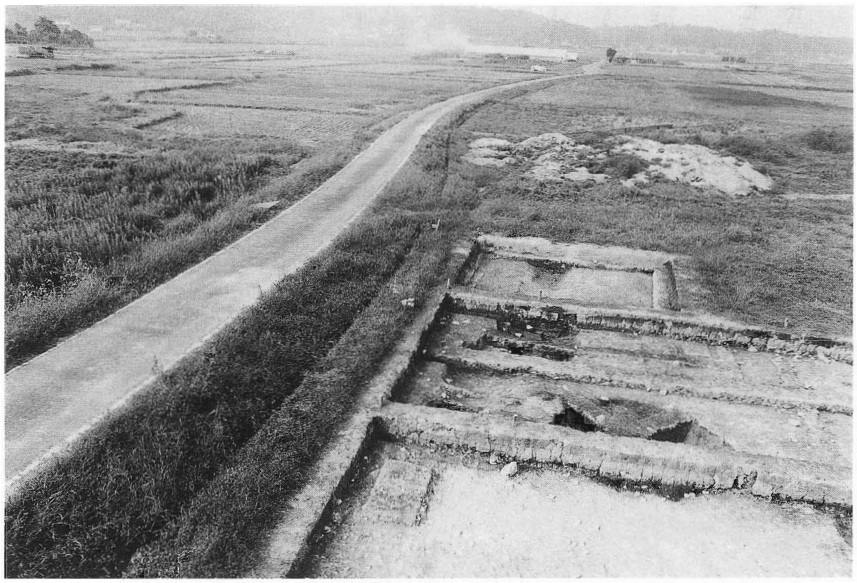
図版 4

堂田地区第48トレンチ柱穴検出状況（南西から）

堂田地区67号溝（南西から）



堂田地区68号溝土層断面（南西から）



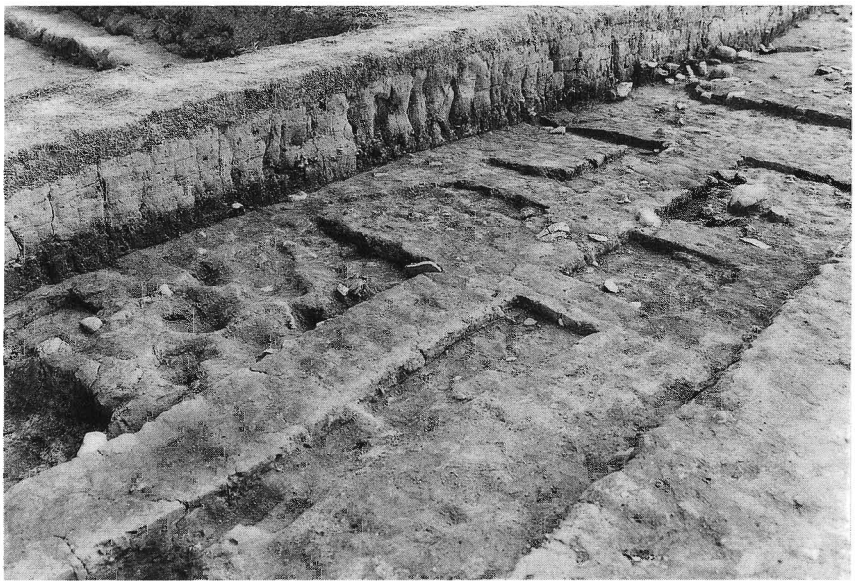
堂田地区西調査区道路遺構
（南から）

堂田地区西調査区道路遺構
（北から）

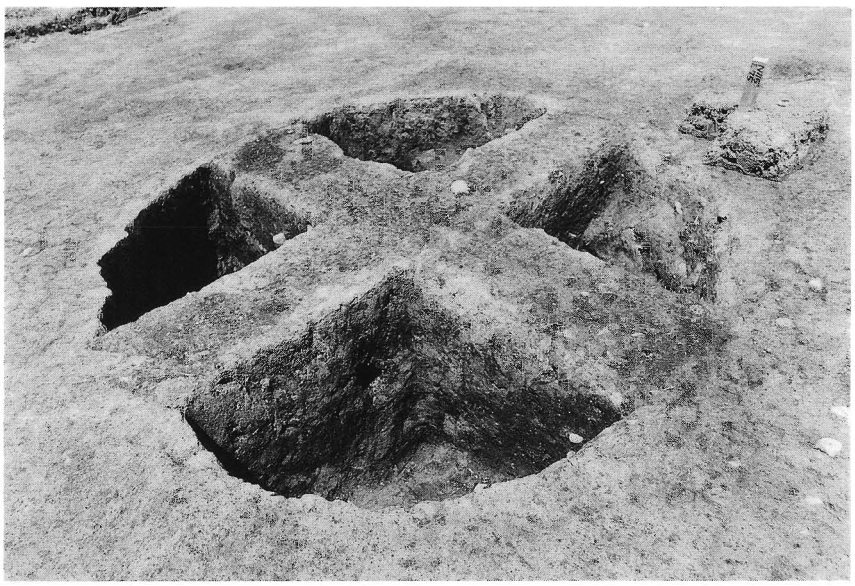
堂田地区２号溝（南東から）

図版 6

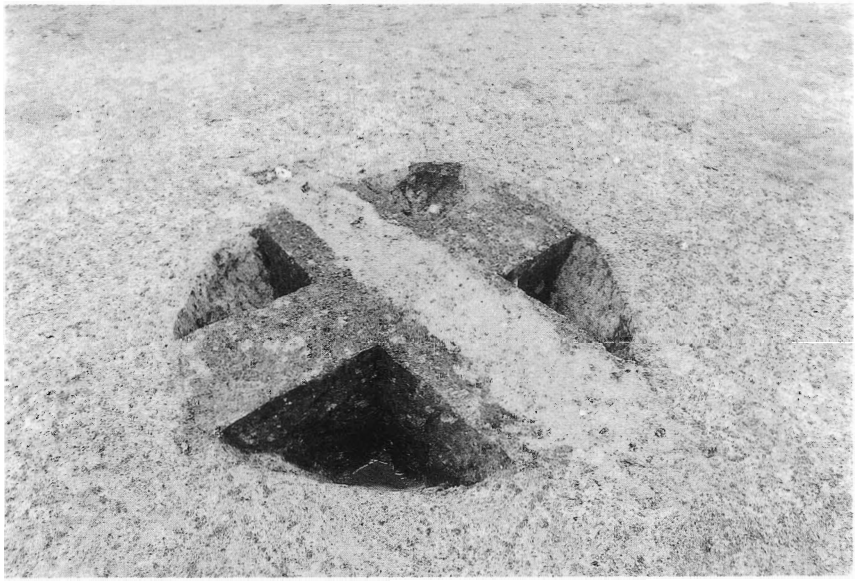
堂田地区道路遺構周辺遺物出土状況（東から）



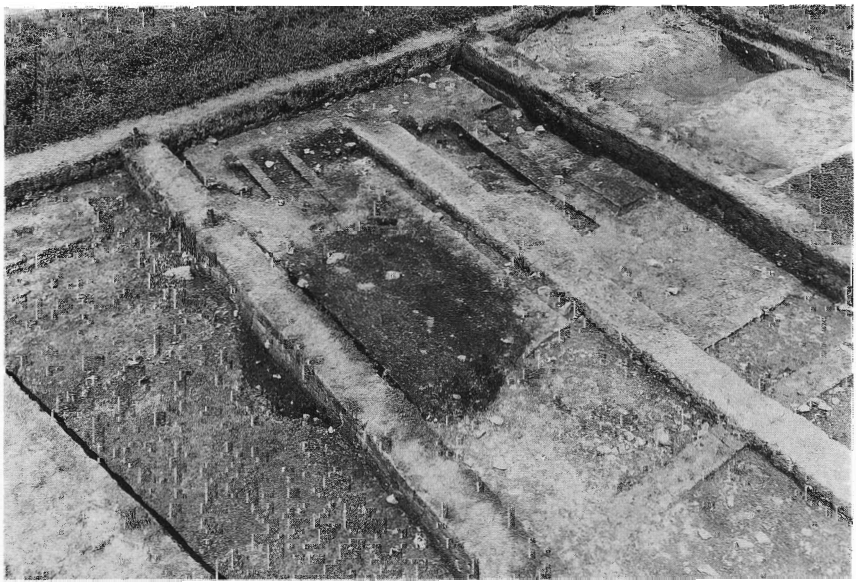
堂田地区69号溝（南西から）



堂田地区10号井戸（南西から）



堂田地区11号井戸（東から）



堂田地区道路遺構・２号溝・12号井戸（南東から）

堂田地区12号井戸土器出土状況（北東から）